

南玉二丁町遺跡

国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備
(活力創出基盤整備)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2016

群馬県伊勢崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

南玉二丁町遺跡

国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備
(活力創出基盤整備)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇一六

群馬県伊勢崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



南玉二丁町遺跡

国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備
(活力創出基盤整備)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2016

群馬県伊勢崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



1 遺跡周辺の状況 手前が調査区で、周囲には農地が広がる。上方が北で、遠方に赤城山、その手前を横切る林は利根川。写真は3区第1面の調査状況。



2 2区18号溝出土の中世皿



3 2区16号溝出土の中世陶磁器と皿



4 各区出土の中世貿易陶磁器



5 各区出土の古瀬戸

序

国道354号玉村伊勢崎バイパスは、「群馬がはばたくための7つの交通軸構想」の一つとして、これまで整備が推進されています。平成26年8月に開通した国道354号玉村伊勢崎バイパスは、群馬県内において東西の各地域を連携させる東毛広域幹線道路整備事業の一翼を担っております。開通によって、周辺道路の渋滞緩和はもとより、観光地へのアクセス向上、防災および医療搬送の充実、農業や商工業における物流の効率化などが図られています。また、利便性の高い道路として周辺住民をはじめ多くの県民から期待されています。

南玉二丁町遺跡は、国道354号玉村伊勢崎バイパスの整備に伴い、群馬県伊勢崎土木事務所の委託を受け、平成23・24年度に発掘調査事業、平成27年度に整理事業を行いました。そして、本報告書は、発掘調査、整理事業の成果をまとめました。

玉村町では、これまでに遺跡の発掘調査が数多く行われています。本遺跡の周辺地域につきましても、特に古墳時代から江戸時代に至る濃密な埋蔵文化財包蔵地であることから、各所において発掘調査が行われています。

南玉二丁町遺跡の調査では、古墳時代初頭から平安時代までの竪穴住居・井戸・掘立柱建物、中世の建物群・井戸、江戸時代の洪水災害に対応した復旧溝群などの存在が明らかとなりました。また、天仁元(1108)年の浅間山噴火によって被災した水田では、条里制に基づいたと考えられる区画が確認されるなど、大きな成果がありました。

発掘調査から本報告書の刊行に至るまで、群馬県伊勢崎土木事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、玉村町教育委員会をはじめとする関係諸機関及び地元関係者の皆様には多大なる御指導・御協力を賜りました。ここに心より感謝を申し上げます。そして、本報告書が周辺地域の歴史を解明するため、新たな資料として多くの方々に活用されることを願い、序といたします。

平成28年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 中野三智男

例 言

1. 本書は、国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備(活力創出基盤整備)に伴い、事前調査が行われた南玉二丁町遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。平成23・24年度に行われた発掘調査の成果を報告する。
2. 遺跡の所在地 群馬県佐波郡玉村町大字南玉449、450、453、454、492、493、518、519、520、521、522、712-1、714-2
3. 事業主体 群馬県伊勢崎土木事務所
4. 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(平成24年4月に公益財団法人に組織改定)
5. 整理主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
6. 発掘調査体制及び調査期間は以下のとおりである。

平成22年度国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備(活力創出基盤整備)に伴う埋蔵文化財の発掘調査委託
調査担当 井川達雄(上席専門員)、関根慎二(上席専門員)
遺跡掘削請負工事 株式会社測研 遺構測量・デジタル編集業務 株式会社シン技術コンサル
航空測量・空中写真撮影業務 技研測量設計株式会社
履行期間 平成23年3月31日～平成24年3月31日 調査期間 平成23年10月1日～平成24年3月31日
調査面積 10,409㎡

平成23年度国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備(活力創出基盤整備)に伴う埋蔵文化財の発掘調査委託
調査担当 井川達雄(上席専門員)、田村 博(主任調査研究員)、飯島義雄(専門調査役)、山下歳信(専門調査役)
遺跡掘削請負工事 株式会社測研 遺構測量・デジタル編集業務 アコン測量設計株式会社
航空測量・空中写真撮影業務 株式会社シン技術コンサル
履行期間 平成24年3月30日～平成25年3月31日 調査期間 平成24年10月1日～平成25年3月31日
調査面積 5,383㎡
7. 整理事業の期間及び体制は以下のとおりである。

整理担当 飯田陽一(上席専門員 平成24年度)、藤巻幸男(専門調査役 平成27年度)
履行期間 平成24年12月1日～平成25年3月31日 整理期間 平成25年2月1日～平成25年3月31日
履行期間 平成27年3月31日～平成28年3月31日 整理期間 平成27年6月1日～平成28年2月29日
8. 本報告書作成の担当者は以下のとおりである。

編集：藤巻幸男、本文執筆：第1章第1・2節、第2章 大木紳一郎(専門調査役)・藤巻幸男、その他 藤巻幸男
デジタル編集：齊田智彦(主任調査研究員)、遺構写真：発掘調査担当者
遺物保存処理：関 邦一(補佐(総括))、遺物実測・観察表執筆 石器・石製品：津島秀章(専門員(総括))、
縄文土器・弥生土器：石坂 茂(専門調査役)、土師器・須恵器：神谷佳明(専門調査役)、
陶磁器：藤巻幸男(専門調査役)、金属製品・木製品：関 邦一
遺物写真：津島秀章、石坂 茂、関 邦一、藤巻幸男
9. 発掘調査及び整理事業での分析委託
人骨・獣歯骨の鑑定・分析：宮崎重雄(第8章第1節)
10. 石材同定は、飯島静男氏(群馬県地質研究所会員)に依頼した。
11. 記録資料および出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。
12. 発掘調査及び整理事業・本報告書の作成には次の方々には有益なご指導・ご教示を賜った。記して感謝の意を表します。
(五十音順、敬称略) 群馬県教育委員会文化財保護課、群馬県玉村町教育委員会

凡 例

1. 本書で使用した座標値は、国家座標「世界測地系(日本測地系2000平面直角座標第IX系)」を用いた。遺構図中に記した座標値については、国家座標値X・Y値の下3桁のみを用いて表記した。
2. 遺構図の中で使用した北方位はすべて座標北であり、真北方向角は、 $+0^{\circ}24'48.17''$ (東偏)である。
3. 遺構平面図、遺物実測図の縮尺は各図にそれぞれ示した。遺物実測図と遺物写真は同縮率であり、縮率は原則1/3として、それ以外のものは明記した。
4. 遺構平面図や遺構断面図に表示した数値は標高であり、単位はメートルである。
5. 本書の図版で使用したスクリーントン及びマークは、以下のとおりである。

遺構平面図		攪乱		灰		焼土		炭化物
遺物実測図		内黒		煤		灰釉		
石器実測図	●	潰れ部	←→	摩耗				
6. 遺構平面図中の遺物記号は、次のことを示す。
 - 土師器・須恵器・土製品
7. 遺構の主軸方向・走行は、長軸方向で北から東西90°以内を主軸とした。表記は北を基準とし、東に傾いた場合はN-○°-Eとした。竪穴住居の主軸方向については、カマドの設置された方向を主軸と捉えた。カマドが確認できない竪穴住居については長軸方向を主軸とした。遺構の計測値は、縮尺1/20の図面を用いて計測し、m単位で表した。()は残存値を表した。
8. 掘立柱建物の柱間寸法は、柱筋に沿った柱穴心々間をメートル法計測した。
9. 遺構土層注記及び土器・陶磁器類の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に準拠している。
10. 遺物観察表の記載方法は、以下のとおりである。
 - ・計測値の()は残存値を表す。
 - ・計測値は、口：口径、底：底径、台：高台径、高：器高、稜：稜径、摘：摘みの最大径、孔：孔径、脚：脚部径、頸：頸部径、胴：胴部の最大径、鏝：鏝の径、最：内湾杯の最大径、径：外形の径、長：長さ、厚：厚さ(以上単位はcm)、重：重量(単位はg)と略記した。
 - ・胎土観察における砂粒の表現は、0.2mm以下を細砂粒、0.2~2.0mmを粗砂粒、2.0mm以上を小礫とした。
 - ・縄文土器の胎土分類で、Aは「多量の石英、赤・灰白色礫粗砂を含むやや緻密な胎土。」、Bは「多量の灰白色粗細砂と少量の石英、角閃石粗砂を含むやや緻密な胎土。」、Cは「多量の石英・結晶片岩・灰白色礫・粗砂を含むやや緻密な胎土。」、Dは「少量の石英・角閃石・灰白色砂を含む緻密な胎土。」であり、各分類は肉眼観察による相対的なものである。
11. 整理作業によって遺構名・遺構番号の変更、欠番が生じたため、第2表に記した。
12. テフラについては、以下の略称を用いた。

浅間Cテフラ=As-C	4世紀初頭	浅間Bテフラ=As-B	天仁元(1108)年
浅間Aテフラ=As-A	天明三(1783)年	榛名二ツ岳渋川テフラ=Hr-FA	6世紀初頭
13. 本書で使用した地図は、以下のものを使用した。

国土地理院	地勢図1：200,000	「宇都宮」(平成23年6月1日発行)	
国土地理院	地勢図1：50,000	「深谷」(平成10年9月1日発行)	
国土地理院	地勢図1：25,000	「伊勢崎」(平成15年2月1日発行)	
国土地理院	地勢図1：25,000	「高崎」「前橋」「大胡」(平成22年12月1日発行)	
伊勢崎市現況図	1：10,000	No. 1・3(平成22年10月)	
玉村町全図	1：10,000	(平成6年8月)、玉村町都市計画区域図1：2,500	8・9(平成19年12月)

目次

口絵	
序	
例言	
凡例	
目次	
挿図目次	
表目次	
写真図版目次	

第1章 発掘調査に至る経緯と経過	
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の経過	2
第3節 調査日誌	4
第4節 調査区の設定	4
第5節 発掘調査の方法	6
第6節 基本土層	6
第7節 整理作業の経過	8
第2章 地理的及び歴史的環境	
第1節 遺跡の位置と周辺の地形	9
第2節 歴史的環境	11
第3章 近世の遺構と遺物	
第1節 発掘調査の概要	18
第2節 1区の調査	22
1 復旧溝群	22
2 溝	22
3 井戸	31
第3節 2区の調査	31
1 復旧溝群	31
2 溝	36
第4節 3区の調査	37
1 復旧溝群	37
2 畠	37
3 溝	37
第5節 4区の調査	41
1 復旧溝群	41
2 溝	41
第6節 5区の調査	48
1 復旧溝群	48
2 溝	48

3 土坑	56
第7節 遺構外の出土遺物	56
第4章 中世の遺構と遺物	
第1節 発掘調査の概要	60
第2節 掘立柱建物	62
第3節 井戸	67
第4節 土坑・ピット	77
第5節 溝	77
第6節 遺構外の出土遺物	106
第5章 奈良・平安時代の遺構と遺物	
第1節 発掘調査の概要	110
第2節 竪穴住居	110
第3節 掘立柱建物	154
第4節 土坑・ピット	158
第5節 水田	165
第6節 溝	172
第7節 遺構外の出土遺物	178
第6章 古墳時代の遺構と遺物	
第1節 発掘調査の概要	182
第2節 古墳	185
第3節 竪穴住居	186
第4節 井戸	194
第5節 土坑・ピット	197
第6節 溝	197
第7節 遺物集中	203
第8節 遺構外の出土遺物	207
第7章 弥生時代以前の調査	
第1節 発掘調査の概要	207
第2節 遺構外の出土遺物	207
第8章 自然科学分析	
第1節 出土した獣歯骨・人骨	212
第9章 総括	
第1節 発掘調査の成果	215
第2節 条里地割について	216
遺構計測表	217
出土遺物観察表	221
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図	南玉二丁町遺跡の位置(国土地理院20万分の1地勢図「宇都宮」平成23年6月1日発行使用)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1	第55図	4区4～7号井戸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
第2図	南玉二丁町遺跡の位置(国土地理院2万5千分の1地形図「伊勢崎」平成15年2月1日発行使用)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3	第56図	2区2号井戸出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
第3図	南玉二丁町遺跡の調査区(この地図の作成にあたっては、玉村町長の了承を得て、同町発行の「玉村町都市計画区域図8・9平成19年12月修正」2,500分の1の地形図を使用し複製したものである。)・・・・・・・・ 5	第57図	2区2・3号井戸、4区3・4号井戸出土遺物・・・・・・・・ 75
第4図	各調査区の基本土層観察地点と1～4区基本土層断面図・・・・ 7	第58図	4区4・5号井戸出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
第5図	遺跡周辺の地形分類図(「群馬県史」通史編1 付図2から作成)・・・・ 10	第59図	1・2区土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
第6図	周辺の遺跡分布図(国土地理院発行2万5千分の1地形図「高崎」平成22年12月1日発行、「前橋」平成22年12月1日発行、「大胡」平成22年12月1日発行、「伊勢崎」平成15年2月1日発行使用)・・・・・・・・ 13	第60図	2区土坑(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
第7図	1区全体図(近世)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19	第61図	2区土坑(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
第8図	2・3区全体図(近世)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20	第62図	2・3区土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81
第9図	4・5区全体図(近世)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21	第63図	4区土坑(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
第10図	1区1～15・18号復旧溝群(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23	第64図	4区土坑(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83
第11図	1区1～15・18号復旧溝群(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24	第65図	4区土坑(3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
第12図	1区16・17号復旧溝群、10～15号溝・・・・・・・・・・・・ 25	第66図	4区土坑(4)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 85
第13図	1区1～9号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26	第67図	4区ピット(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86
第14図	1区1～9号溝、1・2号井戸・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27	第68図	4区ピット(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87
第15図	1区2・5・7・8・10号復旧溝群、8・9号溝出土遺物・・ 28	第69図	2・4区土坑出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 88
第16図	1区9・10・14号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29	第70図	1区17～20号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 89
第17図	1区10・13・14号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30	第71図	1区21～25・30号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 90
第18図	2区2～8号復旧溝群、5～9号溝・・・・・・・・・・・・ 32	第72図	1区23・26～29号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 91
第19図	2区2～8号復旧溝群、5～8号溝・・・・・・・・・・・・ 33	第73図	1区17・18・21・26号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・ 92
第20図	2区1号復旧溝群、1～4・6・14・15号溝・・・・・・・・ 34	第74図	2区溝全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 93
第21図	2区1・3・4・6号復旧溝群、2・3・6号溝出土遺物・・ 35	第75図	2区10～13・17～19号溝(1)・・・・・・・・・・・・ 94
第22図	2区6・14号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36	第76図	2区10～13・17～19号溝(2)・・・・・・・・・・・・ 95
第23図	3区1～4号復旧溝群、3号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38	第77図	2区16号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96
第24図	3区1・2号溝、1号畠・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39	第78図	2区12・13号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・ 97
第25図	3区4号復旧溝群、1・2号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・ 40	第79図	2区16号溝出土遺物(1)・・・・・・・・・・・・ 98
第26図	4区2～5号復旧溝群、7・8・12・13号溝(1)・・・・ 42	第80図	2区16号溝出土遺物(2)・・・・・・・・・・・・ 99
第27図	4区2～5号復旧溝群、7・8・12・13号溝(2)・・・・ 43	第81図	2区16号溝出土遺物(3)・・・・・・・・・・・・ 100
第28図	4区1号復旧溝群、1・4～6号溝・・・・・・・・・・・・ 44	第82図	2区16号溝出土遺物(4)・・・・・・・・・・・・ 101
第29図	4区14～17号溝と4区1号復旧溝群、畠跡、5・6号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・ 45	第83図	2区17・18号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・ 102
第30図	4区7号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46	第84図	2区18号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・ 103
第31図	4区7・8・12・13号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・ 47	第85図	2区18・19号溝出土遺物、3区4～7号溝・・・・ 104
第32図	5区1・2号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48	第86図	4区9・10号溝(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105
第33図	5区1・2号溝、2号復旧溝群・・・・・・・・・・・・ 49	第87図	4区9・10号溝(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 106
第34図	5区1号溝、1・2号復旧溝群・・・・・・・・・・・・ 50	第88図	4区9・10号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・ 107
第35図	5区1・2号復旧溝群・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51	第89図	1・2区遺構外出土遺物(中世)・・・・・・・・・・・・ 108
第36図	5区1・2号復旧溝群、1号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・ 52	第90図	3～5区遺構外出土遺物(中世)・・・・・・・・・・・・ 109
第37図	5区1・2号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53	第91図	1区全体図(奈良・平安時代)・・・・・・・・・・・・ 111
第38図	1・2区遺構外出土遺物(近世)・・・・・・・・・・・・ 54	第92図	2・3区全体図(奈良・平安時代)・・・・・・・・・・・・ 112
第39図	2・3・4区遺構外出土遺物(近世)・・・・・・・・・・・・ 55	第93図	4・5区全体図(奈良・平安時代)・・・・・・・・・・・・ 113
第40図	4・5区遺構外出土遺物(近世)・・・・・・・・・・・・ 56	第94図	1区2号住居・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 114
第41図	1区全体図(中世)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57	第95図	1区2号住居出土遺物・・・・・・・・・・・・ 115
第42図	2・3区全体図(中世)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58	第96図	1区3号住居と出土遺物・・・・・・・・・・・・ 116
第43図	4・5区全体図(中世)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59	第97図	1区4号住居・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 117
第44図	2区中世の主な遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60	第98図	1区4号住居出土遺物・・・・・・・・・・・・ 118
第45図	4区中世の主な遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61	第99図	1区5号住居と出土遺物・・・・・・・・・・・・ 119
第46図	2区4号掘立柱建物と出土遺物・・・・・・・・・・・・ 63	第100図	1区6号住居と出土遺物・・・・・・・・・・・・ 120
第47図	2区5号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64	第101図	1区7号住居と出土遺物・・・・・・・・・・・・ 122
第48図	2区6・8号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65	第102図	2区1号住居・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 123
第49図	2区7号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66	第103図	2区1号住居出土遺物・・・・・・・・・・・・ 124
第50図	4区1号掘立柱建物(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68	第104図	2区2号住居・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 125
第51図	4区1号掘立柱建物(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69	第105図	2区2号住居出土遺物(1)・・・・・・・・・・・・ 126
第52図	2区1・3号井戸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70	第106図	2区2号住居出土遺物(2)・・・・・・・・・・・・ 127
第53図	2区2号井戸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71	第107図	2区3号住居と出土遺物・・・・・・・・・・・・ 128
第54図	4区1～3号井戸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72	第108図	2区4号住居・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 129
		第109図	2区4号住居と出土遺物・・・・・・・・・・・・ 130
		第110図	2区5号住居と出土遺物・・・・・・・・・・・・ 131
		第111図	2区6号住居・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 132
		第112図	2区6号住居出土遺物・・・・・・・・・・・・ 133
		第113図	2区7号住居と出土遺物・・・・・・・・・・・・ 134
		第114図	2区8号住居と出土遺物・・・・・・・・・・・・ 135
		第115図	2区9号住居(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 136

第116図	2区9号住居(2)	137
第117図	2区9号住居出土遺物	138
第118図	2区10号住居と出土遺物	139
第119図	2区11号住居と出土遺物	140
第120図	2区12号住居と出土遺物	141
第121図	2区13・14号住居と13号住居出土遺物	142
第122図	2区14号住居出土遺物	143
第123図	2区15号住居と出土遺物	143
第124図	2区16号住居と出土遺物、4区1号住居	144
第125図	4区1号住居	145
第126図	4区1号住居出土遺物	146
第127図	4区2号住居	147
第128図	4区2号住居出土遺物	148
第129図	4区3号住居	149
第130図	4区3号住居出土遺物	150
第131図	5区1・2号住居と出土遺物	151
第132図	4区1号竪穴状遺構と出土遺物	152
第133図	2区1号掘立柱建物と出土遺物	153
第134図	2区2号掘立柱建物	155
第135図	2区3号掘立柱建物	156
第136図	4区2・3号掘立柱建物	157
第137図	1区土坑出土遺物	158
第138図	1区土坑	159
第139図	2区土坑と出土遺物	160
第140図	2・3区土坑	161
第141図	3・4区土坑と4区土坑出土遺物	162
第142図	4・5区土坑と5区土坑出土遺物	163
第143図	5区ピット	164
第144図	1区As-B下水田	165
第145図	2・3区As-B下水田、22号溝(1)	166
第146図	2・3区As-B下水田、22号溝(2)	167
第147図	4・5区As-B下水田	168
第148図	4区As-B下水田出土遺物	168
第149図	5区As-B下水田	169
第150図	1区溝全体図	170
第151図	2・3区溝全体図	171
第152図	1区33号溝	172

第153図	2区23~28号溝(1)	173
第154図	2区23~28号溝(2)	174
第155図	2区23・24号溝出土遺物	175
第156図	2区31・32号溝、3区8・9号溝	176
第157図	1・2区遺構外出土遺物(奈良・平安時代)	177
第158図	3・4区遺構外出土遺物(奈良・平安時代)	178
第159図	1区全体図(古墳時代)	179
第160図	2・3区全体図(古墳時代)	180
第161図	4・5区全体図(古墳時代)	181
第162図	1区1号古墳位置図	182
第163図	1区1号古墳(1)	183
第164図	1区1号古墳(2)	184
第165図	1区1号古墳出土遺物	185
第166図	1区1号住居(1)	187
第167図	1区1号住居(2)と出土遺物	188
第168図	1区1号住居出土遺物	189
第169図	4区4号住居(1)	191
第170図	4区4号住居(2)	192
第171図	4区4号住居出土遺物	193
第172図	4区5号住居	194
第173図	4区5号住居出土遺物	195
第174図	4区6号住居と出土遺物	196
第175図	5区1号井戸と出土遺物	197
第176図	5区2号井戸と出土遺物	198
第177図	4・5区土坑、5区ピットと出土遺物	199
第178図	5区ピット	200
第179図	1区31・32号溝	201
第180図	2区20・21号溝と出土遺物	202
第181図	2区29・30号溝	203
第182図	3区10・11号溝	204
第183図	4区2・3号溝、5区3号溝	205
第184図	1・2・4区遺構外出土遺物(古墳時代)	206
第185図	4区遺構外出土遺物(古墳時代)	207
第186図	1区全体図(弥生時代以前)	208
第187図	2・3区全体図(弥生時代以前)	209
第188図	4・5区全体図(弥生時代以前)	210
第189図	遺構外出土遺物(縄文時代)	211

表 目 次

第1表	遺構名・遺構番号変更一覧表	8
第3表	溝計測表	217
第5表	土坑計測表	218
第7表	掘立柱建物計測表	220

第2表	南玉二丁町遺跡 周辺遺跡一覧表	14
第4表	井戸計測表	218
第6表	ピット計測表	219

写真目次

- P L. 1 1. 1区1面近世の遺構全景(上が北)
2. 1区復旧溝群(上が北)
- P L. 2 1. 1区1号復旧溝群(南から)
2. 1区2号復旧溝群調査風景(北から)
3. 1区3号復旧溝群土層断面(東から)
4. 1区4号復旧溝群土層断面(東から)
5. 1区5号復旧溝群土層断面(南から)
6. 1区10号復旧溝群土層断面(東から)
7. 1区10号復旧溝群(東から)
8. 1区10号復旧溝群(西から)
- P L. 3 1. 1区11号復旧溝群(南から)
2. 1区11号復旧溝群(南から)
3. 1区12～15号復旧溝群(西から)
4. 1区13号復旧溝群土層断面(北から)
5. 1区16号復旧溝群土層断面(南から)
6. 1区17号復旧溝群土層断面(東から)
7. 1区18号復旧溝群(南から)
8. 1区18号復旧溝群(南から)
- P L. 4 1. 2区1面近世の遺構全景(上が北)
2. 2区1面近世の遺構全景(上が北)
- P L. 5 1. 2区1号復旧溝群(東から)
2. 2区1号復旧溝群土層断面(東から)
3. 2区2号復旧溝群(北から)
4. 2区2号復旧溝群土層断面(南から)
5. 2区3号復旧溝群調査風景(東から)
6. 2区3・7号復旧溝群土層断面(東から)
7. 2区4号復旧溝群調査風景(北から)
8. 2区4号復旧溝群土層断面(南から)
- P L. 6 1. 2区5号復旧溝群土層断面(南から)
2. 2区6号復旧溝群土層断面(南から)
3. 2区7号復旧溝群(東から)
4. 2区8号復旧溝群(南から)
5. 3区1面近世の遺構全景(上が北)
- P L. 7 1. 3区1～3号復旧溝群全景(上が北)
2. 3区1・2号溝、1号畠全景(上が西)
- P L. 8 1. 3区1号復旧溝群(東から)
2. 3区2号復旧溝群(東から)
3. 3区3号復旧溝群(北から)
4. 3区4号復旧溝群(東から)
5. 4区東側1面全景(上が北)
- P L. 9 1. 4区1号復旧溝群土層断面(東から)
2. 4区1号復旧溝群土層断面(東から)
3. 4区2・3号復旧溝群(東から)
4. 4区2・3号復旧溝群(東から)
5. 4区3号復旧溝群土層断面(東から)
6. 4区5号復旧溝群(北から)
7. 4区4・5号復旧溝群(北から)
8. 4区5号復旧溝群土層断面(南から)
- P L. 10 1. 4区1号畠(東から)
2. 4区1号畠(東から)
3. 5区1号復旧溝群土層断面(西から)
4. 5区1号復旧溝群(東から)
5. 5区1面近世の遺構全景(上が北)
- P L. 11 1. 5区西側1面全景(上が北)
2. 5区東側1面全景(上が北)
- P L. 12 1. 5区1号復旧溝群(東から)
2. 5区1号復旧溝群土層断面(北西から)
3. 5区1号復旧溝群土層断面(西から)
4. 5区2号復旧溝群(東から)
5. 5区2号復旧溝群(西から)
6. 5区2号復旧溝群土層断面(西から)
7. 5区2号復旧溝群(東から)
8. 5区2号復旧溝群土層断面(西から)
- P L. 13 1. 1区6号溝(南から)
2. 1区6号溝土層断面(南から)
3. 1区7号溝(南から)
4. 1区8号溝(東から)
5. 1区9号溝(南から)
6. 1区9号溝(南から)
7. 1区9号溝(南から)
8. 1区9号溝土層断面(南から)
- P L. 14 1. 1区10・11・14・15号溝(西から)
2. 1区8・10・11・14・15号溝(西から)
3. 1区10号溝調査風景(東から)
4. 1区10・14号溝土層断面(東から)
5. 1区11号溝土層断面(南から)
6. 1区12号溝土層断面(南から)
7. 1区13号溝土層断面(南から)
8. 1区15号溝土層断面(北から)
- P L. 15 1. 1区17～19号溝(北から)
2. 1区17～19号溝(北から)
3. 1区17～19号溝土層断面(南から)
4. 1区19号溝(北西から)
5. 1区20号溝(北西から)
6. 1区20号溝(北から)
7. 1区21～23号溝(北から)
8. 1区21号溝土層断面(南から)
- P L. 16 1. 1区24・25号溝(北から)
2. 1区26～29号溝(北から)
3. 1区30号溝(南から)
4. 1区30号溝土層断面(南から)
5. 1区31号溝(南東から)
6. 1区31号溝土層断面(南から)
7. 1区32号溝(東から)
8. 1区32号溝土層断面(南西から)
- P L. 17 1. 1区33号溝(北から)
2. 1区33号溝土層断面(南から)
3. 2区2・3号溝調査風景(南から)
4. 2区2・3号溝土層断面(南から)
5. 2区4号溝(北から)
6. 2区4号溝土層断面(北から)
7. 2区5号溝(北から)
8. 2区5号溝土層断面(南東から)
- P L. 18 1. 2区6号溝土層断面(東から)
2. 2区9号溝土層断面(北から)
3. 2区10～13号溝(北から)
4. 2区12号溝土層断面(南から)
5. 2区13号溝土層断面(南から)
- P L. 19 1. 2区14号溝土層断面(南から)
2. 2区15号溝土層断面(南東から)
3. 2区16号溝(北西から)
4. 2区16号溝調査風景(南東から)
5. 2区16号溝土層断面(南から)
- P L. 20 1. 2区17・18号溝(北から)
2. 2区17・18号溝土層断面(北から)
3. 2区17号溝土層断面(北から)
4. 2区18号溝土層断面(北から)
5. 2区18号溝遺物出土状況(北から)
6. 2区19号溝(南東から)
7. 2区19号溝土層断面(南東から)
8. 2区20号溝土層断面(北東から)
- P L. 21 1. 2区21号溝(西から)
2. 2区21号溝土層断面(南東から)
3. 2区22号溝(南から)
4. 2区22号溝土層断面(北から)
5. 2区23～27号溝(北から)

6. 2区23～27号溝(南から)
7. 2区23号溝遺物出土状況(北西から)
8. 2区23号溝遺物出土状況(北西から)
P L. 22 1. 2区23号溝遺物出土状況(北西から)
2. 2区23号溝遺物出土状況(北西から)
3. 2区24号溝土層断面(北から)
4. 2区25号溝土層断面(南から)
5. 2区26号溝土層断面(南から)
6. 2区27号溝土層断面(南から)
7. 2区28号溝土層断面(北西から)
8. 2区28号溝土層断面(西から)
P L. 23 1. 2区29～32号溝(南西から)
2. 2区29・31号溝土層断面(西から)
3. 2区30号溝土層断面(北から)
4. 2区32号溝土層断面(西から)
5. 3区1号溝(南西から)
6. 3区1号溝(南から)
7. 3区1号溝(西から)
8. 3区1号溝遺物出土状況(南から)
P L. 24 1. 3区1号溝土層断面(南から)
2. 3区1号溝遺物出土状況(東から)
3. 3区2号溝(北から)
4. 3区2号溝(北から)
5. 3区3号溝(南から)
6. 3区4～7号溝(北から)
7. 3区4～7号溝土層断面(南から)
8. 3区6号溝土層断面(南から)
P L. 25 1. 3区4号溝土層断面(南から)
2. 3区5・7号溝土層断面(南から)
3. 3区8・9号溝(北から)
4. 3区8号溝土層断面(東から)
5. 3区9号溝土層断面(東から)
6. 3区9号溝(北から)
7. 3区10・11号溝(東から)
8. 3区10号溝(東から)
P L. 26 1. 3区10号溝(東から)
2. 3区10号溝(東から)
3. 3区10号溝土層断面(北から)
4. 3区11号溝(南西から)
5. 3区11号溝土層断面(南から)
6. 4区1号溝土層断面(南から)
7. 4区2・3号溝(北から)
8. 4区2・3号溝(北から)
P L. 27 1. 4区3号溝土層断面(南から)
2. 4区4～6号溝(北から)
3. 4区4号溝土層断面(南から)
4. 4区4～6号溝(南から)
5. 4区5号溝土層断面(南から)
6. 4区7・8号溝(北西から)
7. 4区7号溝土層断面(北西から)
8. 4区8号溝土層断面(西から)
P L. 28 1. 4区9号溝(南東から)
2. 4区9号溝土層断面(南から)
3. 4区10号溝(南から)
4. 4区10号溝土層断面(南から)
5. 4区12号溝(北から)
6. 4区12号溝土層断面(南から)
7. 4区13号溝(東から)
8. 4区13・14号溝(東から)
P L. 29 1. 4区15～17号溝(北から)
2. 4区15号溝土層断面(南から)
3. 4区16号溝土層断面(南から)
4. 4区17号溝土層断面(南から)
5. 5区1号溝(東から)
6. 5区2号溝(北から)
7. 5区3号溝北半(北から)
8. 5区3号溝土層断面(南から)
P L. 30 1. 1区2・3面全景(上が北) 左手が1号古墳周堀
2. 1区1号古墳(南から)
3. 1区1号古墳土層断面(東から)
4. 1区1号古墳周堀土層断面(南から)
5. 1区1号古墳周堀出土の加工痕のある礫
P L. 31 1. 1区1号住居(南西から)
2. 1区1号住居土層断面(西から)
3. 1区1号住居カマド(南西から)
4. 1区1号住居カマド遺物出土状況(南西から)
5. 1区1号住居遺物出土状況(南西から)
6. 1区1号住居遺物出土状況(南西から)
7. 1区1号住居遺物出土状況(南西から)
8. 1区1号住居遺物出土状況(南西から)
P L. 32 1. 1区1号住居柱穴1(南西から)
2. 1区1号住居柱穴4(南西から)
3. 1区1号住居床下土坑(南西から)
4. 1区1号住居掘り方(西から)
5. 1区2号住居(南西から)
6. 1区2号住居遺物出土状況(南西から)
7. 1区3・4号住居(西から)
8. 1区3号住居遺物出土状況(西から)
P L. 33 1. 1区4号住居(南西から)
2. 1区4号住居カマド土層断面(南西から)
3. 1区4号住居カマド(南西から)
4. 1区5号住居(西から)
5. 1区5号住居カマド土層断面(西から)
6. 1区5号住居掘り方(西から)
7. 1区6号住居(北から)
8. 1区7号住居(西から)
P L. 34 1. 1区7号住居遺物出土状況(西から)
2. 1区7号住居掘り方(東から)
3. 2区1号住居(西から)
4. 2区1号住居カマド(西から)
5. 2区1号住居掘り方(西から)
6. 2区2号住居(西から)
7. 2区2号住居カマド遺物出土状況(西から)
8. 2区2号住居カマド(西から)
P L. 35 1. 2区2号住居カマド掘り方土層断面(西から)
2. 2区2号住居紡錘車出土状況(西から)
3. 2区2号住居紡錘車出土状況(西から)
4. 2区2・8号住居掘り方(西から)
5. 2区3号住居(西から)
6. 2区3号住居カマド土層断面(南から)
7. 2区4号住居(北西から)
8. 2区4号住居カマド(西から)
P L. 36 1. 2区4号住居カマド土層断面(南から)
2. 2区4号住居柱穴1土層断面(北から)
3. 2区5号住居掘り方(北から)
4. 2区6号住居(西から)
5. 2区6号住居カマド土層断面(南から)
6. 2区6号住居カマド(西から)
7. 2区6号住居貯蔵穴(西から)
8. 2区6号住居貯蔵穴遺物出土状況(西から)
P L. 37 1. 2区7号住居(西から)
2. 2区8号住居(北西から)
3. 2区9号住居(西から)
4. 2区9号住居カマド土層断面(南から)
5. 2区9号住居カマド(西から)
6. 2区9号住居遺物出土状況(西から)
7. 2区10号住居(北西から)
8. 2区10号住居カマド(南から)
P L. 38 1. 2区11号住居(西から)
2. 2区11号住居遺物出土状況(西から)
3. 2区11号住居遺物出土状況(西から)
4. 2区11号住居遺物出土状況(西から)

5. 2区12号住居(西から)
6. 2区12号住居カマド土層断面(南から)
7. 2区13・14号住居(西から)
P L. 39 8. 2区13号住居カマド遺物出土状況(北西から)
1. 2区14号住居遺物出土状況(西から)
2. 2区14号住居カマド土層断面(西から)
3. 2区14号住居カマド(西から)
4. 2区14号住居貯蔵穴土層断面(東から)
5. 2区15号住居(西から)
6. 2区15号住居掘り方土層断面(南から)
7. 2区16号住居(北から)
P L. 40 8. 2区16号住居土層断面(北から)
1. 4区1号住居(西から)
2. 4区1号住居1号カマド遺物出土状況(西から)
3. 4区1号住居1号カマド遺物出土状況(東から)
4. 4区1号住居2号カマド遺物出土状況(南から)
5. 4区1号住居2号カマド遺物出土状況(西から)
6. 4区1号住居遺物出土状況(西から)
7. 4区1号住居掘り方(西から)
8. 4区1号住居1・2号カマド土層断面(南から)
P L. 41 1. 4区2号住居(西から)
2. 4区2号住居カマド土層断面(西から)
3. 4区2号住居カマド遺物出土状況(西から)
4. 4区2号住居遺物出土状況(北から)
5. 4区2号住居カマド掘り方土層断面(西から)
6. 4区2号住居カマド掘り方土層断面(南から)
7. 4区2号住居掘り方遺物出土状況(東から)
8. 4区2号住居掘り方土層断面(西から)
P L. 42 1. 4区3号住居(西から)
2. 4区3号住居カマド土層断面(南から)
3. 4区3号住居遺物出土状況(西から)
4. 4区3号住居貯蔵穴(西から)
5. 4区3号住居遺物出土状況(東から)
6. 4区3号住居掘り方(西から)
7. 4区4号住居(西から)
8. 4区4号住居土層断面(西から)
P L. 43 1. 4区4号住居(西から)
2. 4区4号住居遺物出土状況(西から)
3. 4区4号住居遺物出土状況(西から)
4. 4区4号住居1号貯蔵穴土層断面(西から)
5. 4区4号住居2号貯蔵穴土層断面(東から)
6. 4区4号住居遺物出土状況(西から)
7. 4区4号住居柱穴11(西から)
8. 4区4号住居柱穴5土層断面(東から)
P L. 44 1. 4区4号住居柱穴7土層断面(西から)
2. 4区4号住居柱穴3土層断面(西から)
3. 4区4号住居柱穴6土層断面(西から)
4. 4区4号住居土層断面(南から)
5. 4区4号住居柱穴2土層断面(北から)
6. 4区4号住居掘り方(西から)
7. 4区5号住居(東から)
8. 4区5号住居(北から)
P L. 45 1. 4区5号住居土層断面(西から)
2. 4区6号住居貯蔵穴遺物出土状況(南から)
3. 5区1号住居土層断面(西から)
4. 5区1号住居掘り方(西から)
5. 5区2号住居土層断面(南から)
6. 5区2号住居掘り方(西から)
7. 4区1号竪穴状遺構土層断面(北から)
8. 4区1号竪穴状遺構(南から)
P L. 46 1. 2区As-B下水田全景(上が北) 白線の左手中央に白く見えるのが幅5mの道
2. 2区As-B下水田(西から)
3. 2区As-B下水田(南から)
4. 2区As-B下水田(西から)
5. 2区As-B下水田調査風景(南から)
P L. 47 1. 3区2面As-B下水田全景(上が北)
2. 3区東側2面As-B下水田全景(上が北) 中央に幅5mの道
P L. 48 1. 3区西側2面As-B下水田全景(上が北)
2. 3区As-B下水田に伴う幅5mの道(南から) 上面の溝は中世の道に伴うもの
3. 3区As-B下水田調査風景(東から)
4. 3区As-B下水田(西から)
5. 3区As-B下水田(北から)
P L. 49 1. 4区As-B下水田(西から)
2. 4区As-B下水田(南から)
3. 4区As-B下水田(南から)
4. 4区As-B下水田(北から) 南北方向の大畔(幅2m)
5. 5区As-B下水田(東から) 東西方向の大畔(幅3m)
6. 5区As-B下水田(東から)
7. 5区As-B下水田(北から)
8. 5区As-B下水田耕土断面
P L. 50 1. 5区2面As-B下水田全景(上が北)
2. 5区2面As-B下水田全景(西から)
P L. 51 1. 5区西側2面As-B下水田全景(上が北)
2. 5区東側2面As-B下水田全景(上が北) 微高地から幅3mの大畔が東へのびる
P L. 52 1. 2区1～5号掘立柱建物全景(上が北)
2. 2区1号掘立柱建物(西から)
3. 2区1号掘立柱建物調査風景(東から)
4. 2区2号掘立柱建物(北西から)
5. 2区3号掘立柱建物(北東から)
P L. 53 1. 2区1号掘立柱建物P5(南から)
2. 2区1号掘立柱建物P4(南から)
3. 2区1号掘立柱建物P8(南から)
4. 2区1号掘立柱建物P10(南から)
5. 2区1号掘立柱建物P7(南から)
6. 2区2号掘立柱建物P3(南から)
7. 2区2号掘立柱建物P6(南から)
8. 2区3号掘立柱建物P1(南から)
9. 2区3号掘立柱建物P2(南から)
10. 2区5号掘立柱建物P4(南から)
11. 2区5号掘立柱建物P5(南から)
12. 2区5号掘立柱建物P6(南から)
13. 2区6号掘立柱建物P1(東から)
14. 2区6号掘立柱建物P4(南から)
15. 2区7号掘立柱建物P5(北東から)
P L. 54 1. 2区1～5号掘立柱建物(南から)
2. 2区4号掘立柱建物(北から)
3. 2区5号掘立柱建物(西から)
4. 2区6号掘立柱建物(東から)
5. 2区7号掘立柱建物(北西から)
6. 2区8号掘立柱建物(北東から)
7. 4区1号掘立柱建物(東から)
8. 4区1号掘立柱建物(東から)
P L. 55 1. 4区1号掘立柱建物P10(南から)
2. 4区1号掘立柱建物P7(東から)
3. 4区1号掘立柱建物P11(南から)
4. 4区1号掘立柱建物P8(西から)
5. 4区1号掘立柱建物P21(南から)
6. 4区1号掘立柱建物P4(南から)
7. 4区1号掘立柱建物P2(南から)
8. 4区2号掘立柱建物P2(南東から)
9. 4区2号掘立柱建物P3(南から)
10. 4区2号掘立柱建物P4(南西から)
11. 4区2号掘立柱建物P5(南西から)
12. 4区2号掘立柱建物P1(北西から)
13. 4区3号掘立柱建物P1(南西から)
14. 4区3号掘立柱建物P3(北西から)
15. 4区3号掘立柱建物P2(北から)
P L. 56 1. 1区1号土坑(南から)
2. 1区2号土坑(南から)

3. 1区4号土坑(西から)
 4. 1区4号土坑土層断面(南から)
 5. 1区5号土坑(北西から)
 6. 1区5号土坑土層断面(東から)
 7. 1区7号土坑(南から)
 8. 1区8号土坑(南から)
 9. 2区2号土坑(南から)
 10. 2区4号土坑(南から)
 11. 2区16号土坑(南から)
 12. 2区17号土坑(南から)
 13. 2区20号土坑(南から)
 14. 2区21号土坑(南から)
 15. 2区23号土坑(南から)
- P L. 57 1. 2区24号土坑(南から)
 2. 2区25号土坑(南から)
 3. 2区30号土坑(南から)
 4. 2区34号土坑(南から)
 5. 2区40号土坑(南から)
 6. 2区41号土坑(南から)
 7. 2区42号土坑(南から)
 8. 2区52号土坑(北から)
 9. 2区53号土坑(西から)
 10. 2区54号土坑(西から)
 11. 2区57号土坑(北から)
 12. 2区59号土坑(西から)
 13. 2区61号土坑(南東から)
 14. 2区62号土坑(南西から)
 15. 2区67号土坑(南東から)
- P L. 58 1. 2区68号土坑(西から)
 2. 2区70号土坑(南から)
 3. 2区71号土坑(北東から)
 4. 2区72号土坑(西から)
 5. 3区1号土坑(北から)
 6. 3区2号土坑(北から)
 7. 3区3号土坑(南から)
 8. 3区4号土坑(北から)
 9. 3区7号土坑(北から)
 10. 3区8号土坑(北から)
 11. 3区9号土坑(東から)
 12. 3区10号土坑(北から)
 13. 4区1号土坑(南から)
 14. 4区2号土坑(西から)
 15. 4区3号土坑(西から)
- P L. 59 1. 4区7号土坑(西から)
 2. 4区8号土坑(南東から)
 3. 4区9号土坑(北西から)
 4. 4区10号土坑(南から)
 5. 4区11号土坑(北から)
 6. 4区1号住居2号貯蔵穴(旧12坑)(北から)
 7. 4区1号住居1号貯蔵穴(旧13坑)(西から)
 8. 4区14号土坑(南から)
 9. 4区15号土坑(南東から)
 10. 4区16号土坑(東から)
 11. 4区17号土坑(東から)
 12. 4区18号土坑(西から)
 13. 4区19号土坑(東から)
 14. 4区20号土坑(北西から)
 15. 4区22号土坑(南西から)
- P L. 60 1. 4区23号土坑(北から)
 2. 4区26号土坑(南から)
 3. 4区27号土坑(南から)
 4. 4区28号土坑(南から)
 5. 4区29号土坑(南から)
 6. 4区30号土坑(南から)
 7. 4区30号土坑(南から)
 8. 4区32号土坑(南から)
9. 4区33号土坑(南から)
 10. 4区36号土坑(南から)
 11. 4区37号土坑(西から)
 12. 4区39号土坑(南から)
 13. 4区40号土坑(南から)
 14. 4区41号土坑(南東から)
 15. 4区46号土坑(南から)
- P L. 61 1. 4区54号土坑(北から)
 2. 4区55号土坑(北から)
 3. 4区56号土坑(北から)
 4. 4区57号土坑(東から)
 5. 4区58号土坑(東から)
 6. 4区59号土坑(東から)
 7. 5区3号土坑(北から)
 8. 5区4号土坑(南から)
 9. 5区5号土坑(西から)
 10. 5区6号土坑(東から)
 11. 5区7号土坑(西から)
 12. 5区9号土坑(西から)
 13. 5区10号土坑(南から)
 14. 5区11号土坑(北から)
 15. 5区12号土坑(南から)
- P L. 62 1. 5区1・2号土坑(東から)
 2. 5区1号土坑土層断面(西から)
 3. 5区1号土坑(東から)
 4. 5区2号土坑土層断面(東から)
 5. 5区2号土坑(東から)
 6. 1区1号井戸(北から)
 7. 1区2号井戸(北から)
 8. 2区1号井戸(西から)
- P L. 63 1. 2区2号井戸(東から)
 2. 2区2号井戸(北から)
 3. 2区3号井戸(北から)
 4. 4区1号井戸(南から)
 5. 4区2号井戸(西から)
 6. 4区3号井戸(西から)
 7. 4区4号井戸(東から)
 8. 4区5号井戸(北から)
- P L. 64 1. 4区6号井戸(西から)
 2. 4区7号井戸(西から)
 3. 5区1号井戸土層断面(西から)
 4. 5区1号井戸(東から)
 5. 5区2号井戸遺物出土状況(北から)
 6. 5区2号井戸遺物出土状況(東から)
 7. 5区2号井戸土層断面(南から)
 8. 5区2号井戸(南から)
- P L. 65 1. 3区1号遺物集中(西から)
 2. 4区風倒木(西から)
 3. 5区風倒木(東から)
 4. 5区風倒木(南から)
 5. 1区旧石器調査(西から)
 6. 1区旧石器土層断面(南から)
 7. 2区旧石器調査(西から)
 8. 2区旧石器土層断面(南から)
- P L. 66 出土遺物(1)(2区16・18号溝)
 P L. 67 出土遺物(2)(1区1・2号住居)
 P L. 68 出土遺物(3)(1区2～5・7号住居、1区1号古墳、2区1～3・6・7・9号住居)
 P L. 69 出土遺物(4)(2区14号住居、2区23号溝、2区遺構外、3区遺構外、4区1・2・4・6号住居)
 P L. 70 出土遺物(5)(4区4～6号住居、4区4号井戸、4区遺構外、5区2号井戸)
 P L. 71 出土遺物(6)(鉄製品・石製品)

第1章 発掘調査に至る経緯と経過

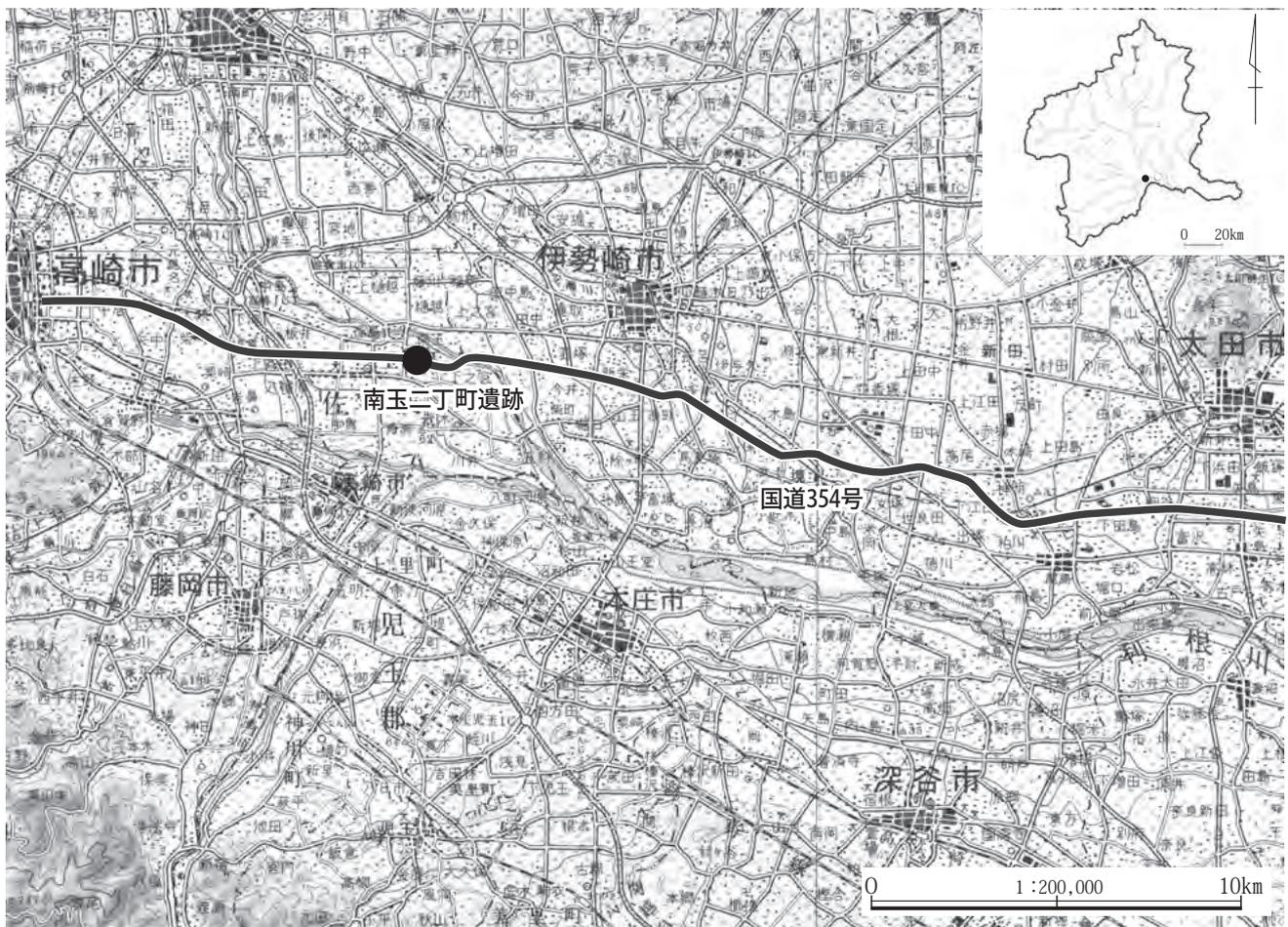
第1節 発掘調査に至る経緯

南玉二丁町遺跡は、群馬県佐波郡玉村町内の東部に位置する埋蔵文化財包蔵地で、周辺には南玉埋堀遺跡、福島味噌袋遺跡をはじめとする数多くの包蔵地が隣接する。現在の景観はほぼ平坦であるが、度重なる利根川の洪水堆積土によって地表面が覆われており、旧来の地形を視認することはなかなか難しい。

発掘調査の原因は、国道354号玉村伊勢崎バイパスの建設工事である。群馬県では「群馬がはばたくための7つの交通軸構想」として、各地域の自立促進と活性化の支援のため、県内の高速交通網の効果を隅々まで生かすべく、高速交通網を補完する役割の交通軸を整備することとした。このうち「東毛軸」では、高崎から玉村町、伊勢崎市、太田市、大泉町、邑楽町、館林市、板倉町といっ

た県東南部の市町を東西に結ぶ国道354号を主要道路軸とし、「東毛広域幹線道路」として整備が図られることとなった。

この東毛広域幹線道路は、高崎市栄町を起点とし、県の南東端に位置する板倉町板倉までを結ぶ総延長58.61km、標準幅員は25.0mで設計されている。国道354号玉村伊勢崎バイパスは、この東毛広域幹線道路のうち、西は主要地方道藤岡大胡線との交差点から、東は一般県道駒形柴町線との交差点までの間3.03kmを対象としており、事業期間は平成20年度から始まり29年度の完了を予定している。東毛広域幹線道路は、平成26年8月31日に玉村伊勢崎バイパスの暫定2車線の完成をもって全線開通することとなった。平成27年度現在は、全線4車線化とこれに伴う橋桁工事が進められてきている。



第1図 南玉二丁町遺跡の位置(国土地理院20万分の1地勢図「宇都宮」平成23年6月1日発行使用)

平成21年5月8日、事業主体である群馬県県土整備部伊勢崎土木事務所からの照会をうけた群馬県教育委員会文化財保護課(以下、県保護課と略す)は、バイパス予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地を通過することから、本調査是非の判定と調査を実施する場合の面積等の確定を行うために試掘調査が必要である旨を回答した。

県保護課では、県伊勢崎土木事務所からの試掘依頼を受け、「平成22年度国道354号社会資本総合整備(活力創出基盤)事業」に対応する佐波郡玉村町大字福島から利根川右岸の同町下之宮までの事業地を対象に、平成22年5月20日から同年6月4日までの間で試掘調査を実施した。試掘調査は事業地内に幅1mのトレンチを23本設定して、遺構と遺物の有無及び調査範囲の確認を行った。その結果、南玉二丁町遺跡の範囲内で古墳時代から平安時代にかけての住居跡、古代の水田跡、中世から近世にかけての溝や土坑・畠跡が重層して確認され、工区の全域が発掘本調査の対象となることが確定した。

試掘調査では、1783(天明3)年の浅間山噴出テフラ(As-A)とその泥流層、1108(天仁元)年の浅間噴出テフラ(As-B)の混在土層、As-B層を主な鍵層として、古墳時代から近世までの遺構検出面が2～3面存在することが想定された。また、地山層までの深さは調査区西側では1m前後、東端では1.3m前後であり、全体的に微高地と低地が混在しながら東方に傾斜し、傾斜に沿って次第に厚くなる洪水起源と思われる堆積物に覆われた状況が把握された。なお、全域にわたって1783(天明3)年の浅間山噴火後の災害時に田畠を復旧した溝群(耕地復旧遺構)が確認されており、最上位に位置する調査面となることが想定された。

本調査が必要との通知を受けた県伊勢崎土木事務所では、県保護課との協議を経て、発掘調査主体となる財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団と発掘調査実施のための準備を進め、平成23年3月31日に県伊勢崎土木事務所長と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長との間で契約が締結された。この当初契約は平成22年度予算によるため、事業名称には「平成22年度」を冠してあるが、実質的な発掘調査は平成23年度に入ってから実施することとなった。なお、この平成22年度国道354号(玉村伊勢崎バイパス)事業関連の発掘調査は、福島味噌袋遺跡・南玉二丁町遺跡・南玉埋堀遺跡・下之宮中沖遺跡・下之

宮高俣遺跡・東上之宮遺跡の6遺跡が対象であり、契約はこれらの発掘調査を総括して締結された。

平成23年4月から開始した発掘調査は、6遺跡の中で西端に位置する福島味噌袋遺跡、利根川の右岸に位置する下之宮中沖遺跡・下之宮高俣遺跡、利根川左岸に位置する東上之宮遺跡から着手することとなり、南玉二丁町遺跡と南玉埋堀遺跡は年度後半から着手する計画で進められた。その後、玉村伊勢崎バイパスの工事工程と発掘調査工程の調整が図られ、南玉二丁町遺跡の調査を優先して進捗することと、併せて発掘調査期間も平成24年3月31日まで延長されることになった。

平成24年度事業については、群馬県伊勢崎土木事務所長と群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長との間で、平成24年3月30日付けで発掘調査委託契約が締結された。対象となったのは南玉二丁町遺跡・南玉埋堀遺跡・下之宮中沖遺跡・下之宮高俣遺跡の4遺跡で、南玉二丁町遺跡は年度後半から実施することになった。

なお、平成24年4月1日より群馬県埋蔵文化財調査事業団は「公益財団法人」の認定を受けて、「公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団」と名称を変更した。

第2節 発掘調査の経過

南玉二丁町遺跡の発掘調査は、調査区西半部にあたる1区から3区を対象に平成23年10月から着手となった。発掘調査は、まず西端に位置する1区の表土掘削から始まった。この地点では表土下20cm前後で近世の復旧溝群と土坑・溝を検出し、この調査面を第1面として調査を実施した。併せて10月中旬から2区の表土掘削も実施し、両地点を併走するかたちで調査を進捗した。10月末には1区1面の調査が終了し、2面目の掘削に取りかかった。1区2面の調査では調査区の全域から中世の溝が数多く確認され、西端部では古墳の周堀とみられる大規模な堀も見つかった。

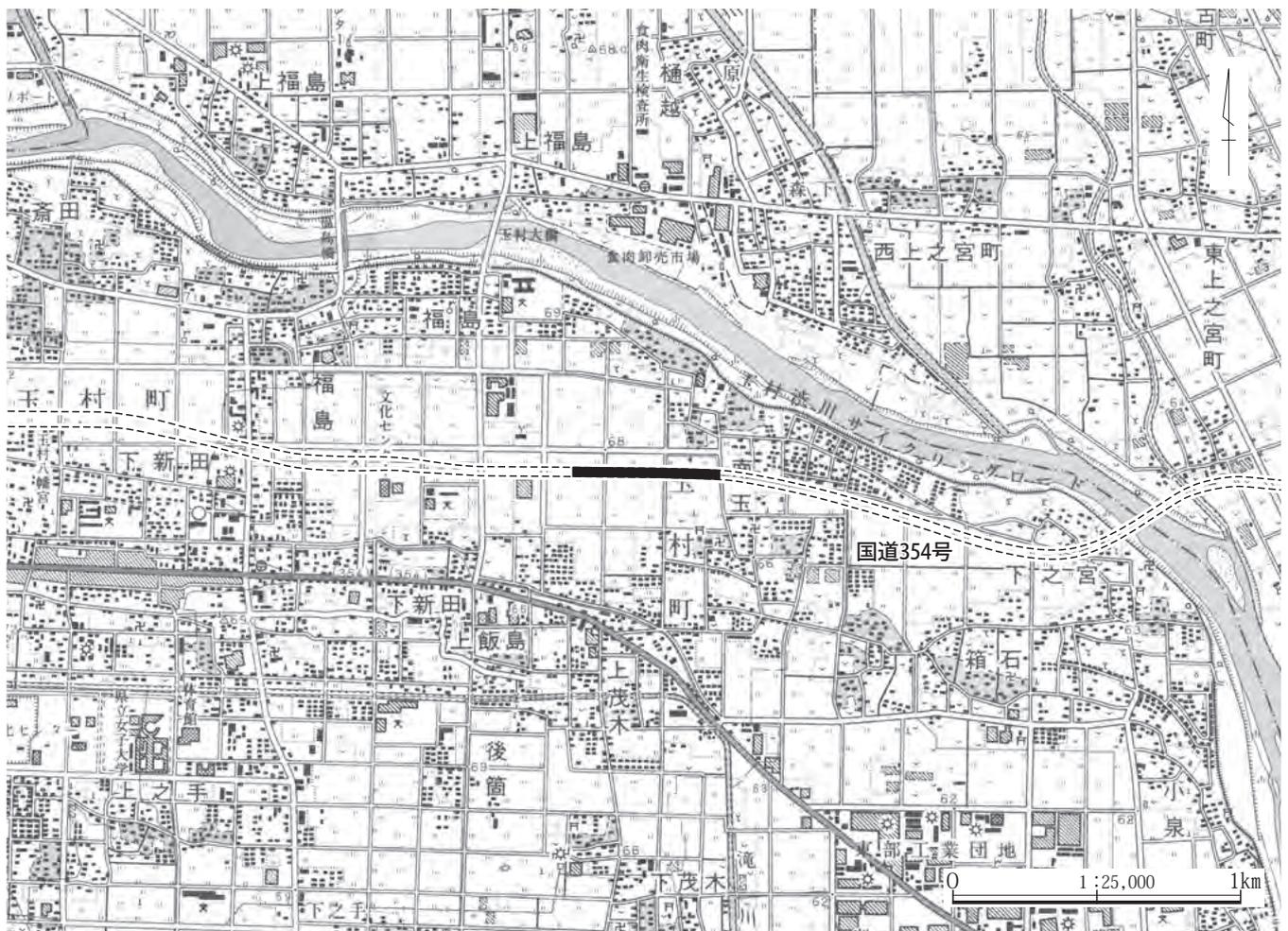
一方、2区2面の調査は11月中旬から開始した。ここは西半部が微高地、東半部は低地となっており、微高地部分から多数の溝と堀、掘立柱建物群、井戸・土坑などの中世遺構群が全域にわたって分布し、さらにほぼ同一面に住居をはじめとする古代の集落も重複していることが判明した。低地では、中世の遺構面は残っていなかつ

たが、1108年に降下した浅間B軽石で埋没した古代の水田を確認することができた。12月初旬には1区でも西半部微高地で古代の住居群と削平された古墳の周堀が確認され、東半部低地では浅間B軽石埋没水田が検出することができた。12月中旬には2区最終面の確認調査を行い、2区の調査については12月中に終了した。

年が明けた1月から2区の埋め戻しと平行して1区古代遺構の調査を実施し、中旬には3区の表土掘削に着手した。3区は全域が低地にあっており、1面目では他と同様に近世の復旧溝群と畝、溝などが確認されたが、2面目では中世の溝と土坑がわずかに認められるに留まった。2月中旬には1区の調査が終了し、3区3面の調査を開始した。3区でも浅間B軽石埋没水田が全域で確認されたが、ここでは南北に直進する幅約5mの道が検出された。その後3区4面の調査を実施し、3月31日

には今年度予定していた1区・2区・3区の調査を全て完了することができた。

平成24年度は残る4区・5区が調査対象となるが、当遺跡は下半期からの調査となった。また、工事との関係から5区と4区の東側15mまでの調査を先行・先渡しすることとなった。発掘調査は10月1日から開始し、12月末で先行調査地区を完了した。平成25年1月からは残る4区の調査を実施した。諸般の事情で4区は調査区内での打って返しの調査となった。4区は2区と同様に西半部が微高地、東半部が低地となり、微高地には中世の遺構群と古代の遺構群が数多く分布し、低地では古代の浅間B軽石埋没水田が全域で確認された。4区の調査は3月下旬で終了し、今年度をもって南玉二丁町遺跡の発掘調査は全て完了となった。



第2図 南玉二丁町遺跡の位置(国土地理院2万5千分の1地形図「伊勢崎」平成15年2月1日発行使用)

第3節 調査日誌

平成23・24年度の発掘調査日誌からおもな記録を抜粋して掲載した。

平成23(2011)年

- 10.3 調査事務所施設整備、現地視察、重機打合せ
- 10.5 1区重機による表土掘削開始
- 10.12 1区1面遺構確認作業および遺構調査
- 10.17 2区重機による表土掘削開始
- 10.25 2区1面の遺構確認作業開始
- 10.28 2区1面の遺構調査開始
- 10.31 1区2面の重機掘削開始
- 11.10 1区2面の遺構確認作業開始
- 11.14 1区2面の遺構調査開始、2区2面重機掘削開始
- 11.15 2区2面遺構確認作業および遺構調査開始
- 11.22 2区3面で古代住居確認、調査開始
- 11.28 2区2面と3面の遺構調査開始
- 11.29 2区東側部分で浅間B軽石埋没水田確認、調査
- 12.7 1区でも浅間B軽石埋没水田の調査開始
- 12.9 1区西側で古墳の周堀を確認、調査開始
- 12.12 1区で古代住居を確認、調査開始
- 12.15 2区4面の調査を始める
- 12.22 2区調査終了、1区古代遺構調査

平成24(2012)年

- 1.4 現地確認
- 1.5 2区埋め戻し開始、1区古代遺構調査開始
- 1.12 3区表土掘削開始、1区古代遺構調査
- 1.17 3区遺構確認作業と遺構調査開始
- 1.19 2区埋め戻し終了
- 2.6 1区4面調査終了
- 2.13 3区2面・3面調査開始、浅間B埋没水田調査
- 3.2 3区4面遺構確認作業、調査開始
- 3.21 3区調査終了、埋め戻し開始
- 3.27 3区埋め戻し終了
- 3.31 1区・2区・3区調査終了
- 9.27 調査準備、現地確認

- 9.28 調査範囲の必要な箇所にガードフェンス設置
- 10.1 5区表土掘削開始
- 10.2 5区遺構確認作業開始
- 10.4 5区遺構調査開始
- 10.5 4区東から15mまでの通路部分を先行調査開始
- 10.9 4区遺構確認作業開始
- 10.12 4区遺構調査開始
- 10.26 5区2面遺構確認作業
- 10.31 5区2面古代水田・住居等調査開始
- 11.15 5区3面遺構確認作業
- 11.21 5区3面土坑・溝等遺構調査開始
- 11.26 4区1面遺構調査開始
- 11.29 5区調査終了、4区2面調査開始
- 12.19 4区先行調査部分の調査終了
- 12.26 4区先行調査部分と5区の埋め戻し終了

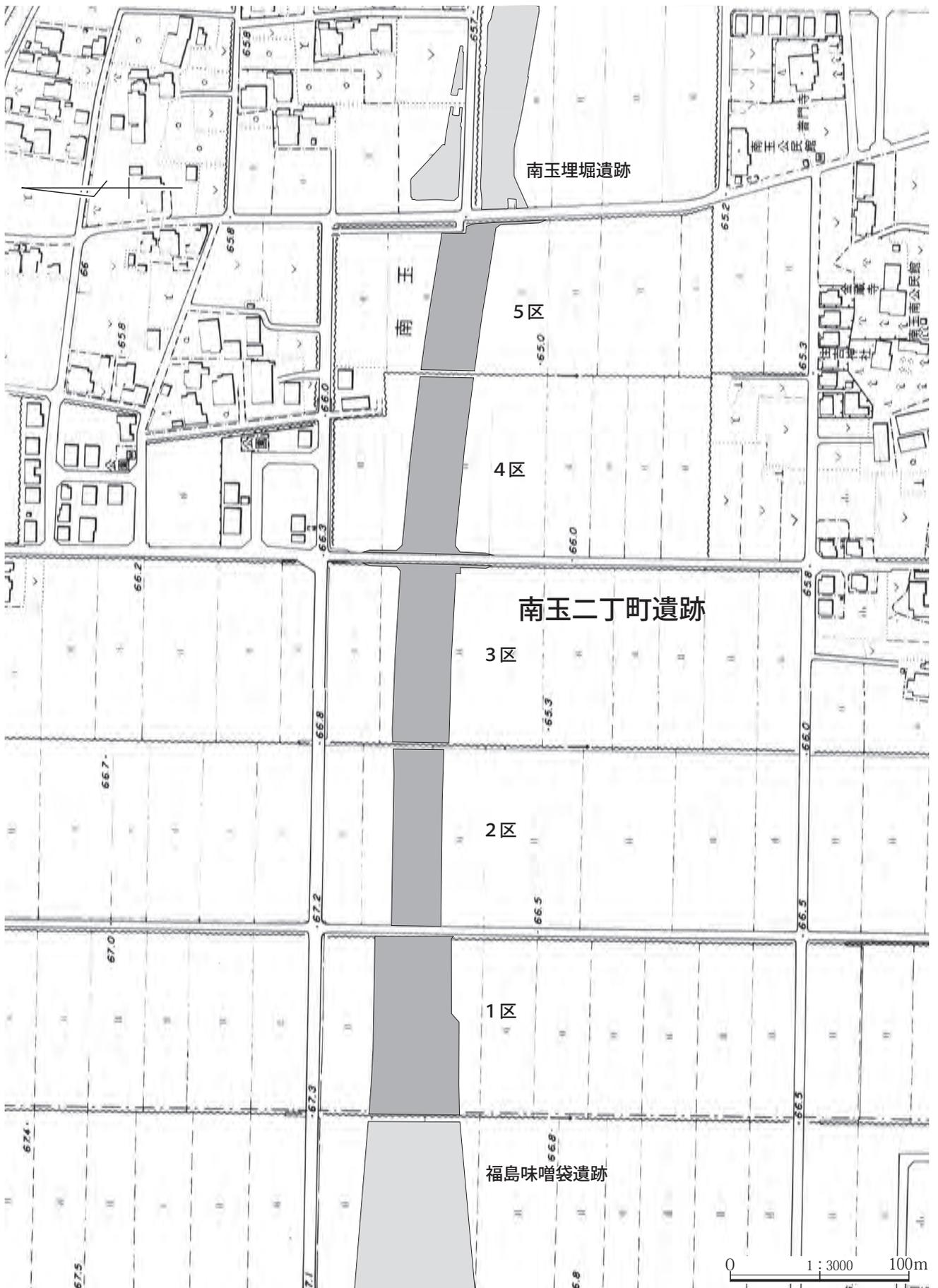
平成25(2013)年

- 1.7 4区東半部表土掘削開始
- 1.8 4区東半部1面遺構確認作業、調査開始
- 1.23 4区東半部1面調査終了、2面調査開始
- 1.25 4区東半部2面で中世遺構群、古代住居等確認
- 2.8 4区東半部2面調査ほぼ終了、3面確認調査開始
- 2.18 4区東半部埋め戻し終了、西半部表土掘削開始
- 2.28 4区西半部1面調査終了、2面調査開始
- 3.12 4区西半部2面調査終了、3面確認調査開始
- 3.21 4区埋め戻し終了、南玉二丁町遺跡の調査終了

第4節 調査区の設定

南玉二丁町遺跡の調査区の設定については、東西や南北に走行する道路や農業用排水路などを調査区の境界として便宜的に調査区名を付けた(第3図)。名称は、バイパス建設部分の西から東へ順に1区から5区とした。調査区の長さは約500m、幅は西端の1区が70~90mと広く、その他は幅25~30mである。

遺構測量については、国家座標(世界測地系2000平面直角座標第IX系)を用いた。基準点は1区及び5区西端に位置する、平面直角X=34180.796、Y=-62697.023を使用した。



第3図 南玉二丁町遺跡の調査区

(この地図の作成にあたっては、玉村町長の了承を得て、同町発行の「玉村町都市計画区域図8・9平成19年12月修正」2,500分の1の地形図を使用し複製したものである。)

第5節 発掘調査の方法

南玉二丁町遺跡の発掘調査は、「記録保存のための発掘調査に関する基準」（平成19年12月28日県教育長通知）にもとづいて実施した。土木機械については、賃貸借契約を締結した委託業者の大型掘削重機を使用して表土掘削等を行い、クローラーなどを使用した残土運搬を調査工程に沿って行った。掘削した表土などについては、調査区内に一時的に置く場所を確保しながら発掘調査を実施し、調査が終了した調査区は埋め戻しを行った。大型掘削重機による表土掘削の後は、現場作業員による鋤簾や移植ごてなどを使用した手作業によって掘り下げながら遺構確認作業を行った。

南玉二丁町遺跡では、時代ごとに遺構確認面が複数面あり、遺構の残存状況などによって遺構確認面の数が調査区によって異なっている。微高地と低地では土層の層厚や遺構の状況が異なるが、1区・2区・3区では概ね近世・中世・古代・弥生時代以前の4面で遺構確認および発掘調査が行われ、4区・5区では中世と古代の遺構確認がほぼ同一面で実施されたことから3面の調査となっている。

発掘調査で確認された遺構は、竪穴住居31軒、竪穴状遺構1基、掘立柱建物12棟、土坑126基、ピット69基、溝96条、井戸14基、土器集積1箇所、復旧溝群群35箇所、畠9箇所、水田5箇所である。なお、整理作業のなかで新たに遺構認定したのものもあるので、各遺構の数量は調査終了時と異なっている。これらについては別項で明記するので参照されたい。

確認できた遺構の番号については、調査区ごとにそれぞれ遺構番号をNo. 1から付番した。

発掘調査によって確認した遺構については、それぞれセクションベルトなどを適宜設定し、土層断面観察と写真撮影を行った。遺構断面測量は、発掘現場作業員による手実測及び測量委託業者によって行われた。遺構平面測量については、測量委託業者がトータルステーションで行った。

出土遺物については、測量委託業者による遺構地点別取り上げ及び調査区一括取り上げを適宜行った。

遺構写真については、35mmデジタルカメラとブロー

ニーモノクロフィルムを使用した6×7版銀塩カメラを併用し、発掘調査担当者が地上撮影及びフォトエレベーター、ローリングタワーなどを使用して写真撮影を行った。

測量委託業者による空中写真撮影については、4区を除く各区で2回ずつ実施しており、合わせて8回実施している。

第6節 基本土層

南玉二丁町遺跡の基本土層については、表土層以下の土層が記載された5地点の記録をもとに、基準的な模式図を作成した(第4図)。土層の層厚や残存状況は地点によって異なっており、全ての地点で表土から最下層までの記録が残っていないが、当遺跡の層序は概ね以下のようになる。概ね該当する時期は、Ⅱ層・Ⅲ層が江戸時代、Ⅳ層・Ⅴ層が中世、Ⅵ層・Ⅶ層・Ⅷ層が奈良・平安時代、Ⅷ層～Ⅸ層が古墳時代、Ⅹ層が弥生～縄文時代である。

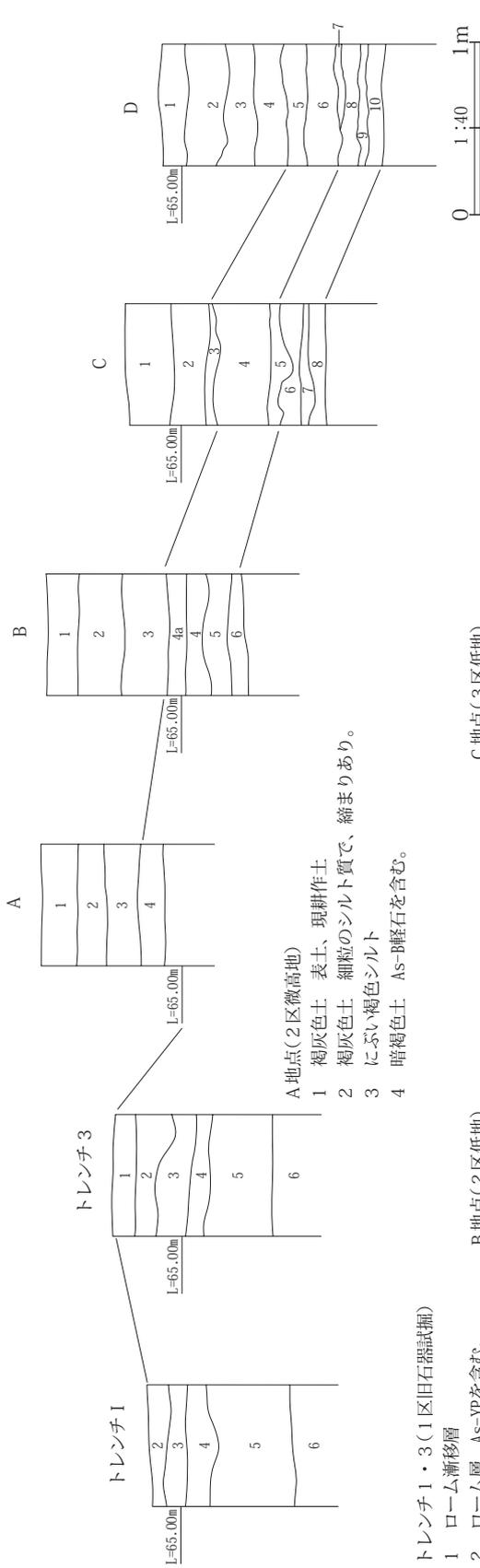
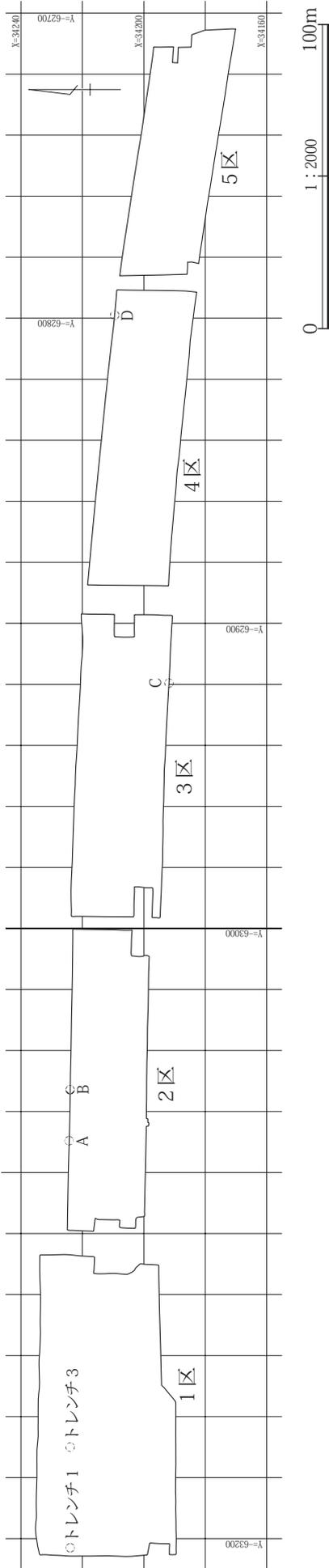
Ⅰ層は現在の耕作土で、当遺跡では下層をかなり削平している。4区では表土下に圃場整備に伴う盛土が認められた。

Ⅱ層は天明三(1783)年の浅間山噴火に伴って降下した浅間A軽石を含むシルト質の土壌で、Ⅲ層を基にした江戸時代以来の耕作土であろう。

Ⅲ層は、Ⅱ層に較べて色調が淡く、よりシルト質で、浅間A軽石の量は少ない。天明三年以後の洪水による氾濫堆積物を基にした土壌で、調査1面で確認された復旧溝群の多くはこのⅢ層に近似したシルトや砂層を埋め込んでいる。天明三年以後の洪水による氾濫堆積物を基にした土壌と見られるが、この洪水がどの時期に該当するのかははっきりしない。当地域では天明六(1786)年の洪水災害が「午の満水」として語り継がれており、それに該当する可能性が考えられる。

Ⅳ層・Ⅴ層は中世の土壌で、天仁元(1108)年の浅間山噴火に伴って降下した浅間B軽石を含んでおり、Ⅳ層に較べてⅤ層は色調が暗く、軽石をより多量に含んでいる。B混土と通称される土壌で、中世の遺構は概ねこの土壌で埋まっている。

Ⅵ層は平安時代末に降下した浅間B軽石の純層で、低地部の水田面を直接覆ったものがかるうじて残存してい



- トレンチ1・3(1区旧石器試掘)
- 1 ローム層 AS-YPを含む。
 - 2 ローム層 AS-BPユニット
 - 3 AS-BPユニット
 - 4 青灰色シルト層
 - 5 灰白色シルト層
 - 6 赤褐色砂礫層 前橋泥流の上面
- トレンチ1
- 1 褐灰色土 表土、現耕作土。
 - 2 褐灰色土 シルト質で縮まりあり。
 - 3 にぶい褐色土 シルト質。
 - 4 a 暗褐色土 AS-B軽石を含む。
 - 4 黒褐色土 AS-B軽石を少量含む。
 - 5 黒褐色土 AS-B軽石とロームブロックを含む。
 - 6 黒褐色粘質土 AS-B軽石とローム粒を少量含む。
- トレンチ3
- 1 褐灰色土 表土、現耕作土。
 - 2 にぶい褐色土 江戸時代の耕作土か。
 - 3 明褐色土 AS-A軽石を多く含む。
 - 4 にぶい褐色土 AS-B軽石を含む。
 - 5 灰褐色土 AS-B軽石を多量に含む。
 - 6 褐灰色土 AS-B軽石埋没水田の耕土。
 - 7 暗褐色土 Hr-FAブロックを含む。
 - 8 黒褐色粘質土
- A地点(2区微高地)
- 1 褐灰色土 表土、現耕作土。
 - 2 褐灰色土 細粒のシルト質で、縮まりあり。
 - 3 にぶい褐色シルト
 - 4 暗褐色土 AS-B軽石を含む。
- B地点(2区低地)
- 1 褐灰色土 表土、現耕作土。
 - 2 褐灰色土 シルト質で縮まりあり。
 - 3 にぶい褐色土 シルト質。
 - 4 a 暗褐色土 AS-B軽石を含む。
 - 4 黒褐色土 AS-B軽石を少量含む。
 - 5 黒褐色土 AS-B軽石とロームブロックを含む。
 - 6 黒褐色粘質土 AS-B軽石とローム粒を少量含む。
- C地点(3区低地)
- 1 褐灰色土 表土、現耕作土。
 - 2 にぶい褐色土 江戸時代の耕作土か。
 - 3 明褐色土 AS-A軽石を多く含む。
 - 4 にぶい褐色土 AS-B軽石を含む。
 - 5 灰褐色土 AS-B軽石を多量に含む。
 - 6 褐灰色土 AS-B軽石埋没水田の耕土。
 - 7 暗褐色土 Hr-FAブロックを含む。
 - 8 黒褐色粘質土
- D地点(4区低地)
- 1 褐灰色土 表土、現耕作土。
 - 2 盛土 圃場整備時の盛土。
 - 3 褐灰色土 やや砂質でAS-A軽石を多く含む。
 - 4 灰褐色土 AS-A軽石を含む。
 - 5 灰褐色土 AS-B軽石を少量含む。
 - 6 褐灰色土 AS-B軽石を多量に含む。
 - 7 AS-B軽石層
 - 8 黒褐色粘質土 AS-B軽石埋没水田の耕土。
 - 9 黒褐色土 Hr-FAブロックを含む。
 - 10 黒褐色粘質土 AS-C軽石を含む。

標準土層
模式図

第4図 各調査区の基本土層観察地点と1～4区基本土層断面図

第1章 発掘調査に至る経緯と経過

る。微高地ではほとんど残っていないが、1区古墳周堀内に僅かに堆積が認められた。

Ⅶ層はⅥ層で覆われた低地の水田耕土である。

Ⅷ層は奈良・平安時代の土壌で、微高地にも堆積していたはずだが、微高地上では中世に大半が浅間B軽石と混土されて残っておらず、住居をはじめとする遺構内に認められるのみである。

Ⅸ層は古墳時代の土壌で、4世紀初頭に発生した浅間山の噴火に伴って降下した浅間C軽石を含む。微高地上ではほとんど残っていないが、古墳周堀や井戸・土坑、溝等を埋めている。

X層は弥生時代以前の土壌に該当する。この土層も低地以外では希薄であり、該当する時期の遺構は確認されていない。

第7節 整理作業の経過

整理事業は、平成25年2月1日から平成25年3月31日までの2箇月間、及び平成27年6月から平成28年2月までの9箇月間、合計11箇月間で実施した。

発掘調査によって出土した土器や石器などの遺物につ

いては、発掘調査終了後に外部委託によって遺物洗浄と遺物注記作業を行った。

土器、石製品、金属製品などの遺物については、接合、復元、保存処理などを施した後、報告書に掲載する遺物の選別を行い、遺物実測、トレース図作成、拓影などを作成し、遺物写真撮影及び遺物観察表の作成を行った。

遺構図については、報告書掲載のための編集作業を行ったのち、デジタル編集データをもとにレイアウトを作成した。発掘調査で撮影した遺構写真は報告書に掲載するものを選別し、遺物写真とともにレイアウトを作成し、デジタル図版を作成した。遺物についても報告用に選別したものを実測し、トレース図を作成して拓影とともにデジタルトレースによって遺物図版を作成した。

上記の作業と並行して原稿を執筆し、印刷のための校正作業を行い、発掘調査報告書として刊行した。

なお、整理作業を進めるなかで、発掘調査時に付けた名称及び番号を変更した遺構がある。対照表を第2表に明記したので参照されたい。なお、外部委託業者から納品された地上測量図面と遺物に注記された遺構名及び番号の書き換えは行っていない。

第1表 遺構名・遺構番号変更一覧表

遺 構 名	変更後遺構名・遺構番号()は旧遺構名・遺構番号	時 期
4区4号住居	貯蔵穴1(貯蔵穴)、貯蔵穴2(44号土坑)、柱穴2(柱穴5)、柱穴5(柱穴1)、柱穴6(柱穴4)、柱穴7(柱穴2)、柱穴11(45号土坑)	古墳時代前期
4区6号住居	柱穴1(23号ピット)、柱穴2(22号ピット)、柱穴3(20号ピット)、柱穴4(21号ピット)、貯蔵穴(21号土坑)	古墳時代前期
5区1号井戸	5区1号井戸(8号土坑)	古墳時代前期
5区2号井戸	5区2号井戸(13号土坑)	古墳時代前期
4区1号住居	貯蔵穴1(13号土坑)、貯蔵穴2(12号土坑)	平安時代
4区2号掘立柱建物	P1(49号土坑)、P2(35号土坑)、P3(42号土坑)、P4(43号土坑)、P5(47号土坑)	平安時代
4区3号掘立柱建物	P1(34号土坑)、P2(60号土坑)、P3(38号土坑)	平安時代
2区1号掘立柱建物	P1(47号土坑)、P2(18号土坑)、P3(19号土坑)、P4(9号土坑)、P5(7号土坑)、P6(35号土坑)、P7(36号土坑)、P8(14号土坑)、P9(38号土坑)、P10(15号土坑)	平安時代
2区2号掘立柱建物	P1(32号土坑)、P2(45号土坑)、P3(27号土坑)、P4(28号土坑)、P5(48号土坑)、P6(49号土坑)、P7(13号土坑)、P8(3号土坑)、P9(44号土坑)、P10(33号土坑)	平安時代
2区3号掘立柱建物	P1(10号土坑)、P2(11号土坑)、P3(12号土坑)	平安時代
4区1号掘立柱建物	4区1号掘立柱建物(4区1・2号掘立柱建物)	中 世
4区1号掘立柱建物	P1(50号土坑)、P2(2掘P5)、P3(2掘P4)、P4(2掘P3)、P5(1掘P6)、P6(1掘P5)、P7(1掘P4)、P8(1掘P3)、P9(1掘P2)、P10(1掘P1)、P11(1掘P9)、P12(48号土坑)、P13(48号土坑)、P14(52号土坑)、P15(51号土坑)、P16(2掘P7)、P17(2掘P6)、P18(2掘P8)、P19(2掘P9)、P20(2掘P1)、P21(2掘P2)、P22(1掘P8)、P23(1掘P7)、P24(25号ピット)、P25(53号土坑)、P26(24号ピット)、P27(26号ピット)、P28(32号ピット)、P29(33号ピット)	中 世
5区1号復旧溝群	5区1・2・3号畠	近 世
5区2号復旧溝群	5区4・5・6・7号畠	近 世

*なお、各区で確認された「復旧坑」は「復旧溝群」と呼び変えた。

第2章 地理的及び歴史的環境

第1節 遺跡の位置と周辺の地形

南玉二丁町遺跡は佐波郡玉村町大字南玉に位置する。ここは前橋台地の南東部で、南流する利根川が東に流れを変えるところにあたる。遺跡は利根川の右岸にあり、標高は65m前後である。周囲には住宅地と耕作地がモザイク状に入り組み、北に赤城山、北西に榛名山、西に妙義山を望む低平地となっている。

南玉二丁町遺跡をのせる前橋台地は、今から約2万年前に浅間山東麓で水蒸気爆発があり、そのとき大規模な山体崩壊によって発生した応桑泥流が吾妻川を下って前橋市域に至り、泥流堆積物を厚く積もらせたことで形成されたと考えられている。この前橋泥流堆積物は「大小の安山岩質角礫と細粒基質からなり、かなり固結している。ときに径数メートル以上の巨大岩塊をふくみ、またところにより河成の礫層をはさんでいる」(新井1967)地層であり、ボーリングデータによれば玉村町域ではおおむね20~17mの層厚を示すという(澤口1995)。なお、この泥流堆積物の上には板鼻黄色軽石層(As-YP)を挟む上部ローム層を載せている。このローム層上面は、南東方向へ樹枝状に延びる小支谷によって侵食されており、そのうちの多くは古墳時代以前に埋没していることが北関東自動車道関連の発掘調査等で判明している。

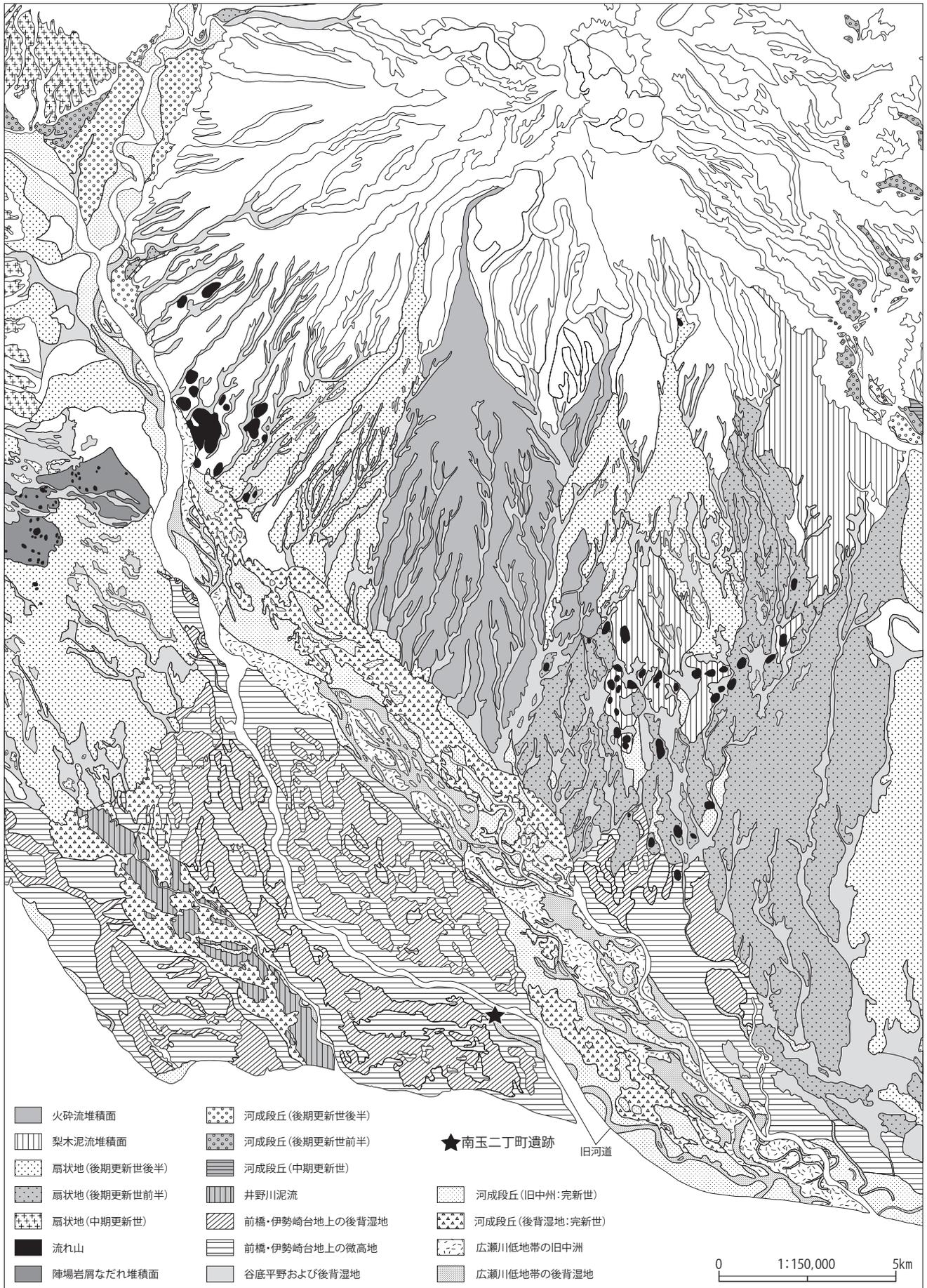
前橋台地の南部にあたる玉村町の景観は、ほとんど起伏のない平坦な地形に見える。明治18年測量の迅速図によれば、前橋台地南部は北西から南東にかけて緩い傾斜面を形成しており、標高は町北西部の板井では75mほど、南東端にある沼之上では55mほどとなっている。南端を画する烏川の南岸には藤岡一比丘陵が迫っていて、巨視的には前橋台地のなかで最も低い窪地状の地形となっている。このことから、関東平野の地質構造として知られる「関東構造盆地」の西端との見方(澤口1995)がなされている。

現在、玉村町域を横断する流路をとる利根川は、この前橋台地を貫流する大河川でもある。かつては、前橋台地の北東辺にあたる赤城山南麓との境、すなわち現在の

広瀬川が流れる低地帯を流下していたと考えられており、その頃の玉村町附近は数条の小河川が流下する台地であったらしい。利根川が現在の流路に変流した時期と要因については、15世紀代に築かれたとされる「石倉城」が、その後の洪水で流路を替えて押し寄せた利根川の流水によって流されてしまい、かろうじて東岸に三の廓だけが残ったという伝承(『上毛伝説雑記』)に基づき、1539(天文8)年と1543(天文12)年の洪水と結びつけた説が知られる(澤口2000)。近世以降の利根川はおおむね現流路を流れていたようであるが、絵図や現在も地形上に残された河道から、玉村町南東端の対岸にあたる伊勢崎市側に蛇行・分岐した流路をとっていた事が知られる。ちなみにこれは七分川・三分川と呼称されていた。

玉村町域での現利根川は、約200~150mの幅を有し、河床から10~3mの崖を形成している。台地地形は北西から南東方向へ緩く傾斜しているため、崖高は南東ほど低い。南玉二丁町遺跡付近では6~7mの高さを測る。

前述したように、前橋台地上には中小河川が北西から南東方向に幾筋か流れていたと考えられ、埋没して現在は確認できない状態と見てよい。これらの埋没河川は、南玉二丁町遺跡から北方ないし北西方約4km前後のあたりを東西に横断する北関東自動車道路の発掘調査で存在が確認されている。これらはいずれも上部ローム堆積による台地地形形成後に流下が始まった榛名山麓起源の河川と考えられ、これによる小規模な侵食谷が樹枝状に展開していたと推測される。その多くは、縄文時代から浅間Cテフラの堆積する3世紀後半~4世紀初頭までの間には堆積作用が進んで埋没したようだ。前橋市徳丸仲田遺跡(111)の旧藤川流路や同市西善尺司遺跡(112)で検出された河川跡では、河道に古墳時代前期から中期の土器や木製品類が廃棄され、一部には杭の出土もみられることから、水路等にも利用可能な小河川として残っていたものも存在したのだろう。ただしこれらも、6世紀初頭の榛名山噴火によるテフラ(Hr-FA)に覆われた水田が確認出来ることから、5世紀のうちにはほとんどが埋没してしまったと考えてよいだろう。そのなかで、いくつかの水流を集めて現代まで遺存し続けたと考えられるのが、



第5図 遺跡周辺の地形分類図(「群馬県史」通史編1 付図2から作成)

前橋南部から玉村町域を流れる端気川や藤川である。この両河川は人工的に流路改変されて現況に至っているが、かつては蛇行しながら北西から南東への流路をとる古墳時代以前から続く河川であると考えられよう。なお、現利根川以南にある玉村町域でも、埋没した矢川が知られており、当遺跡の東側にある南玉埋堀遺跡の調査でその埋没河道が確認されている。

第2節 歴史的環境

ここでは玉村町域を中心に、前橋市南部や伊勢崎市も参照しながら、時代毎の遺跡分布について概述したい。

南玉二丁町遺跡がある前橋台地の南部は、北部以上に起伏に乏しい低平地で、利根川が変流する中世以前は河川も乏しい地域だった。周辺に丘陵もなく、単純な植生だったと考えられ、稲作以前の自然を頼りに生活を営んだ時代には、この地域は利用価値の少ない場所だった。そのため、当遺跡の周辺では未だ旧石器時代の遺跡は確認されていない。縄文時代の遺跡は、草創期から後期までの遺跡が各所で確認されているが、少量の遺物のみが確認されている遺跡がほとんどで、住居が数軒あっても継続性がなく、大規模集落は認められない。

群馬県で稲作農耕が本格化する弥生時代の遺跡も少なく、住居が数軒確認できる遺跡がほとんどで、やはり継続性に乏しい。それは、稲作農耕に必要な河川がなかったためであろう。

古墳時代になるとこの地域は一変する。特に古墳時代前期の集落は40箇所を越え、古墳や土器出土のみの遺跡も加えれば70箇所に及んでいる。弥生時代になっても集落の少なかった地域にこれほどの変化をもたらしたのは何か。その答えは、当遺跡から北北西約7kmにある前橋天神山古墳と前橋八幡山古墳が握っている。いずれも古墳時代前期では東日本最大級の巨大古墳であり、前橋八幡山古墳は全長130mに及ぶ大型前方後方墳、前橋天神山古墳は全長129mの前方後円墳で、銅鏡5面を含む豊富な副葬品を保有していた。おそらくは河川の少ないこの地域に水を供給することで一気に全域を耕作地に変えることに成功したのであろう。

当遺跡の周辺にも南東約1.3kmの箱石浅間山古墳(12)、南南東約2kmの川井稲荷山古墳、南西約1.5kmの軍配山

古墳(119)などの前期古墳が分布しており、前橋台地の開発に携わった人々と考えられる。こうして開発された水路と耕地は古墳時代を通じて管理され、地域の礎となったことは、当遺跡周辺の数多くの古墳分布状況がよく示している。

奈良・平安時代の当地域は「那波郡」に属し、玉村町域はそのうちの佐味郷・鞆田郷に概ね含まれていたと推定されている(尾崎1976)。当地域では集落が7世紀後半あたりから顕在化してきて、平安時代の9世紀代には分布密度がかなり高くなり、その範囲もほぼ全域に広がっている。また、1108(天仁元)年に発生した浅間山噴火に伴う浅間Bテフラ(As-B)に覆われた水田跡も数多くの遺跡で確認されており、その水田区画の検討から条里地割の存在も判明している。

ところで、当遺跡の東方約1.2kmにある下之宮には、延喜式内社である火雷神社(115)が鎮座する。縁起によれば御諸別王の創建で、796(延暦15)年に宮社に列せられたと『日本後紀』に書かれている。また、利根川対岸の上之宮には倭文神社(116)が鎮座する。この両社は上野国12座に含まれており、地名の「上之宮」「下之宮」と呼応して南北に並んだ位置関係にあることも注目される。

中世では、12世紀中頃(長寛年中)に伊勢神宮内宮の「玉村御厨」がこの地におかれ、125町(ha)の神田・名田から「布30端」が上納されたとの記録(『神宮雜記』)が残されている。この時の在地開発領主は玉村氏であったと想定されている。鎌倉幕府の政権下では、上野国奉行人の安達氏に被官していた玉村氏によって支配されていたが、弘安8(1285)年の霜月騒動により、北条得宗家へ支配が移った。これにより、北玉村は円覚寺、その他は極楽寺に寄進されたと推定されている(唐沢定市1988)。室町時代には当初、関東管領上杉氏の守護下で中原姓那波氏が玉村を支配していたが、戦国期には上杉、武田、後北条氏らの動向に大きく影響を受け、河川交通や戦略的な要衝として度重なる戦乱の舞台ともなったため、広い範囲にわたって荒廃したと推測される。

発掘調査でもこの地域では数多くの環濠屋敷が確認されている。初源が13世紀代まで遡及する可能性のある城郭・屋敷としては、玉村太郎邸宅の伝承の残る観照寺屋敷(上之手)(58)、玉村城(6)、南玉館(5)、阿左美館(71)などが知られており、他に宇貫(宇貫館)、田口下屋敷(101)、

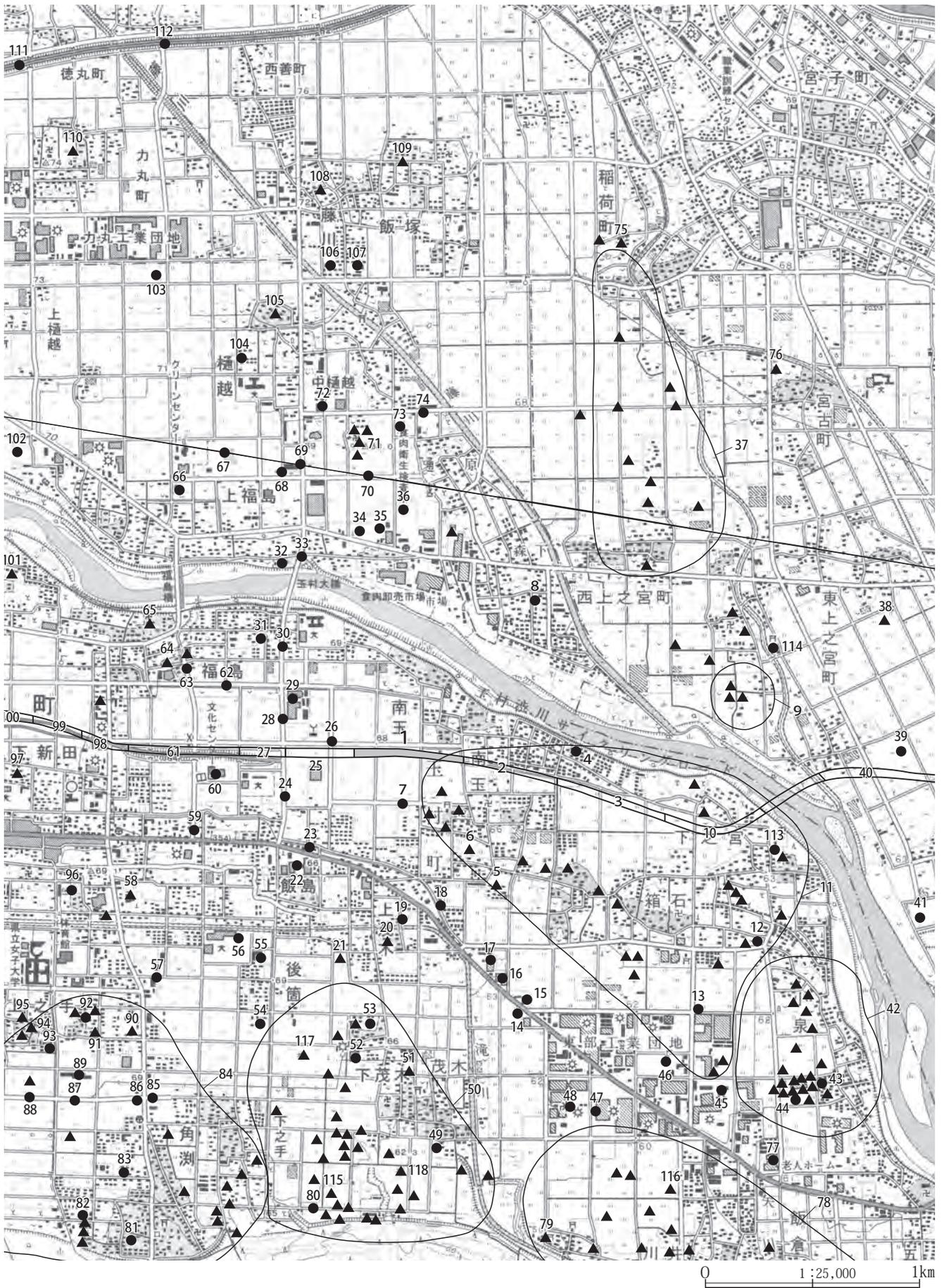
角瀧城(81)、などがある。また、福島久保田遺跡(28)では1427(応永34)年と想定される洪水層で覆われた水田跡が検出されており、上之手立野遺跡(92)や福島飯玉遺跡(98)でも中世段階の洪水層で埋没した水田・畠が発見されている。

近世に入ると、この地は徳川幕府代官の伊奈忠次の管掌のもとで再開発が実施された(『玉村町誌』)。伊奈氏は慶長15(1610)年に滝川用水を完成。このとき、原野開拓の功を祈るため、角瀧八幡宮を玉村八幡宮に移したと伝える。玉村八幡宮「三間社流造」の本殿は国の重要文化財に指定されている。滝川用水開削と新田開発により、「新田村」が誕生し、玉村八幡宮を境に上新田と下新田にわかれることとなった。正保4(1647)年以降には、玉村町を東西に横断する日光例幣使街道の通行が盛んとなって宿場として繁盛し、利根川渡河点の五料には厳しい取り締まりの関所、渡船場が置かれた。現在の玉村町の景観はほぼこの時期に形成されたと考えられる。

近世の埋没遺跡としては、中世から引き続き環濠屋敷、1783(天明3)年浅間山噴火に伴う泥流被害の埋没家屋・田畠がある。玉村八幡宮の東に隣接する玉村館(97)は伊奈忠次の陣屋が置かれたとされる。現利根川左岸にある上福島中町遺跡(32)は、天明泥流によって埋没した建物が発見された。ここからは礎石建物10棟、便所6棟、井戸2基、畠、道などの存在が判明し、当時のままの各種生活用具が出土している。また樋越諏訪前遺跡(8)では、埋没家屋や植え込みなどが、利根添遺跡(4)では矢川氾濫を防ぐための堤防遺構が確認されている。この天明泥流で埋没した田畠としては、小泉大塚越(44)、小泉長塚(43)、川井箱石(13)、柄田添遺跡(102)等が知られており、柄田添遺跡(102)では農作業(草取りか)の足跡列、利根川対岸の伊勢崎市東上之宮遺跡(40)では水田の倒れたイネも発見されている。この天明泥流被災後の復旧田畠の検出も多く、福島飯塚(61)、福島大島(27)等の各遺跡では、砂礫の多く混じる泥流堆積物の天地返しによる耕土復旧を行った様子がありありとかがえる。

参考文献

新井 仁 2001「群馬県における平安時代の水田開発について」研究紀要19 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
 新井房夫 1962『群馬大紀要自然科学編』10 p.1-79.
 井上唯雄 1992「第4章 律令時代の玉村町 第5節 古代信仰と神社」『玉村町誌』通史編 上巻
 尾崎喜左雄 1967『上野玉村古墳群発掘調査概報』
 尾崎喜左雄 1976『群馬の地名』
 唐澤定市 1988「玉村御厨」『国史大事典』9 吉川弘文館
 澤口 宏 1995「第三章 地形・地質 第二節 台地」『玉村町誌 通史編 下巻二』p.1516
 石井榮一 2009「B区4面より検出された建物遺構の建築史的検討」『福島大島遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 玉村町誌編集委員会1992『玉村町誌 通史編 上巻』
 中里正憲 2000「砂礫遺跡における大畦畔の調査例」群馬考古学手帳10
 中島直樹・吉澤 学2004「群馬県玉村町における条里地割の復原」『東国史論』19
 土生田純之 2008「古墳時代の実像」『古墳時代の実像』
 深澤敦仁 2013「玉村周辺の古墳時代のはじまりを考える」『玉村町の前期古墳』平成25年度玉村町歴史資料館 第18回企画展資料
 右島和夫 2009「玉村の古墳群を考える」群大考古資料里帰り展資料 玉村町歴史資料館
 玉村町教育委員会 1992『玉村町の遺跡』
 玉村町教育委員会 1993『小泉大塚越遺跡』
 玉村町教育委員会 玉村町遺跡調査会1999『沖遺跡』
 玉村町教育委員会 玉村町遺跡調査会2001『角瀧城遺跡』
 玉村町教育委員会 玉村町遺跡調査会2003『一万田遺跡』
 玉村町歴史資料館 2001「玉村町の古墳時代」企画展資料
 玉村町歴史資料館 2002「玉村町の中世屋敷」企画展資料
 玉村町歴史資料館 2006「天明三年浅間山焼押と玉村町」企画展資料
 玉村町歴史資料館 2008「玉村町の地区の歴史Ⅰ 玉村地区編」企画展資料
 玉村町歴史資料館 2009「玉村町の地区の歴史Ⅱ 上陽地区編」企画展資料
 玉村町歴史資料館 2010「玉村町の地区の歴史Ⅲ 芝根地区編」企画展資料
 玉村町歴史資料館 2011「国境河川地域、玉村町の戦国時代」企画展資料
 玉村町歴史資料館 2013「玉村町の前期古墳」企画展資料
 群馬県教委1988『群馬県の中世城館跡』



第6図 周辺の遺跡分布図

(国土地理院発行2万5千分の1地形図「高崎」平成22年12月1日発行、「前橋」平成22年12月1日発行、
「大胡」平成22年12月1日発行、「伊勢崎」平成15年2月1日発行使用)

第2表 南玉二丁町遺跡 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中・近	近代	概要	参考文献
1	南玉二丁町遺跡		○		○	○	○		本遺跡。	8・9
2	南玉埋堀遺跡		○	○	○	○	○		古墳時代～平安時代の集落、中世の水田・畠・復旧溝群、矢川の埋没河道を調査。	9
3	下之宮中沖遺跡				○	○	○		平安時代の水田、中世の溝、土坑、近世の水田、畠、復旧溝などを調査。	8・9・30
4	利根添遺跡						○		近世のAs-A下畠、土手などを調査。	32・43
5	南玉館(原武屋敷)						○		中世居館。2重の堀をもつ館跡。	1・6・32・34
6	玉村城(南玉村屋敷)						○		中世城館。	1・6・32・34
7	福島・南玉遺跡				○	○	○		古墳時代の土坑、溝、平安時代の住居、水田、中・近世の土坑、溝、近世の復旧溝などを調査。	73
8	樋越諏訪前遺跡						○		近世のAs-A下家屋、植え込み、土手、溝、畠などを調査。	66
9	若宮古墳群				○				トンドン山古墳(宮郷村第15号)をはじめとする古墳群。	1・2
10	下之宮高低遺跡				○	○	○		古墳時代の住居、中世の館址、近世の屋敷、礎石建物、復旧溝などを調査。	8・9・30
11	箱石古墳群				○				箱石浅間山古墳、少林山古墳、社宮島古墳をはじめとする古墳群。	78
12	箱石浅間山古墳				○				古墳時代前期構造の一边30m余りの不等辺八角形の多角形墳を調査。	28
13	川井箱石遺跡		○		○	○	○		縄文時代の打製石斧が出土。古墳時代の溝、古墳3基、平安時代の住居、As-B下水田、中・近世の溝、土坑、集石、As-A下水田、畠、復旧溝などを調査。	7
14	向田遺跡		○	○	○	○	○		旧石器時代終末期から縄文時代草創期ころの柳葉形尖頭器が出土。古墳時代の住居、水田、中世の掘立柱建物、敷石地業建物、近世の復旧痕などを調査。	80
15	三境遺跡						○		平安時代のAs-B直下水田などを調査。	39
16	三境Ⅱ遺跡						○		平安時代のAs-B直下水田、中世の溝などを調査。	39
17	十王堂遺跡						○		平安時代のAs-B下水田などを調査。	32・51
18	十王堂Ⅲ遺跡						○		奈良・平安時代の住居、溝などを調査。	32・69
19	大明神遺跡						○		平安時代のAs-B下水田などを調査。	57
20	茂木館本館(田口屋敷)						○		中世館跡。2重の堀をもつ方形館跡。	6・32・34
21	後箇屋敷						○		中世屋敷跡。2重の堀をもつ屋敷跡。	6・32・34
22	上飯島芝根Ⅱ遺跡			○		○			弥生時代の住居、平安時代の住居、水田などを調査。	56
23	北小路遺跡						○		平安時代のAs-B下水田などを調査。	57
24	福島大光坊遺跡		○		○	○	○		縄文時代の土坑、古墳時代の住居、水田、畠、平安時代の住居、水田、中世の掘立柱建物、水田、畠、近世の災害復旧溝などを調査。	18
25	福島味噌袋遺跡				○	○	○		古墳、平安時代の住居、中世の溝、近世の復旧溝群などを調査。	8
26	味噌袋・福島二丁町遺跡						○		平安時代の住居、土坑、溝、水田、近世の復旧溝などを調査。	73
27	福島大島遺跡				○	○	○		縄文土器が出土。古墳時代の住居、古代の水田、中世の館、掘立柱建物、近世の畠、復旧溝などを調査。	26
28	福島久保田遺跡				○	○	○		古墳時代、平安時代の住居、中世の掘立柱建物、古墳時代～中世の水田、近世の災害復旧溝などを調査。	18
29	久保田遺跡		○		○	○	○		縄文土器が出土。古墳時代の掘立柱建物、平安時代の土坑、溝、井戸、中世の竪穴状遺構、土坑、溝、近世の耕地復旧溝などを調査。	62
30	福島曲戸遺跡				○	○	○		古墳時代の住居、掘立柱建物、奈良・平安時代の住居、掘立柱建物、水田、中・近世の水田、災害復旧溝などを調査。	16
31	福島治部前遺跡						○		奈良・平安時代の住居、中世の土坑、溝、近世の復旧溝などを調査。	58
32	上福島中町遺跡				○	○	○		古墳時代の土坑、溝、平安時代の住居、As-B下畠、中世の掘立柱建物、火葬墓、近世の建物、井戸、道、畠などを調査。	19
33	上福島遺跡				○	○	○		古墳時代の溝、平安時代のAs-B下水田、近世のAs-A下畠などを調査。	16
34	一万田遺跡			○		○			弥生時代の土坑墓、奈良・平安時代の住居、掘立柱建物、柵列、土坑、溝などを調査。	32・59
35	神人村遺跡						○		平安時代の土坑、溝などを調査。	32・68
36	神人村Ⅱ遺跡						○		奈良・平安時代の竪穴住居、掘立柱建物、水田などを調査。	32・33
37	稲荷山古墳群				○				稲荷山古墳・金毘羅山古墳をはじめとする古墳群。	1・2
38	上ノ宮要害						○		中世要害、那波城の碑。	6
39	東上之宮遺跡(伊勢崎市教育委員会)						○		奈良・平安時代の住居、竪穴状遺構、中・近世の土坑、溝、近世後半の水田、河道跡、復旧溝、復旧土坑などを調査。	4
40	東上之宮遺跡(群埋文)				○	○	○		古墳時代前期から平安時代の住居、中・近世の水田、畠、近世の復旧溝などを調査。	8・11
41	宮柴前遺跡						○		近世のAs-A下水田、畠、水路などを調査。	2・3
42	小泉古墳群				○				小泉大塚越古墳、二本櫓古墳をはじめとする古墳群。	78
43	小泉長塚遺跡				○		○		6世紀後半代築造の古墳から単鳳環頭大刀、馬具などの副葬品が出土。中・近世の溝、土坑などを調査。	32・70
44	小泉大塚越遺跡				○	○	○		6世紀後半の前方後円墳1基、円墳3基、平安時代のAs-B直下水田、近世As-A直下の畠などを調査。	32・34・36・74
45	沖遺跡						○		近世のAs-A下畠、溝、旧河川などを調査。	45
46	北田中遺跡						○		近世のAs-A下畠を調査。	53
47	街道南遺跡				○	○	○		古墳時代前期の円形周溝墓、平安時代の溝、近世の井戸、土坑などを調査。	65

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中・近	近代	概要	参考文献
48	北原遺跡				○	○	○		古墳時代前期の方形周溝墓、円形周溝状遺構、奈良・平安時代の掘立柱建物、中世の土坑、井戸、溝などを調査。	37
49	オトカ塚遺跡				○		○		古墳時代の住居、方形周溝墓、前方後円墳、近世の井戸などを調査。	5・32・60
50	茂木古墳群				○				浄土山古墳、オトカ塚古墳、軍配山古墳、梨ノ木山古墳などの前方後円墳をはじめとする古墳群。	78
51	下茂木屋敷						○		中世城館跡。	6・32
52	神明遺跡					○	○		平安時代の水田、中世以降の溝などを調査。	32・69
53	滝川南遺跡				○	○	○		古墳時代の住居、平安時代の住居、As-B下水田、中世以降の土坑、溝、用水路(旧河川)などを調査。	32・48
54	五郎作巡遺跡					○		○	平安時代の住居、掘立柱建物、近代の水路などを調査。	41
55	水口遺跡					○		○	平安時代のAs-B直下水田、大畦、近代の溝などを調査。	85
56	角瀨丹土遺跡				○	○			古墳時代の住居、奈良・平安時代の住居などを調査。	86
57	曲田遺跡					○			平安時代の掘立柱建物、井戸、溝、As-B下水田などを調査。	32・46・47
58	観照寺屋敷						○		中世城館跡。	6・32・34
59	八街北圃・八街北区遺跡			○	○	○	○	○	弥生時代から古墳時代の土坑、平安時代の水田、中・近世の溝、近世から近代の溝、土坑などを調査。溝から「玉村宿」と墨書きされた陶磁器などが出土。	79
60	福島稲荷木遺跡				○	○	○		古墳時代の住居、方形周溝墓、Hr-FP下水田、奈良・平安時代の住居、As-B下水田、溝、中世以降の水田、土坑、溝、近世以降の屋敷などを調査。	32・77・83
61	福島飯塚遺跡		○	○	○	○	○		縄文土器、弥生土器が出土。古墳時代の水田、方形周溝墓、溝、古代の住居、掘立柱建物、水田、中世の館、掘立柱建物、水田、溝、近世の復旧溝、水田、畠などを調査。	23・24
62	屋敷遺跡					○	○		平安時代の住居、掘立柱建物、中・近世の溝などを調査。	44
63	屋敷Ⅱ遺跡				○	○	○		古墳時代のHr-FA下水田、中・近世の竪穴遺構、掘立柱建物、近世土壘などを調査。	75
64	上福島の砦						○		中世砦、那波氏一族の砦。	1・6・32・34
65	宇津木館						○		中世館跡。	1・32
66	金免遺跡					○			平安時代のAs-B下水田などを調査。	31・32
67	砂町遺跡				○	○	○		古墳時代前期の大規模な溝、東山道「牛堀・矢ノ原ルート」、水田、中・近世の水田、溝などを調査。	72
68	尾柄町Ⅲ遺跡					○	○		平安時代の水田、中・近世の溝などを調査。	72
69	上福島尾柄町遺跡					○	○		推定東山道駅路「牛堀・矢ノ原ルート」、平安時代のAs-B下水田、近世の溝などを調査。	14
70	中之坊遺跡				○	○	○		古墳時代の溝、奈良・平安時代の水田、溝、推定東山道駅路「牛堀・矢ノ原ルート」、中近世の溝、土坑などを調査。	72
71	阿左美館(花台寺)						○		中世館跡。	1・6・32・34
72	松原Ⅲ遺跡				○				古墳時代の住居、竪穴状遺構、中期の石製紡錘車及び石製模造品製作跡などを調査。	32・61・69・86
73	原浦遺跡				○	○	○	○	古墳時代の溝、平安時代の住居、近世以降の溝などを調査。	42
74	原浦Ⅱ遺跡				○	○	○		古墳時代前期の溝、平安時代の住居、中世の溝などを調査。	38
75	今村城						○		中世城跡、那波城の枝城か。	1・2・6
76	雉子屋敷						○		一般環壕遺構。	6
77	往来遺跡						○		近世のAs-A下畠を調査。	74
78	川井古墳群				○				川井稲荷山古墳をはじめとする古墳群。	78
79	川井城(霞城)						○		中世城跡。	1・6・32・34
80	深沢遺跡				○	○	○		古墳時代の住居、3基の古墳、平安時代の水田、近世の土坑、溝などを調査。	84
81	角瀨城遺跡		○		○	○	○		縄文時代の土坑、古墳時代の住居、古墳4基、中世以降の掘立柱建物、角瀨城の内堀などを調査。	6・34・55
82	杉山遺跡						○		中世以降の溝などを調査。	69
83	天神下り遺跡				○				古墳時代の井戸、土坑、溝などを調査。	32・54
84	角瀨古墳群				○				若王子古墳、玉村町第20号古墳をはじめとする古墳群。	78
85	角瀨八反田遺跡				○	○	○	○	古墳時代の土坑、奈良・平安時代の両側に側溝を持つ大畦、As-A以降の溝状遺構、復旧痕などを調査。	67・71・81
86	天神巡りⅢ遺跡				○	○	○		古墳時代の住居、土坑、平安時代の掘立柱建物、As-B下水田、中世以降の土坑、溝、水田などを調査。	32・50・54・67・71・81
87	若王子Ⅱ遺跡					○	○		平安時代水田、中世以降の畠、溝などを調査。	50
88	宮ノ下遺跡						○		中世以降の溝、As-A下畠状遺構などを調査。	50
89	若王子遺跡					○	○		奈良・平安時代の住居、水田、中世の井戸、中・近世の溝、復旧溝群などを調査。	86
90	木暮屋敷						○		中世館跡。	6・32・34
91	秋山屋敷						○		近世館跡。	6・32・34
92	上之手立野遺跡					○	○		奈良・平安時代の住居、溝、中・近世の屋敷跡、土坑などを調査。	32・64
93	粉糠島遺跡			○			○		弥生土器が出土。近世の土坑、溝、井戸などを調査。	63
94	重田屋敷						○		中世館跡。	6・32・34
95	原屋敷遺跡					○	○		奈良・平安時代の土坑、中・近世の屋敷跡などを調査。	1・6・32・34・40・64・79
96	内田屋敷遺跡					○	○		奈良・平安時代の溝、中・近世の屋敷跡などを調査。	6・32・34・64
97	玉村館(御殿)						○		戦国末期の城館か。近世、伊奈半十郎陣屋。	6・32・34

第2章 地理的及び歴史的環境

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平	中・近	近代	概要	参考文献
98	福島飯玉遺跡				○	○	○		古墳時代～平安時代の水田、溝、中世の掘立柱建物、中・近世の水田、畠、近世水田などを調査。	25
99	齊田竹之内遺跡				○	○	○		古墳時代の住居、平安時代の住居、水田、中世の方形館、掘立柱建物、近世の水田、畠、復旧痕などを調査。	29
100	齊田中耕地遺跡		○		○	○	○		古墳時代の水田、溝、旧河道、古代の水田、溝、中世の屋敷、掘立柱建物、竪穴、畠、中・近世の水田、溝、近世の道路、溝、畠、復旧遺構などを調査。	10・27
101	田口下屋敷遺跡					○	○		奈良・平安時代の土坑、中世土豪田口氏の屋敷に伴う堀、溝、井戸、土坑などを調査。	6・32・34・49
102	柄田添遺跡				○	○	○	○	古墳時代前期の土坑、奈良・平安時代の住居、As-B直下水田、近世のAs-A泥流水田、畠などを調査。	32・82
103	横丹遺跡				○	○	○		古墳時代前期以前の河川跡、平安時代のAs-B直下水田、古代の大溝、中・近世の土坑、近世以降の掘立柱建物、土坑、溝などを調査。	76
104	若宮遺跡					○			平安時代のAs-B直下水田などを調査。	85
105	中樋越屋敷						○		中世城館跡。	6
106	藤川前遺跡					○			平安時代のAs-B下水田、土坑などを調査。	32・35
107	前通遺跡					○	○		平安時代のAs-B下水田、中世の小溝群などを調査。	32・52
108	藤川環濠集落						○		中世末期環濠集落。	6・34
109	飯塚環濠集落						○		中世末期環濠集落。	6・34
110	力丸城						○		中世城跡。	6・87
111	徳丸仲田遺跡		○	○	○	○	○		縄文時代草創期の石器製作址、弥生時代中期後半の御新田式土器が出土。古墳～奈良・平安時代の住居、水田、中・近世の環濠屋敷などを調査。	13・17・88・89・90
112	西善尺司遺跡		○	○	○	○	○		縄文時代の石器製作址、古墳時代の集落、方形周溝墓、Hr-FA下水田、溝、平安時代の集落、As-B下水田、畠、中・近世の館跡、掘立柱建物、土坑墓などを調査。	12・88・89
113	火雷神社					○			延喜式内社、上野国八の宮。	34
114	倭文神社					○			延喜式内社、上野国九の宮。	1
115	玉村町第13号古墳				○				円墳。滑石製模造品斧頭などが出土。	5・34・78
116	川井稲荷山古墳(川井松塚)(芝根村第7号古墳)				○				4世紀(1次)・6世紀後半(2次)の2時期にわたり構造。三角縁四神四獣鏡、土師器、土玉などが出土。	5・34・78
117	軍配山古墳(玉村町第1号古墳)				○				4世紀後半築造の径40m、高さ6mの円墳。	5・34・78
118	梨ノ木山古墳(皇院廻り)(芝根村第3号古墳)				○				5世紀後葉築造。滑石製模造品刀子などが出土。	5・34・78

参考文献(数字は文献番号と一致する)

- 1 伊勢崎市1987 『伊勢崎市史 通史編1 原始古代中世』
- 2 伊勢崎市教育委員会2012 『伊勢崎市遺跡分布図』
- 3 伊勢崎市教育委員会2003 『宮柴前遺跡I・II』
- 4 伊勢崎市教育委員会2014 『東上之宮遺跡』
- 5 群馬県1938 『上毛古墳綜覧』
- 6 群馬県教育委員会1988 『群馬の中世城館』
- 7 群馬県教育委員会1999 『川井箱石遺跡』
- 8 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012 年報31
- 9 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013 年報32
- 10 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013 『齊田中耕地遺跡(2)』
- 11 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2015 『東上之宮遺跡』
- 12 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2001 『西善尺司遺跡』
- 13 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2001 『徳丸仲田遺跡(1)(縄文時代草創期編)』
- 14 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002 『上福島尾柄町遺跡』
- 15 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002 『中内村前遺跡(1) — 1～4区—』
- 16 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002 『福島曲戸遺跡・上福島遺跡』
- 17 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2003 『徳丸仲田遺跡(2)』
- 18 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2003 『福島久保田遺跡・福島大光坊遺跡』
- 19 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2003 『上福島中町遺跡』
- 20 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2003 『中内村前遺跡(2) — 5～7区—』
- 21 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2004 『前田遺跡』
- 22 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2005 『中内村前遺跡(3)』
- 23 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2007 『福島飯塚遺跡(1)』
- 24 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2008 『福島飯塚遺跡(2)』
- 25 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2008 『福島飯玉遺跡』
- 26 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2009 『福島大島遺跡』

- 27 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2010 『齊田中耕地遺跡』
- 28 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2010 『箱石浅間山古墳 不動山古墳』
- 29 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2011 『齊田竹之内遺跡』
- 30 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2011 年報30
- 31 玉村町教育委員会1989 『金免遺跡』
- 32 玉村町教育委員会1992 『玉村町の遺跡』
- 33 玉村町教育委員会1992 『神人村Ⅱ遺跡』
- 34 玉村町1992 『玉村町誌 通史編 上巻』
- 35 玉村町教育委員会1993 『藤川前遺跡』
- 36 玉村町教育委員会1993 『小泉大塚越遺跡』
- 37 玉村町教育委員会1995 『北原遺跡』
- 38 玉村町教育委員会1996 『原浦Ⅱ遺跡』
- 39 玉村町教育委員会1997 『三境遺跡・三境Ⅱ遺跡』
- 40 玉村町教育委員会1997 『上之手八王子Ⅱ遺跡、原屋敷Ⅱ遺跡』
- 41 玉村町教育委員会1998 『五郎作巡遺跡』
- 42 玉村町教育委員会1998 『原浦遺跡』
- 43 玉村町教育委員会1998 『利根添遺跡』
- 44 玉村町教育委員会1998 『屋敷遺跡(一次・二次調査)』
- 45 玉村町教育委員会1999 『沖遺跡』
- 46 玉村町教育委員会1999 『曲田遺跡』
- 47 玉村町教育委員会1999 『曲田Ⅱ遺跡』
- 48 玉村町教育委員会1999 『滝川南遺跡』
- 49 玉村町教育委員会2000 『田口下屋敷遺跡』
- 50 玉村町教育委員会2000 『宮ノ下遺跡・若王子Ⅱ遺跡・天神巡りⅢ遺跡』
- 51 玉村町教育委員会2000 『十王堂・十王堂Ⅱ遺跡』
- 52 玉村町教育委員会2000 『前通遺跡』
- 53 玉村町教育委員会2001 『北田中遺跡』
- 54 玉村町教育委員会2001 『天神下り遺跡・天神巡り遺跡・天神巡りⅡ遺跡』
- 55 玉村町教育委員会2001 『角淵城遺跡』
- 56 玉村町教育委員会2002 『上飯島芝根遺跡・上飯島芝根Ⅱ遺跡』
- 57 玉村町教育委員会2002 『天神前遺跡・大明神遺跡・北小路遺跡』
- 58 玉村町教育委員会2002 『福島治部前遺跡』
- 59 玉村町教育委員会2003 『一万田遺跡』
- 60 玉村町教育委員会2003 『オトカ塚遺跡』
- 61 玉村町教育委員会2003 『松原Ⅲ遺跡』
- 62 玉村町教育委員会2004 『久保田遺跡』
- 63 玉村町教育委員会2004 『粉糠島遺跡』
- 64 玉村町教育委員会2004 『内田屋敷遺跡・原屋敷遺跡・上之手立野遺跡』
- 65 玉村町教育委員会2004 『横堀遺跡・街道南遺跡』
- 66 玉村町教育委員会2004 『樋越諏訪前遺跡』
- 67 玉村町教育委員会2005 『角淵八反田Ⅱ遺跡・角淵八反田Ⅲ遺跡・天神巡りⅣ遺跡』
- 68 玉村町教育委員会2005 『神人村遺跡』
- 69 玉村町教育委員会2006 『神明遺跡・行人塚遺跡・十王堂Ⅲ遺跡・中郷遺跡・松原Ⅱ遺跡・杉山遺跡』
- 70 玉村町教育委員会2006 『小泉長塚遺跡』
- 71 玉村町教育委員会2006 『天神巡りⅤ遺跡・角淵八反田Ⅳ遺跡』
- 72 玉村町教育委員会2007 『砂町遺跡(第1～3次調査)・尾柄町Ⅲ遺跡・中之坊遺跡』
- 73 玉村町教育委員会2007 『味噌袋・福島二丁町遺跡、福島・南玉遺跡』
- 74 玉村町教育委員会2008 『小泉大塚越遺跡(第2・3次調査)・往来遺跡(1・2次調査)』
- 75 玉村町教育委員会2009 『屋敷Ⅱ遺跡 屋敷Ⅱ遺跡(第2次調査)』
- 76 玉村町教育委員会2009 『横丹遺跡』
- 77 玉村町教育委員会2009 『福島稻荷木遺跡(第1～3次調査)・福島稻荷木Ⅱ遺跡・福島稻荷木Ⅲ遺跡』
- 78 玉村町教育委員会2009 『川井・茂木古墳群』
- 79 玉村町教育委員会2010 『原屋敷Ⅲ遺跡・八街北圃・八街北区遺跡』
- 80 玉村町教育委員会2010 『向田遺跡』
- 81 玉村町教育委員会2011 『角淵八反田遺跡 角淵八反田遺跡(第2次調査) 天神巡りⅢ遺跡(第2次調査)』
- 82 玉村町教育委員会2011 『柄田添遺跡(第1次～第5次調査)』
- 83 玉村町教育委員会2011 『福島稻荷木Ⅳ遺跡・福島稻荷木Ⅳ遺跡(第2次調査)』
- 84 玉村町教育委員会2013 『深沢遺跡 深沢遺跡(第2次調査)』
- 85 玉村町教育委員会2013 『深町遺跡・深町遺跡(第2次調査)・深町Ⅱ遺跡・蛭堀東遺跡・水口遺跡・若宮遺跡・玉村町No.711遺跡』
- 86 玉村町教育委員会2014 『松原遺跡・若王子遺跡・角淵丹土遺跡』
- 87 前橋市1971 『前橋市史 第一巻』
- 88 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1998 『横手湯田Ⅲ遺跡・徳丸仲田Ⅱ遺跡・西善尺司Ⅱ遺跡・下増田越渡Ⅲ遺跡』
- 89 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1999 『徳丸高堰Ⅱ遺跡・徳丸仲田Ⅲ遺跡・西善尺司Ⅲ遺跡・下増田常木Ⅱ遺跡・下増田越渡Ⅳ遺跡』
- 90 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2001 『横手湯田Ⅴ遺跡・徳丸仲田Ⅳ遺跡』

第3章 近世の遺構と遺物

第1節 発掘調査の概要

1 調査概要

近世の遺構と遺物は、1区から5区の全域でその分布が認められた。確認された近世の遺構は、復旧溝群35箇所、畠8箇所、土坑2基、溝45条、井戸2基である。

南玉二丁町遺跡では、第1面が近世の調査面にあたる。基本土層ではⅡ層とⅢ層が近世の土壌に該当しており、いずれも天明三(1783)年に降下した浅間A軽石を含むシルト質土で、天明三年以後に発生した洪水による氾濫層が主体をなしているものとする。Ⅱ層に比べてⅢ層はよりシルト質であり、Ⅱ層はそれを耕土化した部分であろう。これらは微高地上では20~30cm、低地では40~50cmとかなり厚く堆積している。

当地区は南下する利根川が大きく東に流れを変える湾曲部の南にあり、洪水等による自然災害が度々発生する、いわば災害常連地域である。天明三(1783)年に発生した浅間山噴火に伴う火山灰の降下と泥流の流下は、当地域にも甚大な被害をもたらしたはずだが、南玉二丁町遺跡の調査ではそれらを直接示す遺構は確認されていない。おそらく、度重なる災害の中で人々の生活が間断なく継続されたために、それらは生産活動のなかで消化され、混在化されてしまったのであろう。当遺跡のⅡ層・Ⅲ層の中に含まれる浅間A軽石はそのことを示しており、災害常連地域の底力を感じる。

火山災害以外にも、利根川を主とする洪水災害は天明三(1783)年の以前以後にも数多く記録されており、なかでも元禄十二(1699)年と寛保二(1742)年、天明六(1786)年の災害などがよく知られている。当遺跡の調査面1面で確認された復旧溝群と溝は、大半が天明三(1783)年に降下した軽石を含んでおり、それ以後の洪水災害に伴う遺構と考えられる。例えば、天明六(1786)年の洪水災害に対する復旧作業であった可能性が高い。

なお、調査面第1面で確認された復旧溝群・畠と溝は構造的に一体をなすものが多いため、遺構図は一体で作

成している。そのため、本章は調査区毎に報告することにした。

2 各区の概要

第1面の主体は復旧溝群と溝である。復旧溝群とは、火山災害や洪水によって耕地等を覆ってしまった軽石や砂を、天地返しによって復旧したもので、基本的には溝状の掘り込みを一定範囲に連続して掘削し、軽石や砂を埋め込み、必要な耕土と入れ替えたものである。

こうした作業は、土地の所有関係や事情によって対応が異なり、また作業の方法・手順等による違いや個人差も生じる。本遺跡でも悉皆的な対応はされておらず、区画毎に違いがある。また、1区画の中でも変化が見られるが、それが何に起因するのか、個人差なのかは判然としない。軽石や砂の量によっては、耕土に混ぜる対応もあったかもしれない。

各区とも東西南北の区画を優先しているが、2区東半と4区東半では微高地の名残を留めた変則的な区画となっている。1区微高地には古墳があり、中世のある段階まではそれを取り囲むような区画や微高地の縁辺をめぐる区画があったが、江戸時代には継承されていない。古墳は早い段階で削平されたのであろう。

1区はほぼ中央部を9号溝が南北に横断し、南端部でそれに直行する東西の区画が設けられている。いずれも道を伴う区画であろう。北がわずかに東に振れるのは中世以来の伝統か、それとも地形の傾斜によるものか。9号溝の両側に復旧溝群があるが、西側の一群は上面を削平されたためか、一部の確認に留まる。

2区と4区は、東半部に微高地が位置する共通した地形の場所で、区画や利用の仕方もよく似ている。微高地の北側縁辺に曲線を描いて大きな溝がめぐり、溝に沿った低地側に復旧溝群が分布している。4区では復旧溝群の間から畠が確認されている。

低地が卓越する3区と5区では、溝による東西南北の区画が主体で、溝に沿って復旧溝群が認められる。3区でも南西隅の1号溝と2号溝に囲まれた一画で畠が確認

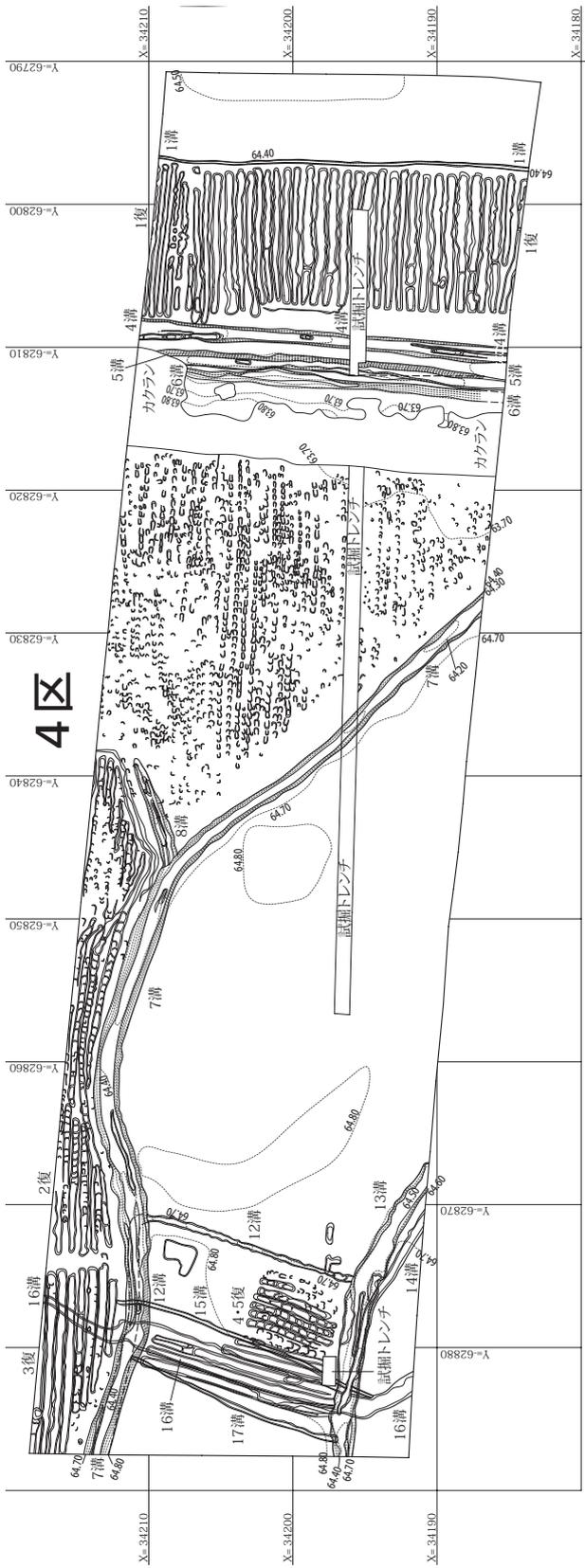
1区



第7図 1区全体図(近世)



第8図 2・3区全体図(近世)



第9図 4・5区全体図(近世)

されている。

なお、第1面の区画のなかに、古代の条里地割りと符合するものがある。1区復旧溝群の東側の南北ライン、2区3～8号復旧溝群の東側の南北ライン、3区1号・2号溝の南北ライン、4区5号・6号溝の南北ライン、5区1号溝の東西ラインがそれに該当する。中世ではこれらのラインが認められない部分もあるが、偶然とは思えない。周辺部も含めて、何処かに基準が踏襲されているのであろう。

第2節 1区の調査

復旧溝群18箇所、溝15条、井戸2基が確認された。西端に位置する調査区で、近世面ではわかりにくい、調査区の西半部が微高地、東半部は低地に該当する。詳細にみると、西半部のうち、南端部は低地になっているが、このことは遺構配置と大きく関連している。

1 復旧溝群(第10～12・15図 PL.1～3)

中央部で復旧溝群18箇所を確認した。溝で方形に区画した中にあり、溝状にほぼ等間隔に連続して掘削しているが、幅や長さ・方向が異なる多様な種類が認められた。重複するものもあり、時期が異なるものを含む。覆土はいずれもAs-A軽石と砂を含むシルトであり、As-A軽石降下後の洪水堆積物を埋め込んだ遺構であろう。溝の幅は広いもので60cm前後、狭いもので30cm前後である。なお、上面の削平が著しく、西側の区画では痕跡のみの確認に留まった。

1号は9号溝の東区画の北東隅にある。東西方向の幅が狭い箱状の溝が間隔を開けて4本並ぶ。西側の2号との境ははっきりしない。溝の長さは12.5m。

2号は1号の西にある。西側の一部を3号に切られる。東西方向のやや幅が広い箱状の溝が密接して13本ほど並ぶ。溝の長さは10m前後。

3号は2号の西にあり、一部2号を切っている。東西方向の幅が狭い溝が密接して8本並ぶ。東西の端部が不揃いで、掘削深度も異なる。溝の長さは11mで、一部3号・6号溝に切られる。

4号は3号の南にあり、3号・4号・6号・7号溝に切られる。東西方向の溝で、幅が広く、途中で折り返し

がある。溝は最大9本で密接しており、長さは折り返しの東が8m、西が2.5mである。

5号は1号の南にある。幅と条間隔は1号に類似し、端部が1号と接している。南北方向の溝が5本認められ、長さは6.5mほどである。

6号は5号の南にあり、幅と条間隔は5号と類似する。南北方向の溝が3本のみで、長さは11mである。

7号は6号の西にある。幅が広い箱状の溝が南北方向に密着して8本並ぶ。南側を8号と重複するが切り合い関係は不明。長さは6m前後。

8号は7号の南にあり、幅と条間隔は7号と類似する。南北方向の溝がやはり8本並んでおり、7号と一連の可能性はある。

9号は4号の南にあり、幅と条間隔は3号に類似する。東西方向の溝が3本並び、長さは8mである。

10号は9号の南にあり、幅と条間隔は9号に類似する。東西方向の溝が10本並び、長さは6m程である。9号と一連の可能性はある。

11号は10号の南にあり、幅と条間隔は1号に類似する。南北方向の溝が8本並んでおり、長さは13m程である。

12号は8号溝南側の区画の東端にある。幅の狭い溝を東西方向に2本掘削しているが、大半が調査区外になる。

13号は12号の西側にあり、幅の狭い溝を東西に3本掘削するが、南は調査区外になる。溝の長さは4.5mである。

14号・15号は13号の西にあり、14号は幅広、15号は幅の狭い溝を南北方向に2～3本掘削している。13号も含めて重複しているが、切り合い関係は判然としない。

16号は9号溝の西の区画にあり、南北方向の溝が間隔を開けて3本並んでいる。不明瞭で全体は把握できないが、確認できる長さは12mで、南端が11号溝を切っている。

17号は16号の北西にあり、幅の狭い南北方向の溝を数本並べている。

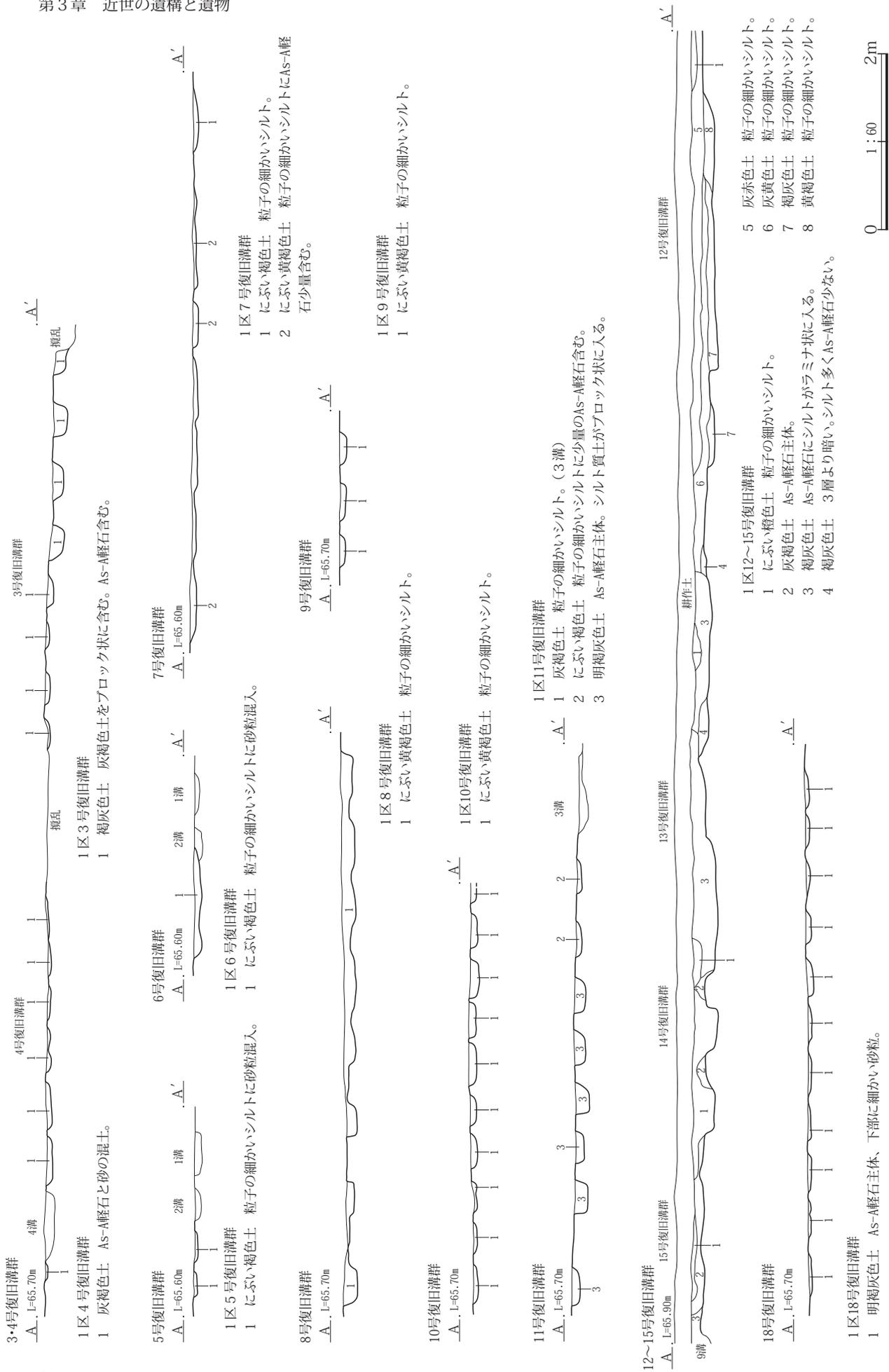
18号は11号の下で確認された。11号の他に、7号と3号溝にも切られている。東西方向の溝を近接して14本並べており、確認できる長さは5.5mである。

2 溝(第12～17図 PL.1～3)

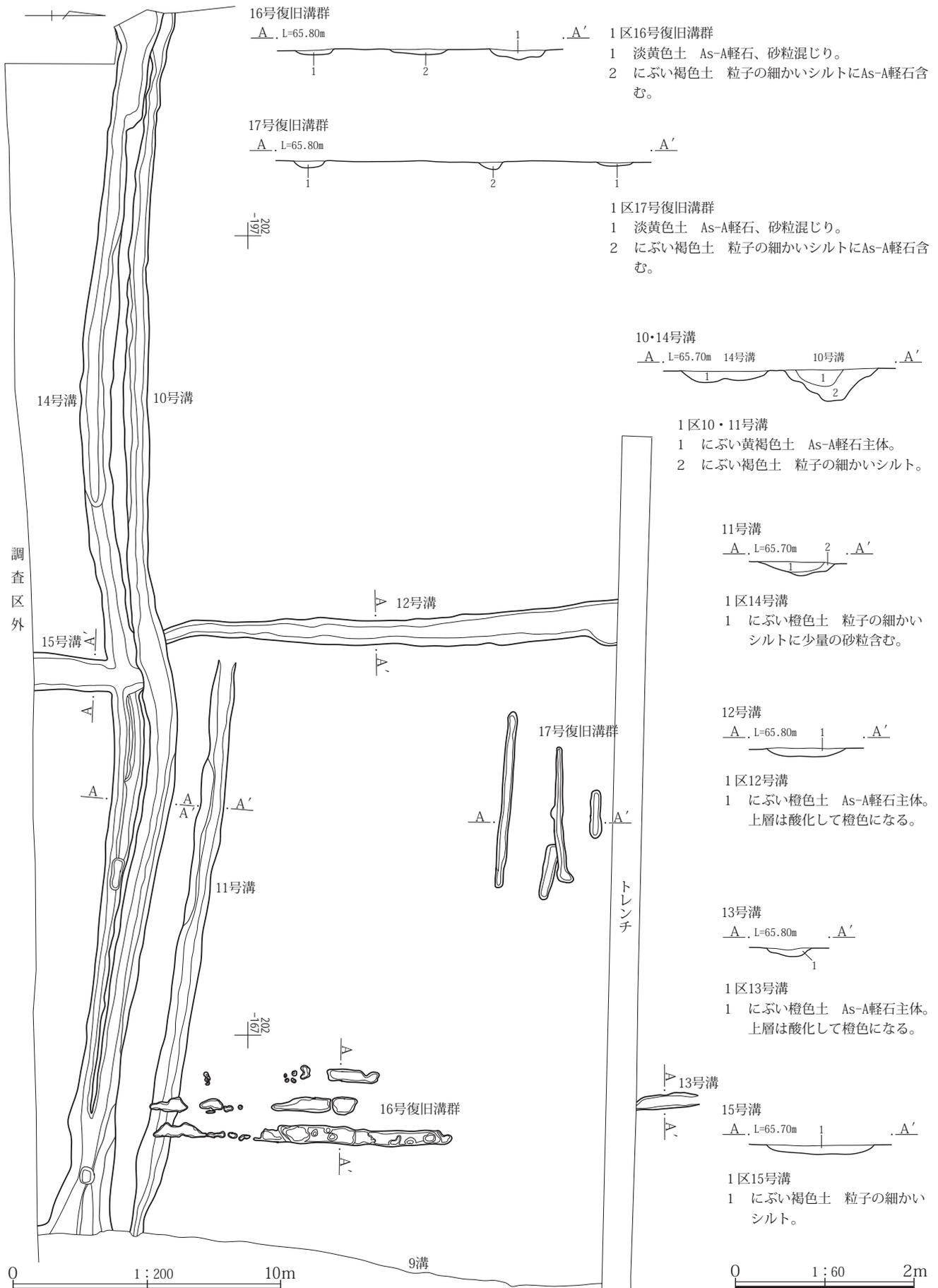
1区で確認された溝は15条である。これらは、大きな溝を中心に東西南北方向の方形状の大区画を構成し、区



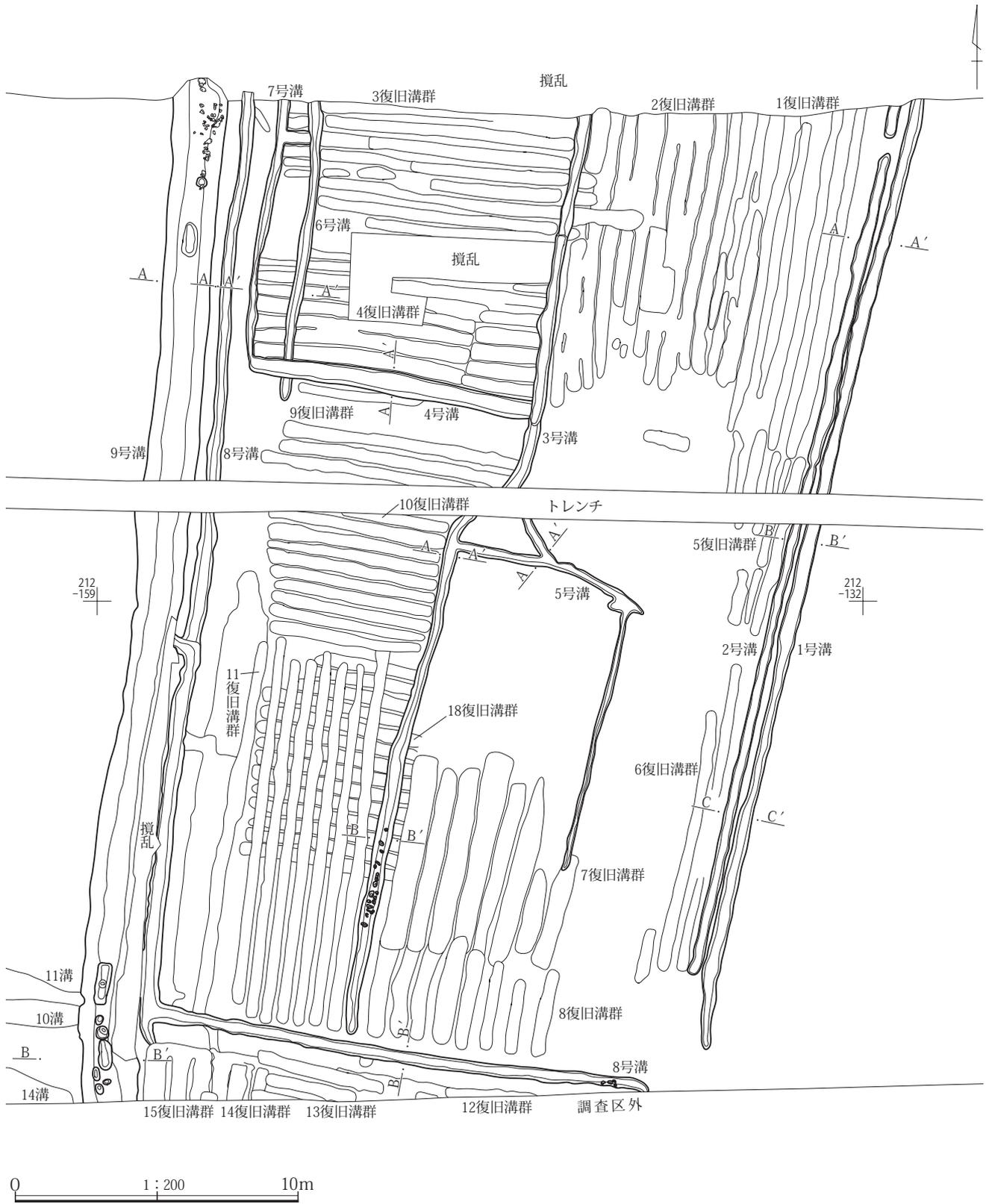
第10図 1区1～15・18号復旧溝群(1)



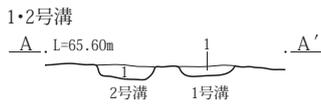
第11図 1区1～15・18号復旧溝群(2)



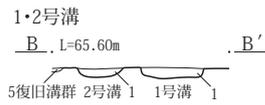
第12図 1区16・17号復旧溝群、10～15号溝



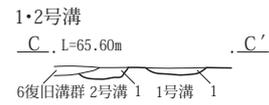
第13図 1区1～9号溝



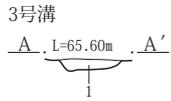
1区1号溝
1 黄橙色土 シルト質。粘質土。



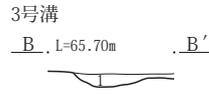
1区2号溝
1 明黄橙色土 川砂の粒子が細かい、シルト質。



1区1・2号溝B(6号復旧溝群重複)
1 褐色土 粒子の細かいシルト。

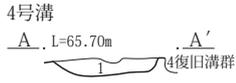


1区1号溝

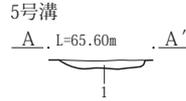


1区2号溝

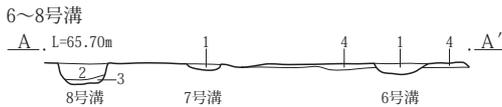
1区3号溝
1 にぶい褐色土 粒子の細かいシルト。



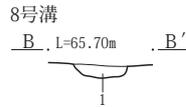
1区4号溝
1 にぶい褐色土 粒子の細かいシルト。



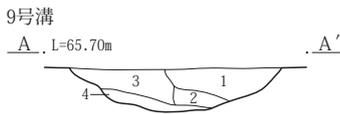
1区5号溝
1 にぶい黄褐色土 粒子の細かいシルト。



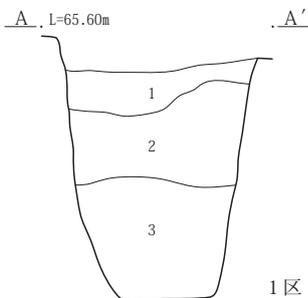
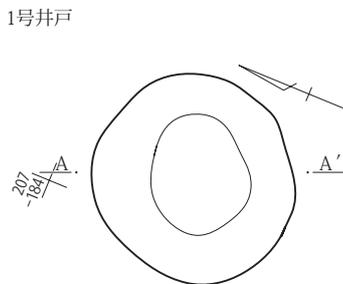
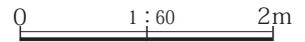
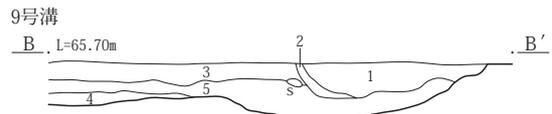
1区6~8号溝
1 灰白色土 粒子の細かいシルトとAs-A軽石。
2 にぶい赤褐色土 As-A軽石。
3 にぶい褐色土 粒子の細かいシルト。
4 灰褐色土 As-A軽石と砂粒の混土。(4号復旧溝群)



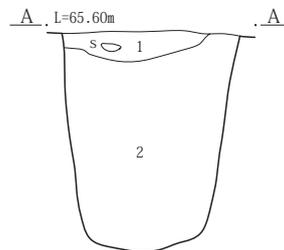
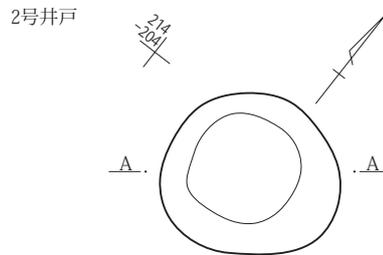
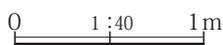
1区8号溝B
1 灰白色土 粒子の細かいシルトとAs-A軽石。



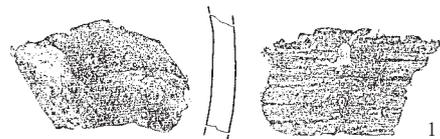
1区9号溝
1 褐色土 小礫多い。現代の攪乱。
2 灰褐色土 小礫含む。
3 にぶい褐色土 粒子の細かいシルト、下部に少量の砂粒。
4 にぶい褐色土 粒子の細かいシルト。砂がラミナ状に入る。
5 暗褐色土 粒子の細かいシルト。



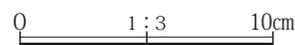
1区1号井戸
1 灰褐色土 As-A軽石含む。
2 にぶい褐色土 As-A軽石、ローム粒多く含む。
3 暗褐色土 As-A軽石多く含む。



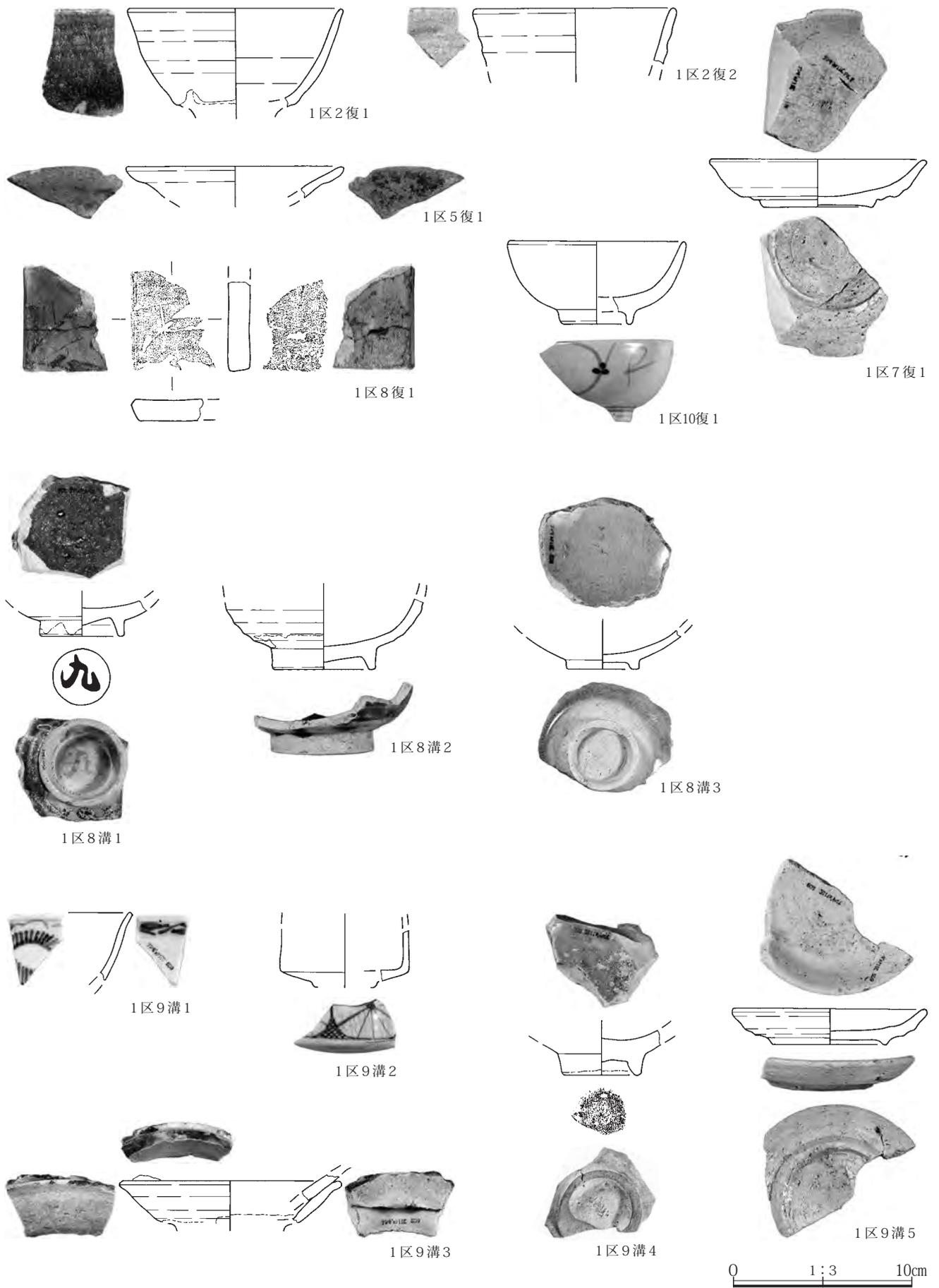
1区2号井戸
1 黒褐色土 ロームブロック、As-A軽石含む。
2 灰褐色土 ローム粒、As-A軽石含む。



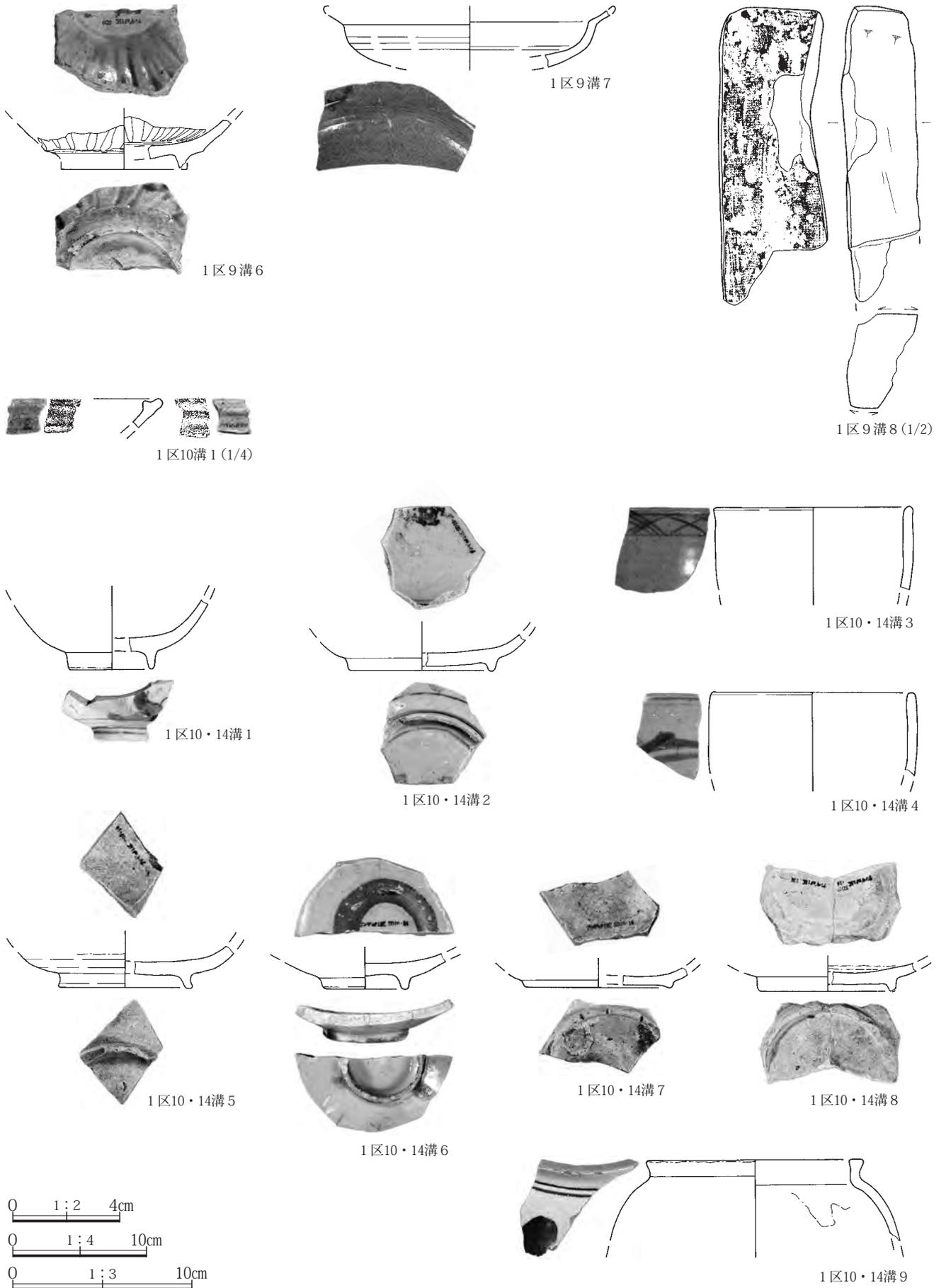
1区2井戸



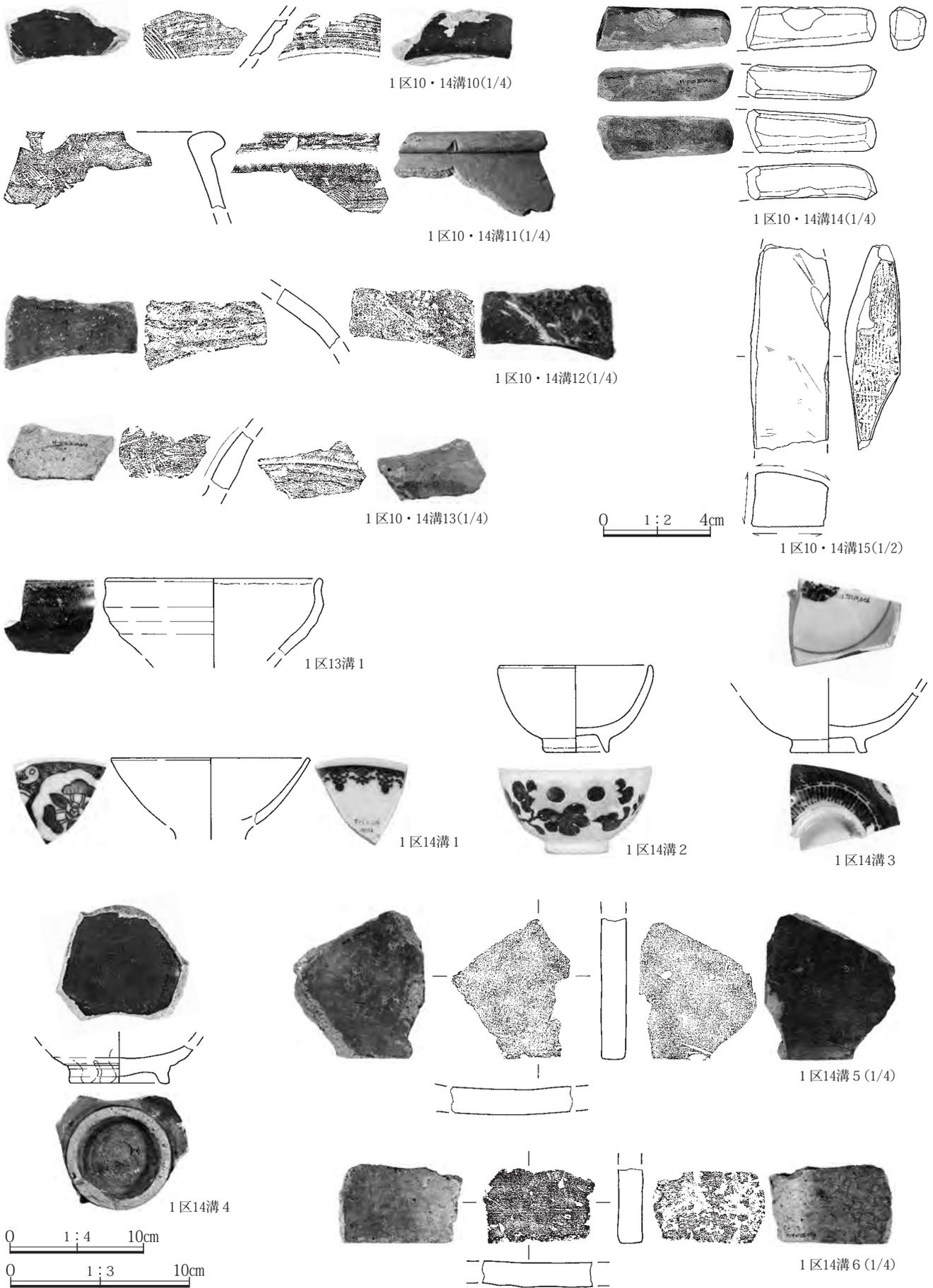
第14図 1区1~9号溝、1・2号井戸



第15図 1区2・5・7・8・10号復旧溝群、8・9号溝出土遺物



第16図 1区9・10・14号溝出土遺物



第17図 1区10・13・14号溝出土遺物

画内を小さな溝で区切っている。その区切りが一筆に該当するかもしれない。溝は大半がシルトで埋没しており、As-A軽石を含むものもある。おそらく、これらの溝も洪水災害で埋没したのであろうが、復旧溝群を切るものと切られるものがあり、一律同時に埋没した訳ではない。このなかで9号と10号が主要な水路であろう。なお、位置・規模等の個別データは巻末の一覧(第3表)を参照頂きたい。

1区1号～8号溝は大区画の中を区切る溝で、筆を示す可能性が高い。復旧溝群との関係では、復旧溝群を切るものはあるが、切られるものはなく、復旧作業に伴って配置され、その後も使用された可能性がある。

9号は南北方向にのびる主要水路で、他の溝はこの溝から取排水したと考えられる。規模は、幅1.51～1.88m、深さ0.47～52mで、断面形はU字状を呈する。底面付近に砂礫層がラミナ堆積しており、北側の底面付近に人頭大の円礫が多量に認められた。水量調整等に使用されたのであろうか。

10号溝は東西方向の主要溝で、14号と一部重複しながら並走し、北側に11溝が平行する。いずれも幅は1m前後あるが、11号と14号は最深部で20cmほどでの浅いもので、10号に付随するものであろう。このラインは1区微高地と南側の低地を画す位置に当たっており、これらの溝に沿って道があった可能性が高い。

12号・15号は10号溝と直行して南北方向にのびる溝で、基準となる9号溝の西側22m前後を南北に区画する。この溝も幅は1m前後であるが、深さは10cmほどしかない。

3 井戸(第14図、PL.62)

第1面の調査で井戸2基を確認した。いずれも12号溝西側の空白部にあり、ここに住居等の施設があった可能性が高い。

1号井戸は12号溝の西側に近接する。1.12×1.04mの円形の井戸で、深さは1.39mである。

2号井戸は1号の西北20mにある。規模は1号よりやや小さく、0.94×0.88mの円形を呈し、深さは1.17mである。

なお、両井戸とも覆土にAs-B軽石を含む。遺物は出土していない。

第3節 2区の調査

復旧溝群8箇所、溝11条が確認された。近世面ではわかりにくいのが、調査区の西半部が微高地、東半部は低地に該当する。主要な溝は中世から継続する変則的な区画を踏襲しており、復旧溝群はその溝に沿った2箇所を確認された。

1 復旧溝群(第18～21図 PL.4～6・71)

西側で1箇所、中央部で7箇所、合計8箇所の復旧溝群を確認した。復旧溝群の周囲を区画する溝がある場所とない場所とが認められる。また、復旧溝群を構成する溝は、幅が広く密接して掘削したものが多く、いずれもシルトで埋まっているので洪水災害に対する復旧作業と考えてよいが、覆土中にAs-A軽石を含むものと含まないものがあり、時期差が認められるという調査所見になっている。

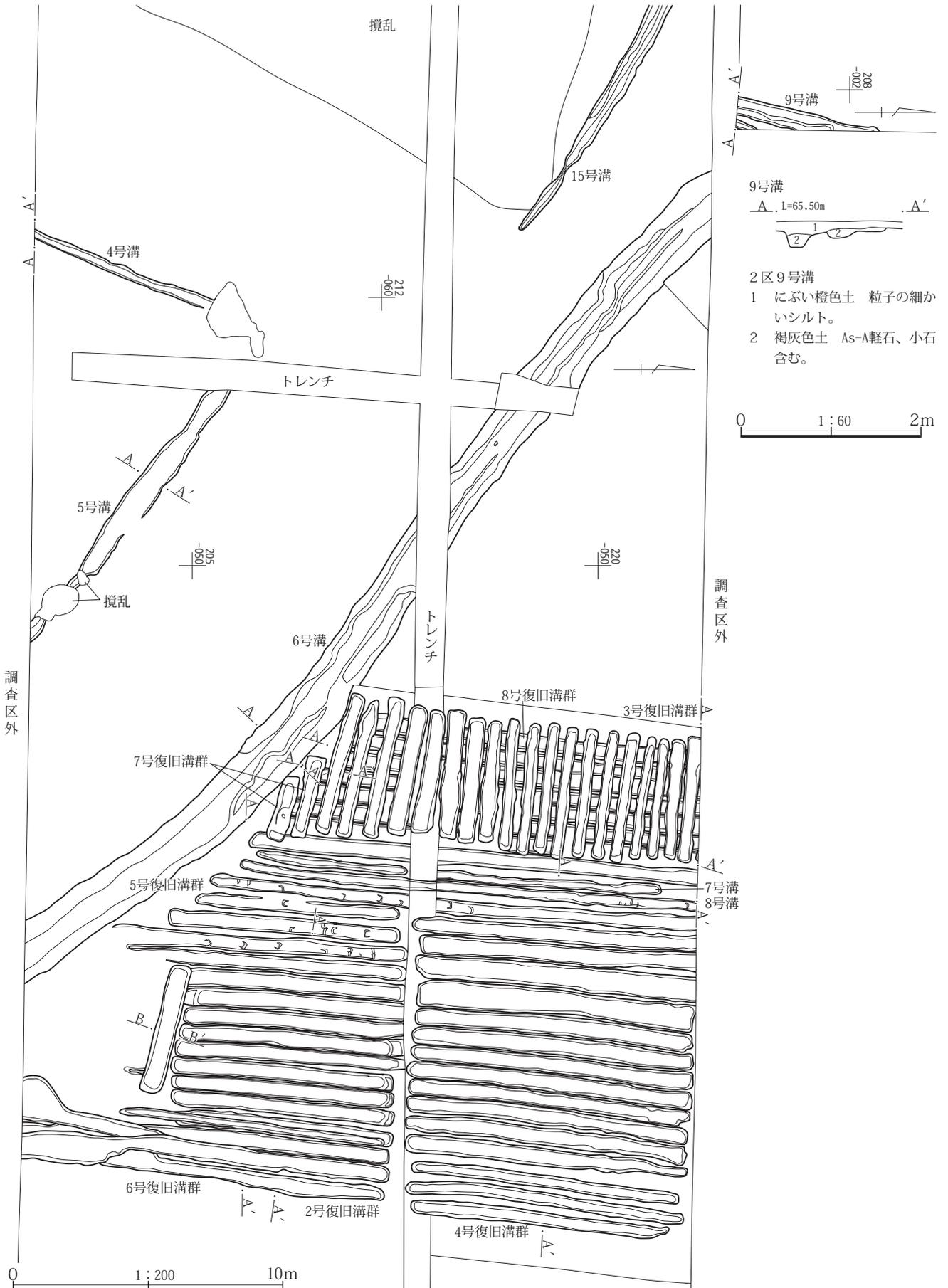
1号は調査区の北西隅、3号溝の西側にあり、南を1号溝で区切られている。幅60cmほどの溝を東西方向に密接して12本掘削している。北側と西側が調査区外になるため、全体像は不明だが、長さは最大15.5mである。3号溝との間に若干の空白があり、端部が二段になるものもある。覆土にはAs-A軽石を含む。

2号は中央部の南東側にある。幅40～50cmほどの溝を南北方向に密接して14本並べる。中央部に長さ5mほどの東西方向の溝があり、8本はそこで南端を揃えるが、その左右のものは南までのびている。この溝群は覆土にAs-A軽石を含んでいない。

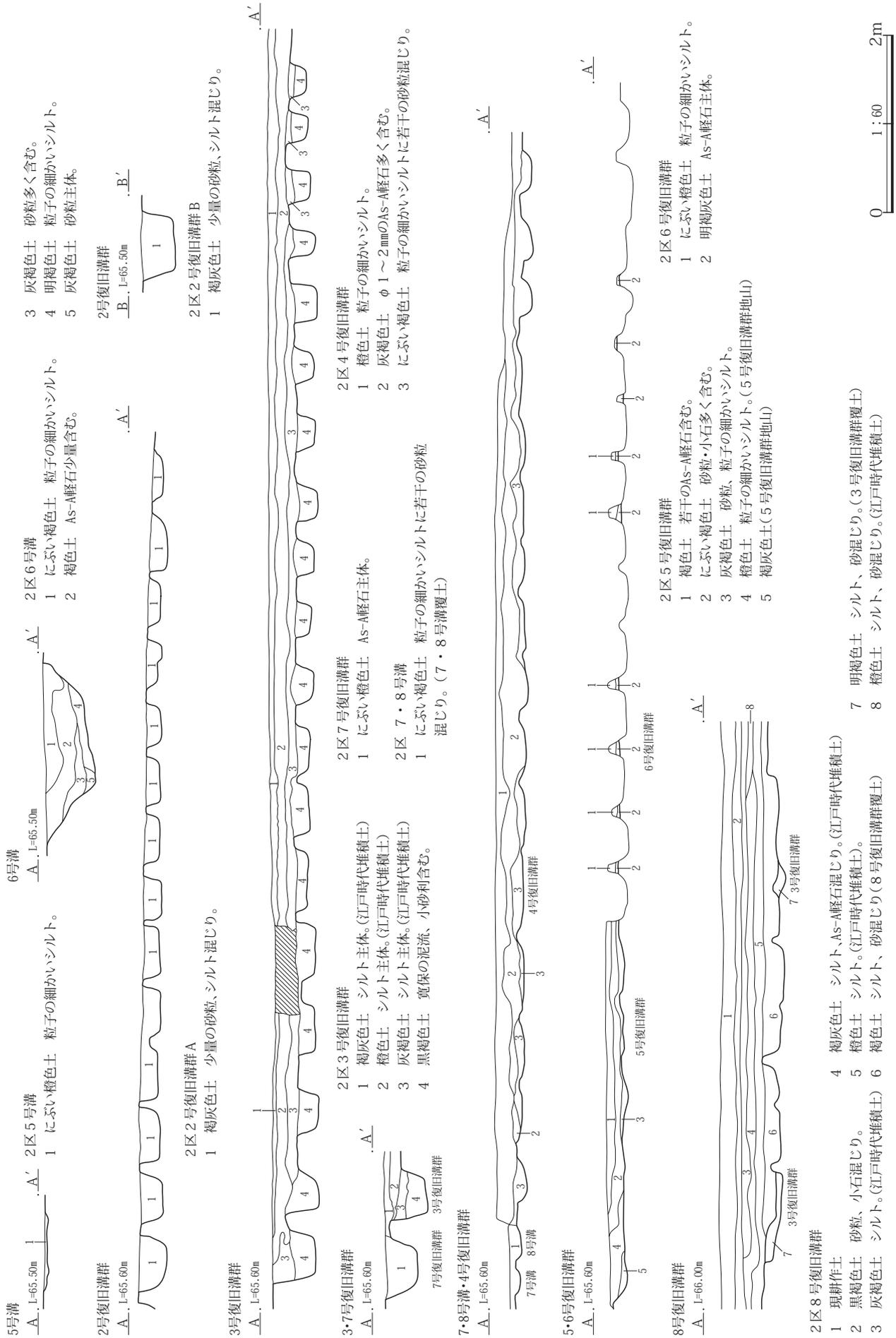
3号は中央部の西側にあり、幅30～50cmの溝を東西方向にやや間隔をあけて19本並べている。この溝群は南北方向の8号を切って掘削されており、南側に7号が並ぶ。溝の幅はまちまちだが、長さは5m前後でよく揃っており、東側を7号・6号溝で仕切られている。なお、覆土にAs-A軽石は含まない。

4号は2号の北側にあり、幅が30～80cmの溝を南北方向に16本並べている。長さは10mほどで、3号との間に7号・8号溝がある。この溝群は覆土上層にAs-A軽石を含む。

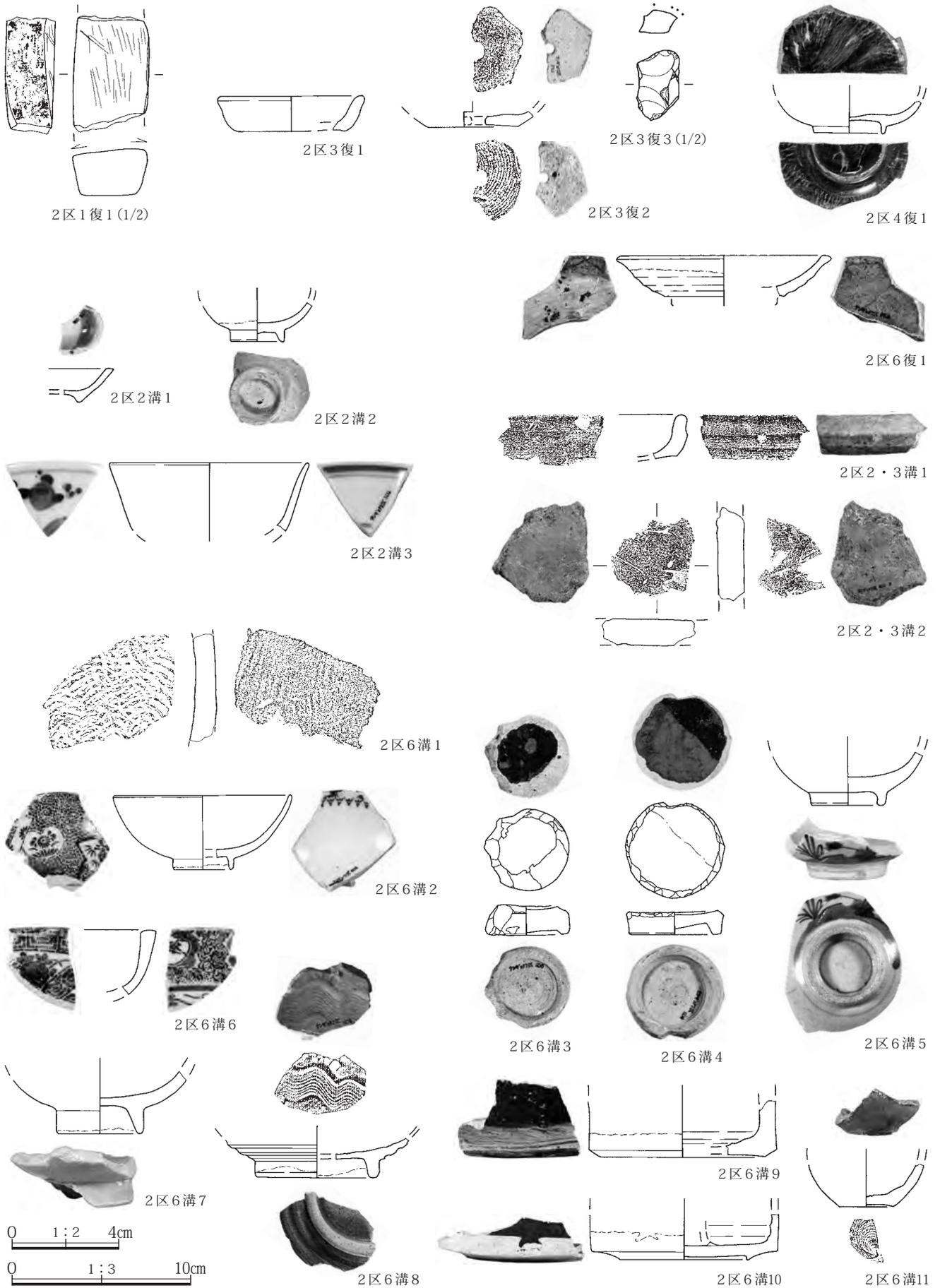
5号は2号の西側にあり、幅の狭い溝を南北方向に3



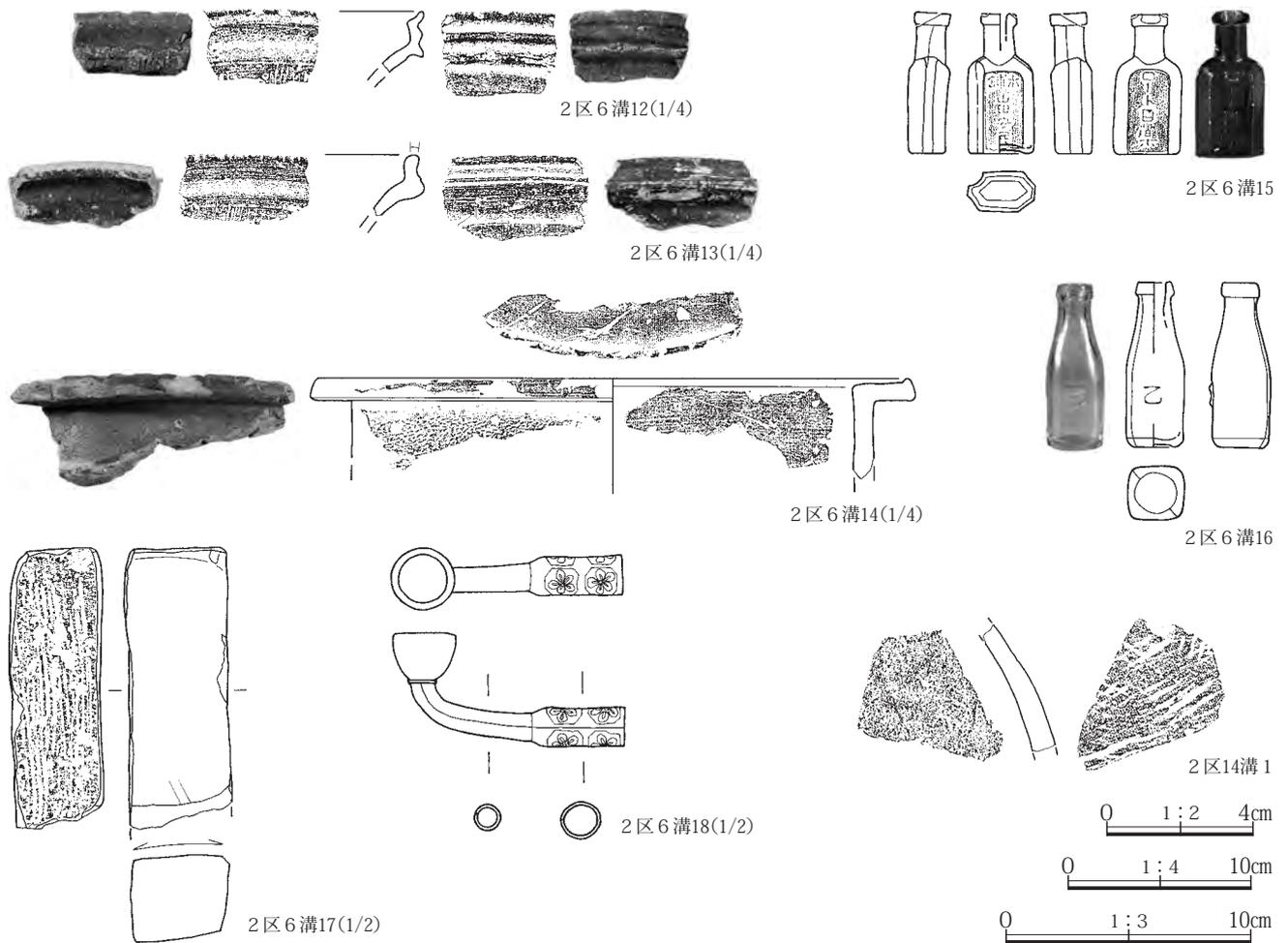
第18図 2区2～8号復旧溝群、5～9号溝



第19図 2区2~8号復旧溝群、5~8号溝



第21図 2区1・3・4・6号復旧溝群、2・3・6号溝出土遺物



第22図 2区6・14号溝出土遺物

本並べている。北側端部は2号と揃えており、南側端部は6号溝との間に1mほどの空白をおいている。この溝群も覆土上層にAs-A軽石を含む。

6号は2号の下にあり、東西方向に溝群を配置している。2号に切られて図上には表れないが、5号・6号断面図にその存在を留める。

7号は3号の南にあり、幅50cm前後の溝を東西方向に2本並べている。長さは6号溝の手前で調整しており、6号溝と同時期であることを示す。この溝群は覆土にAs-A軽石を多量に含む。

8号は3号の下にあり、3号に切られる。幅が50cmほどの溝を東西方向に密接して6本並べている。長さは判然としない。なお、覆土上層にAs-A軽石を含む。

2 溝(第18~22図 PL.1~3)

2区で確認された溝は11条である。このうち、規模の大きな溝は中世の区画を踏襲しており、小さな溝は復旧溝群の範囲を仕切っている。規模の小さな溝は大半がシ

ルトで埋没しており、As-A軽石を含むものもある。おそらく、これらの溝も洪水災害で埋没したのであろう。規模の大きな2号・3号と6号が主要な水路であるが、そのうち2号と6号溝は覆土中から近世及び近代の遺物も出土しており、両溝とも近代まで使用されていたようだ。なお、位置・規模等の個別データは巻末の一覧(第3表)を参照頂きたい。

1号・4号・5号・7号~9号溝はいずれも規模が小さな溝で、復旧溝群を仕切るように配置されたものが多い。1号は1号復旧溝群の南側を画し、7号・8号は中央部復旧溝群の中央部を南北方向に画しているが、2区では復旧溝群と重複する溝は認められない。4号・5号は調査区中央部の空白部にあり、直行する配置をとるが、おそらくここにも復旧溝群があったのであろう。9号は調査区東端部にあり、あるいは復旧溝群の一部かもしれない。

2号・3号溝は、西側を南北方向に走向する溝で、3号溝を切って2号溝が重複する。また、北側で14号溝も

重複しているが、その関係は判然としない。2号溝は幅1.15～2.18m、深さ0.23～0.41mで、底面に砂礫が堆積しており、水路として機能したことを示している。

6号溝は東西方向に走向する溝で、規模は幅1.49～2.05m、深さ0.47～0.52mであり、底面に砂礫が堆積していることから、これも水路として間違いない。

15号溝は、2号溝のほうから6号溝のほうに向かってのびる浅い溝で、途中で消滅している。性格は不明である。

第4節 3区の調査

3区では、復旧溝群4箇所、畠1箇所、溝3条が確認された。3区は全域が低地で、北半部に遺構は認められず、南側に並んだような状態で復旧溝群と畠が認められた。溝は、古代の条里地割を継承する位置に主要水路である1号・2号溝が配置され、道から溝に替わっていた。

1 復旧溝群(第23・25図 PL.6～8)

調査区南側に並んだような状態で4箇所の復旧溝群が確認された。いずれも東西方向の溝を規則的に並べており、東に傾いた同じ方向に揃っている。復旧溝群を構成する溝はいずれも細砂もしくはシルトで埋まっており、洪水災害に対する復旧作業と考えてよい。なお、覆土中にAs-A軽石は含まれていない。

1号は調査区の中央部で確認した。南側は調査区外となる。幅が40～70cmの溝を東西方向に密接して7本並べており、長さは20mほどである。幅も均質で東西の端部もよく揃っている。

2号は1号の西側にあり、南側は一部調査区外となる。幅40～70cmの溝を東西方向に密接して13本並べており、長さは14mほどである。長さは異なるが、1号と同様に揃っている。

3号は2号のすぐ北東側で確認された。ほとんど痕跡のみで判然としないが、幅が70cm前後の掘削した刃先が帯状に残っており、大半は東西方向にのびるが、一部に南北方向に掘削した部分もある。こうした痕跡は4区の一部でも確認されており、上下の土を入れ替えたのではなく、耕土と混ぜ込む手法で混土化した際の痕跡かもしれない。

4号は2号の西にあり、大半が調査区外となる。幅が

40cmほどの溝を東西方向にやや間隔をおいて4本並べ、その北側に幅1.2mほどの空白をおいて細い溝を1条掘削している。

2 畠(第24図 PL.7)

調査区の南東隅にあり、1号溝と2号溝で区画された長方形区画の西半部で1号畠は確認された。南側は調査区外でその範囲は不明だが、東半部は空白となっている。1号畠は北側の1号溝との間に1mたらずの空白をおき、西側の2号溝の一部を切られている。

1号畠が確認された範囲は東西12m、確認できる南北幅6.5mで、南北方向に畝をもつ畠がつくられていた。畝幅は1～1.1mで、高さは10～15cmである。耕土は少量の砂を含むにぶい橙色土で、As-A軽石を多く含む明褐色土で埋没していた。

3 溝(第23～25図 PL.6～8・71)

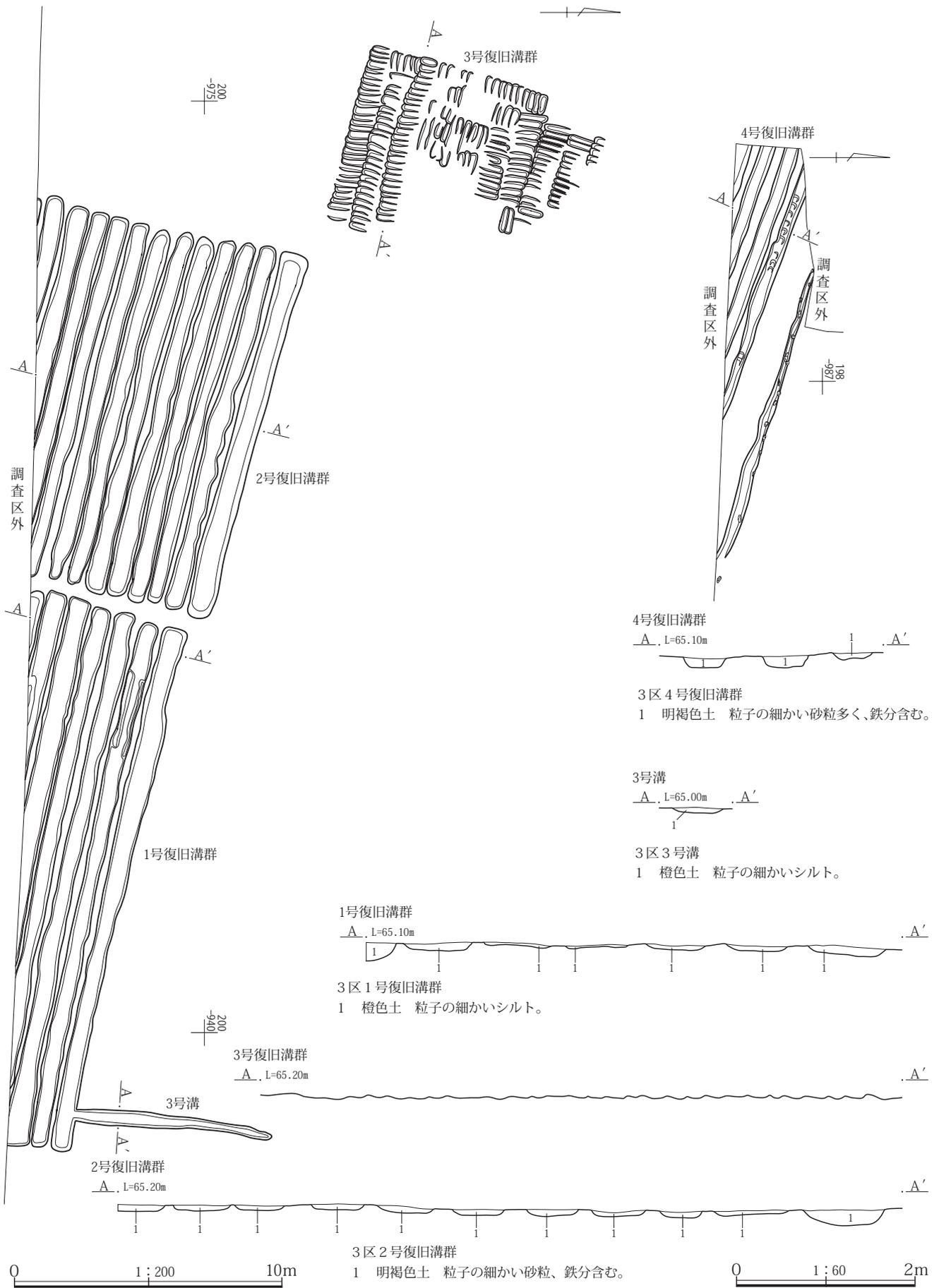
3区で確認された溝は3条である。このうち、規模の大きな1号・2号溝は古代の条里地割のラインを踏襲している。平安時代から中世まではこのラインが道として使用されてきたが、近世では水路に替えている。

なお、位置・規模等の個別データは巻末の一覧(第3表)を参照頂きたい。

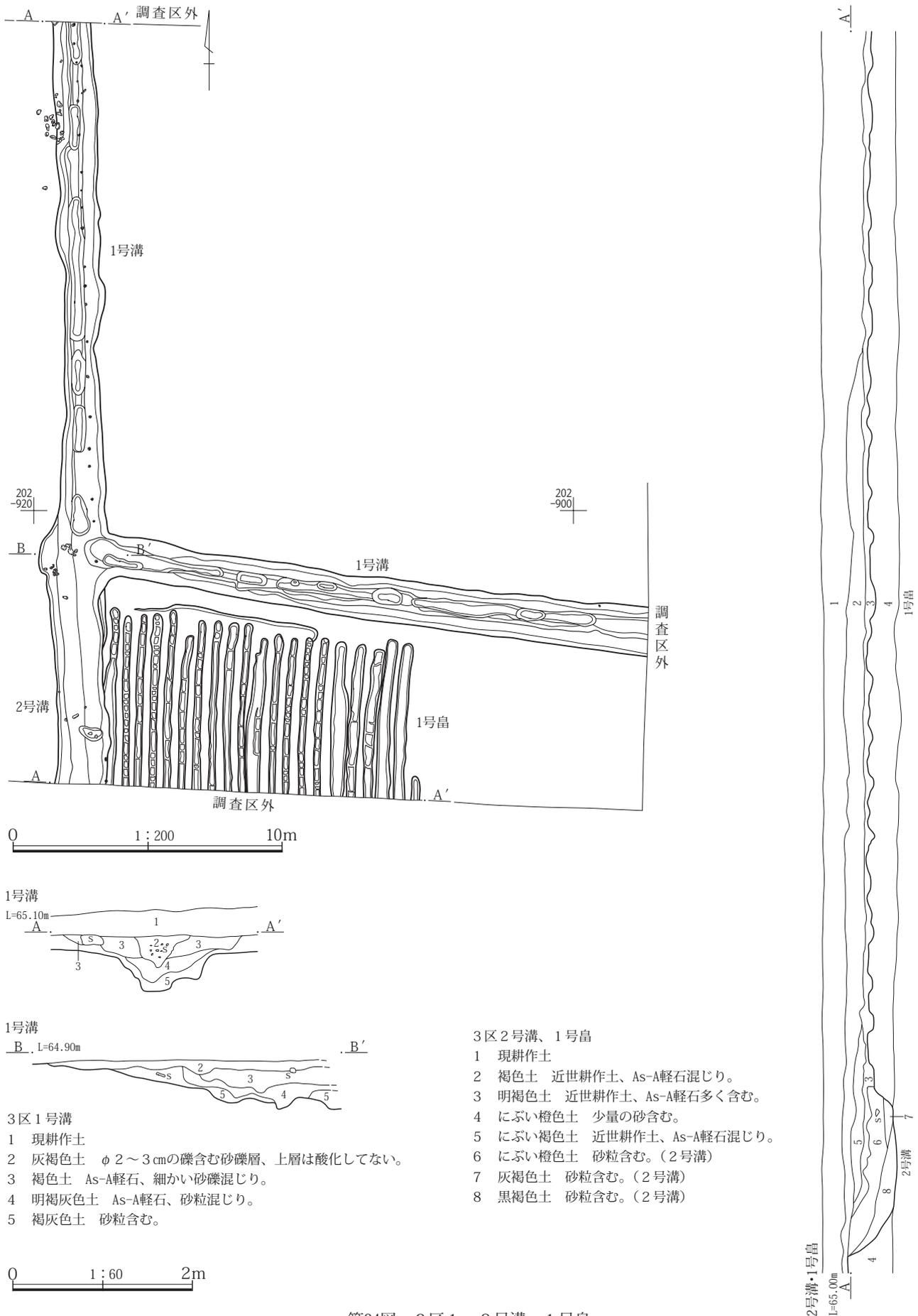
1号溝は条里地割のラインを踏襲した水路で、南北方向に直線的に南下し、東へ直角に折れている。規模は、幅が1.07～1.82m、深さ0.34～0.42mで、断面形はV字状を呈す。この溝は底面に砂礫があり、所々に人頭大の円礫が多く残っていた。また、数多くの木杭も伴っており、この地区の主要水路として長期にわたって使用されたことを示している。なお、覆土中から近世及び近代の遺物が出土しており、最近まで使用されていた様子が伺える。

2号溝は1号から南北方向にのびる溝で、1号と一体の溝である。規模は、幅が1.68～2.12m、深さ0.31～0.44mで、断面形はU字形を呈する。

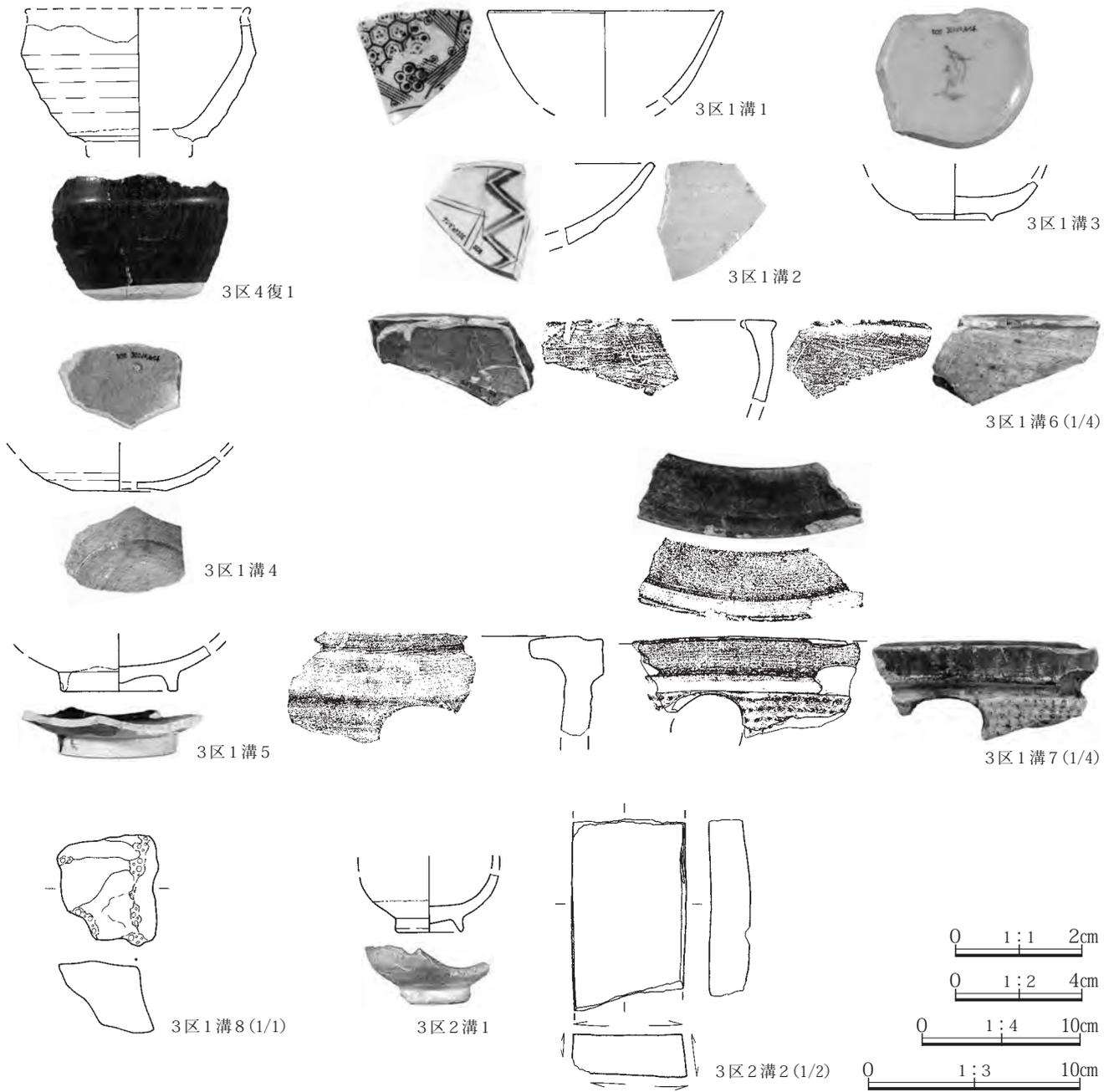
3号は、1号復旧溝群の北東から南北方向にのびる溝で、幅は広いところで50cm、深さは5cmと浅い。この溝はシルトで埋没しており、復旧溝群の一部あるいはそれを画す溝であろう。



第23図 3区1～4号復旧溝群、3号溝



第24図 3区1・2号溝、1号島



第25図 3区4号復旧溝群、1・2号溝出土遺物

第5節 4区の調査

4区では、復旧溝群5箇所、溝14条が確認された。4区は2区と同様に調査区の西半部が微高地、東半部は低地に該当する。主要な溝は中世から継続する変則的な区画を踏襲しており、復旧溝群はその溝に沿った北側と東側を中心に確認された。これらの遺構は、いずれもシルトや砂で埋没しており、大半がAs-A軽石を含んでいる。

また、調査区西側の一部で第1面と2面の間に近世の溝が4条含まれており、近世で2面の調査ができた。これらの溝はいずれも中世の遺構を踏襲するラインをもっているが、覆土にAs-A軽石を含んでおり、年代的にはAs-A軽石降下後の時期に該当する。

1 復旧溝群(第26～29図 PL.8～10・71)

調査区の北側と東側で3箇所、西側で2箇所、合計5箇所の復旧溝群が確認された。復旧溝群を構成する溝はいずれも細砂もしくはシルトで埋まっており、洪水災害に対する復旧作業と考えてよい。なお、大半が覆土中にAs-A軽石を含んでいる。

1号は調査区の東側にあり、1号溝と4号溝の間で確認された。溝群は幅が30～50cmで、やや不揃いで形態も粗雑で乱れているが、長さ9.5m前後の東西方向の溝を密接して1号溝と4号溝の間を埋め尽くすように並んでいる。4号溝との間隔はやや空いており、1号溝が仕切になっていることがよくわかる。

2号は7号・8号溝の北側にあり、両溝の湾曲に合わせて東西方向の溝を配置している。幅の狭いものが大半で、スペースに合わせて不揃いな部分もあり、切れ目が2箇所ほど認められる。

3号は2号の西側にあり、2号と同様に東西方向の溝を密接して8本並べている。長さは7号溝に合わせて調整しているが、2号より溝の形態は整っている。

4号は、7号溝と13号溝の間をつなぐように、南北方向に溝を密接して5本ならべている。そのうち、西側の2本は短い、理由はわからない。この溝群は15号・16号・17号溝の上面に掘削されており、東側の5号を切り、南端部を13号溝に切られている。

5号は4号の東側に接してあり、12号溝との間に幅30cm前後、長さ6mほどの溝を南北方向に密接して9本並べている。

なお、7号・8号溝と6号溝の間で、東西方向に並ぶ掘削痕がほぼ全面に認められた。掘削痕は2号・3号復旧溝群の痕跡と近似しているが、痕跡がわずかで溝の確認までには至らなかった。調査時に1号畠とされたが、ここでも同様の復旧が行われた可能性が高い。遺物は1号畠で掲載した。

2 溝(第26～31図 PL.8～10・71)

4区で確認された溝は14条である。このなかには古代の条里地割のラインを踏襲するものや、中世の名残を残す溝等も認められる。いずれも覆土中にAs-A軽石を含んでいるが、主要な溝はその下層にシルトや砂を含んでおり、As-A軽石降下以前から継続していることを示している。なお、位置・規模等の個別データは巻末の一覧(第3表)を参照頂きたい。

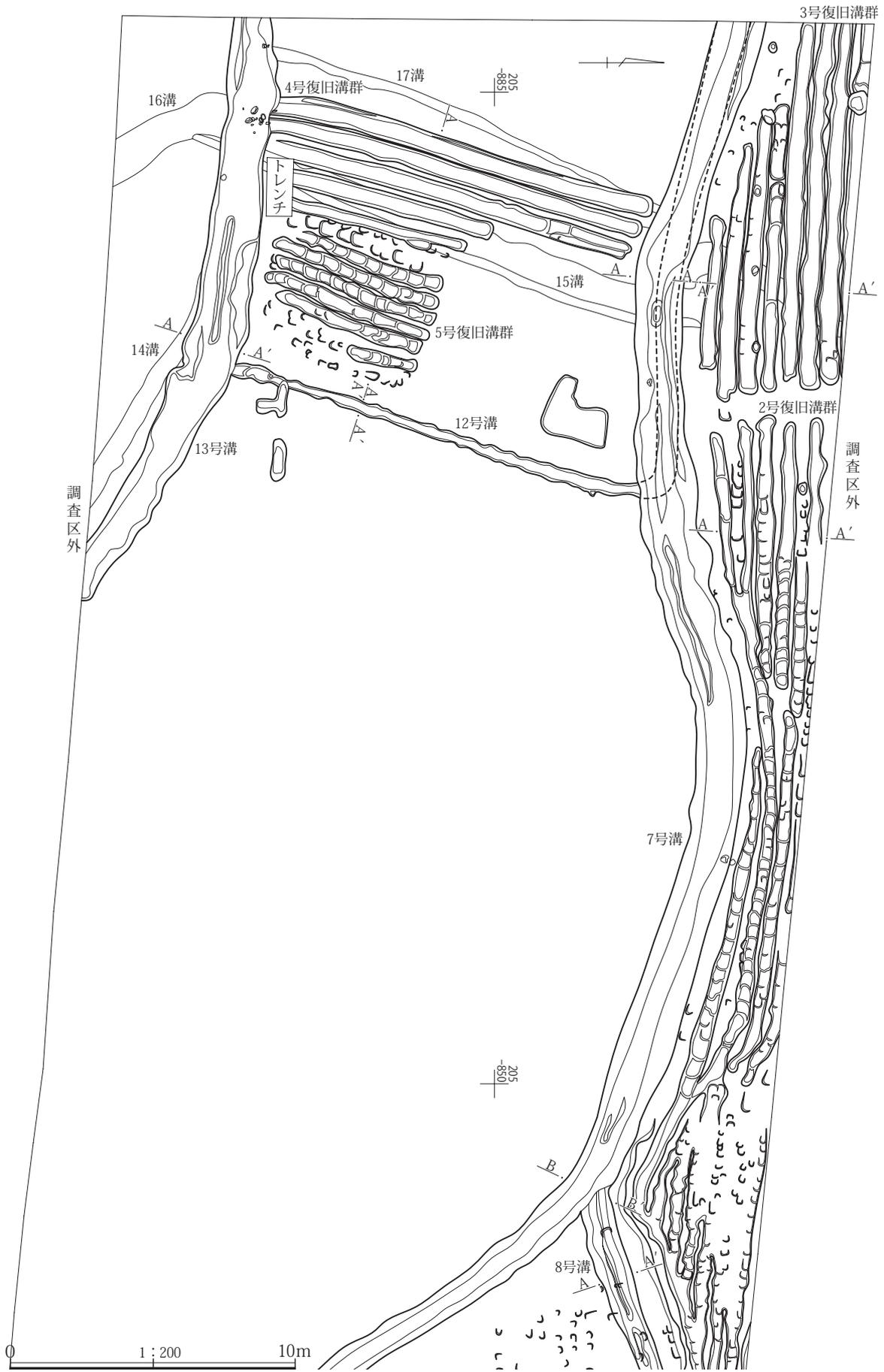
1号は調査区の東側、1号復旧溝群の東にあり、1号復旧溝群の東を画す目的で掘削された溝と考えられる。

4号～6号は1号復旧溝群の西側にあり、南北に直進する道に伴う溝であろう。5号と6号は重複し、5号が切っているが、両溝とも4号と対峙する溝である。ここには平安時代にAs-B下水田の大畔があり、この畔は条里地割の基準であった。溝はいずれも幅1m前後、深さ50cmほどの規模があり、溝間の距離は1～1.5mほどである。

7号は蛇行しながら東西にのびる溝で、8号も一連の溝であろう。微高地をめぐる中世の名残を伝える溝で、13号とともに4区の主要水路であろう。7号・8号ともAs-A軽石を含む砂質土で埋没している。

12号は、埋没した7号溝の上面から13号へのびる溝で、圃場整備前まで使用されていた水路である。13号は3区の1号溝の延長であり、これも主要水路として長く使用された。

14号～17号は1面の下面で確認された溝である(第29図)。15号～17号は中世の1号掘立柱建物にちょうど重なる位置にあるが、両者の関係、この溝の用途は判然としない。



第26図 4区2～5号復旧溝群、7・8・12・13号溝(1)

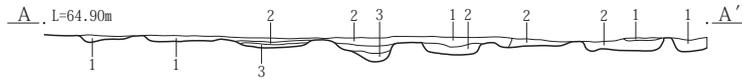
2号復旧溝群



4区2号復旧溝群

- 1 褐色土 多量の白色軽石(As-A)を含む。砂土のブロックを含む。
- 2 灰白色土 細かい砂。As-Aはほとんど含まない。
- * 2層が1層を切っている。新旧の復旧溝群があったか。

3号復旧溝群



4区3号復旧溝群

- 1 灰色土 白色軽石(As-A)を含む。鉄分の沈着が見られる。
- 2 灰白色土 砂土。多量の白色軽石(As-A)を含む。
- 3 にぶい黄橙色土 少量の白色軽石(As-A)を含む。

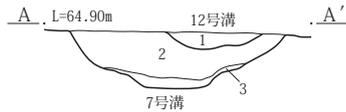
4・5号復旧溝群



4区4・5号復旧溝群

- 1 褐灰色土 シルト質。鉄分の沈着が見られる。As-Aはほとんど含まない。(4号復旧溝群)
- 2 灰白色土 細かい砂質。白色軽石(As-A)及び褐灰色土小ブロックを含む。(別の復旧溝群か)
- 3 褐灰色土 少量の白色軽石(As-A)を含む。シルト質で緻密。(地山か)
- 4 灰白色砂土 砂主体。多量の白色軽石(As-A)及び褐灰色土小ブロックを含む。(5号復旧溝群)
- 5 褐灰色土 砂質(細かい)。多量の白色軽石(As-A)を含む。灰白色砂土をブロック状に含む。(5号復旧溝群)

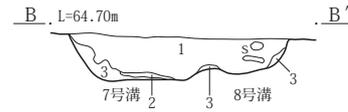
7・12号溝



4区7・12号溝

- 1 褐灰色土 As-Aはほとんど含まない。圃場整備前まで存在した溝。(12号溝)
- 2 褐灰色土 As-Aを含む灰白色砂土ブロックを含む。鉄分沈着の斑文あり。(7号溝)
- 3 褐灰色土 As-Aを含む。灰白色砂層を挟む。(7号溝)

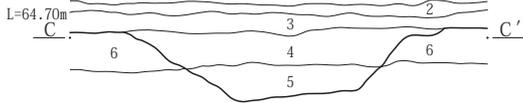
7・8号溝



4区7・8号溝

- 1 褐灰色土 白色軽石(As-A)を含む。
- 2 黄灰色砂土 多量の白色軽石(As-A)を含む。
- 3 暗褐色土 少量の褐灰色土ブロックを含む。
- * 7号溝と8号溝の分離はできなかった。同時存在の溝と考えられる。

7号溝



4区7号溝

- 1 褐灰色土 現代の水田耕作土。
- 2 褐灰色土 圃場整備時の盛土。
- 3 褐灰色土 少量の白色軽石(As-A)を含む。
- 4 褐灰色土 やや多量の白色軽石(As-A)を含み、鉄分の沈着が多く見られる。
- 5 褐灰色土 少量の白色軽石(As-A)を含み、下面はやや砂質。
- 6 黒褐色土 少量の白色軽石(As-C)を含む。
- * 3層下から切り込んでいる江戸時代の溝。

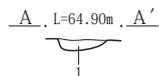
8号溝



4区8号溝

- 1 褐灰色土 少量の白色軽石(As-A)を含む。
- 2 褐灰色土 黒褐色土ブロックを含む。

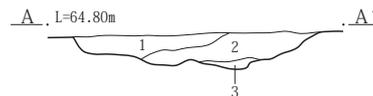
12号溝



4区12号溝

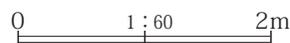
- 1層 褐灰色土 緻密で硬い。少量の白色軽石(As-A)を含む。

13号溝

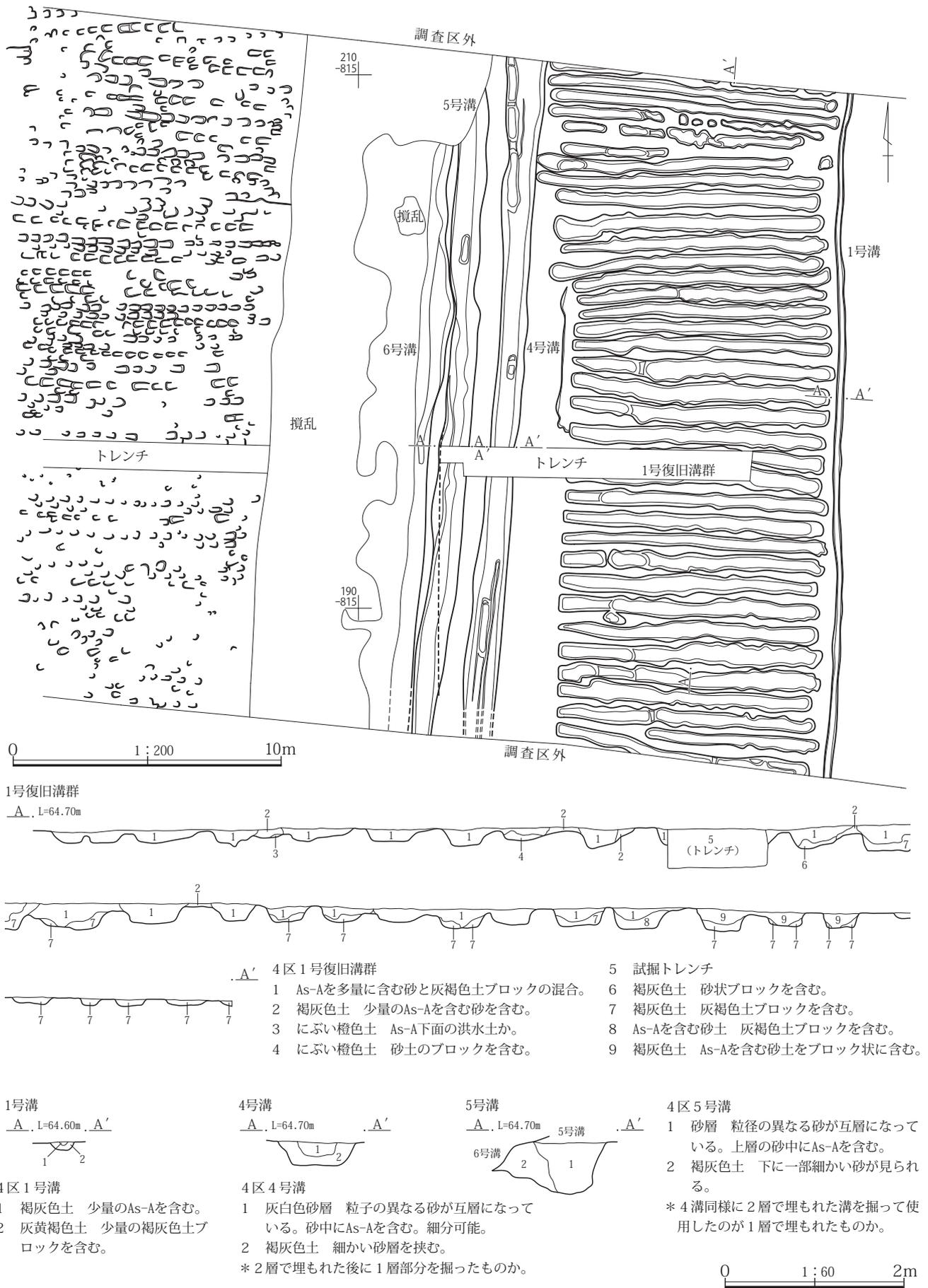


4区13号溝

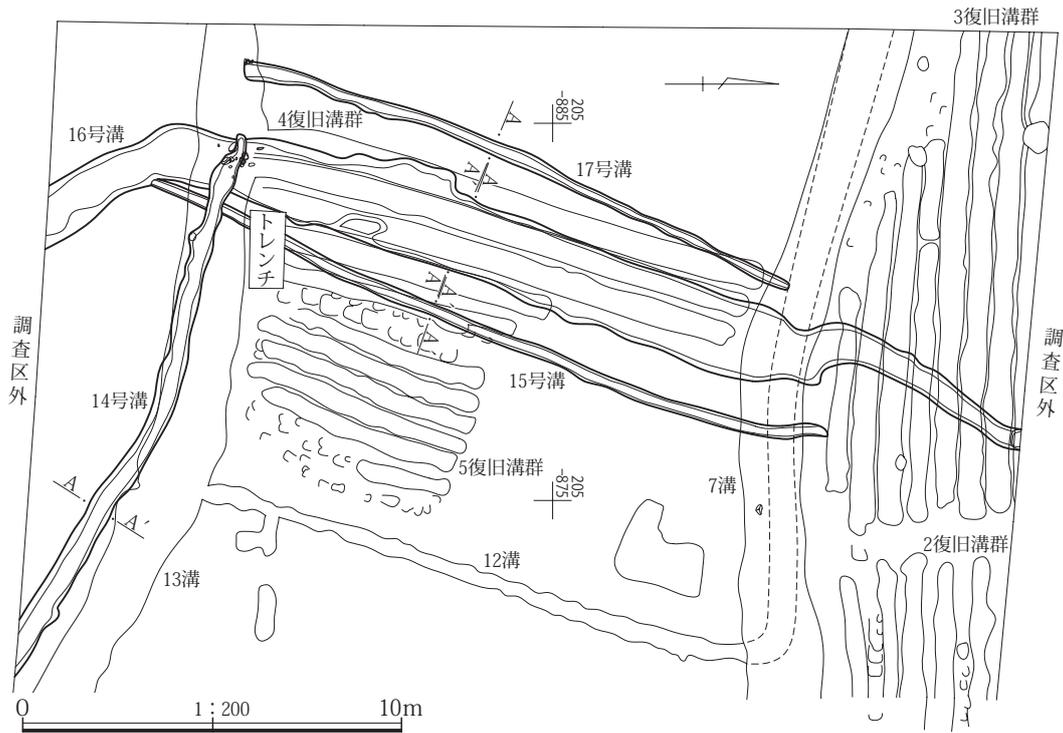
- 1 褐灰色土 白色軽石(As-A)はほとんど含まない。圃場整備前まで残っていた部分か。
- 2 褐灰色土 白色軽石(As-A)を含む。鉄分の沈着が見られる。
- 3 褐灰色土 白色軽石(As-A)を多量に含む。砂層を挟む。



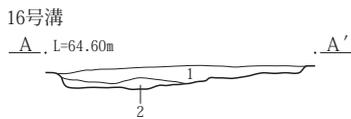
第27図 4区2～5号復旧溝群、7・8・12・13号溝(2)



第28図 4区1号復旧溝群、1・4～6号溝

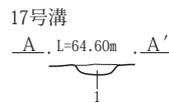


14号溝 4区14号溝
 A..L=64.60m A' 1 褐灰色土 白色軽石(As-A)及び少量の明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。

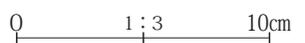
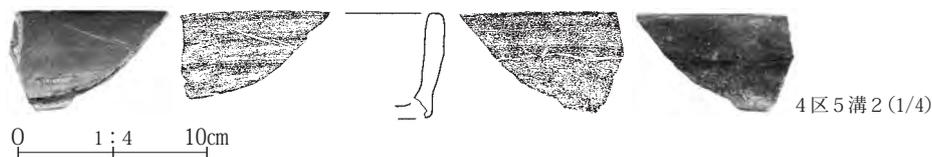
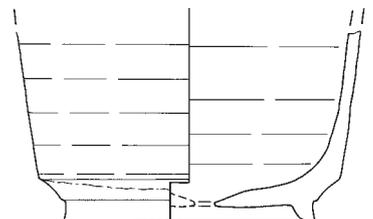
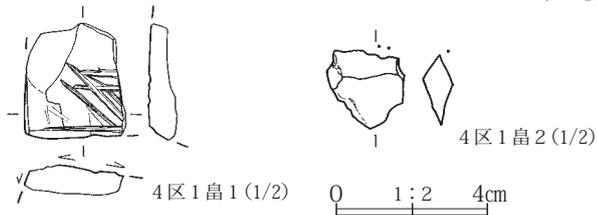
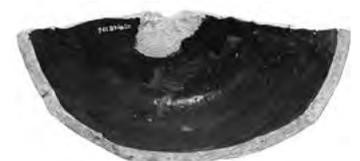
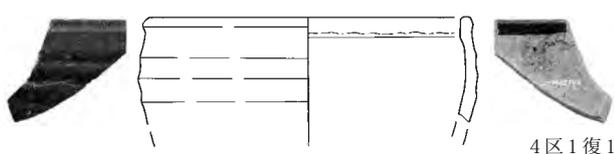


16号溝 4区16号溝
 A..L=64.60m A' 1 褐灰色土 少量の白色軽石(As-A)及び少量の明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
 2 灰褐色土 砂質。明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。

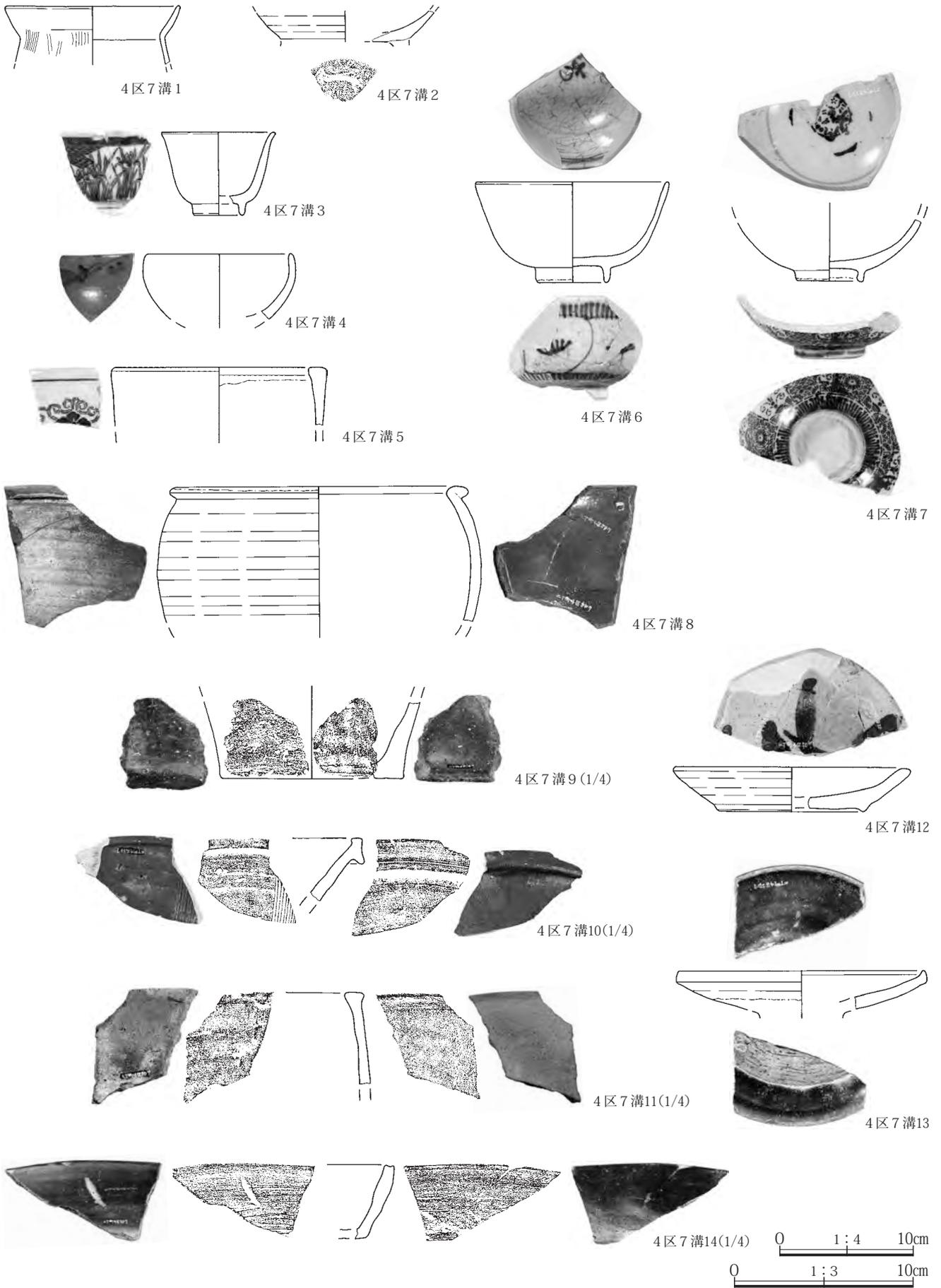
15号溝 4区15号溝
 A..L=64.60m A' 1 灰褐色土 少量の白色軽石(As-A?)及び明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。



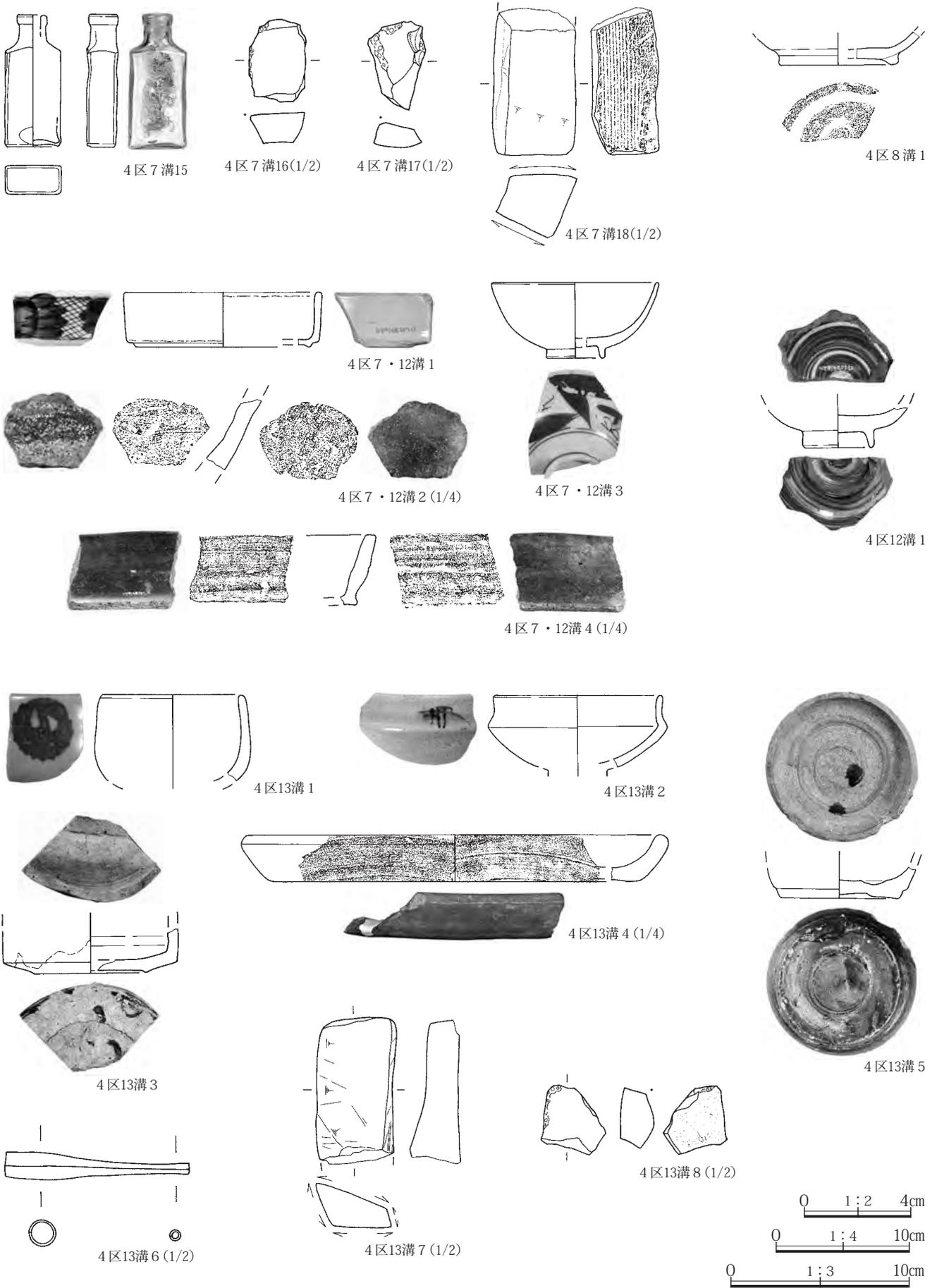
17号溝 4区17号溝
 A..L=64.60m A' 1 褐灰色土 砂質。少量の白色軽石(As-A)及び少量の明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。



第29図 4区14~17号溝と4区1号復旧溝群、畠跡、5・6号溝出土遺物



第30図 4区7号溝出土遺物



第31図 4区7・8・12・13号溝出土遺物

第6節 5区の調査

5区では、復旧溝群2箇所、溝2条、土坑2基が確認された。溝は東西南北方向に合わせた走向をとっており、復旧溝群は溝に伴って広い範囲で確認された。

1 復旧溝群(第33～37図 PL.11・12・71)

東西にのびる1号溝の南北で2箇所が確認された。調査時に畝とされたが、共通したやや粗い掘削痕が一定間隔で密接して連続的に認められることから、復旧溝群として報告する。1号・2号・3号畝を一括して1号復旧溝群、4号・5号・6号・7号畝を一括して2号復旧溝群とする。なお、いずれも覆土中にAs-A軽石を含んでいる。

1号は1号溝の南側にあり、幅40cm前後の溝を東西方向に密接して並べている。溝群は一定の間隔で区割りがあり、東側から2区画目まで1号溝に沿って縁取るように溝が1本あり、この溝は2区画目と3区画目の間に長方形の区画を設けている。2区画目は溝が直線ではなく、弧を描くように掘削されている。3区画目も東西方向の溝が並ぶが、掘削が浅いためか、不明瞭ではっきりしない。

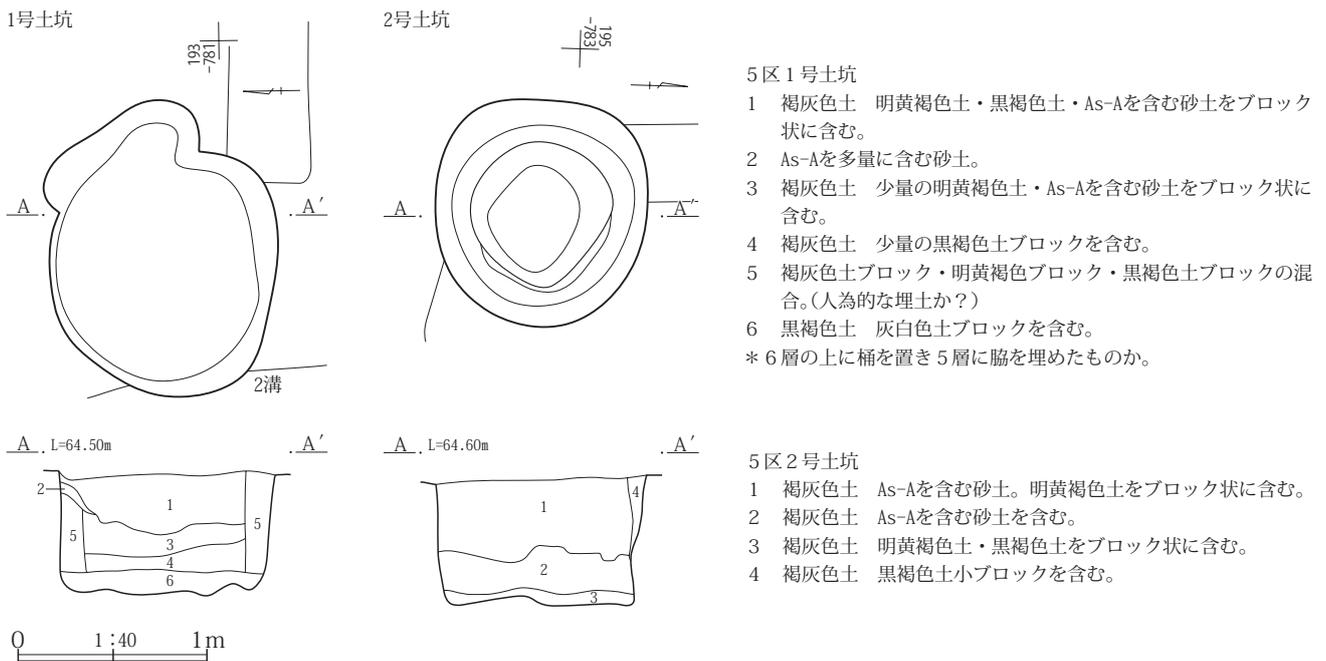
2号は1号溝の北側にあり、南北幅10m、東西幅70mにわたって連続している。幅40cmほどの溝を東西方向に密接し並べ、一定の区割りを設けて4区画にわたって掘削している。

2 溝(第33・34・36・37図 PL.11・12)

5区で確認された溝は2条である。いずれも覆土中にAs-A軽石を含んでいるが、その下層にシルトや砂を含んでおり、As-A軽石降下以前から継続していることを示している。なお、位置・規模等の個別データは巻末の一覧(第3表)を参照頂きたい。

1号は調査区を東西に貫く溝で、主要な水路とみられる。この溝は、平安時代の微高地縁辺のラインを踏襲するもので、条里地割の基準と考えられる。また、現在でもこの溝の東側延長にはこの地域の主要水路があり、長期にわたって踏襲されてきた可能性が高い。規模は、幅が1.45～1.94m、深さは0.31～0.51mである。

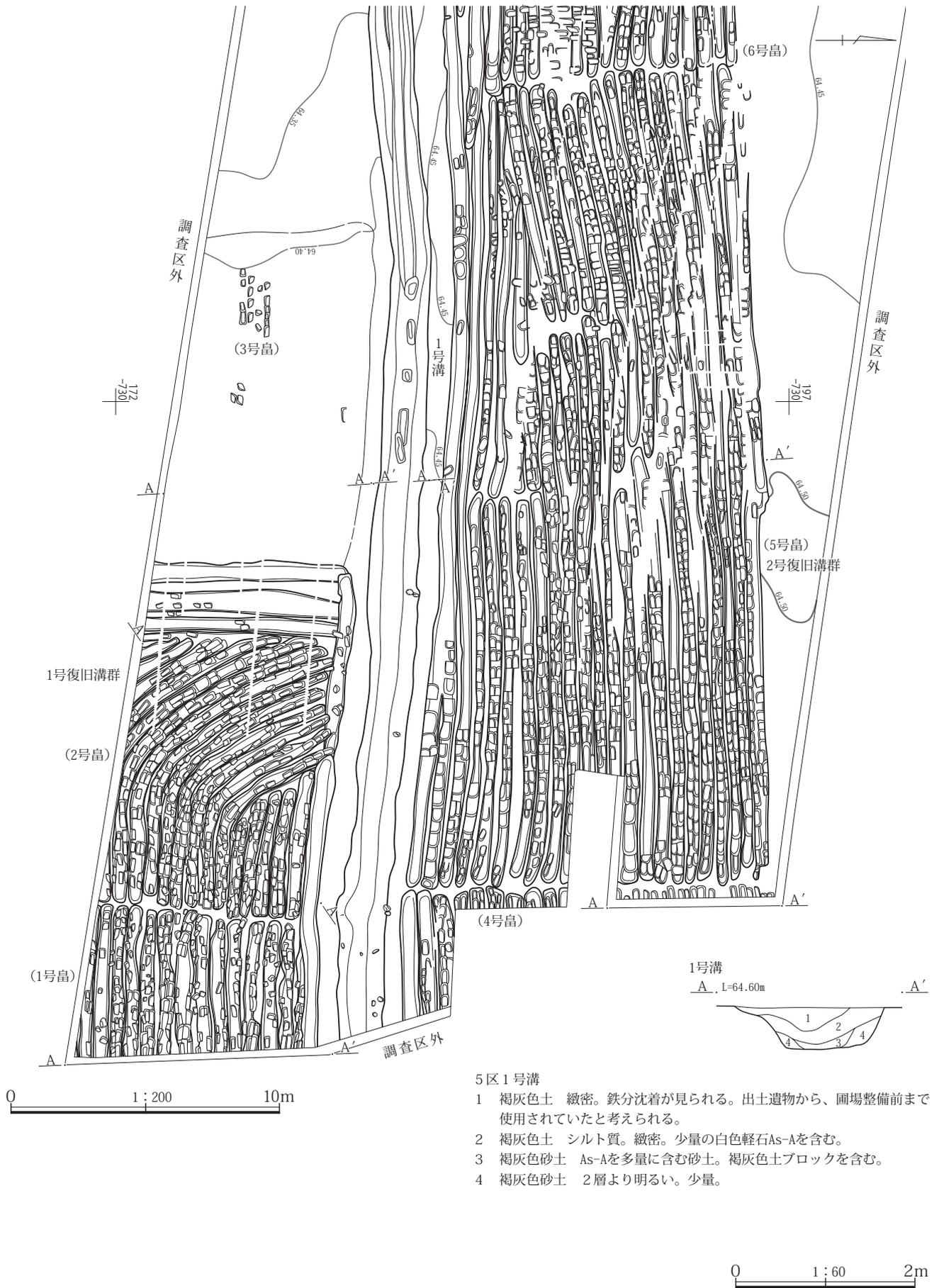
2号は調査区の西側にあり、南北方向に直進する。1号とほぼ同規模の溝で、南側で1号とつながっており、一連の水路であろう。規模は、幅が1.35～2.00m、深さは0.31～0.69mである。



第32図 5区1・2号土坑



第33図 5区1・2号溝、2号復旧溝群



5区1号溝

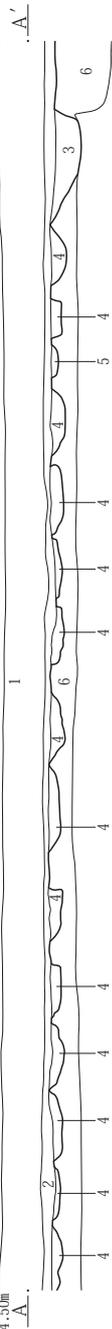
- 1 褐灰色土 緻密。鉄分沈着が見られる。出土遺物から、圃場整備前まで使用されていたと考えられる。
- 2 褐灰色土 シルト質。緻密。少量の白色軽石As-Aを含む。
- 3 褐灰色砂土 As-Aを多量に含む砂土。褐灰色土ブロックを含む。
- 4 褐灰色砂土 2層より明るい。少量。

第34図 5区1号溝、1・2号復旧溝群

5区1号復旧溝群

(1号畠)

L=64.50m

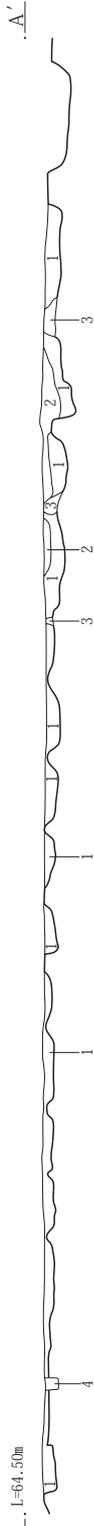


5区1号畠

- 1 褐灰色土に圃場整備時の盛土。上面は現代の耕作土。
- 2 ぶい褐色土。少量の白色軽石(As-A)を含む。
- 3 褐灰色土。As-Aを含む砂土ブロックを含む。
- 4 砂土。As-Aを含む砂土が主体。ぶい褐色土ブロックを含む。
- 5 褐灰色土。少量のAs-A及びぶい褐色土ブロックを含む。
- 6 ぶい褐色土。As-A以前の洪水層か?

(2号畠)

A. L=64.50m



(3号畠)

A. L=64.60m



5区2号畠

- 1 砂土。As-Aを多量に含む砂が主体。灰褐色土ブロックを含む。
- 2 褐灰色土。少量のAs-Aを含む。砂土ブロックを含む。
- 3 ぶい褐色土。As-A以前の洪水層か?
- 4 暗褐色土。直に切れている。圃場整備時のものか?

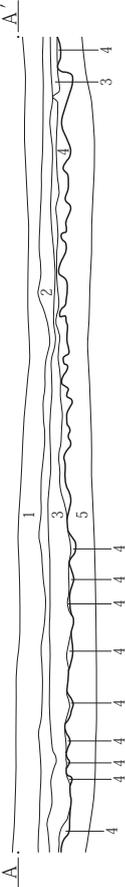
5区3号畠

- 1 灰褐色土。As-Aを含む。砂(ブロック)を多量に含む。

5区2号復旧溝群

(4号畠)

L=64.80m



5区4号畠

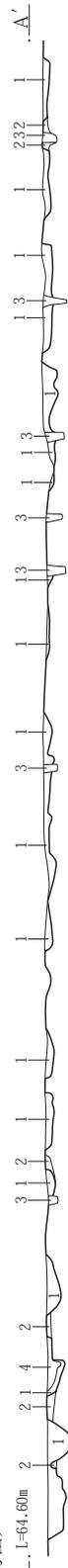
- 1 表土。現代の耕作土。
- 2 褐灰色土。圃場整備時の盛土。
- 3 褐灰色土。少量のAs-Aを含み鉄分の沈着が多く見られる。
- 4 As-Aを多量に含む砂土。As-Aが主体。褐灰色土ブロックを含む。
- 5 明黄褐色土。As-A以前の洪水層か?

5区5号畠

- 1 As-Aを多量に含む砂土。As-Aが主体。明黄褐色土ブロックを含む。
- 2 明黄褐色土。As-A以前の洪水層か?
- 3 褐灰色土ブロック。As-Aを含む砂土ブロック。明黄褐色土ブロックの混合。(幅5~8cmで直に切れている。近代のものか?)
- 4 褐灰色土。少量のAs-Aを含み鉄分の沈着が見られる。

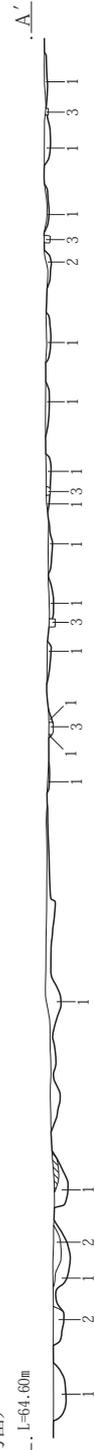
(5号畠)

A. L=64.60m



(6号畠)

A. L=64.60m



5区6号畠

- 1 As-Aを多量に含む砂土。灰黄褐色土小ブロックを含む。
- 2 褐灰色土。As-Aを含む砂土をブロック状に含む。
- 3 褐灰色土。As-Aを含む砂土・灰黄褐色土小ブロックの混合。(幅5~8cmで直に切れている。近代のものか?)

(7号畠)

A. L=64.60m



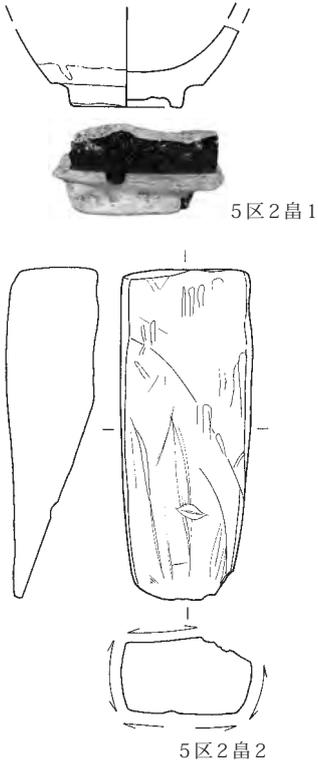
5区7号畠

- 1 As-Aを多量に含む砂土。少量の灰黄褐色土小ブロックを含む。
- 2 灰黄褐色土。As-Aを多量に含む砂土をブロック状に含む。
- 3 褐灰色土。As-Aを含む砂土・灰黄褐色土をブロック状に含む。(幅5~8cmの細かい溝で畠を切っている。近代のものか?)

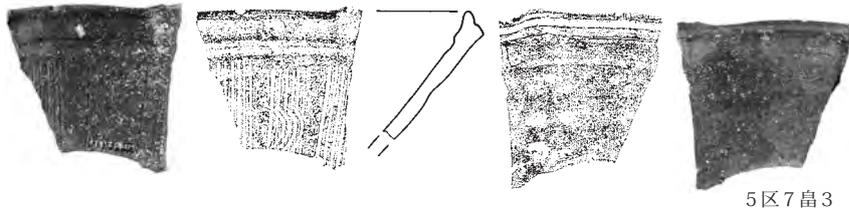
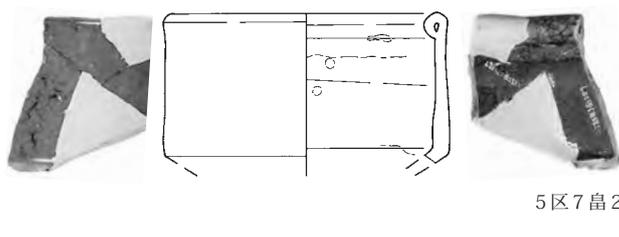
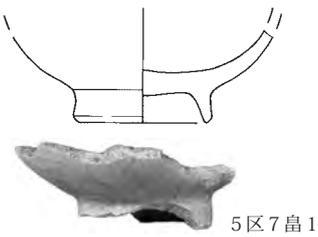
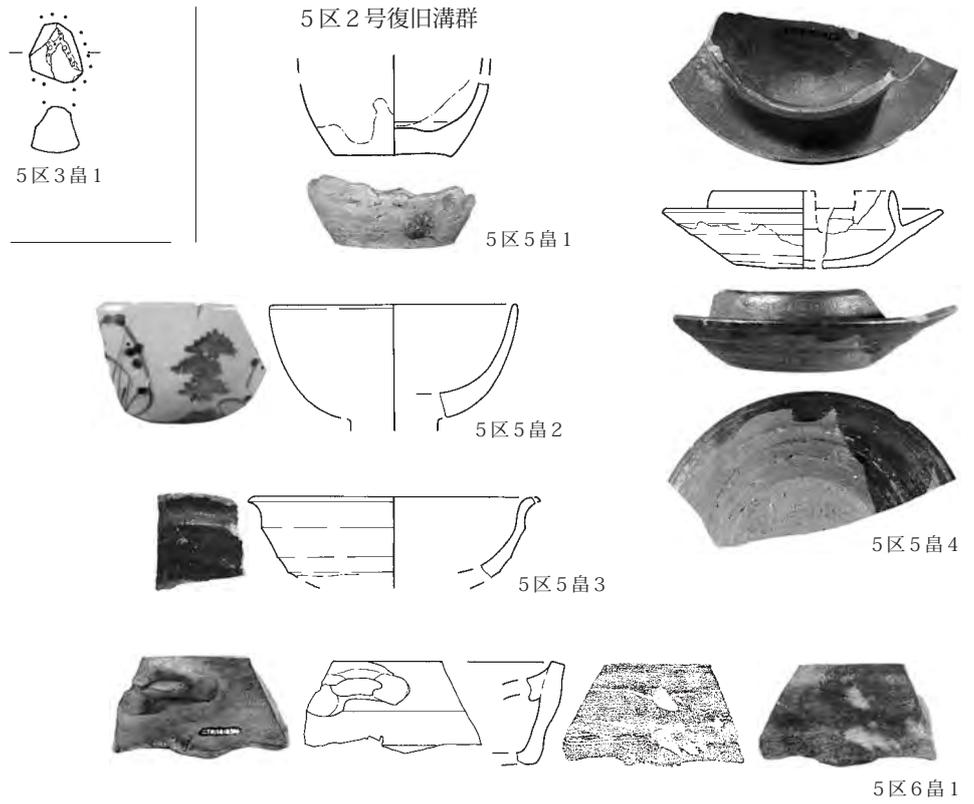


第35図 5区1・2号復旧溝群

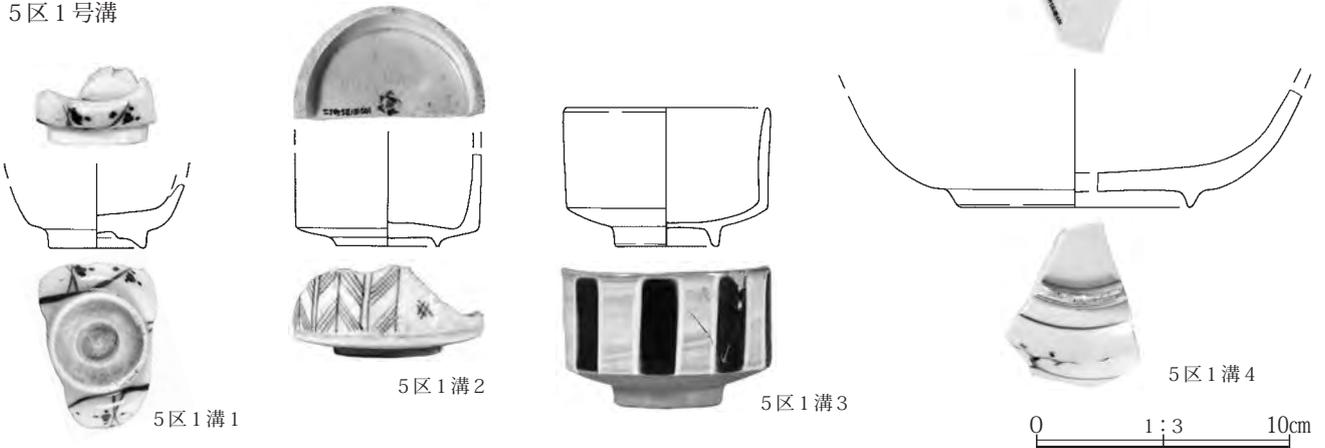
5区1号復旧溝群



5区2号復旧溝群

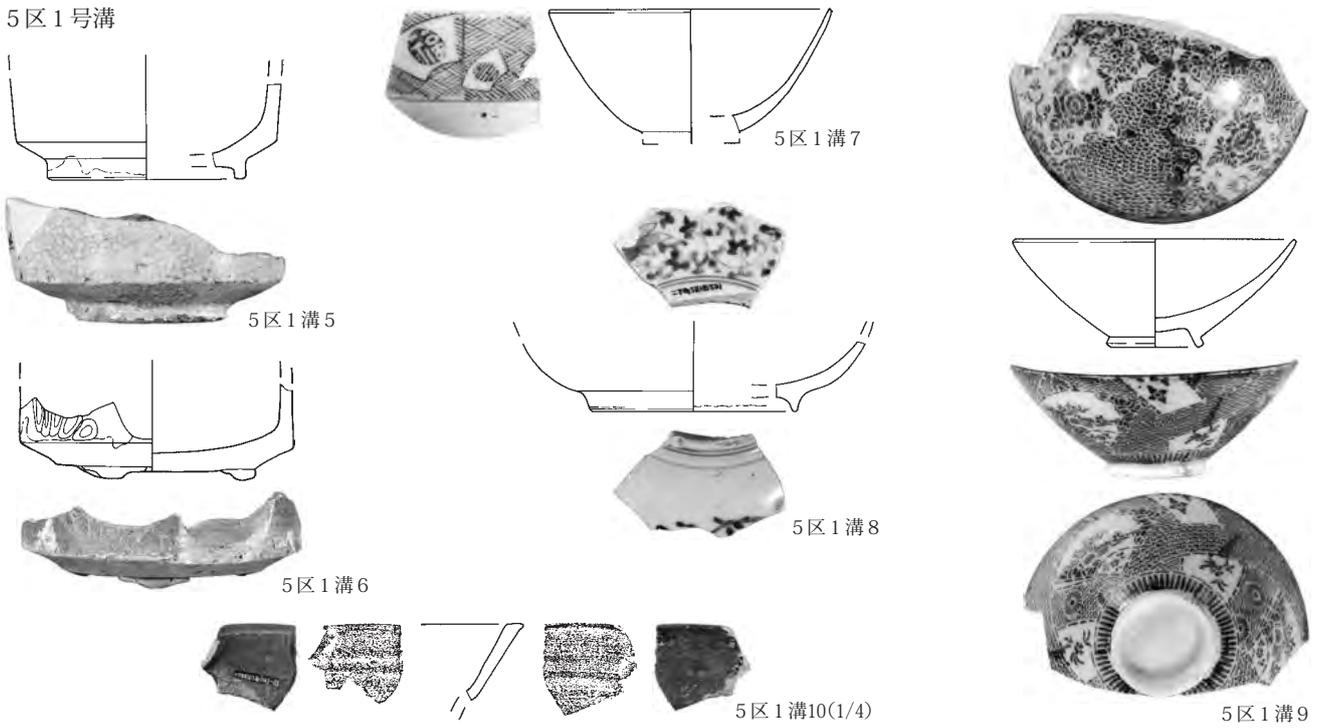


5区1号溝

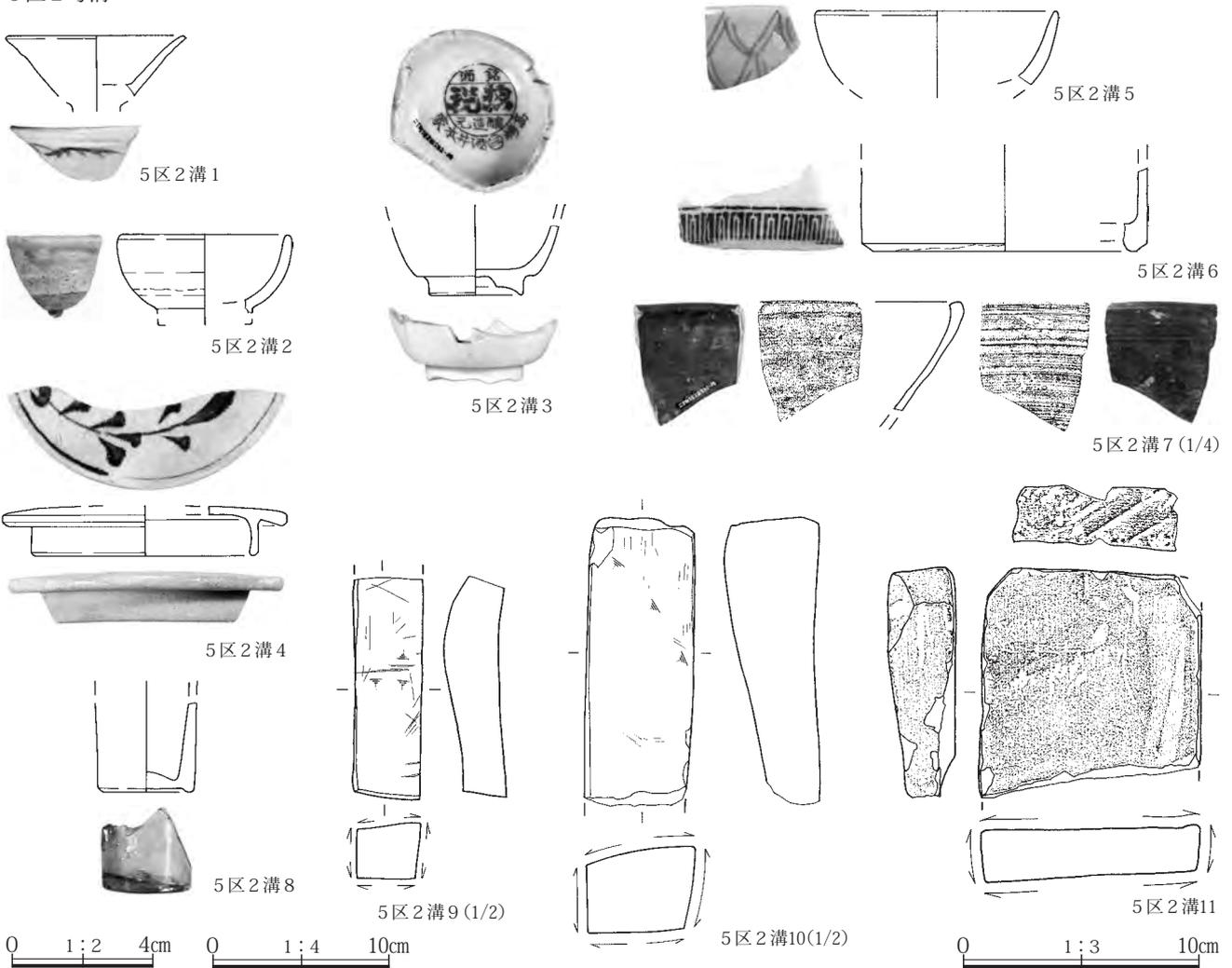


第36図 5区1・2号復旧溝群、1号溝出土遺物

5区1号溝



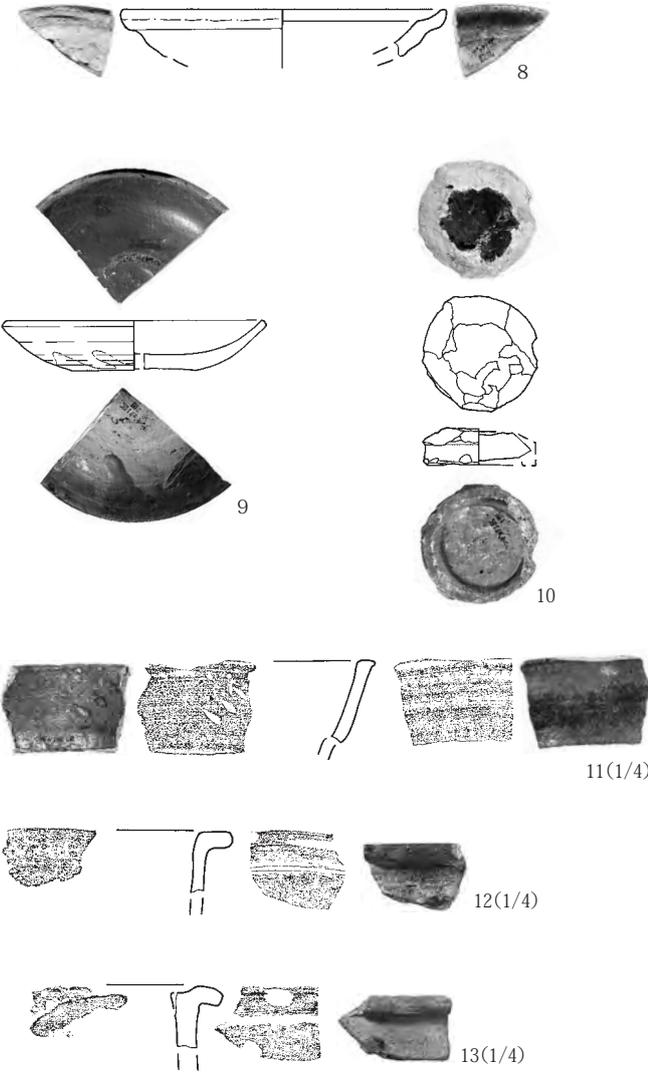
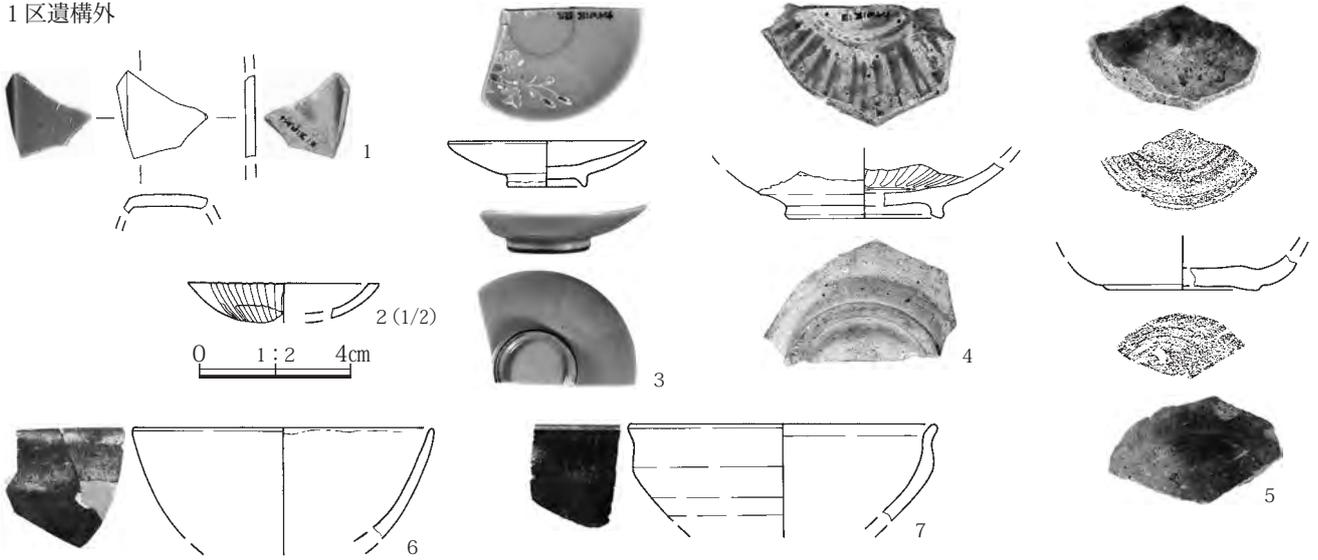
5区2号溝



第37図 5区1・2号溝出土遺物

第3章 近世の遺構と遺物

1区遺構外

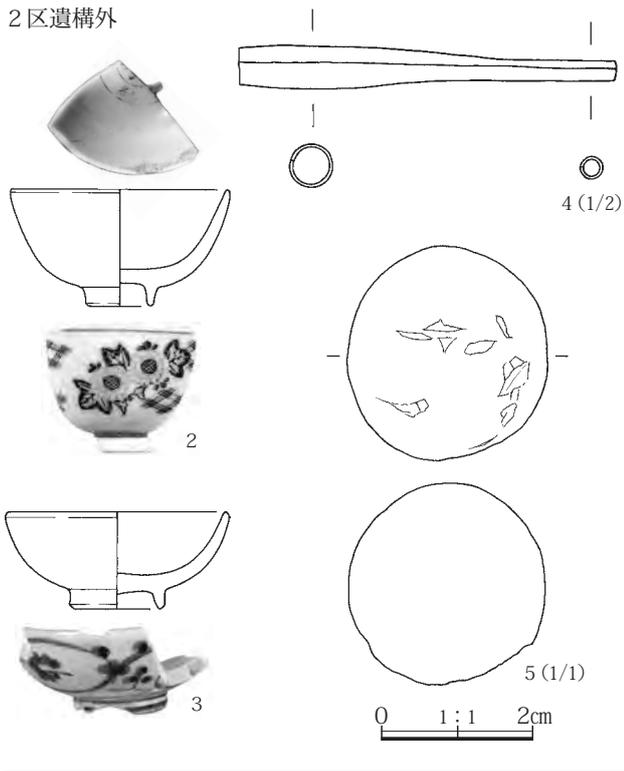


2区遺構外

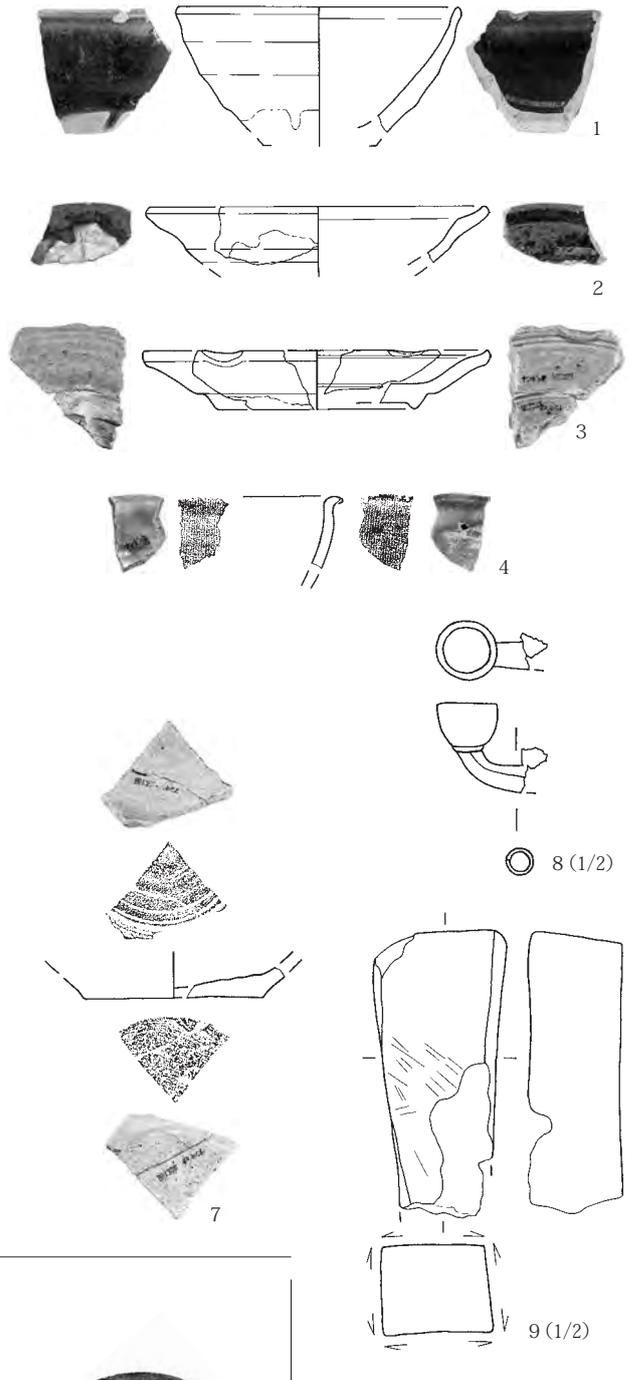


第38図 1・2区遺構外出土遺物(近世)

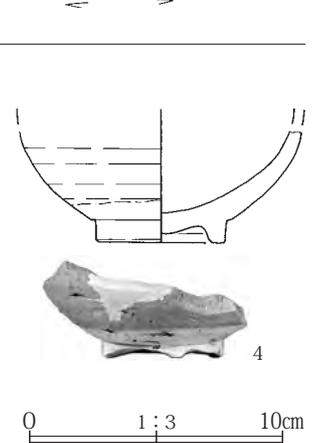
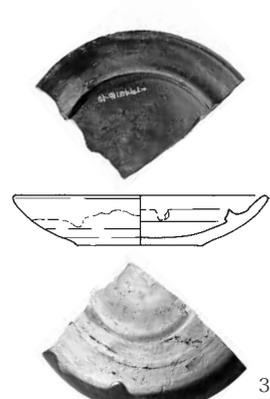
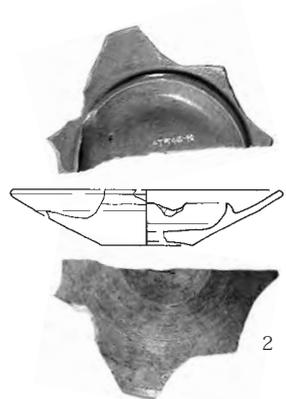
2区遺構外



3区遺構外

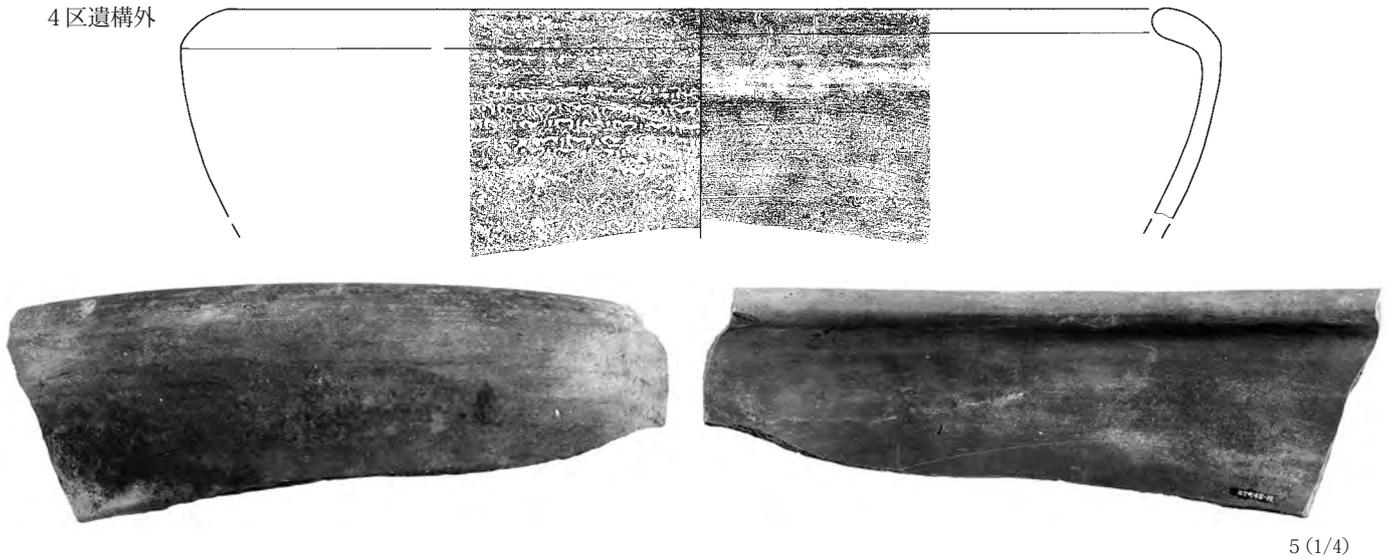


4区遺構外



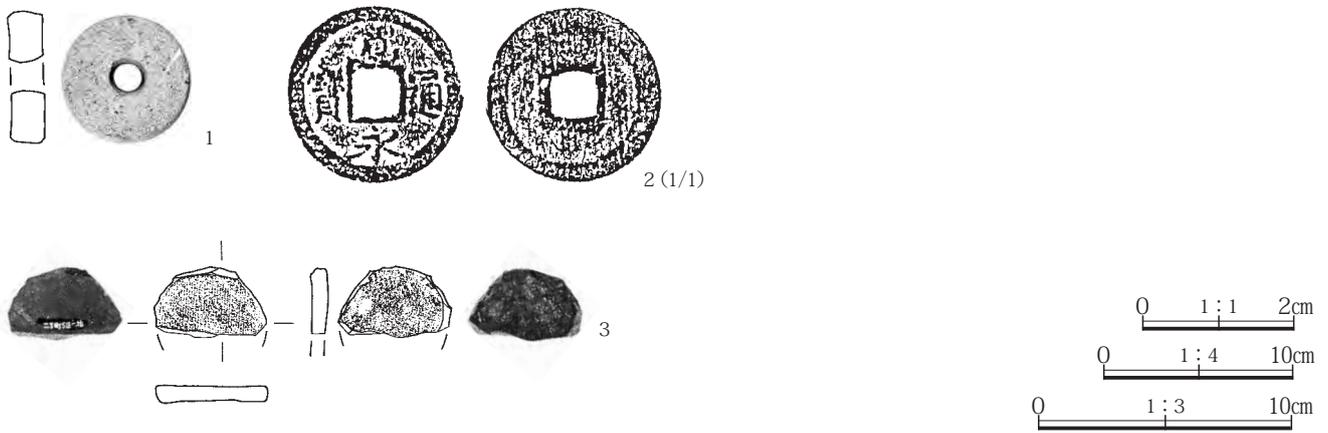
第39図 2・3・4区遺構外出土遺物(近世)

4区遺構外



5 (1/4)

5区遺構外



第40図 4・5区遺構外出土遺物(近世)

3 土坑(第32図 PL.62)

5区で確認された土坑は2基である。この土坑はいわゆる桶土坑(便所)で、2号溝の東側で確認された。通常、便所は家屋に伴う事例が多いが、これは農地に置いた例になるかもしれない。

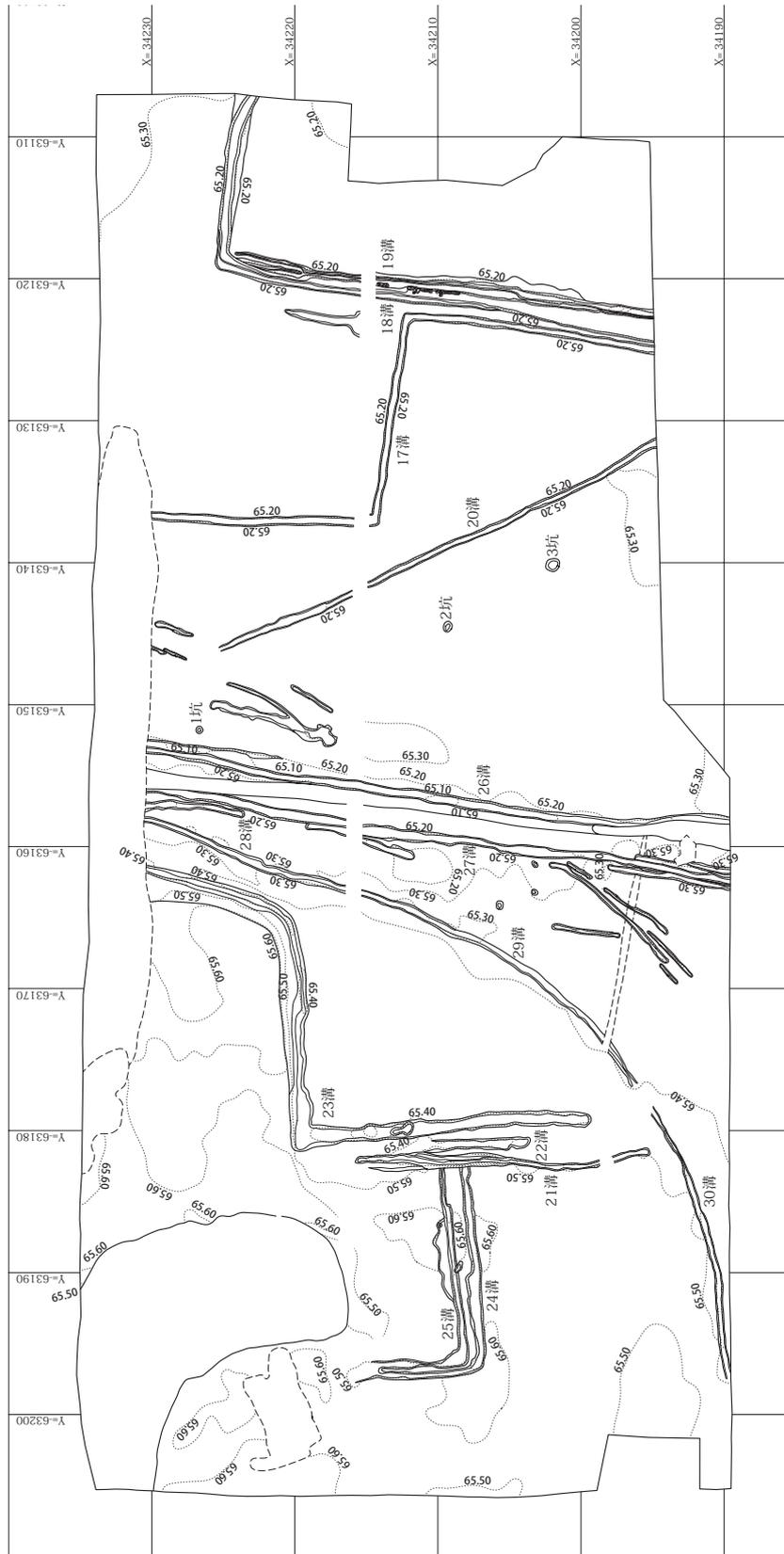
土坑は2号溝に面して南北に2個並んで埋設されており、周囲に生活の痕跡は認められない。規模は、1号が直径1.21mの円形で、深さが1.06m、2号が直径1.17mの円形で、深さが1.12mで、いずれも土坑の上層と下層にタガの痕跡が認められた。

第7節 遺構外の出土遺物

(第38～40図)

第1面の調査等に伴って、各調査区遺構外から図に示したような遺物が出土している。今回の調査区は、江戸時代においては大半が耕作地であったと思われ、出土する遺物量は比較的少ない。それでも、1区で出土した青磁(第38図1)や紅皿(第38図2)は、当時の高級な嗜好品として注目される。

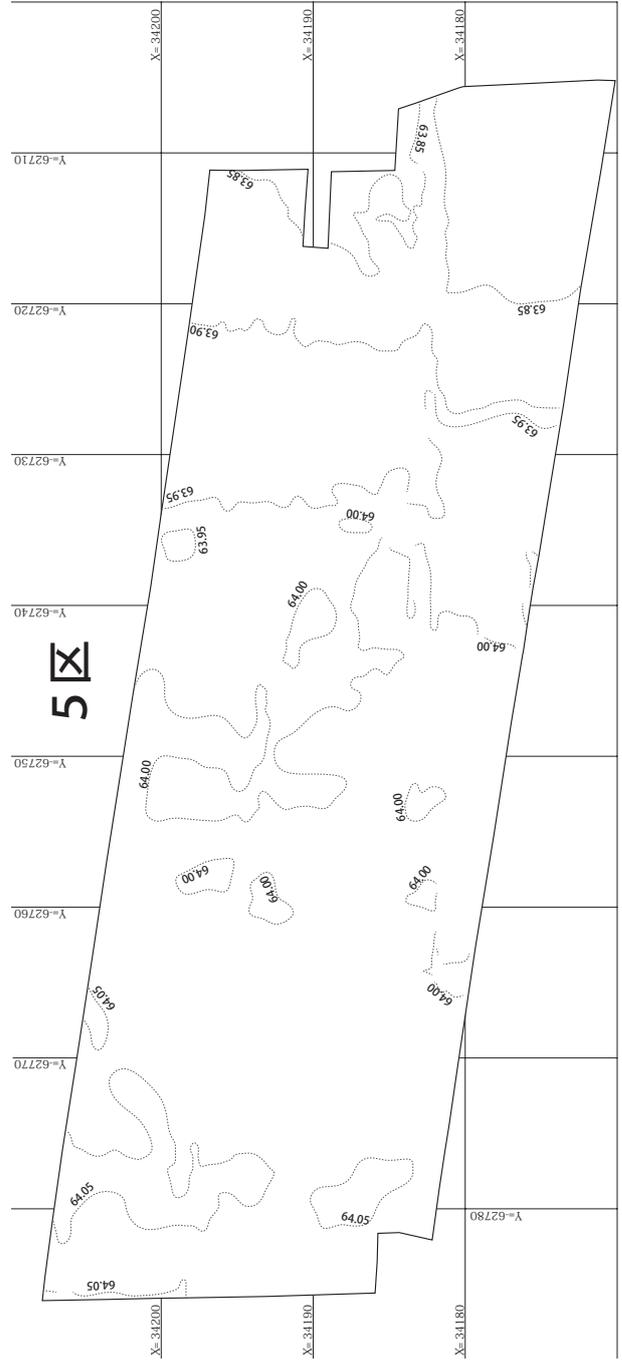
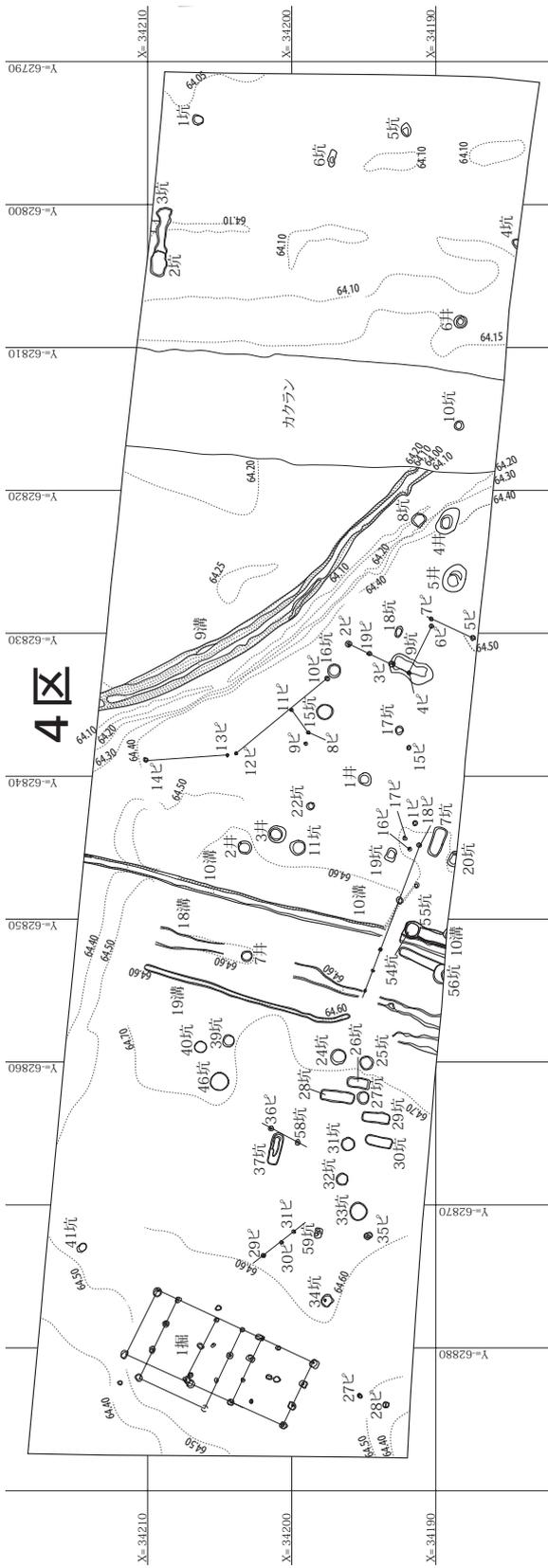
1区



第41図 1区全体図(中世)



第42図 2・3区全体図(中世)



第43図 4・5区全体図(中世)

第4章 中世の遺構と遺物

第1節 発掘調査の概要

1 調査概要

本遺跡では第2面が中世の遺構面で、基本土層ではIV層とV層が中世の土壌に該当する。いずれも天仁元(1108)年に降下した浅間B軽石(As-B)を含む土層で、微高地では20cm前後、低地では40cm前後の層厚で認められた。地区によっては分層も可能であるが、遺構の確認は基本的には同軽石を含まない土層面となる。

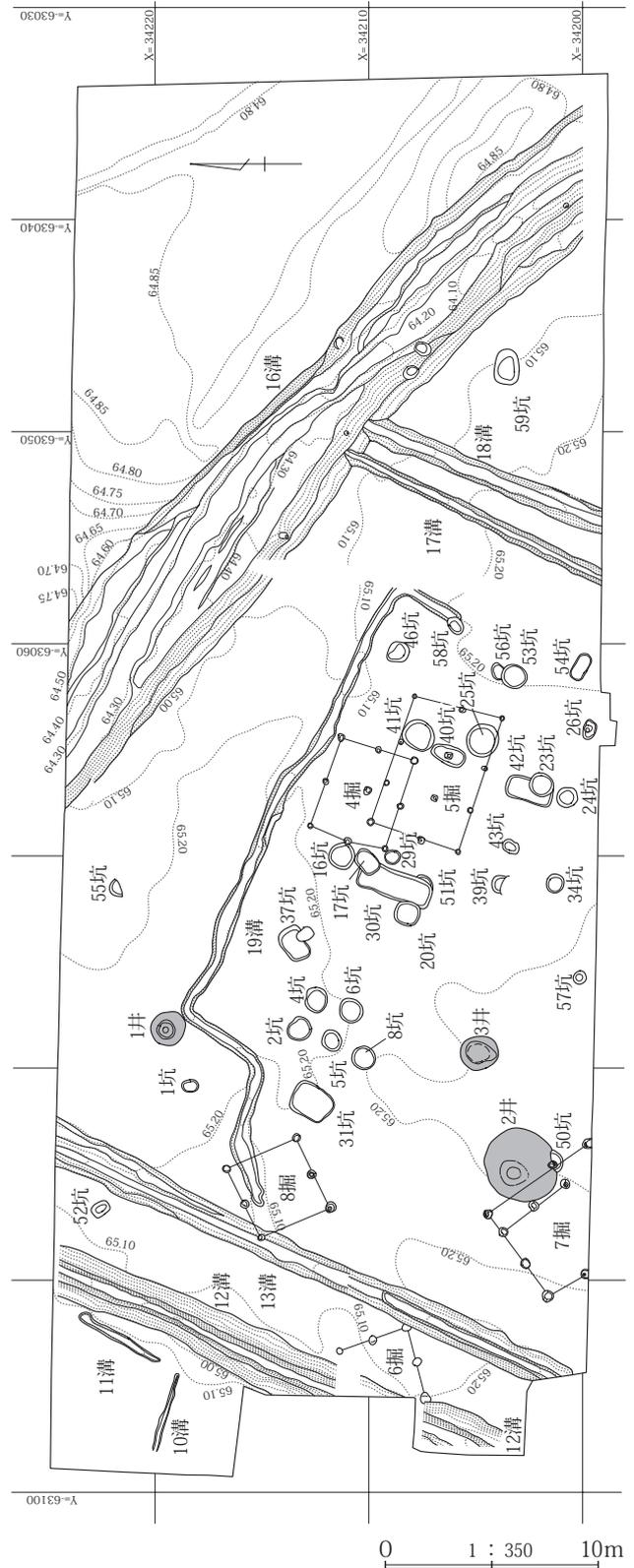
中世の遺構は1区から4区の各調査区で確認されているが、5区ではこの時期の明瞭な遺構は検出できていない。確認された遺構は、掘立柱建物6棟、井戸10基、土坑75基、ピット31基、溝28条である。これらの遺構の多くは2区と4区の微高地上に展開する集落を構成するもので、当然のことながら低地には耕作地が広がっていたと考えられるが、検出するには至っていない。中世の集落は主に溝によって区画されるが、この区画は近世まで継承されているものも多く、耕作地も間断なく継続していたものと想定される。

2 各区の概要

中世では、2区西半と4区西半の微高地上に占地する居住域が当遺跡の中心となる。

1区では土坑3基、溝14条が確認された(第41図)。1区も西半部が微高地、東半部が低地となっているが、微高地には古墳があり、掘立柱建物等の居住を示す施設は確認されていない。おそらく中世にはまだ古墳が残っていたのであろう。溝の多くは幅が狭く、浅いものだが、2条が並走するものも多く、道に伴う水路だった可能性が考えられる。古墳の周囲には、それを取り囲むように直角に折れる区画があり、また東側の低地にも同様の区画がある。これらは、おそらく耕作地の区画を示すもので、他のものに比べてやや規模が大きいのは、水路としての機能も必要だったからであろう。

また、微高地と低地の間に南北に並走する2条の溝



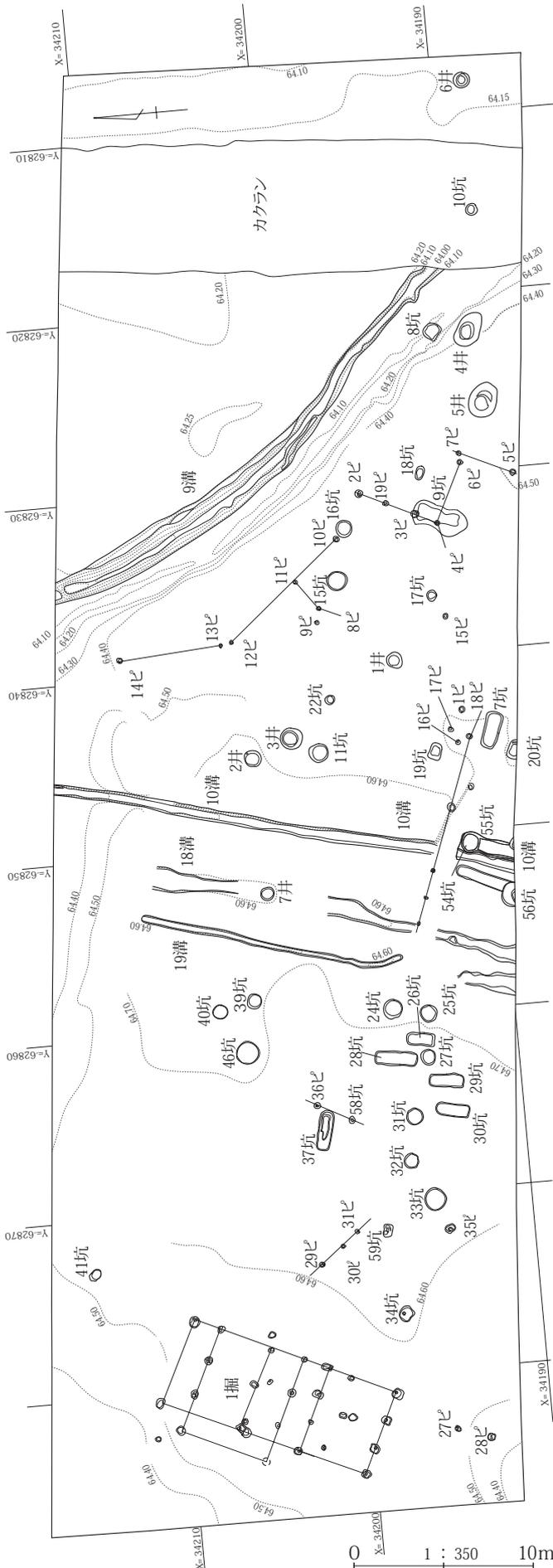
第44図 2区中世の主な遺構

(26・27号)があり、これは明らかに道を示している。その北側から古墳の周囲をめぐるように弧を描く複数の溝(29・30号ほか)がある。これは微高地の縁辺を画す溝で、道を伴った可能性が高い。おそらく長期間にわたって継続されたので、位置が徐々にずれていったのであろう。切り合い関係は不明だが、南北に直進する溝のほうが新しいと考えたい。

2区微高地上には、低地に面する北東側に斜めに直進する幅6mの大溝(16溝)を配し、それに直行する溝を微高地の東西にそれぞれ2条単位で配置している(第44図)。調査区内では掘立柱建物が7棟、井戸3基、土坑34基があり、16号溝の内側にはあたかも掘立柱建物を目隠しするように「冠」状の小さな溝(19号溝)が配置されている。ここは居住区だったと考えられるが、その場合居住区の正面は南か東に想定され、この場所は裏手か脇に該当することになる。確認された掘立柱建物は、方位の異なるものが3種類あり、複数の時期に及ぶ可能性が想定される。4・5号掘立柱建物は重複するが方位は共通で、居住区を区画する溝群の方位と一致しており、19号溝との位置関係も合致している。西側にある6・8号掘立柱建物も方位が共通しており、12号溝や13・19号溝と重複する点も類似している。北東側に底を伴う7号掘立柱建物は、前2者と異なる方位と形態をもっている。また、この居住域の主要井戸と目される2号井戸と重複する点も注意しておきたい。建物の確認数は少ないが、居住区を区画する溝の規模や配置の規格性などから、この一画は館の一部であった可能性が想定される。また、北側を画す16号溝と東側を画す18号溝から多量のかわらけ(Ⅲ)が出土しており、注目される。

3区は土坑3基と溝4条が確認された(第42図)。当時も耕作域だったと想定されるが、並走・重複しながら南北に直進する4条の溝が注目される。これらは道に伴う溝と考えられるが、この位置は平安時代に浅間B軽石埋没水田に伴う幅5mの道があった場所に重複しており、その後も道として継続使用されていたことを示している。

4区居住域は、東側の低地に面して幅0.7~2mほどの9号溝があり、微高地の中央付近に南北に直進する溝が3条併走する(第45図)。微高地上には掘立柱建物1棟、溝3条、井戸7基、土坑40基、ピット31基が点在する。



第45図 4区中世の主な遺構

2区に較べると溝の規模も小さく、遺構の配置もやや規格性に乏しい感がある。確認された掘立柱建物は1棟のみであるが、この他にも直線に並ぶ柱穴は数箇所あり、さらに多くの建物が存在した可能性もある。

また、18号溝が7号井戸と重複する北側の溝中から、破砕された多量の焼人骨が集積した状態で出土している。詳細は第8章で述べるが、この居住区には中世段階に火葬施設もしくは墓があったと考えてよい。なお、3区遺構外から舶載の青磁・白磁、古瀬戸などの稀少品が数多く出土しているが、これらは東側に近接する4区居住区からの遺物であろう。

第2節 掘立柱建物

中世の掘立柱建物は2区で5棟、4区で1棟、合計6棟が確認された。いずれも微高地上にあり、配置等の概要は先述のとおりである。以下、2区1号から順に述べる。

2区4号掘立柱建物(第46図 PL.52・54)

位置：X=207~212、Y=-064~069

重複：5号掘立柱建物、16号土坑

主軸方向：N-72°-E

規模・形態：2区微高地の中央部に位置する。南側の一部を5号掘立柱建物と重複するが、新旧関係は不明である。周囲に土坑が数多くあり、北側に19号溝が近接する。南北2間、東西2間の総柱建物で、19号溝に沿うように東西方向に主軸をとる。柱穴及び柱間寸法などの計測値は、第7表のとおりである。長軸となる東西方向の柱間が南北に対して広い造りになっており、南北方向の柱間も北側のほうがやや広い。確認面がやや低いために柱穴の上層部分を失っているが、掘り方の埋め土には浅間B軽石を含んでいる。

遺物：P1から刀子の破片(1)が出土。

所見：重複する2区5号掘立柱建物と構造や方位が共通しており、新旧関係はあるが、親密な関係にあることは間違いないだろう。

2区5号掘立柱建物(第47図 PL.52~54)

位置：X=203~210、Y=-062~069

重複：4号掘立柱建物、22号・25号・40号・41号土坑

主軸方向：N-71°-E

規模・形態：2区微高地の中央部に位置する。北側の一部を4号掘立柱建物と重複する。周囲に土坑が数多くあり、重複する土坑も多い。南北2間、東西3間の総柱建物で、19号溝に沿うように東西方向に主軸をとる。柱穴及び柱間寸法などの計測値は、第7表のとおりである。4号掘立柱建物と同様に南北方向の柱間が北側のほうが広い造りで、東辺がやや傾斜している。確認面がやや低いために柱穴の上層部分を失っているが、掘り方の埋め土には浅間B軽石を含んでいる。なお、P4では礫2個が敷いたような状態で確認された。

遺物：なし。

所見：方位や造りは4号と共通するが、4号に較べて規模が大きい。目隠しと考えられる19号溝との位置関係は、4号よりこの建物のほうが合致するだろう。

2区6号掘立柱建物(第48図 PL.53・54)

位置：X=207~211、Y=-092~095

重複：12号・13号溝

主軸方向：N-73°-E

規模・形態：調査区の南西隅、12号・13号溝の間で確認された。東辺2間、南辺2間の5本の柱穴のみの確認であるが、両辺は直行しており、柱間もよく揃っている。柱穴及び柱間寸法などの計測値は、第7表のとおりである。方位は8号掘立柱建物に近似しており、一連の可能性が高い。柱痕を残すものが多く、柱痕埋め土には浅間B軽石を含んでいる。

遺物：なし。

所見：形態や規模は不明だが、8号掘立柱建物と共通点があり、一連の施設だった可能性が高い。

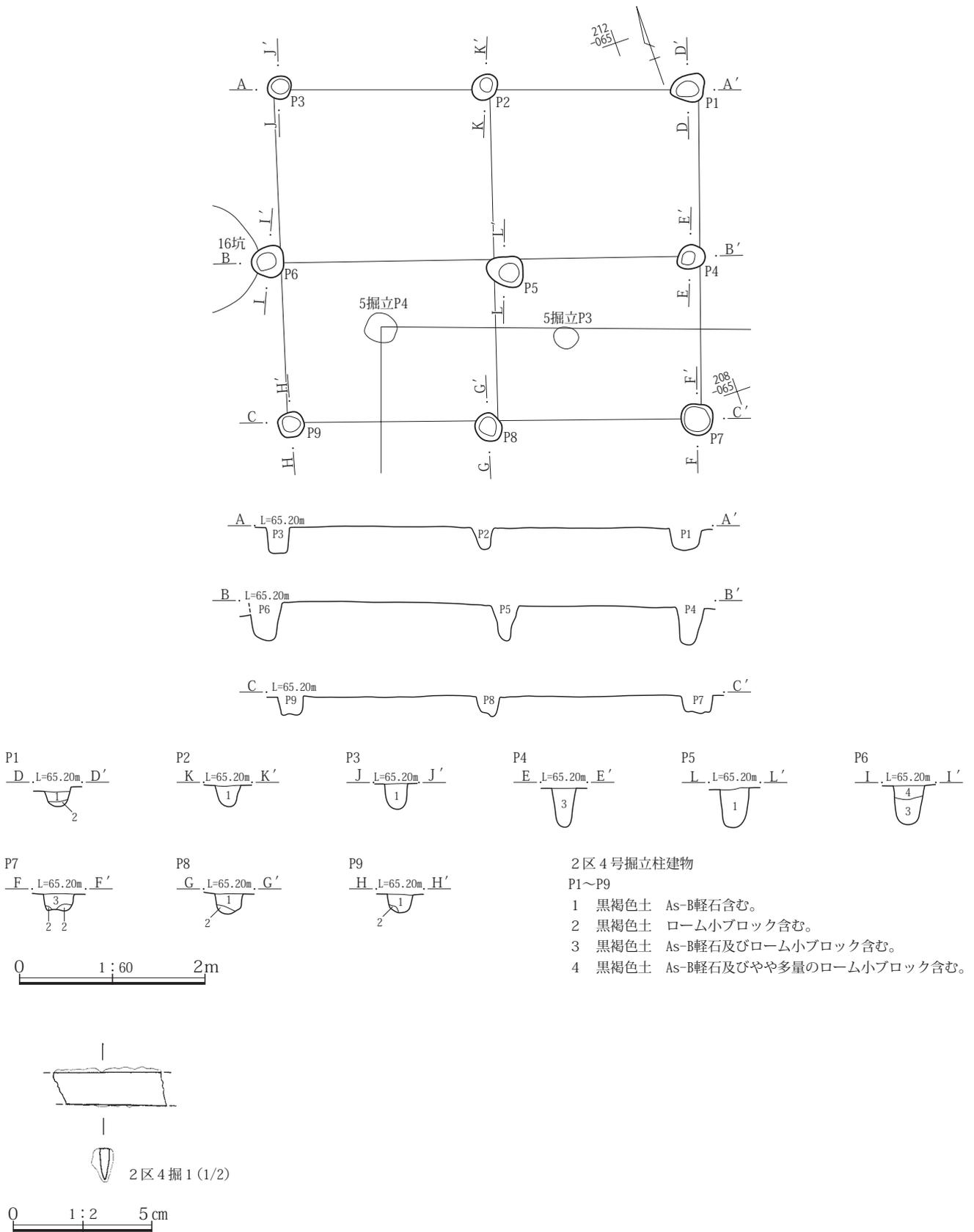
2区7号掘立柱建物(第49図 PL.53・54)

位置：X=199~204、Y=-083~091

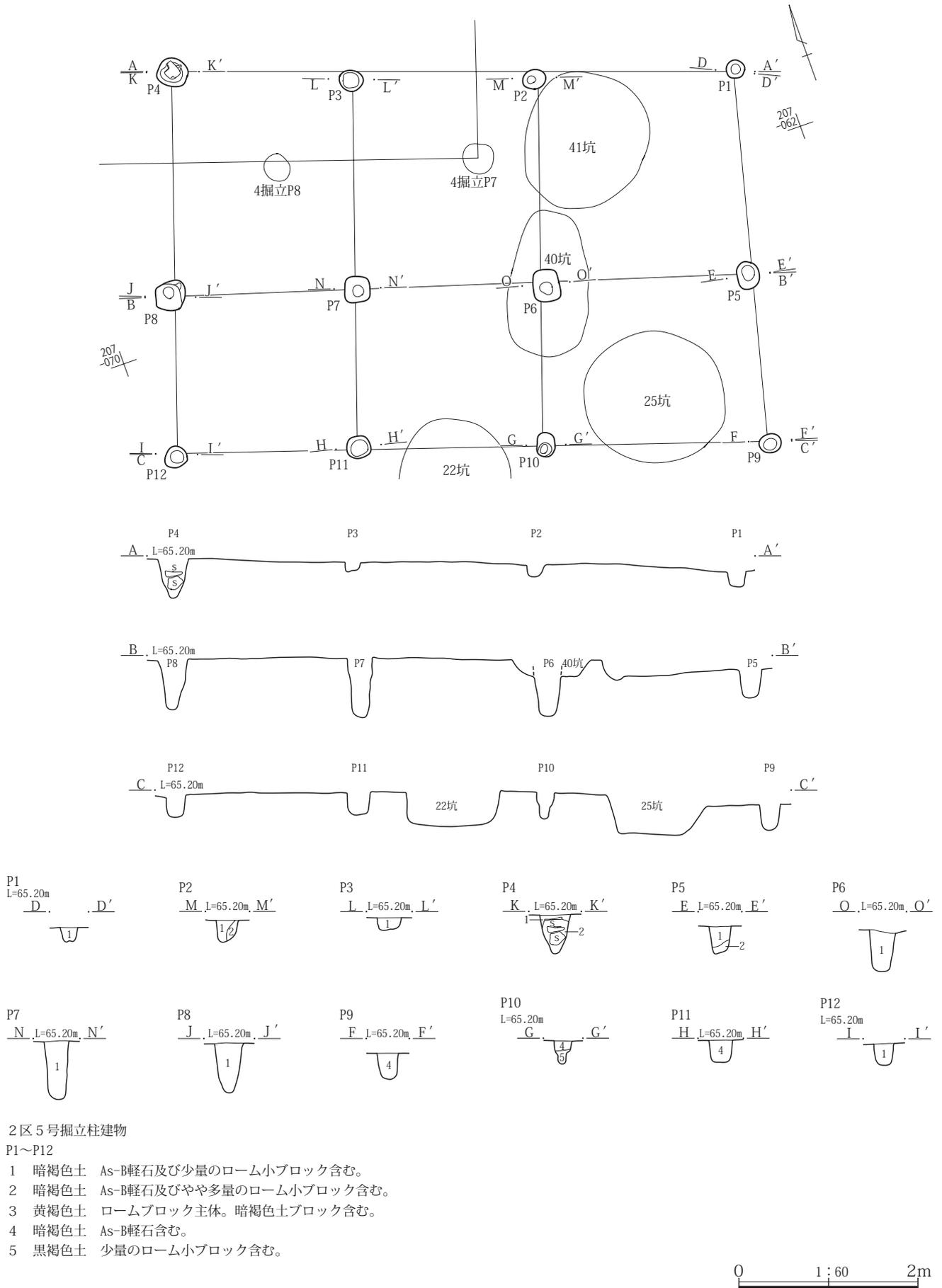
重複：2号井戸・50号土坑

主軸方向：N-36°-E

規模・形態：調査区の北西隅、6号掘立柱建物の南東にあり、南半は調査区外のため未確認である。北西から南東に長軸をもつ建物で、東西2間、南北3間かそれ以上の規模があり、長軸東辺に庇がつく。柱穴及び柱間寸法などの計測値は、第7表のとおりである。柱痕を残すも

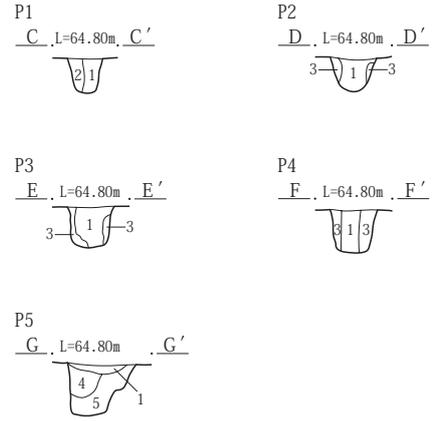
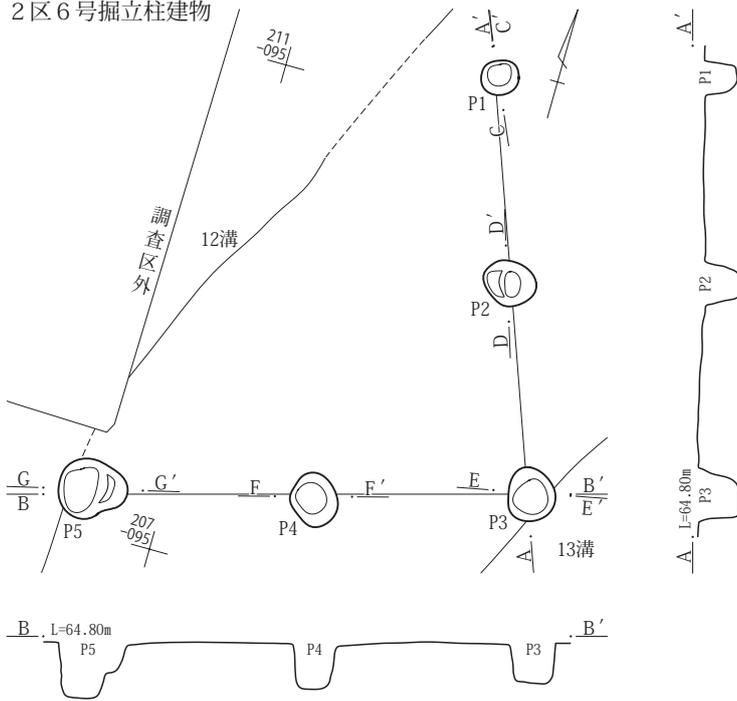


第46図 2区4号掘立柱建物と出土遺物



第47図 2区5号掘立柱建物

2区6号掘立柱建物

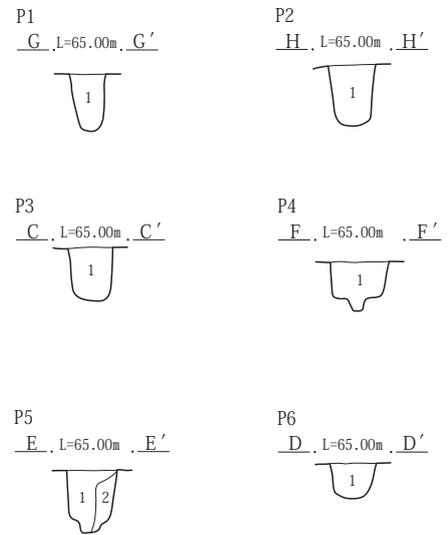
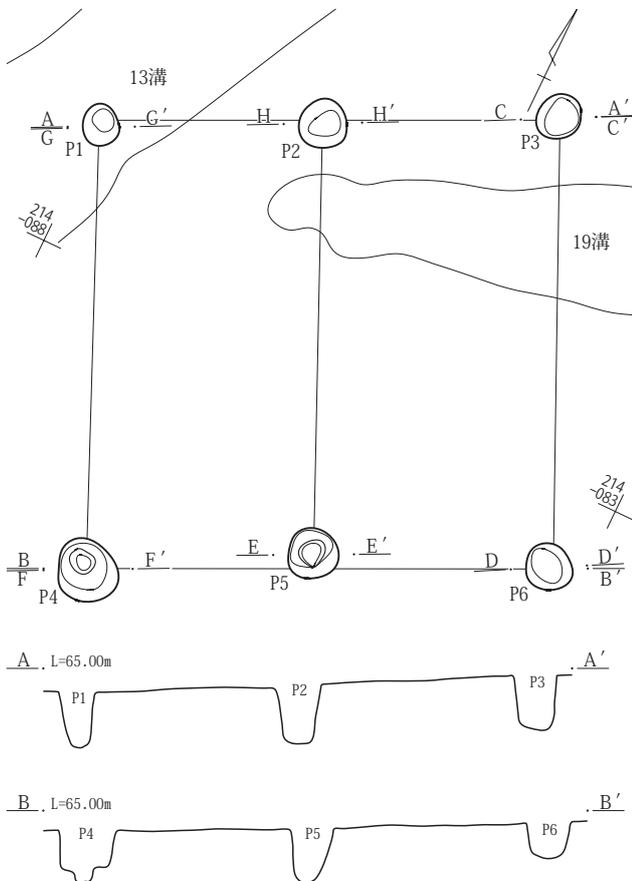


2区6号掘立柱建物

P1~P5

- 1 黒褐色土 As-B軽石含む。
- 2 褐灰色土 黒褐色土含む。
- 3 褐灰色土 少量の黒褐色土小ブロック含む。
- 4 黒褐色土と褐灰色土の混合。
- 5 暗褐色土 褐灰色土粒子・褐灰色土小ブロック含む。

2区8号掘立柱建物



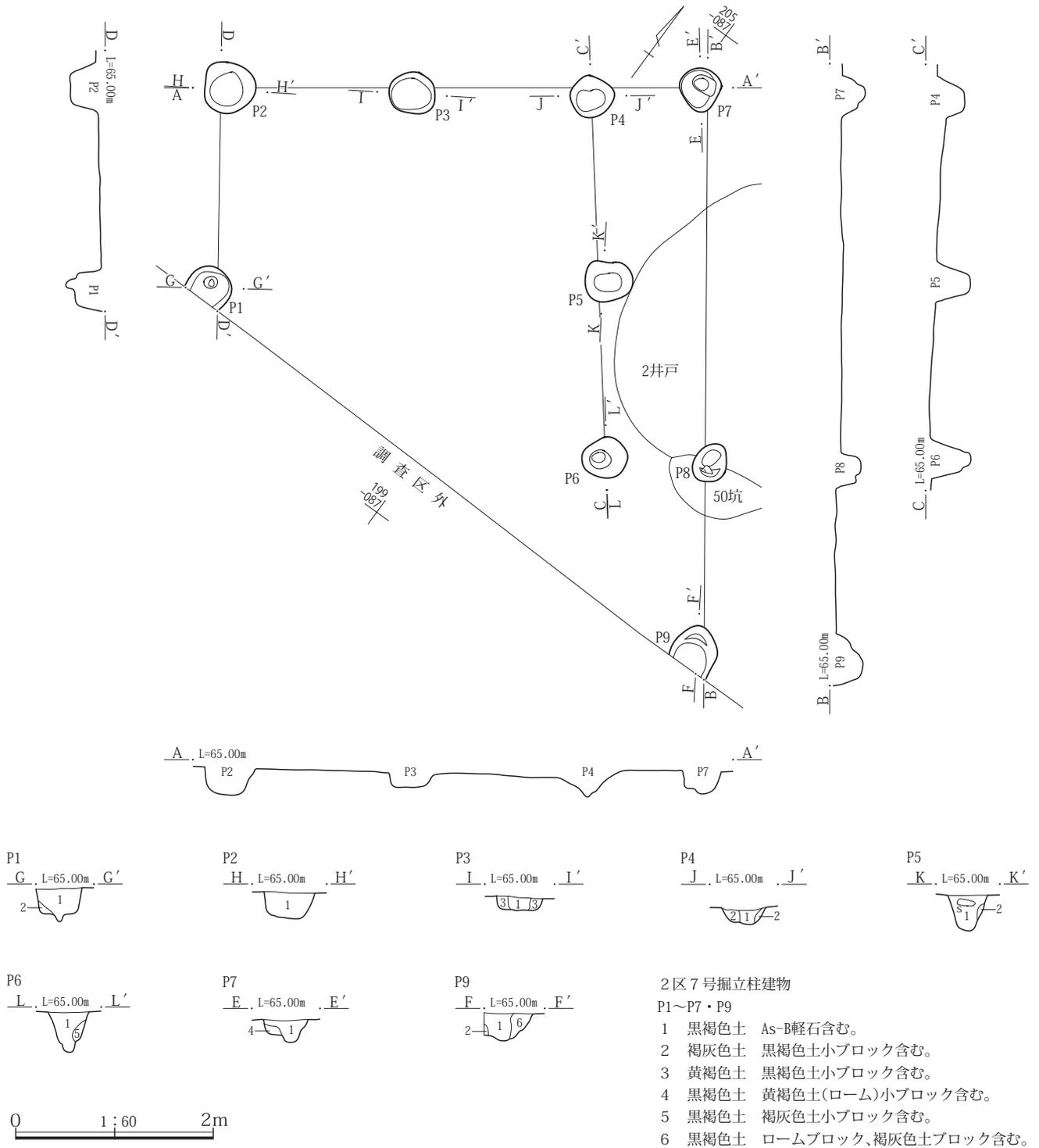
2区8号掘立柱建物

P1~P6

- 1 黒褐色土 As-B軽石及び少量のローム小ブロック含む。
- 2 黒褐色土 ローム小ブロック含む。



第48図 2区6・8号掘立柱建物



第49図 2区7号掘立柱建物

のも多く、柱痕埋め土には浅間B軽石を含んでいる。また、P5では扁平な礫1個を敷いたような状態で確認された。

遺物：なし。

所見：庇がつく側柱の建物とみられ、規模と形態では5棟のなかで最も上位に位置づけられる建物と思われる。主要井戸と考えられる2号井戸と重複している点は注意しておきたい。

2区8号掘立柱建物(第48図 PL.54)

位置：X=211~216、Y=-083~088

重複：13号溝、19号溝

主軸方向：N-64°-E

規模・形態：6号掘立柱建物の北東で確認された。北側を13号溝、19号溝と重複するが、新旧関係は不明である。ほぼ正方形を呈するが、東西は2間、南北は1間の側柱建物となっている。方位は隣接する6号と近似しており、同時期の建物だったとみられる。柱穴及び柱間寸法などの計測値は、第7表のとおりである。柱穴が2段掘りとなっているものもあり、掘り方の埋め土には浅間B軽石を含んでいる。

遺物：なし。

所見：東西辺と南北辺の長さが一致しており、南北側が1間となることに疑問がある。2間×2間、あるいは2間×3間となる可能性もあるとしておきたい。

4区1号掘立柱建物(第50図 PL.54・55)

位置：X=198~211、Y=-875~885

重複：4区2号掘立柱建物(平安時代)

主軸方向：N-25°-E

規模・形態：調査区の西側に位置する。この建物は、調

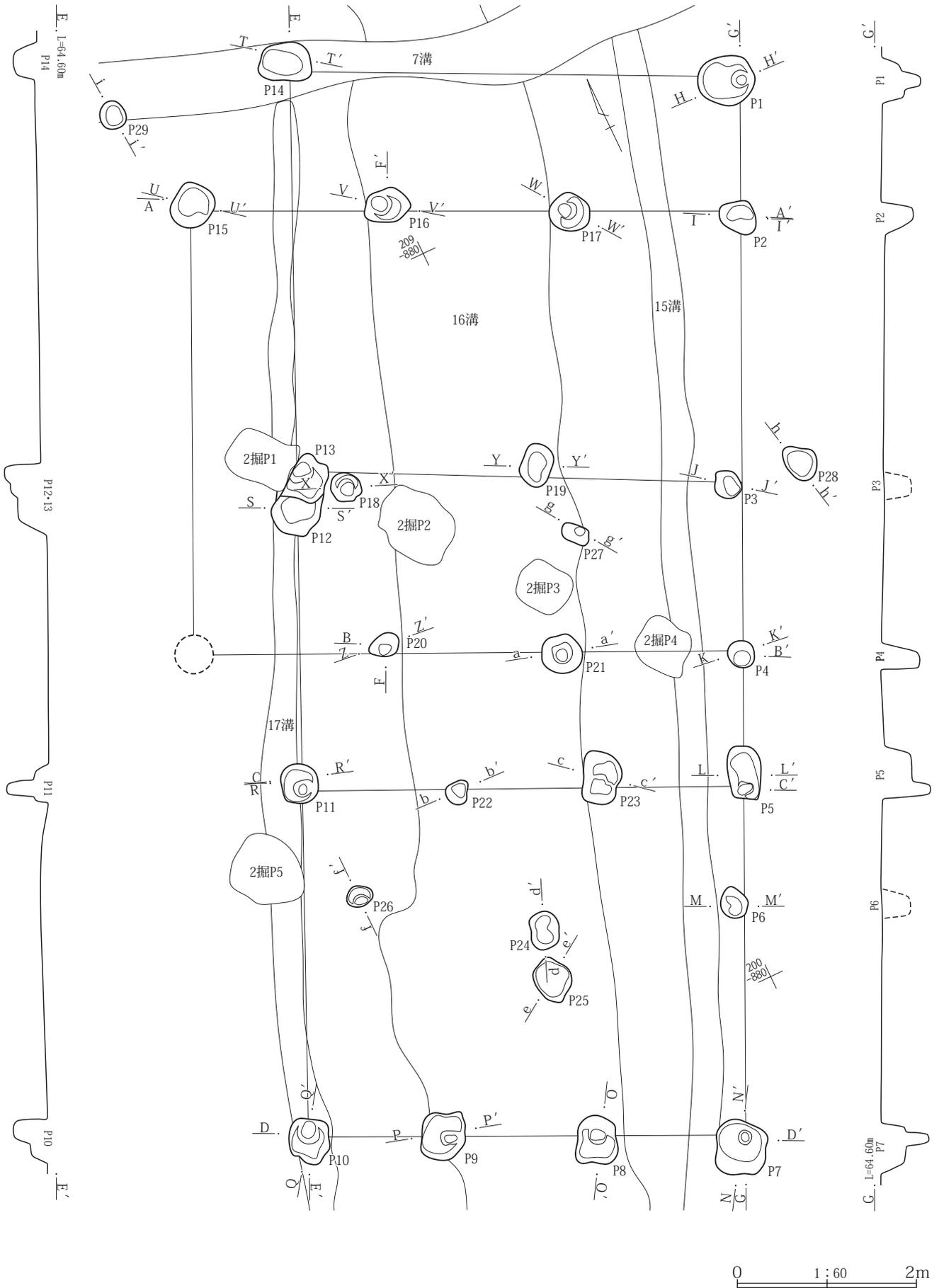
査時には南半部を1号掘立柱建物、北半部を2号掘立柱建物としていたが、整理段階で検討の結果、両者を併せ、さらに周辺の土坑・ピットも活用して一連の建物として変更した。長軸となる南北方向の長さは11.8mと長大で、柱間が食い違う部分も多く、十分な検討を経ていないが、増改築の結果だと判断したい。柱穴及び柱間寸法などの計測値は、第7表のとおりである。柱穴の掘り方が方形を呈するものも多く、埋め土には浅間B軽石を含んでいる。
遺物：なし。

所見：長軸の方位は、溝や長方形土坑の長軸とほぼ共通しており、一連の施設だったものと思われる。この場所と方位はその後、江戸時代の15号~17号溝に継承されており、この施設が道等の区画に面していた可能性が考えられる。なお、南側の1間×3間の区画の中央に柱穴が2つあるが、このスペースは厩だった可能性もある。

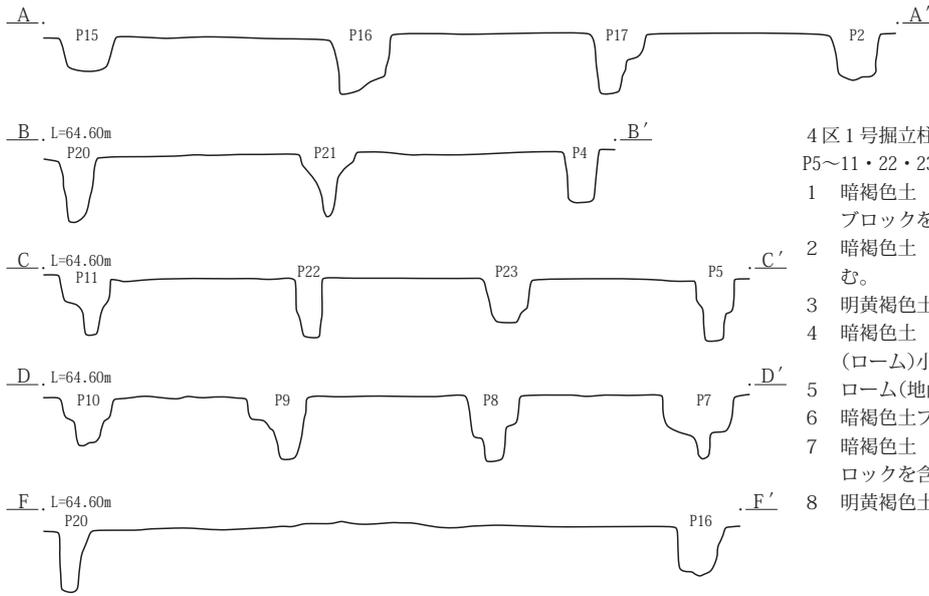
第3節 井戸

(第52~58図 PL.62~64)

中世の井戸は2区で3基、4区で7基が確認された。2区の井戸はいずれも微高地の中央部にあり、中でも2号井戸が主要な井戸だったと思われる(第44図)。4区の井戸はいずれも微高地の東半部にあり、一つはさらに東の低地に位置する(第54図)。1号~3号は低地に面した微高地上に並んでおり、4号・5号はさらに東の微高地を下った端にあり、6号はその東の低地内に位置する。7号は微高地の中央を南北に貫く18号溝と重複しており、4区では最も東に位置する。7号は最も高い場所にあるが、深さは4区の中で最も浅く、水が得られたのか疑問がある。いずれにしても4区井戸の位置関係を見ると、微高地東側にも建物施設が存在した可能性を暗示していると考えたい。



第50図 4区1号掘立柱建物(1)



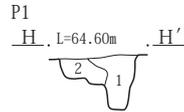
4区1号掘立柱建物

P5~11・22・23

- 1 暗褐色土 細かい軽石(As-B)及び明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。(柱痕?)
- 2 暗褐色土 やや多量の明黄褐色土(ローム)ブロックを含む。
- 3 明黄褐色土 ローム主体。暗褐色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 細かい軽石(As-B)及びやや多量の明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
- 5 ローム(地山)
- 6 暗褐色土ブロックと明黄褐色土(ローム)ブロックの混合。
- 7 暗褐色土 細かい軽石(As-B)及び微量の明黄褐色土小ブロックを含む。
- 8 明黄褐色土 ローム主体。暗褐色土小ブロックを含む。

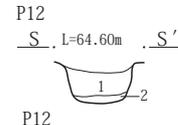
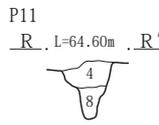
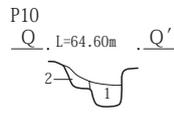
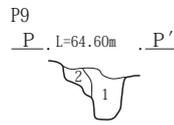
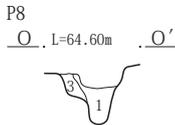
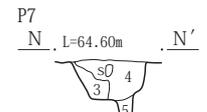
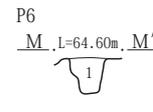
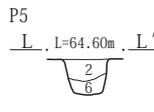
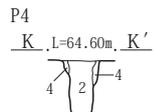
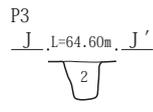
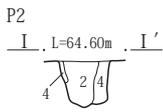
P2~4・17・18・20・21

- 1 暗褐色土 細かい軽石(As-B)及び少量の明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
- 2 黒褐色土 細かい軽石(As-B)及び少量の明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
- 3 明黄褐色土 ローム主体。黒褐色土小ブロックを含む。
- 4 黒褐色土 細かい軽石(As-B)及びやや多量の明黄褐色土(ローム)ブロックを含む。
- 5 暗褐色土 やや多量の明黄褐色土小ブロックを含む。



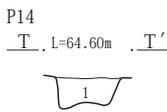
P1

- 1 暗褐色土 細かい軽石(As-B)及び少量の明黄褐色土小ブロックを含む。
- 2 明黄褐色土 ローム主体。暗褐色土小ブロックを含む。



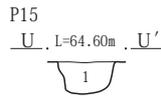
P12

- 1 黒褐色土 細かい軽石(As-B)を含む。
- 2 灰白色砂土 砂。多量の軽石(As-B)を含む。



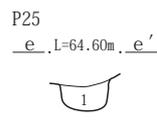
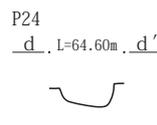
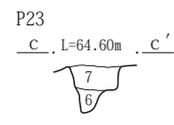
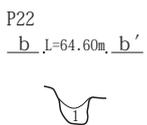
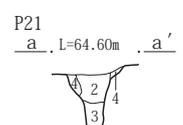
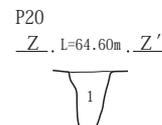
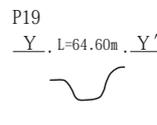
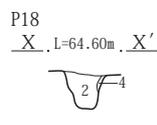
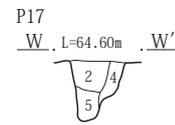
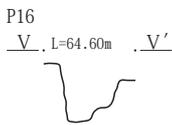
P14

- 1 黒褐色土 多量の明黄褐色土小ブロックを含む。



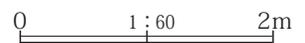
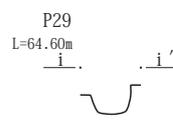
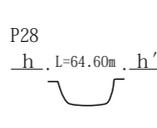
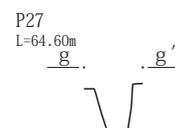
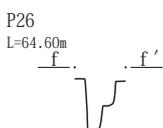
P15

- 1 黒褐色土 白色軽石(As-C)及び少量の明黄褐色土小ブロックを含む。

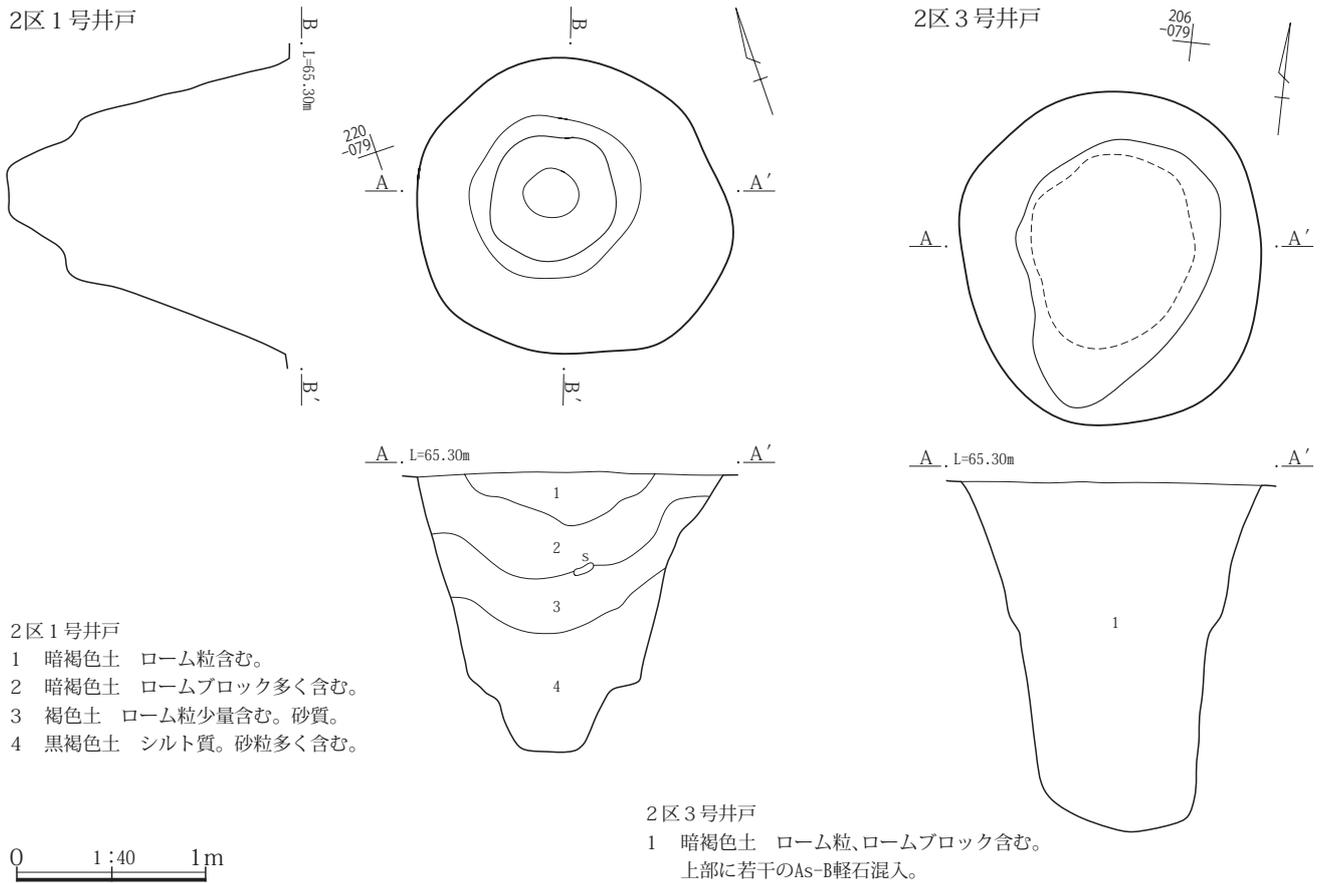


P25

- 1 黒褐色土 少量の白色軽石(As-C)及び明黄褐色土小ブロックを含む。



第51図 4区1号掘立柱建物(2)



第52図 2区1・3号井戸

2区1号井戸(第52図 PL.62)

微高地中央の北寄りに位置する。目隠しと見られる19号溝が直角に折れる部分に接するようであり、西側を画す13号溝まで約6mの位置にある。平面形は1.70×1.55mのほぼ円形で、深さは確認面から1.50mである。覆土中から少量の平安時代の遺物が出土したが、中世の井戸と判断した。

のほぼ円形で、確認面からの深さは1.86mである。覆土中から平安時代の遺物が出土しているが、微高地中央の北寄りに位置する。目隠しと見られる19号溝が直角に折れる部分に接するようであり、西側を画す13号溝まで約6mの位置にある。平面形は直径1.1mほどの円形で、深さは確認面から1.39mである。覆土中に浅間B軽石を含む。

2区2号井戸(第53図 PL.63)

微高地中央の南寄りに位置する。南側を50号土坑・7号掘立柱建物と重複する。西側を画す13号溝まで6mの距離にあり、1号井戸と平行する。周囲が大きく崩落しており、平面形は3.61×3.30mの楕円形で、深さは確認面から1.96mである。中位付近に多量の礫が投げ込まれており、それらに混じって数多くの中世陶磁器類が出土している。また、覆土中に浅間B軽石を含む。

4区1号井戸(第54図 PL.63)

微高地東側に位置する。平面形は0.94×0.88mのほぼ円形で、深さは確認面から0.94mで浅い。中に礫が数多く投げ込まれており、覆土中に浅間B軽石を含む。

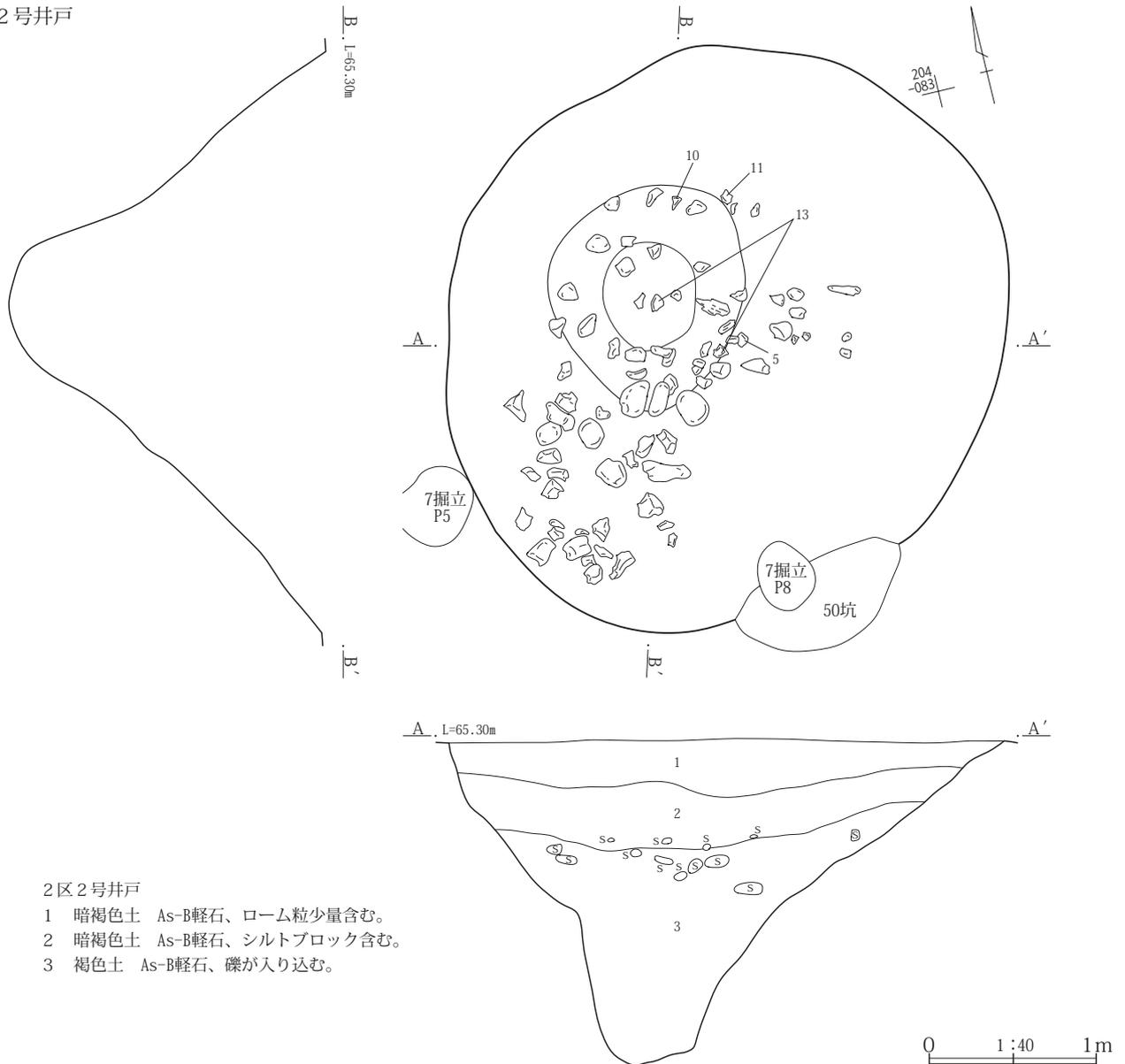
4区2号井戸(第54図 PL.63)

微高地東側にあり、1号井戸の北西18mに位置する。平面形は0.98×0.92mのほぼ円形で、深さは確認面から0.99mである。1号井戸とほぼ同じ形態であり、覆土中に浅間B軽石を含む。

2区3号井戸(第52図 PL.63)

2号井戸の東3mに近接する。平面形は1.79×1.62m

2区2号井戸



2区2号井戸

- 1 暗褐色土 As-B軽石、ローム粒少量含む。
- 2 暗褐色土 As-B軽石、シルトブロック含む。
- 3 褐色土 As-B軽石、礫が入り込む。

第53図 2区2号井戸

4区3号井戸(第54図 PL.63)

微高地東寄りにあり、2号井戸の南東3mに近接する。低地縁辺に沿って1・2号井戸と共に直線上に並んでいる。平面形は1.26×1.20mのほぼ円形で、深さは確認面から1.27mである。覆土中位に多量の礫が投げ込まれており、少量の平安時代遺物が出土した。また、覆土中に浅間B軽石を含む。

4区4号井戸(第55図 PL.63)

微高地東側の縁辺に位置する。低地に接する位置にあり、規模も大きい。平安時代の2号住居を切って構築されている。平面形は2.11×1.30mの楕円形で、深さは確

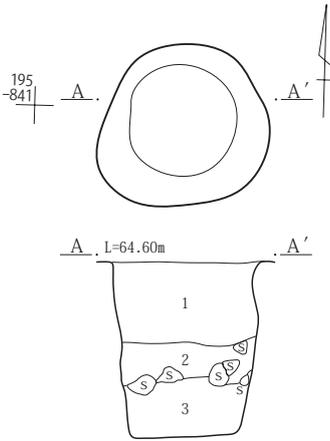
認面から1.41mである。中位以上が大きく崩落しており、長期使用されたことを暗示する。下半に多量の礫が投げ込まれており、覆土中から埴輪等の遺物が出土した。また、覆土上半に浅間B軽石を含む。

4区5号井戸(第55図 PL.63)

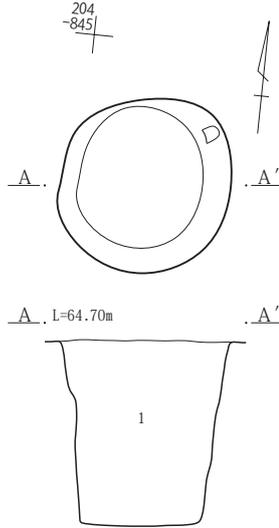
微高地東側縁辺にあり、4号井戸の西2mに近接する。4号井戸と共にこの地区の主要井戸である。平面形は2.01×1.52mの楕円形で、深さは確認面から1.44mである。4号井戸と同様に2号住居を切っており、中位以上が崩落している。平安時代の遺物が出土しているが、覆土上半に浅間B軽石を含む。

第4章 中世の遺構と遺物

4区1号井戸



4区2号井戸



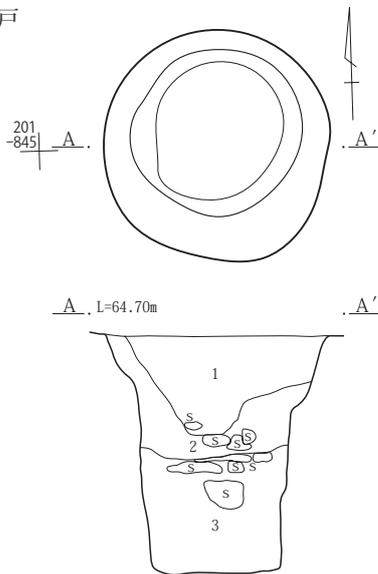
4区1号井戸

- 1 暗褐色土 軽石(As-B)及び少量の黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 As-B及び多量の拳大から人頭大の河原石を多量に含む。石を投げ込んでいる。
- 3 黒褐色土 少量の黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。

4区2号井戸

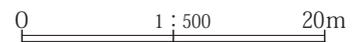
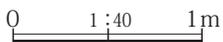
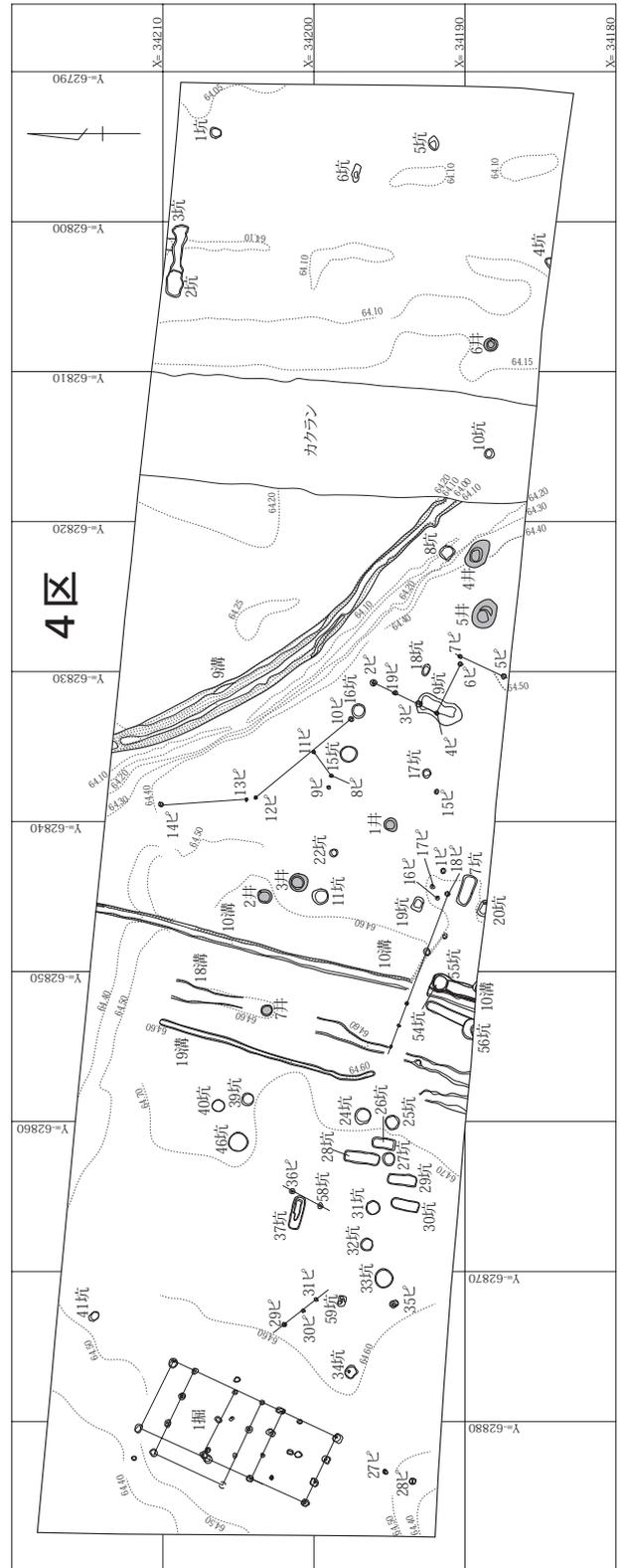
- 1 暗褐色土 軽石(As-B)及び少量の黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
- *同じ土で埋まっている。

4区3号井戸

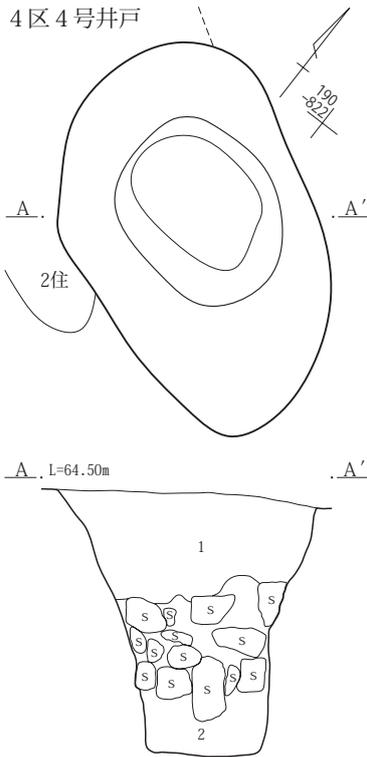


4区3号井戸

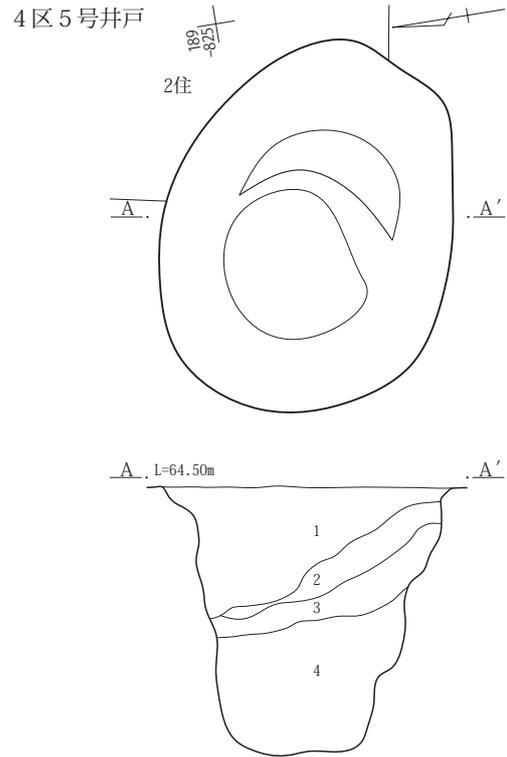
- 1 暗褐色土 軽石(As-B)及び少量の黄褐色土小ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 軽石(As-B)及びやや多量の黄褐色土(ローム)ブロックを含む。
- 3 黒褐色土 拳大から人頭大の石を多量に含む。石が投げ込んでいる。



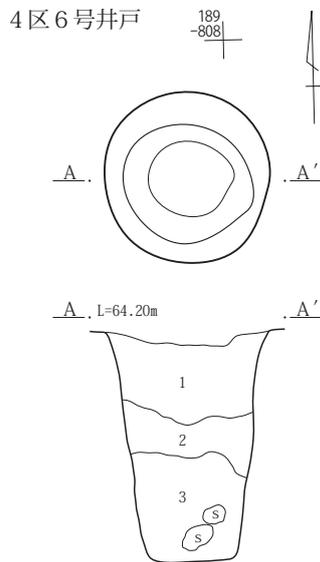
第54図 4区1～3号井戸



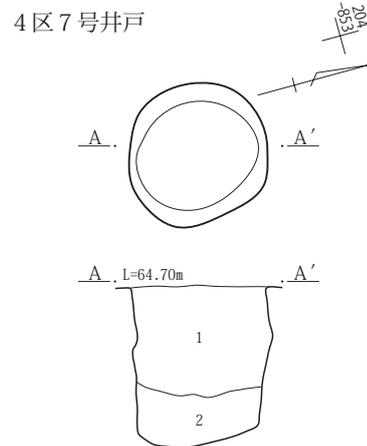
- 4区4号井戸
- 1 暗褐色土 軽石(As-B)及び少量の黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
 - 2 暗褐色土 多量の拳大から人頭大の石を含む。石が投げ込んである。



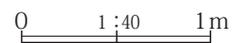
- 4区5号井戸
- 1 暗褐色土 多量の軽石(As-B)を含む。
 - 2 灰黄色土 砂質土。軽石(As-B)を含む。
 - 3 暗褐色土 軽石(As-B)及びにぶい黄色土(ローム)ブロックを含む。
 - 4 黒褐色土 少量の灰黄色土小ブロックを含む。



- 4区6号井戸
- 1 暗褐色土 やや多量の軽石(As-B)及び黄褐色土小ブロックを含む。
 - 2 黒褐色土 少量の明褐色土小ブロックを含む。
 - 3 黒褐色土 明褐色土ブロック及び拳大の石を含む。

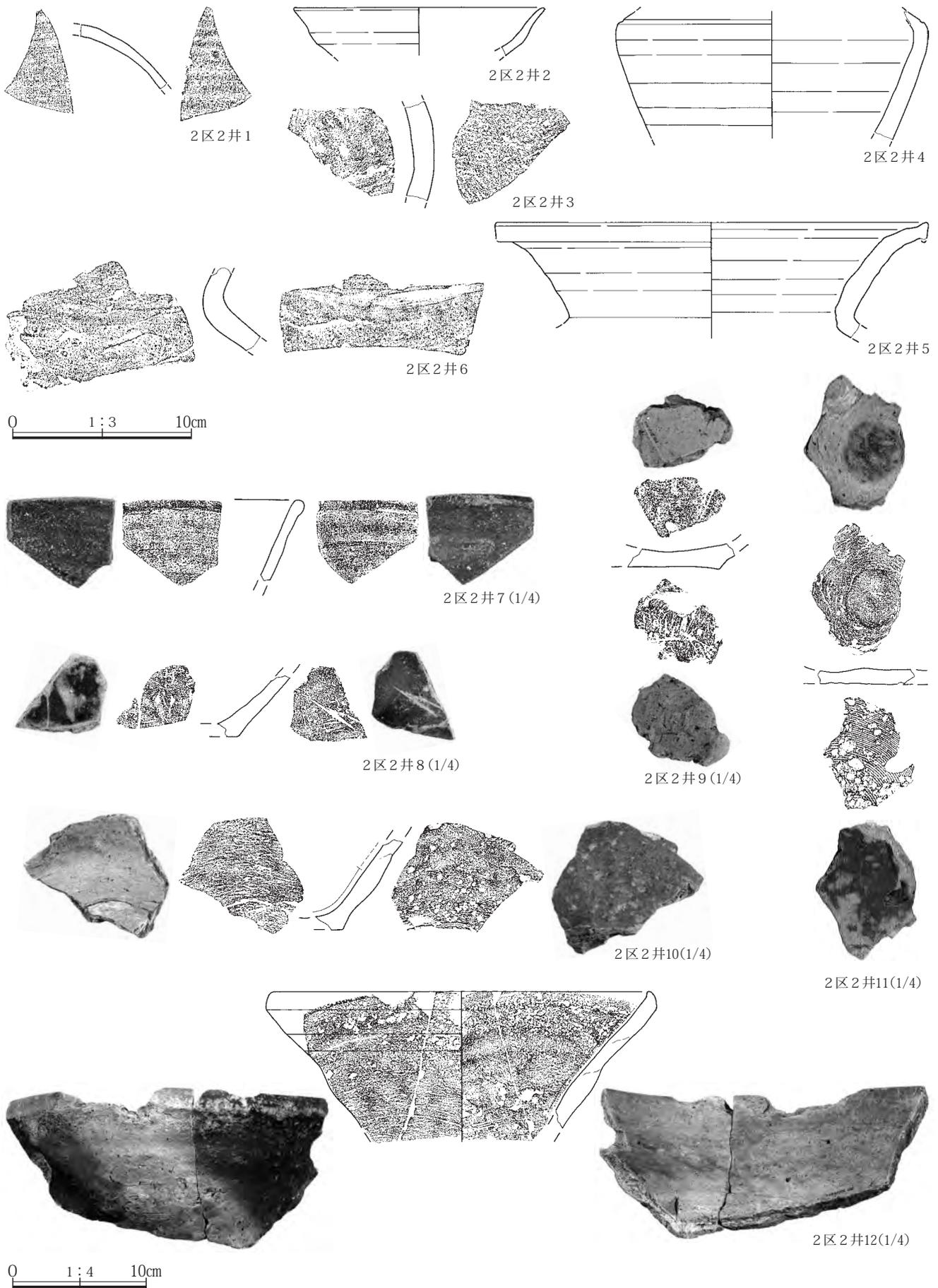


- 4区7号井戸
- 1 黒褐色土 細かい軽石(As-B)及び少量の明黄褐色土ブロック、焼土粒子を含む。
 - 2 明黄褐色土 ローム主体。黒褐色土ブロックを含む。



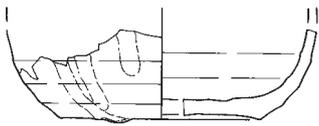
第55図 4区4～7号井戸

第4章 中世の遺構と遺物

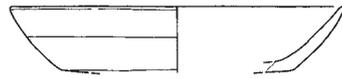


第56図 2区2号井戸出土遺物

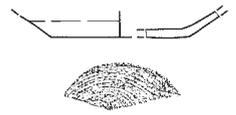
第3節 井戸



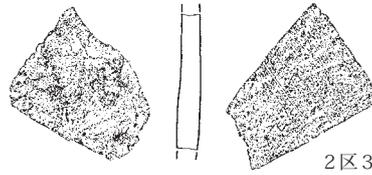
2区2井13(1/4)



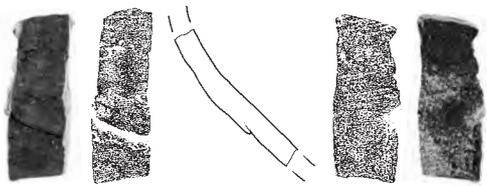
2区3井1



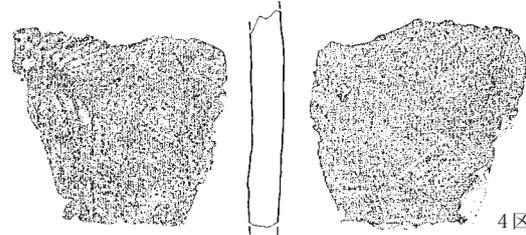
2区3井2



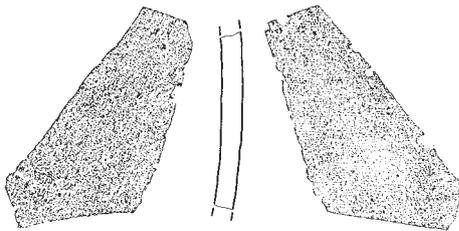
2区3井3



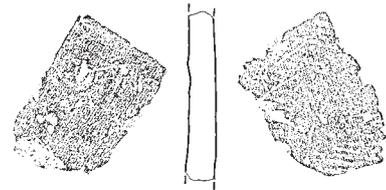
2区2井14(1/4)



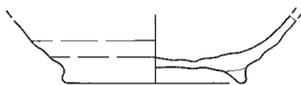
4区3井1



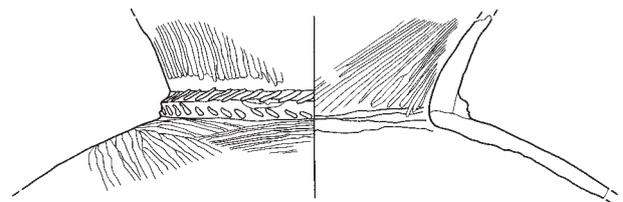
4区3井2



4区3井3



4区4井1

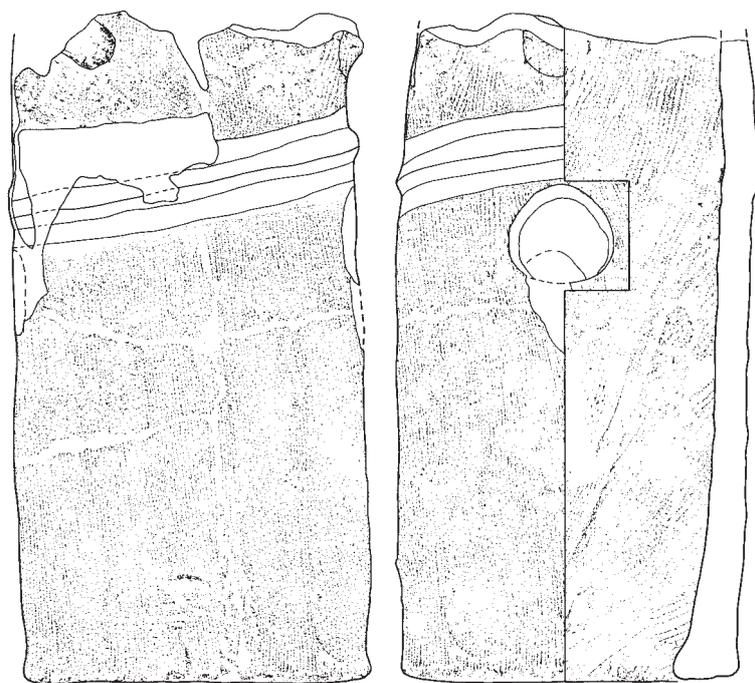


4区4井2

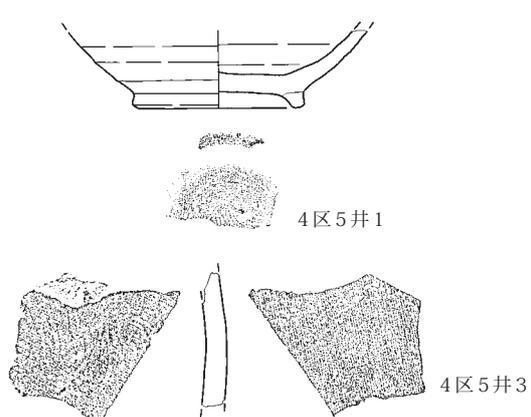
0 1:4 10cm

0 1:3 10cm

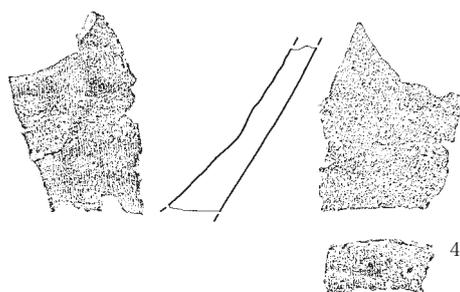
第57図 2区2・3号井戸、4区3・4号井戸出土遺物



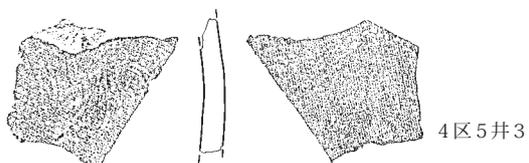
4区4井3



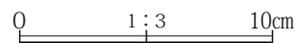
4区5井1



4区5井2



4区5井3



第58図 4区4・5号井戸出土遺物

4区6号井戸(第55図 PL.64)

微高地東の低地にあり、4号井戸の東13mに位置する。平面形は0.92×0.87mのほぼ円形で、深さは確認面から1.22mである。下層に拳大の礫を含み、覆土上半に浅間B軽石を含む。

4区7号井戸(第55図 PL.64)

微高地中央を南北に貫く18号溝に重複する。平面形は0.78×0.73mのほぼ円形で、深さは確認面から0.86mと浅い。微高地中央部でこの規模の井戸から水が得られたのか、疑問を感じる。覆土中に浅間B軽石を含む。

第4節 土坑・ピット

(第59～69図 PL.56～61)

中世では土坑80基、ピット31基が確認されている。内訳は、1区が土坑3基、2区が土坑34基、3区が土坑3基、4区が土坑40基・ピット31基で、5区では未確認である。1区～3区ではピットも含めて土坑の名称で確認している。

中世は基本的に2面目の調査面になるが、2区・4区の微高地上では3面目の古代とほぼ同一面で確認調査をしており、双方の時期の遺構が混在した状態で調査が進められた。そのため、時期分別にあたっては、覆土に浅間B軽石を含む点を主要素とし、遺構の規格性、出土遺物の検討等を行って判断した。また、本遺跡でも浅間B軽石が混じる中世の土壌は厚く堆積しており、遺構は基本的にそれらを削平した面で確認するため、掘り込み面の上部は失われている。

分布は、居住域が想定される2区と4区に集中しており、耕作域が想定される1区と3区では使用されることが少なかったようだ。平面形は円形・楕円形・長方形の3種類があり、主体は円形のものだが、長方形はこの時期を特徴づける形態でもある。確認面との関係で掘り込みが浅いものも多い。

1区では3基のみ確認されたが、いずれも低地を斜めに直進する20号溝の西側4m前後の距離を保って点在している。20号溝が道に伴うものなら、その西側を画す溝に伴うもの、あるいは水口の可能性も考えられる。

2区では34基が確認されたが、その大半は溝で区画さ

れた居住域の中央付近に集中している。4号・5号掘立柱建物の周囲で重複するものもあるが、円形の2号・4号・5号・6号・8号は一定範囲に規則的に並んでおり、注意を要する。

3区では3基の小さな土坑が低地にあり、耕作地に伴う施設の痕跡であろうか。

4区では土坑40基とピット31基が微高地上の居住域を中心に点在している。その中にはほぼ等間隔で直線上に並ぶものもあり、柵列や建物と想定できるものもある(第45図参照)。土坑のなかにも、明らかに柱穴と言えるものもあり、さらに多くの施設が存在していたことが想定される。また、微高地を南北に2分する10号溝と共通した方位を示す長方形土坑群にも注目したい。

第5節 溝

中世の溝は28条が確認されている。内訳は、1区が14条、2区が8条、3区が4条、4区が2条で、5区では確認されていない。各区の概要は先述のとおりであり、ここでは個別に報告する。位置・規模等の基本的データは巻末の一覧表(第5表)を参照頂きたい。

1区17号溝(第70・73図 PL.15)

1区東側の低地にある。幅50cm前後、深さ10cmほどの浅い溝で、北側調査区外から南に15m直進し、東に直角に折れて15m直進し、18号溝のところで再び南の直角に折れて18号と並走して調査区外に抜けている。確認できた長さは47.70m。

1区18号・19号溝(第70・73図 PL.15)

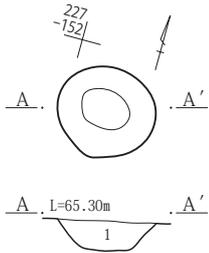
1区東側の低地にある。18号は幅0.6～1.7m、深さ0.09～0.13mで、東側に接する19号溝と共に南北に直進し、北側で東に直角に折れて直進し、調査区外に至る。2区10号溝はその延長だろう。こうした折れは耕作地の区画を示すものと思われ、17号も含めて、道や通路に伴う溝と考えたい。

1区20号溝(第70図 PL.15)

1区東側低地にあり、北西から南東に斜めに34mにわたって直進する。幅50cm前後、深さ10cmほどの溝で、こ

第4章 中世の遺構と遺物

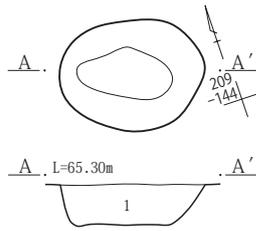
1区1号土坑



1区1号土坑

1 暗褐色土 やや多量のAs-B軽石層含む。

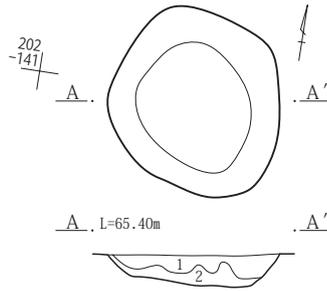
1区2号土坑



1区2号土坑

1 暗褐色土 As-B軽石層及び少量のローム小ブロックを含む。

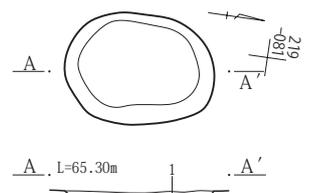
1区3号土坑



1区3号土坑

1 黒褐色土 As-B軽石層及び少量のローム小ブロックを含む。
2 褐灰色土 多量のAs-B軽石層を含む。

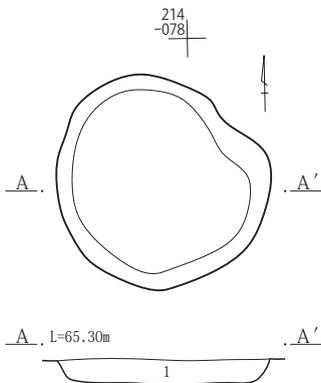
2区1号土坑



2区1号土坑

1 暗褐色土 As-B軽石及び炭化物含む。

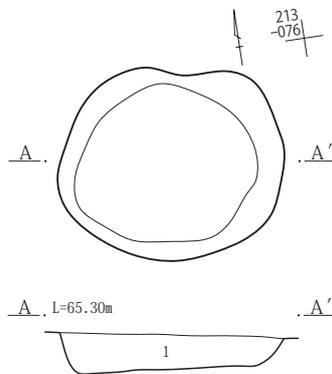
2区2号土坑



2区2号土坑

1 黒褐色土 As-B軽石及び少量の明褐色土を含む。

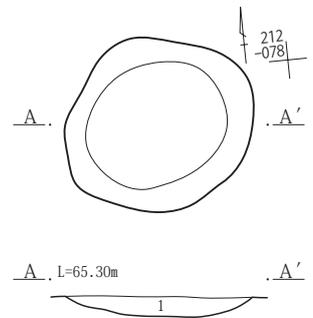
2区4号土坑



2区4号土坑

1 黒褐色土 やや多量のAs-B軽石及び少量の焼土粒子を含む。

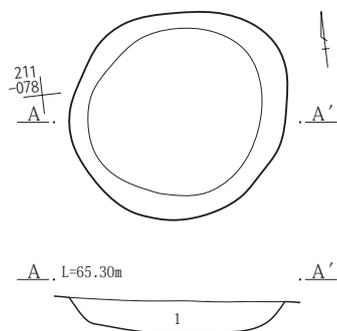
2区5号土坑



2区5号土坑

1 黒褐色土 やや多量のAs-B軽石及び少量のぶい浅黄橙色土ブロックを含む。

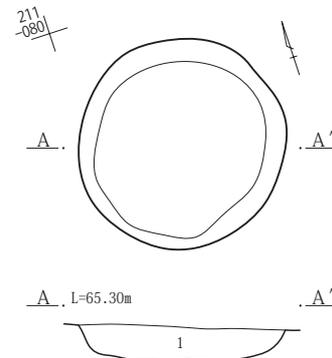
2区6号土坑



2区6号土坑

1 黒褐色土 やや多量のAs-B軽石を含む。

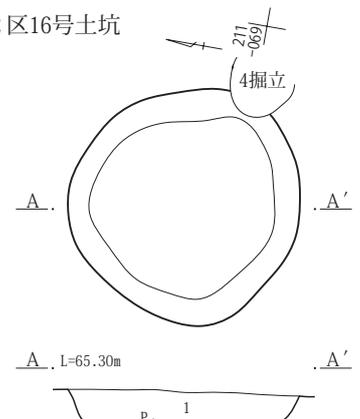
2区8号土坑



2区8号土坑

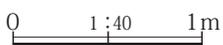
1 黒褐色土 やや多量のAs-B軽石及び少量の焼土粒子を含む。

2区16号土坑



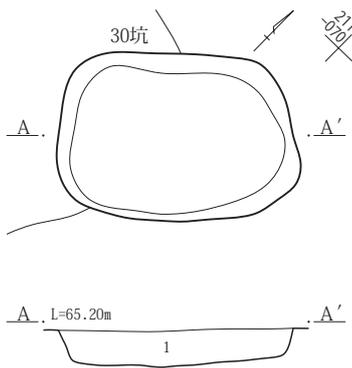
2区16号土坑

1 暗褐色土 少量のAs-B軽石含む。



第59図 1・2区土坑

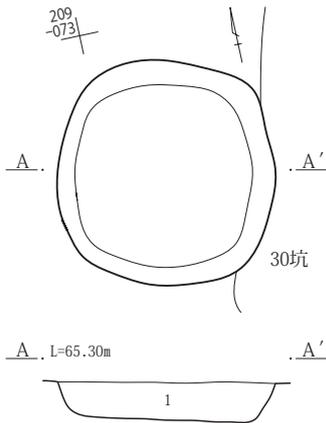
2区17号土坑



2区17号土坑

1 暗褐色土 少量のAs-B軽石含む。

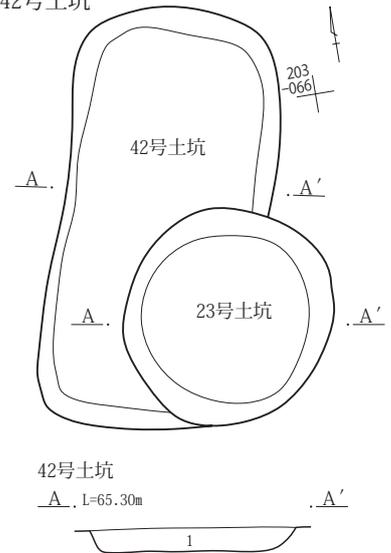
2区20号土坑



2区20号土坑

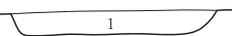
1 暗褐色土 やや多量のAs-B軽石を含む。

2区23・42号土坑



42号土坑

L=65.30m



2区42号土坑

1 暗褐色土 ローム粒含む。

23号土坑

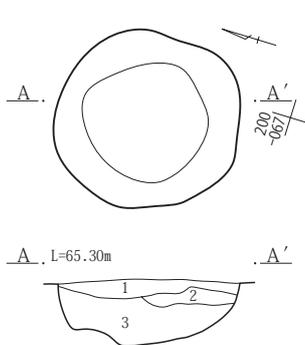
L=65.30m



2区23号土坑

1 黒褐色土 黄褐色土ブロック、As-B軽石及び少量の焼土粒子、炭化物を含む。人為的埋土。

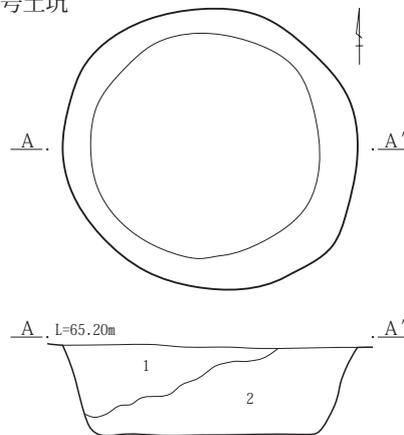
2区24号土坑



2区24号土坑

1 黒褐色土 As-B軽石含む。
2 灰褐色土 シルトローム粒含む。
3 褐色土 ロームブロック含む。

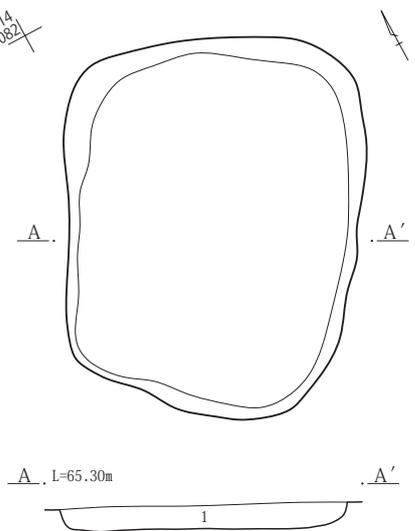
2区25号土坑



2区25号土坑

1 黒褐色土 多量のローム小ブロック及び少量の焼土粒子を含む。
2 黒褐色土 少量のローム小ブロックを含む。

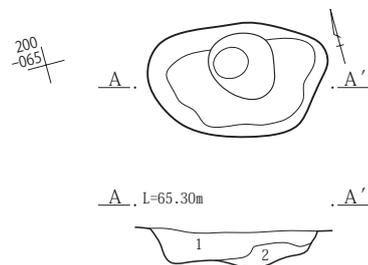
2区31号土坑



2区31号土坑

1 暗褐色土 ローム粒含む。

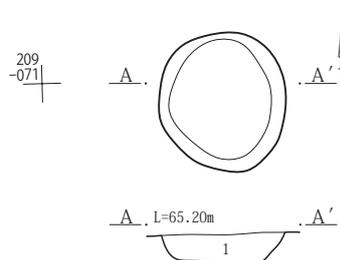
2区26号土坑



2区26号土坑

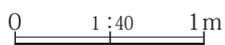
1 黒褐色土 少量のローム小ブロック及び焼土粒子を含む。
2 暗褐色土 ローム小ブロックを含む。

2区29号土坑



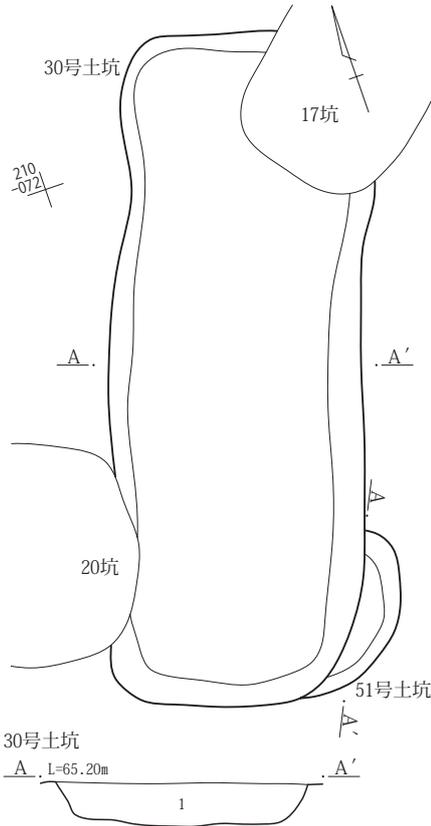
2区29号土坑

1 黒褐色土 少量のローム小ブロック及び微量の焼土粒子を含む。

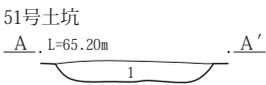


第60図 2区土坑(1)

2区30・51号土坑

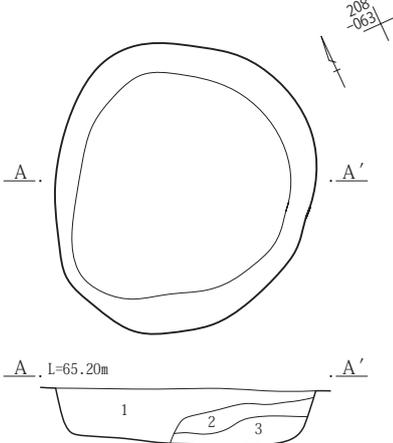


2区30号土坑
1 黒褐色土 少量のローム小ブロック含む。



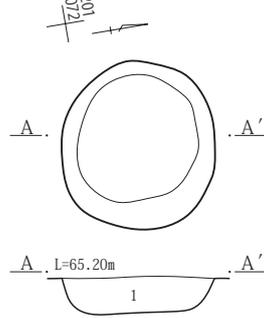
2区51号土坑
1 黒褐色土 As-B軽石及び少量の褐色土小ブロック含む。

2区41号土坑



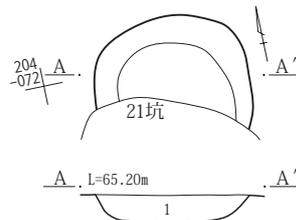
2区41号土坑
1 褐色土 ローム粒、ローム小ブロック含む。
2 暗褐色土 ローム粒少量含む。
3 褐色土 ロームブロック含む。

2区34号土坑



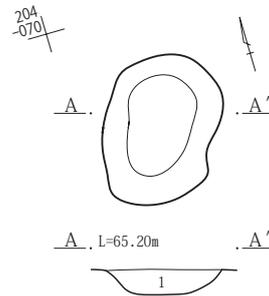
2区34号土坑
1 暗褐色土 ローム粒含む。

2区39号土坑



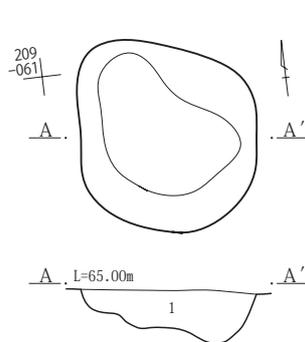
2区39号土坑
1 暗褐色土 ローム粒、炭化物含む。

2区43号土坑



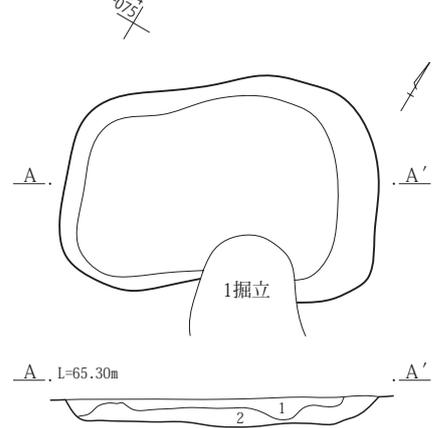
2区43号土坑
1 黒褐色土 少量のロームブロック含む。

2区46号土坑



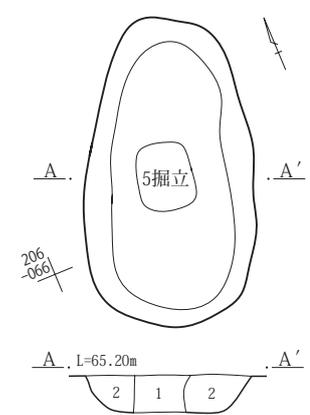
2区46号土坑
1 暗褐色土 ローム粒、炭化物含む。

2区37号土坑



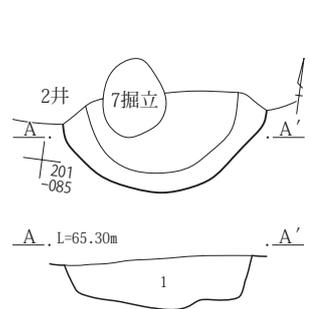
2区37号土坑
1 暗褐色土 褐色土ブロック含む。
2 褐色土 少量のローム粒。

2区40号土坑

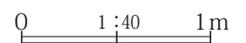


2区40号土坑
1 にぶい褐色土 As-B軽石、ローム粒多く含む。
2 褐色土 ローム粒含む。

2区50号土坑

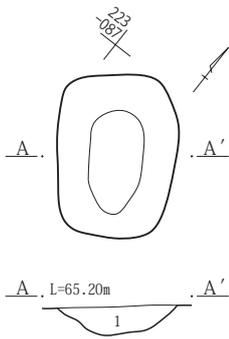


2区50号土坑
1 黒褐色土 少量のローム粒、シルト含む。少量のAs-B軽石含む。



第61図 2区土坑(2)

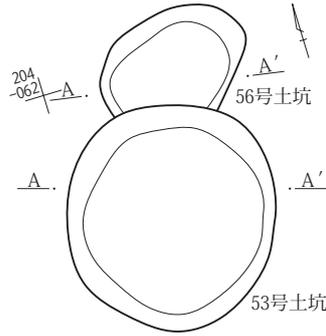
2区52号土坑



2区52号土坑

1 黒褐色土 少量の軽石 (As-C軽石?)含む。

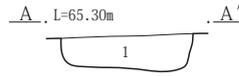
2区53・56号土坑



2区53号土坑

1 黒褐色土 As-B軽石、ローム小ブロック及び少量の焼土粒子含む。

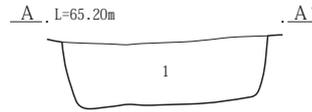
56号土坑



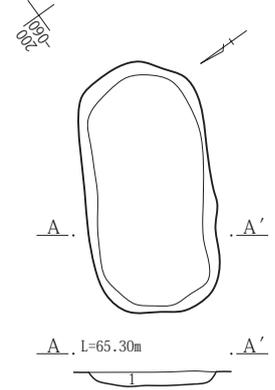
2区56号土坑

1 黒褐色土 多量のAs-B軽石及び焼土粒子、炭化物含む。

53号土坑



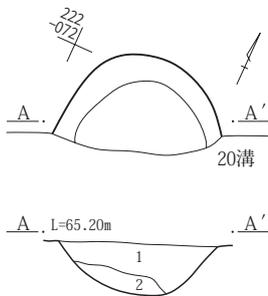
2区54号土坑



2区54号土坑

1 暗褐色土 As-B軽石及び褐色土小ブロック含む。

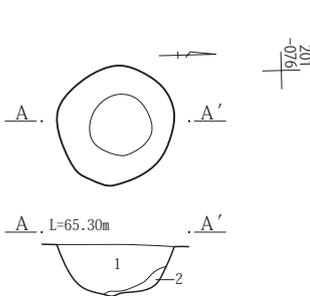
2区55号土坑



2区55号土坑

1 黒褐色土 As-B軽石及び少量のローム小ブロック含む。
2 黄褐色土 ローム主体。黒褐色土含む。

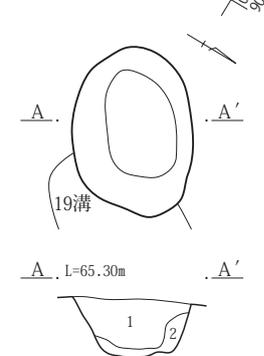
2区57号土坑



2区57号土坑

1 黒褐色土 As-B軽石及び少量のローム小ブロック含む。
2 黒褐色土とロームブロックの混土。

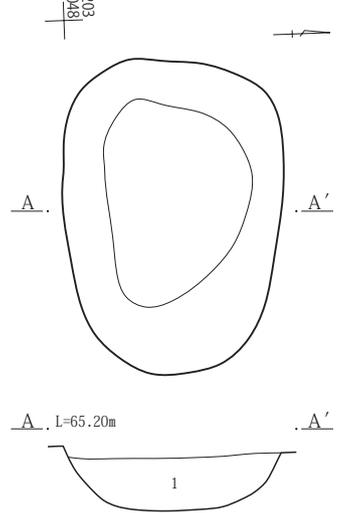
2区58号土坑



2区58号土坑

1 黒褐色土 ローム小ブロック及び少量の焼土粒子を含む。
2 黄褐色土 ロームブロック主体。黒褐色土ブロック含む。

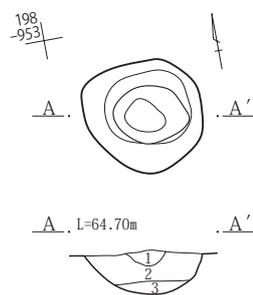
2区59号土坑



2区59号土坑

1 黒褐色土 As-B軽石及び少量のローム小ブロック含む。

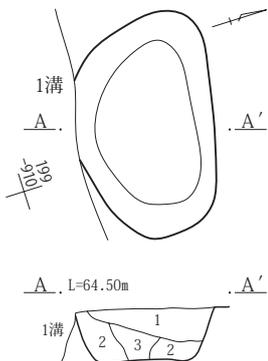
3区1号土坑



3区1号土坑

1 黒褐色土 黒褐色土ブロックとAs-B軽石の混土。
2 褐色土 As-B軽石多く含む。
3 暗褐色土 As-B軽石多く含む。

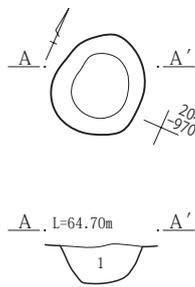
3区2号土坑



3区2号土坑

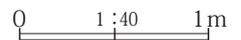
1 褐色土 As-B軽石、褐色土小ブロック含む。
2 暗褐色土 As-B軽石、黒褐色土小ブロック含む。
3 黒褐色土 黒褐色土ブロックとAs-B軽石の混土。

3区3号土坑



3区3号土坑

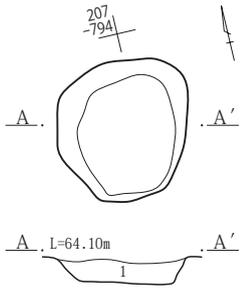
1 暗褐色土 As-B軽石多く、褐色土小ブロック含む。



第62図 2・3区土坑

第4章 中世の遺構と遺物

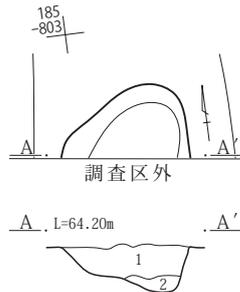
4区1号土坑



4区1号土坑

- 1 褐灰色土 やや多量の軽石(As-B)及び少量のにぶい黄褐色土小ブロックを含む。(As-B混土主体)

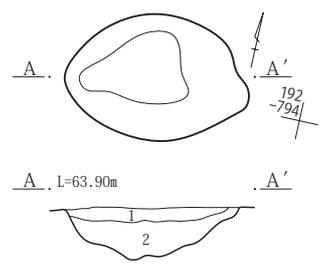
4区4号土坑



4区4号土坑

- 1 灰色土 As-B主体。黒褐色土ブロックを含む。
2 黒褐色土 粘質。褐灰色土ブロックを含む。

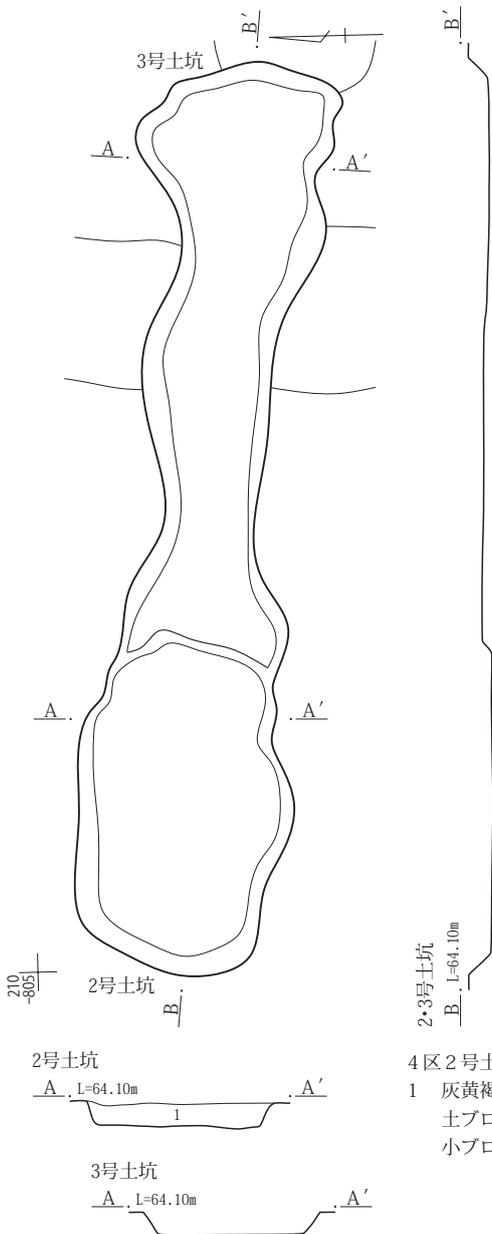
4区5号土坑



4区5号土坑

- 1 褐灰色土 粘質。緻密。少量の白色軽石(As-C?)を含む。
2 黒褐色土 粘質。緻密。少量の暗褐灰色土小ブロックを含む。

4区2・3号土坑



2号土坑



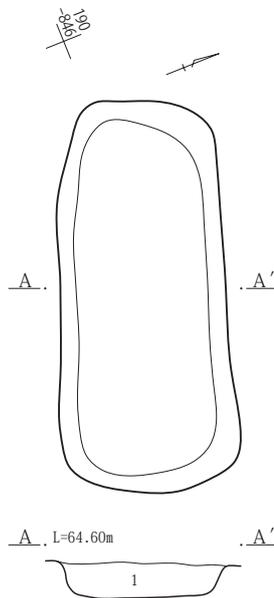
3号土坑



4区2号土坑

- 1 灰黄褐色土 軽石(As-B)及び黒褐色土ブロック、少量のにぶい黄褐色土小ブロックを含む。

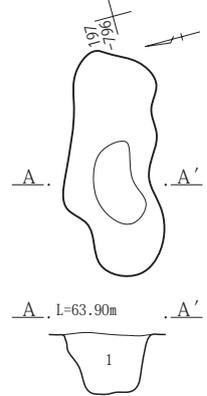
4区7号土坑



4区7号土坑

- 1 黒褐色土 少量の白色軽石(As-C?)及び少量のローム小ブロックを含む。

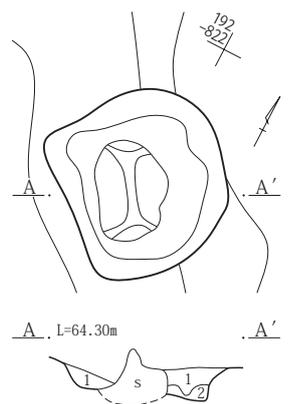
4区6号土坑



4区6号土坑

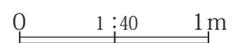
- 1 黒色土 粘質。緻密。褐灰色土ブロック及び少量の白色軽石(As-C)を含む。

4区8号土坑



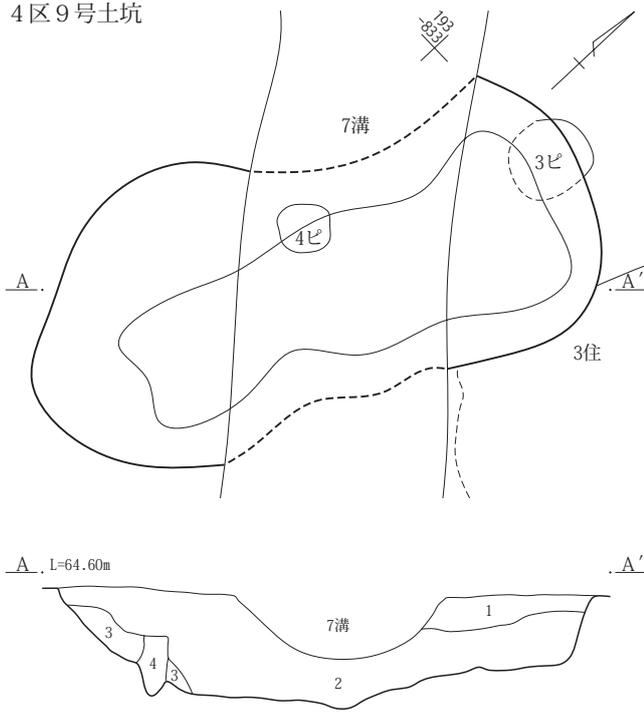
4区8号土坑

- 1 暗褐色土 As-B及びローム小ブロックを含む。
2 黄褐色土 ローム主体。暗褐色土小ブロックを含む。

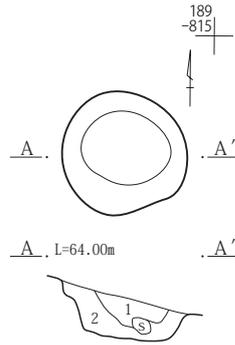


第63図 4区土坑(1)

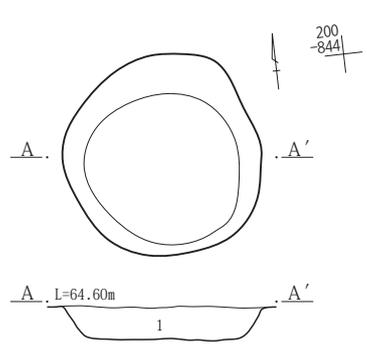
4区9号土坑



4区10号土坑



4区11号土坑



4区9号土坑

- 1 黒褐色土 少量の白色軽石(As-C)を含む。
- 2 暗褐色土 少量の黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
- 3 黄褐色土 ローム主体。暗褐色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 ローム小ブロックを含む。

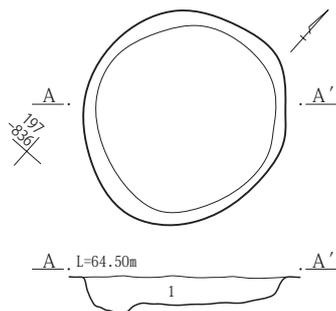
4区10号土坑

- 1 褐灰色土 黒褐色土ブロックを含む。
- 2 黒褐色土 黄褐色土(ローム)ブロックを含む。

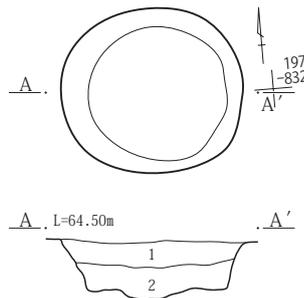
4区11号土坑

- 1 暗褐色土 軽石(As-B)をやや多量に含む。

4区15号土坑



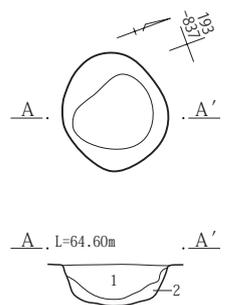
4区16号土坑



4区16号土坑

- 1 暗褐色土 軽石(As-B)及び少量の明黄褐色土小ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 黒褐色土ブロック、明黄褐色土小ブロックを含む。

4区17号土坑



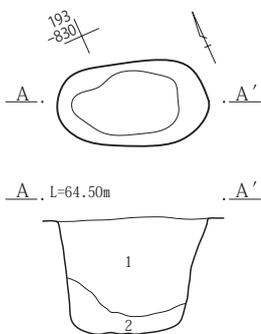
4区17号土坑

- 1 暗褐色土 白色軽石(As-C?)を含む。
- 2 黒褐色土 明黄褐色土小ブロックを含む。

4区15号土坑

- 1 暗褐色土 軽石(As-B)及び淡黄褐色土小ブロックを含む。

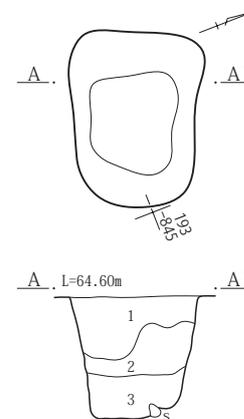
4区18号土坑



4区18号土坑

- 1 暗褐色土 軽石(As-B)及び多量の浅黄色土(ローム)ブロックを含む。
*人為的に埋めた土。
- 2 黒褐色土 少量の浅黄色土小ブロックを含む。

4区19号土坑



4区19号土坑

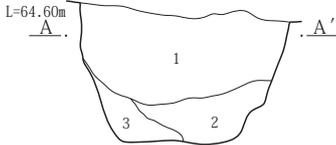
- 1 暗褐色土 軽石(As-B)及び明黄褐色土ブロックを含む。
- 2 黒褐色土 明黄褐色土小ブロックを含む。
- 3 灰黄褐色土 明黄褐色土小ブロック及び少量の黒褐色土小ブロックを含む。

0 1:40 1m

第64図 4区土坑(2)

第4章 中世の遺構と遺物

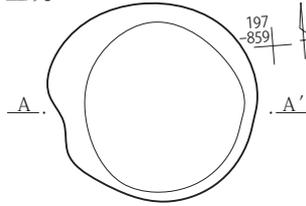
4区20号土坑



4区20号土坑

- 1 暗褐色土 軽石(As-B)及びにぶい黄橙色土ブロックを含む。
- 2 黒褐色土 にぶい黄橙色土ブロックを含む。
- 3 明黄褐色土 明黄褐色土(ローム)主体。黒褐色土ブロックを含む。

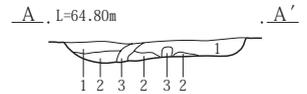
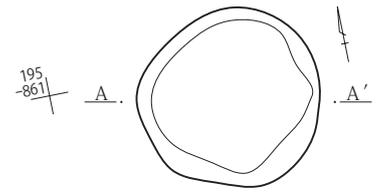
4区24号土坑



4区24号土坑

- 1 黒褐色土 細かい軽石(As-B)及び明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。

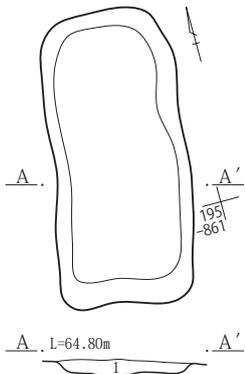
4区25号土坑



4区25号土坑

- 1 黒褐色土 細かい軽石(As-B)を含む。
- 2 黄褐色土 ローム主体。黒褐色土小ブロックを含む。
- 3 明黄褐色土 ロームブロック。

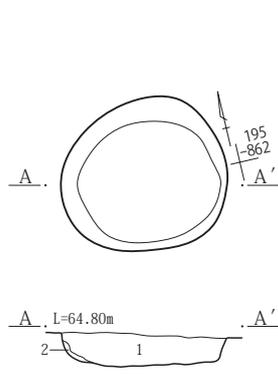
4区26号土坑



4区26号土坑

- 1 暗褐色土 細かい軽石(As-B)及び黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。

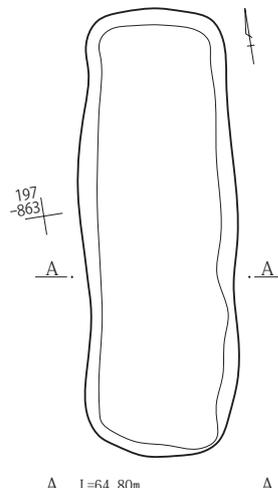
4区27号土坑



4区27号土坑

- 1 黒褐色土 やや多量の細かい軽石(As-B)を含む。
- 2 明黄褐色土 黒褐色土を含む。

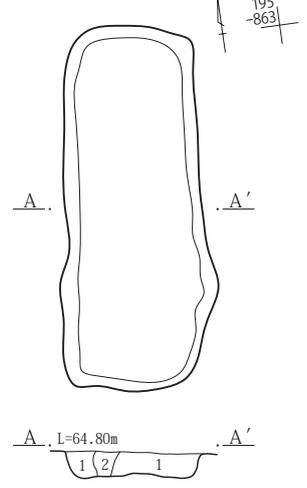
4区28号土坑



4区28号土坑

- 1 暗褐色土 やや多量の細かい軽石(As-B)及び黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。

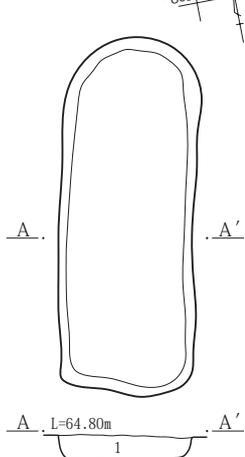
4区29号土坑



4区29号土坑

- 1 暗褐色土 細かい軽石(As-B)及び少量の黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
- 2 褐色土 少量の暗褐色土小ブロックを含む。

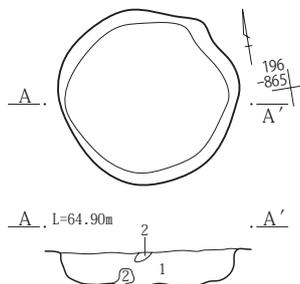
4区30号土坑



4区30号土坑

- 1 暗褐色土 やや多量の細かい軽石(As-B)及び少量の黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。

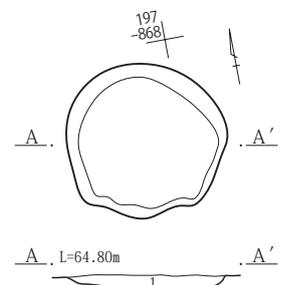
4区31号土坑



4区31号土坑

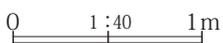
- 1 暗褐色土 やや多量の細かい軽石(As-B)及び黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
- 2 黄褐色土 ロームブロック。

4区32号土坑



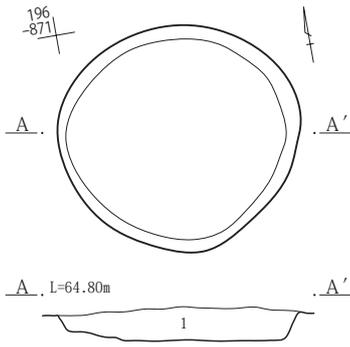
4区32号土坑

- 1 暗褐色土 多量の細かい軽石(As-B)及び少量の黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。



第65図 4区土坑(3)

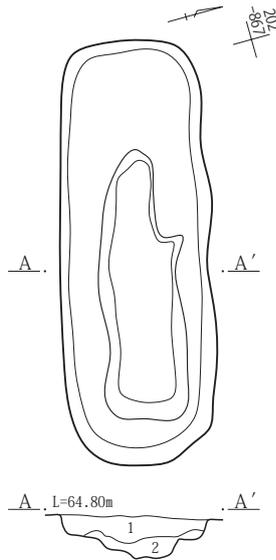
4区33号土坑



4区33号土坑

1 黒褐色土 細かい軽石(As-B)及び黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。

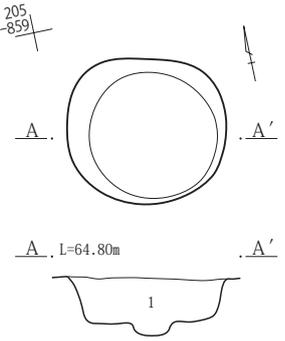
4区37号土坑



4区37号土坑

1 暗褐色土 細かい軽石(As-B)及び少量の明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
2 暗褐色土 多量の明黄褐色土(ローム)ブロックを含む。

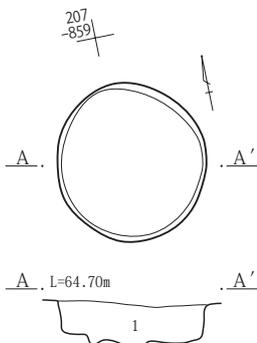
4区39号土坑



4区39号土坑

1 暗褐色土 細かい軽石(As-B?)及び明黄褐色土小ブロックを含む。

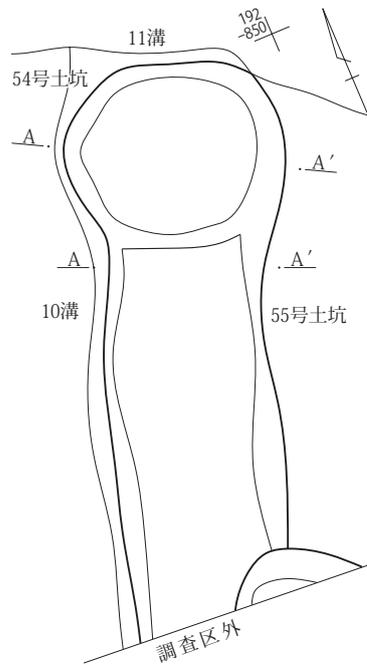
4区40号土坑



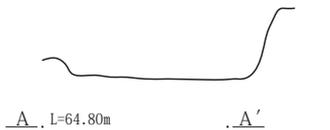
4区40号土坑

1 暗褐色土 やや多量の細かい軽石(As-B?)及び少量の明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。

4区54・55号土坑



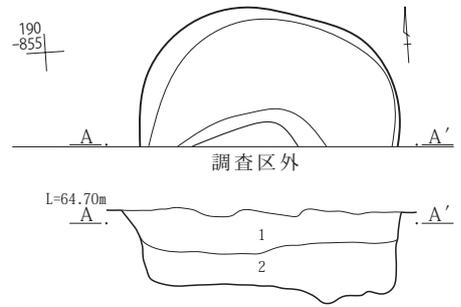
4区54号土坑



4区55号土坑

1 黒褐色土 細かい軽石(As-B)及び少量の明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。

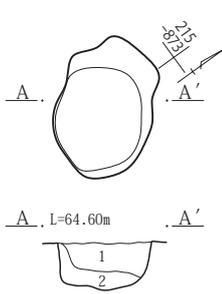
4区56号土坑



4区56号土坑

1 暗褐色土 細かい軽石(As-B)及び明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
2 黒褐色土 少量の明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。

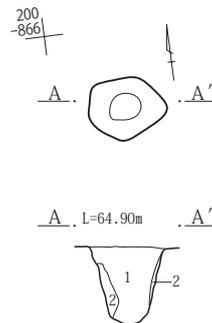
4区41号土坑



4区41号土坑

1 黒褐色土 少量の白色軽石(As-C)及び明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
2 明黄褐色土 ローム主体。黒褐色土ブロックを含む。

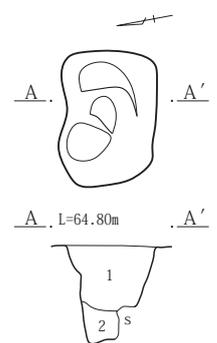
4区58号土坑



4区58号土坑

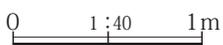
1 暗褐色土 細かい軽石(As-B)及び少量の明黄褐色土小ブロックを含む。
2 暗褐色土 明黄褐色土小ブロックを含む。

4区59号土坑



4区59号土坑

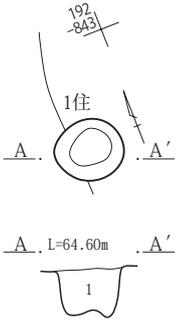
1 暗褐色土 細かい軽石(As-B)及び少量の明黄褐色土小ブロックを含む。
2 黒褐色土 多量の明黄褐色土(ローム)ブロックを含む。



第66図 4区土坑(4)

第4章 中世の遺構と遺物

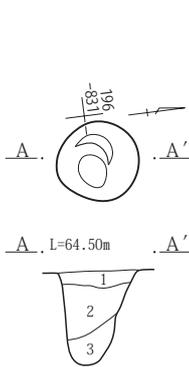
4区1号ピット



4区1号ピット

1 黒褐色土 少量のローム小ブロック及び微量の白色軽石(As-B)を含む。

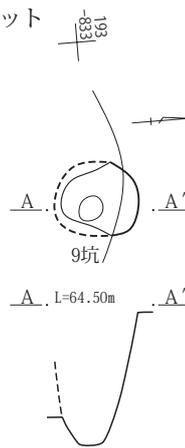
4区2号ピット



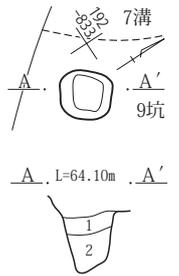
4区2号ピット

1 暗褐色土 軽石(As-B)及び少量の黄褐色土小ブロックを含む。
2 暗褐色土と黄褐色土の混土。
3 黒褐色土 黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。

4区3号ピット



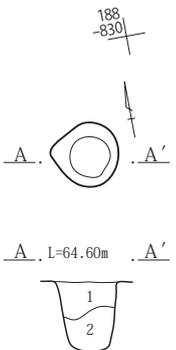
4区4号ピット



4区4号ピット

1 暗褐色土 やや多量の灰白色土小ブロックを含む。
2 黒褐色土 暗褐色土ブロック及び少量の灰白色土小ブロックを含む。

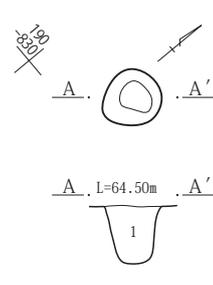
4区5号ピット



4区5号ピット

1 暗褐色土 軽石(As-B)を含む。
2 黒褐色土 少量の淡黄褐色土小ブロックを含む。

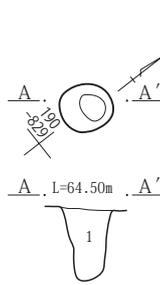
4区6号ピット



4区6号ピット

1 黒褐色土 明黄褐色土小ブロックを含む。

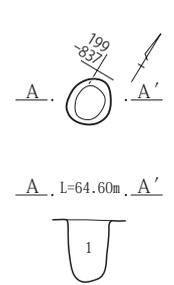
4区7号ピット



4区7号ピット

1 黒褐色土 少量の明黄褐色土小ブロックを含む。

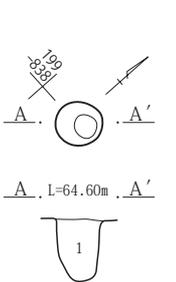
4区8号ピット



4区8号ピット

1 黒褐色土 少量の軽石(As-B)及び明黄褐色土小ブロックを含む。

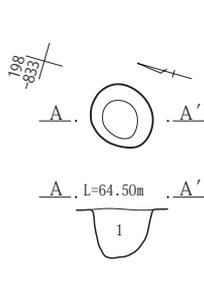
4区9号ピット



4区9号ピット

1 黒褐色土 少量の白色軽石(As-B)を含む。

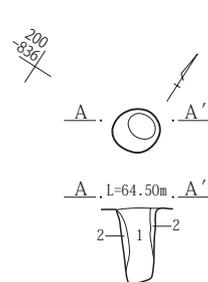
4区10号ピット



4区10号ピット

1 暗褐色土 少量の軽石(As-B)及びにぶい黄橙色土小ブロックを含む。

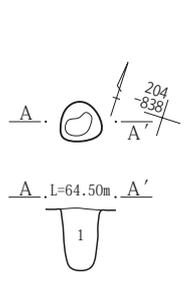
4区11号ピット



4区11号ピット

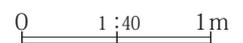
1 暗褐色土 軽石(As-B)を含む。柱痕か。
2 黒褐色土ブロックとにぶい黄橙色土小ブロックの混土。
*人為的に埋めた土か。

4区12号ピット



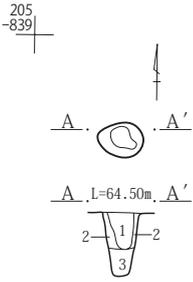
4区12号ピット

1 暗褐色土 やや多量の軽石(As-B)を含む。



第67図 4区ピット(1)

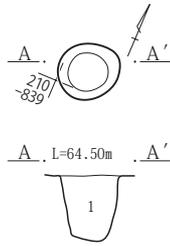
4区13号ピット



4区13号ピット

- 1 暗褐色土 軽石(As-B)及び少量のにぶい黄橙色土(ローム)小ブロックを含む。柱痕か。
 - 2 暗褐色土 多量のにぶい黄橙色土(ローム)小ブロックを含む。
- *人為的に埋めた土か。
3 にぶい黄橙色土 地山(ローム)

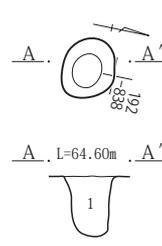
4区14号ピット



4区14号ピット

- 1 黒褐色土 軽石(As-B)を含む。

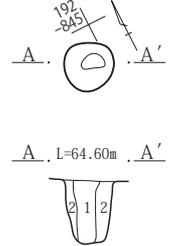
4区15号ピット



4区15号ピット

- 1 暗褐色土 軽石(As-B)及びにぶい黄橙色土(ローム)小ブロックを含む。

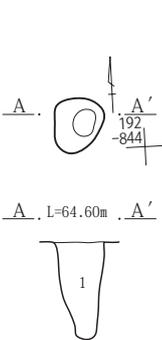
4区16号ピット



4区16号ピット

- 1 黒褐色土 少量の軽石(As-B)を含む。
- 2 暗褐色土 にぶい黄橙色土小ブロックを含む。

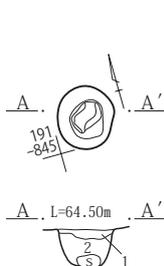
4区17号ピット



4区17号ピット

- 1 黒褐色土 軽石(As-B)及び少量のにぶい黄橙色土小ブロックを含む。

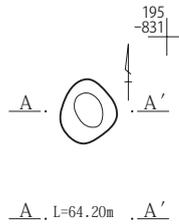
4区18号ピット



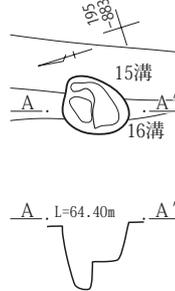
4区18号ピット

- 1 黒褐色土 軽石(As-B)を含む。
- 2 暗褐色土 軽石(As-B)及び多量の明黄褐色土(ローム)ブロックを含む。

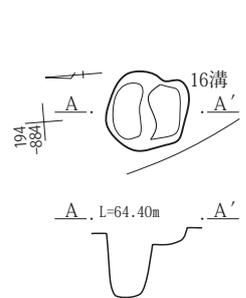
4区19号ピット



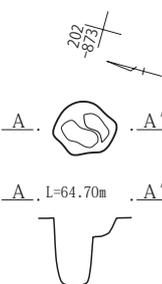
4区27号ピット



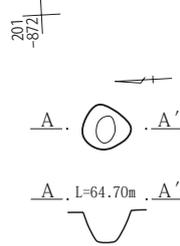
4区28号ピット



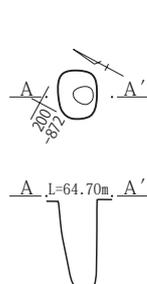
4区29号ピット



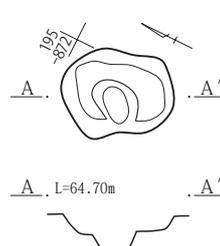
4区30号ピット



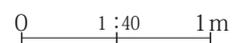
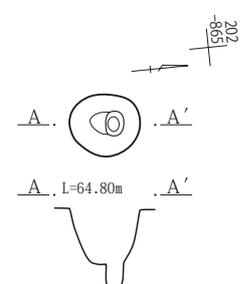
4区31号ピット



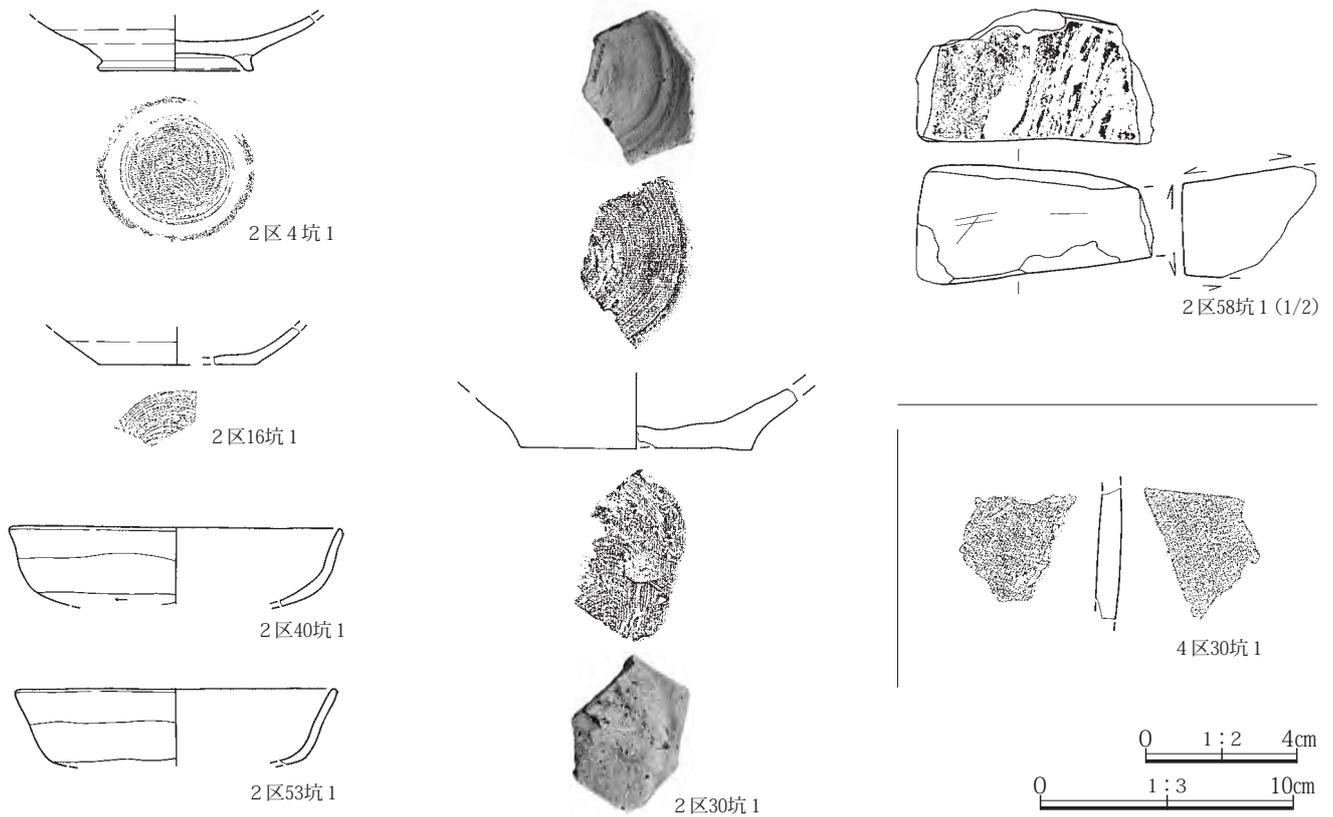
4区35号ピット



4区36号ピット



第68図 4区ピット(2)



第69図 2・4区土坑出土遺物

の方向は調査区内では異色である。

1区21号～25号溝(第71・73図 PL.15・16)

1区西側微高地に位置する。微高地上を屈折しながら区画する一連の溝で、17号～19号溝と同様に耕作地を区画する道等に伴うものであろう。大半が浅間B軽石を含む暗褐色土や灰褐色土で埋没している。遺物はほとんど無いが、21号溝は平安時代の5号住居に近接しており、平安時代の土器が出土している。

1区26号～30号溝(第71～73図 PL.16)

微高地と低地の境を画す位置にある。26号と27号は南北に並走し、28号は27号の西側に接するように平行する。両溝は2m前後の距離を保って並走するが、その間が道だったとして良いだろう。28号の他にも両溝に接する溝があり、未命名ではあるが、この道が長期にわたって使用されたことを示している。

29号と30号は一連の溝と判断する。この溝は微高地の縁辺をトレースするもので、これも道に伴う溝と考えたい。その東側にも同様のカーブを描く未命名の溝が、途

切れ途切りに点在する。これらも道に伴うもので、長期にわたって道が継承される過程で徐々に西側に移動したのものと考えたい。

これら一連の溝の新旧関係を示す証拠は得られていないが、微高地縁辺をめぐる溝が古く、南北に直進する溝が新しいと想定したい。前者の方向性は2区中世居住域の区画に符合しており、後者は近世の区画と符合する。なお、26号溝から中世の陶磁器類が出土している。

2区10号・11号溝(第75・76図 PL.18)

調査区の北西隅で確認された。いずれも幅30cm前後、深さ6cmほどの痕跡的な溝だが、覆土に浅間B軽石を含んでいる。10号は東西、11号は南北に伸びており、あるいは1区18号溝の延長を示すものかもしれない。遺物は出土していない。

2区12号・13号溝(第75・76・78図 PL.18・71)

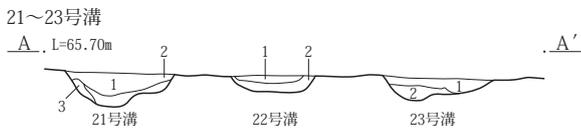
いずれも2区居住域の西側を画す溝で、23°から26°東に振れた角度で南北方向に並走・直進する。「堀」といっても過言ではない規模を有しており、土塁や塀を伴って



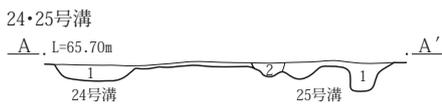
- 1区20号溝
- 1 黒褐色土 As-B軽石層混じり。
 - 2 灰褐色土 粘質土がブロック状に入る。

- 1区17・18・19号溝
- 1 褐色土 As-B軽石層、茶褐色土ブロック混じり。
 - 2 暗褐色土 As-B軽石層混土。
 - 3 にぶい褐色土 As-B軽石層、褐色土ブロック含む。
 - 4 暗褐色土 As-B軽石層、茶褐色土ブロック含む。

第70図 1区17~20号溝

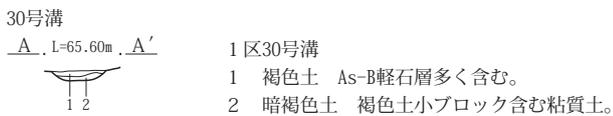


- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1区21号溝 | 1区22号溝 |
| 1 褐色土 As-B軽石層多く含む。 | 1 灰褐色土 粘質土。 |
| 2 暗褐色土 粘質土。 | 2 灰褐色土 1層より暗い粘質土。 |
| 3 明褐色土 ローム漸移層の崩落土。 | |



- | |
|------------------------|
| 1区23号溝 |
| 1 褐色土 As-B軽石少量含む。 |
| 2 にぶい褐色土 ローム漸移層ブロック含む。 |

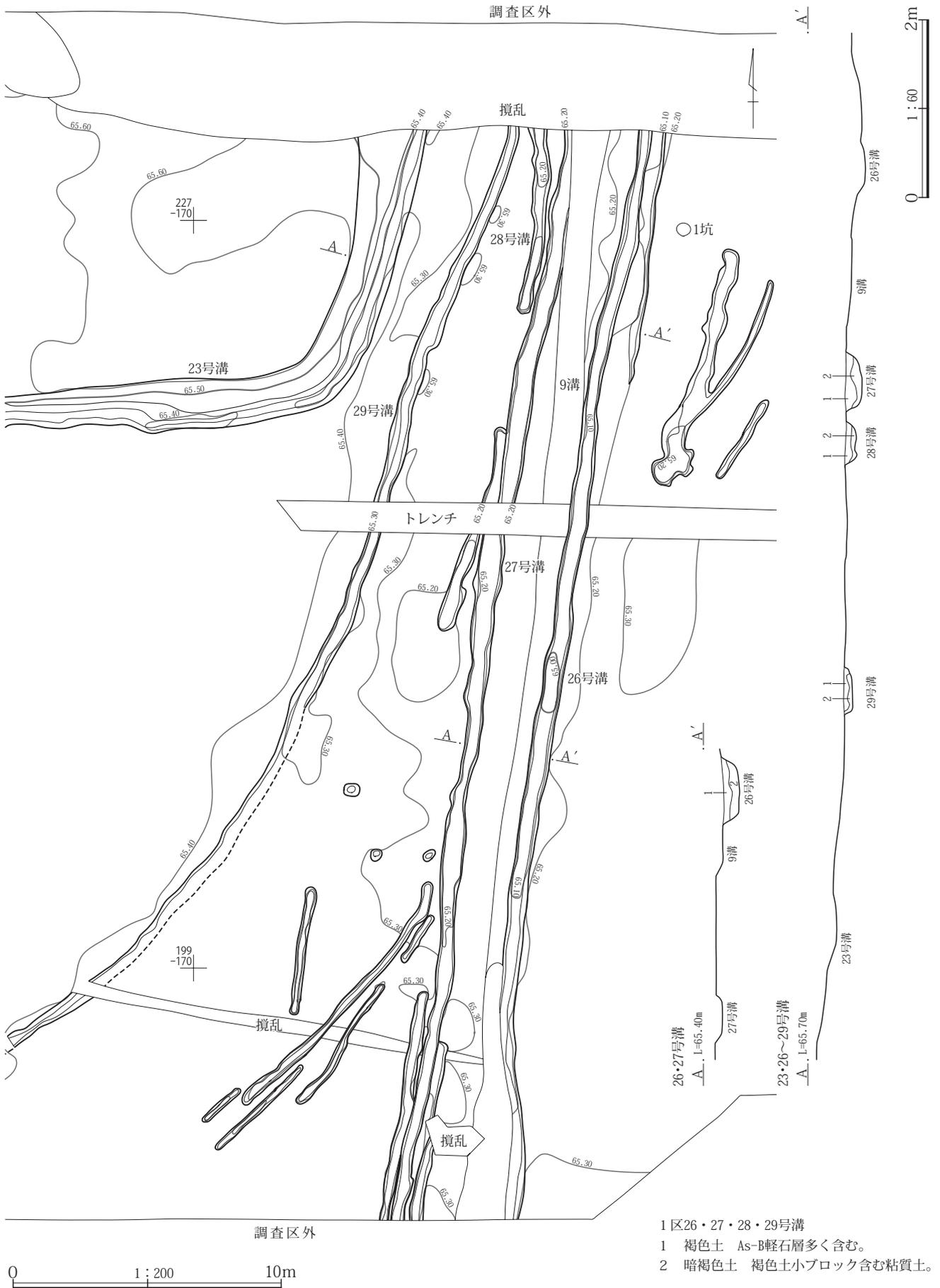
- | |
|----------------------------------|
| 1区24・25号溝 |
| 1 暗褐色土 白色軽石粒(As-C)含む。ローム漸移層ブロック。 |
| 2 褐色土 ローム漸移層含む。 |



- | |
|-----------------------|
| 1区30号溝 |
| 1 褐色土 As-B軽石層多く含む。 |
| 2 暗褐色土 褐色土小ブロック含む粘質土。 |

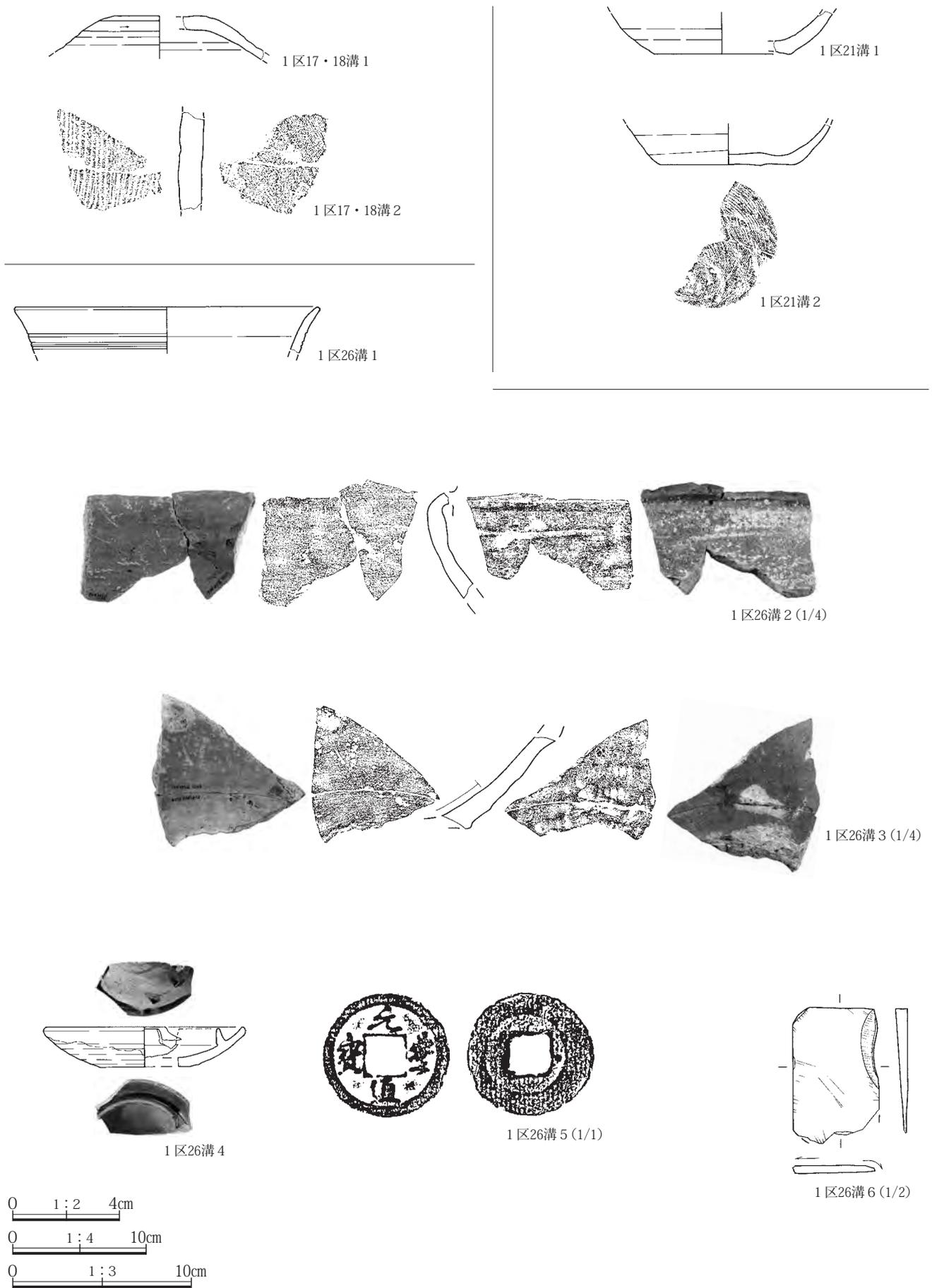


第71図 1区21~25・30号溝



第72図 1区23・26～29号溝

第4章 中世の遺構と遺物



第73図 1区17・18・21・26号溝出土遺物

いた可能性さえ想定させる。両溝の間に6号掘立柱建物
が重複し、13号には8号掘立柱建物も一部重複するが、
明瞭な切り合い関係は不明である。

西側の12号は幅1.64~2.65m、深さ0.76~1.00mと規
模が大きく、断面形が薬研状を呈する。埋没状況を見る
と西側に土塁を伴っていた可能性がある。遺物は中世の
舶載青磁や国産陶磁器類が出土している。

東側の13号は幅1.16~2.12m、深さ0.42~0.51mとや
や小さく、断面形は薬研状を呈する。遺物は古代の土器
類と石製銚帯が出土している。

2区16号溝(第77・79~82図 PL.19・66)

微高地と低地を画す主要な大溝で、北西から南東に直
進する。当地区の耕作地に伴う主要水路の一つであり、
微高地上の居住域を画す防衛的性格も兼ねていたと想定
される。

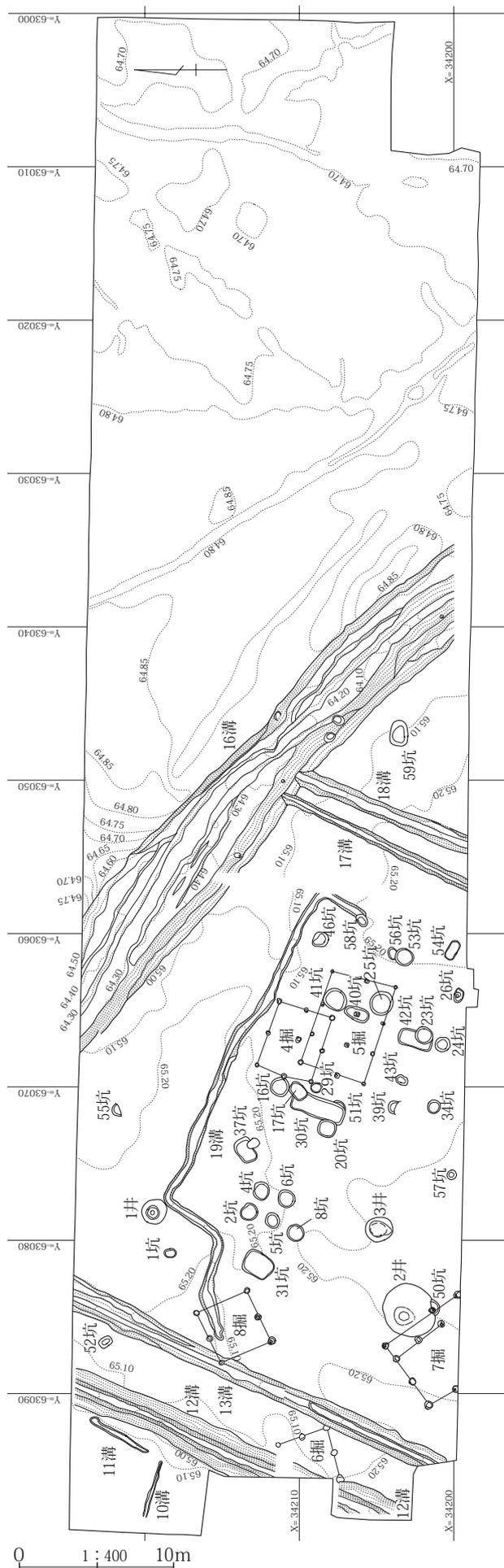
幅は4.30~6.30m、深さは0.66~0.94mであり、断面
形は逆台形を呈する。底面は段丘状になる部分が多く、
おそらく古墳時代から連綿と使用されてきたルートを踏
襲したものであろう。覆土中から古墳時代・平安時代の
遺物をはじめ、中世の陶磁器類が多量に出土している(第
79図~第82図)。なかでも、舶載青磁皿や多量の在地系
皿が注目される。

2区17号・18号溝(第75・76・83~85図 PL.20・66・71)

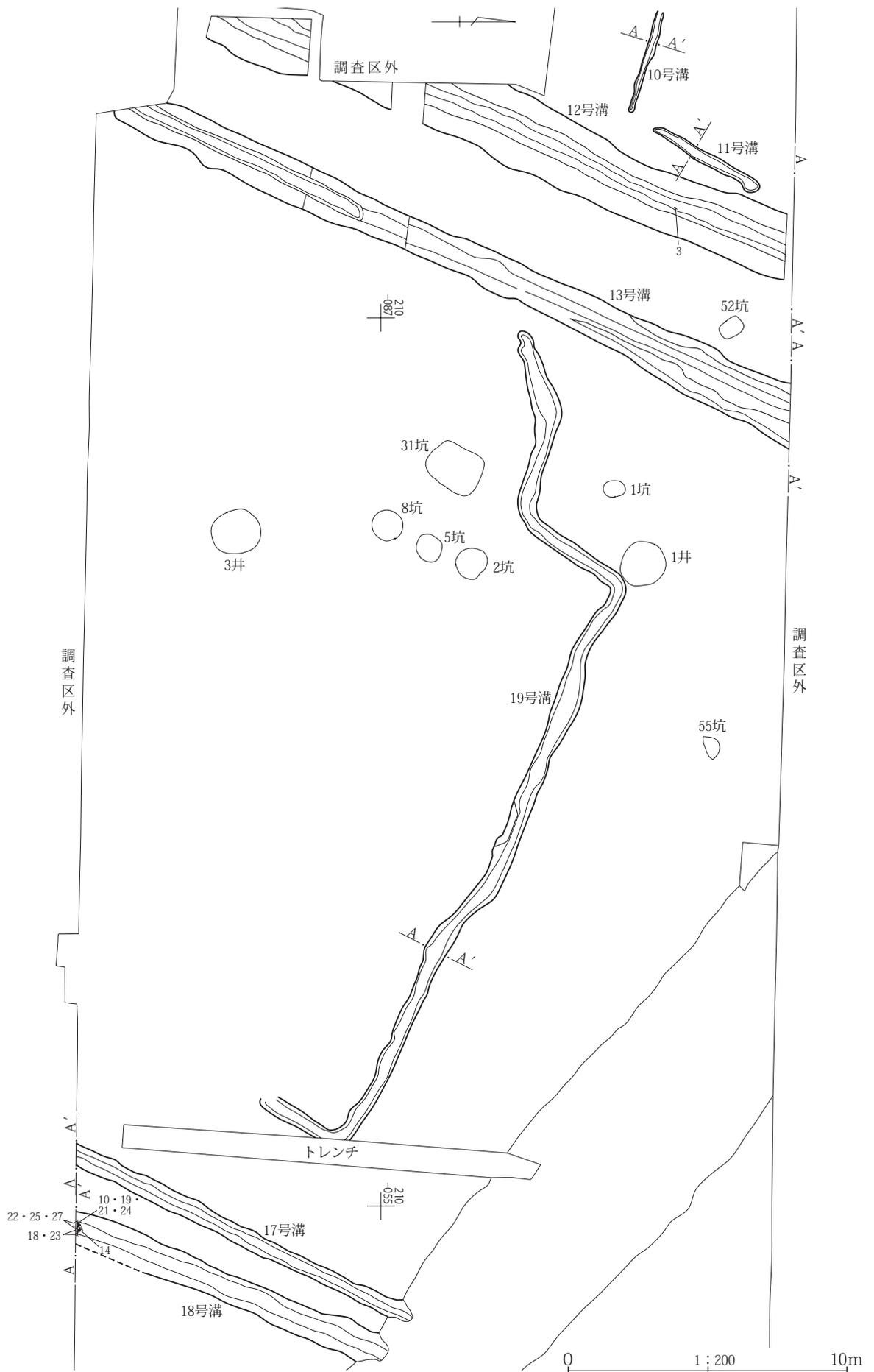
2区居住域の東側を画す溝で、西側を画す12号・13号
と同様に23°から26°東に振れた角度で南北方向に並走・
直進する。西側の溝と較べると規模が小さいが、走行は
共通しており、一連の施設とみてよい。また、両溝は平
安時代の住居数軒を掘り込んで構築している。

西側の17号は幅0.49~0.75m、深さ0.22~0.34mと規
模が小さいが、断面形は薬研状を呈する。遺物は平安時
代のものが多く出土している。

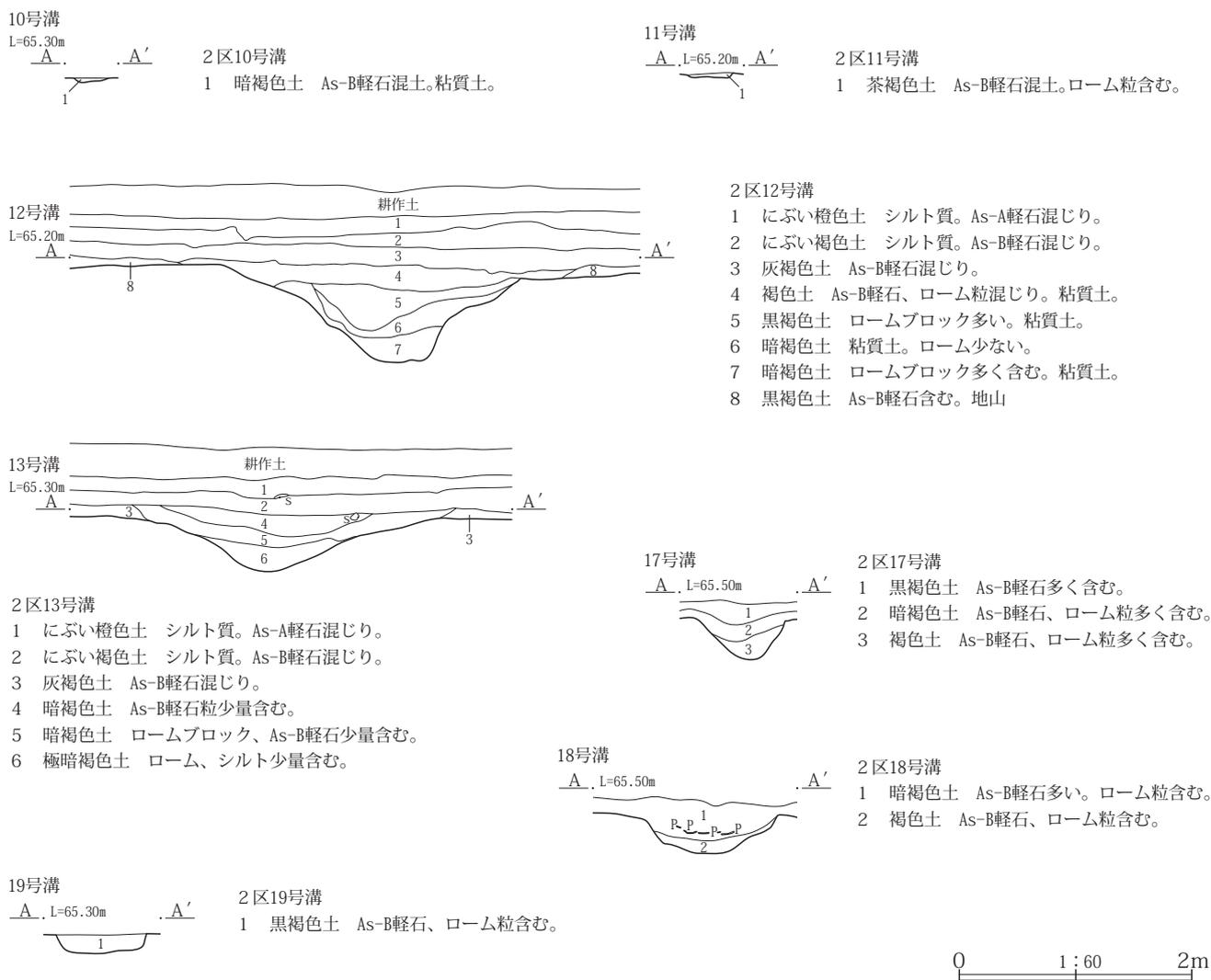
東側の18号は幅0.95~1.35m、深さ0.32~0.35mで、
断面形は逆台形状を呈する。溝の南端部を調査中に多量
の在地系皿がまとまって出土した。居住域内で使用した
ものか、ここで祭祀行事が行われたのか、はっきりしな
いが、隣接する16号溝からも同様の皿が数多く出土して
おり、注目される。



第74図 2区溝全体図



第75図 2区10~13・17~19号溝(1)



第76図 2区10～13・17～19号溝(2)

2区19号溝(第75・76・85図 PL.20)

居住域の東西を画す溝群の間にあり、それと直行する東西方向に伸びる溝で、冠状の形状で内部を目隠しするような形状に配置されている。幅50cm前後、深さ15cm前後の小さな溝で、土坑群もこの南側に集中する傾向が見られる。

3区4号・5号・6号・7号溝(第85図 PL.25)

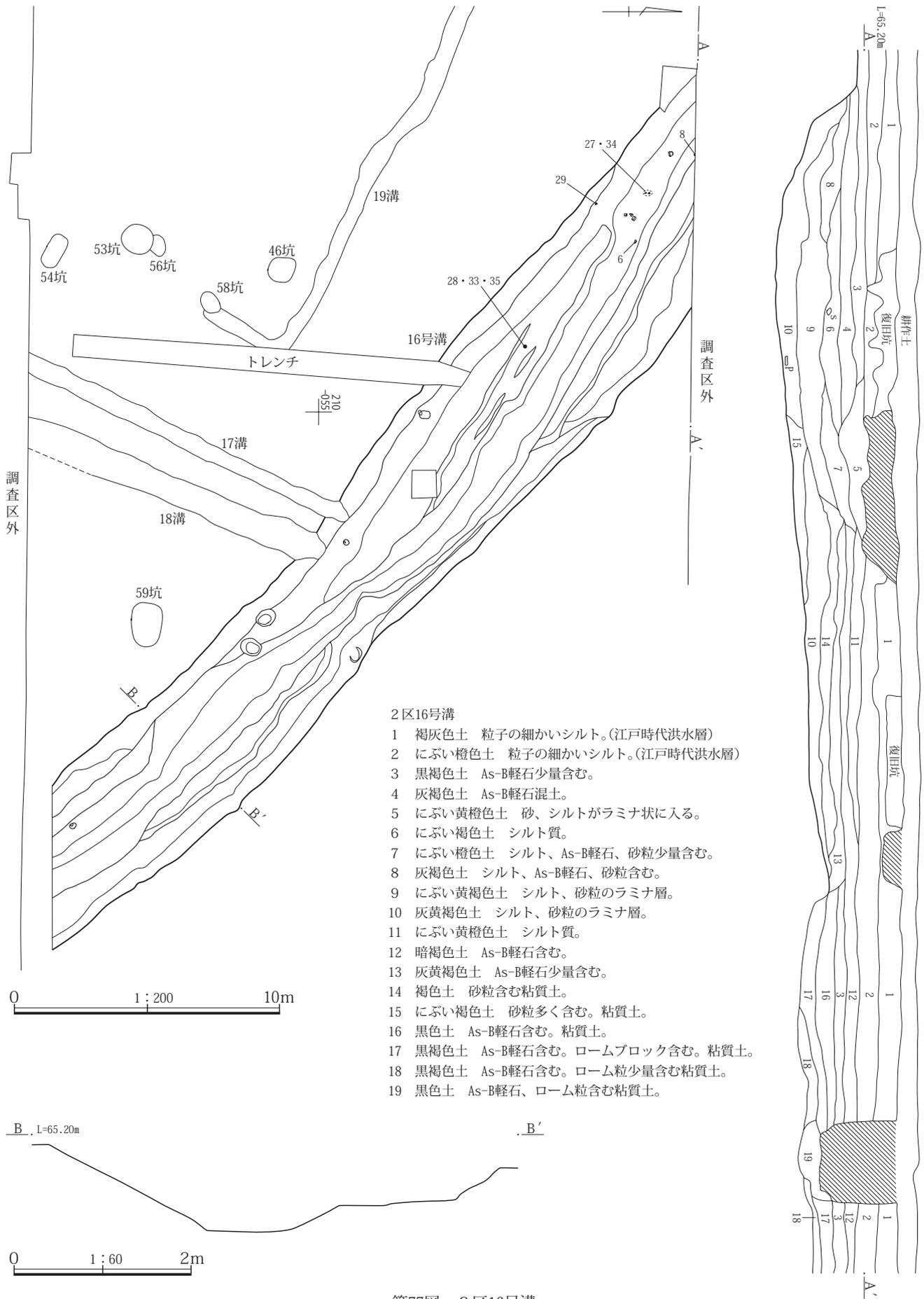
古代に浅間B軽石埋没水田に伴う幅5mの道があり、その上面で確認されたのがこの4条の溝である。溝は重複しながら南北に並走するが、幅5mの道の上面を掘り込んでおり、道の範囲を逸脱するものはない。このことから、この場所が道として浅間B軽石降下後も継続して使用されたことを示していると判断する。つまり、4条の溝は道に伴うもので、場所をずらしながら継続して使

用した痕跡であろう。4条の溝はいずれも浅間B軽石を多量に含む黒褐色土で埋没しており、切り合い関係は把握できないが、4号と7号、5号と6号がそれぞれ一対の関係にあったと想定する。その場合、道幅は1m前後だったことになる。

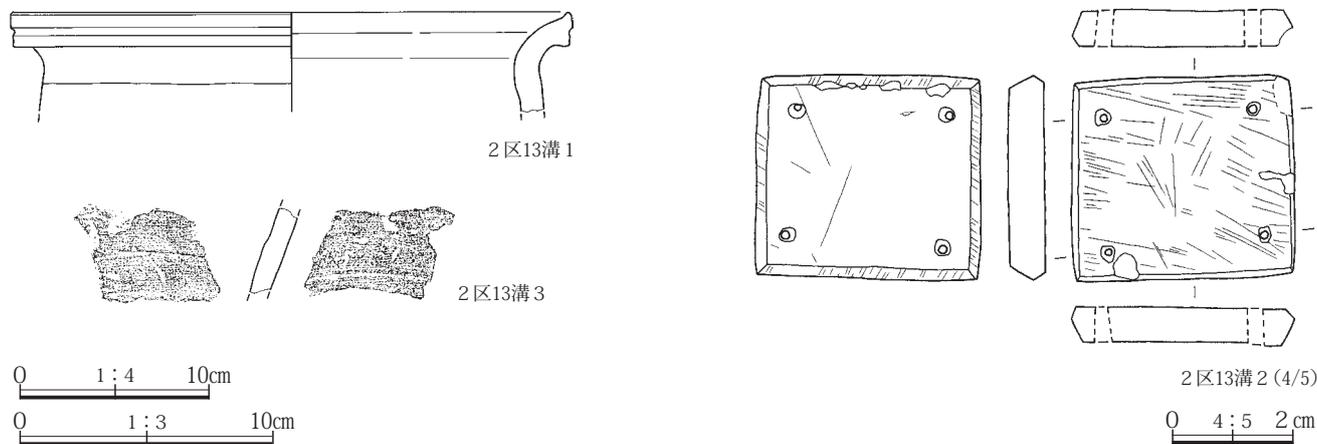
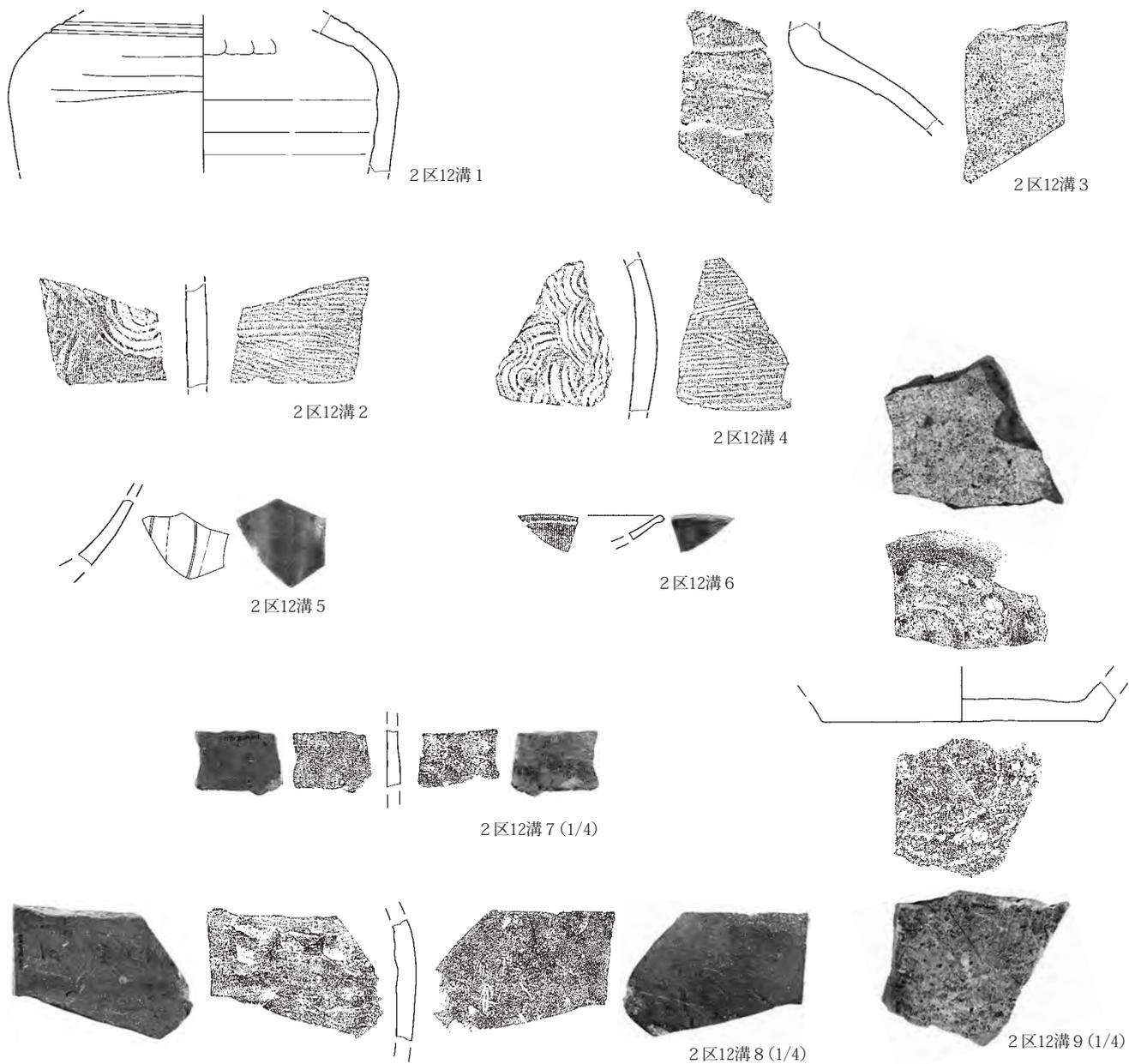
なお、溝の規模はいずれも40cm前後、深さ20cm前後であったと想定したい。

4区9号溝(第86～88図 PL.28・71)

微高地と低地の境を北西から南東に向かって、斜めにやや蛇行しながら流下する。微高地側に浅い溝を伴う削平面があり、そこから平坦面を置いて幅0.68～1.95m、深さ0.19～0.41mの溝となる。微高地側の削平面まで含めると幅は3.5m前後あり、そこから平坦面まで30cm程の削平が認められるから、微高地縁辺から溝の底面までの



第77図 2区16号溝

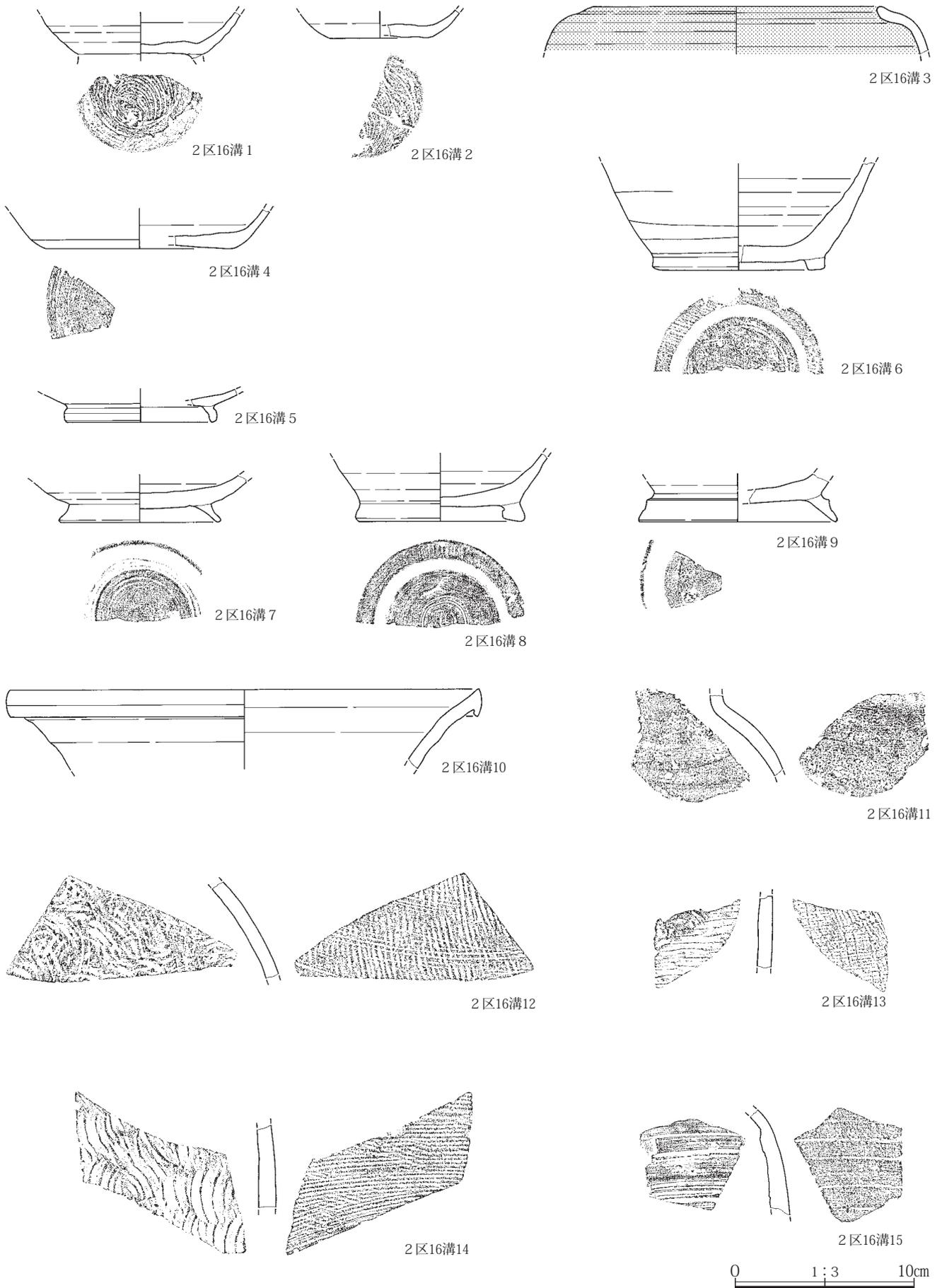


0 1:4 10cm

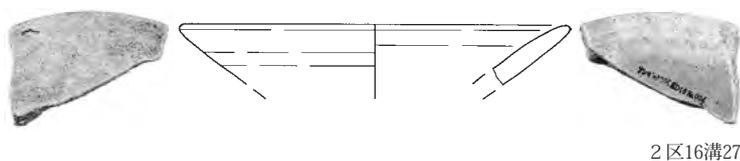
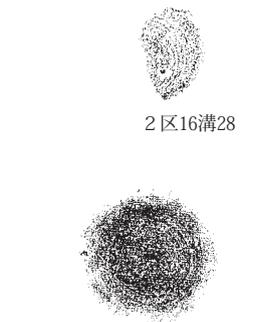
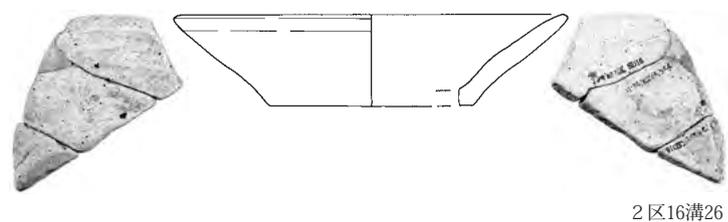
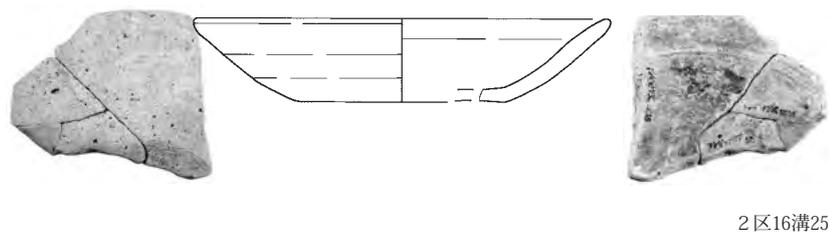
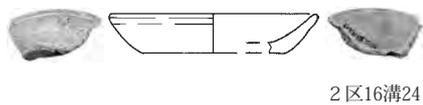
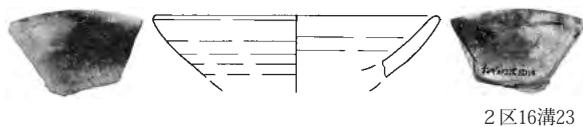
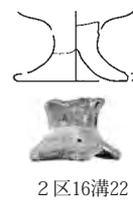
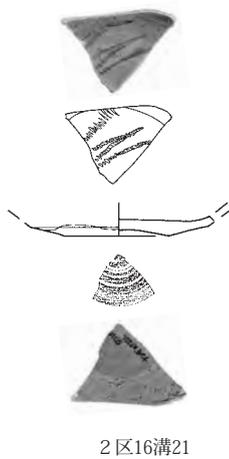
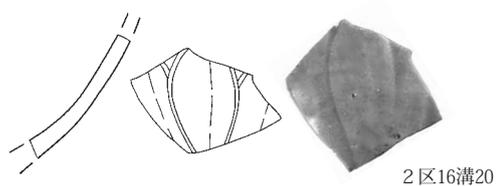
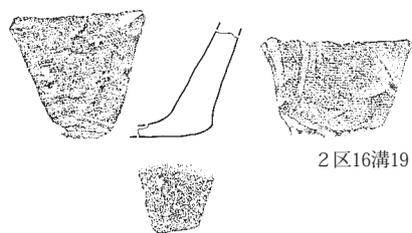
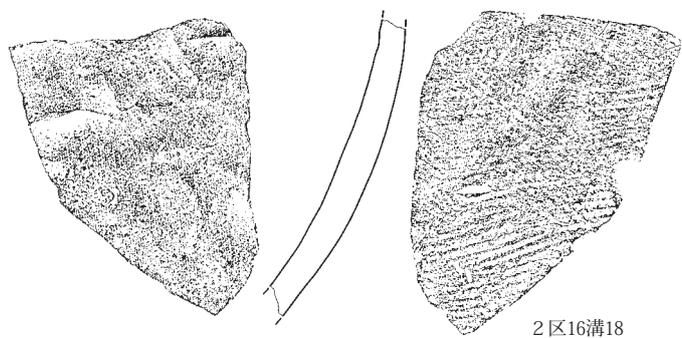
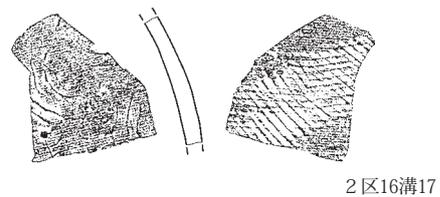
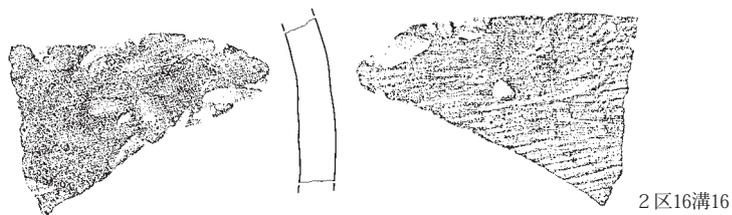
0 1:3 10cm

0 4:5 2cm

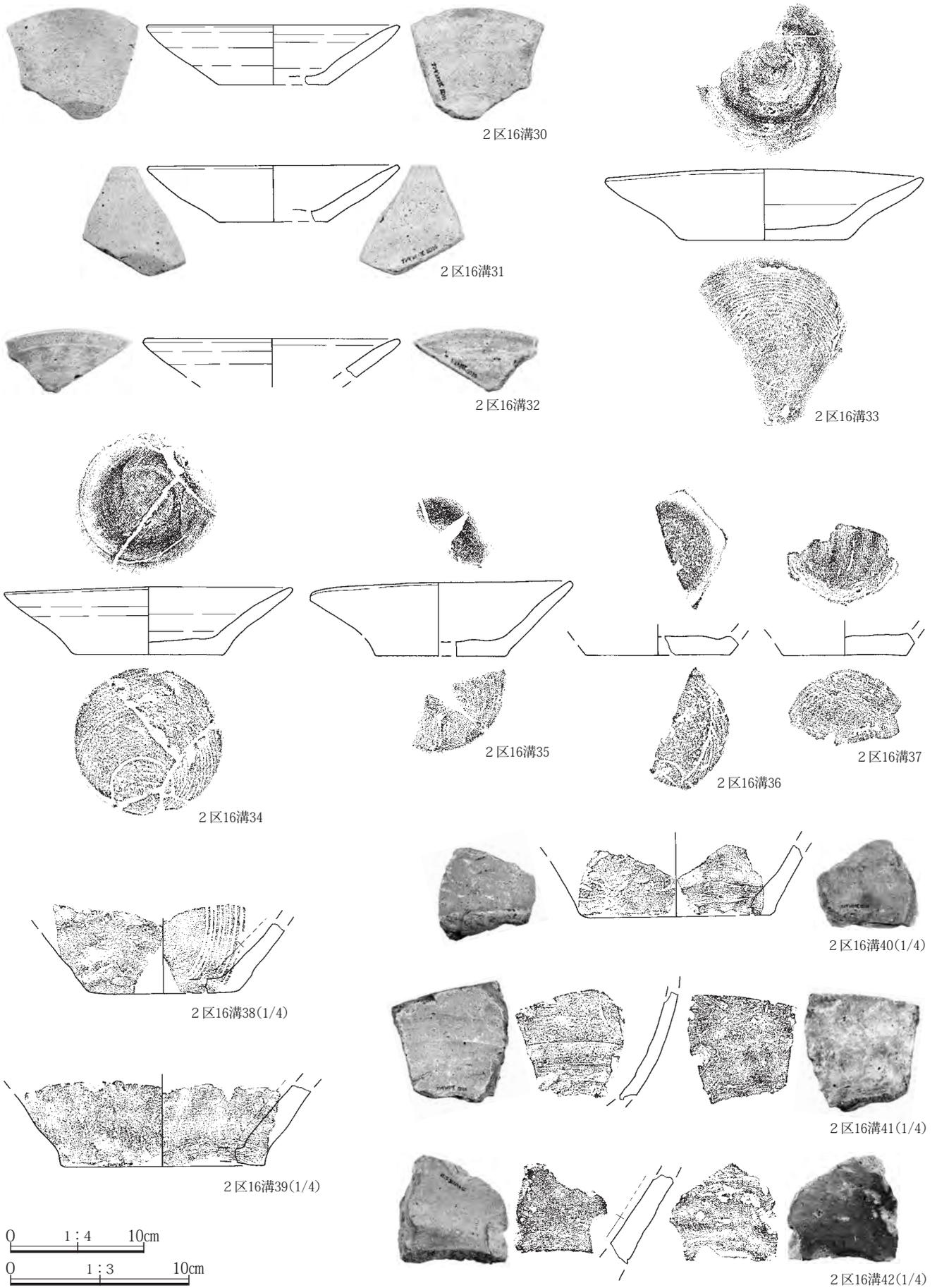
第78図 2区12・13号溝出土遺物



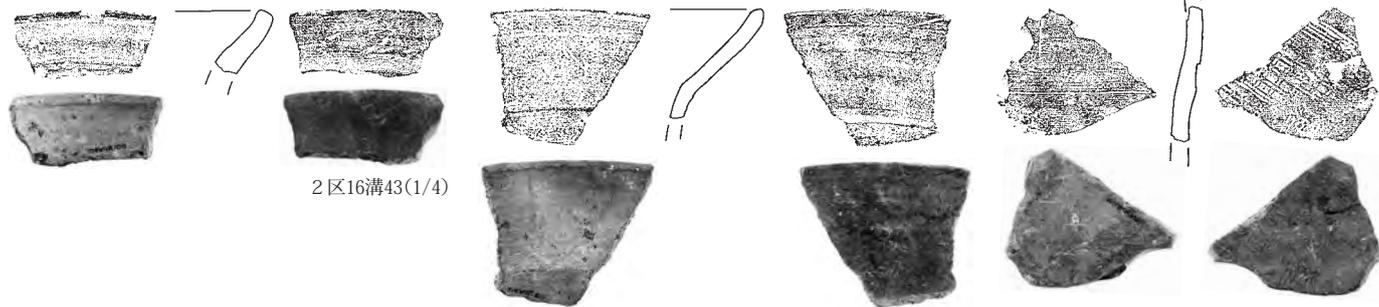
第79図 2区16号溝出土遺物(1)



第80図 2区16号溝出土遺物(2)



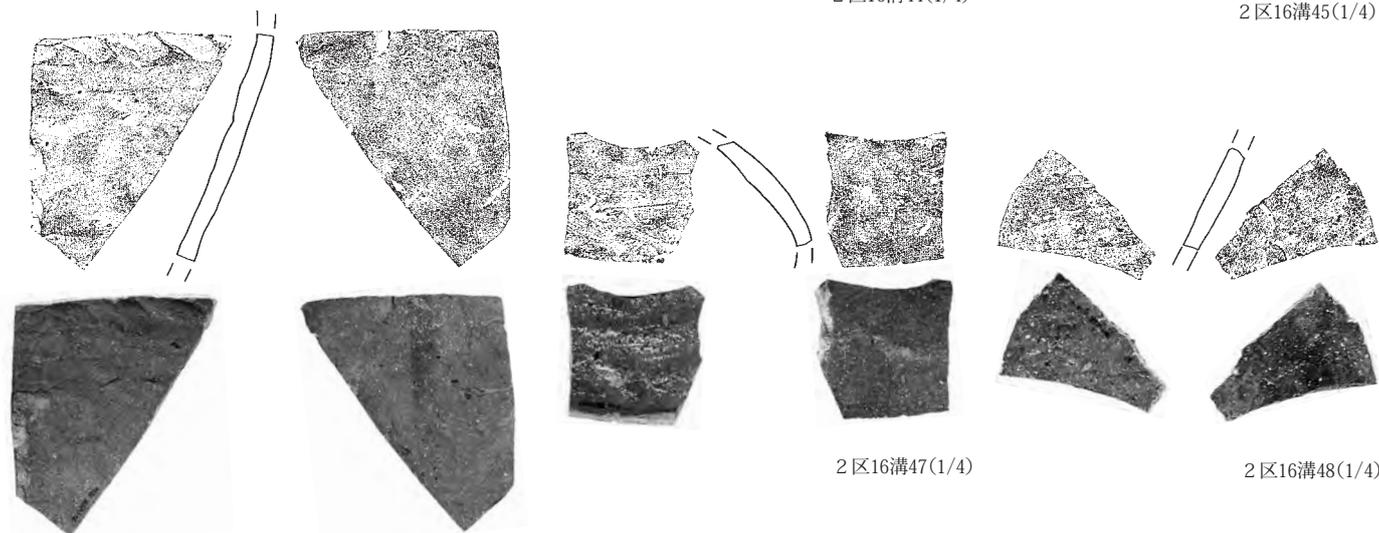
第81図 2区16号溝出土遺物(3)



2区16溝43(1/4)

2区16溝44(1/4)

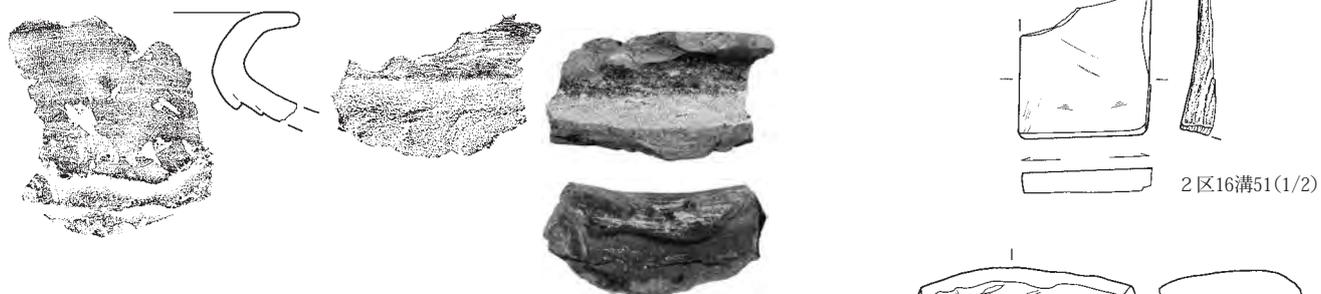
2区16溝45(1/4)



2区16溝46(1/4)

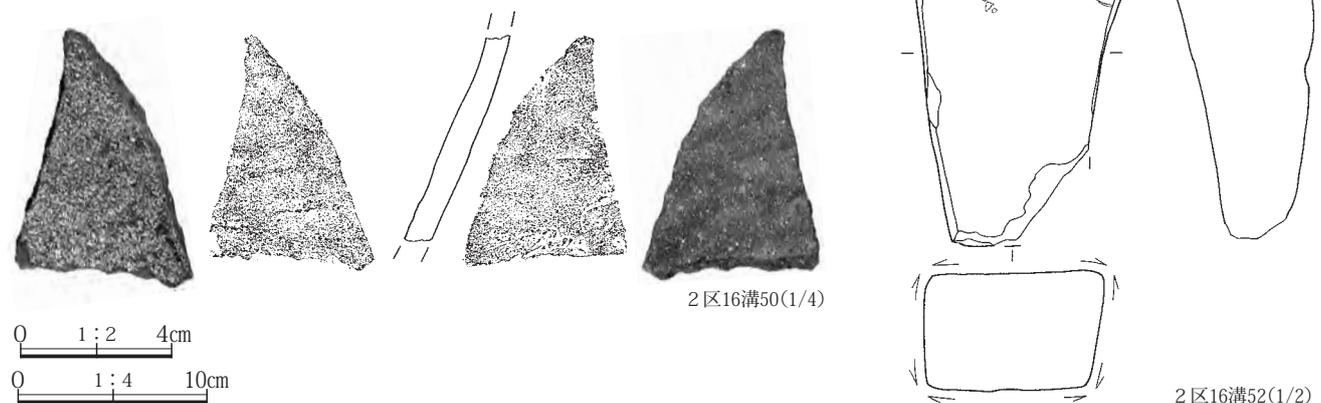
2区16溝47(1/4)

2区16溝48(1/4)



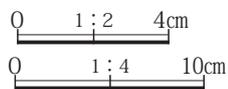
2区16溝49(1/4)

2区16溝51(1/2)

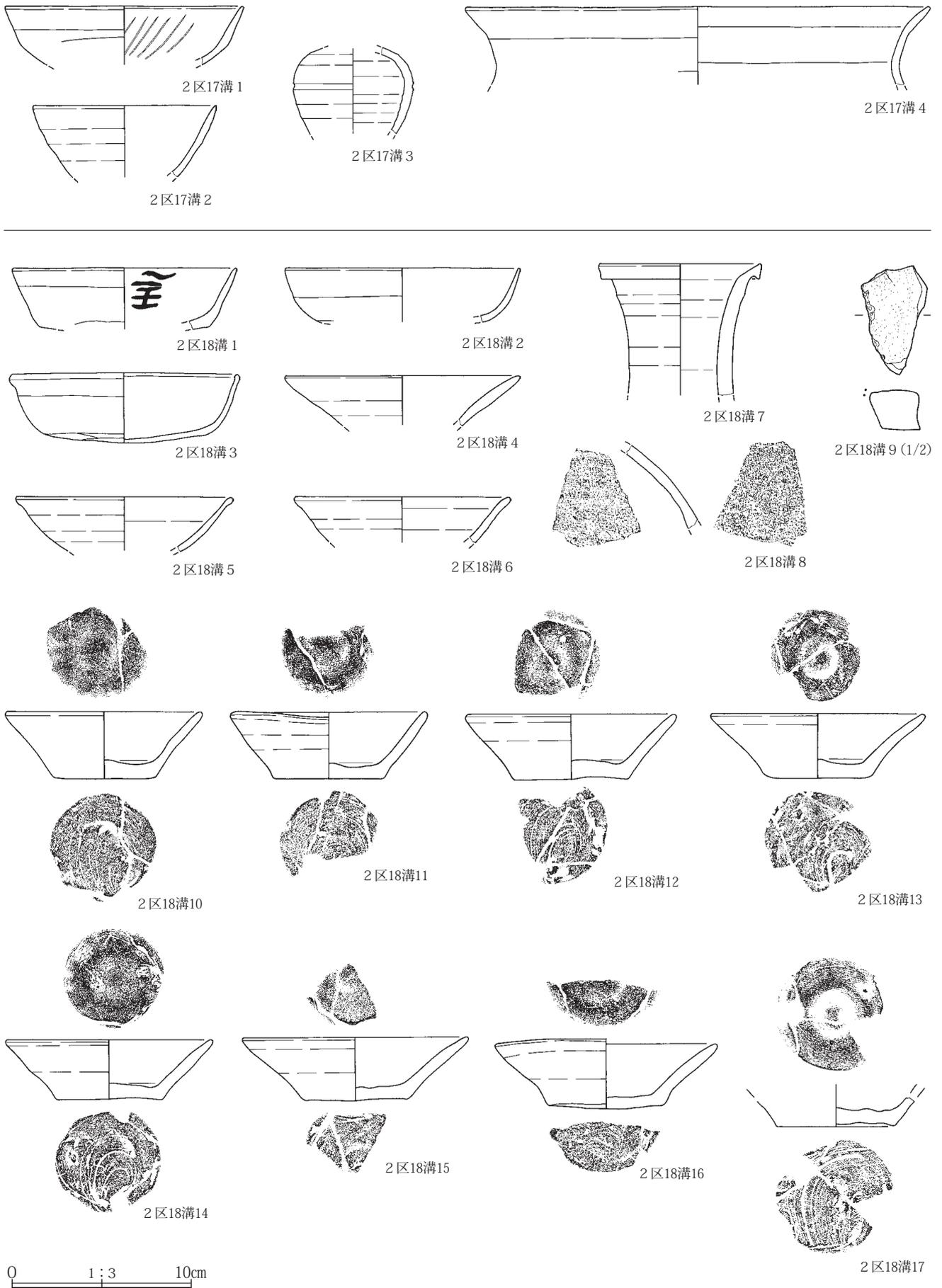


2区16溝50(1/4)

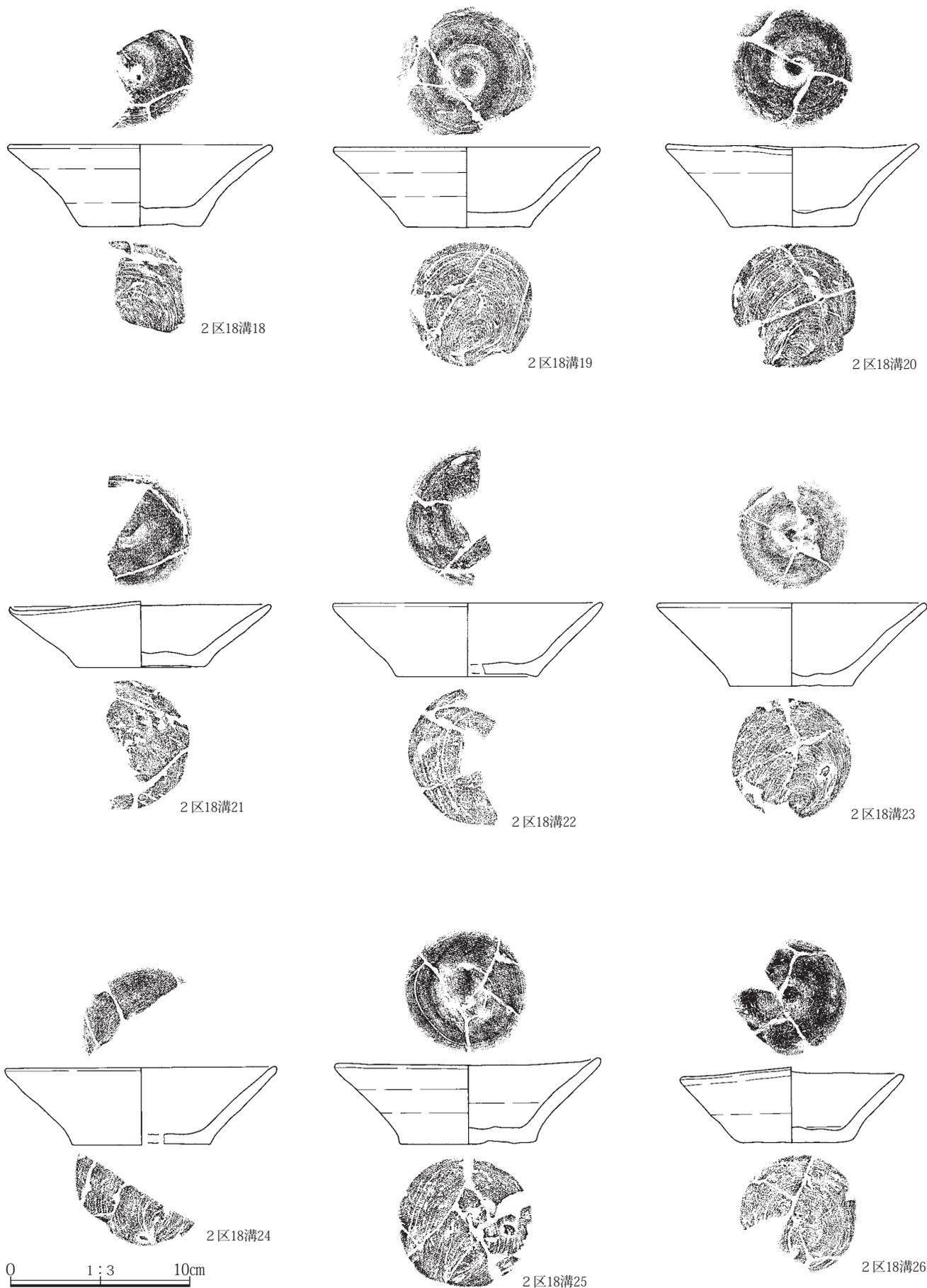
2区16溝52(1/2)



第82図 2区16号溝出土遺物(4)

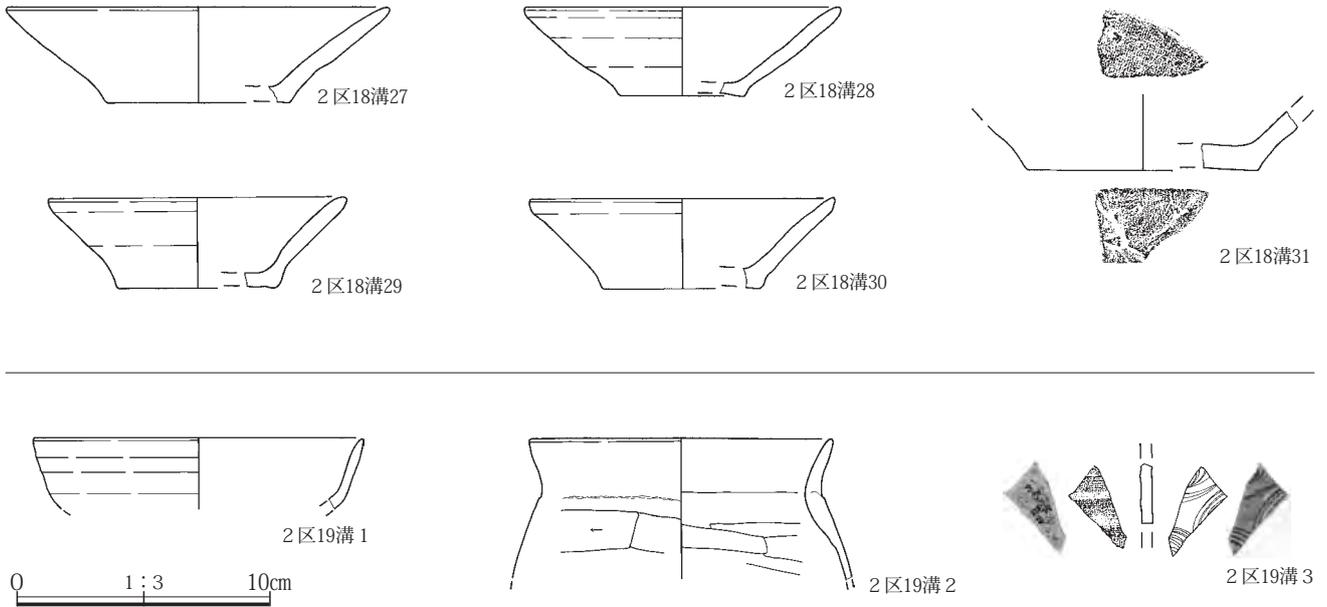


第83図 2区17・18号溝出土遺物

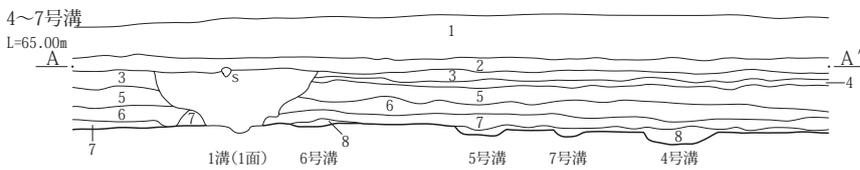
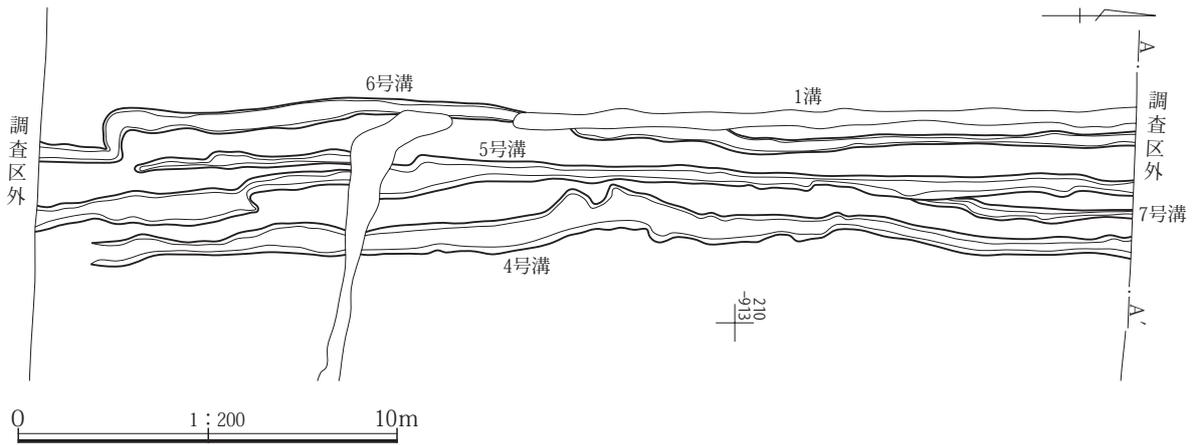


第84図 2区18号溝出土遺物

第4章 中世の遺構と遺物



3区4～7号溝



3区4～7号溝

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1 現耕作土 | 5 にぶい褐色土 As-A軽石含む。 |
| 2 にぶい黄褐色土 旧耕作土、シルト質。 | 6 褐色土 シルト質、軽石粒少量含む。 |
| 3 灰黄褐色土 As-A軽石少量含む。 | 7 暗褐色土 シルト質、As-B軽石粒含む。 |
| 4 黄褐色土 As-A軽石と3層の酸化したもの。 | 8 黒褐色土 As-B軽石粒多く含む。(4～7溝覆土) |

0 1:60 2m

第85図 2区18・19号溝出土遺物、3区4～7号溝



第86図 4区9・10号溝(1)

第4章 中世の遺構と遺物

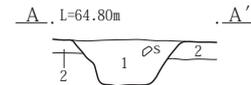
9号溝



4区9号溝

- 1 褐灰色土 少量の白色軽石(As-A)を含む。
- 2 暗褐色土 軽石(As-B)及び少量の黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
- 3 明褐灰色土 砂土。多量の軽石(As-B)及び暗褐色土を含む。

10号溝



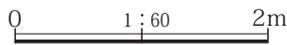
4区10号溝

- 1 黒褐色土 軽石(As-B)及び少量の明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。(溝覆土)
- 2 黒褐色土 少量の白色軽石(As-C?)を含む。(地山)

10号溝



10号溝



第87図 4区9・10号溝(2)

深さは70cm前後となる。

この溝は古代の浅間B 軽石埋没水田を切り込んでおり、微高地側では平安時代の2号住居や14号土坑を切っている。遺物は、平安時代の遺物の他に、中世では舶載青白磁瓶の破片や中世初頭の陶磁器類など、稀少なものが出土している。

こうした形態は、長期にわたって使われてきたことを示しており、2区16号溝と同様に、古代から継続的に使用されてきた当地区の主要水路の一つだったと想定したい。

4区10号溝(第86～88図 PL.28)

微高地の中央付近を南北方向に貫く溝で、幅は0.54～0.78m、深さ0.19～0.33mである。この溝の周囲にはほぼ同方向をとる溝がいくつかあるが、調査段階では未命名だったため、新たに番号を付けた。10号溝の西側3mに並行する溝を18号、同じく西側8mに並行する溝を19号とする。このほかに、各溝の南側に短い溝状の落ち込みがいくつか認められるが、いずれも5号住居外周溝の内側に留まっており、性格はわからない。

18号溝は10号に比べてやや浅く、幅がまちまちで安定しないが、10号溝との並行関係はよく一致しており、両溝は微高地を南北に貫く幅3mほどの道に伴うものであ

ろう。

19号溝は規模が小さく、18号・10号によく並行しているが、北側は途中で止まっており、南側は5号住居周堀の手前で東に曲がり、そこで止まっている。18号溝との間隔は2mと近接しており、道の側面に設けられた塀であろうか。

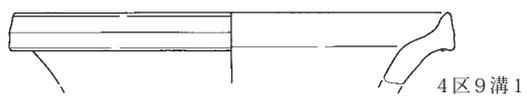
なお、7号井戸北側の18号溝上面から焼人骨がまどまって出土している。詳細は第8章で述べるが、ここに中世の火葬墓が存在した可能性を暗示している。

第6節 遺構外の出土遺物

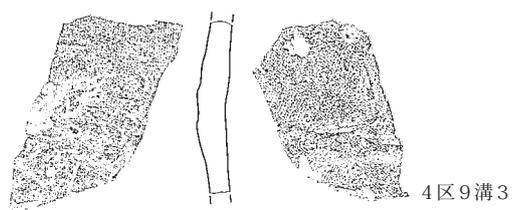
(第89・90図)

各区遺構外から図のような遺物が出土している。特に1区出土の古瀬戸瓶(第89図1・2)や、3区出土の舶載青磁・青白磁や古瀬戸類(第90図1～4・7・9)など、希少品も数多く出土している。

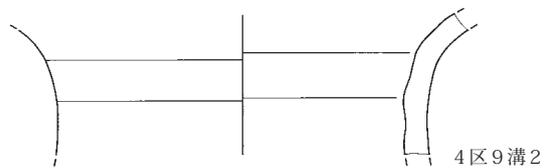
第5節 溝



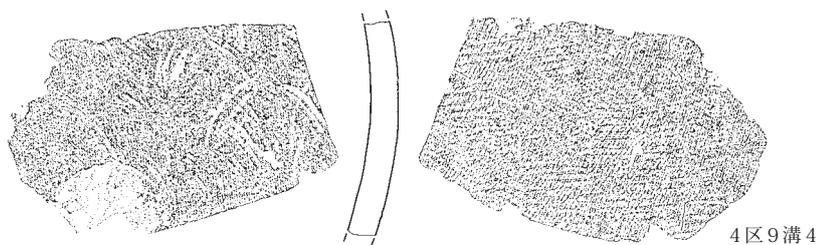
4区9溝1



4区9溝3



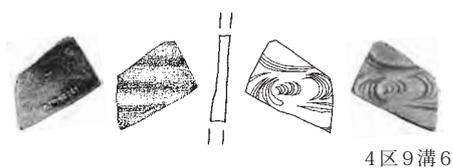
4区9溝2



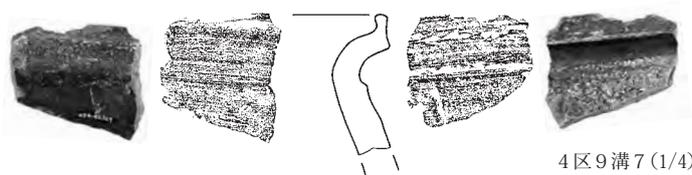
4区9溝4



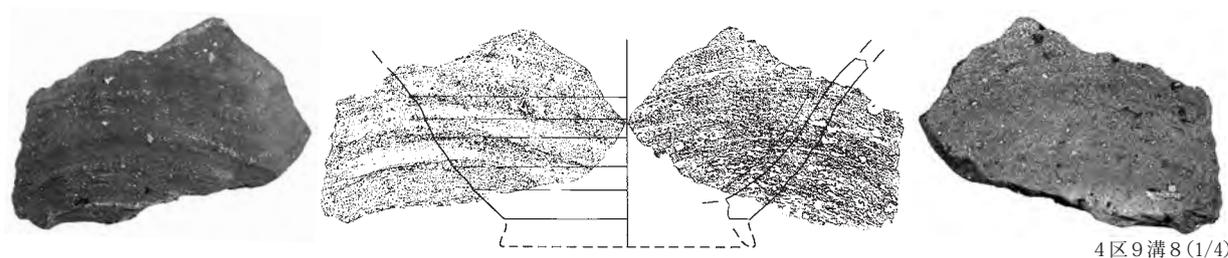
4区9溝5(1/2)



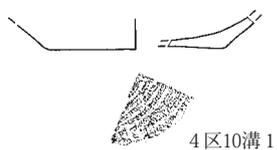
4区9溝6



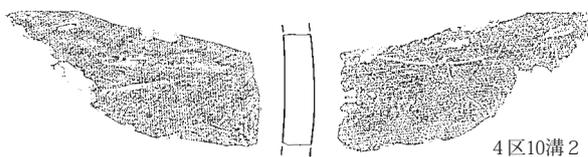
4区9溝7(1/4)



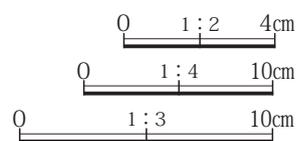
4区9溝8(1/4)



4区10溝1

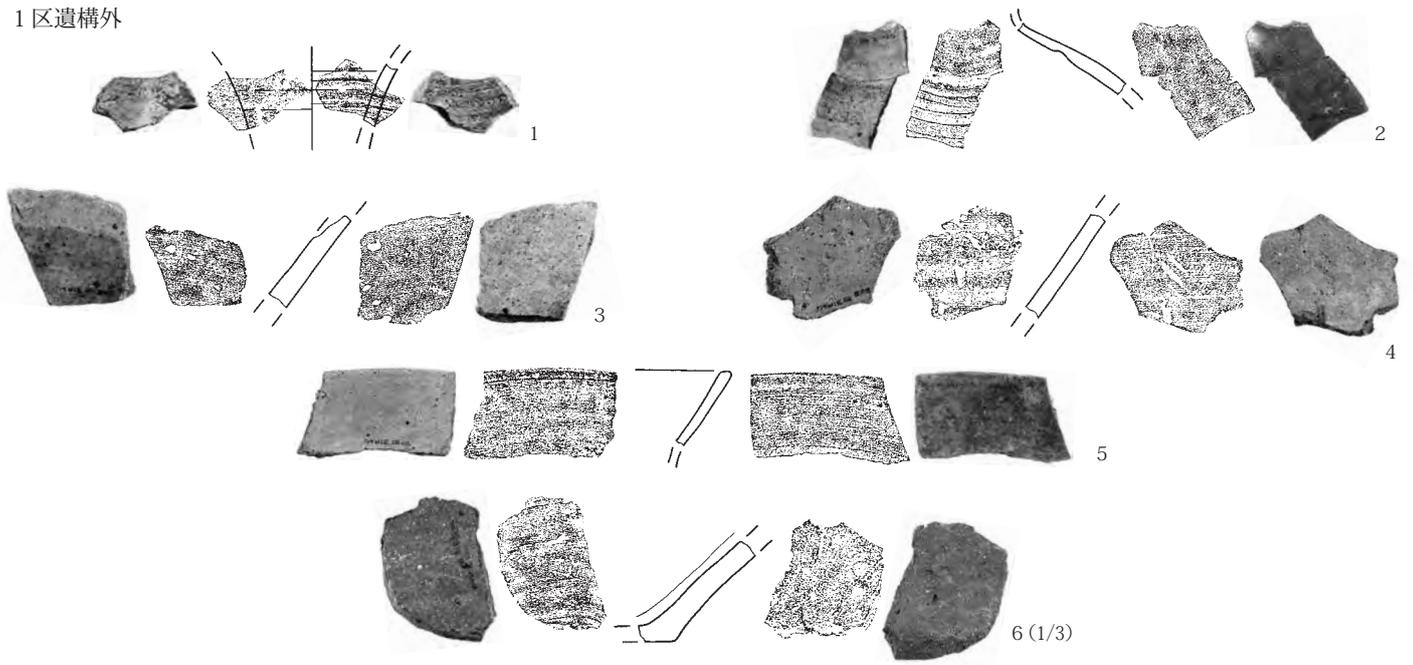


4区10溝2

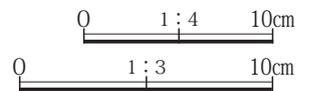
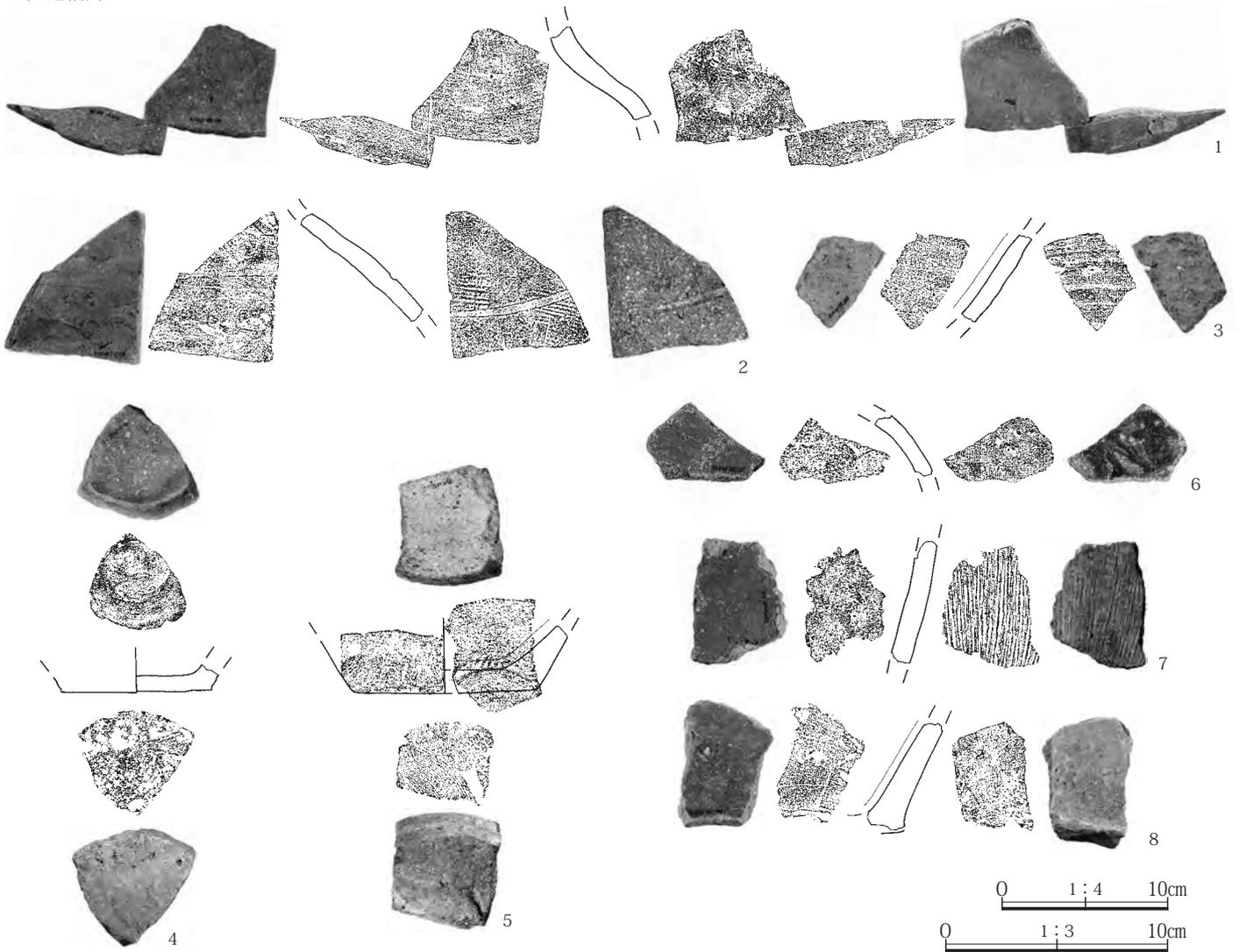


第88図 4区9・10号溝出土遺物

1区遺構外

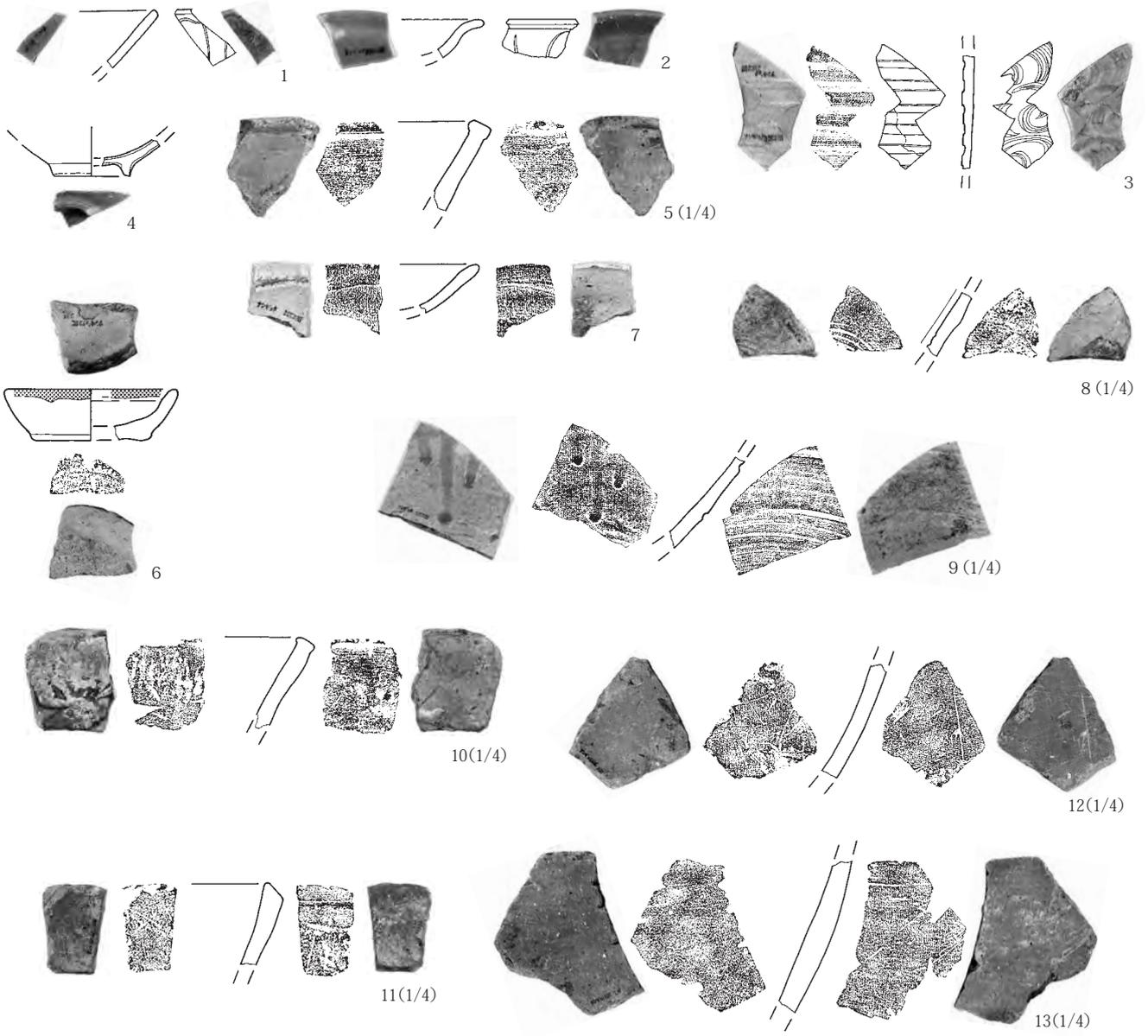


2区遺構外

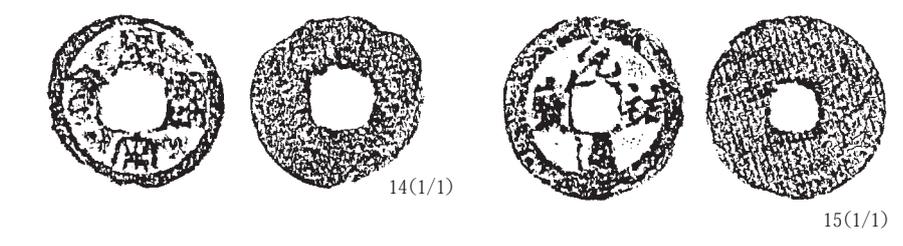
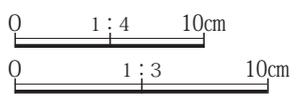
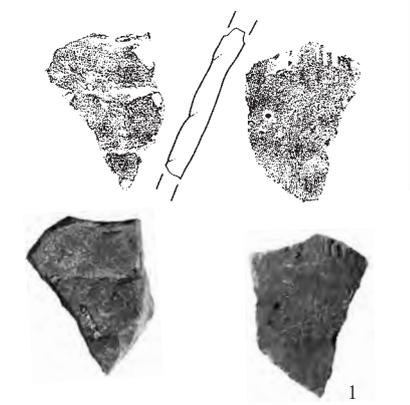


第89図 1・2区遺構外出土遺物(中世)

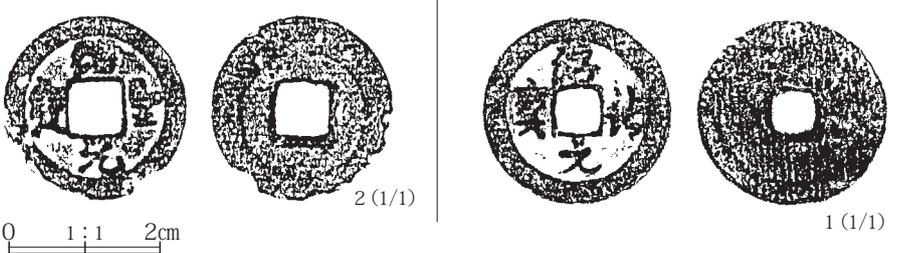
3区遺構外



4区遺構外



5区遺構外



第90図 3～5区遺構外出土遺物(中世)

第5章 奈良・平安時代の遺構と遺物

第1節 発掘調査の概要

1 調査概要

本遺跡では各調査区で平安時代の遺構と遺物が確認された。内訳は、竪穴住居27軒、竪穴状遺構1棟、掘立柱建物5棟、土坑38基、ピット18基、溝11条、水田3箇所である。年代は9世紀代を中心に、8世紀後半から10世紀初頭まで継続する集落で、水路では水場祭祀が行われていた様子が数多く確認された。

調査面は1区～3区では第3面、4区・5区では中世の遺構とともに第2面であり、基本土層では第Ⅵ層～第Ⅷ層が該当する。第Ⅵ層は天仁元(1108)年に降下した浅間B軽石層で、本遺跡でも各調査区の低地では、この軽石層で埋没した水田が確認されている。以下、この水田はAs-B下水田と呼ぶ。

2 各区の概要(第91～93図)

1区では、竪穴住居6軒、土坑5基、溝1条とAs-B下水田が確認された。竪穴住居は東側微高地の縁辺をめぐるように分布し、低地には水田が広がっていた。竪穴住居が微高地中央部に無いのは、そこにはまだ古墳があったからである。土坑は古墳の周囲に2基あり、微高地縁辺から低地にかかる付近に3基が分布していた。このうち、大型の7号土坑から土師器杯が数多く出土しており、水場で祭祀行事が行われていた可能性が高い。

低地のAs-B下水田は、縁辺部と東側一帯が不明瞭であり、この水田に伴う水路は確認されていない。溝はAs-B下水田の耕土下で確認されたもので、やや斜めに南北方向に直進しており、長期間にわたって使用された形態を示している。

2区では、竪穴住居16軒、掘立柱建物3棟、土坑15基、溝8条とAs-B下水田が確認された。微高地では数多くの竪穴住居と掘立柱建物が全域に分布し、重複するものも多い。低地に広がるAs-B下水田は縁辺部が南北方向に直線的な区切りがあり、微高地縁辺をめぐる水路に伴う。

水田耕土の下からは微高地縁辺から数多くの水路が確認され、長期にわたって水田が継続していたことを想定させる。また、水路では水場祭祀が行われていたことを示す遺物が数多く出土している。土坑の多くはAs-B下水田の耕土下から水路と共に確認されたもので、水田耕作に伴う施設、あるいは修繕に伴うものであろう。

3区ではAs-B下水田と土坑7基、溝2条が確認された。3区は全域が低地で、2区から続く水田が広がっている。水田面の東方に、南北方向に直進する幅5mの道があり、当地区の基準ラインとなる可能性が高い。ここから2区水田の低地縁辺にあった南北方向の区切りまで109mであり、条里地割に合致する。また、水田耕土下では2区から続く溝2条と土坑群が確認されている。

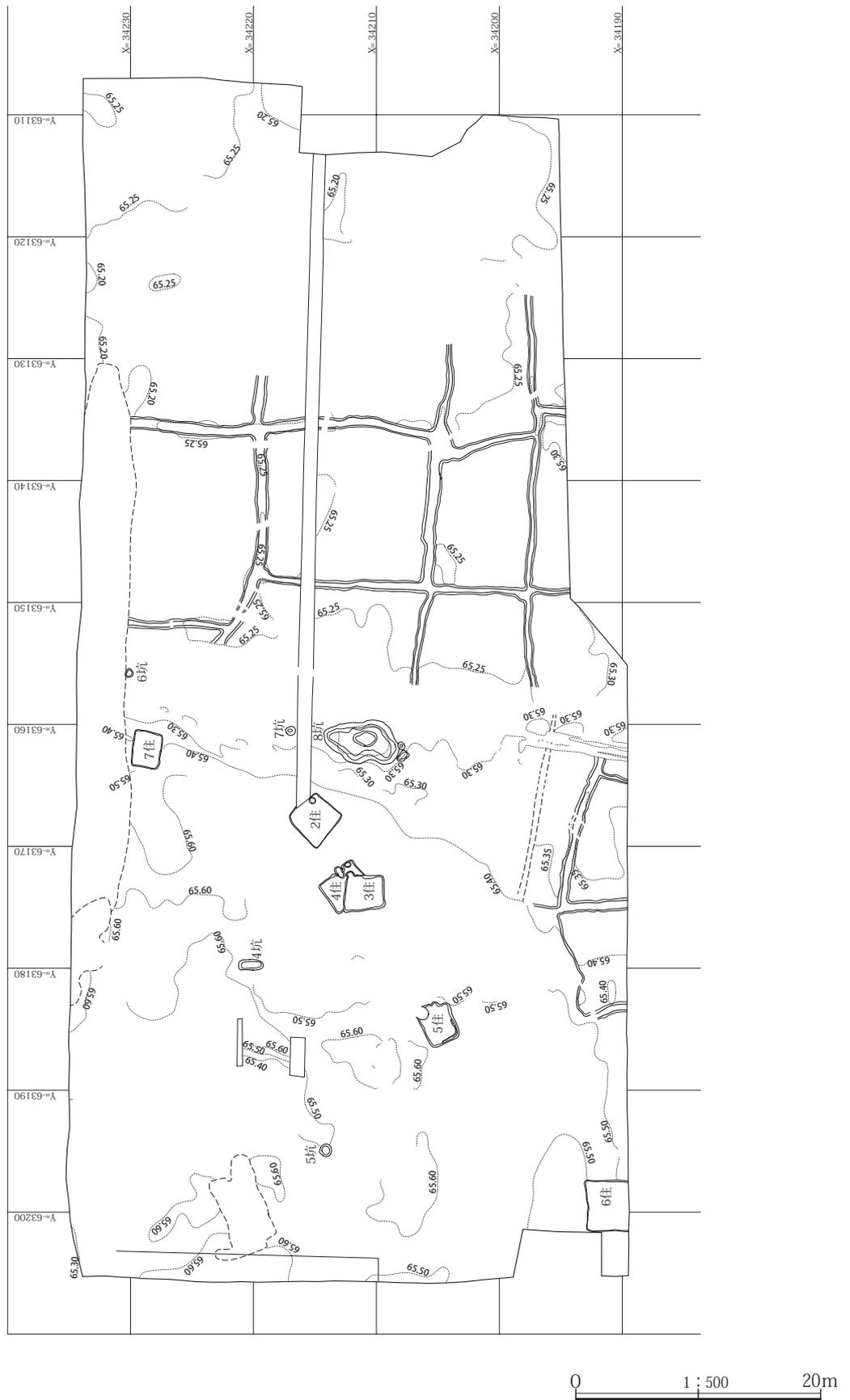
4区では竪穴住居3軒、竪穴状遺構1棟、掘立柱建物2棟、土坑5基とAs-B下水田が確認された。ここでは微高地の東側に竪穴住居、西側に掘立柱建物、中央部に竪穴状遺構があり、土坑は各所に点在する。低地には水田が広がるが、その中央に南北に直進する幅2mほどの大畔がある。3区の道からここまでがちょうど109mである。水田に水路はないが、微高地縁辺をめぐる中世の9号溝がこの時期にも水路として機能していた可能性は高い。

5区では竪穴住居2軒、土坑6基、ピット18基とAs-B下水田が確認された。5区は南側に微高地の一部があり、その他は低地になっている。竪穴住居・土坑・ピットはこのわずかな微高地にあり、低地にはAs-B下水田が広がっている。

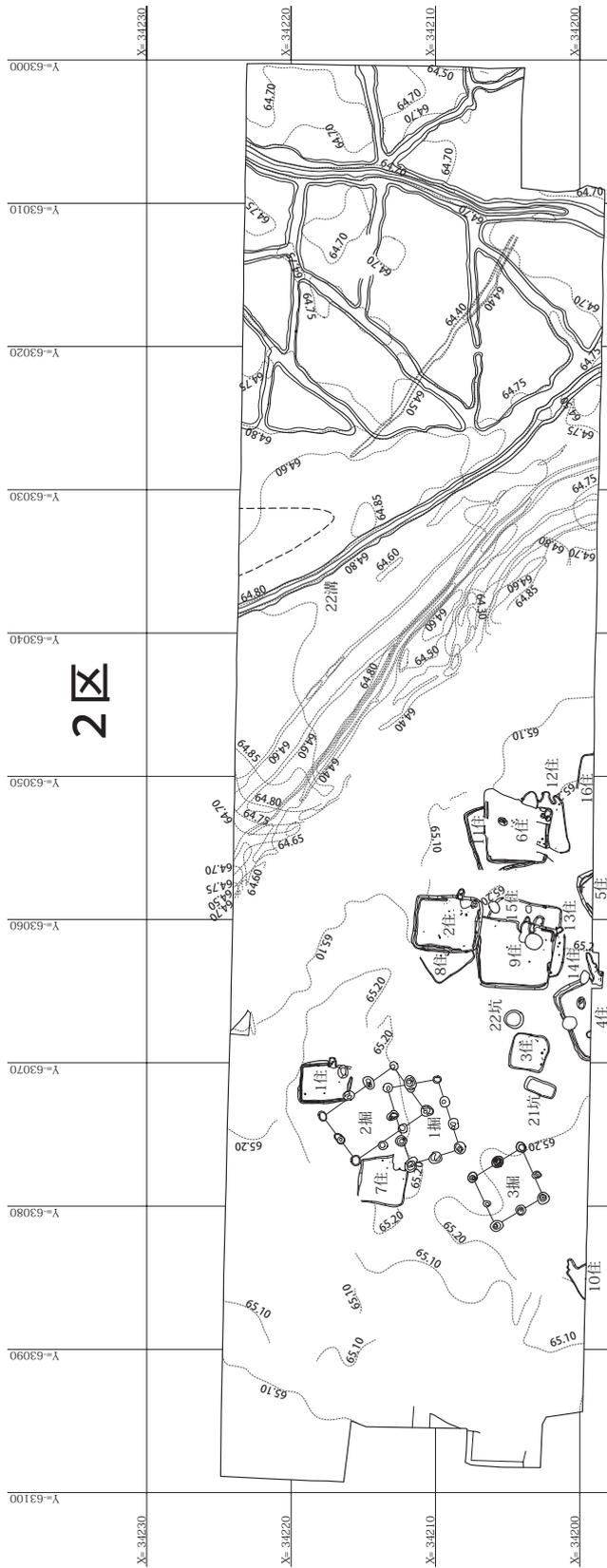
第2節 竪穴住居

竪穴住居は1区から6軒、2区から16軒、4区から3軒、5区から2軒、総計27軒が確認できた。大半が上層を大きく削平されており、確認面からの深さは浅いものが多い。また、4区では竈をもたない竪穴状遺構が1棟見つかった。これも含めて以下に報告する。

1区

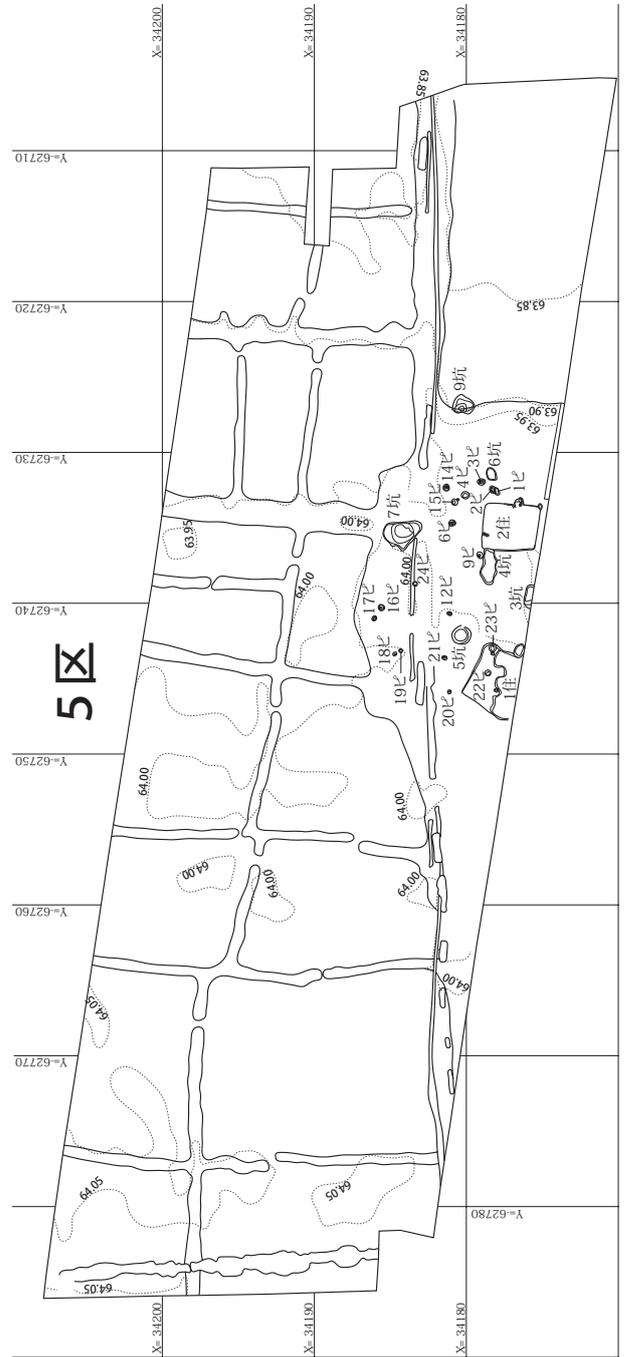
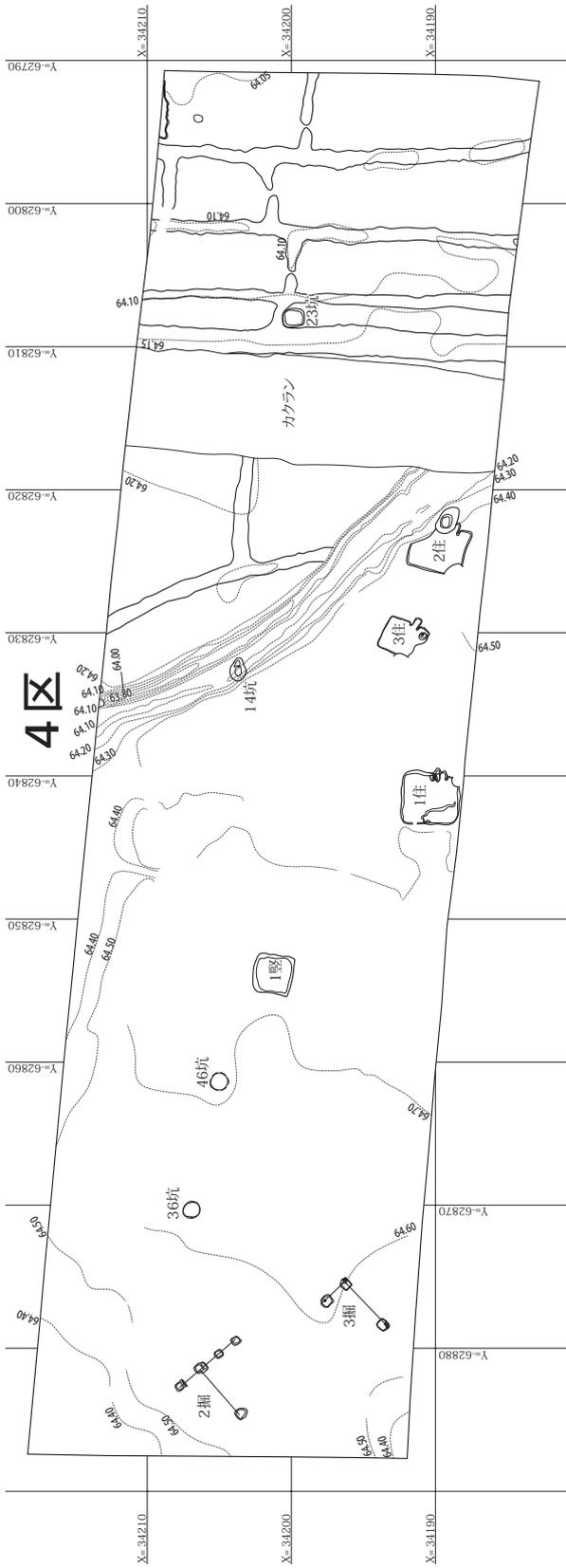


第91図 1区全体図(奈良・平安時代)

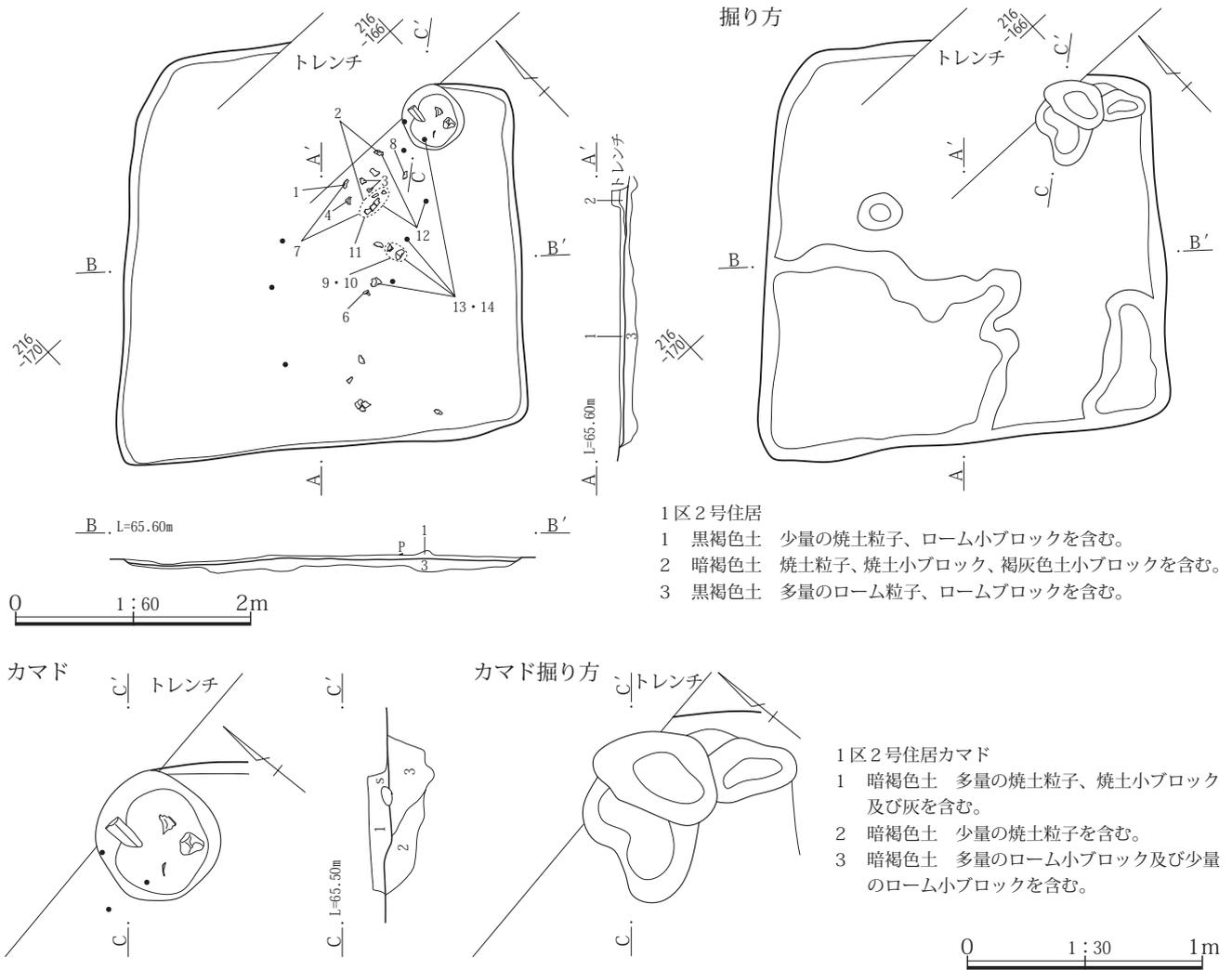


0 1:500 20m

第92図 2・3区全体図(奈良・平安時代)



第93図 4・5区全体図(奈良・平安時代)



第94図 1区2号住居

1区2号住居(第94・95図 PL.32・67・68)

位置：X=212~217、Y=-165~170

形状・規模：形状はほぼ正方形を呈し、北東辺にカマドが付くが、その部分を試掘トレンチで切られている。規模は、長軸長3.55m、短軸長3.52m、壁高5cmを測る。

主軸方位：N-45°-E

重複：なし。

床面：ほぼ平坦で、明瞭な硬化面は確認できない。

カマド：北東側に付くが、試掘トレンチにより切られており、カマド本体は削平されていると判断する。想定されるカマド焚き口付近から棒状礫と扁平礫が出土しており、このカマドで使用されていたのかもしれない。この部分には焼土と灰が残っており、その下には焼土と灰を多量に含む掘り方も確認できた。

貯蔵穴・柱穴・周溝：確認されていない。

掘り方：カマドと反対の南西側で浅い掘り込みを確認したが、それ以外は認められない。

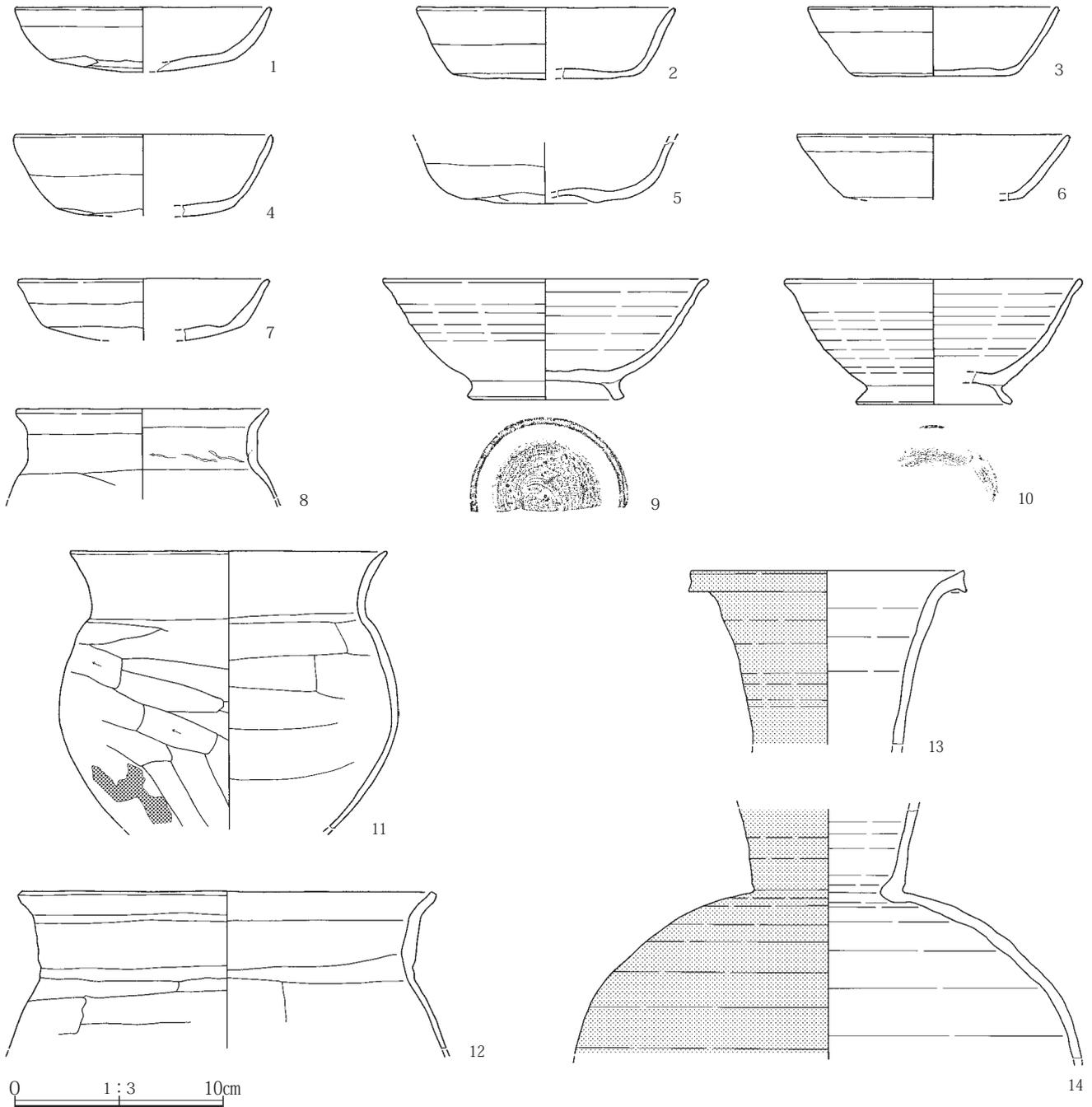
遺物出土状態：住居中央部の床面上数cmから、比較的多くの土器類が破片状態で出土した。ここに図示したものはほとんどがここからの出土である。そのうち、灰釉陶器壺(14)は、この床上から出土したものと、カマド掘り方から出土したものが接合したものである。

所見：出土遺物から、本住居は9世紀第3四半期に比定されよう。

1区3号住居(第96図 PL.32・68)

位置：X=209~212、Y=-172~175、2号住居の南西3mに近接する。

形状・規模：形状は南北方向が長い長方形を呈するが、西辺に比べて東辺が長く、北辺に比べて南辺がやや長い、



第95図 1区2号住居出土遺物

やや歪んだ形態を呈する。規模は、長軸長3.38m、短軸長3.05m、壁高17cmを測る。

主軸方位：N-58°-E

重複：北側を4号住居と重複し、これを切る。

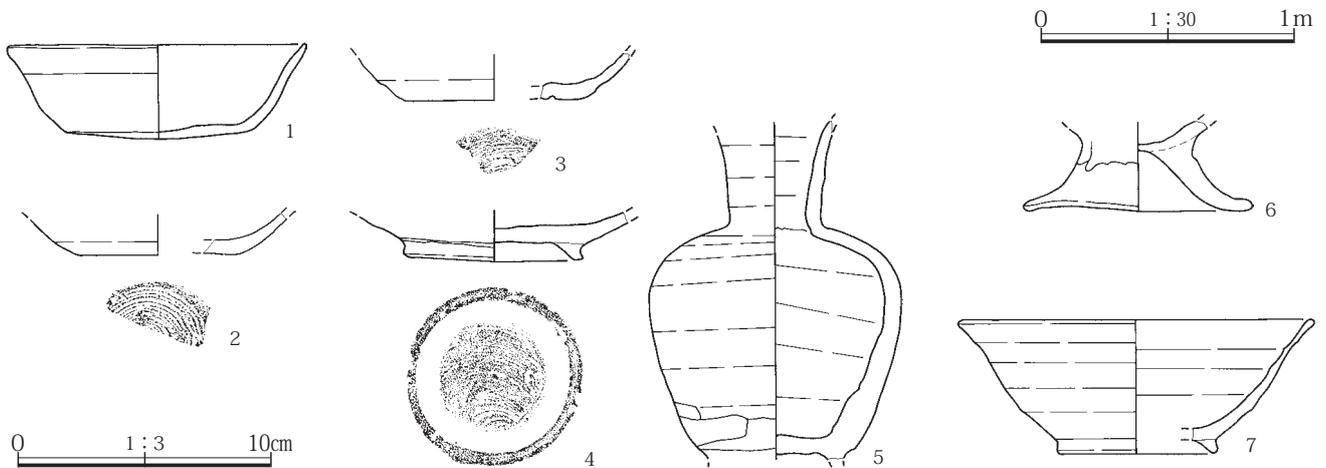
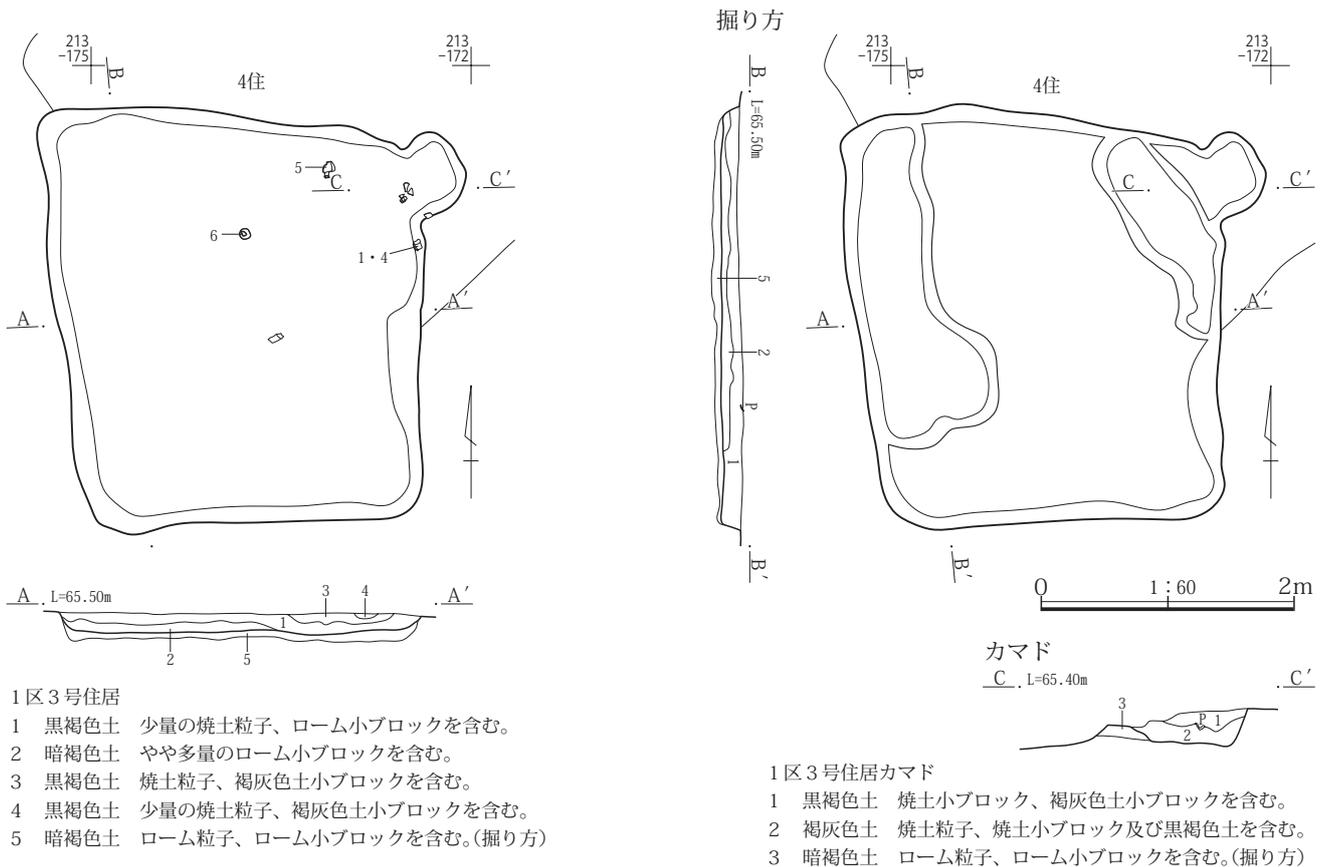
床面：緩やかに傾斜しており、各所に起伏はあるが、ほぼフラットな床面となっている。明瞭な硬化面は認められない。

カマド：北東隅部に付設する。袖や使用面は不明瞭ではっきりしない。また、遺物もほとんど認められない。

貯蔵穴・柱穴・周溝：床面精査を行ったが確認できなかった。

掘り方：西側とカマド前面で浅い掘り込みを確認したが、それ以外は認められない。

遺物出土状態：覆土中から少量の遺物が出土した。第96図5の須恵器小型瓶はカマド手前の覆土中から、1・4はカマド右手前の壁付近からの出土である。非掲載遺物は、土師器79点(大型製品68、小型製品11)、須恵器8点(大型製品1、小型製品7)が出土した。



第96図 1区3号住居と出土遺物

所見：出土遺物から時期は、9世紀後半と考えられる。

1区4号住居(第97・98図 PL.33・68・71)

位置：X=210~214、Y=-171~175

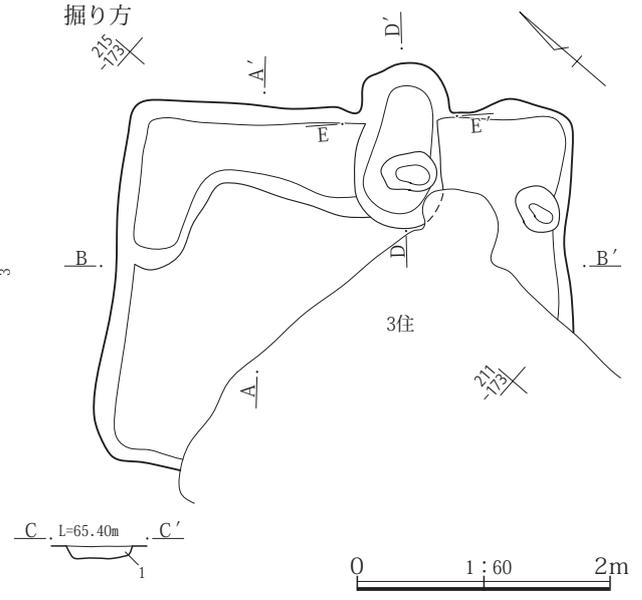
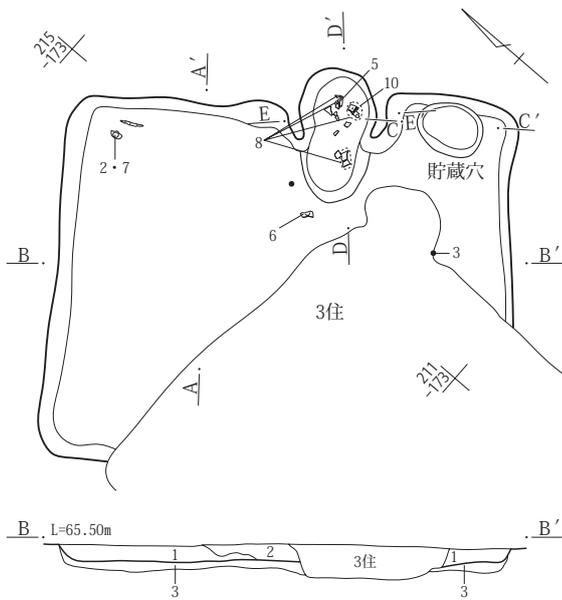
形状・規模：横長の長方形を呈する。規模は、長軸長3.72m、短軸長3.02m、壁高15cmを測る。

主軸方位：N-52°-W

重複：南側を3号住居と重複し、これに切られる。

床面：床面のレベル差は少なくほぼ平坦で、明瞭な硬化面は確認できなかったが、カマド構築材の一部と考えられる灰白色粘質土が手前の床面中央を覆うように広く分布し、張り床状を呈していた。この粘質土が重複する3号住居に切られている。

カマド：小さな両袖が付くカマドで、東北辺の中央より東側寄りにある。規模は長さ1.07m、幅0.80m、焚口幅0.38m、燃焼部奥行き0.9mで、燃焼部使用面に灰が堆



0 1:60 2m

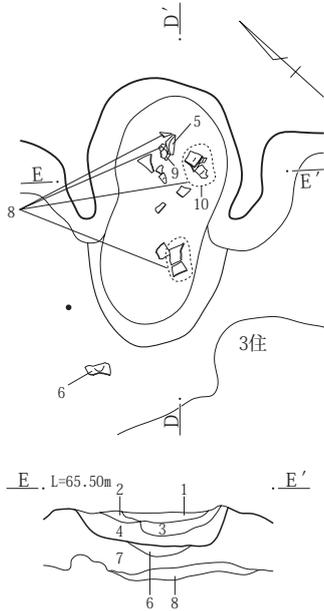
1区4号住居

- 1 黒褐色土 白色軽石(As-C)及び少量の焼土粒子を含む。
- 2 褐灰色土 粘質土、やや多量の黒褐色土小ブロック及び少量の焼土小ブロックを含む。
- 3 黒褐色土 白色軽石(As-C)及び焼土小ブロック、褐灰色土小ブロックを含む。

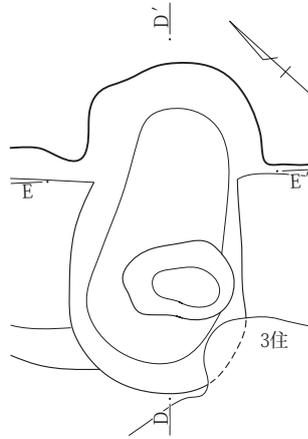
1区4号住居貯蔵穴

- 1 黒褐色土 少量の焼土粒子、ローム小ブロックを含む。

カマド



カマド掘り方

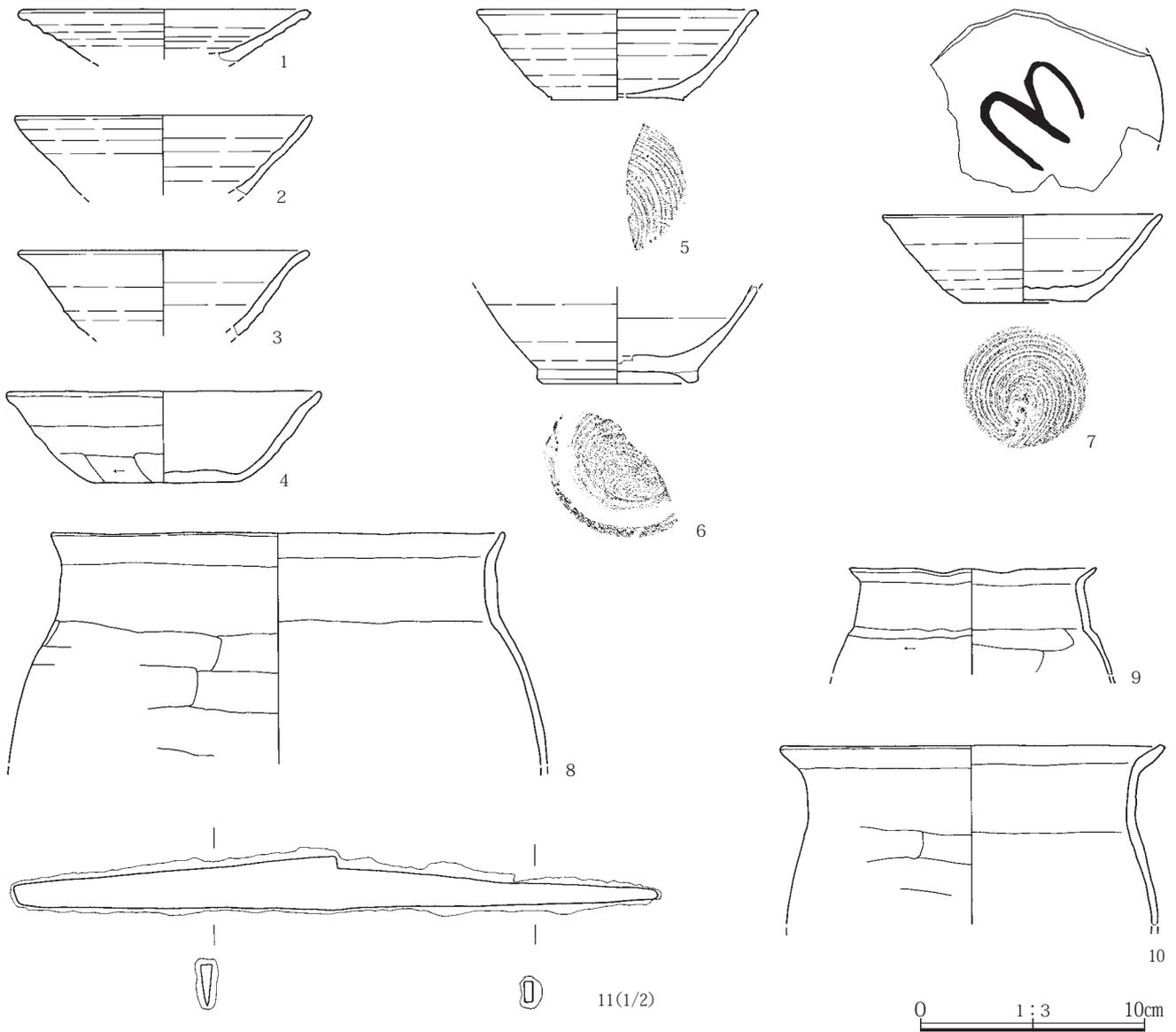


1区4号住居カマド

- 1 黒褐色土 焼土粒子、炭化物を含む。(この下が灰層)
- 2 黒褐色土 焼土小ブロック、褐灰色土小ブロックを含む。
- 3 極暗褐色土 炭化物含む上面に灰層。
- 4 褐色土 焼土小ブロック、炭化物を含む。上面灰層。
- 5 暗褐色土 炭化物を含む。
- 6 暗褐色土 上面灰層、炭化物、焼土含む。
- 7 暗赤褐色土 ローム粒子、焼土粒子、炭化物を含む。
- 8 明赤褐色土 ローム粒子、焼土粒子、炭化物を多く含む。

0 1:30 1m

第97図 1区4号住居



第98図 1区4号住居出土遺物

積し、その上にカマド天井部が崩落している。使用面からは第98図5・8・9・10が出土している。

掘り方は楕円形を呈し、焚口寄りに支柱を据えた浅い穴が認められた。

貯蔵穴：カマド東側で確認した。横長の楕円形を呈し、大きさは長径53cm、短径42cm、深さは10cmと小さい。遺物は出土していない。

柱穴・周溝：確認できない。

掘り方：確認できない。

遺物出土状態：出土した遺物は少ないが、北側隅の床面からやや浮いた状態で、底部内面に「3」あるいは「山」と墨書した須恵器椀(第98図7)と、ほぼ完形の刀子(第98図11)が出土している。非掲載遺物は、土師器110点(大

型製品90、中型製品2、小型製品18)、須恵器9点(大型製品1、小型製品8)が出土した。

所見：出土遺物から、時期は9世紀後半に比定される。

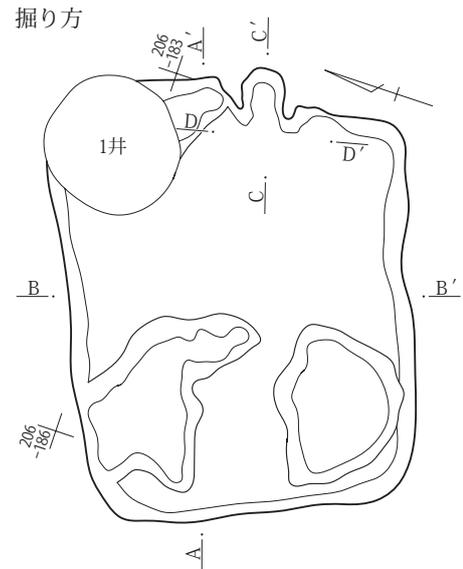
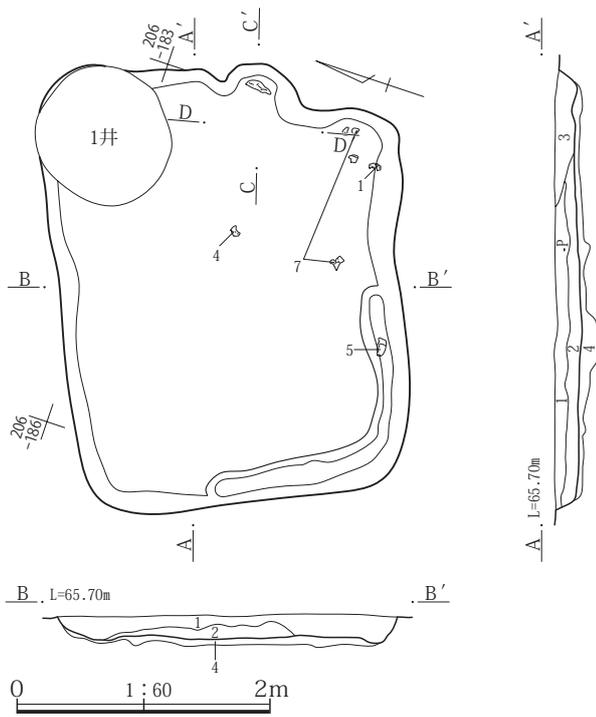
1区5号住居(第99図 PL.33・68)

位置：X=203~206、Y=-182~186、4号住居の南西10mにある。

形状・規模：縦長の長方形を呈する。南辺に対して北辺がやや長い。規模は東西長3.62m、南北長2.83m、壁高20cmを測る。

主軸方位：北壁を主軸方位とするとN-85°-E

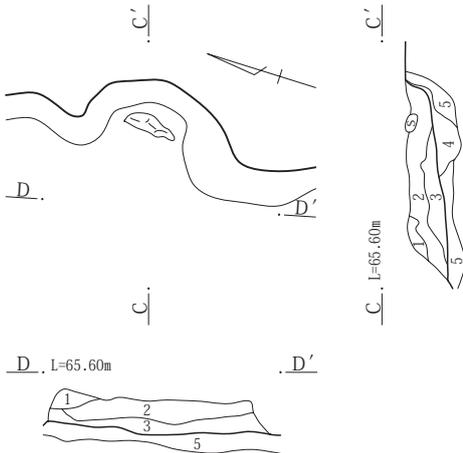
重複：北東部隅に中世の1号井戸が重複し、これに切られる。



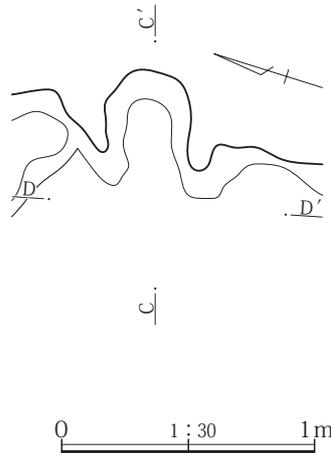
1区5号住居

- 1 黒褐色土 やや多量のローム小ブロック及び焼土粒子を含む。
- 2 黒褐色土 ローム小ブロックを含む。
- 3 黒褐色土 やや多量の褐灰色土小ブロック及び少量のローム小ブロックを含む。
- 4 にぶい橙色土 ロームブロックと黒褐色土ブロックの混合土。(掘り方覆土)

カマド

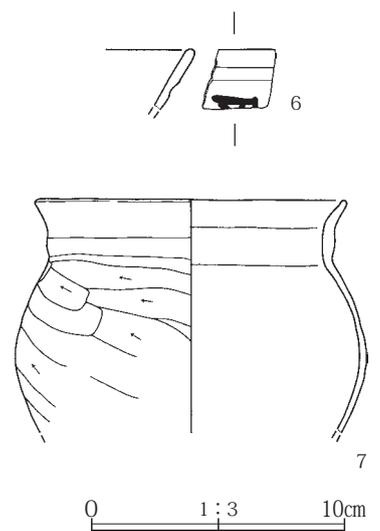
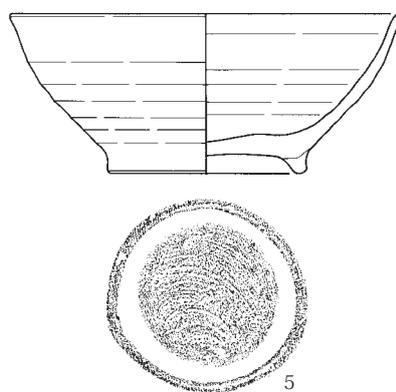
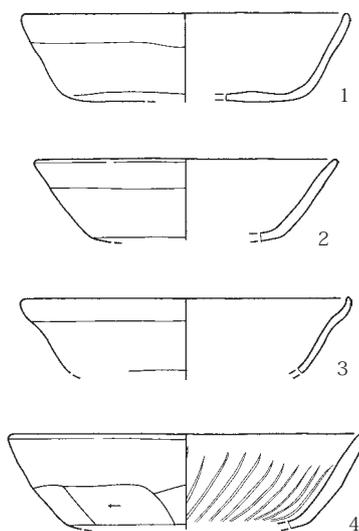


カマド掘り方

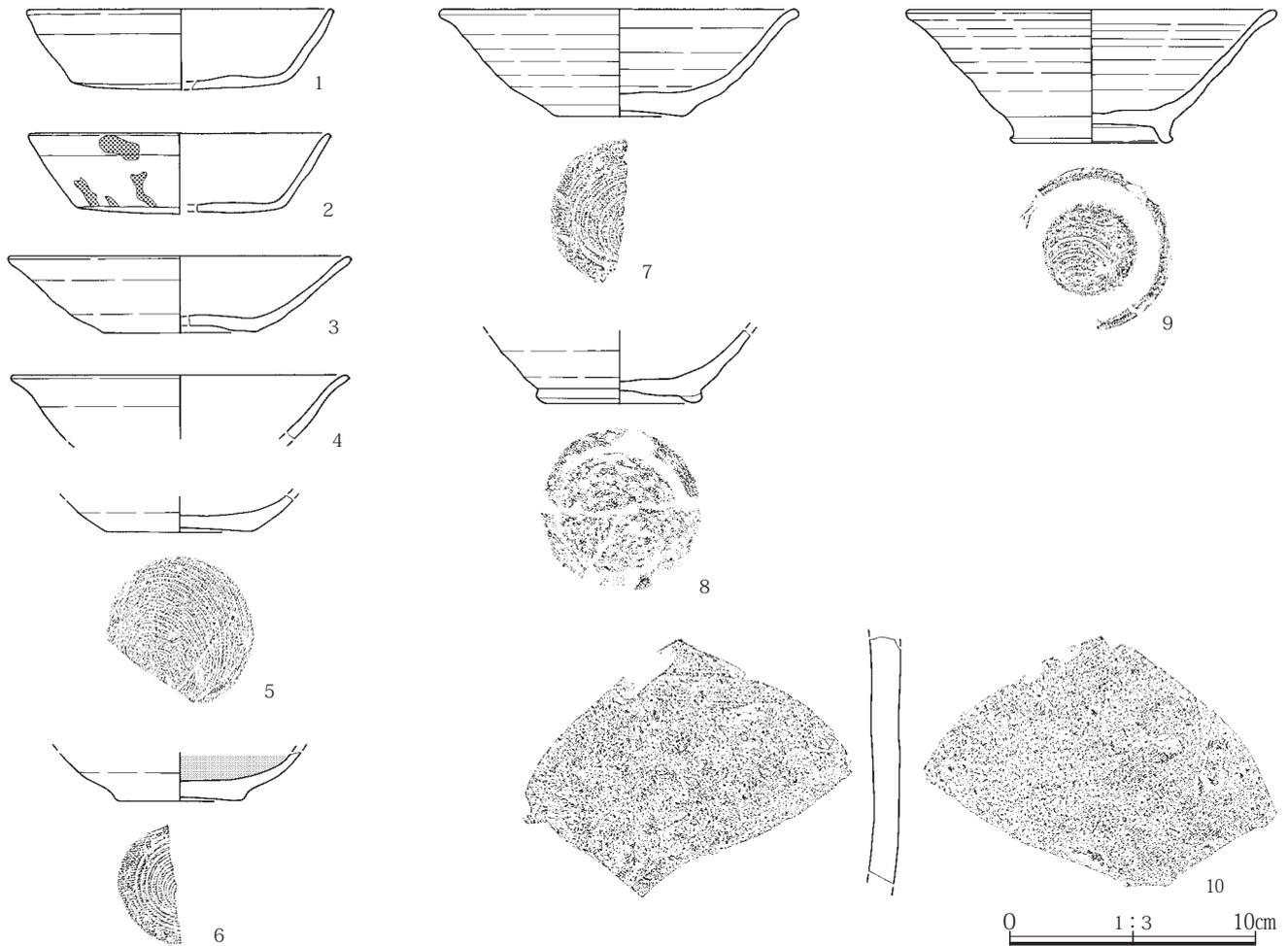
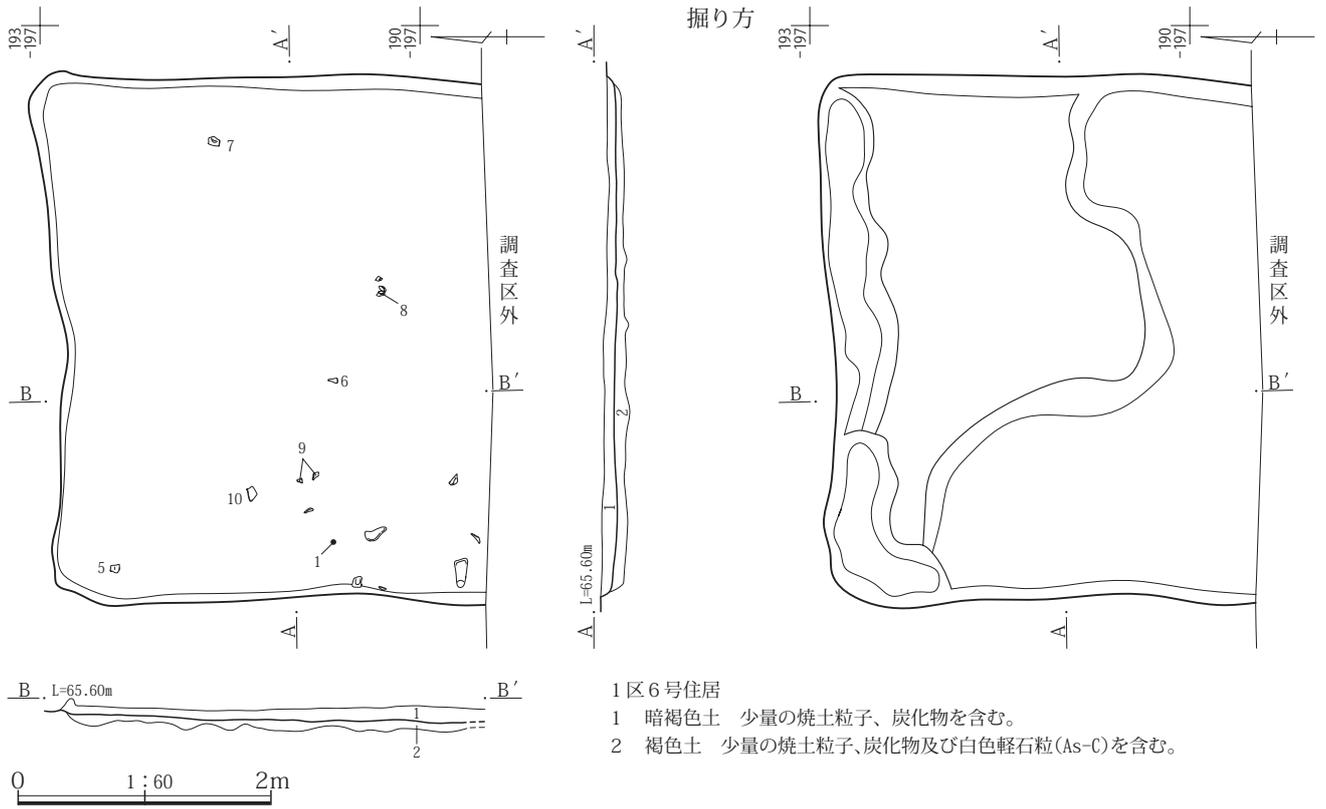


1区5号住居カマド

- 1 褐灰色土 焼土粒子、炭化物を含む。(カマド天井の崩落土)
- 2 暗褐色土 多量の焼土粒子、焼土小ブロック炭化物及び褐灰色土小ブロックを含む。
- 3 褐色土 多量のローム粒子及びローム小ブロック少量の焼土粒子、黒褐色土小ブロックを含む。
- 4 黒褐色土 少量の炭化物を含む。
- 5 にぶい橙色土 ローム粒子を含む。



第99図 1区5号住居と出土遺物



第100図 1区6号住居と出土遺物

床面：やや凹凸はあるが、ほぼ平坦な床が認められた。また、周縁部以外には明瞭な硬化面が確認できた。

カマド：東壁の中央部よりやや南側で確認された。小さな両袖が残るカマドは、天井部の崩落土が堆積し、燃焼部の灰層はほとんど残っていない。両袖の幅は40cm前後、燃焼部幅は20cm前後、奥行きは50cmほどである。崩落土の上面に棒状礫が一つ認められたが、出土遺物はほとんどない。

貯蔵穴・柱穴：確認されていない。

周溝：南壁の中央付近から西壁の中央付近まで、壁に沿って幅10～20cmほどの浅い周溝が確認された。

掘り方：南東隅以外の各コーナー付近に、不定型な浅い落ち込みが確認できた。

遺物出土状態：南辺の壁寄りの覆土中から少量の土器が破片状態で出土した。非掲載遺物は、土師器61点(大型製品33、小型製品28)、須恵器4点(小型製品)が出土している。

所見：出土遺物から9世紀第3四半期に比定される。

1区6号住居(第100図 PL.33)

位置：X=189～193、Y=-197～202、5号住居の南東16mにあり、南側の一部が調査区外となる。

形状・規模：方形状を呈するが、南側の一部が調査区外となるため、詳細はわからない。規模は東西長4.27m、南北長はわかる部分で3.62m、壁高は13cmを測る。

重複：南端に中世の30号溝が重複し、これに切られるが、確認面に溝はとどいていない。

床面：不明瞭だが、ほぼ平坦な床面が確認できた。硬化面は認められない。

カマド：確認されていない。

貯蔵穴・柱穴・周溝：確認されていない。

掘り方：床面下10cmほどの深さで、不規則に凹凸のある掘り込みが確認できた。

遺物出土状態：覆土中から少量の土器類が破片状態で出土しており、そのうちのいくつかを第100図に掲載した。非掲載遺物は土師器109点(大型製品86、小型製品23)、須恵器29点(大型製品8、小型製品21)がある。

所見：出土遺物から、時期は9世紀第4四半期に比定される。

1区7号住居(第101図 PL.33・34・68)

位置：X=227～229、Y=-197～202、2号住居の北東12mに位置する。

形状・規模：東西に長軸をもつ長方形を呈する。規模は長軸長3.10m、短軸長2.40m、壁高は20cmを測る。

主軸方位：N-83°-E

重複：西側を中世の23号溝と重複し、これに切られる。

床面：ほぼ平坦に構築されているが、明瞭な硬化面は確認できない。

カマド・貯蔵穴：確認できなかった。

柱穴・周溝：確認できない。

掘り方：東側と南側に幅1m前後の幅で5～10cmほど低い掘り込みがあり、南東側に柱穴と見られる部分が確認された。

遺物出土状態：住居中央部の床上15cm前後の覆土中に、拳大から人頭大の礫が数多く投げ込まれていた。また、住居の南東コーナー付近の覆土中から破損した土師器・須恵器が数多く出土した。ここに図示したものがその主なもので、この他にも土師器17点(大型製品9、小型製品8)が出土している。

所見：出土遺物から、9世紀後半代に比定される。

2区1号住居(第102・103図 PL.34・68)

位置：X=215～219、Y=-069～072

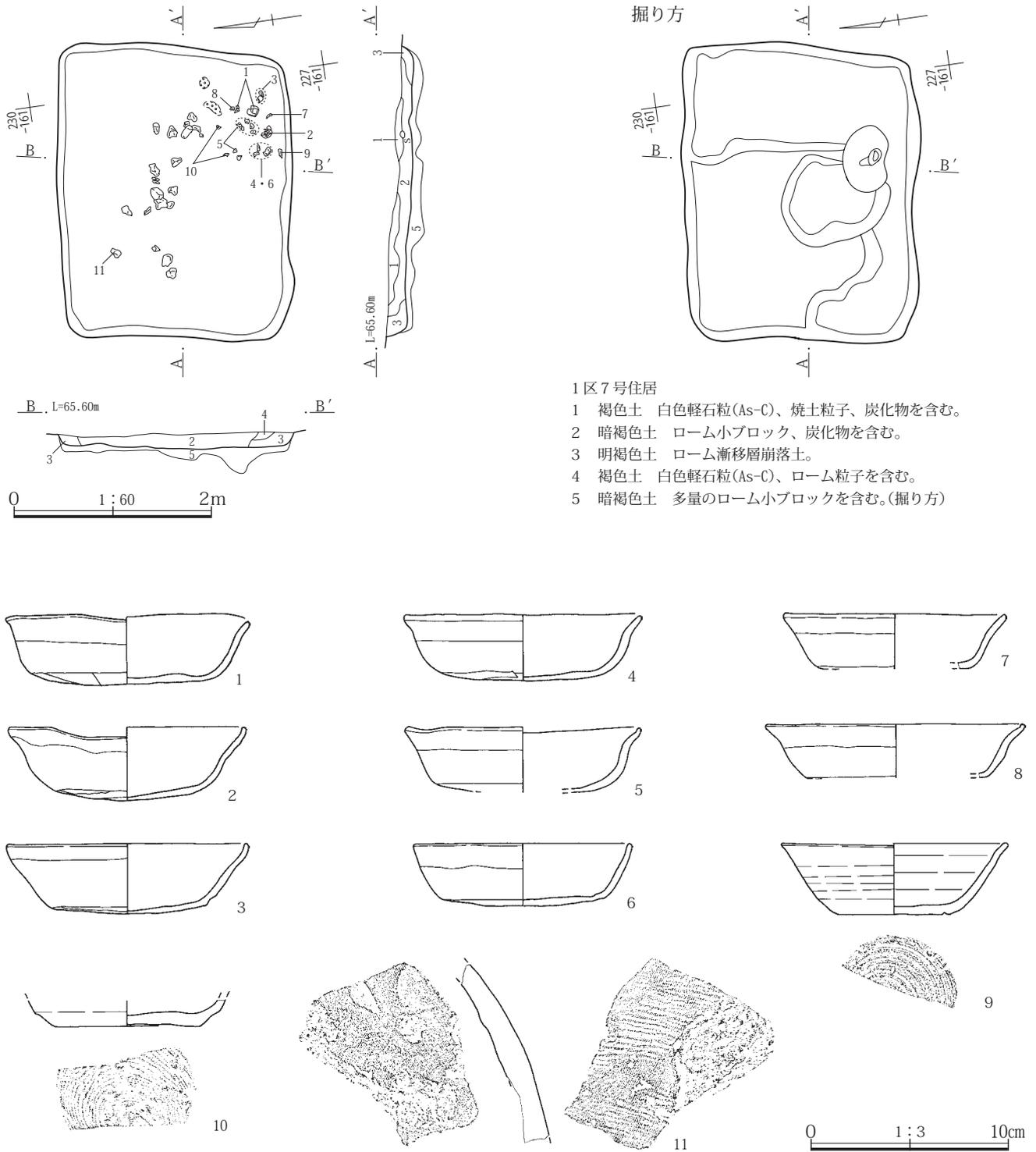
形状・規模：南北に長軸をもつ横長の長方形を呈する。規模は長軸長3.76m、短軸長3.03m、壁高は18cmを測る。カマドが付く東辺は、カマドの西側が低い造りになっている。貯蔵穴のとの関係を見ると、もう少し高い位置まで拡がる可能性もある。

主軸方位：N-90°-E

重複：南側を中世の19号溝と重複してこれに切られ、南東隅を2号掘立柱建物の柱と重複するが、切り合い関係は不明である。

床面：北半部がやや低い造りだが、気になるほどではない。カマド前から中央部には使用によるやや硬化した面が確認された。

カマド：東辺の中央部よりやや南側にあり、短く両袖が付く。燃焼面は手前の床面よりやや高い位置にあり、焼土と灰が少量残る。燃焼面のほぼ中央には、長さ22cmほどの棒状礫を使用した支柱が設置されている。規模は、



第101図 1区7号住居と出土遺物

全長0.73m、幅0.60m、焚き口幅0.35m、燃烧部奥行きは0.68mである。

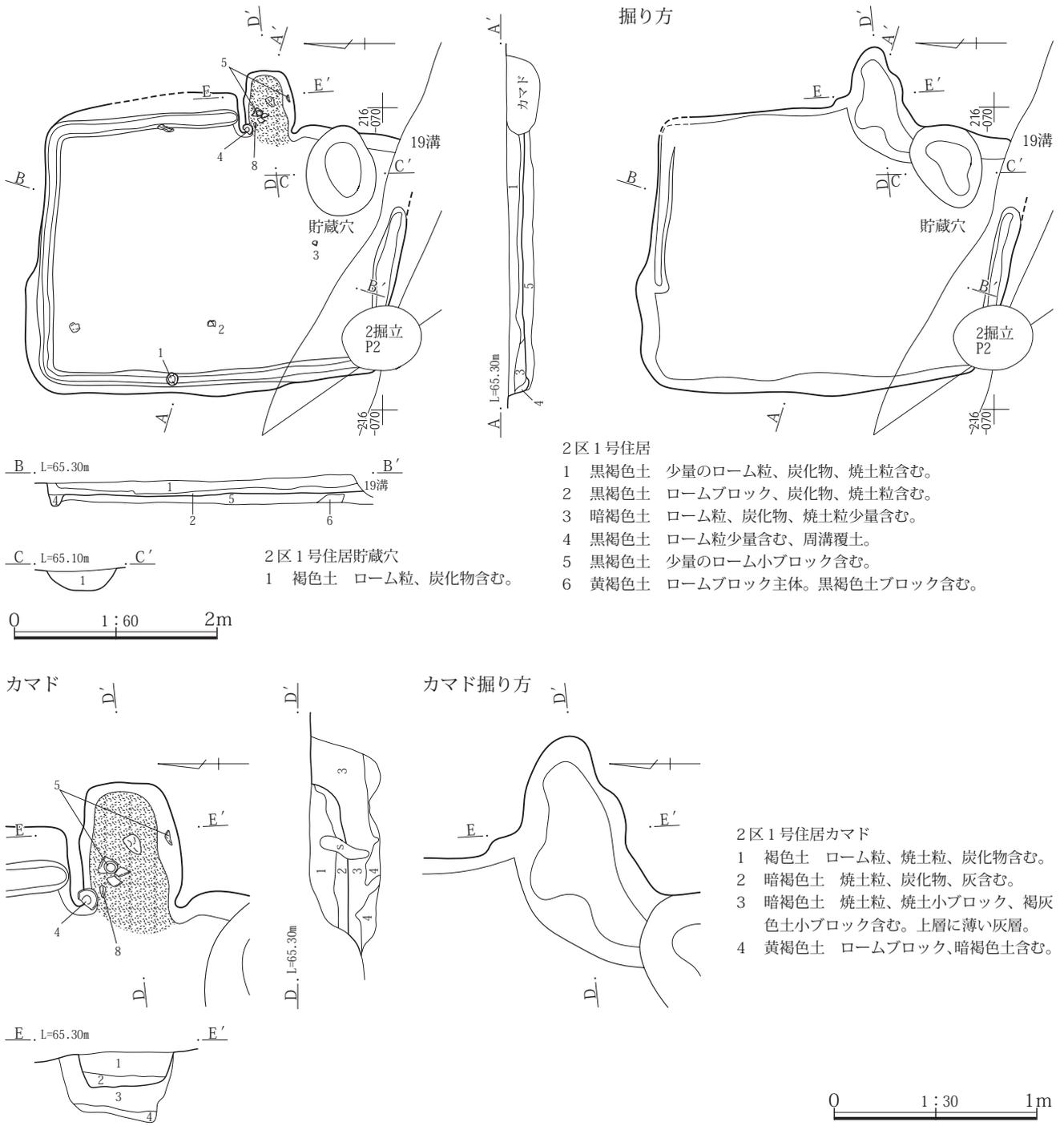
貯蔵穴：カマドの南側にあり、東壁に接して、一部突出するように確認された。長軸0.90m、短軸0.68m、床面からの深さは0.20mの楕円形を呈し、長軸を東西にとる。

柱穴：確認されていない。

周溝：カマドの北側から貯蔵穴の南側までめぐる周溝が確認された。規模は幅15cm前後、床面からの深さは5cm前後である。

掘り方：確認されていない。

遺物出土状態：体部外面に墨書した土師器杯(第103図1)は南側の周溝直上から、底部内面に「若」と墨書した土師



第102図 2区1号住居

器杯(2)は南側床面のやや上位からの出土である。また、カマドの燃烧面から土師器杯2点と甕(4・5・8)が出土している。非掲載遺物は、土師器324点(大型製品102、小型製品210、不明12)、須恵器4点(小型製品)が出土した。

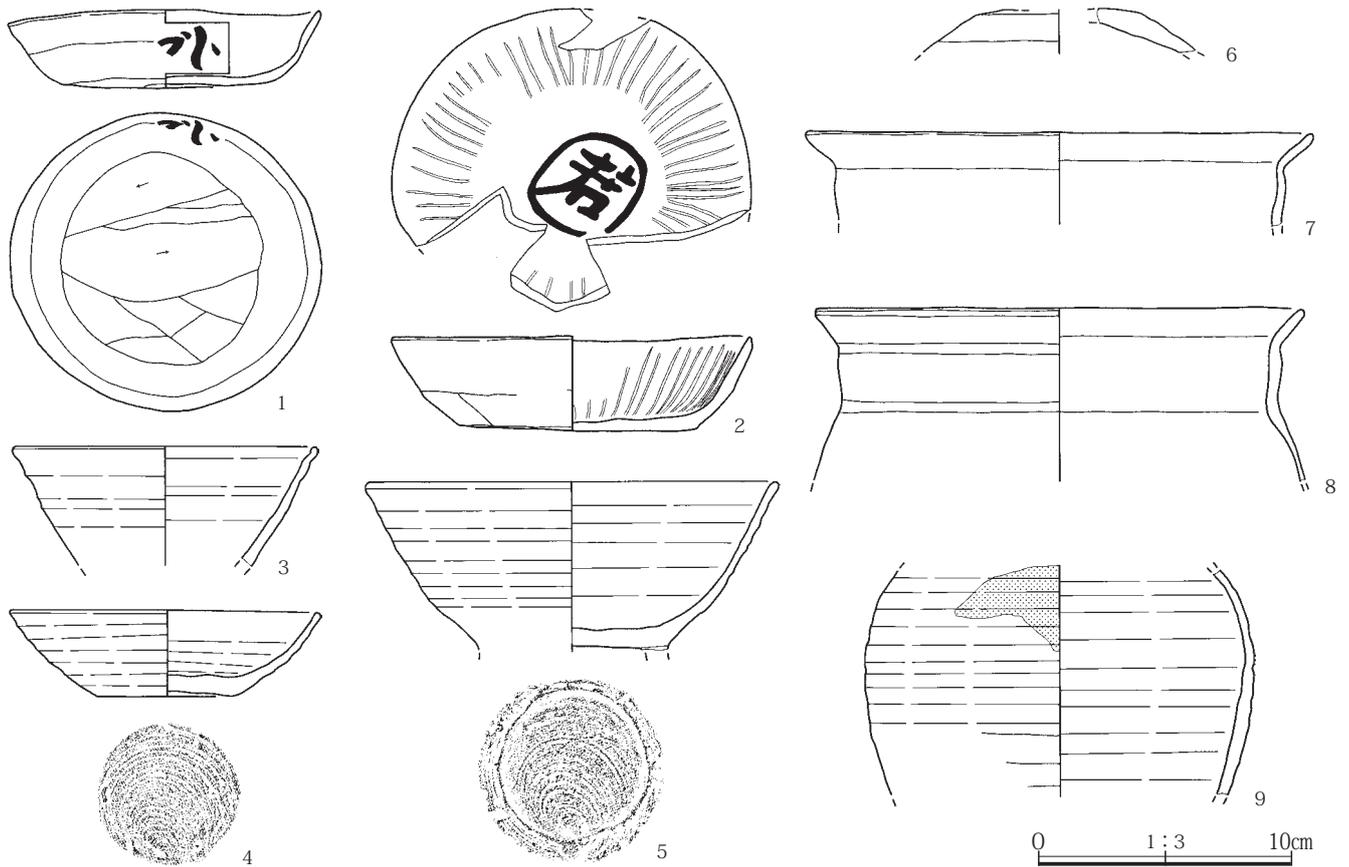
所見：カマドや床面出土の遺物から、時期は9世紀第3四半期に比定される。

2区2号住居(第104～106図 PL.34・35・68・71)

位置：X=206～211、Y=-058～062

形状・規模：南北に長軸をとる横長の長方形を呈し、東辺にカマドが付く。南北の辺がわずかに傾いて平行四辺形状に歪み、南東隅だけが丸い形状になっている。規模は、南北長軸長4.85m、東西長4.00m、壁高南壁18cmを測る。

主軸方位：東壁を主軸方位とするとN-105°-E



第103図 2区1号住居出土遺物

重複：北側を中世の19号溝と、中央部に中世の46号土坑が重複し、これらに切られる。また、西側を8号住居、南側を9号住居と重複しており、それぞれの切り合い関係は不明だが、8号住居のカマドは確認できないことから、2号住居がこれを切ったことになる。

床面：ほぼ水平で平坦な床が構築されており、周縁部以外にはやや硬化した面が確認された。

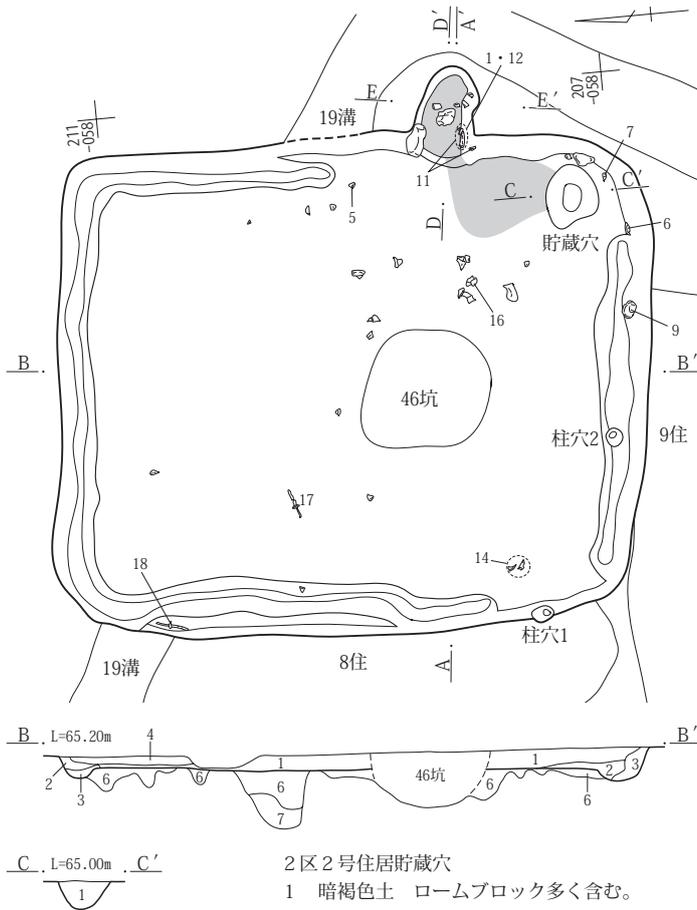
カマド：東辺の中央部よりやや南側にあり、左袖に扁平礫、右袖に土師器(1・11・12)が据えてある。おそらくこれらを芯材とする両袖があったのであろう。燃烧面は手前の床面よりやや高い造りになっており、底面は焼土化していた。また、燃烧面のほぼ中央に長さ36cmほどの棒状礫を使用した支脚が設置されている。規模は、全長0.80m、幅0.45m、焚き口幅0.30m、燃烧部奥行きは0.66mである。

貯蔵穴：住居南東部コーナーで確認した。形状は東西に長い楕円形で、長軸0.45m、短軸0.42m、床面からの深さは0.22mである。

柱穴：確認されていない。

周溝：カマドの北側からはじまる周溝が南西コーナーの手前でいったん途切れ、南西コーナーから再開した周溝が貯蔵穴の手前まで続いている。規模は幅15cm前後、床面からの深さは7cm前後である。周溝は壁に沿ってめぐると、北西コーナーを曲がった処でいったん壁から数cmほど離れ、約2m進んで再び壁に接続している。このわずかなスペースは床面より3cmほど高くなっている。このスペースが何に使われたのかは不明だが、この部分からはほぼ完形の鉄製紡錘車(第106図18)が置かれた状態で出土しており、その東側50cmのところからもう一つの完形に近い鉄製紡錘車(17)が床面に置いた状態で出土している。なお、南西コーナーの周溝が途切れた場所の中央と、南西コーナーから東へ1.2mほどのところに、小さな柱穴がある。柱穴1は深さ6cm、柱穴2は深さ18cmあり、これらは出入りに伴う柱の可能性が高い。

掘り方：柱穴状の掘り込み7箇所と周溝の一部、および浅い落ち込み2箇所を確認した。柱穴2は床面でも確認していたものだが、その東に柱穴3があり、元はここが出入り口だった可能性が高い。住居の中央部にある柱穴



2区2号住居

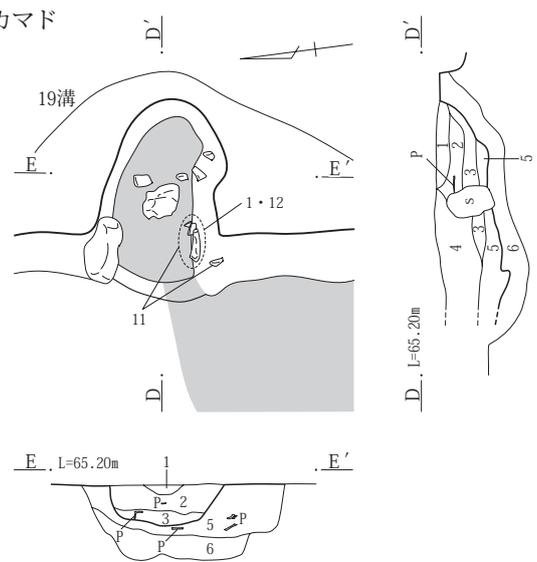
- 1 褐色土 ロームブロック、炭化物焼土多く含む。
- 2 褐色土 ローム粒少量含む。
- 3 褐色土 ローム粒多く含む。
- 4 にぶい褐色土 焼土、灰、炭化物含む。
- 5 にぶい褐色土 焼土ブロック、灰、炭化物含む。
- 6 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 7 黒褐色土 少量のローム小ブロック含む。

2区2号住居カマド

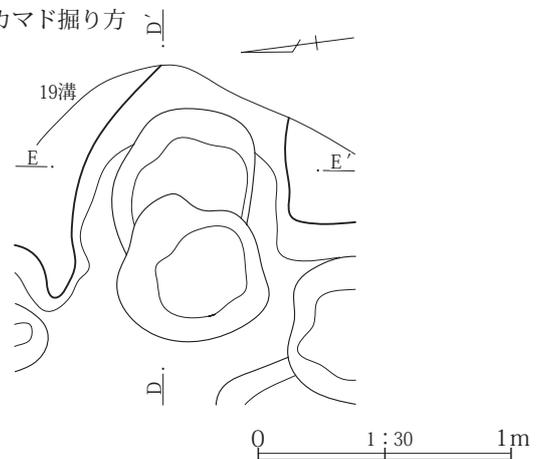
- 1 暗赤褐色土 焼土粒、炭化物含む。
- 2 赤褐色土 焼土粒、炭化物多く含む。
- 3 赤黒色土 焼土粒、炭化物、灰含む。
- 4 褐色土 ローム粒、炭化物、焼土含む。
- 5 赤褐色土 焼土、下面是灰層でカマド使用面。
- 6 黒褐色土 少量の焼土粒子、ロームブロック含む。



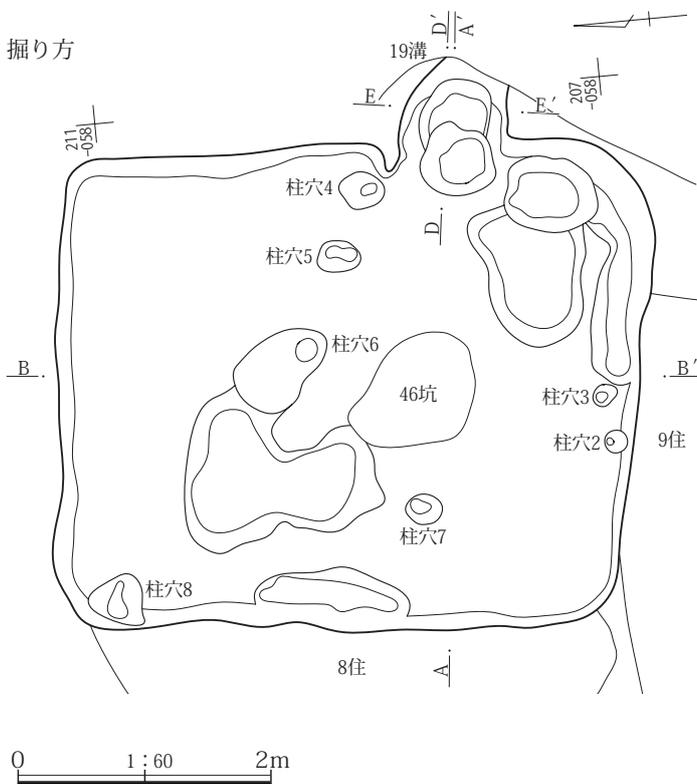
カマド



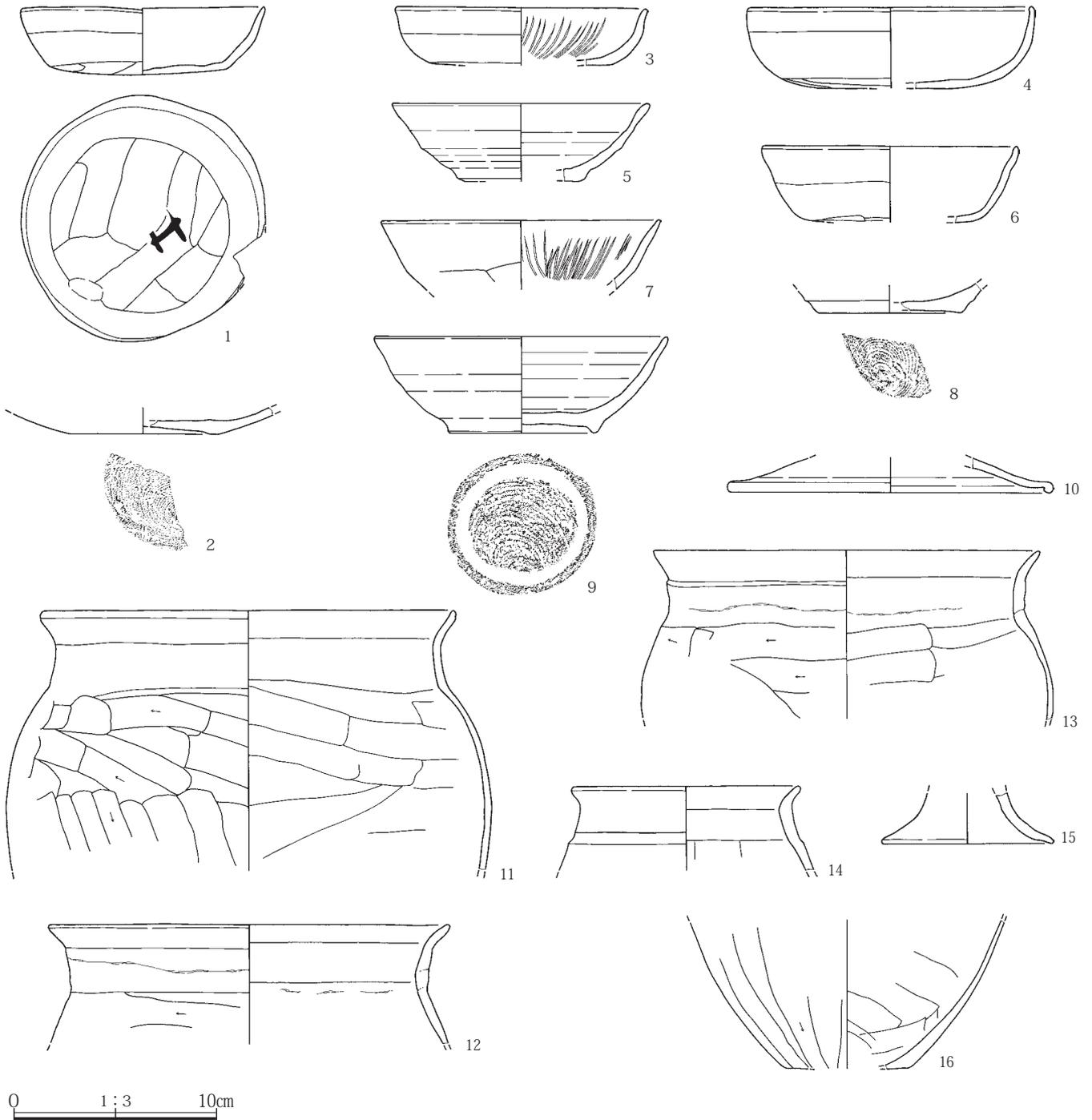
カマド掘り方



掘り方



第104図 2区2号住居



第105図 2区2号住居出土遺物(1)

6は深さが58cmあり、本住居の主柱穴だったと考えられる。その他の柱穴は深さが10～17cmほどで、必要に応じて柱が設けられたのであろう。

遺物出土状態：カマド前付近の床面と覆土中から少量の遺物が破片状態で出土した。5・6・7・14とほぼ完形の鉄製紡錘車17・18は床面直上、9・16は覆土中の出土である。非掲載遺物では、土師器430点(大型製品201、中型製品6、小型製品223)、須恵器28点(小型製品28)、

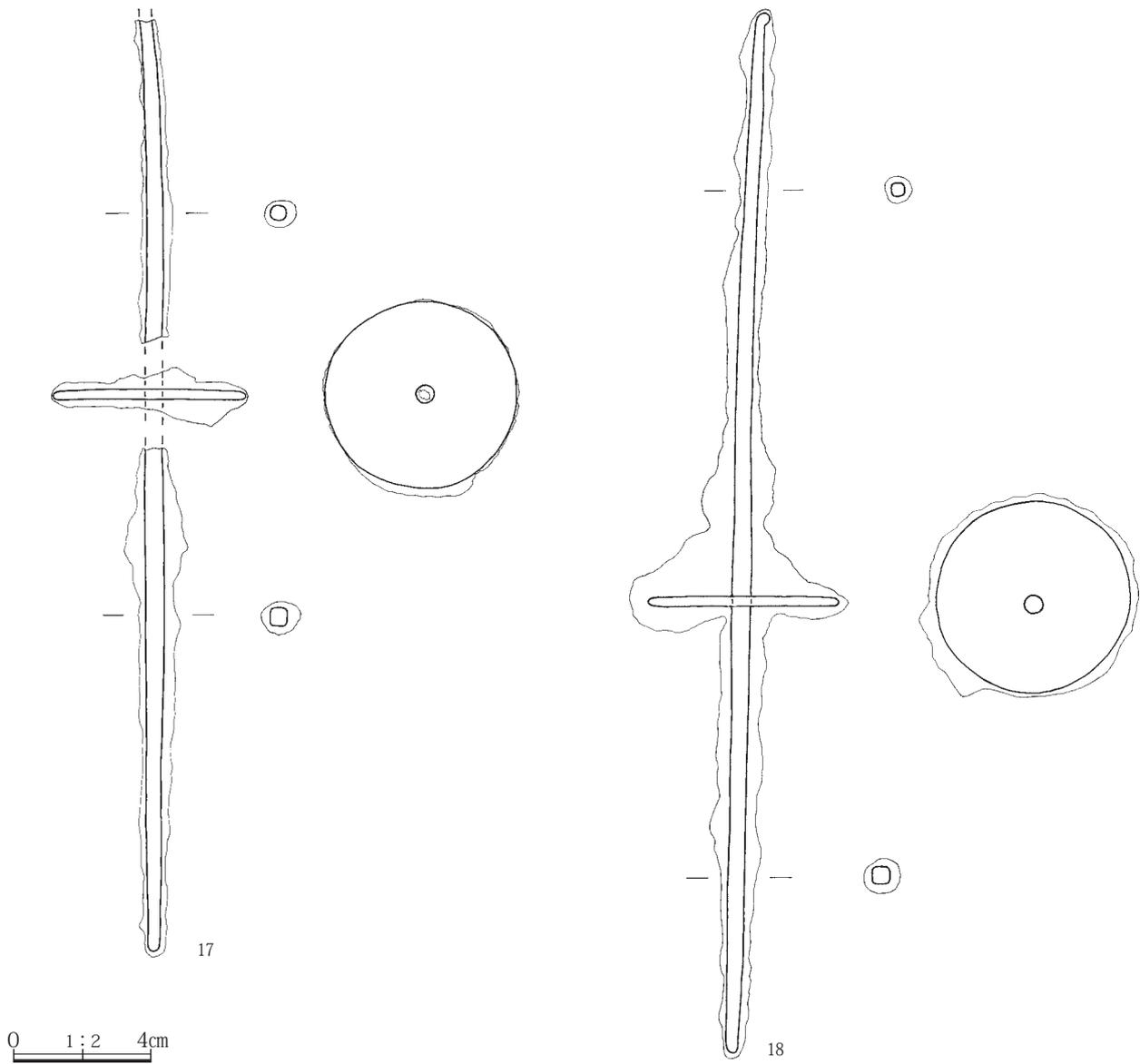
灰釉陶器3点(小型製品)が出土している。

所見：出土遺物から、本住居は9世紀後半に比定される。

2区3号住居(第107図 PL.35・68・71)

位置：X=202～204、Y=-067～070

形状・規模：南北長2.66m、東西長2.57mの隅丸方形を呈し、壁高は13cmを測る。東辺の中央部よりやや南側の壁際床上に、焼土と灰が掻き出されたような状態で確認



第106図 2区2号住居出土遺物(2)

された。この位置はカマドが付く位置に符合しており、カマド本体は確認できないが、住居としておく。

主軸方位：N-100°-E

重複：中世の43号土坑と重複しこれに切られる。

床面：起伏はあるが、ほぼ平坦な床になっている。硬化面は確認できない。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝：確認できなかった。

掘り方：全体に凹凸のある荒掘りが認められたが、壁際に沿って深さ10cm前後の落ち込みがあった。柱穴の可能性もある。

遺物出土状態：住居南側の覆土中から土器類が出土しているが、出土遺物は少ない。破損した刀子(5)は床面直

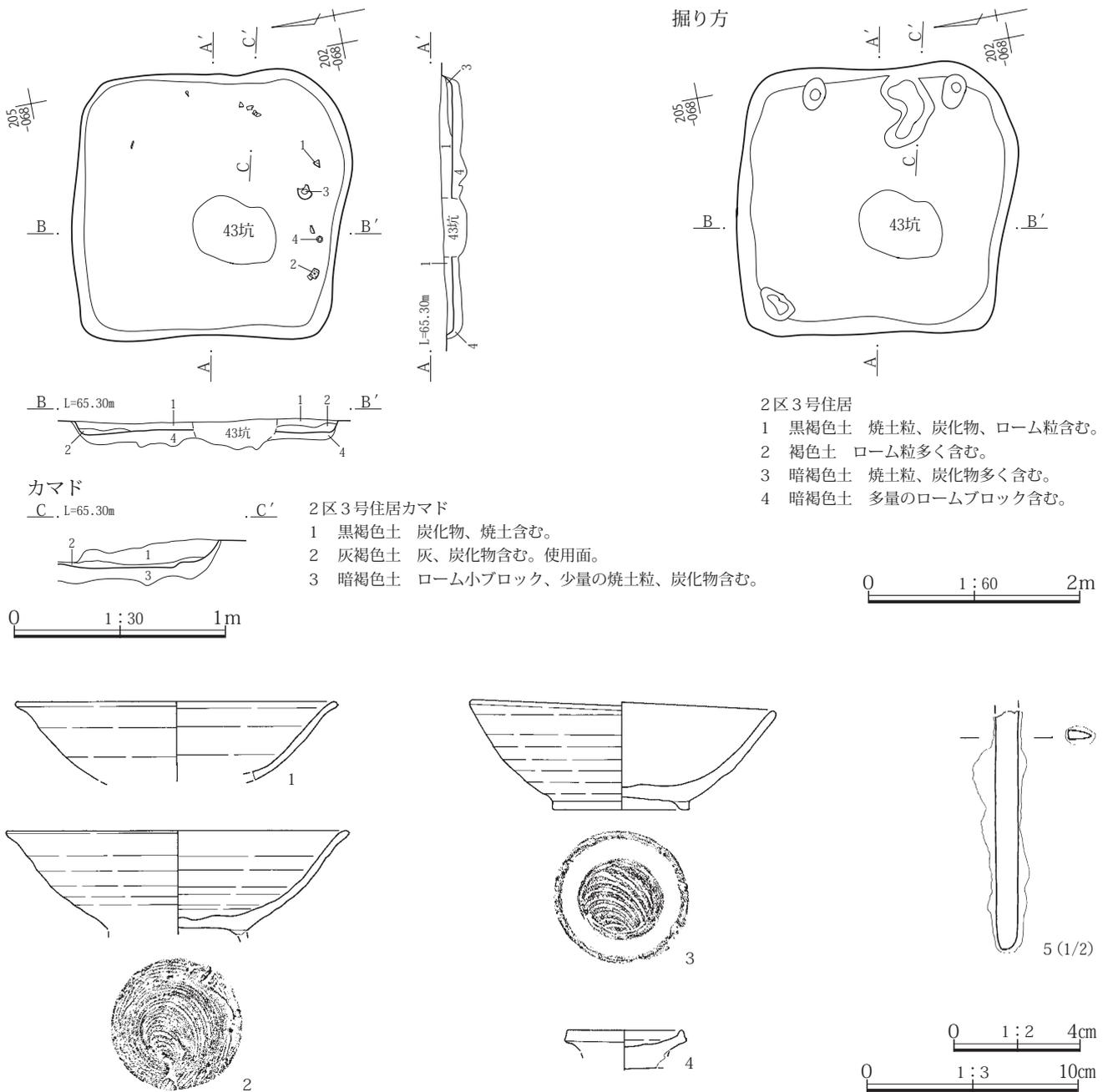
上からの出土である。

所見：出土遺物から、本住居は9世紀三四半期に比定される。

2区4号住居(第108・109図 PL.35・36)

位置：X=198~201、Y=-062~069

形状・規模：南側が調査区外となるが、本調査区の平安時代では最大規模の竪穴住居である。規模は、東西長5.52m、南北長は確認できるところで3.80m、壁高は8cmと浅い。西側にある3号掘立柱建物や10号住居、東に近接する5号住居と同じ方位をとり、カマドは東辺に付く。



第107図 2区3号住居と出土遺物

主軸方位：N-68°-E

重複：中世の23号・24号・26号土坑と重複し、これらに切られる。

床面：床面はフラットで、カマド前から柱の内側はやや締まった床となっている。

カマド：東辺に付く。燃烧部には小さく両袖が付き、煙道は住居外へ長く伸びる。両袖は灰白色の粘土で構築され、右袖には棒状礫が芯材として使われていた。燃烧部は床面とほぼ同じレベルにあり、煙道もほぼ同レベルで伸びる。規模は全長が2.47m、焚き口幅は0.45mである。

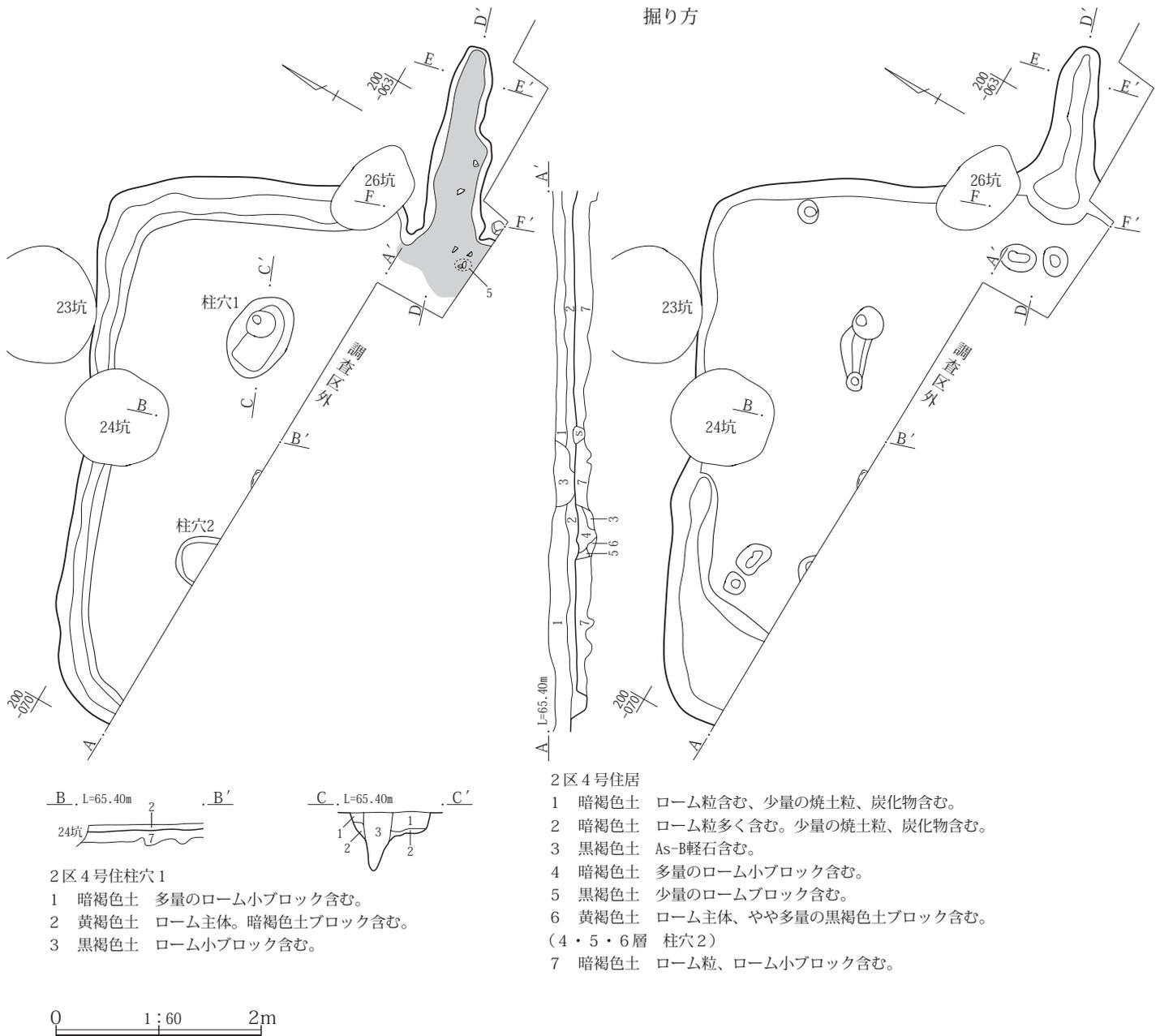
貯蔵穴：確認されていない。

柱穴：北半の2本が確認された。想定される対角線上にあり、柱間の距離は2.5mである。柱穴2は調査区外のため詳細は不明だが、柱穴1は直径28cm、深さ56cmである。

周溝：カマドを除いて全周するであろう。幅は25cm前後、深さは10cm前後である。

掘り方：カマド前や住居の周縁に深さ10cm前後の柱穴状の掘り込みが確認できた。

遺物出土状態：出土遺物は少なく、少量の土器類が破片



第108図 2区4号住居

状態で出土した。非掲載遺物は、土師器188点(大型製品114、小型製品74)、須恵器10点(大型製品7、小型製品3)である。

所見：出土遺物から、本住居は8世紀第3四半期に比定されよう。

2区5号住居(第110図 PL.36)

位置：X=199~200、Y=-056~059

形状・規模：4号住居の東側4mに近接する。4号と同様に大半が調査区外にあり、北西コーナーの一部がかかる

うじて調査できた。4号と同方位をとり、東辺にカマドがあったと思われる。

主軸方位：N-65°-E

重複：東隅を中世の17号溝と重複し、これに切られる。

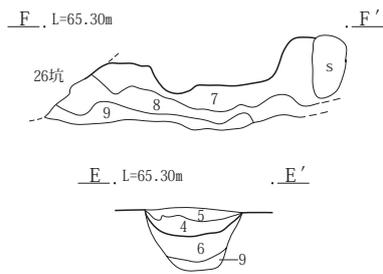
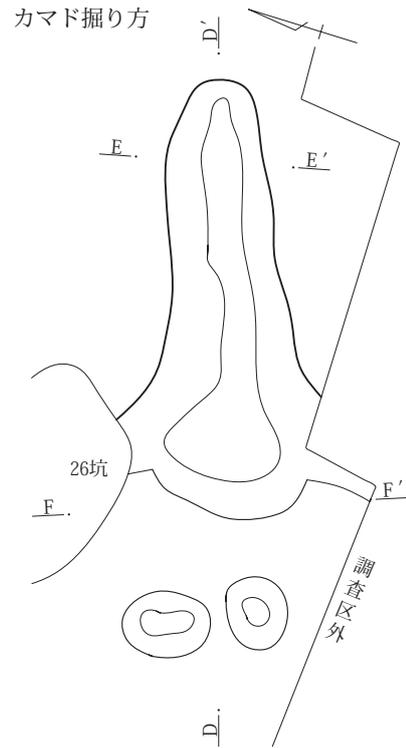
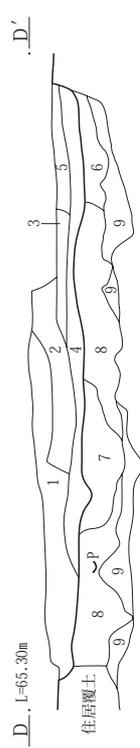
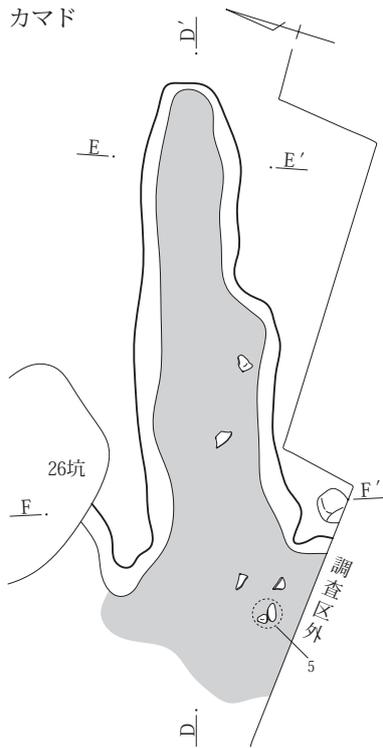
床面：平坦な床面が確認された。

カマド・貯蔵穴・柱穴：確認できない。

周溝：1.3mほどの間が途切れるが、周溝が確認された。

掘り方：北東コーナーに浅い落ち込みが確認された。

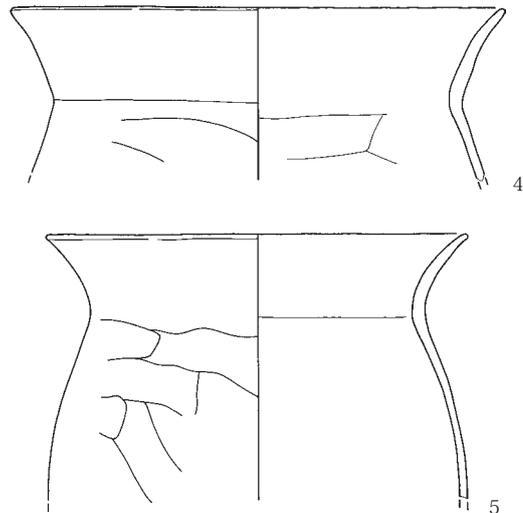
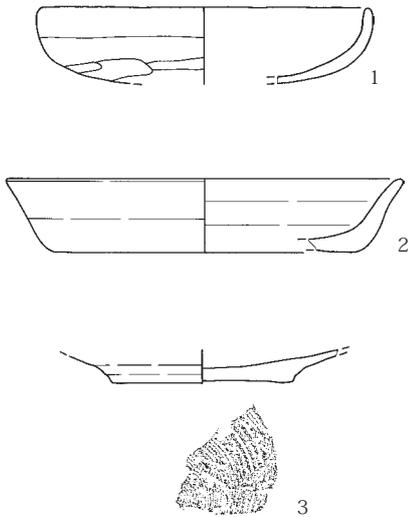
遺物出土状態：覆土中から少量の土器類が出土した。非掲載遺物は、土師器25点(大型製品16、小型製品9)がある。



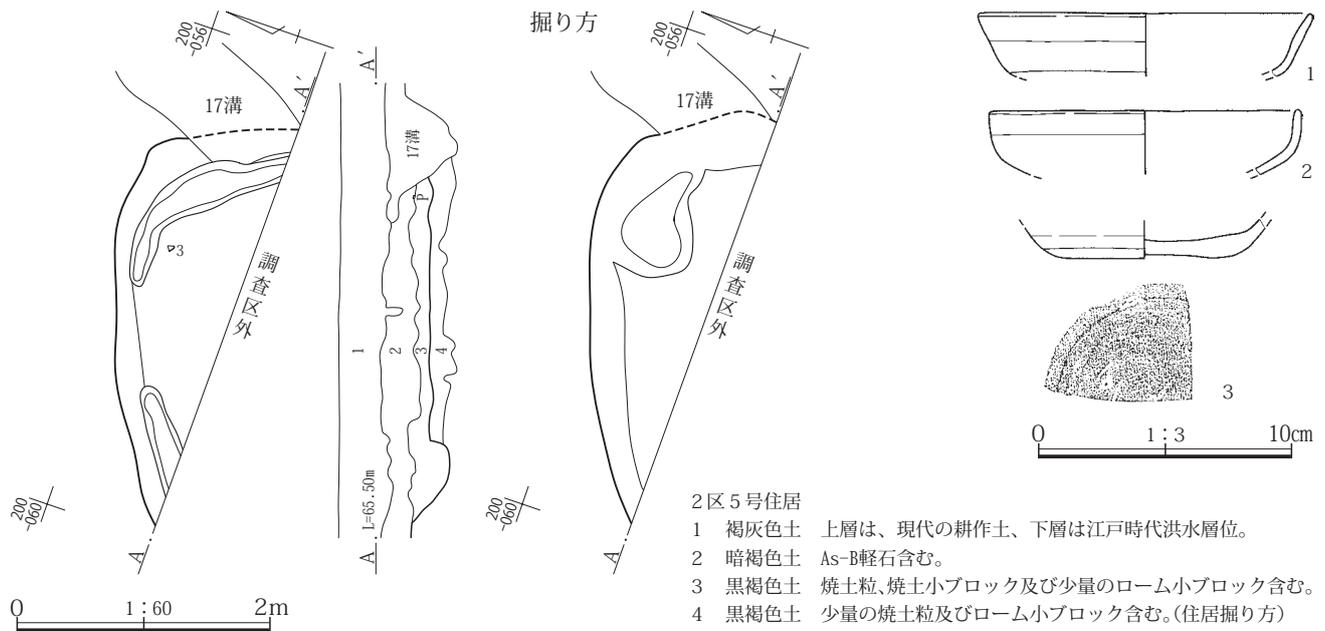
2区4号住居カマド

- 1 暗褐色土 焼土粒、炭化物含む。
- 2 赤褐色土 焼土ブロック多く含む。
- 3 暗赤褐色土 焼土粒、炭化物多く含む。
- 4 赤黒色土 焼土粒、炭化物少量含む。
- 5 明褐色土 焼土粒、炭化物少量含む。
- 6 黒褐色土 ローム小ブロック、少量の焼土粒含む。
- 7 暗褐色土 多量の焼土粒、焼土小ブロック、炭化物。褐灰色土を含む。(上面は灰層)
- 8 暗褐色土 焼土粒、少量のローム小ブロック含む。
- 9 黒褐色土 多量のロームブロック含む。

0 1:30 1m



第109図 2区4号住居と出土遺物



第110図 2区5号住居と出土遺物

所見:出土遺物から、本住居は9世紀前半に比定される。

2区6号住居(第111・112図 PL.36)

位置: X=201~206、Y=-051~056

形状・規模:東壁にカマドがつくほぼ正方形の住居で、規模は東西長4.75m、南北長4.42m、壁高は24cmを測る。北東コーナーを18号溝に切られて不明だが、西辺より東辺がやや長い台形状を呈する。

主軸方位: N-110°-E

重複:中央部を中世の17号・18号溝と重複し、これに切られる。また、住居範囲の大半を11号・12号住居と重複するが、それぞれの関係は不明瞭で、各施設の所属はまだ検討不十分である。

床面:ほぼ平坦だが、硬化面は確認されていない。重複する11号・12号住居の床より本住居の床は低い位置にある。

カマド:東辺の中央部よりやや南側にあるが、カマドの袖部を18号溝に切られており、詳細は不明である。カマドは全体が焼土粒と灰を多量に含む暗い灰褐色粘質土で覆われており、形状がはっきりしないが、燃烧面は手前の床面よりやや高い位置にある。燃烧部の範囲もはっきりしない。

貯蔵穴:カマド南側の南東コーナーにある。直径50cm、

深さ19cmほどの円形状を呈するが、西側を18号溝に切られている。

柱穴:住居中央北側で2本、貯蔵穴の西で2本、計4本を確認した。いずれも床面からの深さは30cm以上あり、柱穴として十分だが、柱穴3・柱穴4は本住居に伴う柱穴としては位置関係がそぐわない。

周溝:北壁・西壁・南壁のそれぞれで、一部途切れながらも周溝が確認された。規模は幅15cm前後、床面からの深さは10cm前後である。

掘り方:新たに7本の柱穴と浅い落ち込み1箇所が確認された。各柱穴の所属を明確にはできなかった。

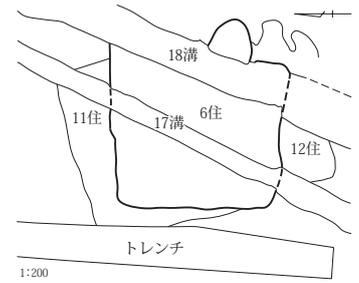
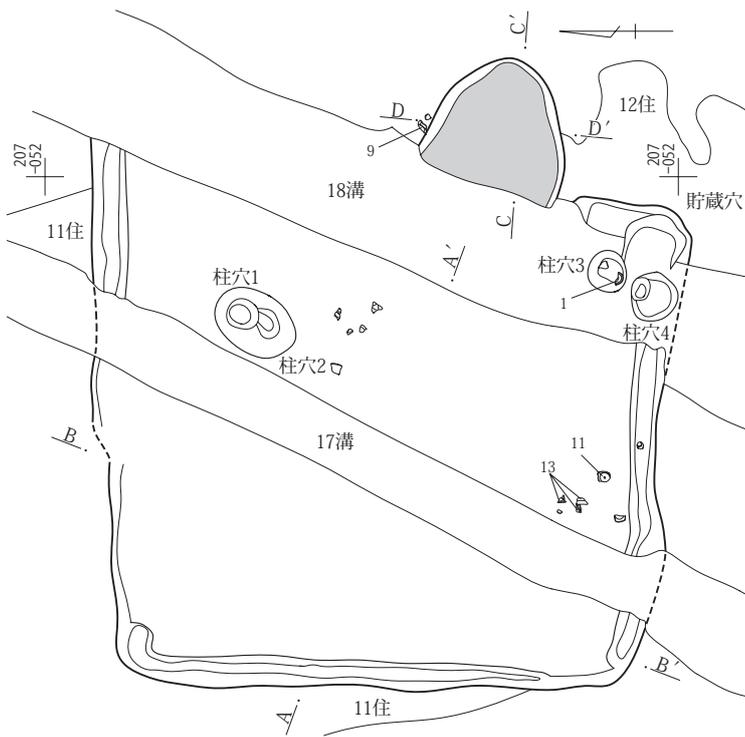
遺物出土状態:覆土中から少量の土器類が出土した。暗文を施した土師器杯(第112図1)は柱穴3からの出土である。非掲載遺物は、土師器578点(大型製品317、小型製品259、不明2)、須恵器13点(大型製品4、小型製品9)がある。

所見:出土遺物から、本住居は8世紀第4四半期に比定される。

2区7号住居(第113図 PL.37・68)

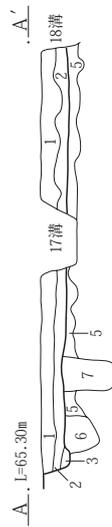
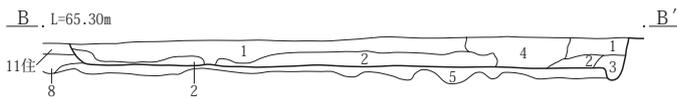
位置: X=211~215、Y=-076~080

形状・規模:正方形を呈するが、東壁がやや斜めになっており、台形様となる。規模は長軸長3.58m、短軸長3.34m、

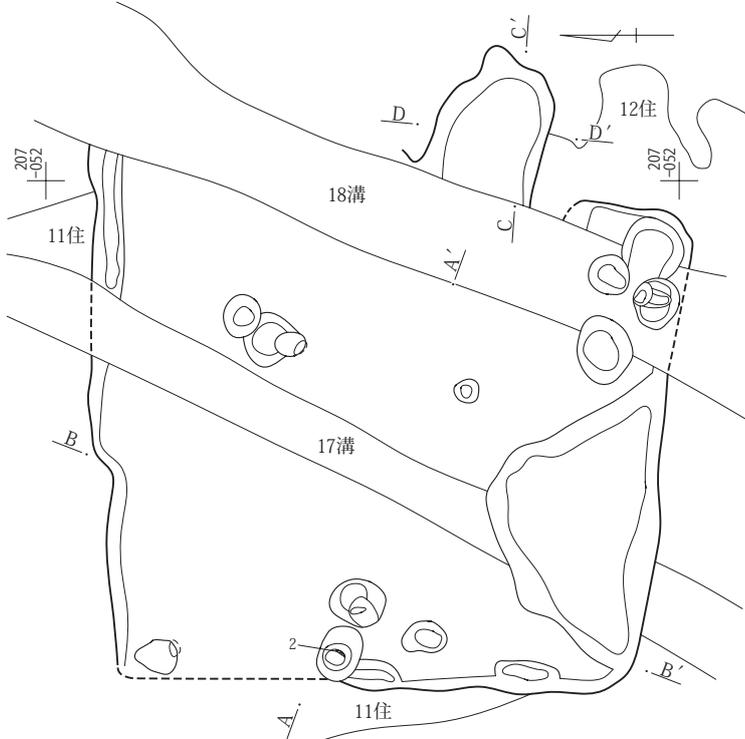


2区6号住居

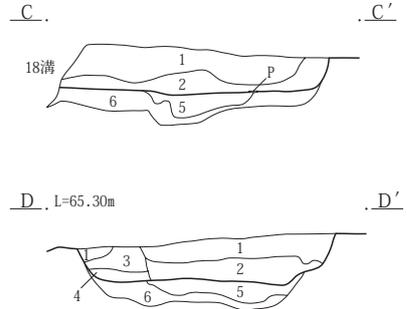
- 1 暗褐色土 As-B軽石、ローム粒、焼土粒、炭化物含む。
- 2 褐色土 少量のローム粒含む。
- 3 黄褐色土 ロームブロック崩落土。
- 4 暗褐色土 As-B軽石混じり、中世の攪乱。
- 5 黒褐色土 やや多量のローム小ブロック含む。
- 6 黄褐色土 上面は黒褐色土主体。(床下土坑か?)
- 7 黒褐色土 少量のローム小ブロック含む。(床下土坑か?)
- 8 暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロック含む。(住居の掘り方か?)



掘り方

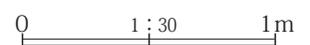


カマド

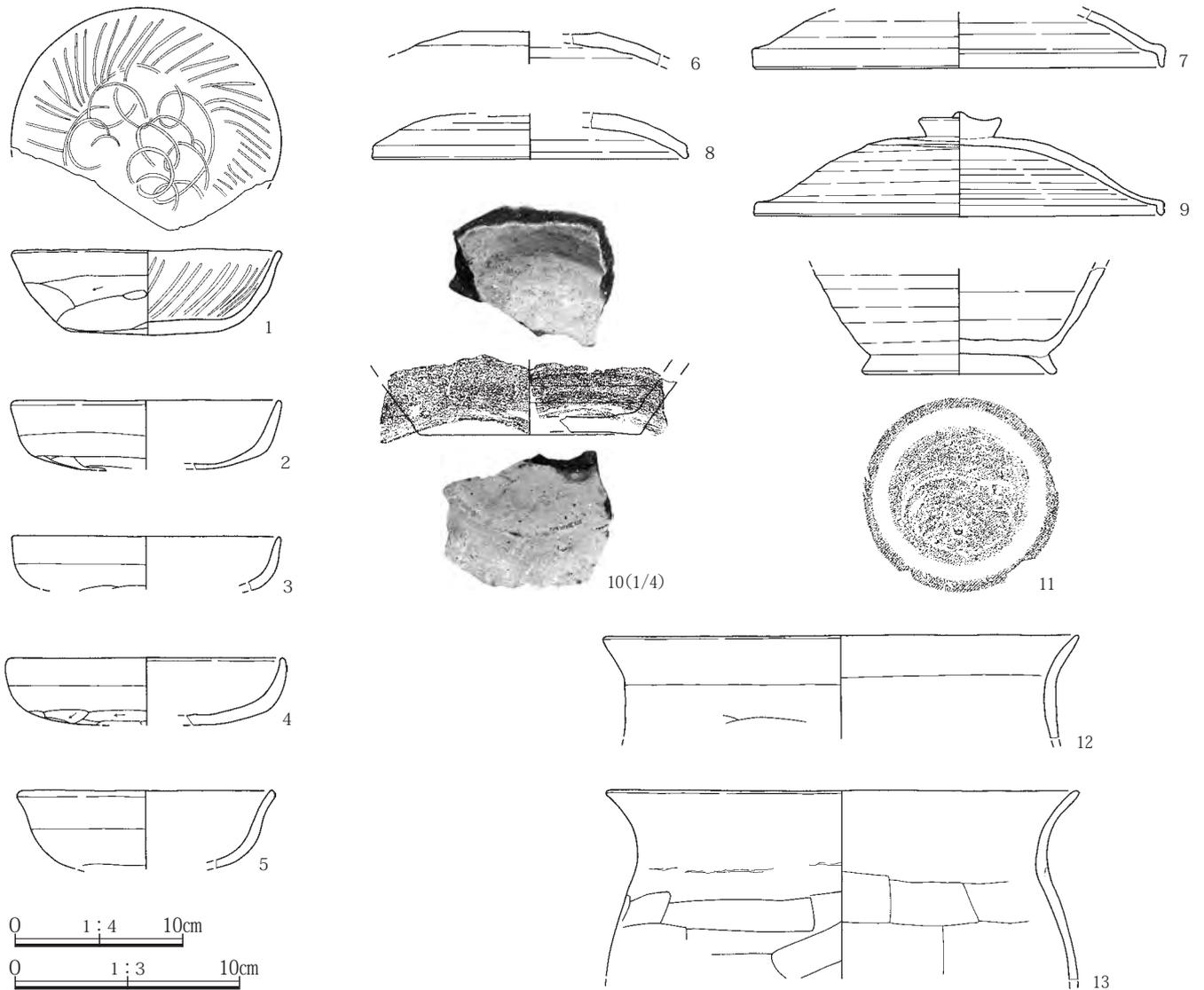


2区6号住居カマド

- 1 暗赤褐色土 焼土ブロック、焼土粒、炭化物含む。
- 2 極暗赤褐色土 焼土ブロック、炭化物含む。
- 3 赤灰色土 灰、焼土含む。
- 4 暗褐色土 褐灰色土ブロック含む。
- 5 暗褐色土と焼土ブロックの混合 灰・褐灰色土含む。
- 6 黒褐色土 少量の焼土粒含む。



第111図 2区6号住居



第112図 2区6号住居出土遺物

壁高は15cmを測る。

主軸方位：N-81°-E

重複：北西隅を中世の19号溝、南東隅を中世の4号土坑と重複し、これらに切られる。また、東側に平安時代の1号・2号掘立柱建物が接し、一部を重複する。

床面：東壁から住居中央部にかけて多量の焼土と灰を含む暗褐色軟質土が拡がっており、この部分は硬化した面が認められた。

カマド：床面の状況等から、東壁の南寄りにあったと考えられるが、4号土坑により削平されたと見られる。

貯蔵穴・柱穴・周溝：確認されていない。

掘り方：北壁と西壁にそって幅50cm、深さ5~10cmの帯状に掘り込みが認められた。

遺物出土状態：覆土中から床面付近にかけて少量の土器

類が出土した。1・7・9は床面直上、2~6・8は覆土中からの出土である。非掲載遺物は、土師器85点(大型製品49、小型製品36)などがある。

所見：出土遺物から、本住居は9世紀第4四半期に比定されよう。

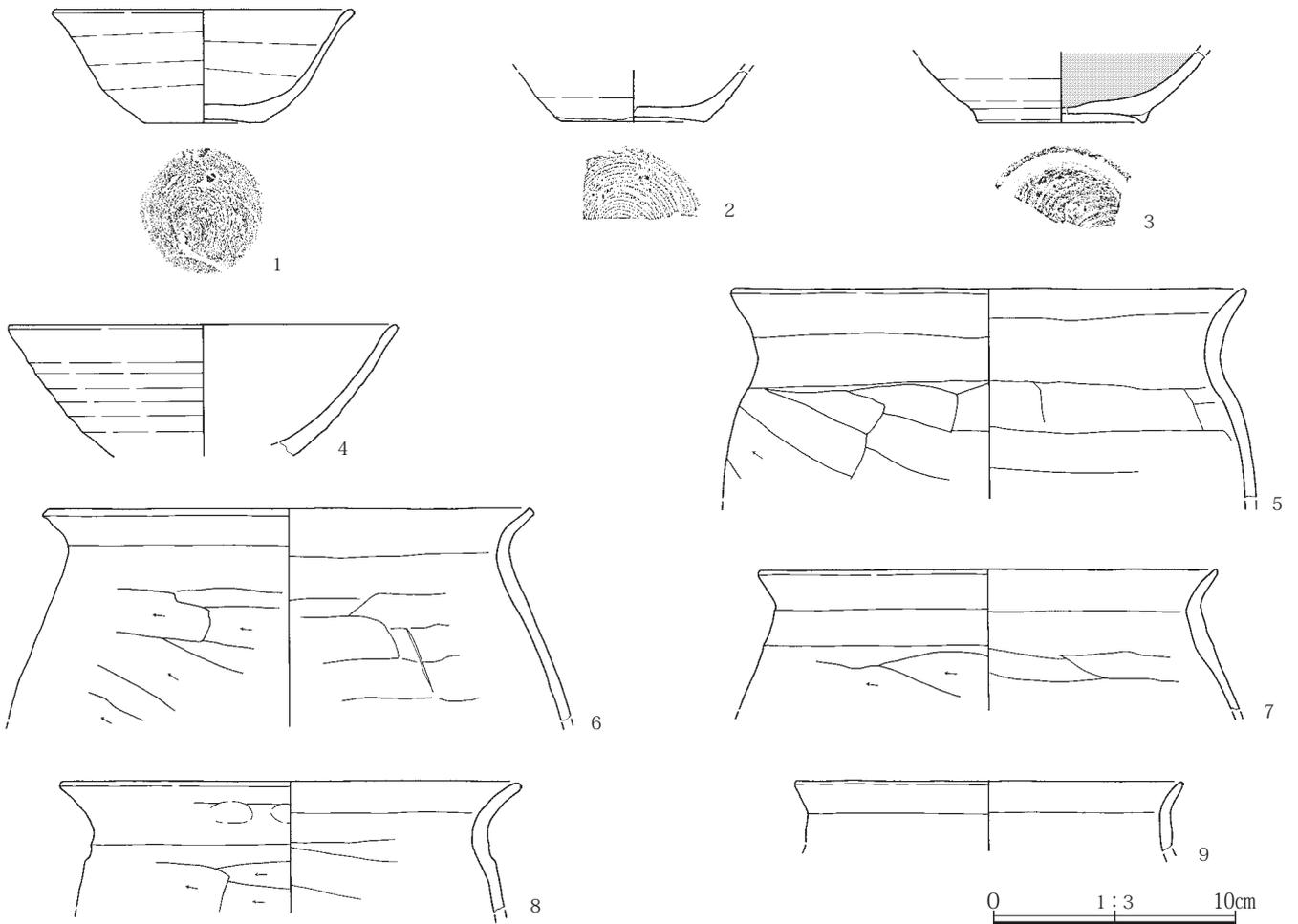
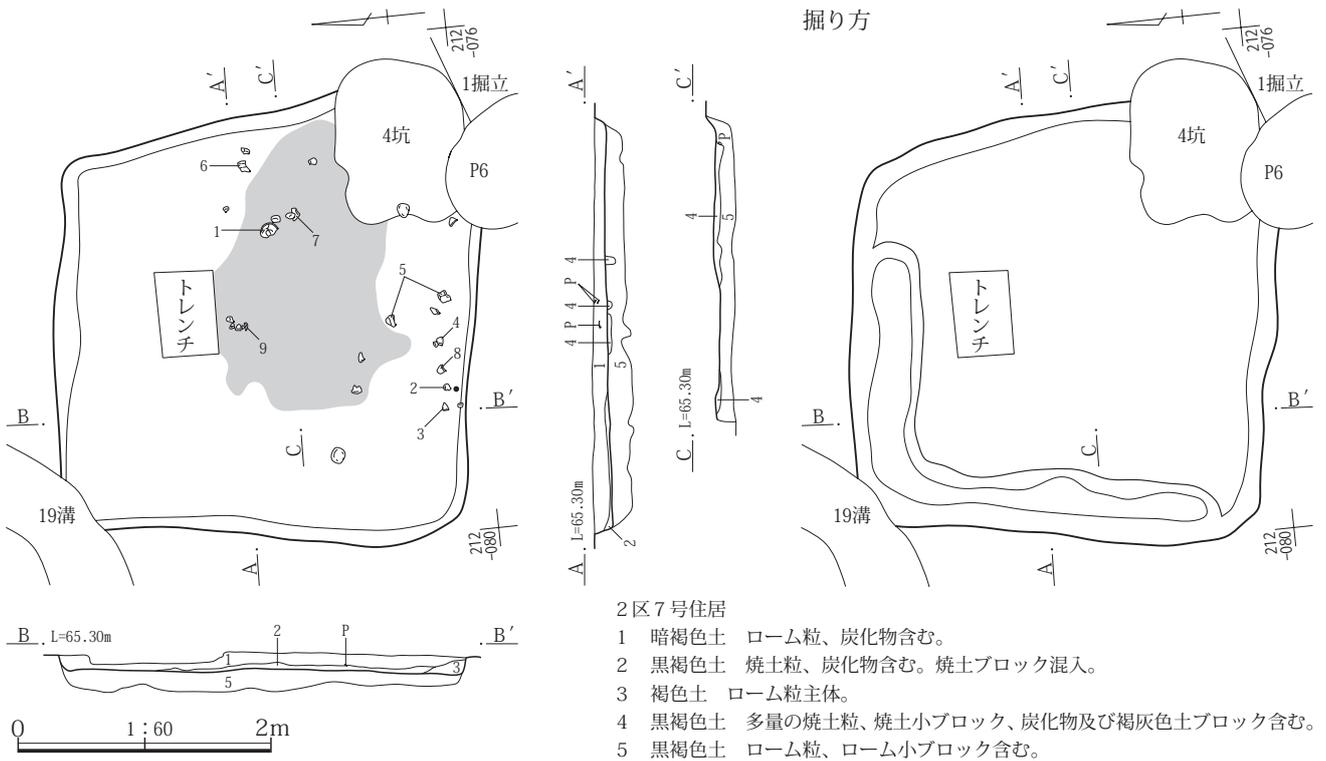
2区8号住居(第114図 PL.37)

位置：X=207~211、Y=-062~064

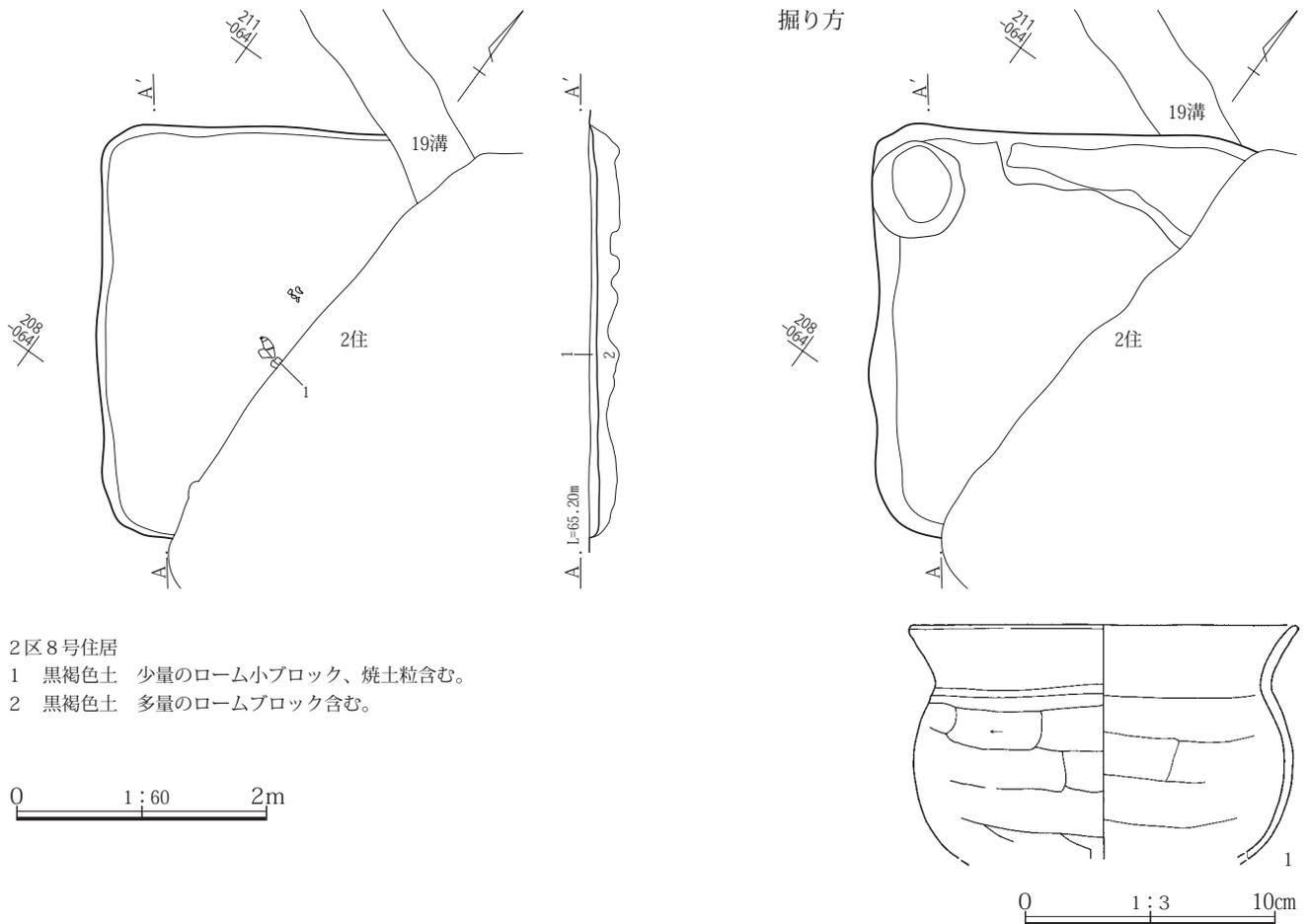
形状・規模：東側半分を重複により失っているが、方形を呈するであろう。この調査区では同じ方位をとる住居はないが、2号掘立柱建物が方位では一致する。

主軸方位：N-34°-W

重複：北側を中世の19号溝と重複してこれに切られ、東半部を2号住居と重複し、これに切られる。



第113図 2区7号住居と出土遺物



2区8号住居

- 1 黒褐色土 少量のローム小ブロック、焼土粒含む。
- 2 黒褐色土 多量のロームブロック含む。

第114図 2区8号住居と出土遺物

床面：床面は平坦で、硬化面は認められない。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝：確認されていない。

掘り方：北西壁沿いに円形と帯状の浅い掘り込みが認められた。

遺物出土状態：住居中央の床面から土師器甕が潰れた状態で出土した以外は、遺物はほとんど認められなかった。非掲載遺物は、土師器51点のみである。

所見：重複関係と床面出土の遺物から、本住居は9世紀代に比定したい。

2区9号住居(第115～117図 PL.37・68・71)

位置：X=201～207、Y=-059～064

形状・規模：正方形に近いが、南北方向がやや長い横長の住居で、東壁の中央よりやや南寄りにカマドが付く。南壁と東壁はほぼ直行するが、その他が傾いているため、西壁より東壁がやや長い台形状を呈する。規模は南北長5.40m、東西長4.90m、壁高は13cmを測る。

主軸方位：N-102°-E

重複：中世の25号・41号・53号土坑と重複し、これに切られる。また、2号・13号・14号・15号住居と重複する。

床面：中央部がやや高い造りだが、ほぼ平坦な床面で、カマド前から中央部には使用によるやや硬化した面が確認された。

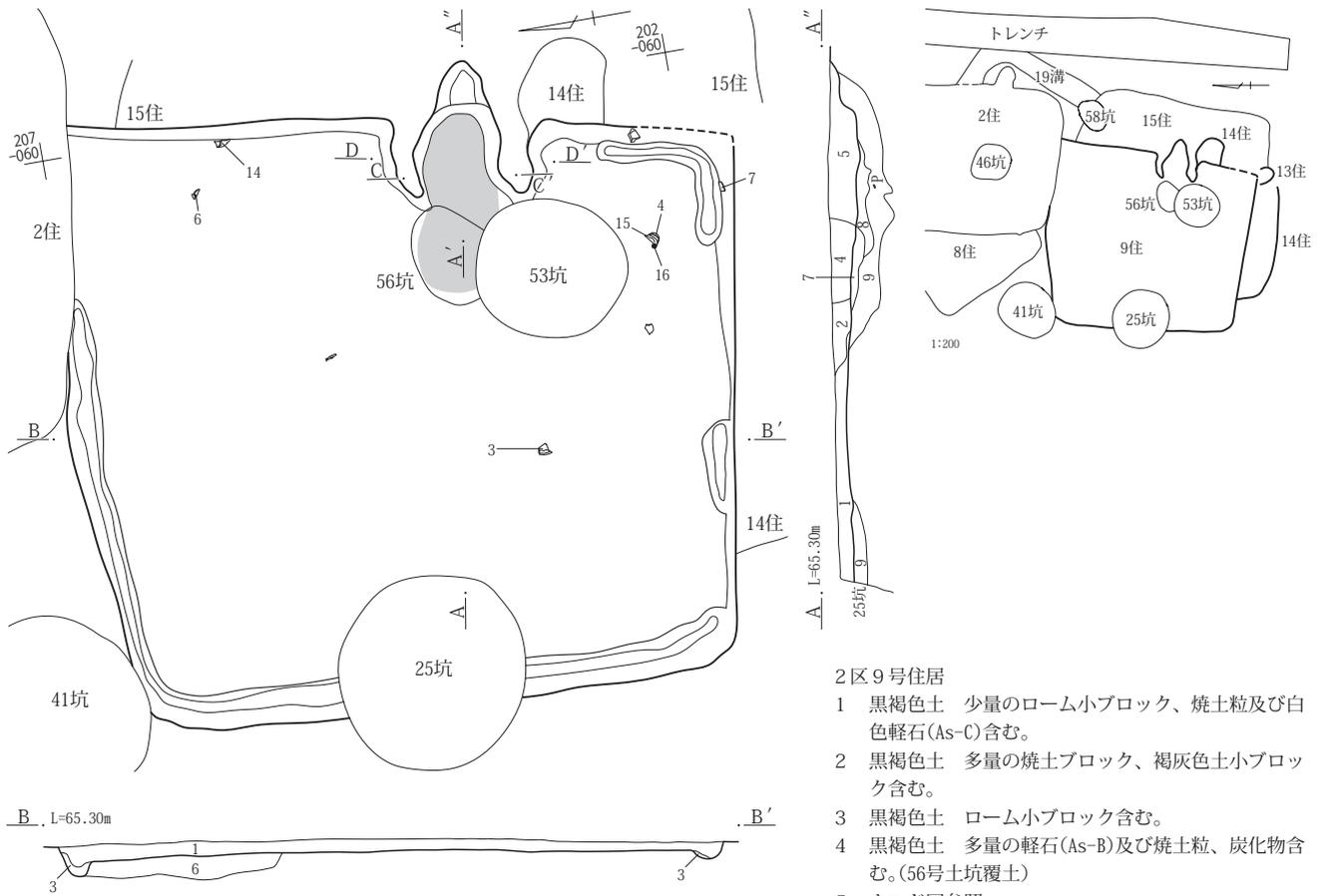
カマド：東辺の中央部よりやや南側にあり、暗褐色粘質土で構築した両袖が付く。焼面は手前の床面よりやや下がり先端に段差を設けて煙道へ抜けている。規模は、全長1.85m、幅1.10m、焚き口幅0.60m、焼部奥行きは0.75mである。

貯蔵穴・柱穴：確認されていない。

周溝：北壁・西壁・南壁をめぐる周溝を確認した。南壁では途切れる場所が多く、南東コーナーをめぐるカマド手前まで伸びる。規模は幅14～22cm、床面からの深さは4～16cmである。

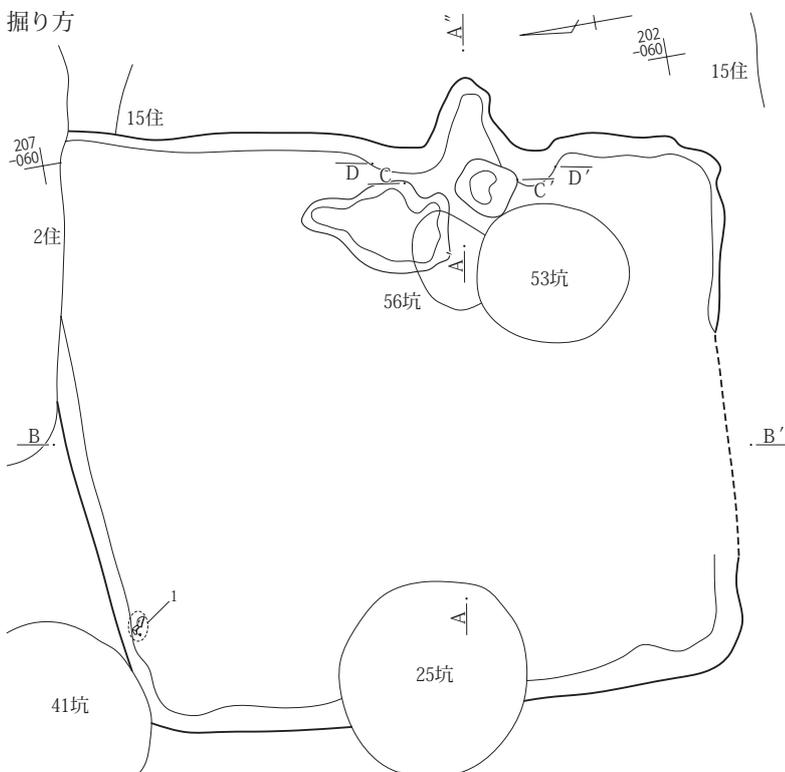
掘り方：確認されていない。

遺物出土状態：覆土中を中心に少量の土器類が出土している。掲載した遺物のうち、茎を欠損した刀子(第117図

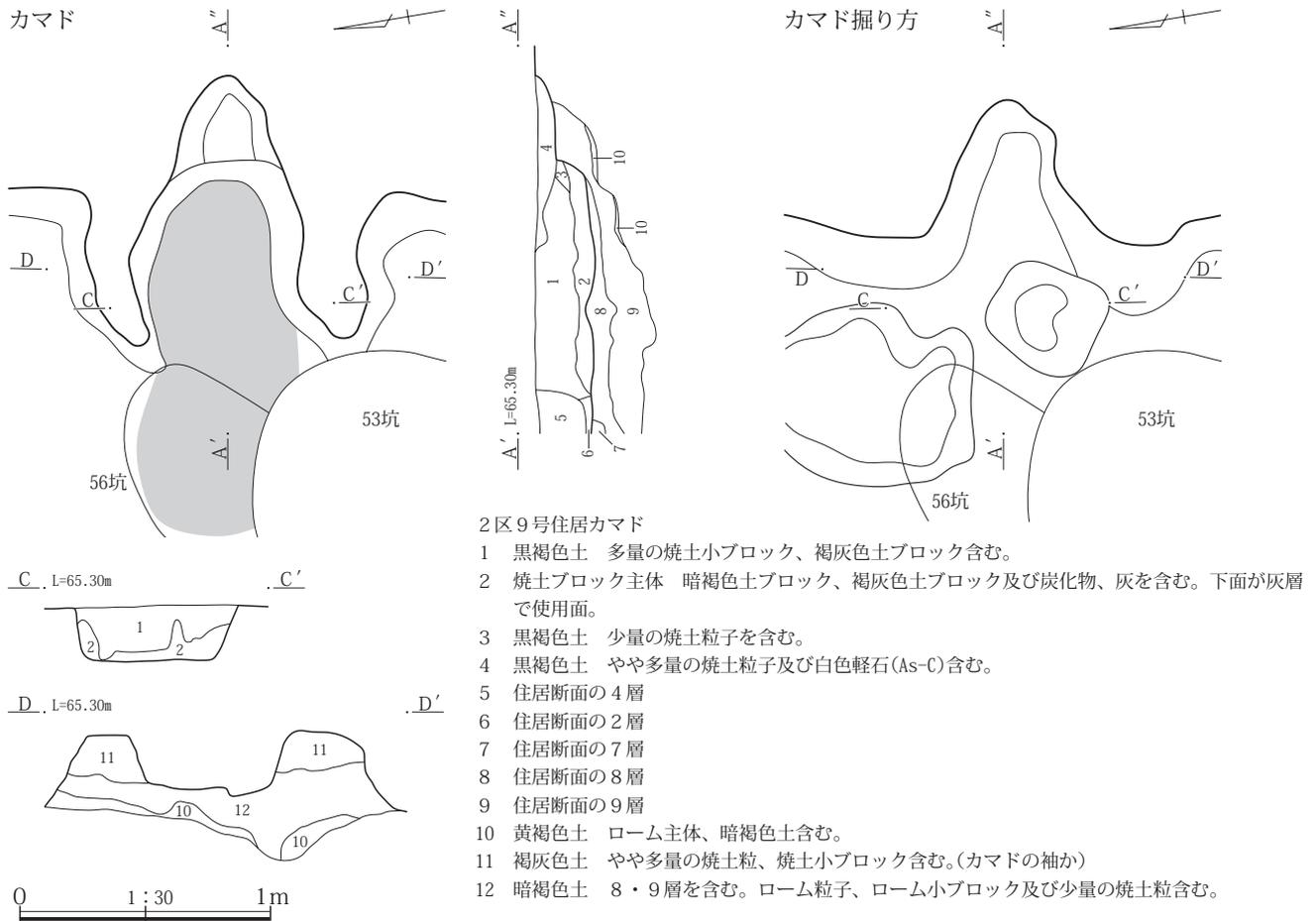


2区9号住居

- 1 黒褐色土 少量のローム小ブロック、焼土粒及び白色軽石(As-C)含む。
- 2 黒褐色土 多量の焼土ブロック、褐灰色土小ブロック含む。
- 3 黒褐色土 ローム小ブロック含む。
- 4 黒褐色土 多量の軽石(As-B)及び焼土粒、炭化物含む。(56号土坑覆土)
- 5 カマド図参照
- 6 黒褐色土 ロームブロック、少量の焼土小ブロック含む。
- 7 黒褐色土 多量の灰、及び焼土小ブロック含む。
- 8 暗褐色土 やや多量の焼土小ブロック及び褐灰色土含む。
- 9 暗褐色土 焼土ブロック及びローム小ブロック含む。



第115図 2区9号住居(1)



第116図 2区9号住居(2)

23)は中央部床面からの出土、底部内面に墨書のある土師器杯(第117図1)は南西隅の床下からの出土である。また、本住居では内面底部に「井」墨書の土師器杯4点(2・10・11・12)と、線刻のある土師器杯1点(3)が出土しており、注意を要する。非掲載遺物は、土師器785点(大型製品418、中型製品4、小型製品353、不明10)、須恵器35点(小型製品)である。

所見:出土遺物から、本住居は9世紀第2～3四半期に比定される。

2区10号住居(第118図 PL.37)

位置: X=199~200、Y=-083~086

形状・規模: 9号住居の西20mにある。調査区内では周囲に住居はなく、単独で確認された。住居の大半は調査区外にあり、カマドとその周囲のみの調査のため、形状・規模は不明である。

主軸方位: N-65°-E

重複: 確認されていない。

床面: ほぼ平坦な床で、硬化面は認められない。

カマド: 東壁の北東コーナー寄りで確認された。焼土と灰を多く含む粘質土が壁外へ伸びており、煙道の一部だった可能性がある。袖や燃焼部は残っていなかった。

貯蔵穴・柱穴・周溝・掘り方: 確認されていない。

遺物出土状態: 出土遺物はわずかだが、調査区壁面で覆土中に遺物(1・3・4)が確認された。非掲載遺物は土師器27点のみである。

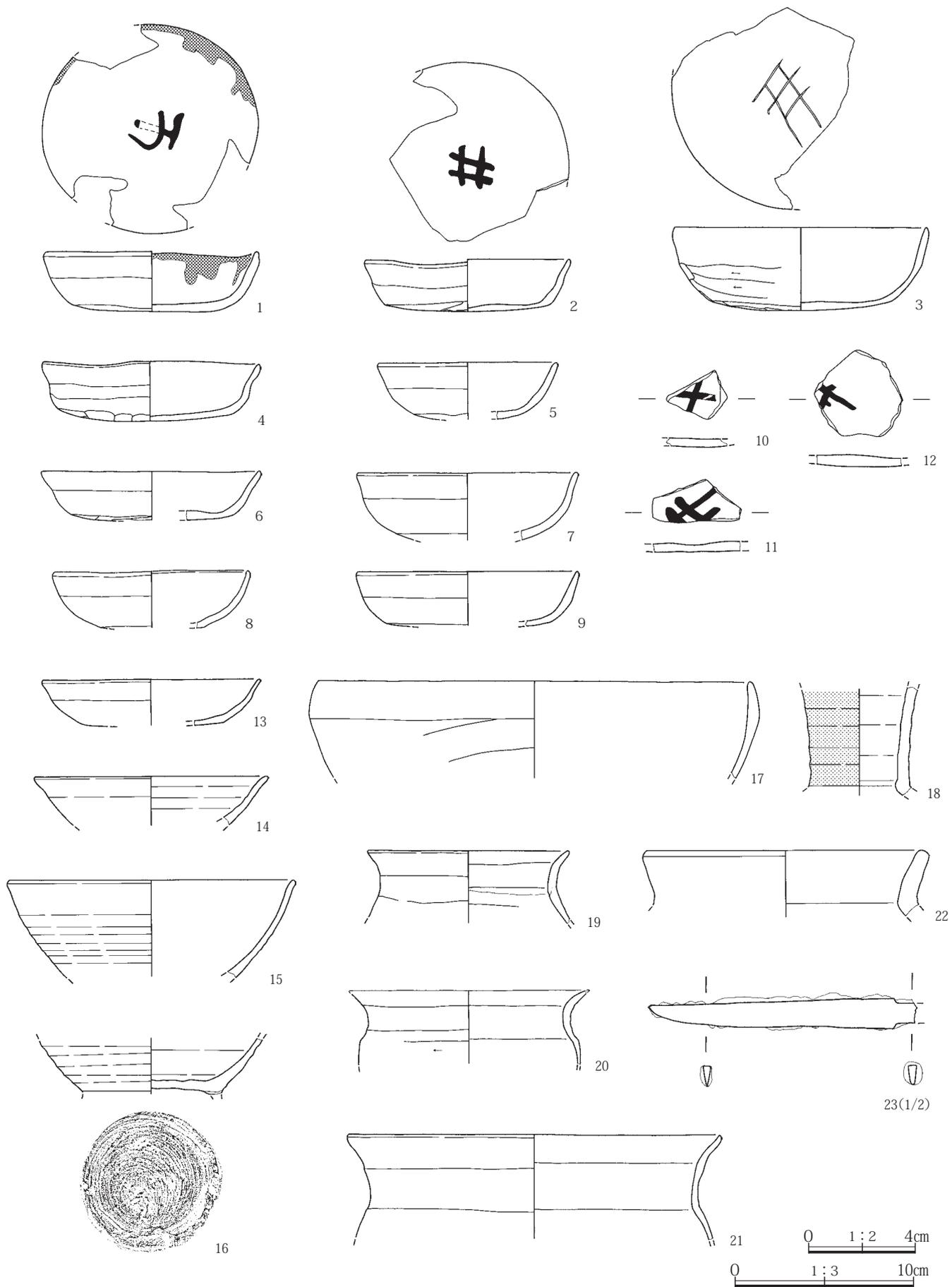
所見:出土遺物から、本住居は9世紀前半に比定される。

2区11号住居(第119図 PL.38・71)

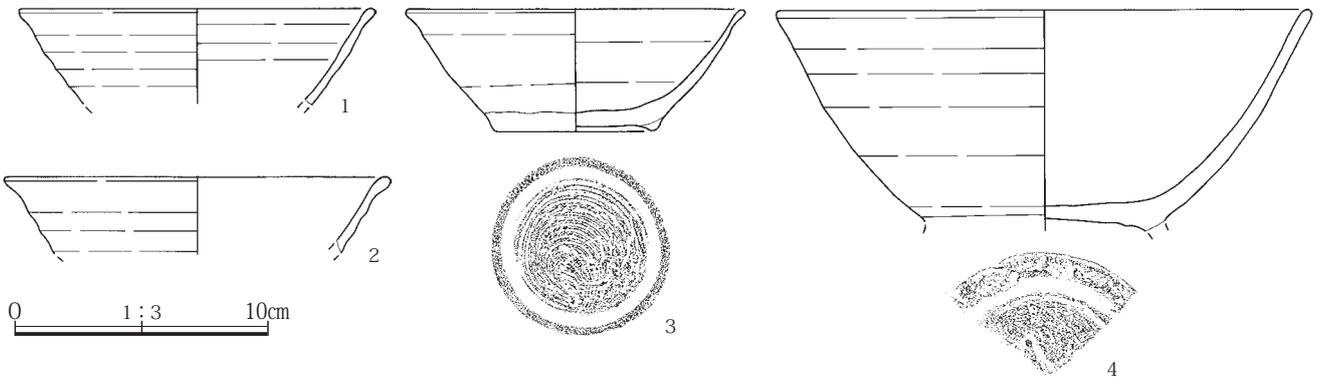
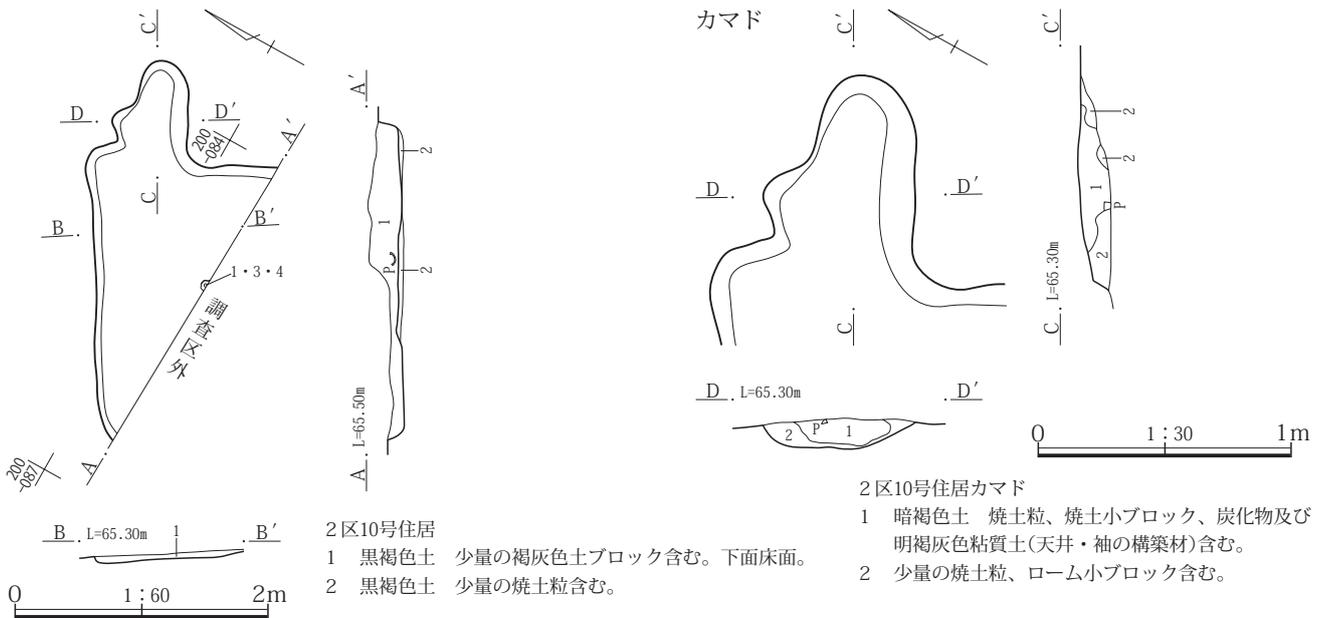
位置: X=203~208、Y=-052~056

形状・規模: 6号住居の北側で確認された。住居範囲の大半を同住居に重複しており、一部の確認に留まっているが、方形の比較的大きな住居だと思われる。東西長は4.75m、壁高は8cmを測る。

重複: 一部を中世の17号溝と試掘トレンチに切られ、南側を6号住居と重複し、これに切られる。



第117図 2区9号住居出土遺物

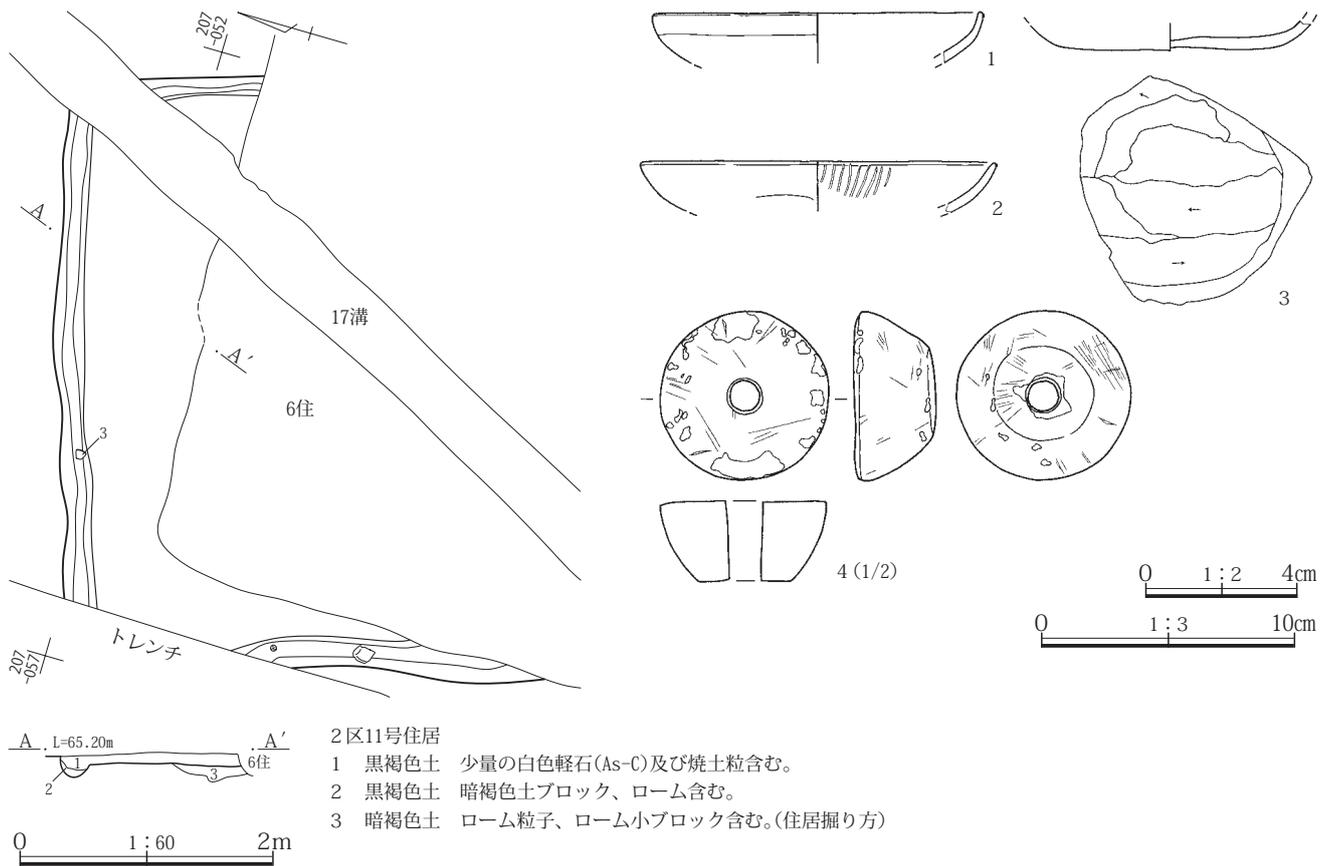


第118図 2区10号住居と出土遺物

床面：ほぼ平坦な床で、硬化面は認められない。
カマド・貯蔵穴・柱穴：確認されていない。
周溝：幅20cm、深さ9～13cmの周溝が全周する。
掘り方：確認されていない。
遺物出土状態：出土遺物は僅かだが、西側の周溝上面から石製紡錘車(4)、北側の周溝上面から土師器杯(3)が出土している。非掲載遺物は、土師器57点のみである。
所見：出土遺物から、本住居は8世紀後半に比定される。

2区12号住居(第120図 PL.38・71)
位置：X=200～203、Y=-051～055
形状・規模：6号住居の南東壁外で別のカマドが確認され、12号住居となった。北側の大半を6号住居と重複しており、両者の関係は不明確である。規模は、東西長4.02m、壁高は10cmを測る。

主軸方位：N-84°-E
重複：住居中央を中世の17号・18号溝と重複し、これに切られる。南側の大半は6号住居と重複する。
床面：硬化面はなく、判然としない。
カマド：住居の南東隅に焼土と灰を多く含む暗褐色粘質土が分布し、ここにカマドがあったと思われるが、燃焼部や煙道は判然としない。
貯蔵穴：確認されていない。
柱穴：南西側の6号住居壁の外側で、床面からの深さが30cm前後の柱穴2本を確認した。
周溝：確認されていない。
遺物出土状態：想定されるカマドの周辺から少量の土器類が破片状態で出土した。非掲載遺物は、土師器176点、須恵器8点である。
所見：出土遺物から、本住居は9世紀前半に比定される。



第119図 2区11号住居と出土遺物

2区13号住居(第121図 PL.38)

位置：X=201、Y=-060～061

形状・規模：9号住居の南東隅住居外で、焼土と灰を多量に含む灰褐色粘質土が確認され、住居のカマドと認定された。カマド以外の施設は確認できなかった。

主軸方位：N-152°-E

重複：本住居は9号・14号・15号住居と重複しており、14号を切り、カマド以外を9号住居に切られる。15号住居との関係は判然としない。

カマド：9号住居の南東隅から南東方向に伸びる。カマドは特有の焼土と灰を多量に含む灰褐色粘質土で構築されており、それが潰れて落ち込んだなかに土器類が破片状態で含まれていた。また、右袖部に扁平な礫が残っており、袖石の可能性もある。確認できた燃焼部は全長0.48m、幅0.37mである。

所見：カマド出土の遺物から、時期は9世紀第2四半期に比定される。

2区14号住居(第121・122図 PL.38・39・69)

位置：X=201～203、Y=-059～064

形状・規模：9号住居の南東部壁外から13号住居と共に確認された。9号住居のカマド右側に本住居のカマドがあり、南東隅壁外に貯蔵穴が、また南壁の外側から本住居の南壁が確認された。東壁は判然としないが、想定される東西長は3.78m、壁高は8cmを測る。

主軸方位：N-101°-E

重複：9号・13号・15号住居と重複し、いずれの住居にも切られたことになるが、15号との関係は判然としない。

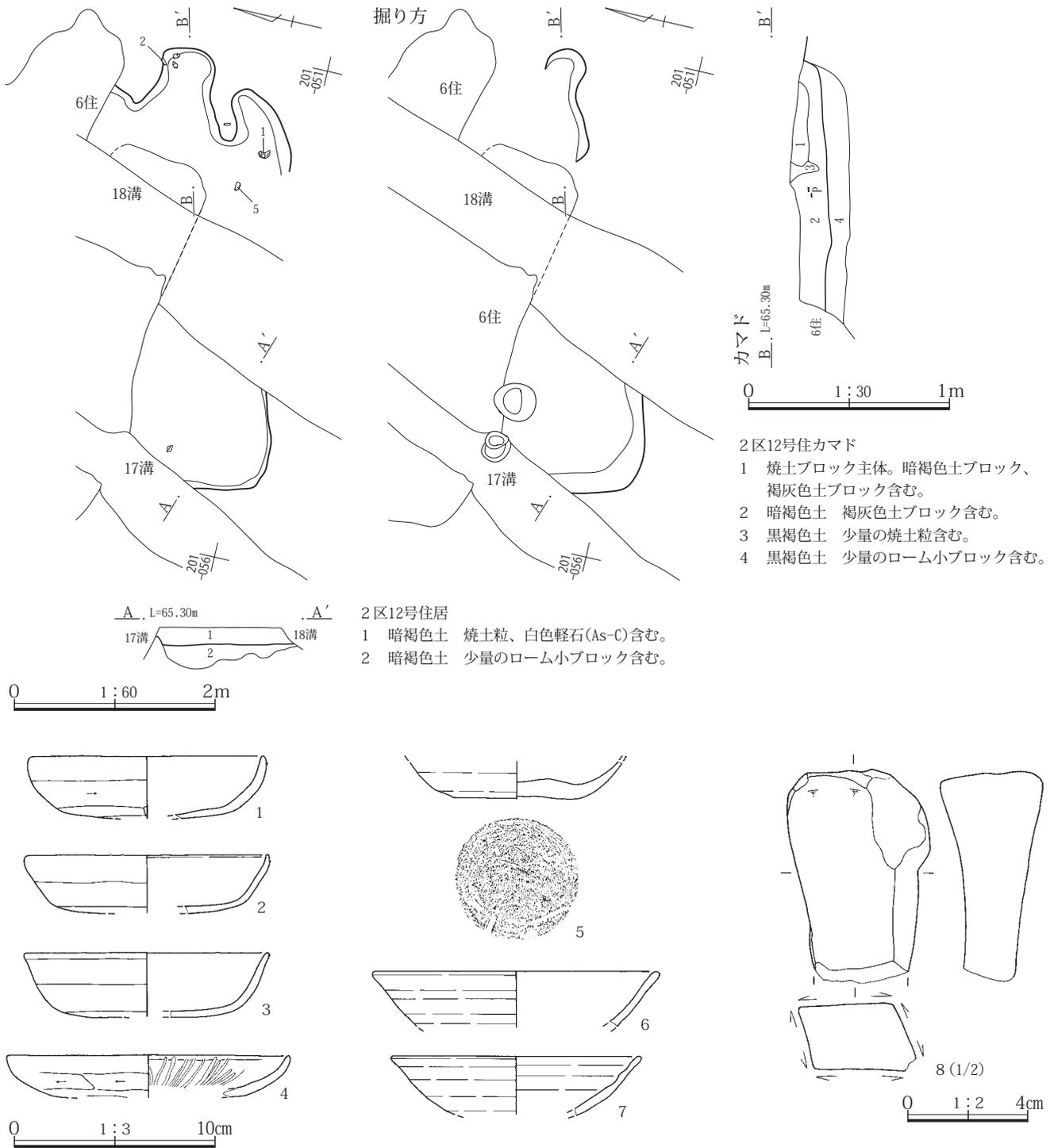
床面：ほぼ平坦な床で、硬化面は認められない。

カマド：9号住居のカマド右袖の脇で確認された。9号住居の壁外に燃焼部が67cmほど伸びており、幅は66cmである。

貯蔵穴：カマドの南側にあり、13号住居カマドの北東に接するような位置になる。形状は楕円形で、長軸45cm、短軸40cm、床面からの深さは25cmを計る。

柱穴・周溝・掘り方：確認されていない。

遺物出土状態：出土遺物は少ないが、完形の土師器杯2



第120図 2区12号住居と出土遺物

点(1・4)が床面に伏せたような状態で出土している。
非掲載遺物は土師器220点、須恵器6点である。
所見:出土遺物から、本住居は9世紀前半に比定される。

2区15号住居(第123図 PL.39)

位置: X=201~206、Y=-058~060

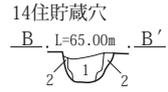
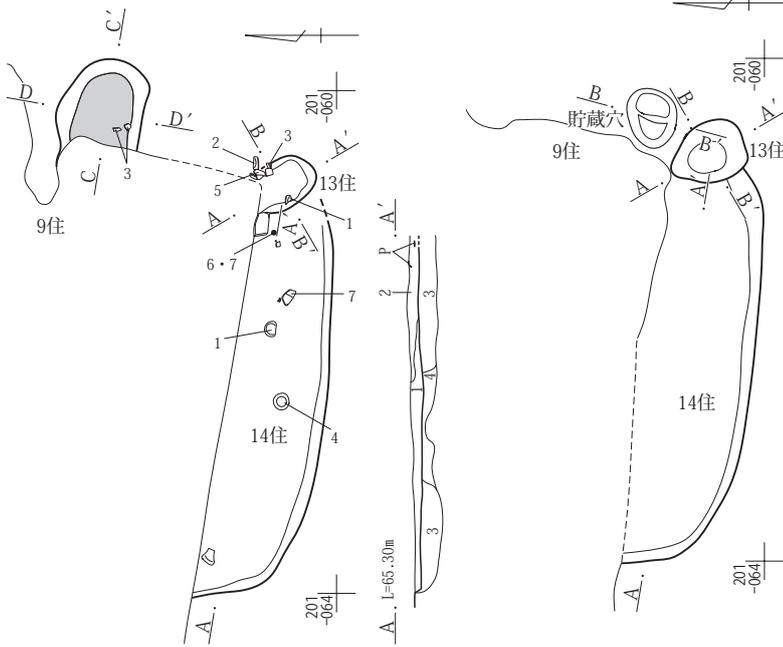
形状・規模: 西側を大きく9号住居に切られており、形

状は判然としないが、南北長は5.01m、壁高は10cmを測る。カマドは確認できない。

重複: 北東隅を中世の58号土坑に切られ、西側を大きく9号住居に切られる。また、13号・14号住居とも重複するが、切り合い関係は判然としない。

床面: ほぼ平坦な床で、中央部付近には硬化した床面が認められた。

掘り方



2区14号住貯蔵穴

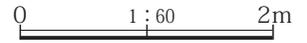
- 1 黒褐色土 焼土粒及び少量のローム小ブロック含む。
- 2 黄褐色土 ローム主体。黒褐色土含む。

2区14号住居

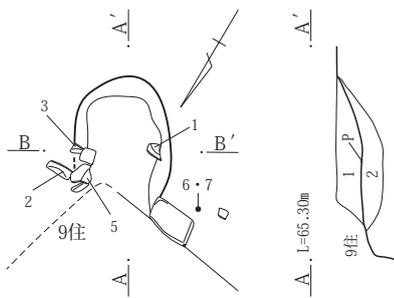
- 1 黒褐色土 ローム小ブロック及び少量の焼土粒含む。
- 2 暗褐色土 やや多量のローム小ブロック、焼土粒及び少量の褐灰色土ブロック含む。
- 3 暗褐色土 少量の焼土粒、ローム小ブロック含む。
- 4 暗褐色土 多量のロームブロック含む。(倒木痕)

2区14号住カマド

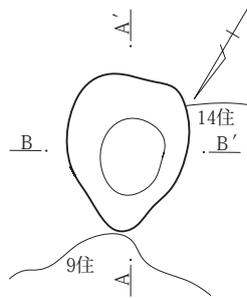
- 1 黒褐色土 焼土粒、炭化物及び少量の褐灰色土含む。
- 2 黒褐色土 少量の焼土粒含む。



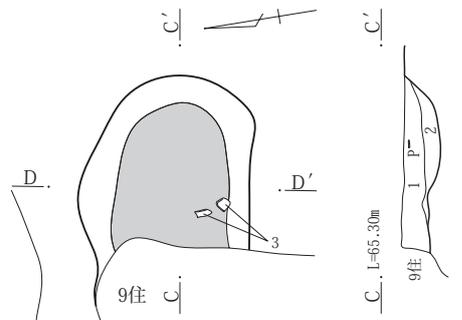
13住カマド



13住カマド掘り方

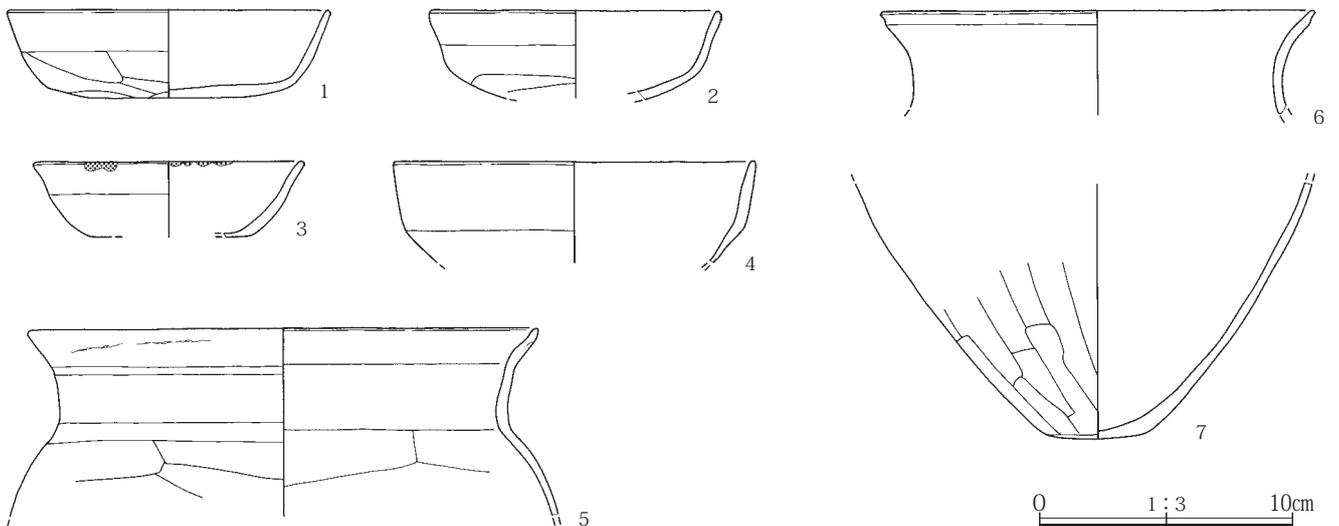
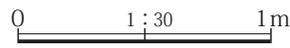
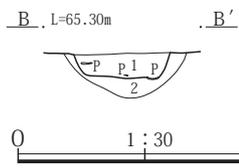


14住カマド

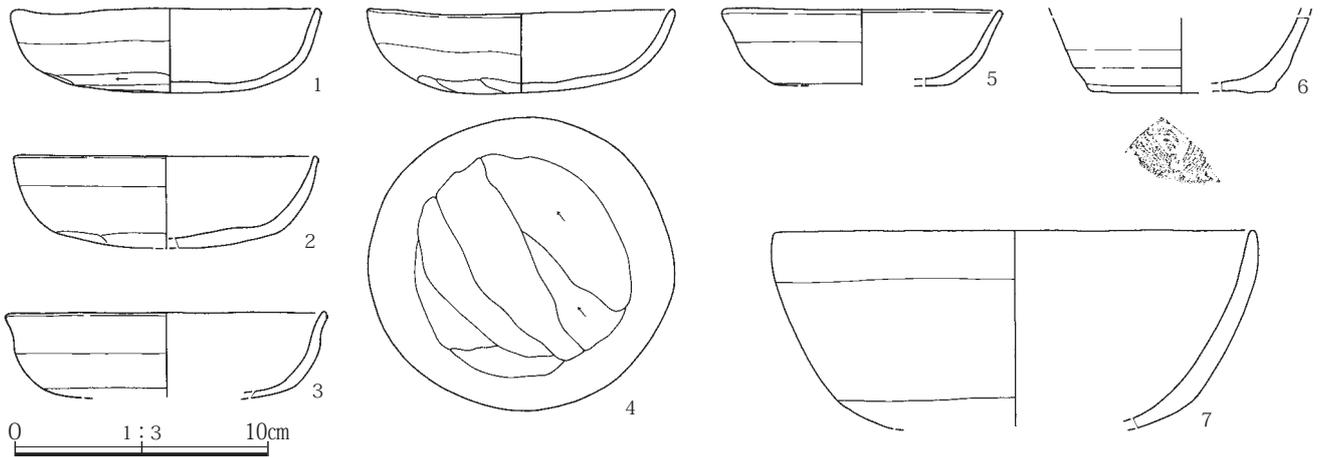


2区13号住カマド

- 1 暗褐色土 やや多量の焼土粒、焼土小ブロック及び褐灰色土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 少量の焼土粒、焼土小ブロック含む。



第121図 2区13・14号住居と13号住居出土遺物



第122図 2区14号住居出土遺物

カマド：確認されていないが、東壁寄りの中央部に焼土と灰を含む暗褐色粘質土が堆積しており、この付近にカマドがあった可能性を示している。

貯蔵穴・柱穴・周溝：確認されていない。

遺物出土状態：覆土中から少量の土器類が出土している。非掲載遺物は土師器189点、須恵器11点である。

所見：出土遺物では、本住居は9世紀第3四半期に比定される。

2区16号住居(第124図 PL.39)

位置：X=199~200、Y=-048~050

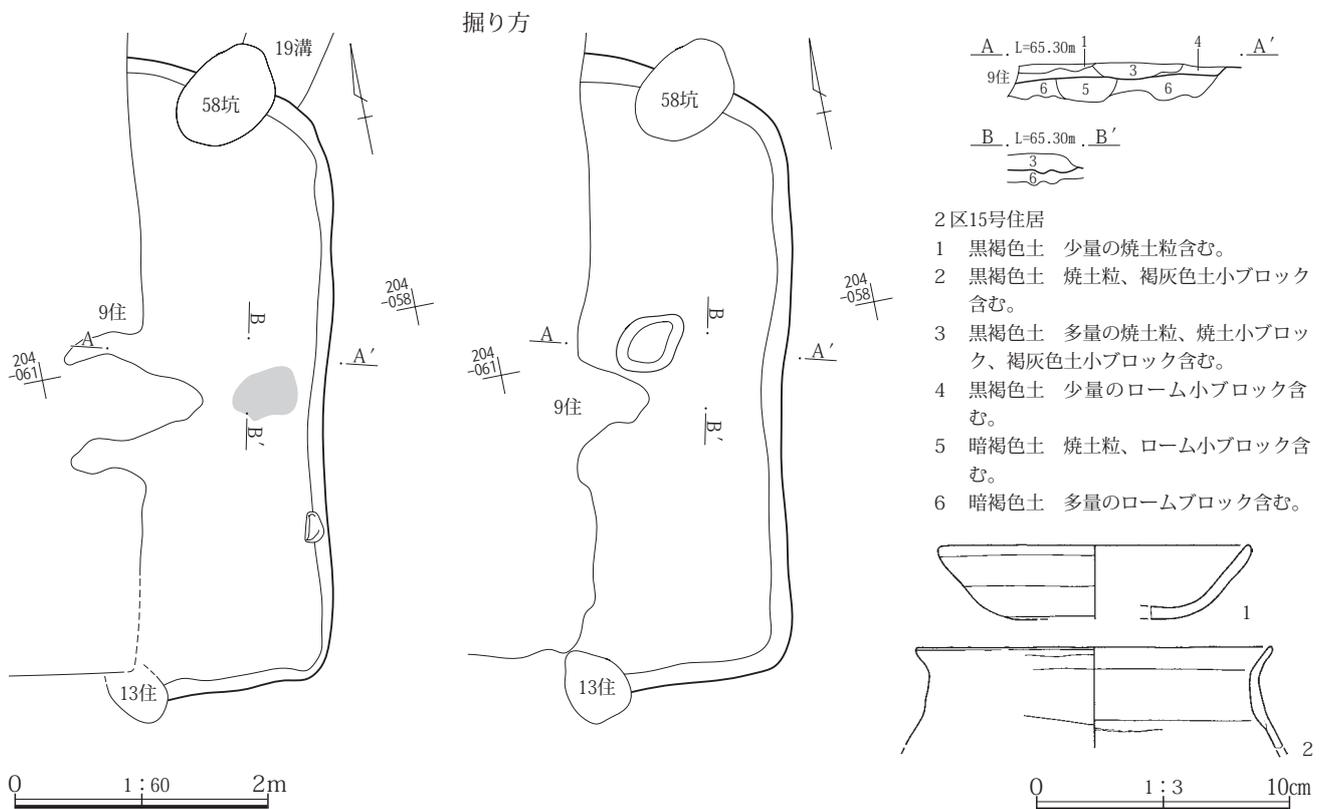
形状・規模：12号住居の南東で確認された。大半が調査区外にあり、西壁も未検出だが、掘り方では東西長2.57mであり、壁高は12cmを測る。

重複：なし。

床面：ほぼ平坦な床で、硬化面は認められない。

カマド・貯蔵穴・柱穴：確認されていない。

掘り方：外周をめぐるように幅30~50cm、深さ15cmほど

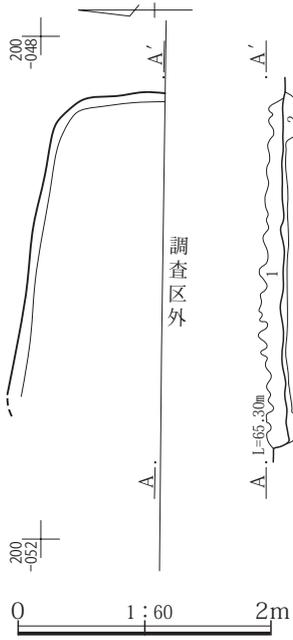


第123図 2区15号住居と出土遺物

2区15号住居

- 1 黒褐色土 少量の焼土粒含む。
- 2 黒褐色土 焼土粒、褐色土小ブロック含む。
- 3 黒褐色土 多量の焼土粒、焼土小ブロック、褐色土小ブロック含む。
- 4 黒褐色土 少量のローム小ブロック含む。
- 5 暗褐色土 焼土粒、ローム小ブロック含む。
- 6 暗褐色土 多量のロームブロック含む。

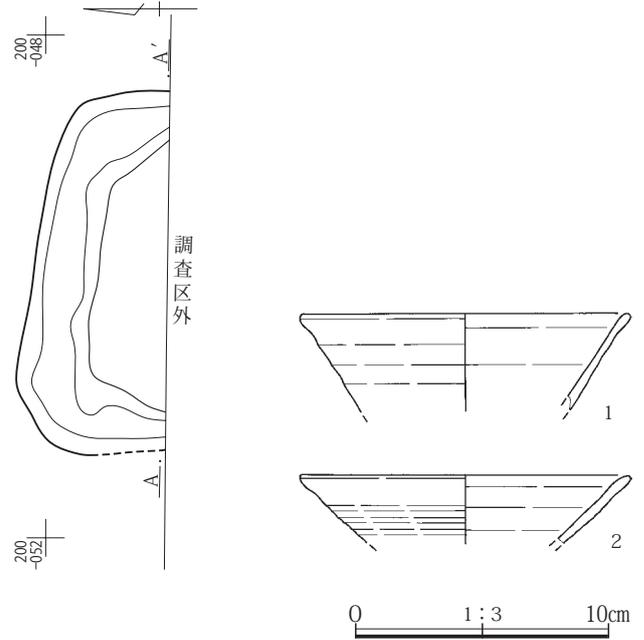
2区16号住居



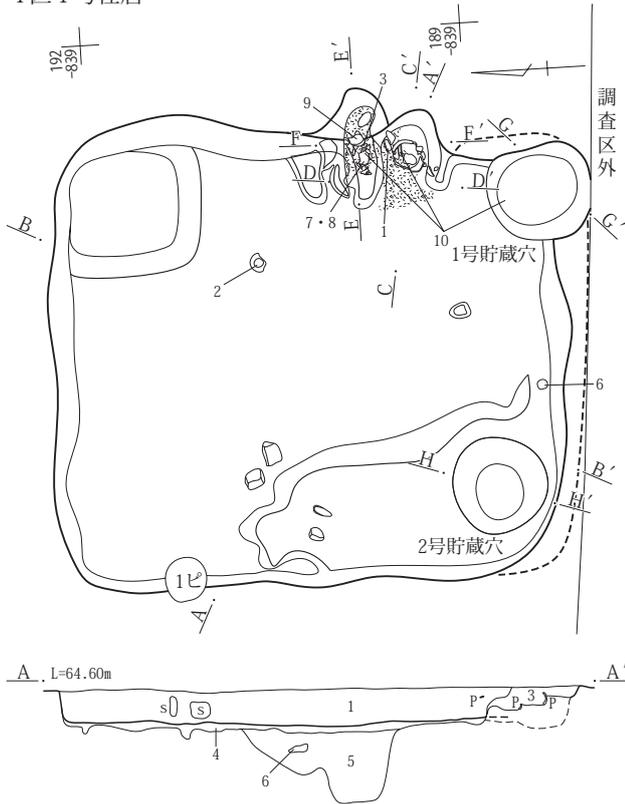
2区16号住居

- 1 暗褐色土 焼土粒、褐灰色土ブロック含む。下面が床面。
- 2 暗褐色土 少量のローム小ブロック、褐灰色土ブロック含む。

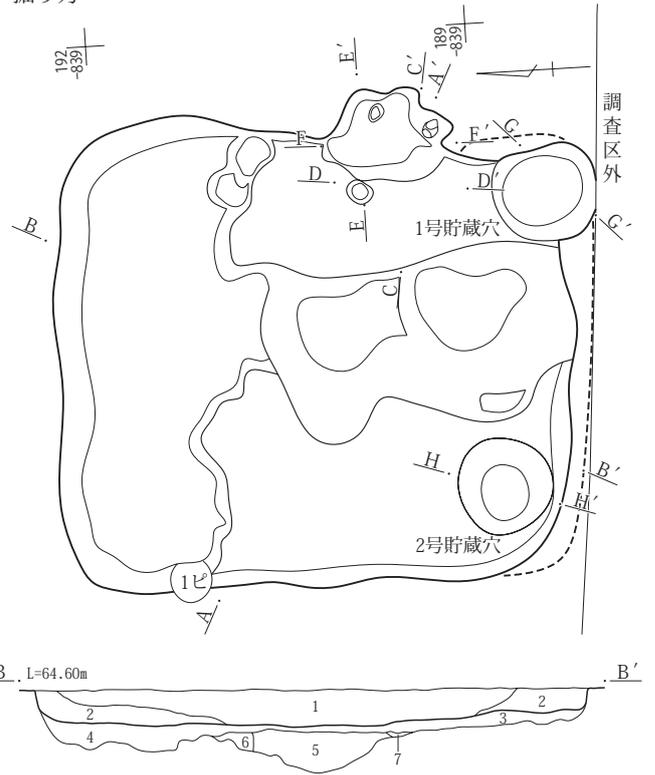
掘り方



4区1号住居



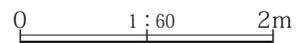
掘り方



4区1号住居

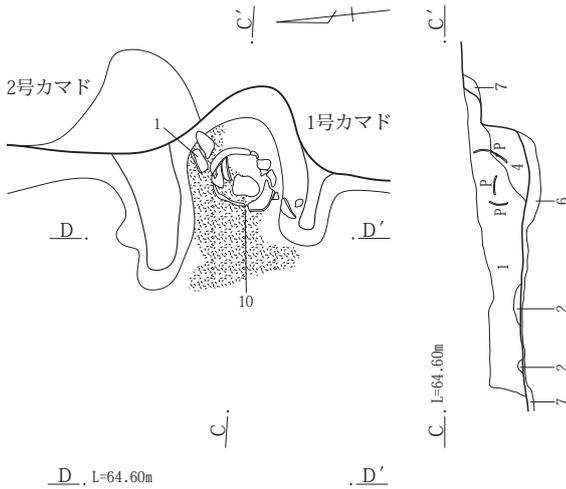
- 1 黒褐色土 黄褐色土(ローム)小ブロック及び少量の焼土粒子を含む。白色軽石(As-C)を含む。
- 2 黒褐色土 少量の黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。白色軽石(As-C)を含む。
- 3 暗褐色土 ローム小ブロック及び焼土粒子を含む。少量の白色軽石(As-C)を含む。

- 4 黒褐色土 やや多量の明黄褐色土(ローム)ブロックを含む。この上面が床。
- 5 暗褐色土 少量の明黄褐色土小ブロックを含む。(床下土坑または別土坑)
- 6 暗褐色土 焼土粒子、焼土小ブロックを含む。(床下土坑または別土坑)
- 7 黄褐色土 暗褐色土小ブロック、明黄褐色土小ブロックを含む。

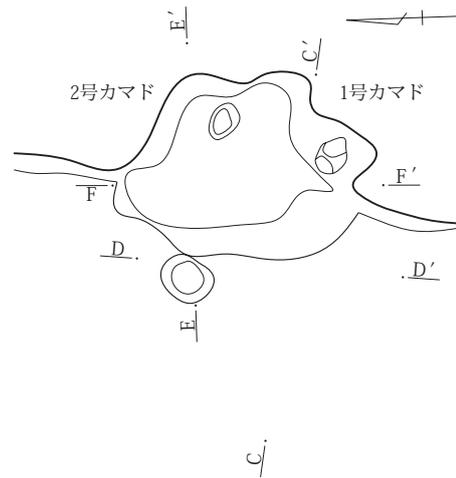


第124図 2区16号住居と出土遺物、4区1号住居

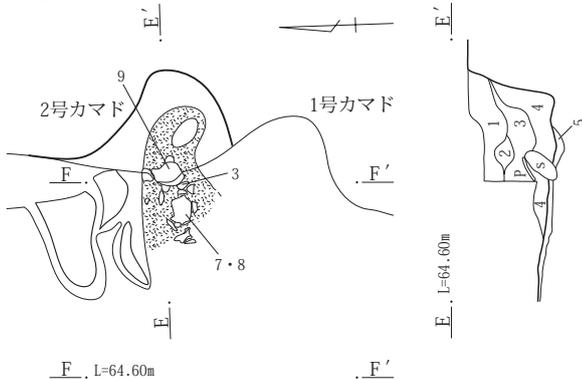
1号カマド



1号カマド掘り方



2号カマド



4区1号住居1号カマド

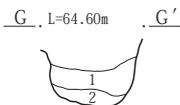
- 1 暗褐色土 少量の灰白色土小ブロック及び焼土粒子を含む。(この下が灰層)
- 2 灰白色土 粘質。天井・袖の崩れか。
- 3 暗褐色土 多量の灰白色土ブロックを含む。カマド袖。
- 4 黒褐色土 地山
- 5 暗褐色土 少量の白色軽石(As-C)及びローム小ブロックを含む。
- 6 灰層 炭化物、焼土小ブロックを含む。
- 7 暗褐色土 灰、炭化物を含む。

4区1号住居2号カマド

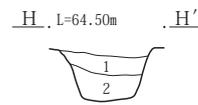
- 1 暗褐色土 焼土粒子、焼土小ブロック及び炭化物を含む。
- 2 灰白色土 粘質。カマド天井の崩れた土か。
- 3 暗褐色土 焼土粒子、焼土ブロック及び灰白色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 多量の焼土粒子、焼土小ブロック及び炭化物を含む。
- 5 灰層 灰、炭化物主体。焼土粒子を含む。
- 6 焼土 暗褐色土ブロックを含む。壁・天井の崩れか。

0 1:30 1m

1号貯蔵穴



2号貯蔵穴



4区1号住居1号貯蔵穴

- 1 黒褐色土 少量の白色軽石(As-C)を含む。
- 2 黄褐色土 黄褐色土(ローム)主体。黒褐色土小ブロックを含む。

4区1号住居2号貯蔵穴

- 1 黒褐色土 少量の白色軽石(As-C)及び少量の黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
- 2 黒褐色土 黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。

0 1:60 2m

第125図 4区1号住居

の周溝状の掘り方が認められた。

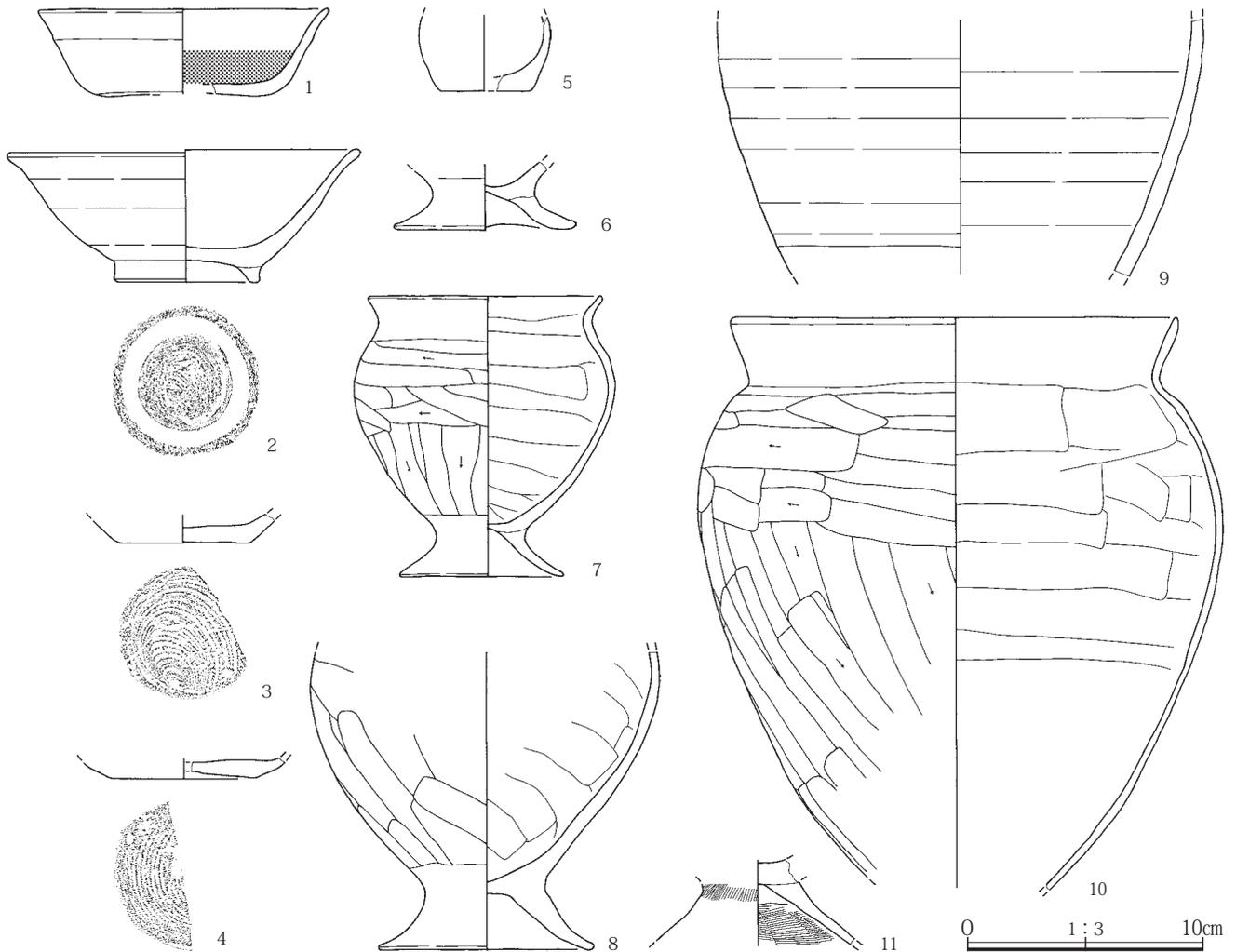
遺物出土状態: 出土遺物は少ないが、覆土中から少量の土器類が出土している。非掲載遺物は土師器24点、須恵器3点である。

所見: 出土遺物から、本住居は8世紀後半に比定される。

4区1号住居(第124~126図 PL.40・69)

位置: X=188~192、Y=-839~843

形状・規模: 微高地中央の東寄りで確認された。住居の南壁が調査区境界に接しており、明確な立ち上がりは確認されていないが、ほぼ方形を呈すると考える。規模は



第126図 4区1号住居出土遺物

南北長4.14m、東西長3.77m、壁高は28cmを測る。カマドは東壁に付くが、新旧2つあり、貯蔵穴も2つあることから、改築が行われたと想定される。

主軸方位：N-108°-E

重複：西壁を中世の1号ピットに切られる。

床面：ほぼ水平に構築されており、全体に張り床様の硬化面が認められた。南西隅にある1号貯蔵穴の周囲に幅10cm、高さ5cmほどの縁取りがあり、それが南壁に沿って幅1m、長さ2mほどの範囲を画している。また、同様の縁取りが北東隅にもあり、ここではコーナーを使って1mほどの方形区画になっている

カマド：東壁に新旧2つのカマドがあり、住居廃絶時のカマドを1号、旧カマドを2号とする。1号は中央より南側にあり、両袖が付く。1号には土師器甕(10)が正位に置いた状態で出土しており、傍らから土師器杯(1)が添えてあった。これらは使用状態のまま放棄された可能

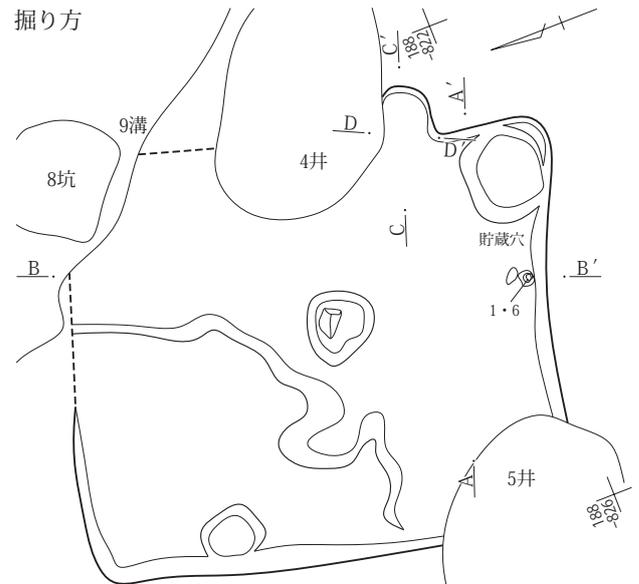
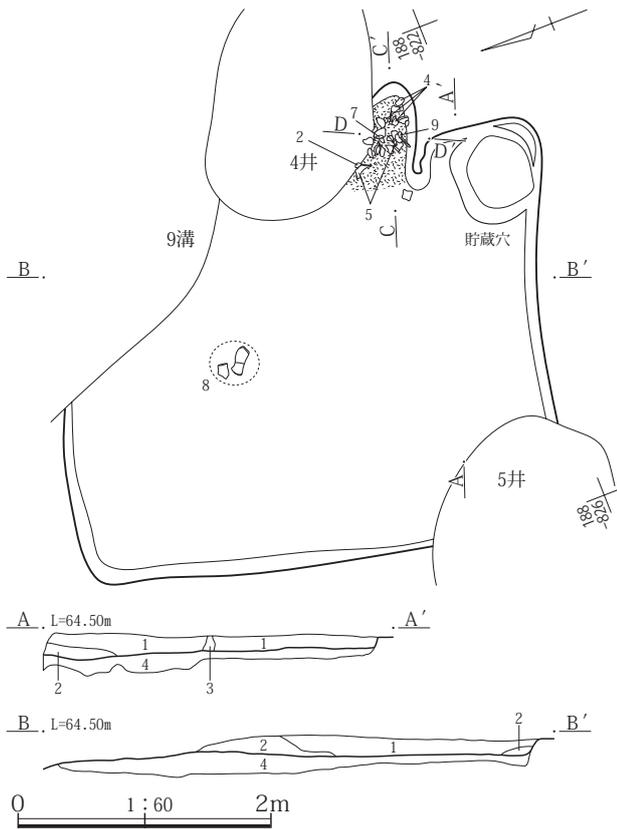
性もある。規模は全長0.80m、幅0.82m、焚き口幅0.35m、燃烧部奥行き0.65mである。

2号は1号の北側にあり、右袖を失っている。燃烧部中央に棒状礫の支柱があり、そこに須恵器甕(9)の破片を被せ、その手前に土師器杯(3)と台付甕2つ(7・8)を重ねたようにして横転した状態で出土した。改築にあたり、意図を持って置いたものと判断する。全長0.66m、燃烧部奥行きは0.50mである。

貯蔵穴：南東コーナーと南西コーナーにあり、調査時には重複する土坑となっていたが、整理段階で住居に伴う貯蔵穴と判断した。南西を廃絶時のものとして1号(元13号土坑)、南東を2号(元12号土坑)とする。

1号は縁取り内にあり、縁取りはこの貯蔵穴に沿ってめぐっている。直径75cm、深さは42cm。

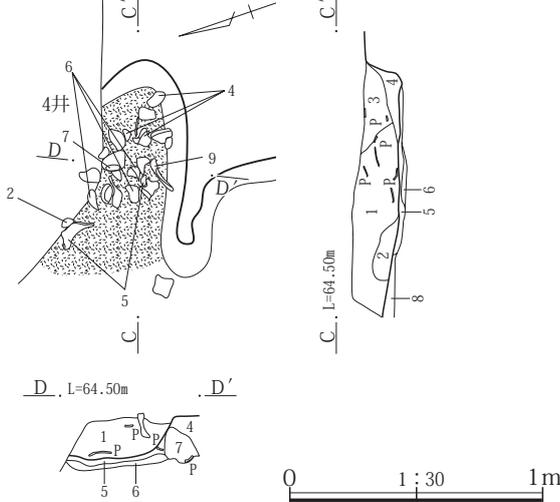
2号は旧カマドに伴うもので、改築にあたり、カマドを南に移動するにあたって貯蔵穴も南西に移動したと判



4区2号住居

- 1 暗褐色土 少量の白色軽石(As-A)、焼土粒子を含む。
- 2 黒褐色土 少量の白色軽石(As-C)を含む。
- 3 明褐色灰色土 ブロック状の明褐色灰色土。(カマドに使用の土)
- 4 黒褐色土 明黄褐色土(ローム)ブロック及び少量の焼土粒子を含む。(掘り方)
* 4層の上面が床。

カマド



4区2号住居カマド

- 1 暗褐色土 焼土粒子及び少量の白色軽石(As-C)を含む。
- 2 暗褐色土 明褐色灰色土ブロックを含む。カマド天井の崩れか。
- 3 暗褐色土 多量の焼土粒子、焼土小ブロックを含む。
- 4 焼土 暗褐色土ブロックを含む。煙道の崩落土か。
- 5 灰層 焼土粒子を含む。
- 6 にぶい黄橙色土 焼土小ブロック、暗褐色土小ブロックを含む。
- 7 褐灰色土 カマド袖。
- 8 暗褐色土 少量の焼土粒子を含む。

第127図 4区2号住居

断した。大きさは直径85cm、深さ43cm。

柱穴・周溝：確認されていない。

掘り方：北壁に沿って1m幅でやや深くなっており、中央部に大きな穴が2つ認められた。床下には上層に黄色ローム質土、下層に灰白色粘質土があり、前者は床材や縁取り材に、後者はカマド構築材として使われたと判断する。大穴が2つあるのは、カマドの数と符合する。

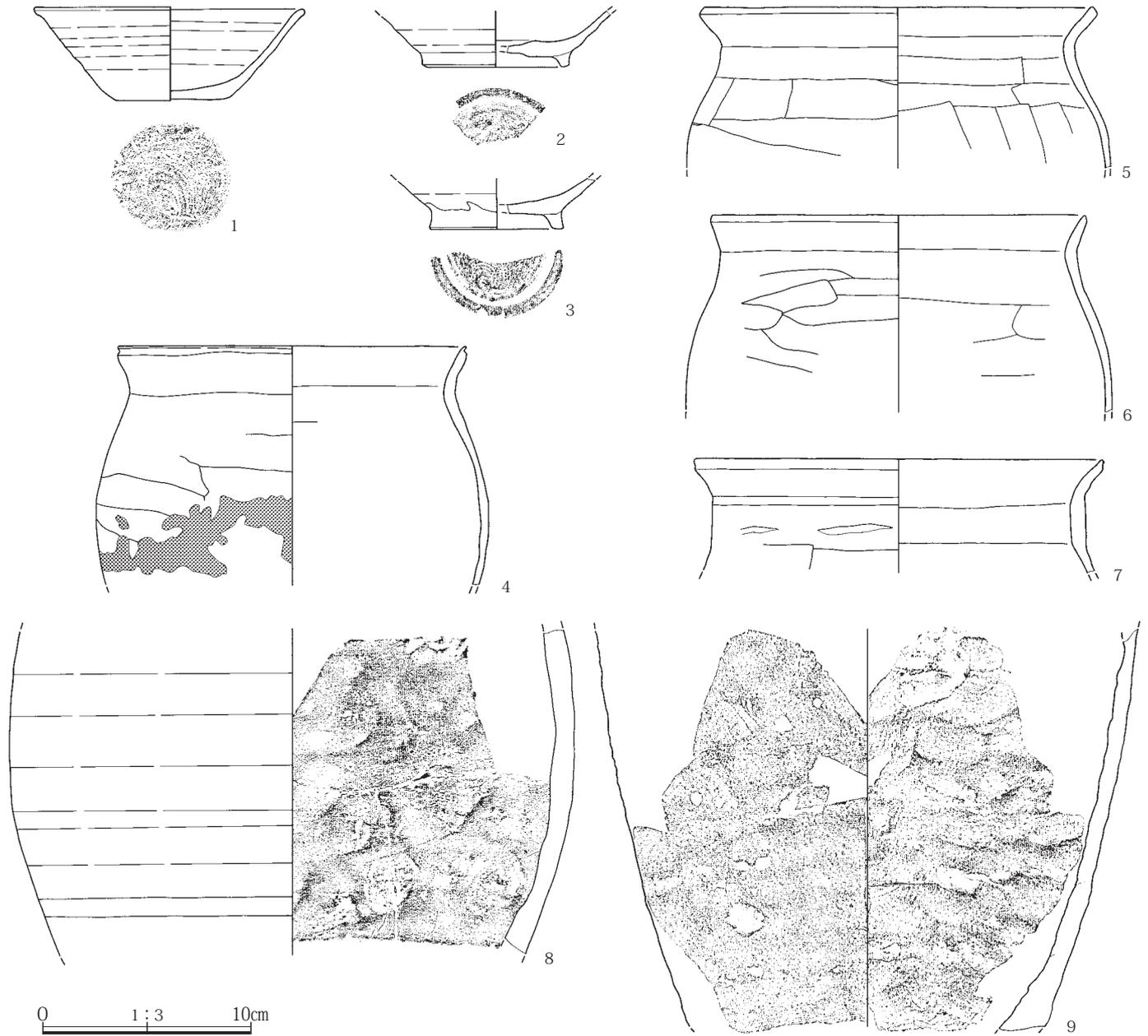
遺物出土状態：覆土中から少量の土器類が出土している。

須恵器杯(2)と土師器台付甕の台部(6)は床面直上から出土している。非掲載遺物は土師器336点、須恵器17点である。

所見：カマドや床面出土の遺物から、本住居は9世紀第4四半期～10世紀第1四半期に比定される。

4区2号住居(第127・128図 PL.41)

位置：X=187～191、Y=-822～825



第128図 4区2号住居出土遺物

形状・規模：微高地東側縁辺で確認した。中世の井戸や溝に切られているが、南北がやや長い方形の形状が見てとれる。規模は南北長3.90m、東西長3.47m、壁高は20cmを測る。カマドは東壁に付く。

主軸方位：N-116°-E

重複：北東側を中世の9号溝と4号井戸に、南西隅を5号井戸に切られる。

床面：ほぼ水平な床で、概ね硬化した面が認められる。

カマド：東辺の中央部よりやや南側にあり、左袖は失っているが、右袖が残る。燃烧面は手前の床面よりやや低い位置にあり、焼土と灰が残る。規模は、全長0.85m、

燃烧部奥行きは0.73mである。

貯蔵穴：カマドの南側にあり、東壁に接して確認された。長軸0.75m、短軸0.64m、床面からの深さは0.16mの楕円形を呈し、長軸を東西にとる。

柱穴・周溝：確認されていない。

掘り方：北西コーナーに浅い掘り込みが確認された。

遺物出土状態：覆土中の出土遺物は少ない。須恵器杯(2)、土師器甕(4~7)や須恵器甕(9)がカマド上面から潰れた状態で出土し、須恵器杯(1)と甕(8)は床面直上から出土した。非掲載遺物は、土師器33点、須恵器9点がある。

所見：カマドや床面出土の遺物から、本住居は10世紀前半に比定される。

4区3号住居(第129・130図 PL.42・71)

位置：X=190~193、Y=-828~831

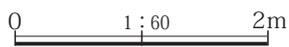
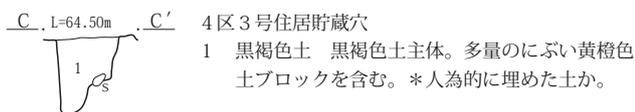
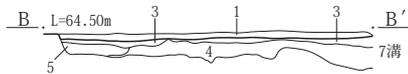
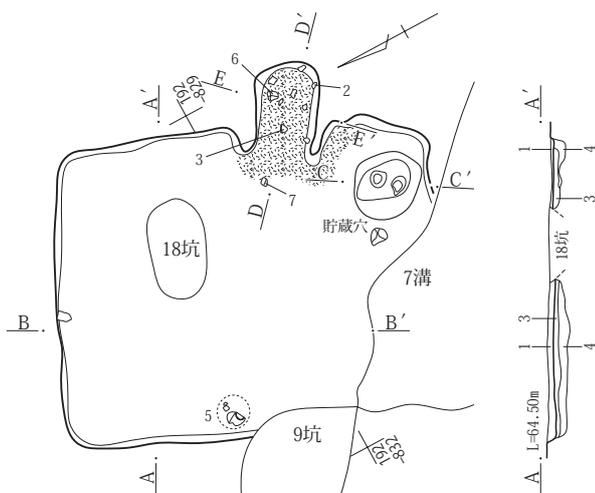
形状・規模：2号住居の西側4mに近接する。南北に長軸をもつ横長の長方形を呈し、カマドは東壁に付く。規模は南北長2.96m、東西長2.45m、壁高は7cmを測る。カマドの右手、南東隅に貯蔵穴がある。

主軸方位：N-123°-E

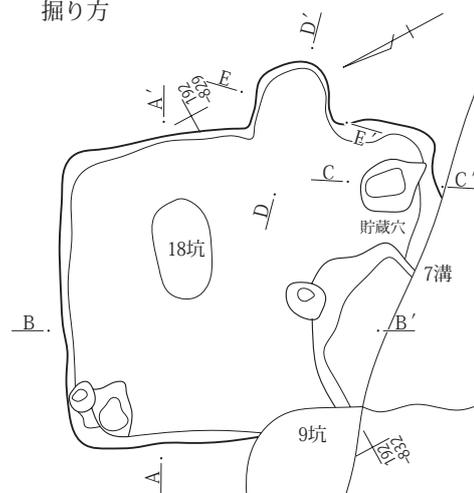
重複：南西隅を中世の9号土坑と近世の7号溝に切られ、北側中央部を中世の18号土坑に切られる。

床面：ほぼ平坦な床で、カマド前から中央部には使用によるやや硬化した面が認められた。

カマド：東辺の中央部よりやや南側にあり、両袖が付く。燃烧面は手前の床面から平坦に続いており、燃烧部と焚き口から右袖の外側まで焼土と灰面が残る。規模は、全長0.91m、幅0.65m、焚き口幅0.40m、燃烧部奥行きは

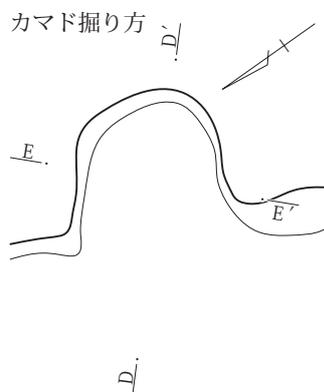
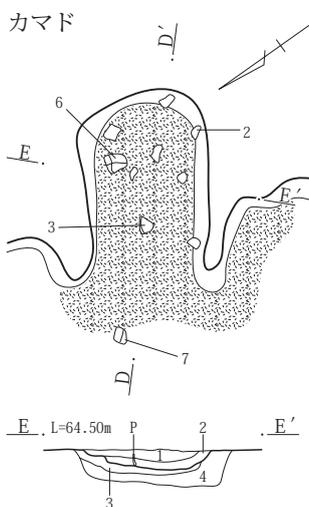


掘り方



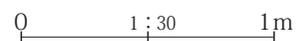
4区3号住居

- 1 暗褐色土 少量の白色軽石(As-C)及び焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 少量の白色軽石(As-C)及び淡黄色土小ブロックを含む。18号土坑覆土。
- 3 暗褐色土 少量の白色軽石(As-C)及び少量のにぶい橙色土(ローム)小ブロックを含む。この上面が床。
- 4 にぶい黄橙色土 少量の暗褐色土小ブロックを含む。
- 5 にぶい褐色土 明黄褐色土(ローム)ブロックを含む。

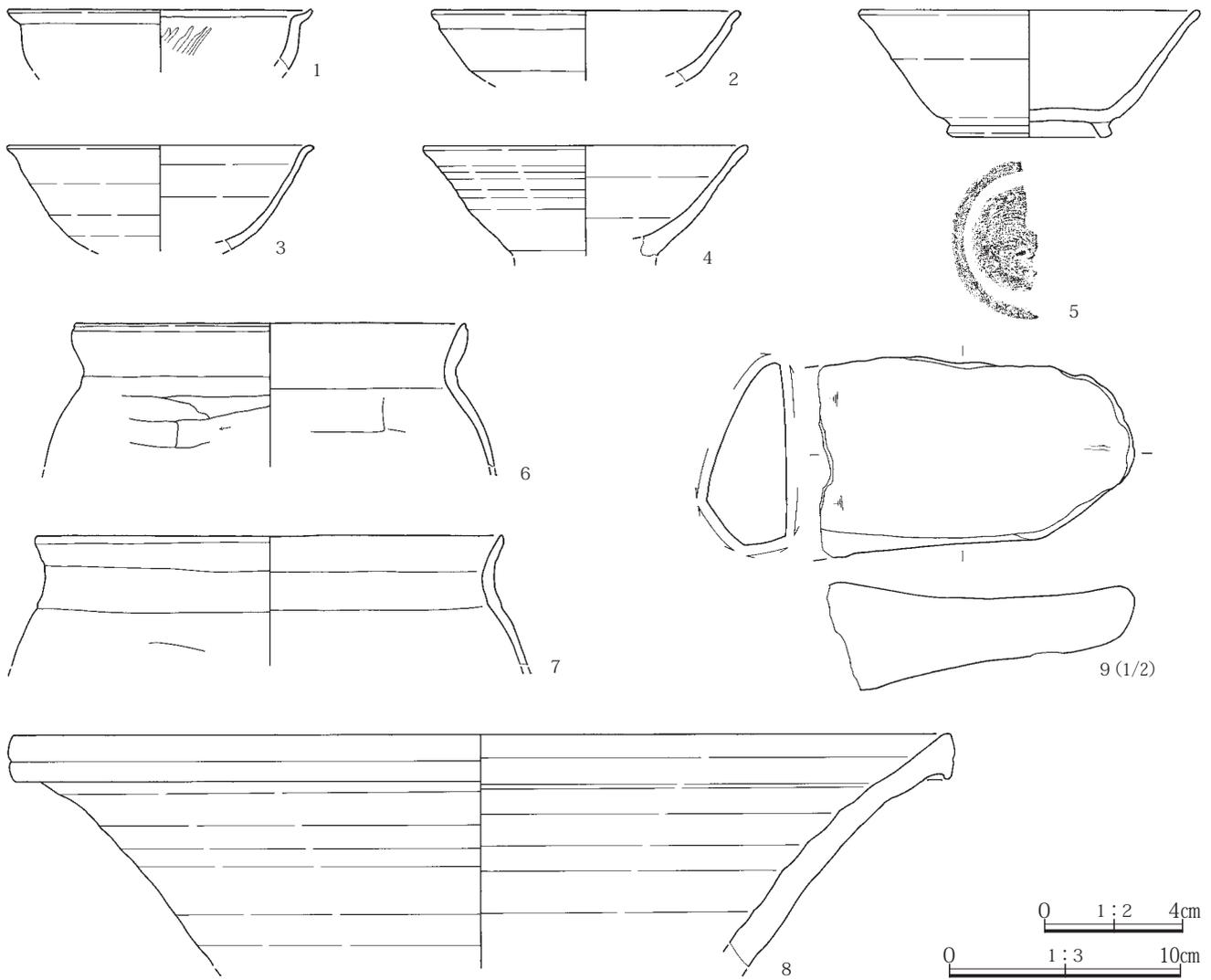


4区3号住居カマド

- 1 暗褐色土 焼土粒子、灰黄色土小ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 多量の焼土粒子、焼土小ブロックを含む。
- 3 灰・炭化物層 焼土小ブロック及び暗褐色土小ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 少量の焼土小ブロック及び明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
- 5 明褐色土 焼土小ブロックを含む。



第129図 4区3号住居



第130図 4区3号住居出土遺物

0.83mである。

貯蔵穴：カマドの南側、南東隅にある。長軸0.57m、短軸0.52mの楕円形で、床面からの深さは0.58mと深い。35cmのところに中段があり、そこに礫が置いてある。さらに北側に柱穴状の掘り込みがある。平安時代の貯蔵穴にしては形態が不自然であり、中世のピットの可能性も否めない。

柱穴・周溝：確認されていない。

掘り方：掘り方調査で、北西隅で2本、住居中央部で1本の柱穴が確認された。

遺物出土状態：出土遺物は少ないが、カマドの覆土中から須恵器杯(2・3)と土師器甕(6・7)が出土している。須恵器杯(5)は西壁際の床面からの出土である。非掲載遺物は土師器54点、須恵器1点である。

所見：カマドや床面出土の遺物から、本住居は9世紀第

4四半期に比定される。

5区1号住居(第131図 PL.45)

位置：X=176~180、Y=-742~747

形状・規模：微高地の中央で確認した。上面の削平がかなり及んでおり、床面の一部がかるうじて認められた。南側が一部調査区外に入り、形状は判然としない。

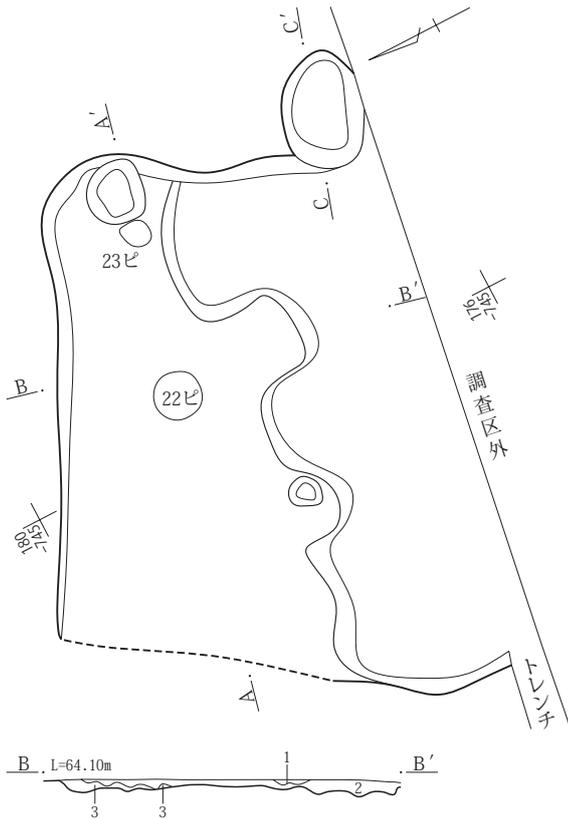
重複：住居範囲に22号・23号ピットが重複する。

床面：一部で床面と見られる土層が残っていたが、面を確認するには至っていない。

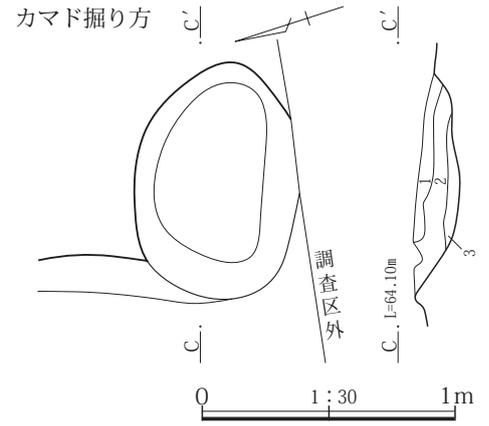
カマド：東壁の外側に楕円形の掘り込みがあり、その上面で焼土が一部認められ、これがカマドの掘り方であろうと判断された。

掘り方：全体に凹凸があり、明確な掘り方は認められない。

5区1号住居掘り方



カマド掘り方



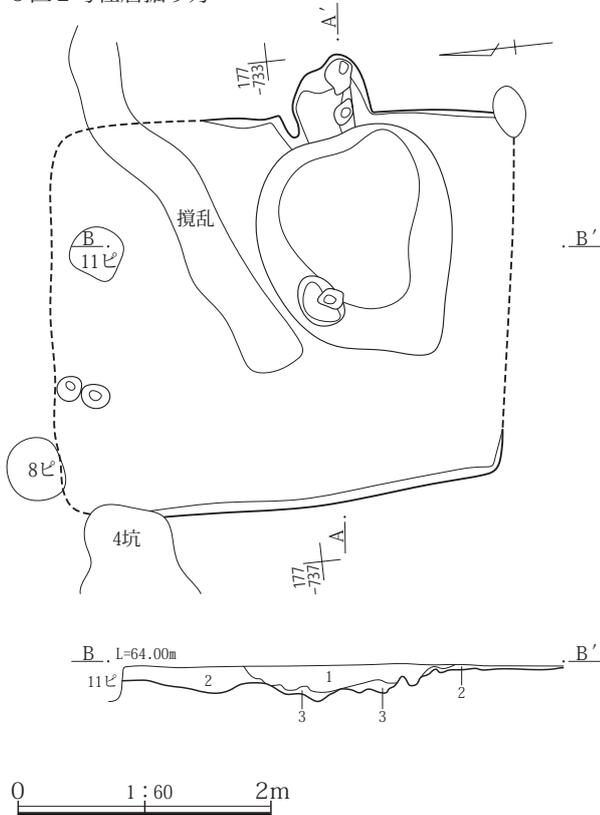
5区1号住居掘り方

- 1 黒色土 多量の黄褐色土ブロック及び少量の白色軽石(As-C?)を含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土(ローム)小ブロック粒子を含む。
- 3 黄褐色土(ローム) ローム主体。黒色土小ブロックを含む。

5区1号住居カマド

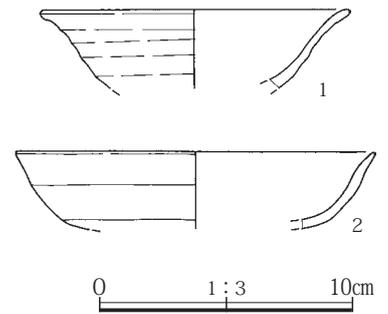
- 1 黒褐色土 焼土粒子・炭化物を含む。(カマド掘り方)
- 2 黒色土 少量の白色軽石(As-C?)、少量の黄褐色土小ブロックを含む。(これもカマド掘り方)
- 3 黒色土 やや多量の黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。

5区2号住居掘り方

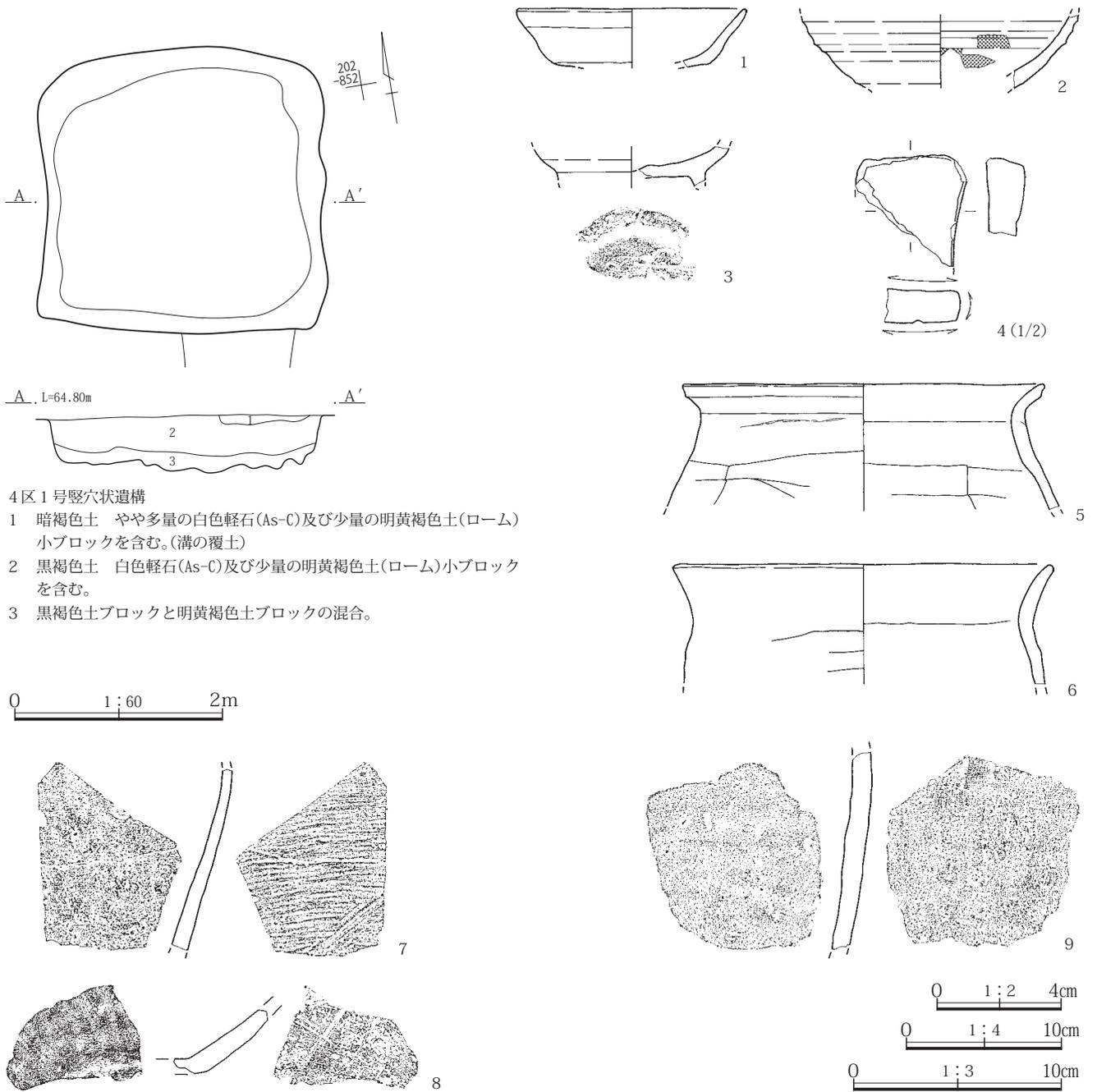


5区2号住居掘り方

- 1 黒色土 少量の白色軽石(As-C?)焼土粒子・にぶい橙色(ローム)小ブロックを含む。
- 2 褐色土 少量のにぶい橙色(ローム)小ブロックを含む。
- 3 浅黄橙色土 ローム主体。黒色土ブロックを含む。
- 4 黒色土 やや多量の焼土粒子・焼土ブロック及び炭化物を含む。(カマド掘り方)
- 5 褐色土 浅黄橙色土(ローム)ブロックを含む。



第131図 5区1・2号住居と出土遺物



4区1号竪穴状遺構

- 1 暗褐色土 やや多量の白色軽石(As-C)及び少量の明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。(溝の覆土)
- 2 黒褐色土 白色軽石(As-C)及び少量の明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
- 3 黒褐色土ブロックと明黄褐色土ブロックの混合。

第132図 4区1号竪穴状遺構と出土遺物

遺物出土状態：少量の土器類破片が出土した。

所見：出土遺物から、本住居は9世紀代に比定しておきたい。

5区2号住居(第131図 PL.45)

位置：X=175~178、Y=-733~736

形状・規模：1号住居の東側6.5mのところ確認された。状況は1号住居と同様で、概ねの住居範囲がかるうじて認められた。

主軸方位：N-91°-E

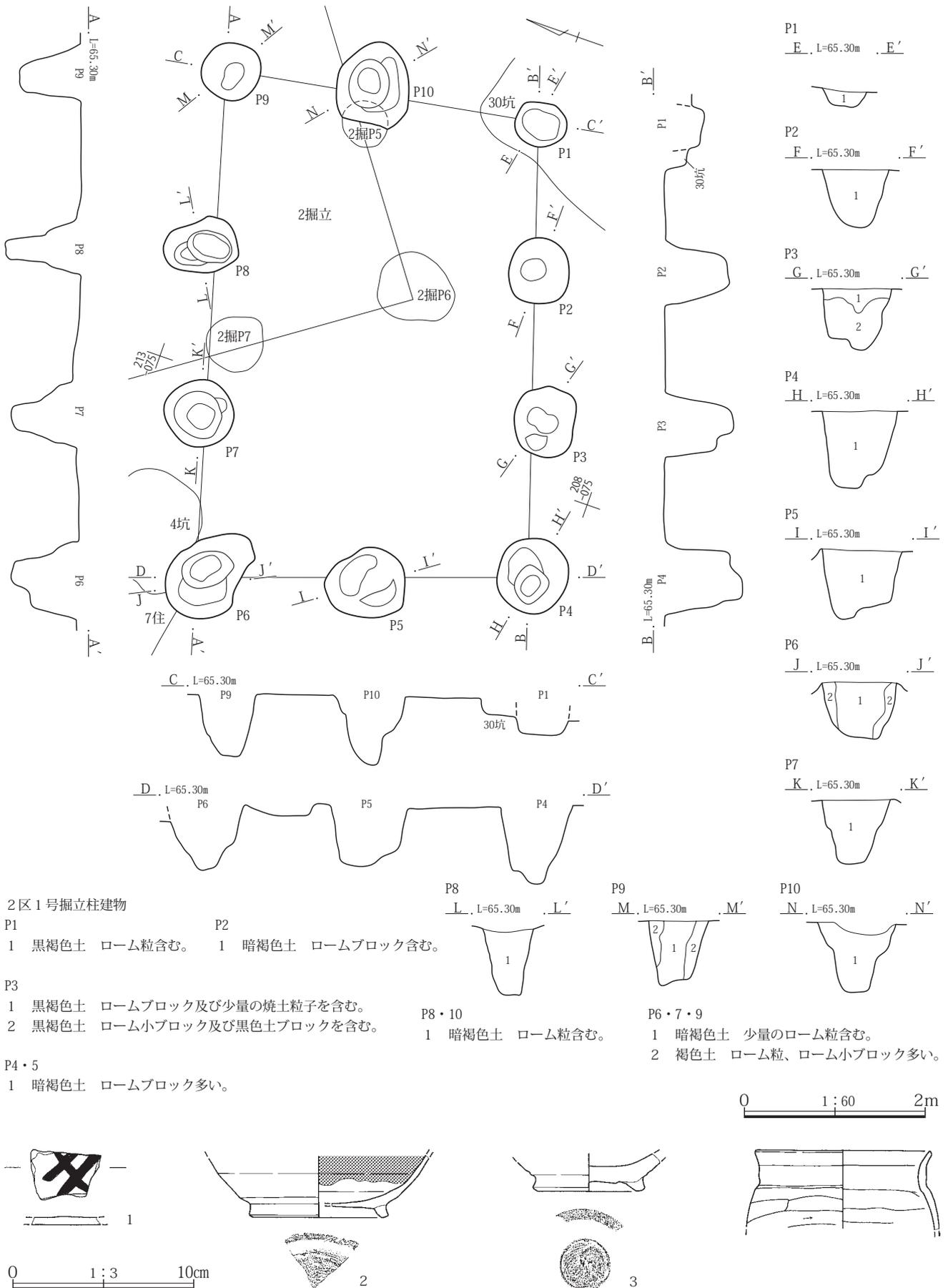
重複：いくつかの土坑・ピットが重複する。

床面：一部で床面と見られる土層が残っていたが、面を確認するには至っていない。

カマド：東壁の外側に楕円形の掘り込みがあり、その上面で焼土が一部認められた。左側の袖のように見えるのは、地山である。

掘り方：カマド前で円形状掘り込みが確認された。

遺物出土状態：本住居の調査に伴って少量の土器類が出



第133図 2区1号掘立柱建物と出土遺物

土している。そのうちの2点を表示した。

所見:出土遺物から、本住居は9世紀後半に比定される。

4区1号竪穴状遺構(第132図 PL.45)

位置: X=199~202、Y=-852~855

形状・規模: 4区微高地の中央で確認された。周囲に平安時代の遺構はなく、直近の1号住居とは12mほど離れている。形状は正方形に近いが、北壁だけは湾曲する形状となっている。規模は小さいが掘り込みが深く、カマドを持たないことから竪穴状遺構とされた。規模は長軸長2.80m、短軸長2.78m、壁高は最深部で40cmを測る。

主軸方位: N-80°-E

重複: 中央付近を中世の溝に切られる。

床面: 凹凸はあるがほぼ平坦な床が構築されている。

貯蔵穴・柱穴・周溝: 確認されていない。

掘り方: 全体に凹凸が激しく、その上に地山の混土を10cmほど入れ込んで床面を造っている。

遺物出土状態: 覆土中から土師器85点、須恵器5点、砥石等が出土している。

所見: 出土遺物から、本遺構は9世紀第4四半期に比定される。

第3節 掘立柱建物

平安時代の掘立柱建物は2区で3棟、4区で2棟、合計5棟が確認された。このうち、4区の2棟は土坑として調査されたものを整理段階で認定したもので、形状は一部の確認に留まる。中世の掘立柱建物に較べて大きな柱を使用したものが多く、上面をかなり削平されている前提にたてば、相応の建物があったと想定できる。4区の2棟は当初中世の建物に含めていたが、柱の規模が大きく、大半が覆土中に浅間B軽石を含まないことから古代と判断した。

以下、個別に報告する。

2区1号掘立柱建物(第133図 PL.52・53)

位置: X=207~213、Y=-070~077

重複: 中世の47号土坑、および古代の7号住居や2号掘立柱建物と重複する。

主軸方向: N-72°-E

規模・形態: 北東側の一部を2号掘立柱建物と重複し、南西に3号掘立柱建物が近接する。東西3間、南北2間の側柱建物で、大きさは東西5.62m、南北3.62mの長方形を呈する。柱の芯々ラインは南辺より北辺がかなり長く、東辺より西辺がやや長い。柱穴は円形と楕円形とがあり、中段をもつものも多い。深さは50cm以上のものが多く、相当の加重に耐えられる建物だったことが想定できる。

遺物: P7から墨書がある土師器杯(1)、P5から須恵器杯(2・3)と土師器甕(4)が、いずれも破片で出土している。

所見: 出土遺物から、9世紀後半に比定される。

2区2号掘立柱建物(第134図 PL.52・53)

位置: X=210~218、Y=-069~077

重複: 中世の19号溝、および古代の1号住居や1号掘立柱建物と重複する。

主軸方向: N-35°-W

規模・形態: 東西2間、南北3間の側柱建物で、大きさは東西3.96m、南北6.00mである。各辺の長さはほぼ一致しており、きれいな長方形を構成している。柱穴は円形と楕円形とがあり、中段をもつものもある。深さは50cm以上のものが多いが、南東以外の隅柱がかなり浅い。

遺物: なし。

所見: 時期を特定できる材料がないが、1号と近い時期の建物と判断する。

2区3号掘立柱建物(第135図 PL.52・53)

位置: X=202~207、Y=-069~081

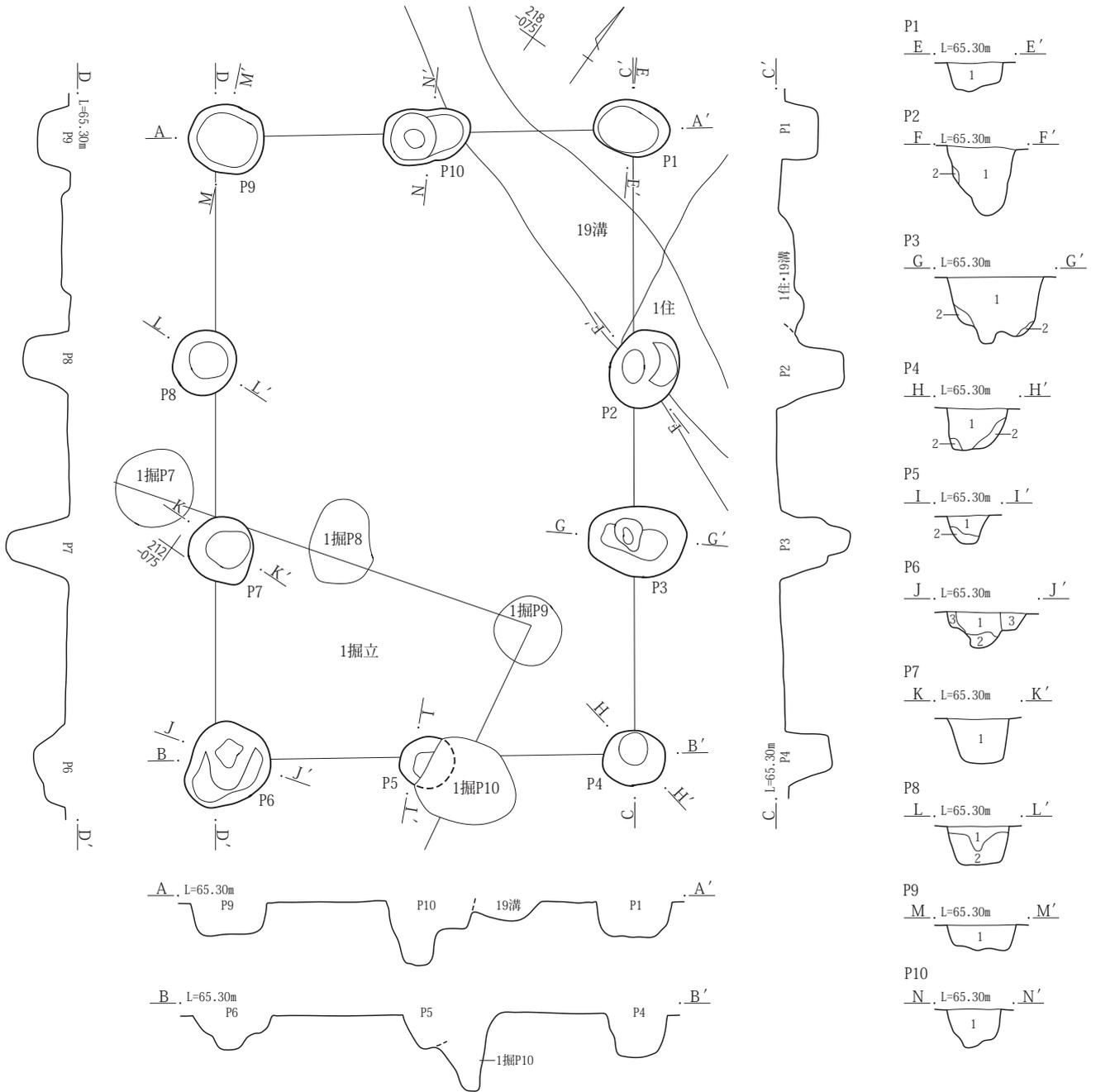
重複: なし。

主軸方向: N-31°-W

規模・形態: 東西2間、南北2間の側柱建物で、大きさは東西3.72m、南北4.00mである。各辺の長さや角度は微妙にずれており、やや歪んだ正方形を呈する。柱穴は円形が多いが楕円形もあり、中段をもつものが多い。深さは50cm以上のものが多く、東西の東柱だけが20cm前後とかなり浅い。

遺物: P6から土師器2点が出土している。

所見: 建物の形態は異なるが、柱穴の形態や柱間は1号・2号と共通しており、近い時期の建物と判断する。



2区2号掘立柱建物

P1・10

- 1 暗褐色土 ロームブロック含む。

P2

- 1 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 2 黄褐色土 ロームブロック。

P3

- 1 黒褐色土 少量のロームブロックを含む。
- 2 黄褐色土 ローム主体の黄褐色土小ブロック含む。

P4

- 1 黒褐色土 少量のローム小ブロック含む。
- 2 黒褐色土 やや多量のローム小ブロック含む。

P5

- 1 黒褐色土 極少量のローム粒含む。
- 2 黒褐色土 ローム小ブロック含む。

P6

- 1 黒褐色土 極少量のローム粒含む。
- 2 黒褐色土 ローム小ブロック含む。
- 3 褐色土

P7

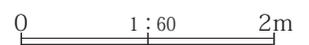
- 1 暗褐色土 ロームブロック多い。

P8

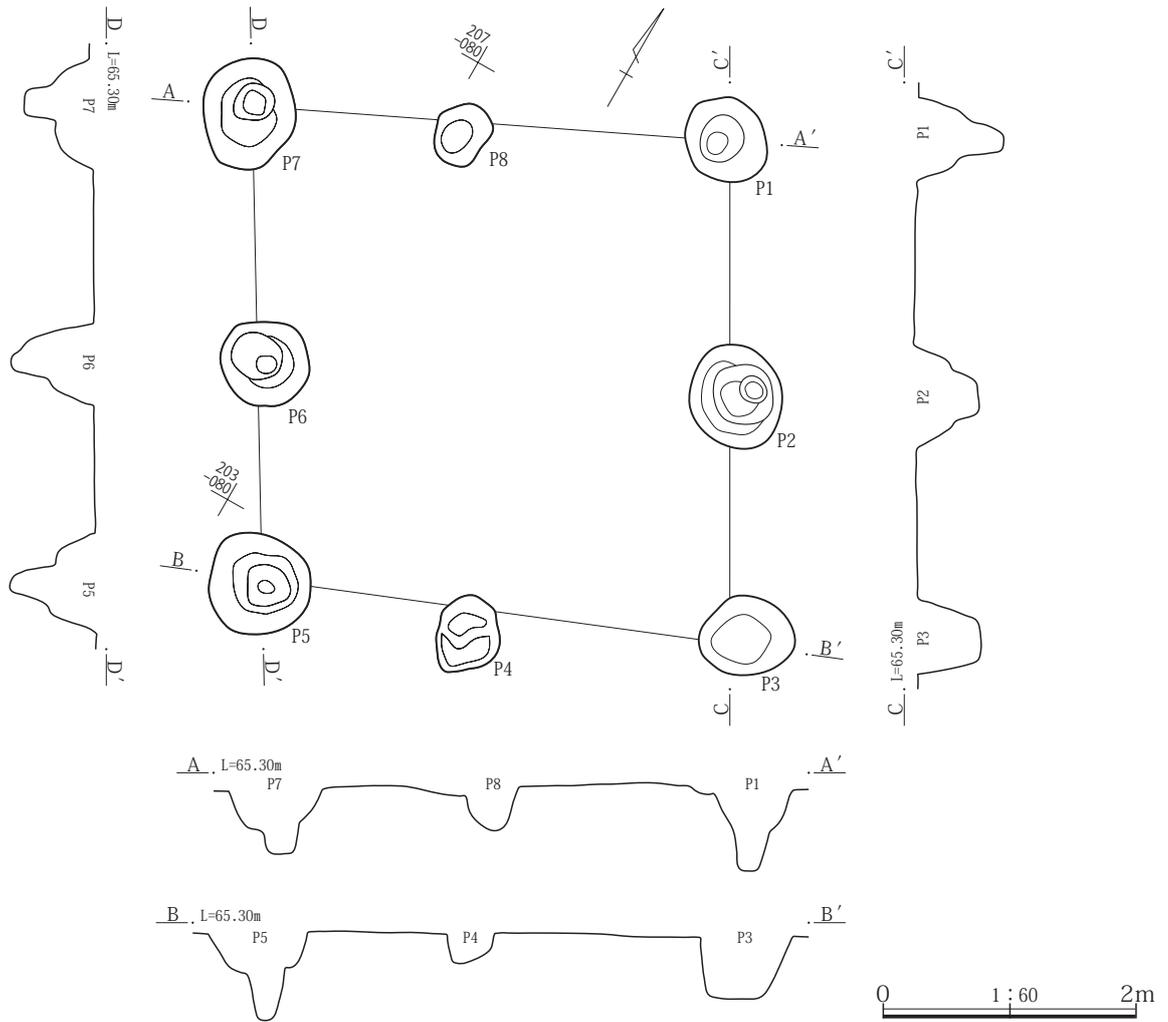
- 1 黒褐色土 少量のAs-B軽石？含む。
- 2 黒色土 少量のロームブロック含む。

P9

- 1 黒褐色土 少量のロームブロック含む。



第134図 2区2号掘立柱建物



第135図 2区3号掘立柱建物

4区2号掘立柱建物(第136図 PL.55)

位置：X=203~208、Y=-879~884

重複：中世の1号掘立柱建物と重複する。

主軸方向：N-41°-E

規模・形態：北東側に並ぶ4本の柱穴と対峙する1本、合計5本を確認した。北東側の柱穴は等間隔に直線上に並んでおり、P5はそれに直行してP2に対峙する。P1-P4間の距離は5.00m、P2-P5間は4.20mである。柱穴の掘り方はいずれも方形で、深さが50cmに及ぶものもある。

遺物：P1とP5から土師器破片が各1点ずつ出土している。

所見：確認できた柱穴は少ないが、2間×3間の建物だった可能性が高い。中世の場合は1間×3間になるであろう。

また、北東列のP1からP4は柱間が揃っていないが、重複するP1とP2が重複するP1AとP2Aを活用すると、北東列の柱間はすべて1.5m間隔に揃う。その場合、P1・P2・P5はこれに重複、あるいは建て替えた建物となる。

4区3号掘立柱建物(第136図 PL.55)

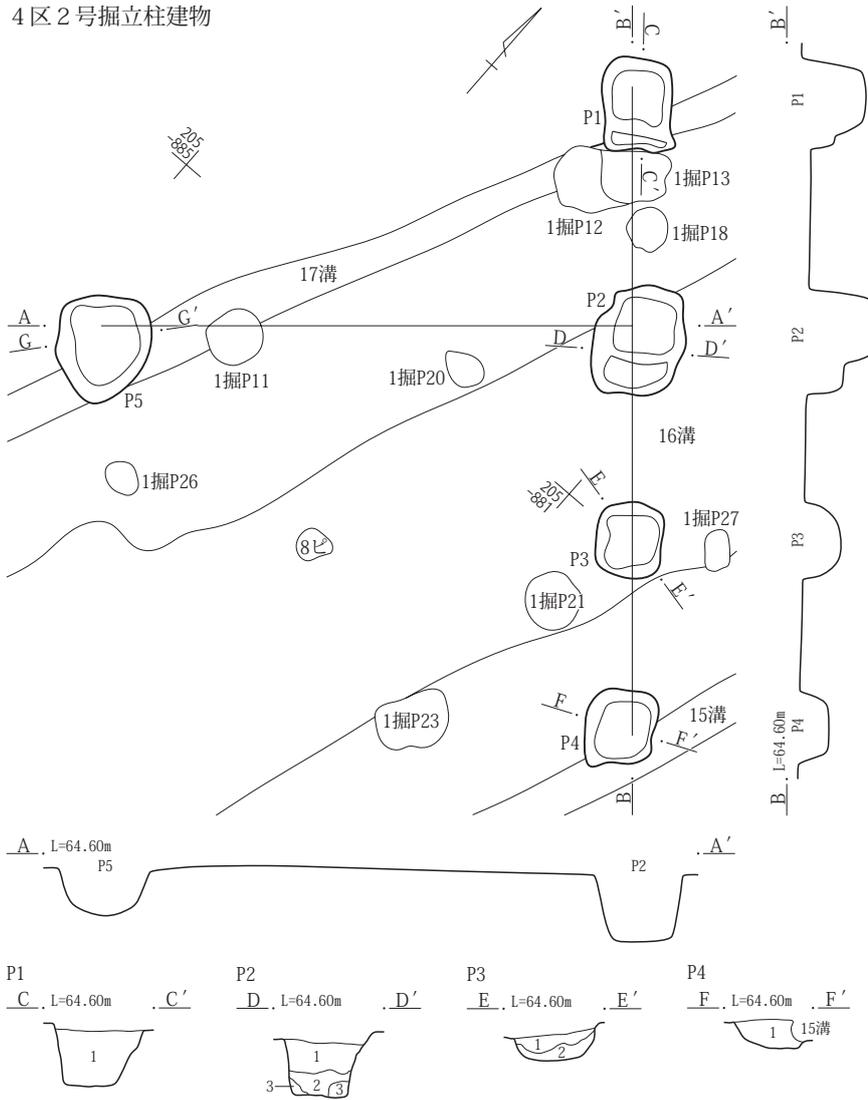
位置：X=193~197、Y=-875~878

重複：なし。

主軸方向：N-46°-E

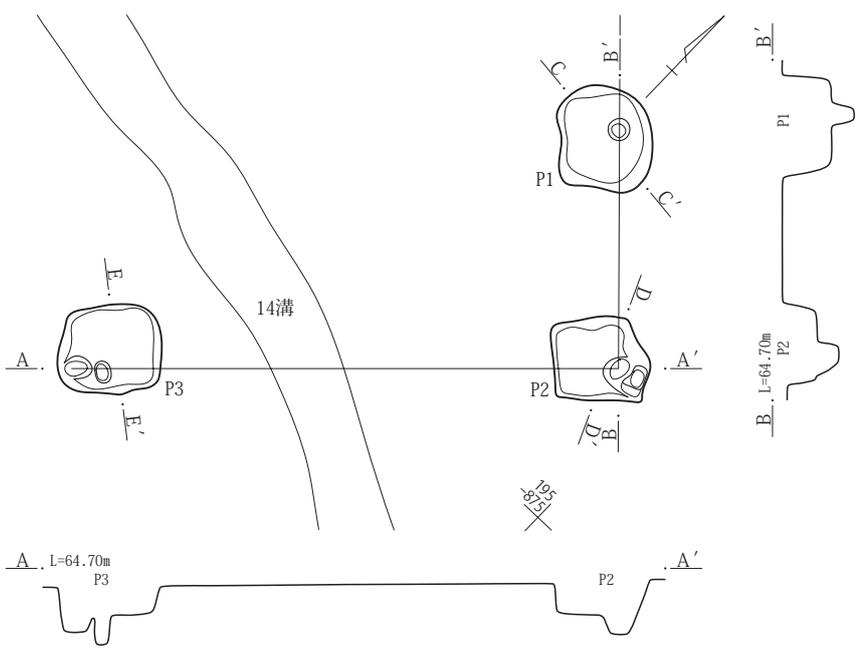
規模・形態：東北側に並ぶ2本と対峙する1本、合計3本柱穴を確認した。1号の南東6mにあり、方位や形態が共通する。長軸方向に並ぶと想定されるP1-P2間の距離が1.90m、対峙するP2-P3間が4.00mである。柱穴の掘り方はいずれも方形で、柱痕が特定できる。深

4区2号掘立柱建物



- 4区2号掘立柱建物
- P1
 - 1 黒褐色土 少量の白色軽石(As-C)及び少量の明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
 - P2
 - 1 暗褐色土 少量の白色軽石(As-C?)及び明黄褐色土(ローム)ブロックを含む。
 - 2 灰黄褐色土 明黄褐色土小ブロック及び暗褐色土ブロックを含む。
 - 3 灰白色土 シルト質。(地山)
 - P3
 - 1 黒褐色土 白色軽石(As-C)及び明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
 - 2 にぶい橙色土 ローム主体。黒褐色土小ブロックを含む。
 - P4
 - 1 黒褐色土 少量の白色軽石(As-C)及び明黄褐色土小ブロックを含む。
 - P5
 - 1 黒褐色土 細かい軽石(As-B)及び少量の明黄褐色土小ブロックを含む。
 - 2 黒褐色土ブロックと明黄褐色土ブロックの混合。

4区3号掘立柱建物



- P1
 - 1 黒褐色土 白色軽石(As-C?)及び浅黄橙色土(ローム)ブロックを含む。
- P2
 - 1 黒褐色土 少量の白色軽石(As-C?)及びやや多量の明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
- P3
 - 1 黒褐色土 少量の白色軽石(As-C?)及び明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。

第136図 4区2・3号掘立柱建物

さも50cmに及ぶものがあり、2号と同等かそれ以上の規模があったと想定される。

遺物：P3から土師器破片が3点出土している。

所見：2号と共通点が多く、同形態の建物を想定したい。また、同時に共存していた可能性も高いと判断する。

第4節 土坑・ピット

(第137～143図、PL.56～61)

平安時代と考えられる土坑は38基、ピットは18基である。土坑の内訳は、1区が5基、2区が15基、3区が7基、4区が5基、5区が6基で、ピットは5区が18基である。1区～3区では、ピットも含めて土坑の名称で確認している。また、第5表・第6表に計測表を付したので参照して頂きたい。

平安時代に所属すると判断した土坑は調査区の各区で確認されているが、微高地上の居住域で確認されたものは少ない。多くは水路や低地の水田耕土下で確認されたもので、2区と3区の土坑の多くはこれにあたる。

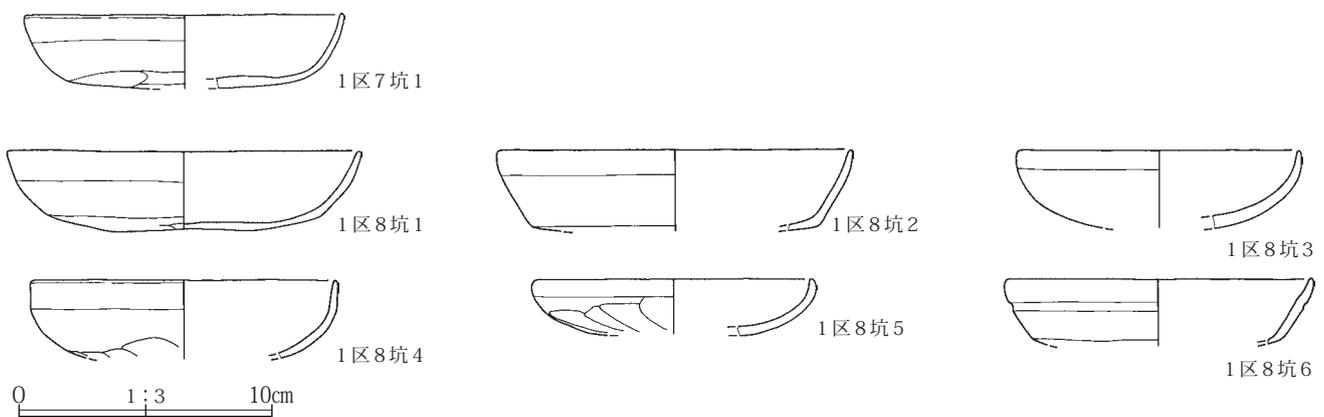
1区では5基が確認された。4号・5号は住居群の背後にあり、6号～8号は低地縁辺でAs-B下水田の耕土下から確認された。6号～8号土坑は低地の粘質土で埋没しており、微高地縁辺をめぐる中世の溝群に沿って分布している。水路は確認されていないが、6号・7号は水路の水口だった可能性があり、8号はその水場だったと想定される。なお、8号土坑は長軸が6m以上、深さは56cmあり、池のような状態だったと想定されるが、ここから土師器杯が数多く出土している(第137図)。水場祭祀が行われていたことを示すものであろう。

2区では、微高地で2基、低地で13基、合計15基の土坑が確認された。微高地の土坑は、3号住居の南西に21号、北東に22号があり、浅間B軽石を含まないことから、平安時代のものと判断した。21号は長方形を呈する土坑で、1区4号土坑と類似している。いずれも長軸が2m前後あり、墓の可能性もある。21号から須恵器碗(1)、22号から須恵器杯(1)が出土している。60号～72号土坑は、低地のAs-B下水田耕土下で確認された。ここには古代の水路が数多く分布しており、土坑は水路に伴うような配置で認められた。形態は円形と楕円形とがあり、浅いものも多いが、61号のように深いものもある。遺物の出土は無く、用途は不明だが、低地での生産活動に伴って行使されたものであろう。

3区では、低地で7基の土坑が確認された。これらは2区低地の土坑群と一連のものである。

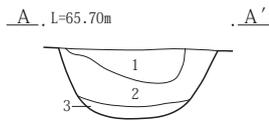
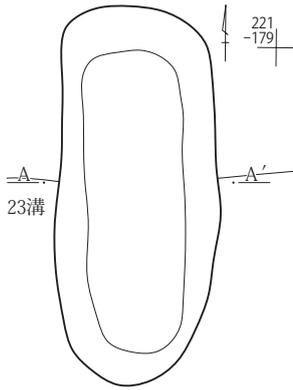
4区では、微高地で4基、低地で1基、合計5基の土坑が確認された。14号は微高地縁辺にあり中世の9号溝と重複する。平面形は楕円形で断面が袋状を呈しており、井戸の可能性が高い。22号は1号住居の北6mにあり、直径50cm前後、深さ24cmで、覆土中から土師器甕(1・2)が出土している。住居の貯蔵穴であろう。36号・46号は微高地中央にある。大きな円形土坑で、46号から須恵器甕(3)の破片が出土している。23号は低地のAs-B下水田大畦に伴うもので、水田の水口であろう。

5区では、微高地で5基、低地で1基、合計6基の土坑が確認された。微高地上の3号～7号のうち、5号は規格的な円形土坑で、貯蔵穴であろう。その他は不定形で底面も凹凸があり、住居掘り方の可能性が高い。低地の9号はAs-B下水田大畦のコーナー部分にあり、水口に



第137図 1区土坑出土遺物

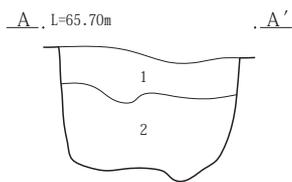
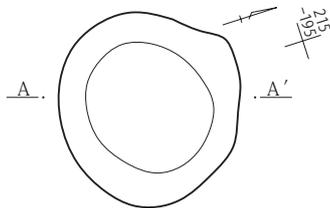
1区4号土坑



1区4号土坑

- 1 暗褐色土 やや多量のローム粒子、ローム小ブロックを含む。
- 2 黒褐色土 少量のローム小ブロックを含む。
- 3 褐色土 黒褐色土とローム小ブロックの混合、多量のローム粒子を含む。

1区5号土坑



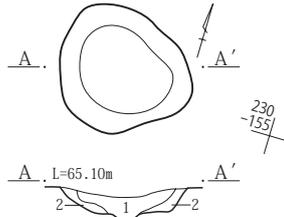
1区5号土坑

- 1 黒褐色土 やや多量のローム小ブロックを含む。
- 2 黒褐色土と褐灰色土(前橋泥流か)の混合。※底面は、前橋泥流。

1区8号土坑

- 1 黒褐色土 粘質土、As-C軽石含む。
- 2 暗褐色土 砂粒多く含む。鉄分含む。
- 3 褐色土 砂粒、ローム小ブロック含む。
- 4 褐色土 ロームブロック含む粘質土。

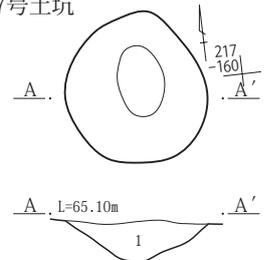
1区6号土坑



1区6号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子混じり。
- 2 にぶい赤褐色土 ローム粒子多く含む。

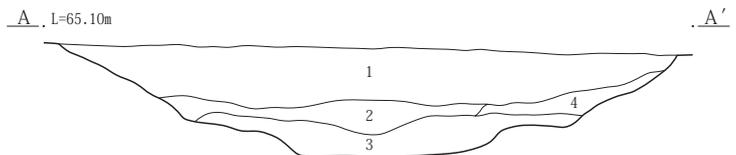
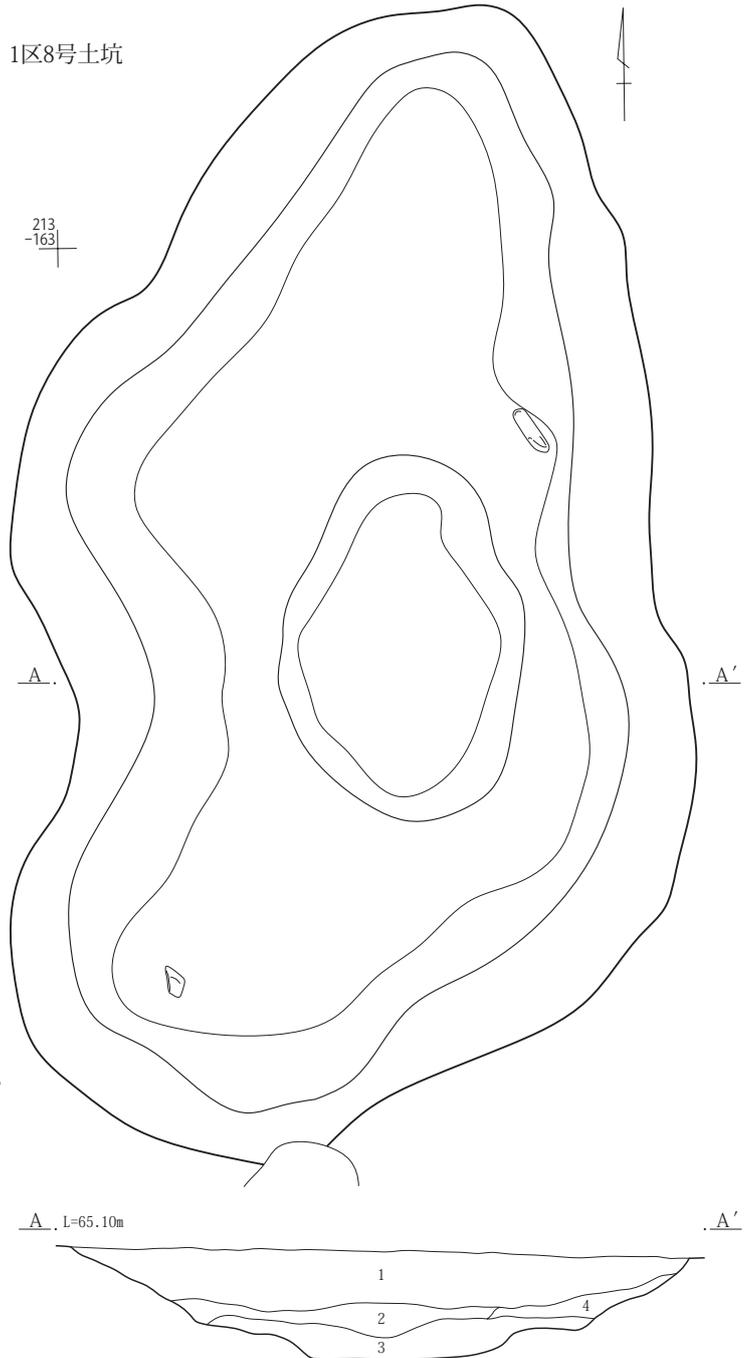
1区7号土坑



1区7号土坑

- 1 暗褐色土 粘質土。

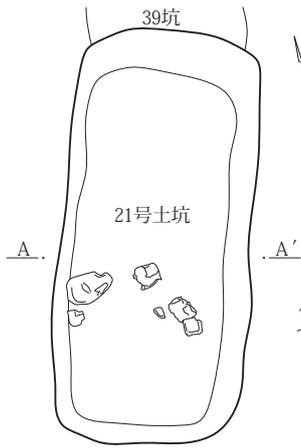
1区8号土坑



0 1:40 1m

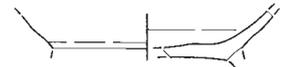
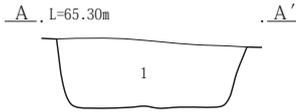
第138図 1区土坑

2区21号土坑



2区21号土坑

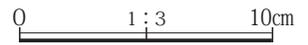
1 黒褐色土 やや多量のローム小ブロック及び少量の焼土粒子、こぶし大の礫を含む。人為的埋土。



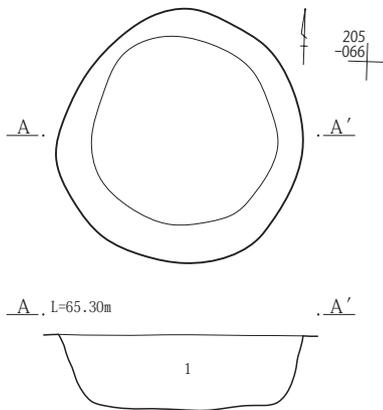
2区21坑 1



2区22坑 1



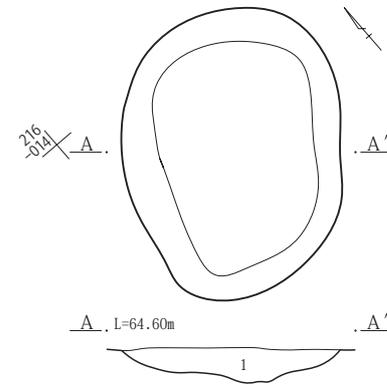
2区22号土坑



2区22号土坑

1 黒褐色土 やや多量のローム小ブロック含む。

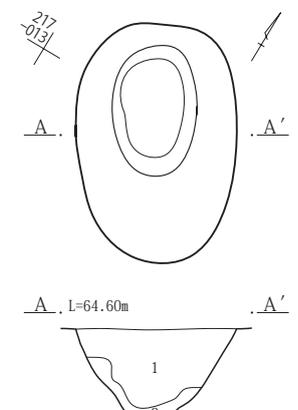
2区60号土坑



2区60号土坑

1 褐灰色土 粘性強い。黒褐色土小ブロック、暗褐色土小ブロック含む。鉄分も沈着在り。

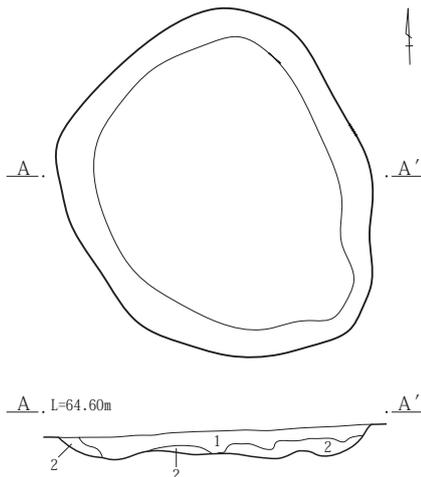
2区61号土坑



2区61号土坑

1 褐灰色土 粘性強い。明褐色土小ブロック含む。鉄分も沈着在り。
2 明褐色灰色土 褐灰色土小ブロック含む。

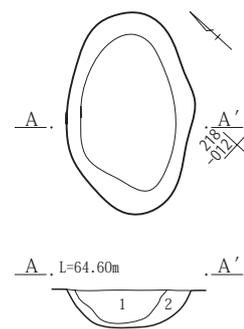
2区64号土坑



2区64号土坑

1 暗褐色土 粘性強い。明褐色灰色土小ブロック含む。少し鉄分の沈着在り。
2 暗褐色土 黒褐色土小ブロック含む。

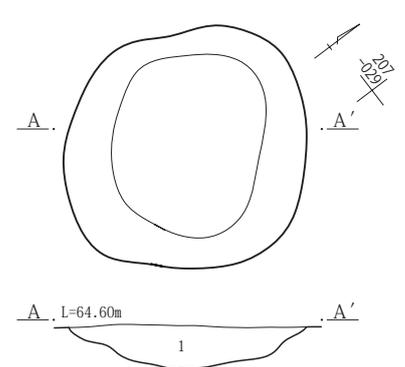
2区62号土坑



2区62号土坑

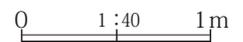
1 褐灰色土 粘性強い。少量の明暗褐色土小ブロック含む。鉄分の沈着在り。
2 褐灰色土小ブロックと明褐色灰色土小ブロック混合。

2区63号土坑

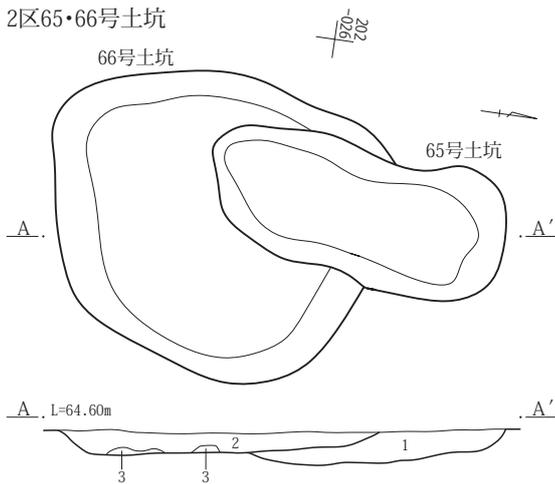


2区63号土坑

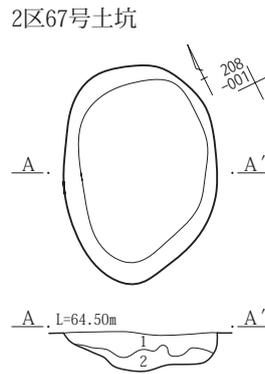
1 褐灰色土 粘性強い。暗褐色土小ブロック、明褐色灰色土小ブロック含む。鉄分の沈着在り。



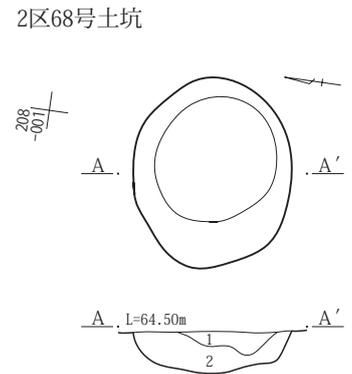
第139図 2区土坑と出土遺物



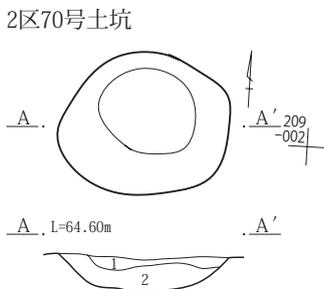
- 2区65・66号土坑
- 1 暗褐色土 粘性強い。少量の明褐色灰色土小ブロック含む。
 - 2 褐色土 粘性強い。明褐色灰色土小ブロック含む。
 - 3 明褐色灰色土 褐色土含む。



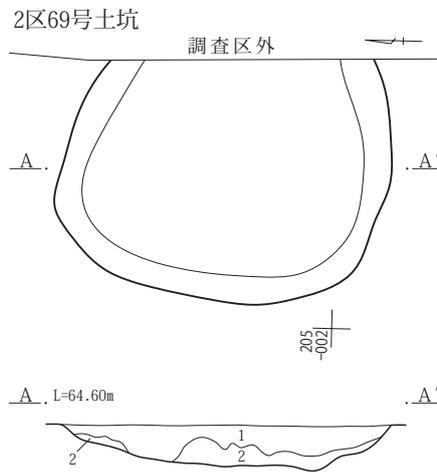
- 2区67号土坑
- 1 褐色土 粘性強い。鉄分の沈着在り。
 - 2 明褐色灰色土 黒褐色土小ブロック含む。



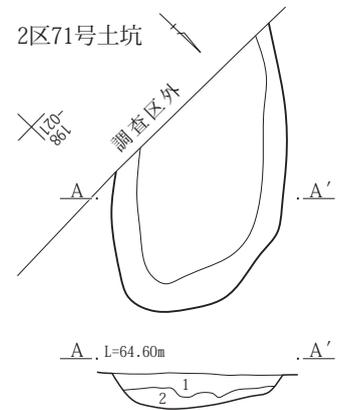
- 2区68号土坑
- 1 褐色土 白色軽石(As-C軽石?) 黒褐色土小ブロック含む。粘性在り。鉄分の沈着在り。
 - 2 褐色土 粘性強い。明褐色灰色土小ブロック含む。



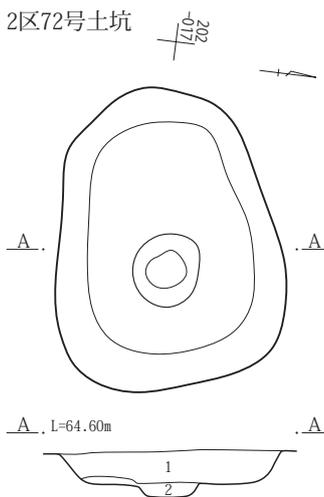
- 2区70号土坑
- 1 褐色土 粘性在り。黒褐色土小ブロック含む。鉄分の沈着在り。
 - 2 褐色土 粘性在り。黒褐色土小ブロック、明褐色灰色土小ブロック含む。鉄分の沈着在り。



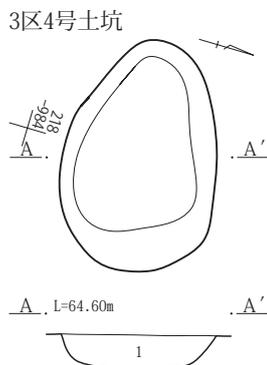
- 2区69号土坑
- 1 褐色土 粘性強い。少量の黒褐色土小ブロック、白色軽石(As-C軽石?)含む。鉄分の沈着在り。
 - 2 明褐色灰色土 黒褐色土小ブロック含む。



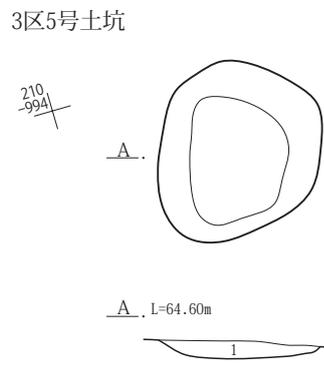
- 2区71号土坑
- 1 褐色土 粘性在り、少量の明褐色灰色土小ブロック含む。
 - 2 褐色土 粘性在り、やや多量の明褐色灰色土小ブロックを含む。鉄分の沈着在り。



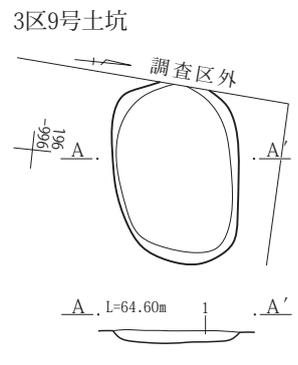
- 2区72号土坑
- 1 褐色土 粘性強い。鉄分の沈着多い。
 - 2 明褐色灰色土 粘性在り。やや多量の褐色土小ブロックを含む。鉄分の沈着在り。



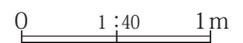
- 3区4号土坑
- 1 明赤褐色土 シルト質の粘質土。



- 3区5号土坑
- 1 暗赤褐色土 茶褐色土ブロック含む粘質土。

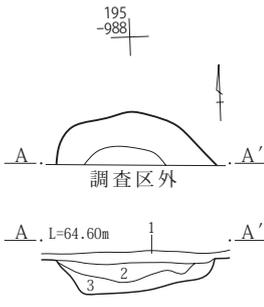


- 3区9号土坑
- 1 黒褐色粘質土 にぶい褐色土ブロックを含む。

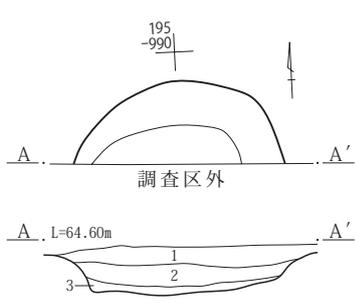


第140図 2・3区土坑

3区7号土坑



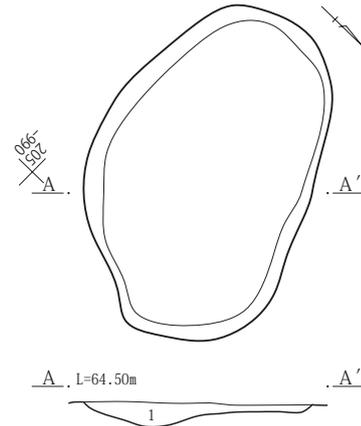
3区8号土坑



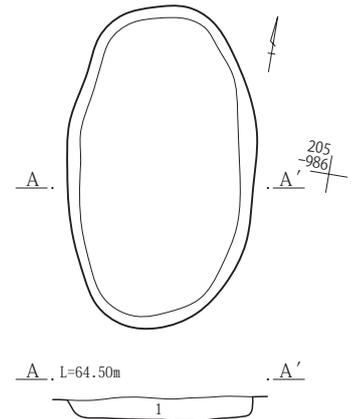
3区7・8号土坑

- 1 にぶい橙色土 粘質土。
- 2 にぶい褐色土 黒褐色土ブロック含む粘質土。
- 3 褐色土 黒褐色土ブロック含む粘質土。

3区6号土坑



3区10号土坑



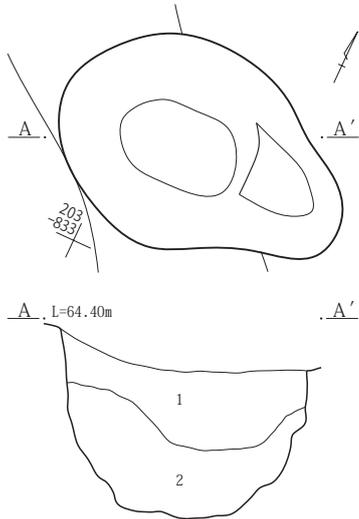
3区6号土坑

- 1 暗赤褐色土 茶褐色土ブロック含む粘質土。

3区10号土坑

- 1 灰白色粘質土 暗褐色粘質土ブロックを含む。灰白色粘質土には鉄分沈着あり。

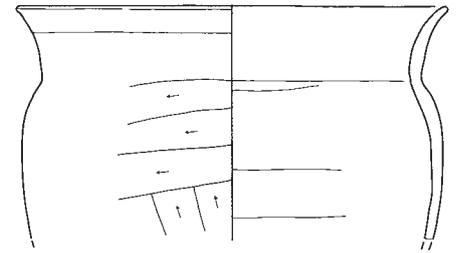
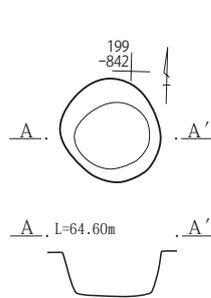
4区14号土坑



4区14号土坑

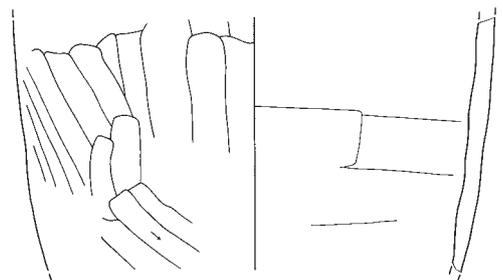
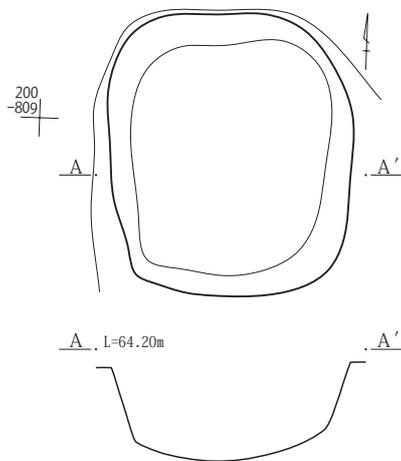
- 1 黒褐色土 白色軽石(As-C)及び灰黄褐色土ブロックを含む。
- 2 黒褐色土 軽石はほとんど含まない。挟雑物はほとんどない。

4区22号土坑

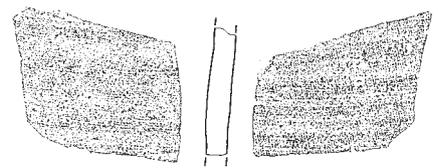


4区22坑1

4区23号土坑



4区22坑2

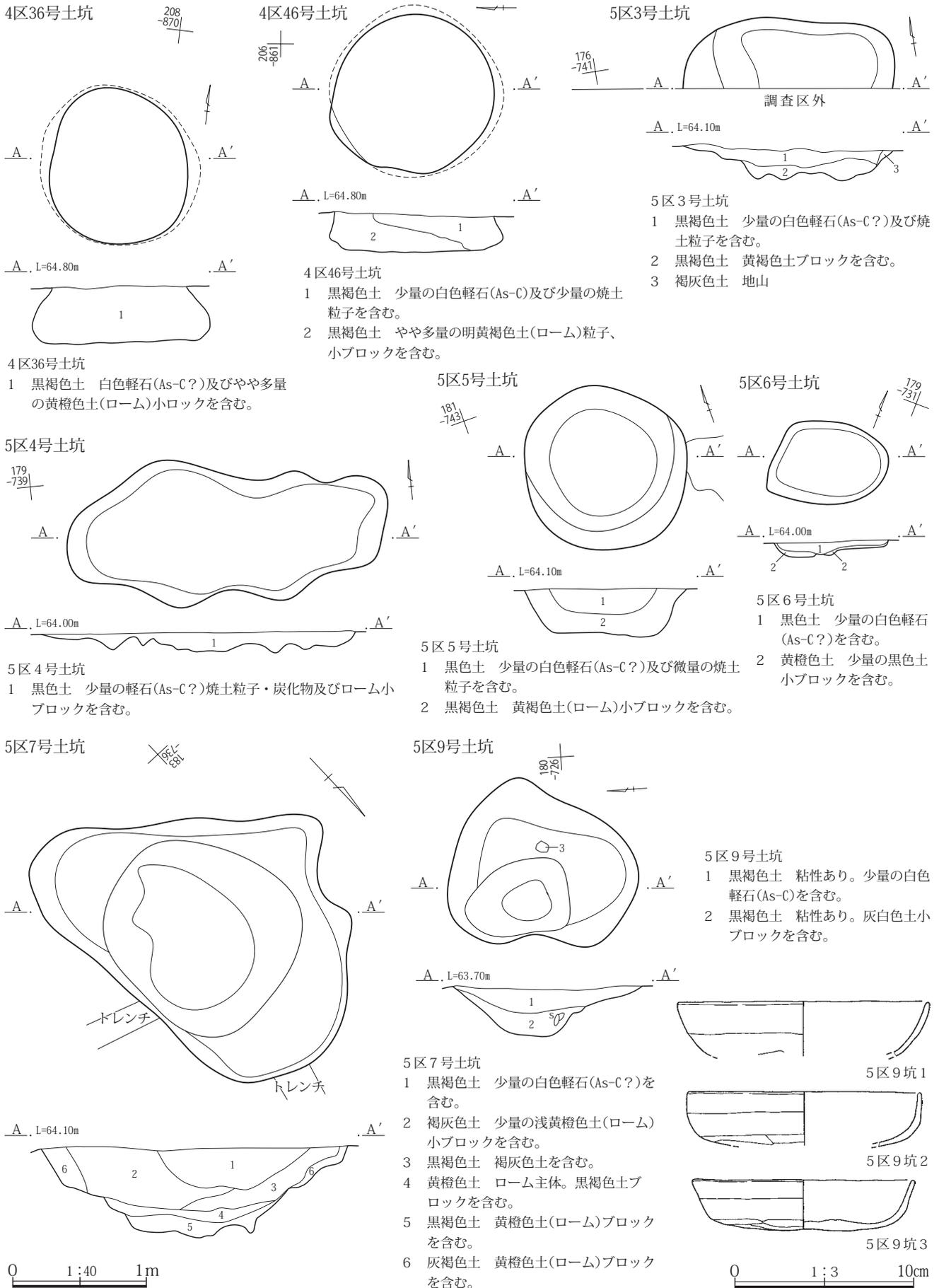


4区46坑1

0 1:40 1m

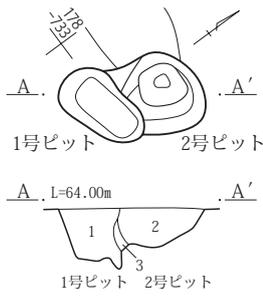
0 1:3 10cm

第141図 3・4区土坑と4区土坑出土遺物



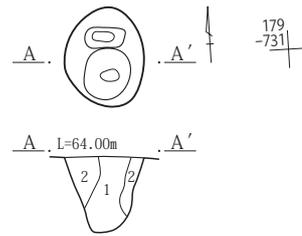
第142図 4・5区土坑と5区土坑出土遺物

5区1・2号ピット



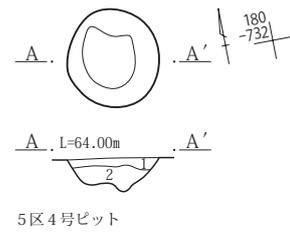
- 5区1号・2号ピット
- 1 黒色土 灰黄褐色土小ブロック及び少量の灰白色土小ブロックを含む(ピット1)
 - 2 黒褐色土 ローム小ブロックを含む(ピット2)
 - 3 淡黄褐色土(ローム) 地山。

5区3号ピット



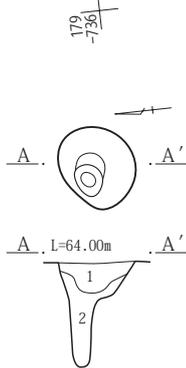
- 5区3号ピット
- 1 黒褐色土 少量の軽石(As-C?)及びローム小ブロックを含む。
 - 2 暗褐色土 やや多量のローム粒子・ローム小ブロックを含む。

5区4号ピット



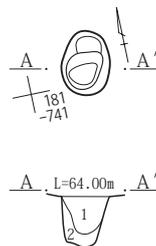
- 5区4号ピット
- 1 黒色土 少量の白色軽石(As-C?)少量の黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
 - 2 黄褐色土(ローム)主体 黒色土小ブロックを含む。

5区9号ピット



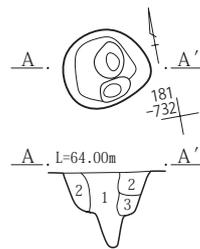
- 5区9号ピット
- 1 黒褐色土 黄褐色土(ローム)ブロック及び少量の白色軽石(As-C?)を含む。
 - 2 黄褐色土(ローム) 地山。

5区12号ピット



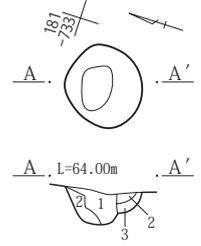
- 5区12号ピット
- 1 黒色土 少量の(As-C?)を含む。
 - 2 黒色土 黄褐色土(ローム)ブロックを含む。

5区14号ピット



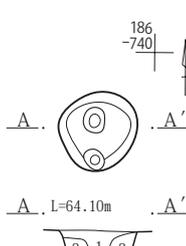
- 5区14号ピット
- 1 黒褐色土 少量の白色軽石(As-C?)黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
 - 2 暗褐色土 多量の黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
 - 3 黄褐色土(ローム) 地山。

5区15号ピット



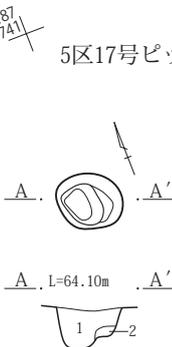
- 5区15号ピット
- 1 黒色土 少量の白色軽石(As-C?)及び黄褐色土(ローム)ブロックを含む。
 - 2 黄褐色土(ローム)ブロック主体 少量の黒色土小ブロックを含む。
 - 3 黄褐色土(ローム) 地山。

5区16号ピット



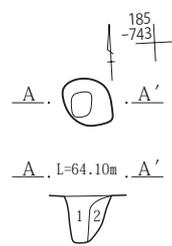
- 5区16号ピット
- 1 黒色土 少量の白色軽石(As-C?)及び黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
 - 2 黄褐色土(ローム)ブロックを主体。少量の黒色土小ブロックを含む。

5区17号ピット



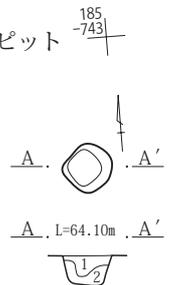
- 5区17号ピット
- 1 黒色土 多量の黄褐色土(ローム)小ブロック及び微量の白色軽石(As-C?)を含む。
 - 2 黄褐色土(ローム) 少量の黒色土小ブロックを含む。

5区18号ピット



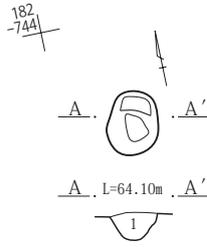
- 5区18号ピット
- 1 黒色土 少量の白色軽石(As-C?)及び黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
 - 2 黄褐色土(ローム) 少量の黒褐色土小ブロックを含む。

5区19号ピット



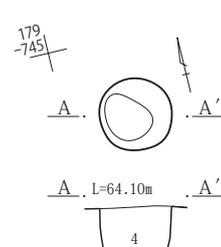
- 5区19号ピット
- 1 黒色土 少量の白色軽石(As-C?)を含む。
 - 2 黄褐色土(ローム) 黒色土小ブロックを含む。

5区21号ピット



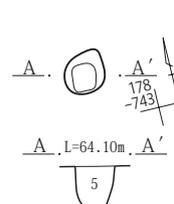
- 5区21号ピット
- 1 黒色土 少量の白色軽石(As-C?)及び黄褐色土小ブロックを含む。

5区22号ピット



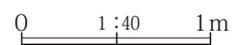
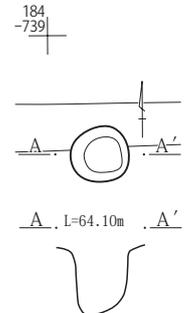
- 5区22号ピット
- 1 黒色土 少量の白色軽石(As-C?)・少量の黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。

5区23号ピット

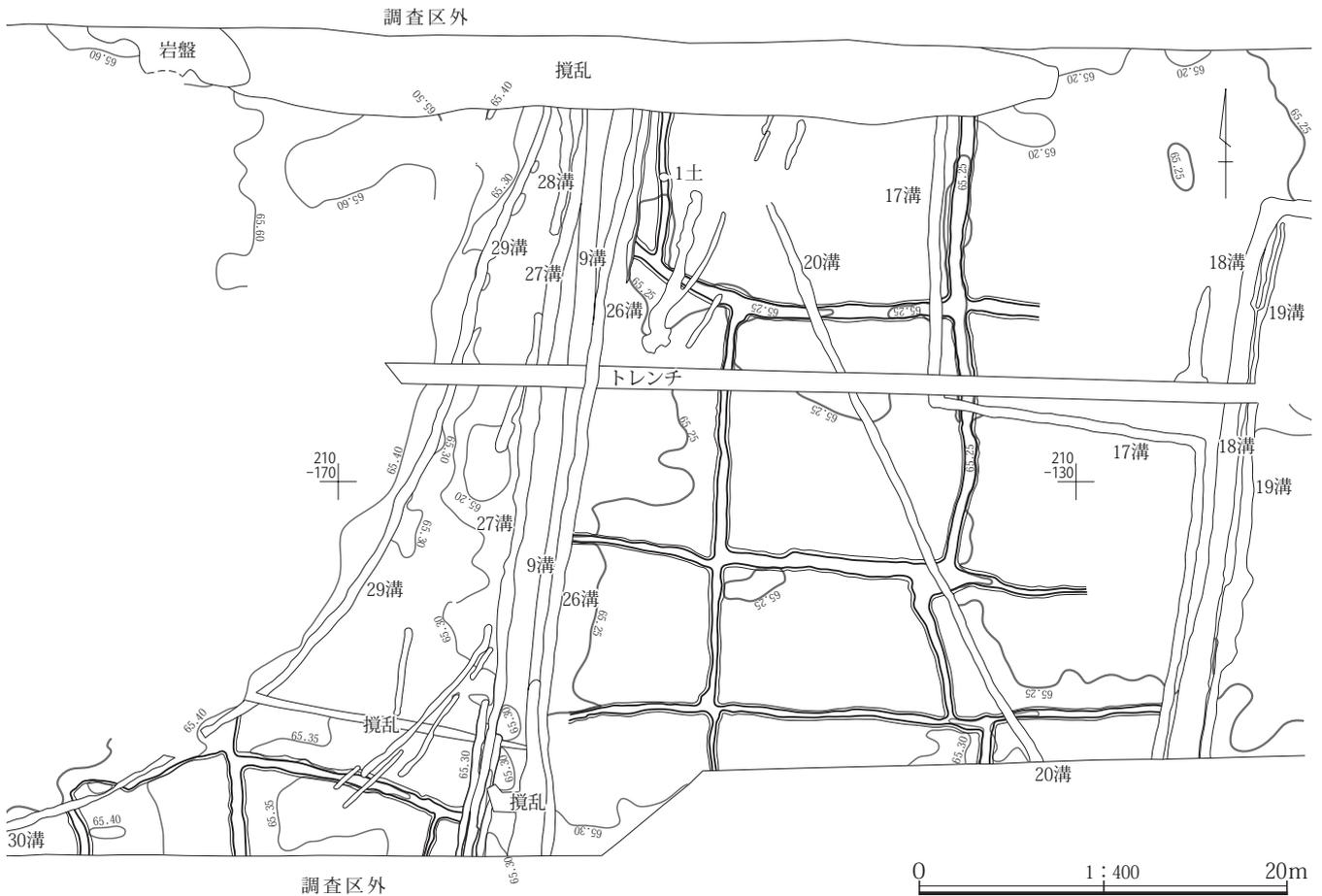


- 5区23号ピット
- 1 黒色土 少量の白色軽石(As-C?)及びローム小ブロックを含む。

5区24号ピット



第143図 5区ピット



第144図 1区As-B下水田

該当する。この土坑の覆土中から9世紀代の土師器杯(1～3)が多く出土しており、その頃にもここに水田があったこと、そしてここでも祭祀行為が行われていたことを示している。

また、ピット18基はいずれも微高地に分布しており、その多くは柱穴やその他の住居に伴う施設だったと思われる。5区で確認された住居は2軒あったが、いずれも床面まで削平が及んでおり、さらに多くの住居が存在した可能性が高い。

第5節 水田

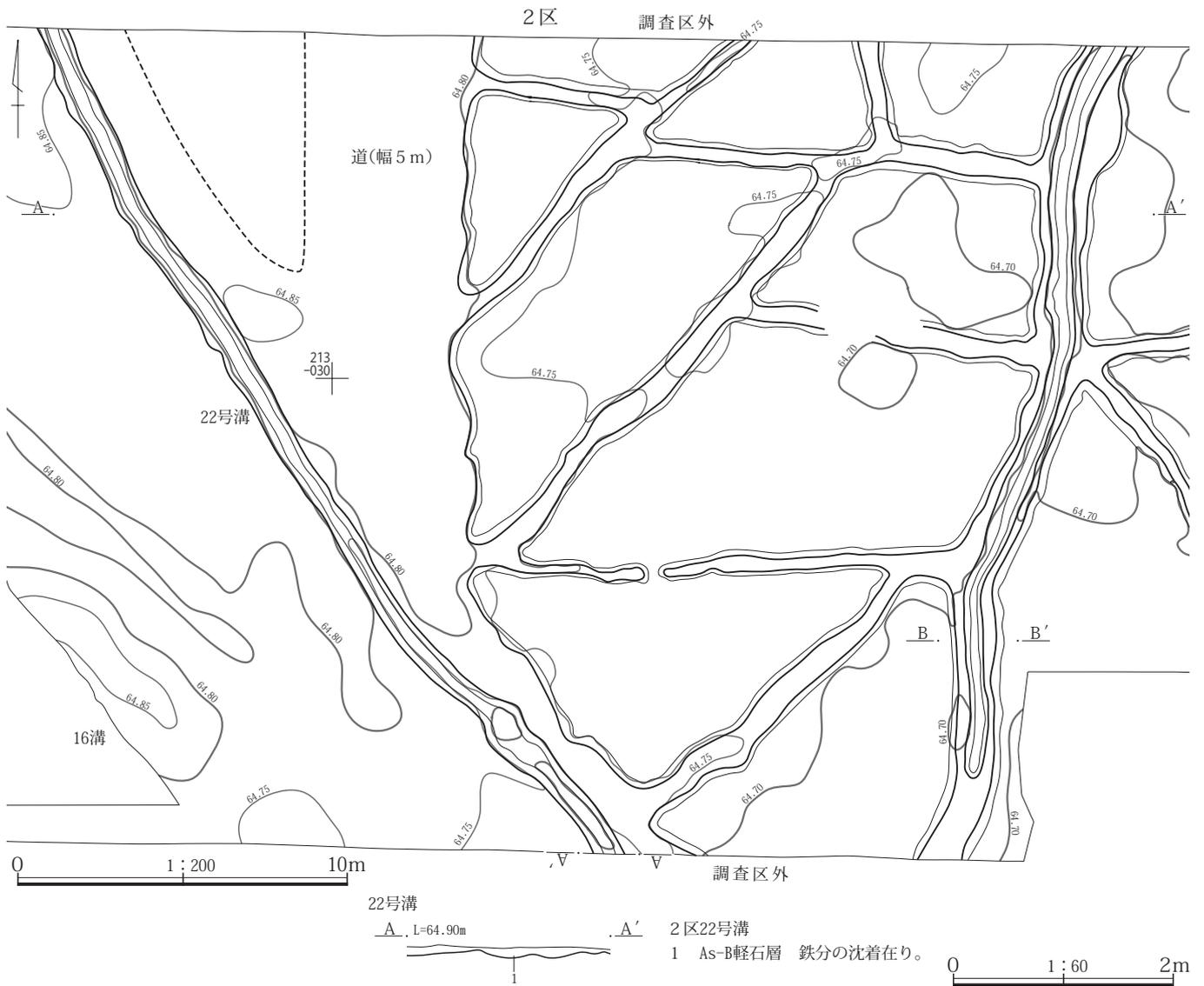
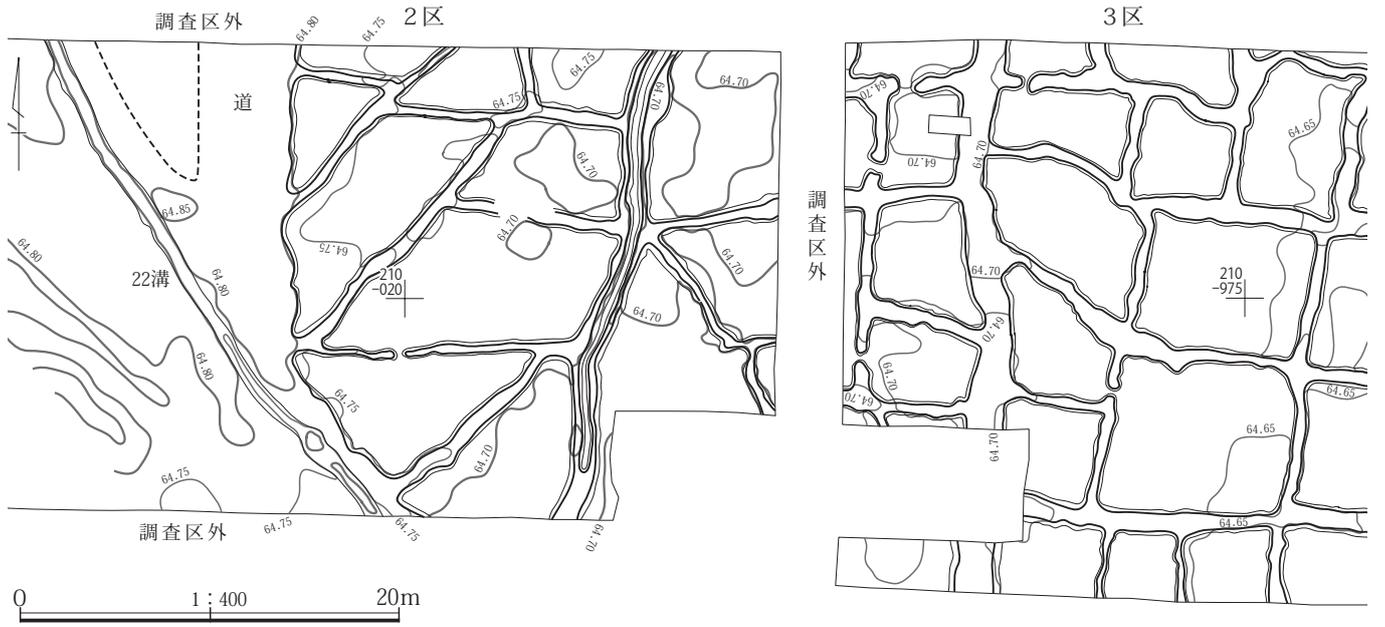
1 調査概要

本遺跡では、全ての調査区の低地で、浅間B軽石で埋没した水田が確認されている。本報告書ではこの水田をAs-B下水田と記載する。確認された水田は、東西南北の

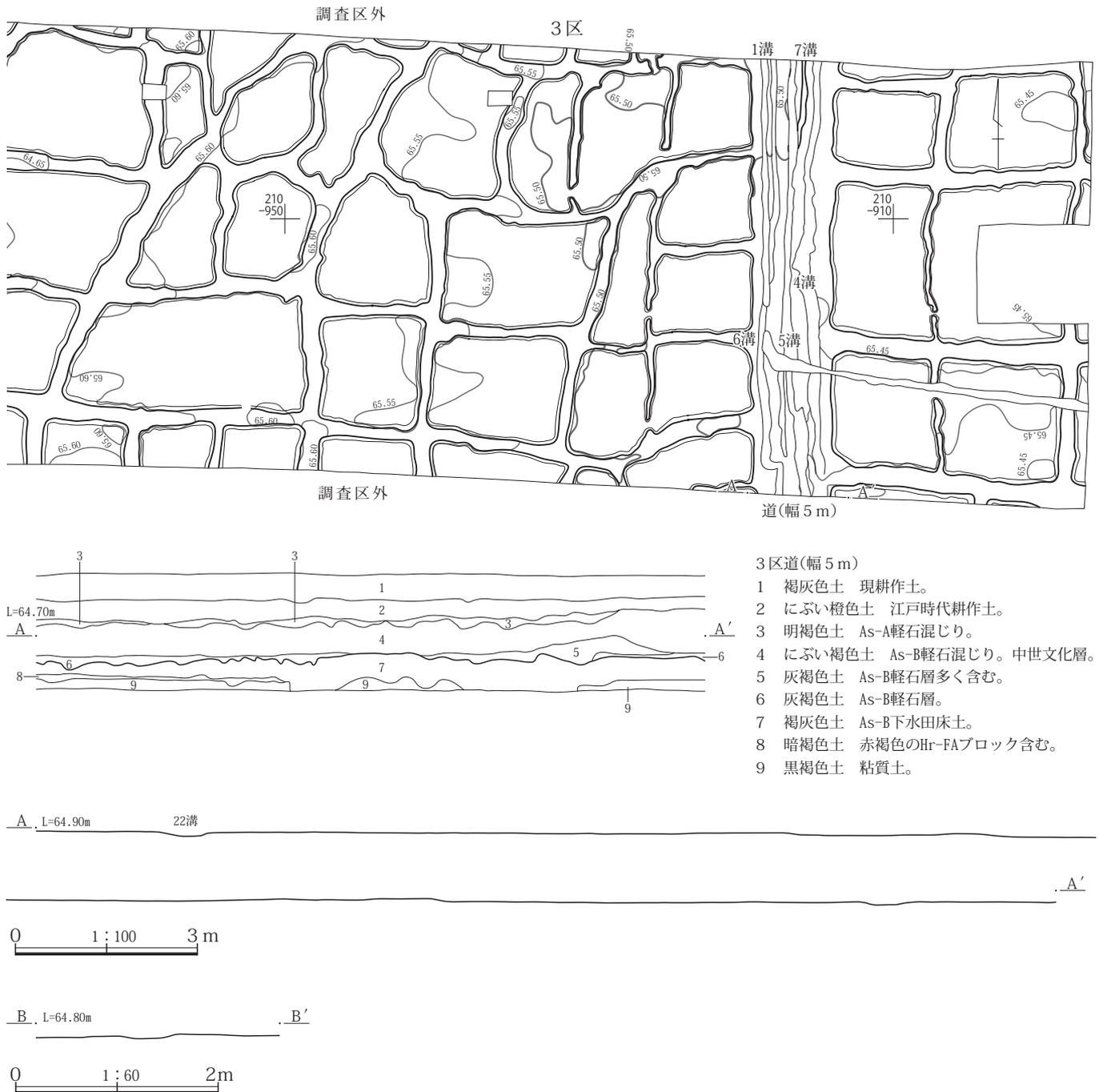
規格に沿って区画された痕跡を留めており、本遺跡でも条里地割が施工されたと想定される。また、水田の調査に伴って2区と3区で南北方向に直進する幅約5mの道が確認され、2本の道は109mの間隔で設置されていることが判明した。このことから、本地区では水田が広がる低地にも、条里地割に沿って設定された道を整備していることが判明した。

浅間B軽石は、平安時代終末の天仁元(1108)年に発生した浅間山の噴火に伴って降下した軽石で、この地域でも数十cmの軽石や灰が地表を埋め尽くし、大きな災害になったと考えられている。その後の復旧作業は各地で行われ、土壌化されたが、浅間B軽石を含む土壌は本地域の中世を特徴づける土壌となる。

本遺跡では、わずかではあるがAs-B軽石とそれで埋没した水田が残っており、当時の低地での状況を把握することができた。なお、微高地上ではAs-B軽石で直接埋没した遺構は残っていない。



第145図 2・3区As-B下水田、22号溝(1)



第146図 2・3区As-B下水田、22号溝(2)

1区As-B下水田(第144図)

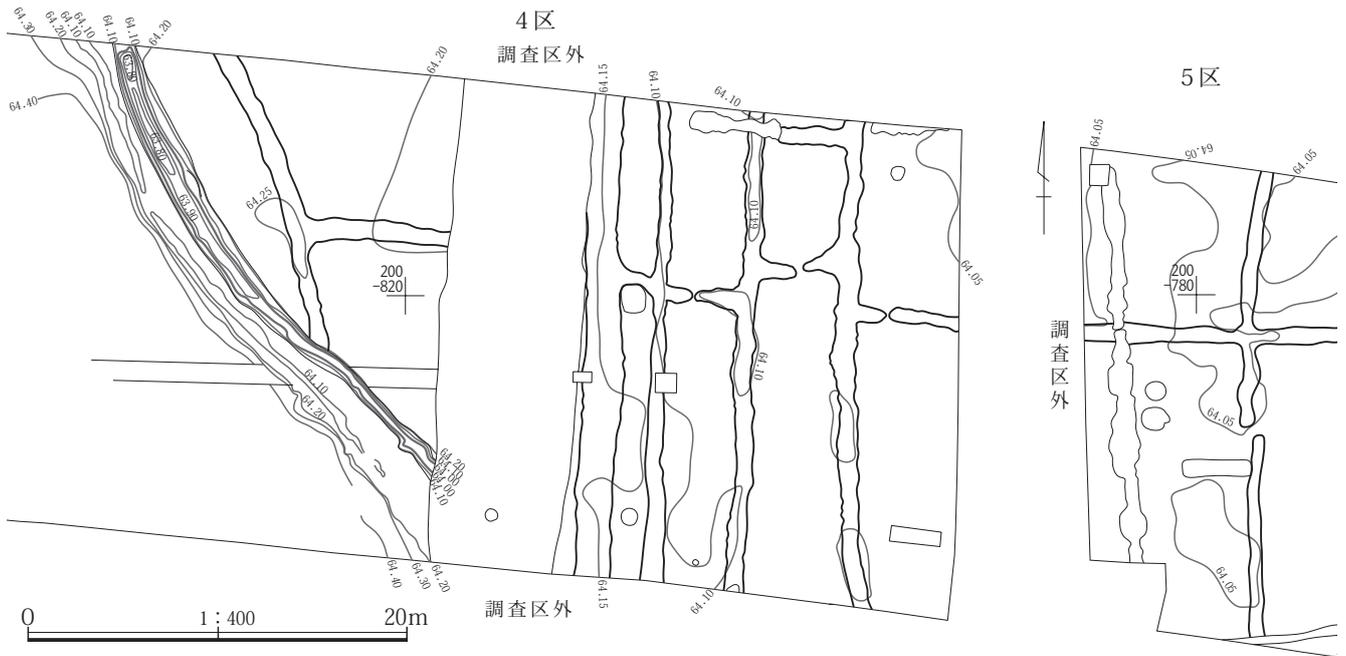
1区は東半部が低地になっており、一部を除いてAs-B下水田が確認された(第144図)。微高地は、北側の中央から円弧を描いて南西隅に抜けており、水田は縁辺までよくいきわたっているが、その後の削平により消失した部分が多い。東側も2区微高地が迫っており、多くが消失している。

水田の区画は、傾斜に沿ってやや撓む部分もあるが、

概ね東西南北に区画されており、大きく乱れる部分は認められない。畦畔の交差は十字状となる部分が多く、一部では傾斜に沿って食い違いも認められる。この水田に伴う水路は確認されておらず、水口も未確認である。

2区As-B下水田(第145図 PL.46)

2区も東側に低地があり、その全域でAs-B下水田が確認された(第145図)。微高地は調査区北側中央から南東



第147図 4・5区As-B下水田

に斜めに抜けており、22号溝はその縁辺をトレースしている。22号溝はこの水田に伴う水路である。

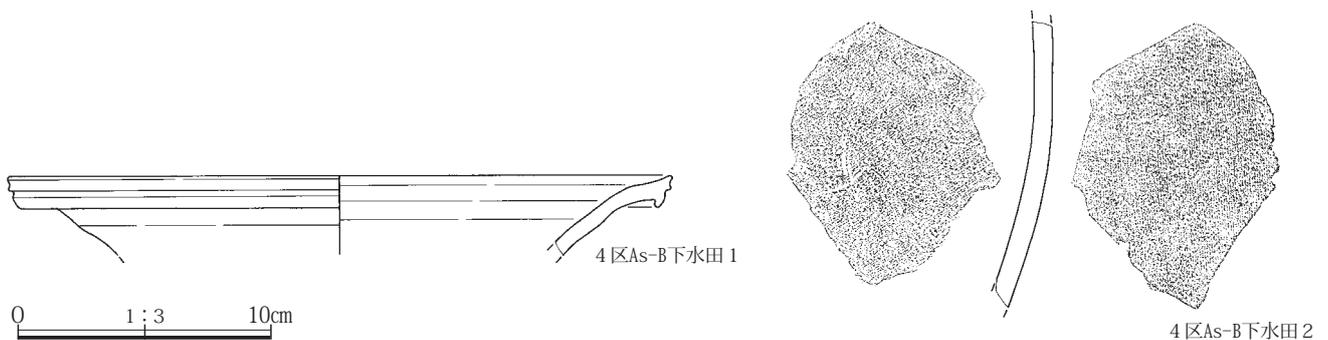
水田の区画は、西側の縁辺に南北の区割りがあり、その東18mほどのところに幅1.5m前後の大畔がある。この大畔は中央が溝状に窪んだ特異な畔で、蛇行しながらも南北に走行しており、縁辺の区割りと大畔の間に東西方向の畔が2本認められる。ここまでは1区の規格的な区画と共通しているが、ここではその間に斜めの畔を付加して傾斜を調整しており、場に合わせた区画となっている。水口は南側の東西畔に切れ目が1箇所認められた。なお、この地区の航空写真で、縁辺の南北区割りの西側5mに土壤の違いによる南北ラインが明瞭にあることが判明した。つまり、ここにも3区で確認された南北方向に直進する幅5mの道があることがわかった。両者間の距離は109mで、条里地割に符合する。また、同様のラ

インが22号溝の東に沿って伸びており、南半部と同様の溝に伴う畔が北半部にもあることも判明した。ここでは図上に破線でそのラインを付加する。

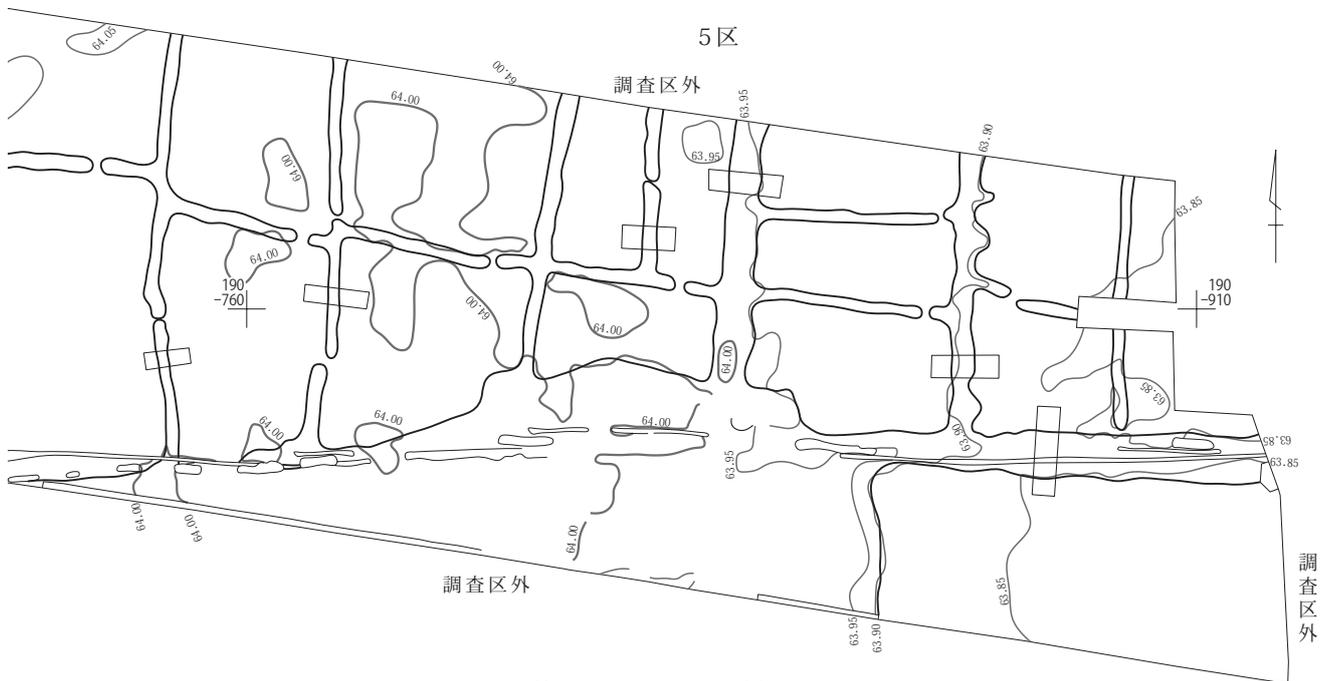
3区As-B下水田(第145・146図 PL.47・48)

3区は全体が低地になっており、調査範囲の全域でAs-B下水田が確認された(第145・146図)。2区から続く一連の水田で、調査区東側の調査で南北方向に直進する幅約5mの道が確認された。道は上面を中世の溝等で削平されており、現状では水田面からの本来の高さは残っていないが、水田耕土である褐灰色土は、道の下で大きく下方に沈み込んでいる(第146図断面)。

水田の区画は、東西南北の方形区画を基準としているが、所々に斜めの畔や縦畔を付加して、傾斜に対応している。必要に応じて幅1.5~2mの大畔が配置されるが、



第148図 4区As-B下水田出土遺物



第149図 5区As-B下水田

道の西側では南北方向に、東側では東西方向に大畔を配置している。水口は調査区の西側で5箇所、道の西側に沿って5箇所、道のすぐ東側で2箇所、合計12箇所が確認された。水口が付く畔は横畔3箇所に対して縦畔が9箇所あり、縦畔に付く水口の数が多い。内訳は、調査区西側では横畔2箇・縦畔が3箇所、道の西側では横畔1箇所・縦畔4箇所、道の東側では縦畔2箇所である。

4区As-B下水田(第147・148図 PL.49)

4区は東半部の低地でAs-B下水田が確認された(第147図)。上面の削平がかなり及んでいるため、畔の高まりはほとんどない。また、西側微高地縁辺は中世の9号溝に切られ、中央部を南北に現況水路に切られる。

現況水路の東側に接して幅2mほどの南北大畔があり、水田区画はこの東西で異なる。大畔の西側は大きな区画が見られるが、東側では大畔に沿って南北に細長い区画が3列で続き、その東から大きな区画となっている。大畔に沿う細長い区画の幅は、概ね1列目が2m、2列目が3m、3列目が4mと徐々に幅を広げており、起伏と水回しを考慮した調整を図るための区画と考えられ

る。水口は大畔の東側で5箇所が確認されたが、いずれも東西畔に伴っている。また、水田の調査に伴って須恵器甕の破片が2点出土している(第148図1・2)

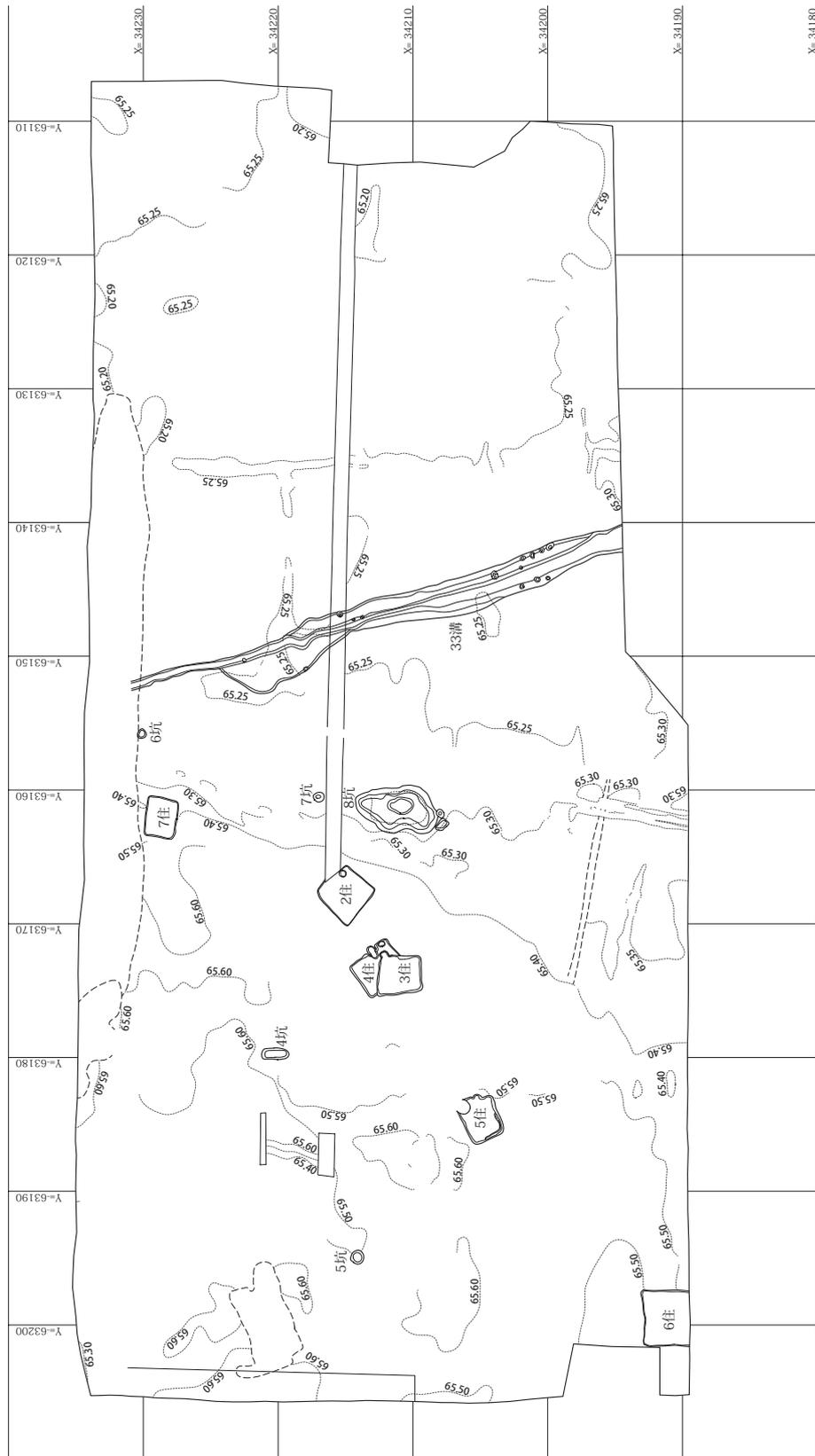
なお、大畔は3区の道から約109mの位置にあり、条里地割のラインに該当するが、東側の1列目の区画と合わせると幅が約5mになる点は注目しておきたい。

5区As-B下水田(第147・149図 PL.49)

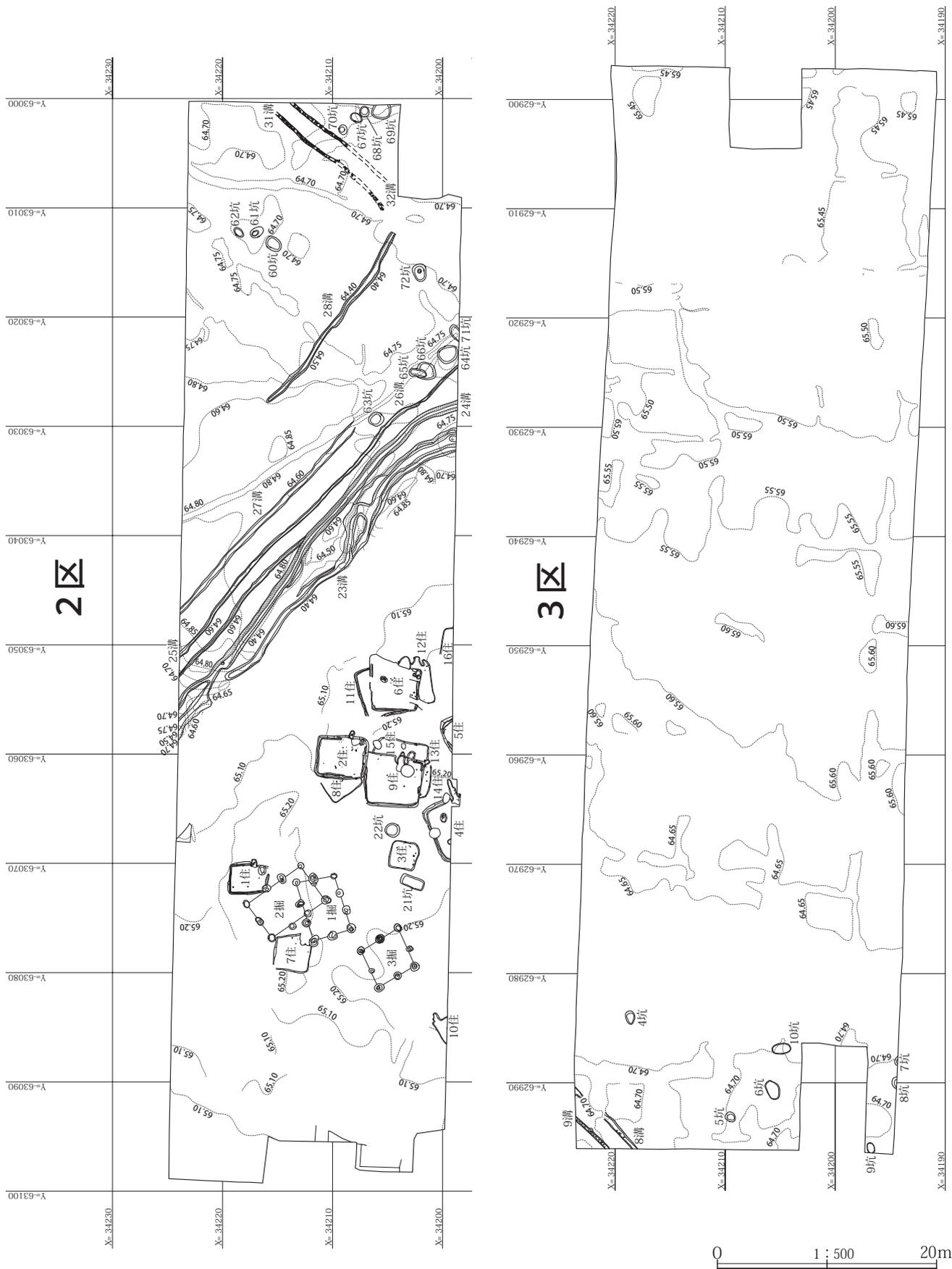
5区は調査区の南側に微高地が島状にあり、その他の低地では全域でAs-B下水田が確認された。微高地の北側縁辺は、中央部が突出するが概ね東西方向に直線を描いており、条里地割に沿って意図的に区画されたラインだと考える。そのライン上東側には幅3mの大畔が伸びており、その南北の水田面には5cmの高低差が生じている。なお、このライン上には近世の溝が重複しており、さらに現在も使用されている主要水路が重なっている。

この水田は2区と一体のもので、概ね東西南北の規格的で大きな区画が認められる。微高地の突出部東側に幅2mほどの南北大畔があるが、4区大畔との距離は約76mである。微高地東縁辺の区割りには東西大畔と直行し

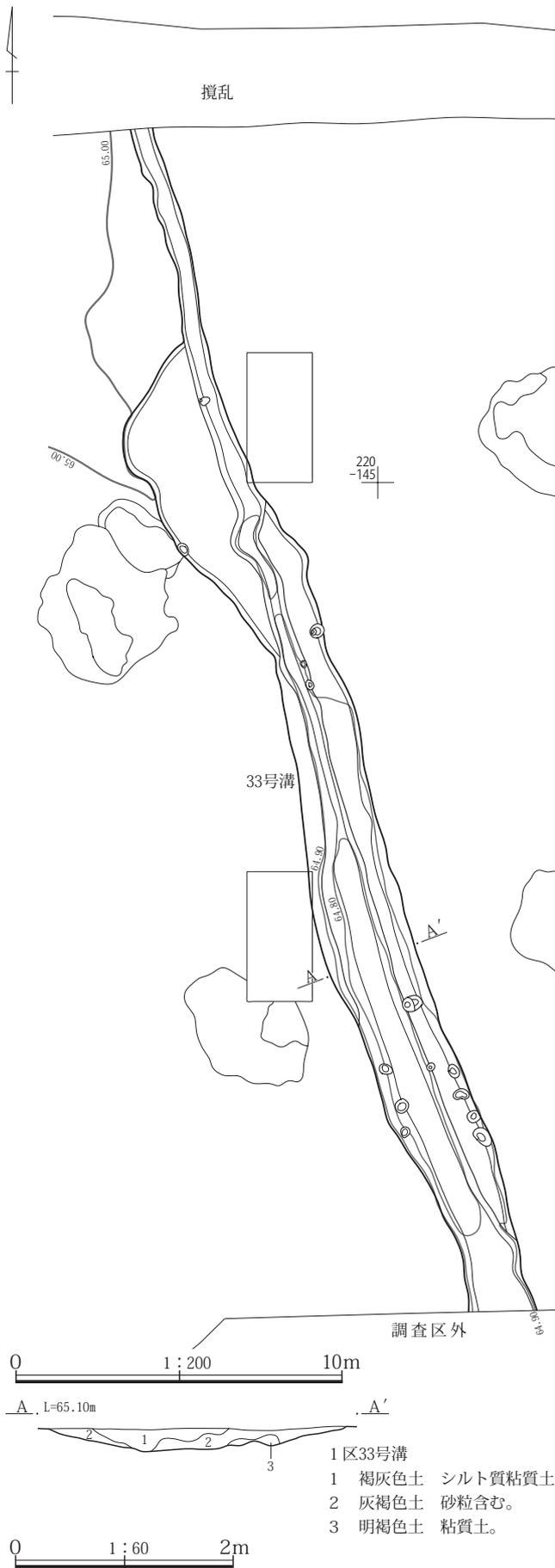
1区



第150図 1区溝全体図



第151図 2・3区溝全体図



第152図 1区33号溝

ており、広い水田面に畔は認められない。この直行部分で水田耕土下から大きな水口跡(5区9号土坑)が確認され、そこから9世紀代の土師器杯が数多く出土した。このことは、9世紀代にはこの場所にすでに水田があり、ここで稲作に対する祭祀行為が行われていたことを示している。水口は11箇所が確認されており、内訳は東西畔に伴うものが7箇所、南北畔に伴うものが4箇所である。

第6節 溝

1 調査概要

平安時代の溝は1区で1条、2区で9条、3区で2条、合計12条が確認された。4区・5区では該当する溝は未確認である。

このうち、2区22号溝は前節で述べたようにAs-B下水田に伴う水路で、本遺跡の調査では同水田と同時に埋没した唯一の水路である。それ以外の溝は、いずれもAs-B下水田の耕土下から確認されたもので、年代を特定できる材料は少ないものも多いが、平安時代の水田に伴う施設であったと考えたい。また、そのうちの一部はさらに古い水田に伴う水路から継続している可能性も想定される。

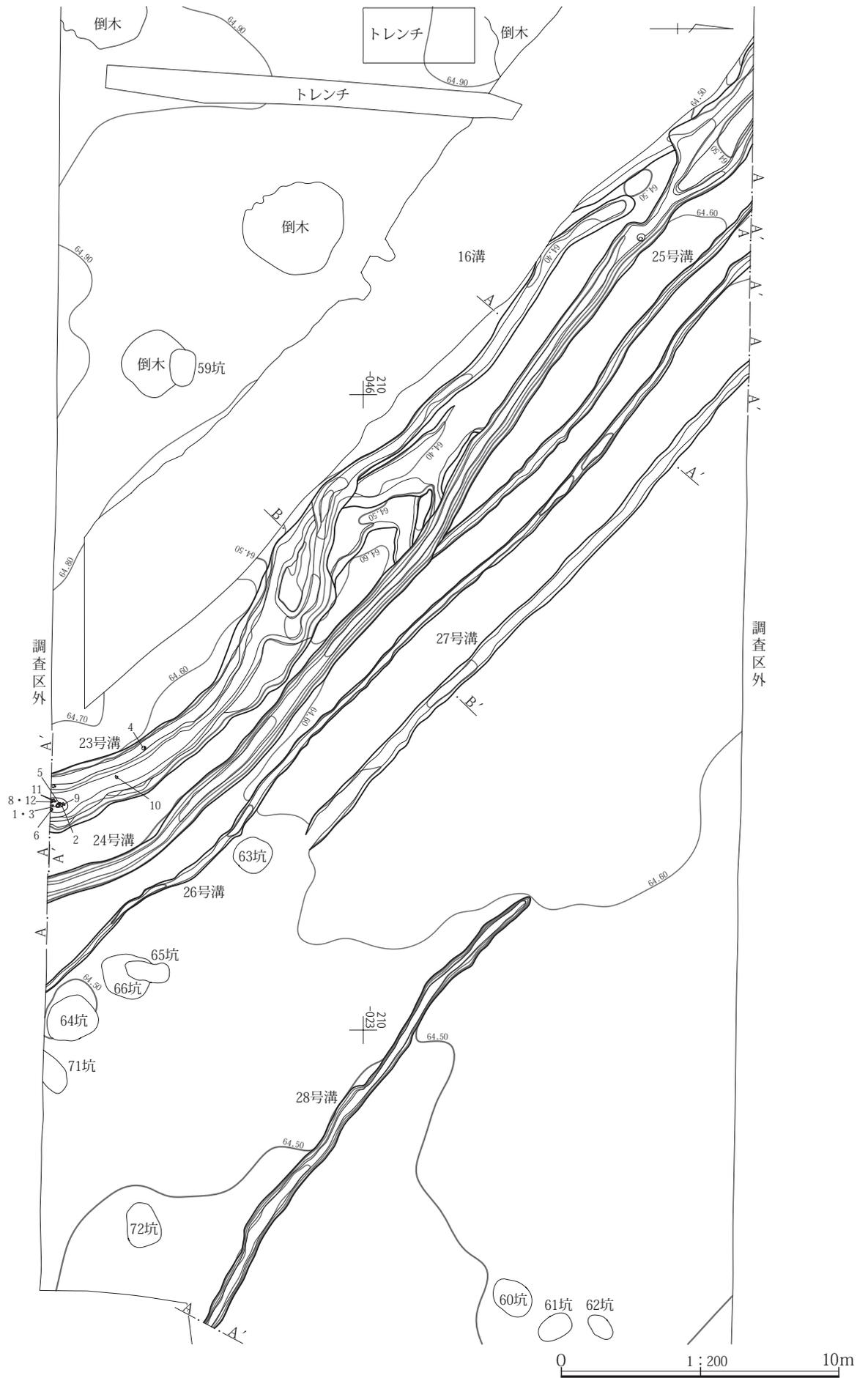
なお、個別の計測データは一覧表を217・218頁に掲載したので、参照頂きたい。

1区33号溝(第152図 PL.17)

1区で確認された平安時代の溝はこの1条のみであり、As-B下水田の耕土下から確認された。33号溝は、1区の中央部をN-16°-Wの角度で南北方向にほぼ直進する。北側では幅50cm前後、深さ10cmほどの小さな溝だが、南側では幾度も付け替えたためか、2.7mほどの幅で確認された。覆土はシルトや粘質土で占められており、洪水などの災害で埋没した可能性もある。出土遺物は認められない。

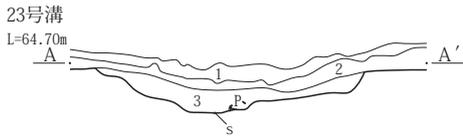
2区22号・23号～28号、31号・32号溝(第145・153～156図 PL.21～23・69)

2区では平安時代の溝が9条確認されている。このうち22号溝は、先述のとおりAs-B下水田に伴う水路で、本



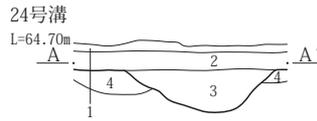
第153図 2区23~28号溝(1)

第5章 奈良・平安時代の遺構と遺物



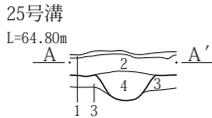
2区23号溝

- 1 As-B軽石ユニット
- 2 黒褐色土 粘性在り。褐灰色土含む。
- 3 褐灰色土 粘性強い。少量の明褐灰色土小ブロック含む。(遺物包含層)



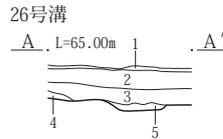
2区24号溝

- 1 As-B軽石層
- 2 黒褐色土 粘性強在り。少量の軽石(As-C?)含む。鉄分の沈着在り。(As-B軽石水田耕作土)
- 3 褐灰色土 粘性在り。明褐灰色土小ブロックを含む。鉄分の沈着在り。
- 4 明褐灰色土 粘性在り。灰色土小ブロックを含む。



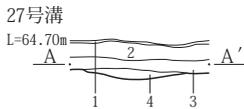
2区25号溝

- 1 As-B軽石層
- 2 黒褐色土 粘性強い。白色軽石(As-C?)含む。
- 3 明灰褐色土 黒褐色土ブロック含む。
- 4 黒褐色土 粘性強い。白色軽石(As-C)及び明黄褐色土ブロック含む。



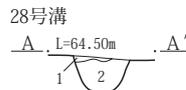
2区26号溝

- 1 As-B軽石層
- 2 黒褐色土 白色軽石(As-C?)を含む。鉄分の沈着在り。
- 3 暗褐色土 白色軽石(As-C?)含む。粘性強い。鉄分の沈着在り。
- 4 明褐灰色土 粘性強い。
- 5 黒褐色土 暗褐色土、明褐灰色土小ブロック含む。



2区27号溝

- 1 As-B軽石層
- 2 黒褐色土 粘性強い。白色軽石(As-C?)含む。
- 3 暗褐色土 粘性強い。白色軽石(As-C?)含む。鉄分の沈着多い。
- 4 褐灰色土 砂層。暗褐色土小ブロック含む。



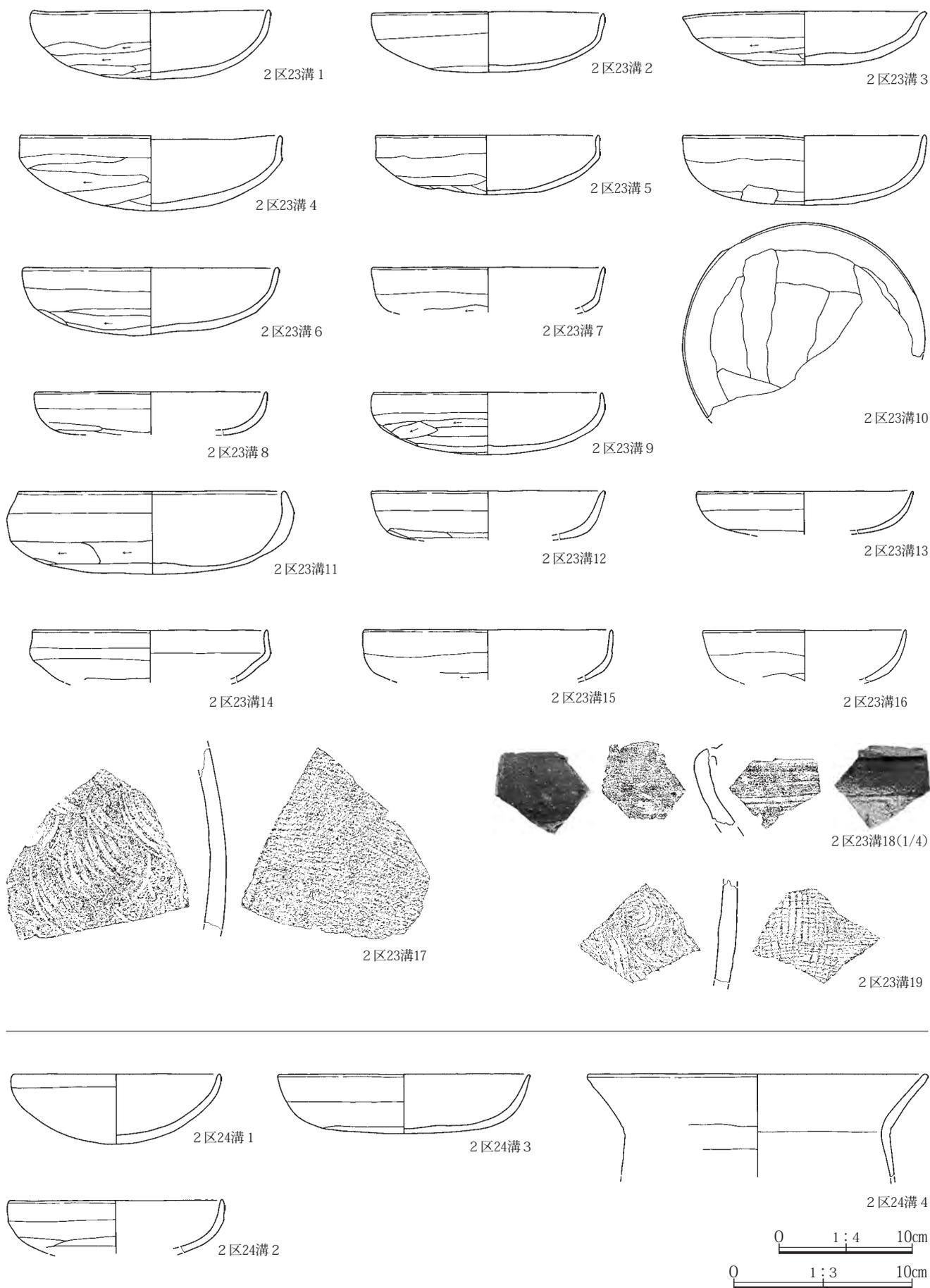
2区28号溝

- 1 黒褐色土 褐灰色土を含む。
- 2 褐灰色土 黒褐色土粒子、黒褐色土小ブロックを含む。鉄分の沈着在り。

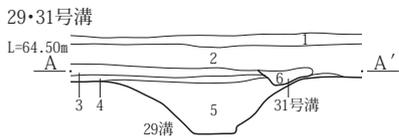
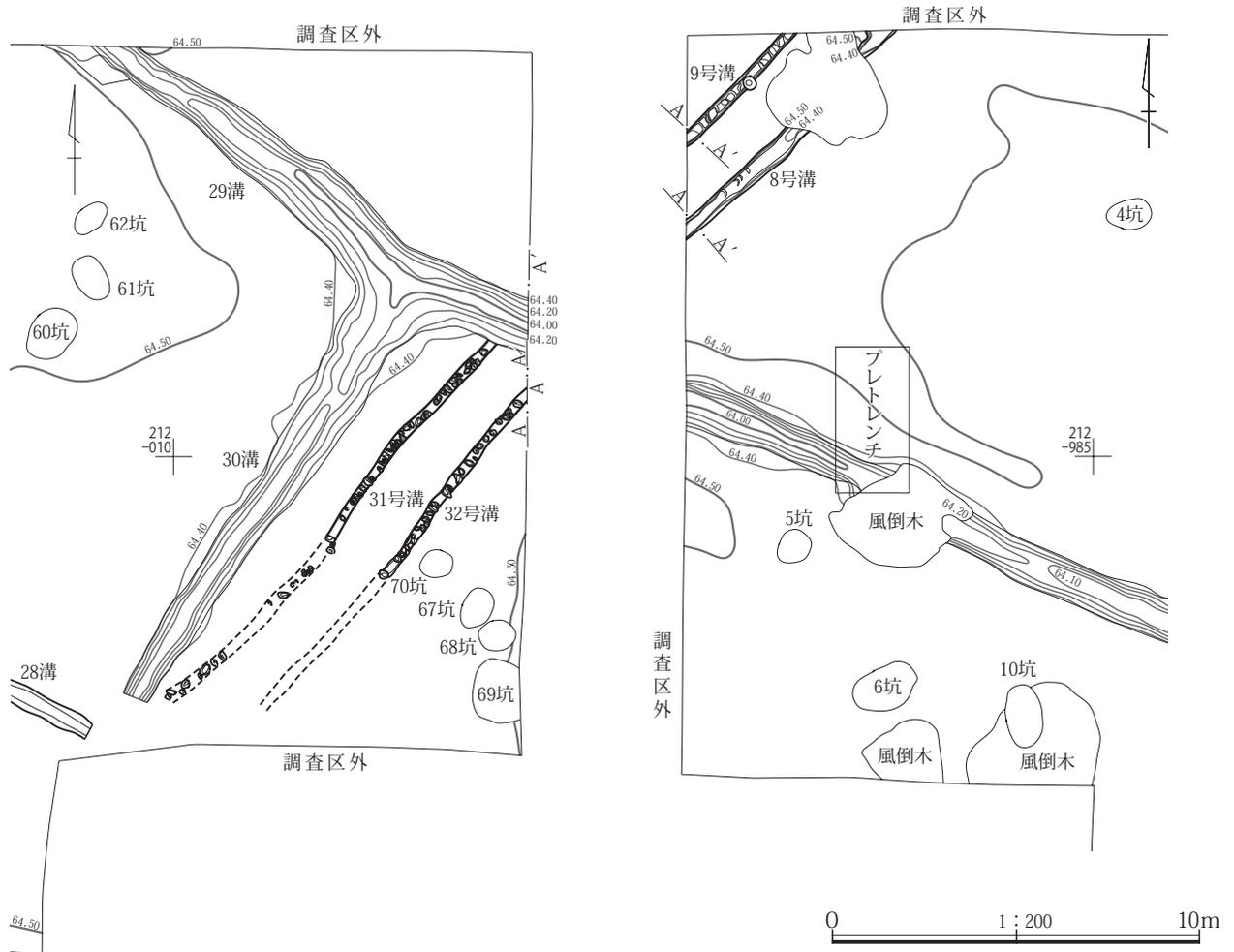


第154図 2区23~28号溝(2)

第6節 溝

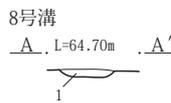


第155图 2区23・24号溝出土遺物



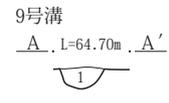
2区29・31号溝

- 1 As-B軽石層
- 2 暗褐色土 粘性強い。鉄分の沈着在り。(As-B軽石下水田耕作土)
- 3 黒褐色土 粘性強い。灰白色土小ブロックを含む。As-C軽石含む。
- 4 灰白色土 褐灰色土小ブロック含む。
- 5 明褐色土 灰白色土小ブロック含む。鉄分の沈着在り。
- 6 黒褐色土ブロック、褐灰色土ブロック、明褐色土ブロックの混合土。



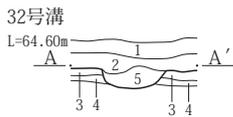
3区8号溝

- 1 にぶい赤褐色土 褐色土ブロック含む粘質土。



3区9号溝

- 1 にぶい赤褐色土 褐色土ブロック入る粘質土。



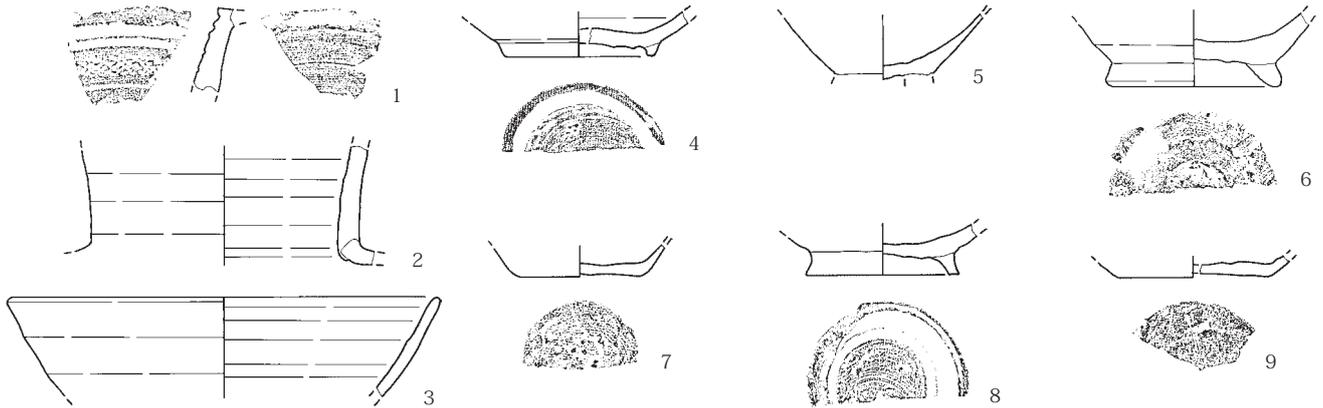
2区32号溝

- 1 As-B軽石層
- 2 暗褐色土 粘性強い。鉄分の沈着在り。(As-B軽石下水田耕作土)
- 3 黒褐色土 粘性強い。灰白色土小ブロックを含む。As-C軽石含む。
- 4 灰白色土 褐灰色土小ブロック含む。
- 5 黒褐色土ブロック、褐灰色土ブロック、明褐色土ブロックの混合土。

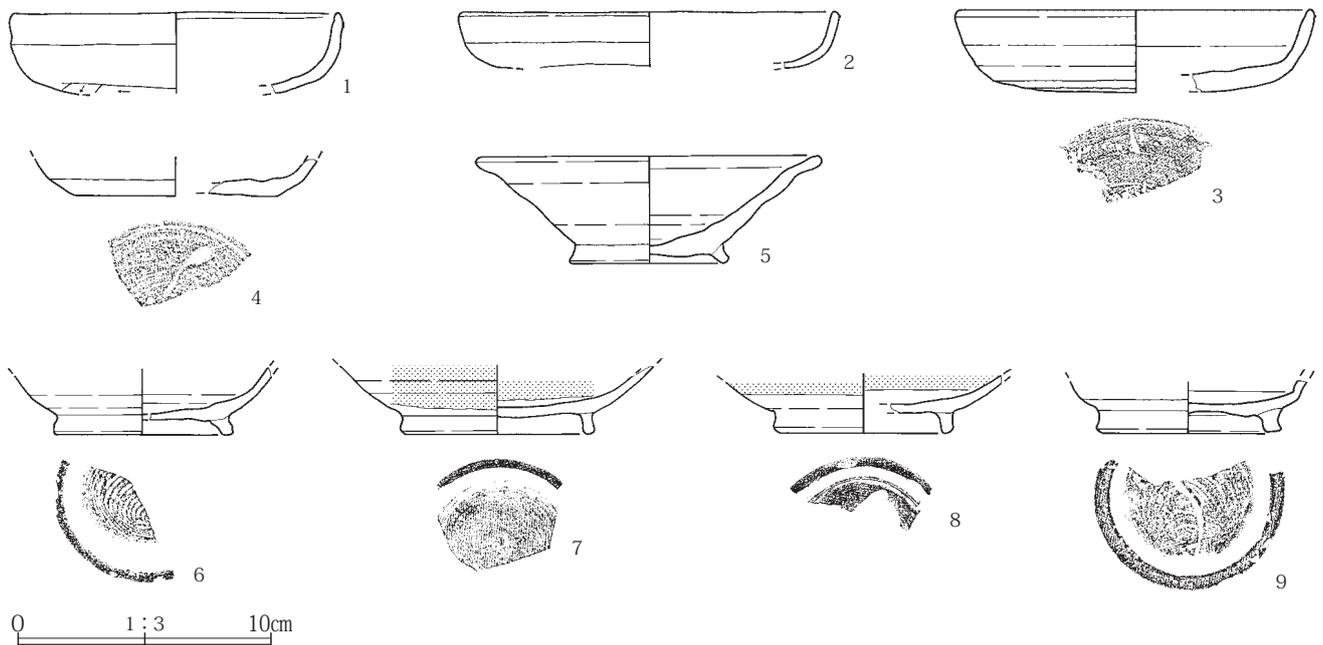


第156図 2区31・32号溝、3区8・9号溝

1区遺構外



2区遺構外



第157図 1・2区遺構外出土遺物(奈良・平安時代)

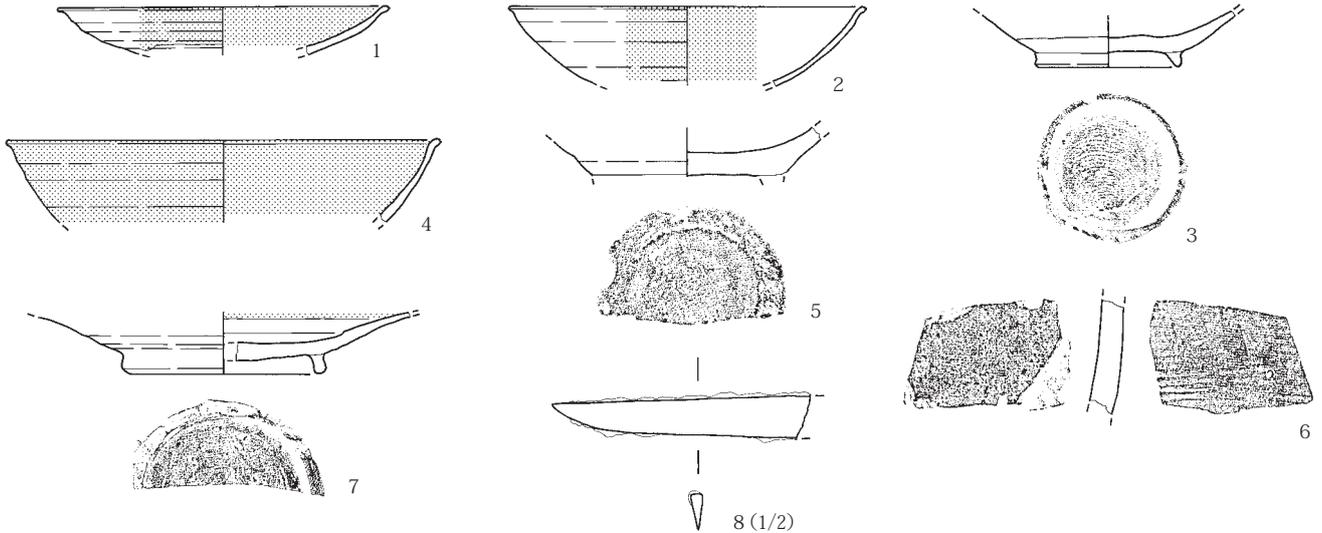
遺跡の調査ではAs-B下水田と一体で確認された唯一の水
路である。その他の溝はすべてAs-B下水田の耕土下から
確認されたものである。

25号・26号は規模が小さく、並行関係を保持しながら
微高地縁辺に沿って直線的に走向している。31号・32号
はそれに直行する溝だが、同じ特徴をもっており、一連
の遺構である可能性が高い。31号・32号では、溝は底面
に掘削時の刃先跡が明瞭に残っており、幅18cmほどの道
具で掘削されている。27号と28号も規模や方向が共通し
ており、一連の遺構であろう。27号の南側はAs-B下水田
に伴う22号溝に踏襲されており、28号の北側はAs-B下水
田に伴う道のところで消滅している。これらの溝は、地

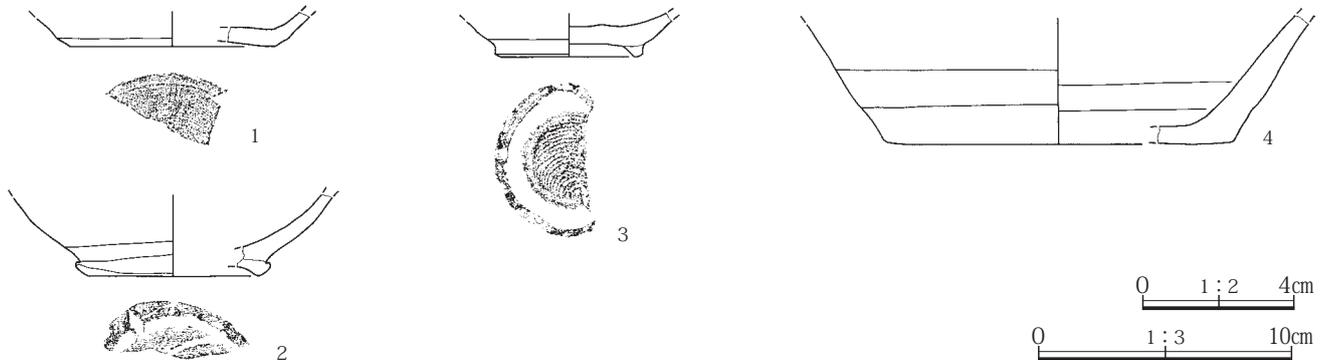
形に即したラインを基準に方形の区画を志向しており、
条里地割施工以前の水田に伴う溝の可能性が考えられ
る。その場合、25号・26号と31号・32号は水田を区画す
る大畔の幅を示している可能性がある。また、これらの
溝は、古墳時代の溝と認定した29号・30号溝の方向とも
共通しており、古墳時代まで遡る可能性もある。

23号・24号は微高地縁辺をめぐる溝で、水路と考えて
よい。他の溝に比べて規模が大きく、やや蛇行している。
24号は幅が50cm前後、深さは最深部で37cmあり、比較
的安定している。遺物は、8～9世紀代の土師器杯・甕が
出土している(第155図)。23号は幅が一定せず、強い水
流で洗われたような段差が伴う。また、中間部に溜まり

3区遺構外



4区遺構外



第158図 3・4区遺構外出土遺物(奈良・平安時代)

のような場所があり、そこを中心に9世紀代の土師器杯と須恵器甕が数多く出土している(第155図)。両溝は隣接して一部は重複するが、切り合い関係は把握できていない。

3区8号・9号溝(第156図 PL.25)

3区では平安時代の溝が2条確認された。両溝は規模が小さく、一定の間隔を保持して斜めに並走しており、2区31号・32号溝の延長であることを明確に示している。また、両溝とも底面に掘削時の刃先跡が認められる。

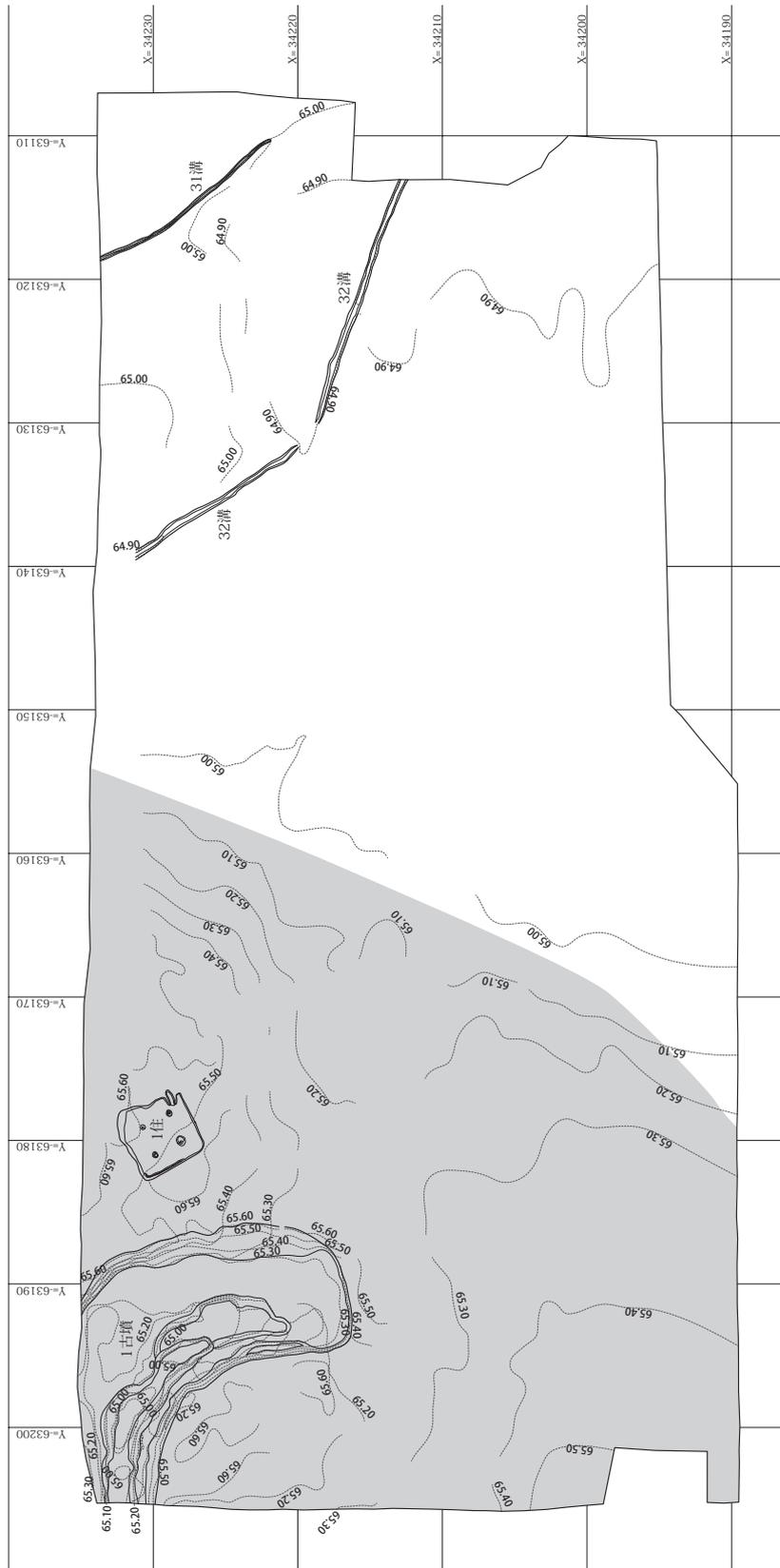
第7節 遺構外の出土遺物

(第157・158図 PL.69)

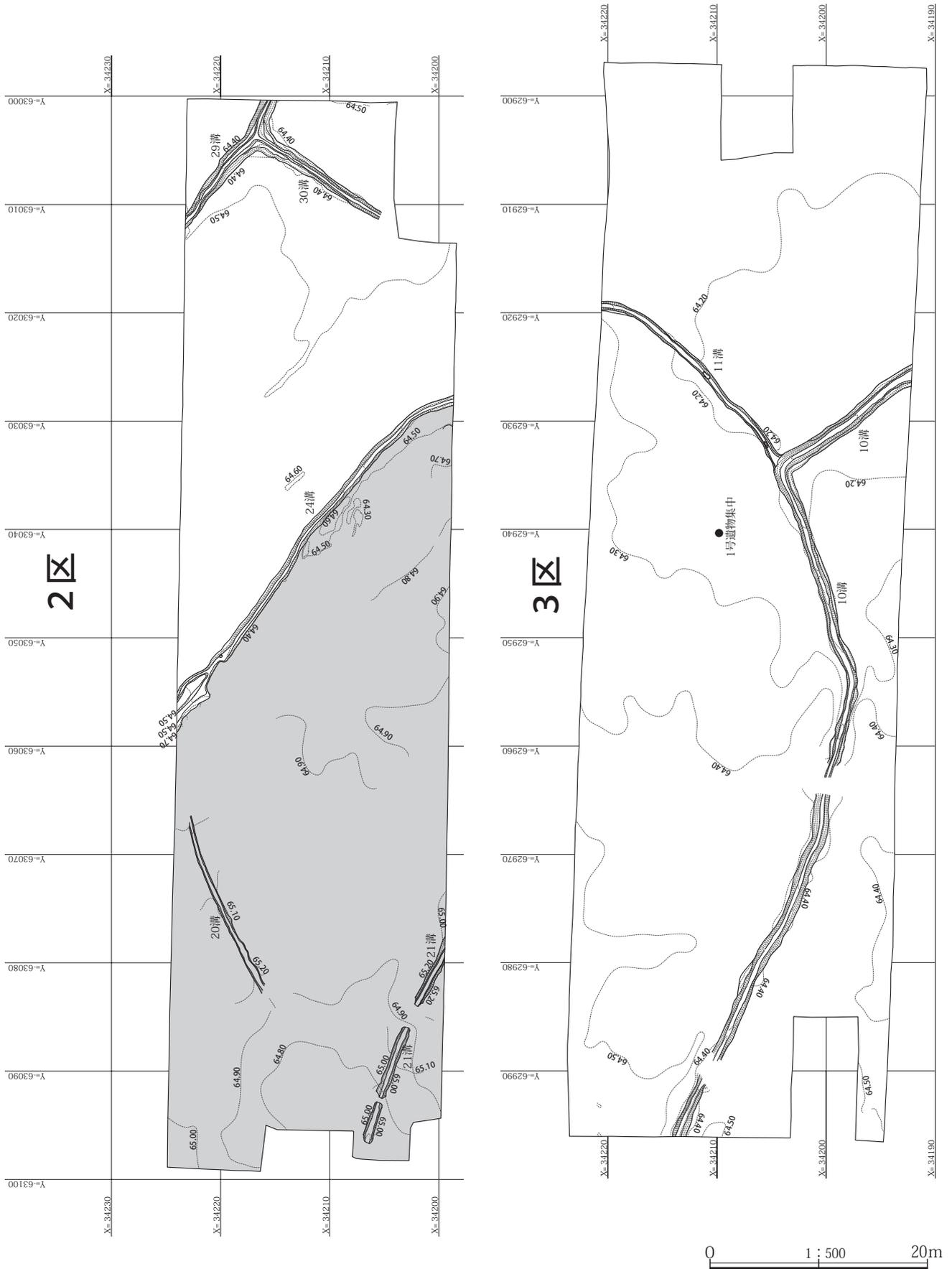
平安時代の遺物は各区で出土している。5区については遺物量が少なく、ここに掲載するほどの遺物は認められなかった。遺構外出土遺物の多くは、微高地上よりその縁辺部や低地から出土している。このことは、微高地上は各時代の削平がいかに及んでいるかを示している。微高地がない3区からも多くの遺物が出土していることは、そのことをよく表している。

掲載遺物のなかでは、2区遺構外出土の灰釉陶器碗2点(7・8)、3区遺構外出土の灰釉陶器皿(1)・碗(2・4)・段皿(7)と刀子(8)などが注目される。

1区



第159図 1区全体図(古墳時代)



第160図 2・3区全体図(古墳時代)



第161図 4・5区全体図(古墳時代)

第6章 古墳時代の遺構と遺物

第1節 発掘調査の概要

1 調査概要

本遺跡では、全ての調査区で古墳時代の遺構と遺物が確認することができた。内訳は、古墳1基、竪穴住居4軒、井戸2基、土坑4基、ピット20基、溝12条、遺物集中箇所1箇所である。これらのうち、全ての調査区で確認できた遺構は溝のみである。溝はいずれも規模の大きなものが使われており、4世紀代に実施された前橋台地の大規模開発に伴って整備された水路体系を示しているものとする。検出された遺構の年代は4世紀後半から6世紀代まで確認できるが、継続的に利用されていたかどうかは、調査範囲内だけでは如何ともし難い。なお、古墳は年代を示す材料が乏しく、6世紀後半～7世紀代の時間幅を持たせておく。

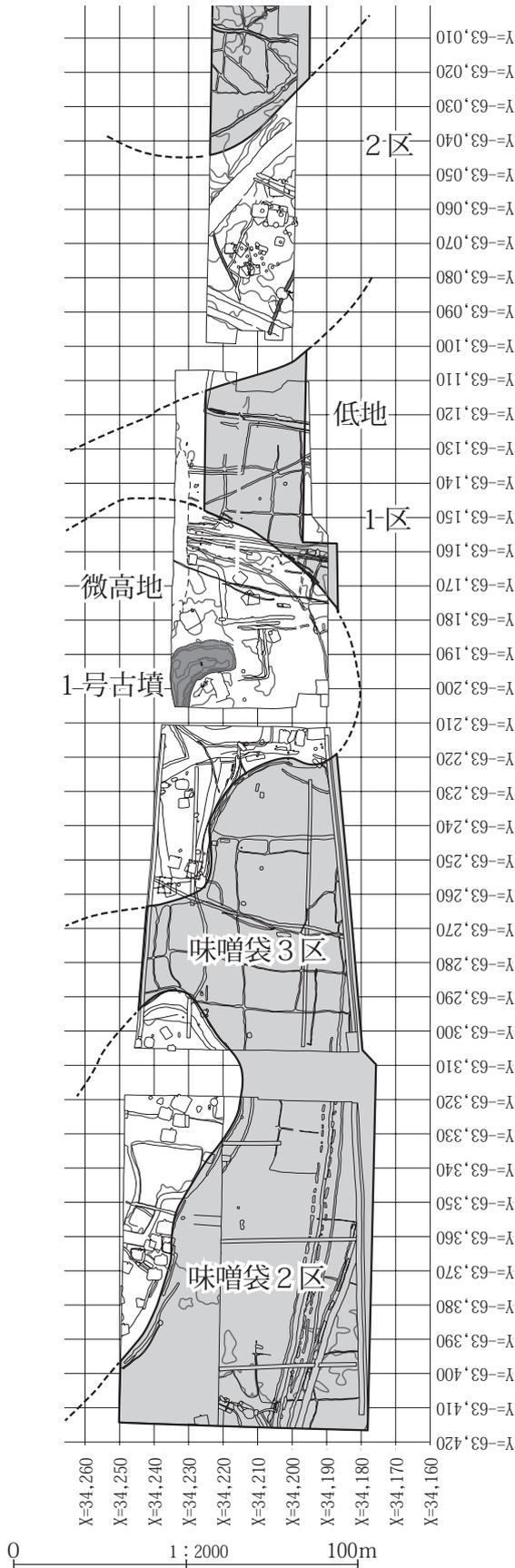
調査面は、1区～3区では4面、4区・5区では2面～3面である。基本土層ではIX層が該当する。IX層は4世紀初頭に発生した浅間山噴火に伴って降下した軽石（浅間C軽石、As-C軽石）を含んでおり、古墳時代の遺構の大半がこの軽石を含んだ土壌で埋没している。

なお、本遺跡では確認されていないが、周辺遺跡の調査では6世紀初頭の榛名二ツ岳火山灰(Hr-FA)で埋没した水田が検出されている。本遺跡でもその火山灰の一部が低地で確認されており、その災害の爪痕を留めている。

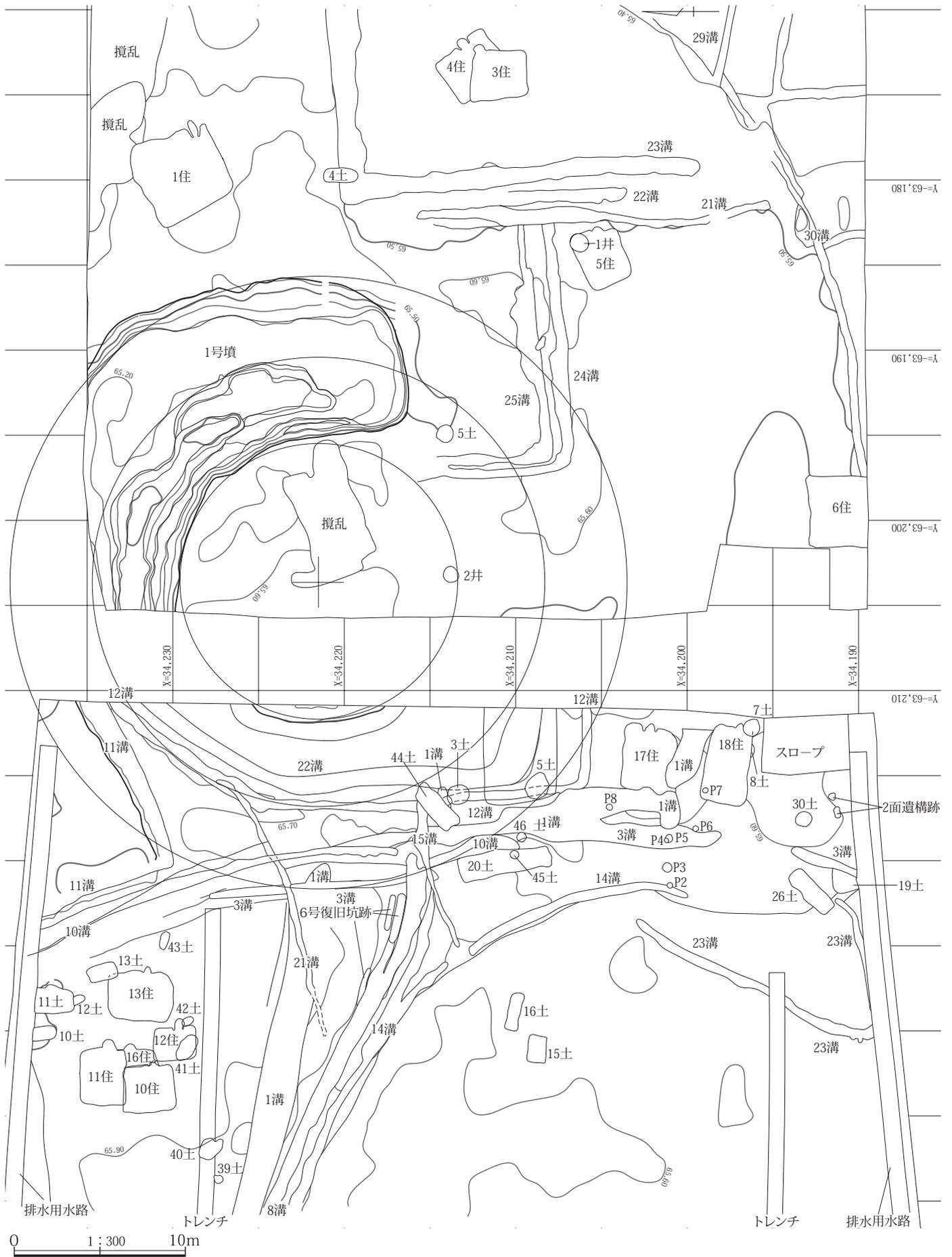
2 各区の概要(第159～161図)

1区では、古墳1基、竪穴住居1軒、溝2条が確認された。微高地ではまず集落が置かれた。今回の調査で確認されたのは6世紀初頭の住居1軒のみだったが、微高地は北側に伸びており、4世紀代から集落があった可能性もある。その後6世紀後半～7世紀代に、この微高地に古墳が築かれた。微高地縁辺が居住域から墓域に変化したことになる。しかし、8世紀代には再び居住域へと変化しており、1区でも9世紀代の住居が分布する。

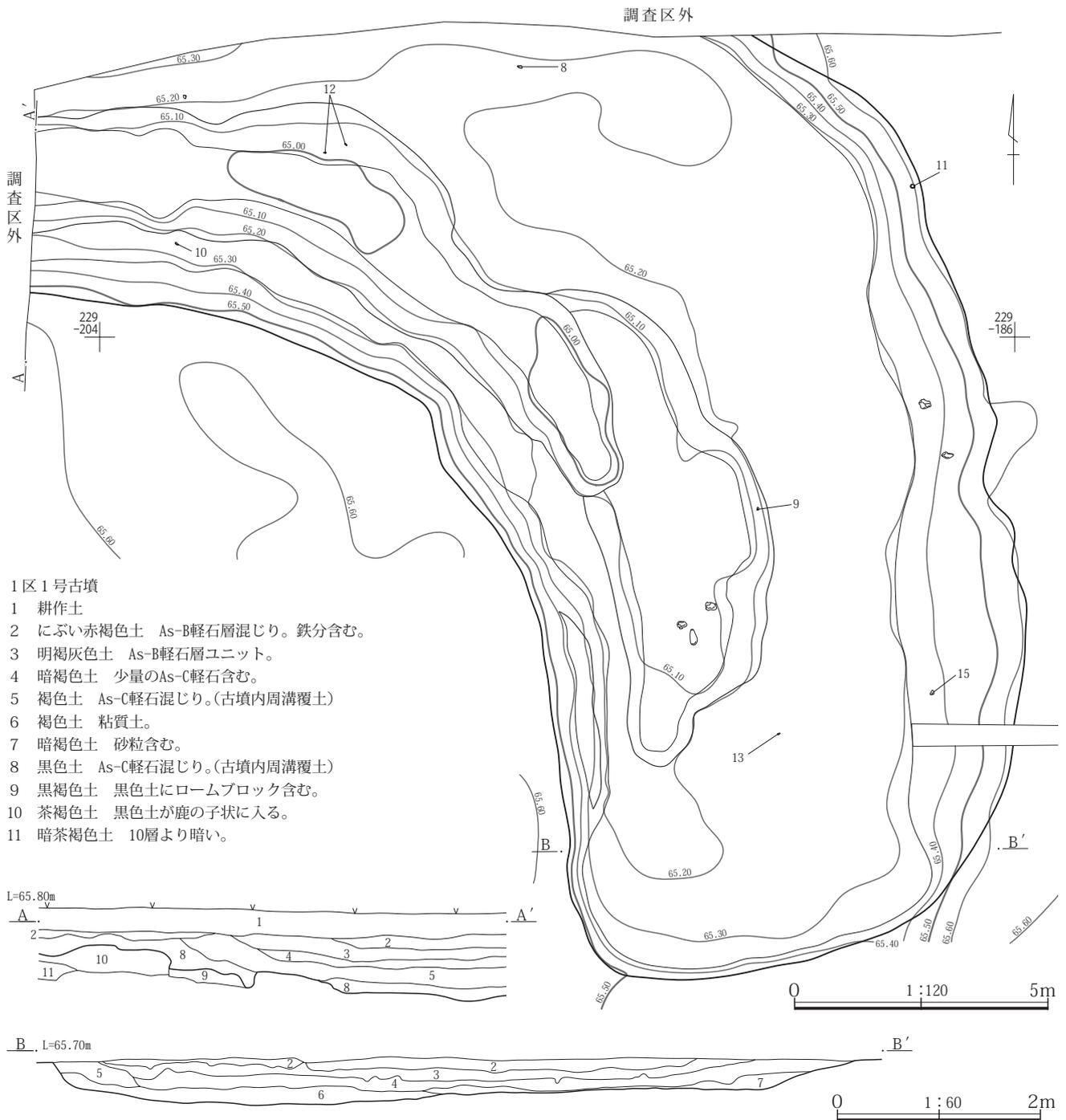
一方、低地には2条の溝が掘削された。溝は当時、幅70cm前後、深さは50cm前後の規模だったと考えられ、北



第162図 1区1号古墳位置図



第163図 1区1号古墳(1)



第164図 1区1号古墳(2)

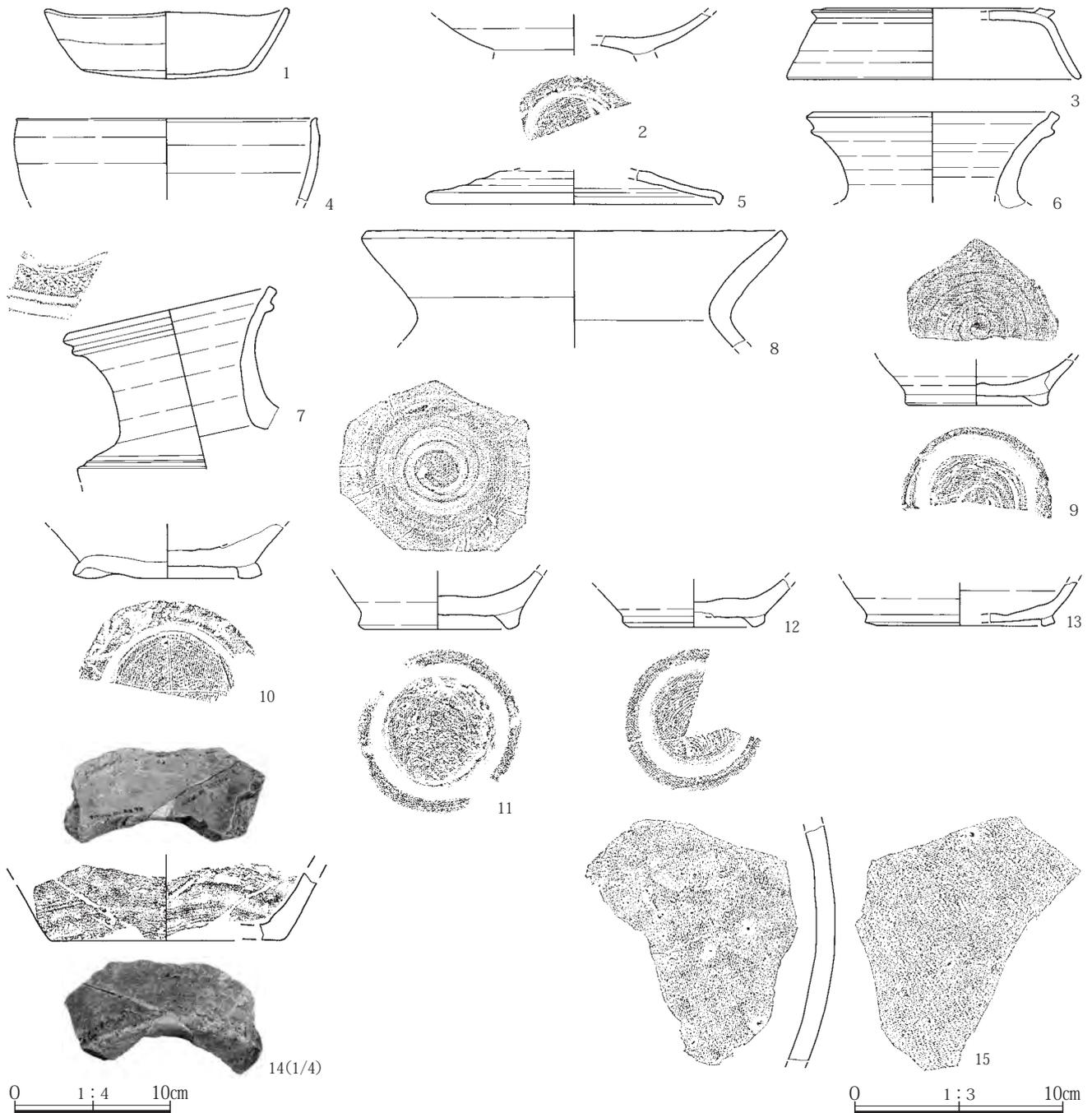
西から南東に向かって2区微高地へ伸びていたと想定する。

2区では、溝5条が確認された。このうち、微高地上に位置する20号・21号溝は1区低地の溝の延長部分であり、20号は1区31号溝に、21号は1区32号溝にそれぞれ対応する。いずれも5世紀前半代の溝と考えられるが、低地の溝が微高地まで及んでいること、2区では溝以外に4・5世紀代の遺構が無いこと等から、2区微高地は

4・5世紀代には低地の一部だった可能性がある。

他の溝は東側低地にあり、地形に即して方形の大区画を構成しているように見える。こうした区画はHr-FA下水田の特徴を示しており、ここにも6世紀代まで大区画の水田があったと考えたい。

3区で確認された10号・11号溝は2区29号溝の延長部に該当するもので、同様の区画が想定される。1号遺物集中は4世紀後半の遺物が集積されたもので、この低地



第165図 1区1号古墳出土遺物

にも4世紀代の水田があったことを暗示している。

4区では、住居3軒、土坑1基、ピット1基、溝2条が確認された。住居3軒はいずれも4世紀後半のもので、この微高地には4世紀代の集落があったことを示している。

5区では、井戸2基、土坑3基、ピット19基、溝1条が確認された。このうち、2号井戸と5号・8号ピットから4世紀後半の遺物が出土しており、4区と同様に微高地にも4世紀代の集落があったことが判明した。

第2節 古墳

1 調査概要

1区微高地上で古墳が確認された。この微高地は西側の福島味噌袋遺跡と一体のもので、古墳は微高地の南側縁辺に構築されたものであることが判明している。

この地区には前橋台地南縁の低平地が拡がり、その中に島状に微高地が点在する地形となっている。周辺部に

は4世紀代から古墳が構築されるが、特に群集する終末期古墳群は本遺跡の周囲にも数多く分布している。今回の調査で確認された古墳もそれらの一部と考えられるが、早い段階に墳丘が削平されたため、調査時には認識されていなかった。今回、ここにも古墳があったことが判明し、この地区の集落認識に一石を投じることになった。

1区1号古墳(第162～165図 PL.30・68)

1区微高地の西側で、古墳の周堀の一部が確認された。この場所は微高地の南端部に該当しており、古墳はその中央に構築されている(第162図)。

確認されたのは周堀の一部であり、墳丘はかなり以前に削平されていたものと思われる。墳丘部を詳細に調査したが、中央部に大きな長方形の攪乱があり、石室等の施設に係わる手懸かりは認められなかった。墳丘部にはかろうじて地山にあたる浅間C軽石を含む黒褐色土が薄く残っており、盛土は認められなかった。

確認された周堀は幅が11.20m、深さは最深部で0.68mであり、墳丘寄りの内周部に深い掘り込みが溝状にめぐっている。直近の場所を掘削することで、盛土の高さを調整したのであろう。周堀の覆土上層には天仁元(1108)年に降下した浅間B軽石がプライマリーな状態で堆積しており、県内平野部の古墳に認められる常態を示している。また、周堀の覆土下層から8～9世紀代の須恵器・土師器が出土している(第165図)。いずれも破片状態での出土であるが、器種は大半が須恵器であり、墓前祭祀的な行為を示すものであろう。同様な行為は西側の福島味噌袋遺跡でも確認されている。

この古墳の想定される全形を第163図に示した。西側は福島味噌袋遺跡3区である。内周部の深い掘り込みは福島味噌袋遺跡でも確認されており、整合的であるが、外周部は狭い場所もあり、不定形となっている。本遺跡で確認された周堀を基準に全形を想定すると、墳丘は推定直径16.2m、周堀外周は推定直径36.00mになる。

本調査区で古墳に重複する遺構はないが、周辺遺構との関係では、周堀の東側5mに先行する6世紀初頭の1号住居があり、周囲5～10mほどの範囲に9世紀代の住居7軒が分布する。福島味噌袋遺跡側にも周囲に平安時代の住居が分布するが、重複するものは認められない。

古墳に接近・重複する遺構は中世の溝である。

以上のように、1号古墳は年代を特定する材料が乏しく、推定の域を出ないが、ここでは6世紀後半～7世紀前半の時間幅を含んでおきたい。なお、この古墳に関わる遺物としては、墳丘部の長方形攪乱部分から鉄鏃の茎(第184図1)が出土している。

第3節 竪穴住居

竪穴住居は、1区で1軒、4区で3軒、合計4軒が確認された。内訳は4世紀後半が3軒、6世紀初頭が1軒である。4世紀後半の住居3軒はすべて4区のものである。

1区1号住居(第166～168図 PL.31・32・67・71)

位置：X=226～232、Y=-176～182

形状・規模：1区微高地の古墳周堀の東側5mで確認された。南北長5.00m、東西長4.76mの方形で、東壁の南端にカマドが付く。北東コーナー部分が不定形となっているが、これは地山が黒色土で見分けが難しいためで、実態は定型的な方形となる。上面をかなり削平されており、壁高18cmである。

主軸方位：N-67°-E

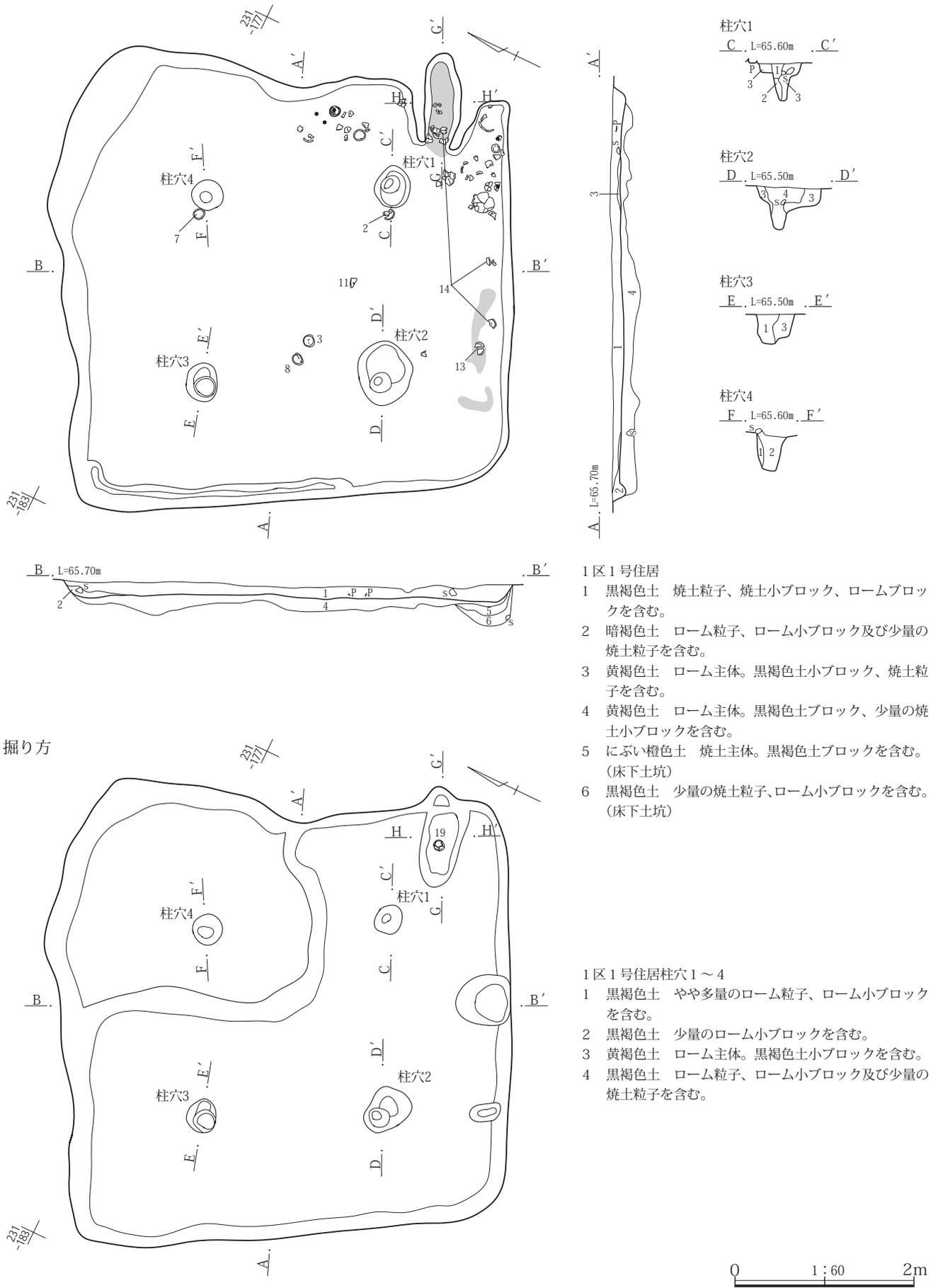
重複：なし。

床面：床面ほぼ平坦で、カマド前から柱穴の内側にかけて貼り床が施され、明瞭な硬化面が確認された。

カマド：東壁の南端に付設する。上面を大きく削平されているが、良好な状態で残存している。灰白色粘質土で構築された袖が住居内に長く伸び、燃烧部の先が住居外に一部出ている。燃烧部は床面とほぼ同レベルにあり、底面全体が焼土で覆われている。また、カマド前から袖の外側まで、床面に灰が積もっていた。

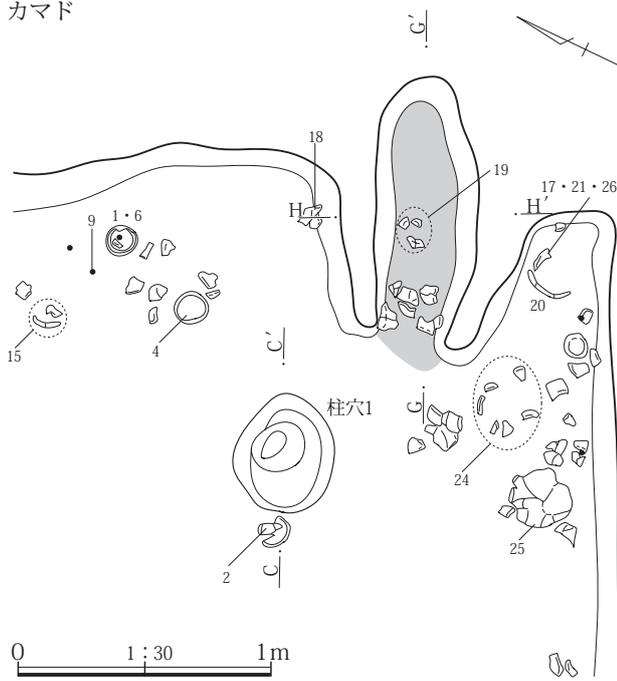
カマド掘り方調査で、燃烧部の中央に土師器鉢(19)が口縁部を下にして設置された状態で確認された。支柱として設置したが、その後埋没してしまったのであろう。その他に、焚き口から土師器鉢(20)が、左袖の外側付け根から土師器杯(14)が、右袖外側付け根から土師器鉢(17)・甕(21・24)が出土している。

規模は、全長1.17m、幅0.70m、焚口幅0.23m、燃烧部奥行き1.05mである。

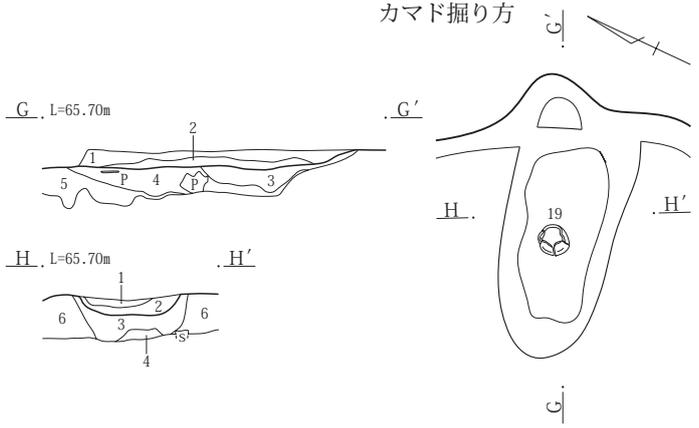


第166図 1区1号住居(1)

カマド

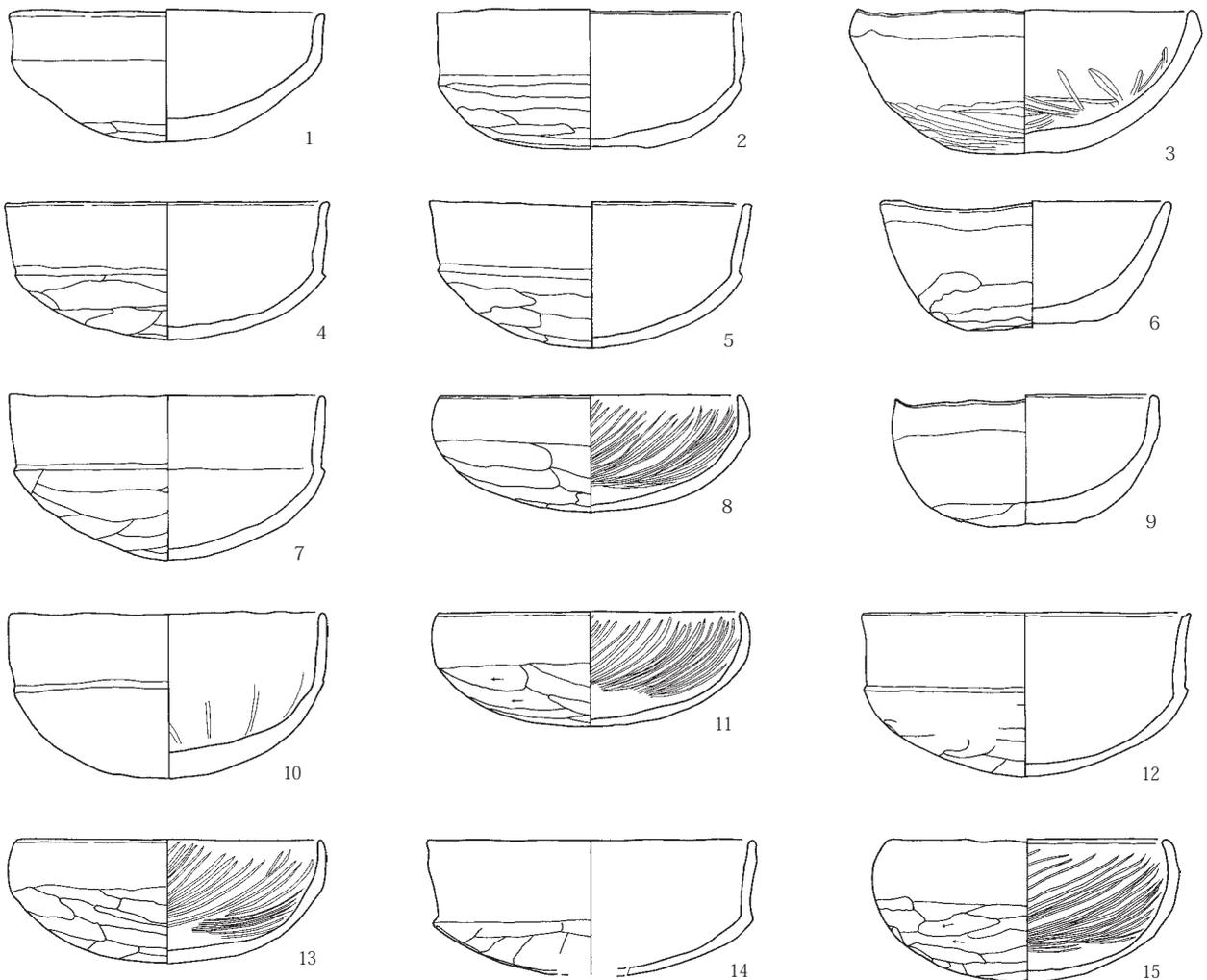


カマド掘り方

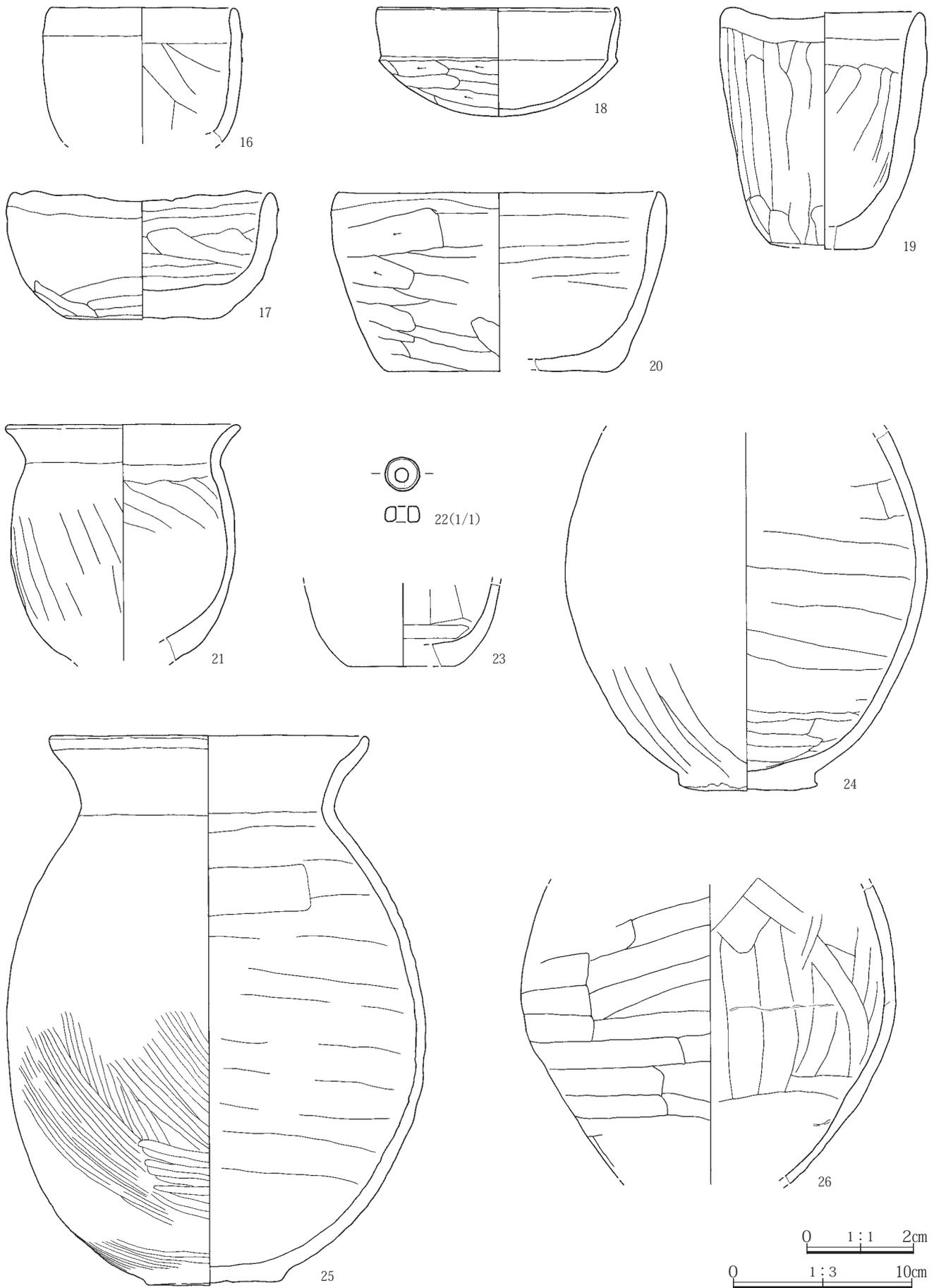


1区1号住居カマド

- 1 褐灰色土 少量の焼土粒子、焼土小ブロックを含む。(カマド天井煙道の崩落土)
- 2 暗褐色土 焼土粒子、焼土小ブロック、炭化物及び少量の褐灰色土を含む。
- 3 黒褐色土 焼土小ブロック層、炭化物を含む。
- 4 黒褐色土 焼土小ブロック、炭化物を含む。
- 5 黄褐色土 ローム主体。黒褐色土ブロックを含む。
- 6 褐灰色土 少量の黒褐色土、焼土小ブロックを含む。(カマドのソデ)



第167図 1区1号住居(2)と出土遺物



第168図 1区1号住居出土遺物

貯蔵穴：なし。

柱穴：住居コーナーの対角線上から4本の柱穴が確認された。深さは30～50cmほどあり、柱間は2m前後である。

周溝：西壁で一部が確認できた。北西コーナーから南へ3mほどの間にあり、幅が17cm前後、深さは7cmである。

掘り方：掘り方調査で、南壁際から土坑1基と柱穴1基が確認された。土坑は南壁のちょうど中央にあり、直径60cm、深さ27cmの円形を呈し、上面を焼土が覆っていた。梯子穴の位置としては申し分ない。ピットは主柱である柱穴2と柱穴3をつないだ直線上にあり、楕円形の小さな掘り方だけが確認された。これも意図的な位置であり、出入り口に伴う施設の一部の可能性が考えられる。

遺物出土状態：本住居では、床面およびその直上から多量の遺物が出土している。まず土師器杯類は、カマド北側の床面直上から1・3・5・13が正位で出土し、このうち1と5は重ねた状態で出土している。柱周りでは、柱穴1の西側根本に6が、柱穴4の西側根本に7が、また柱穴2と柱穴3の間に2・と4が、それぞれ床に置いた状態で出土している。南壁付近では、やや西側の床上に焼土があり、その上に置いたような状態で12と16が出土した。土師器甕(25)は、カマド南西部の南壁寄りから横転した状態で出土している。

所見：カマドや床面直上に出土遺物から、本住居は6世紀初頭に比定される。なお、本住居では炭化材はほとんど出土していないが、一部の床面直上に大きな焼土塊があり、カマドや出土遺物の残存状況などを考慮すると、火災住居の可能性が高い。

4区4号住居(第169～171図 PL.42～44・69・70)

位置：X=203～211、Y=-864～871

形状・規模：微高地の北西側で確認された。4本主柱の大型住居で、北側の主柱の間に炉があり、南東コーナーに貯蔵穴を持つ。出入り口は南側に想定される。北壁の大半を近世の7号溝に切られているが、南北長6.85m以上、東西長6.80mのやや南北が長い方形を呈する。上面をかなり削平されており、壁高は最深部で10cmと浅い。北西側はさらに削平されており、西壁はほとんど残っていない。

なお、掘り方調査の結果、本住居は改築していることが判明した。改築は、柱穴2を基準に対角線上に拡張し

ており、貯蔵穴と出入り口の梯子穴も2つつつ確認されている。

重複：北側を近世の7号溝に切られ、西側中央を平安時代の36号土坑に切られる。

床面：床面は平坦で、各柱穴の内側に硬化面が認められた。改築前と改築後の床面の関係は判然としない。

炉：北側の柱穴1と柱穴4の間で確認された。床の長軸30cm、短軸20cmほどの範囲が焼土化しており、周囲には数箇所に炭の分布が認められた。縁石はない。

貯蔵穴：住居の南東コーナー部分で2つの貯蔵穴を確認した。1号は柱穴2の南東にある。大きさは53×48cmの円形のもので、深さは53cmである。2号はその南西に近接する。調査時は44号土坑とされたが、整理段階で貯蔵穴と判断した。大きさは83×78cmの円形を呈し、深さは72cmである。両者の新旧関係を示す材料は得られていないが、その位置や大きさから、2号が改築後の貯蔵穴だと推定する。なお、2号の覆土上層から鉢(第171図4)が出土している。

柱穴：掘り方も含めて11本を確認した。主柱は改築前が柱穴5・柱穴2・柱穴6・柱穴7の4本、改築後が柱穴1・柱穴2・柱穴3・柱穴4の4本と判断する。つまり、主柱は柱穴2を基準に対角線上に拡張したと考えられる。柱穴9と柱穴10は出入り口に伴う梯子穴に該当するが、改築前が柱穴9、改築後が柱穴10になるだろう。基準の柱穴2は動かないが、住居の大型化に伴って柱と壁の距離も広がるから、2号貯蔵穴が改築後となるだろう。

なお、柱穴11は調査時には45号土坑とされたが、整理段階で住居の柱穴だと判断した。それは、柱穴1と柱穴3は柱痕が複合しており、内側の柱痕と柱穴11を使用した段階があったのではないかと想定するからである。

周溝：なし。

掘り方：東西の壁に沿ってやや深い掘り方が確認された。また、新旧の柱穴や出入り口施設と想定される掘り込みなども確認できた。

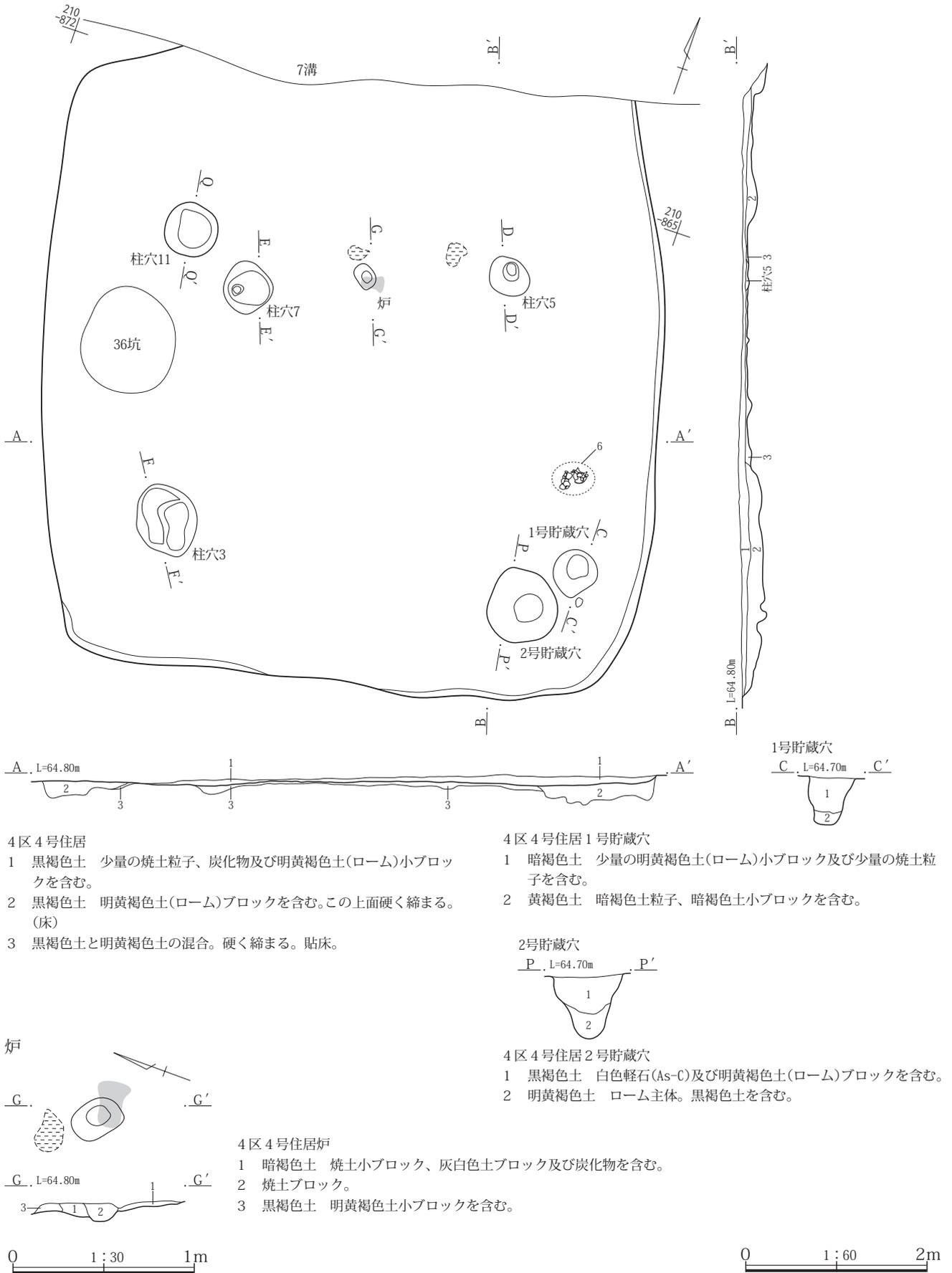
遺物出土状態：覆土中から少量の遺物が出土している。

所見：出土遺物から、本住居は4世紀後半に比定される。

4区5号住居(第172・173図 PL.44・45・70)

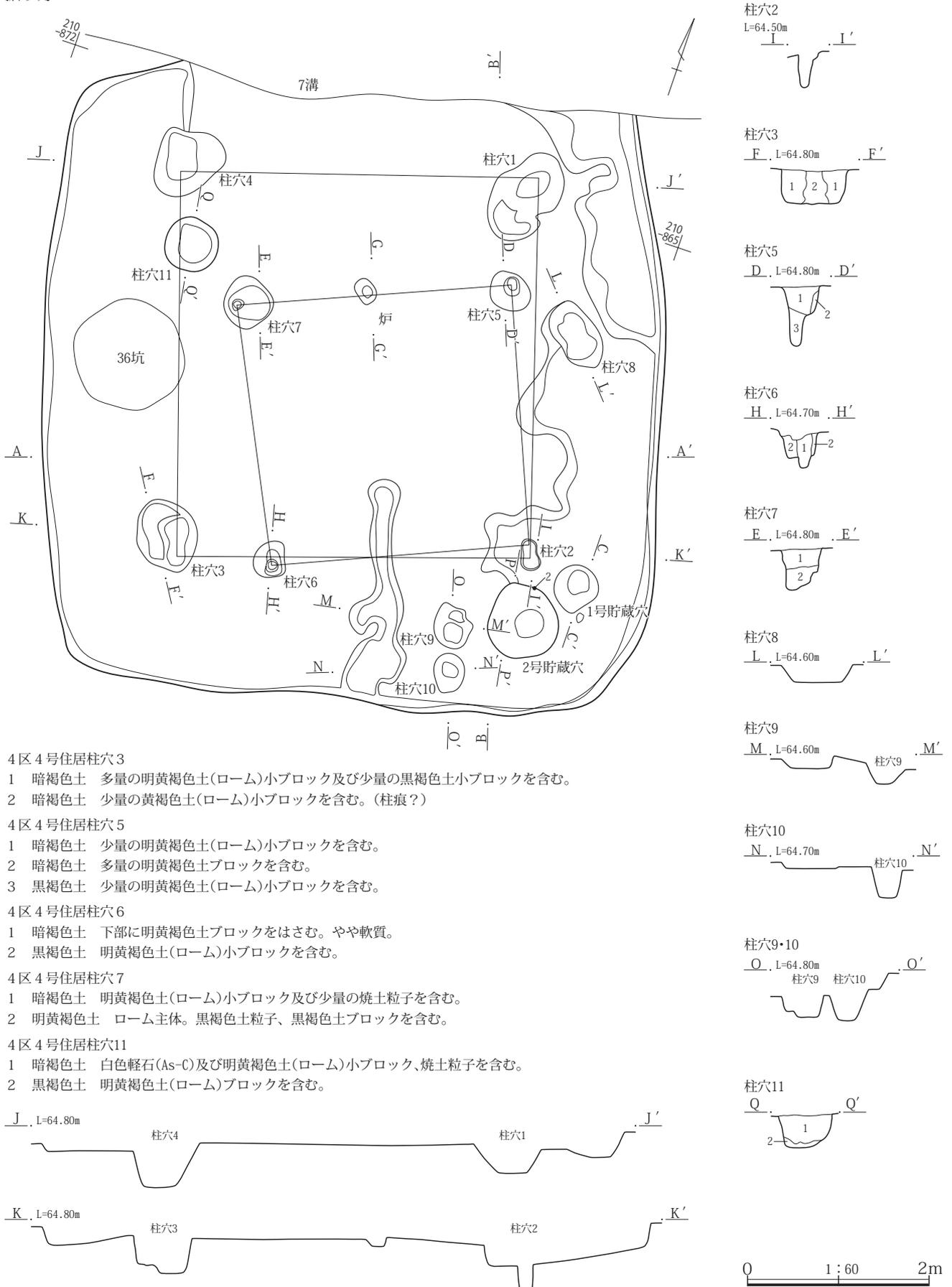
位置：X=188～195、Y=-846～861

形状・規模：微高地の中央部で確認された。調査時に11



第169図 4区4号住居(1)

掘り方



4区4号住居柱穴3

- 1 暗褐色土 多量の明黄褐色土(ローム)小ブロック及び少量の黒褐色土小ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 少量の黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。(柱痕?)

4区4号住居柱穴5

- 1 暗褐色土 少量の明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 多量の明黄褐色土ブロックを含む。
- 3 黒褐色土 少量の明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。

4区4号住居柱穴6

- 1 暗褐色土 下部に明黄褐色土ブロックをはさむ。やや軟質。
- 2 黒褐色土 明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。

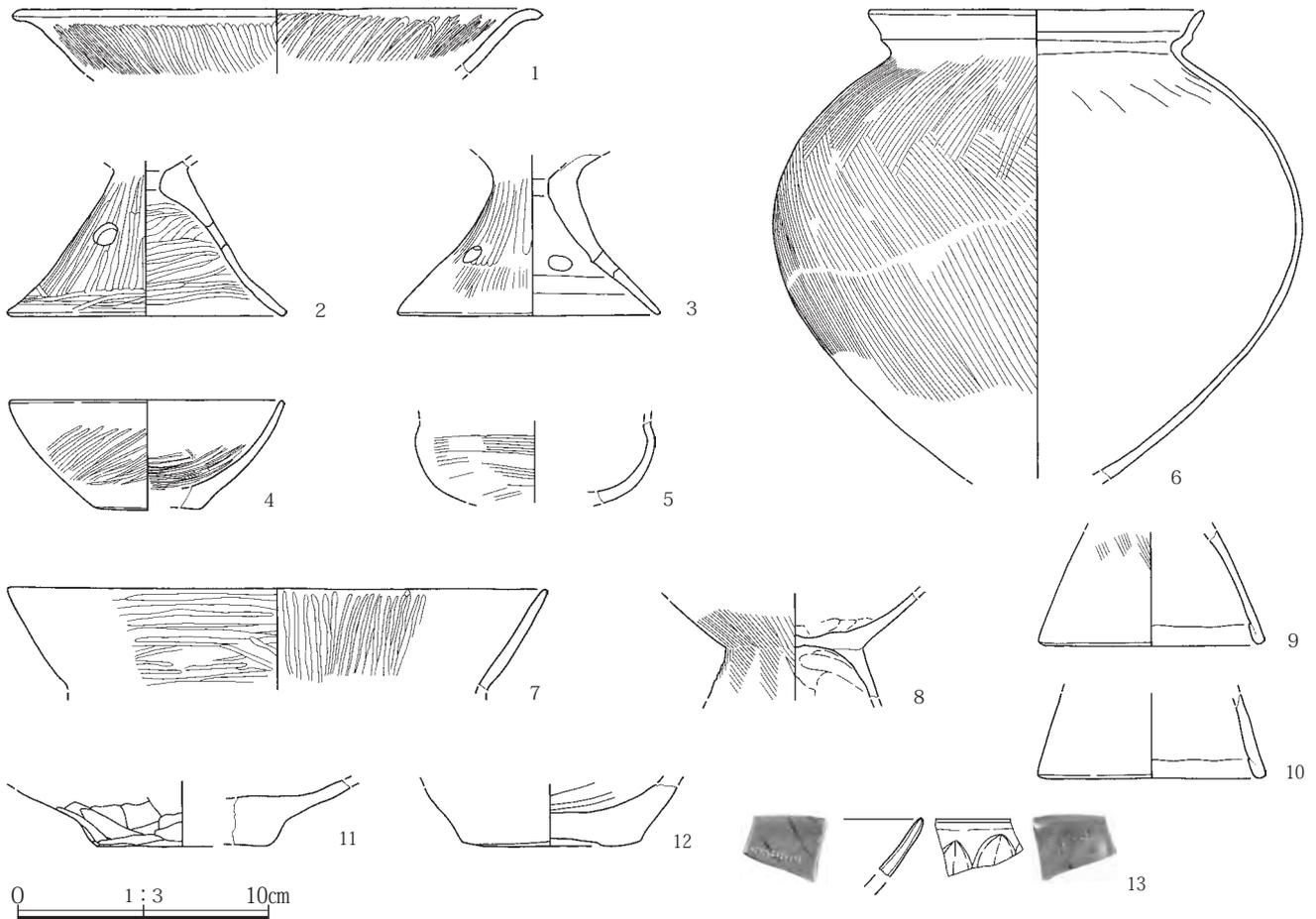
4区4号住居柱穴7

- 1 暗褐色土 明黄褐色土(ローム)小ブロック及び少量の焼土粒子を含む。
- 2 明黄褐色土 ローム主体。黒褐色土粒子、黒褐色土ブロックを含む。

4区4号住居柱穴11

- 1 暗褐色土 白色軽石(As-C)及び明黄褐色土(ローム)小ブロック、焼土粒子を含む。
- 2 黒褐色土 明黄褐色土(ローム)ブロックを含む。

第170図 4区4号住居(2)



第171図 4区4号住居出土遺物

号溝とされていたが、遺構の形態や位置、出土遺物などを検討した結果、住居外周溝だと判断した。南側が大きく調査区外に出ているため詳細は不明だが、幅1.5m、深さ0.4m前後の周堀が、東西15mほどの隅丸方形にめぐっているものと想定した。

周溝の立ち上がりは鋭角にしっかり掘り込まれており、内周部に幅30cm前後の深い部分もある。底面には掘削具の刃先の痕跡が明瞭に残る部分も多い。

なお、周溝以外に柱穴や炉などの住居を示す施設は確認されていない。

重複：中世の10号溝や54号～56号土坑が重複し、これらに切られる。

遺物出土状態：覆土中から4世紀後半の土器類が多量に出土した。その器種構成は多様であり、生活の実態を示す多くの器種が揃っている。

所見：出土遺物から、本住居を4世紀後半に比定したい。本地区では周溝を伴う4世紀代の住居が比較的に数多く確認されている。この周溝と近似する遺構として方形周溝

墓があるが、溝の規模や形態、出土遺物の器種構成などの検討から、住居の周溝だと判断した。

4区6号住居(第174図 PL.45・69・70)

位置：X=195～198、Y=843～861

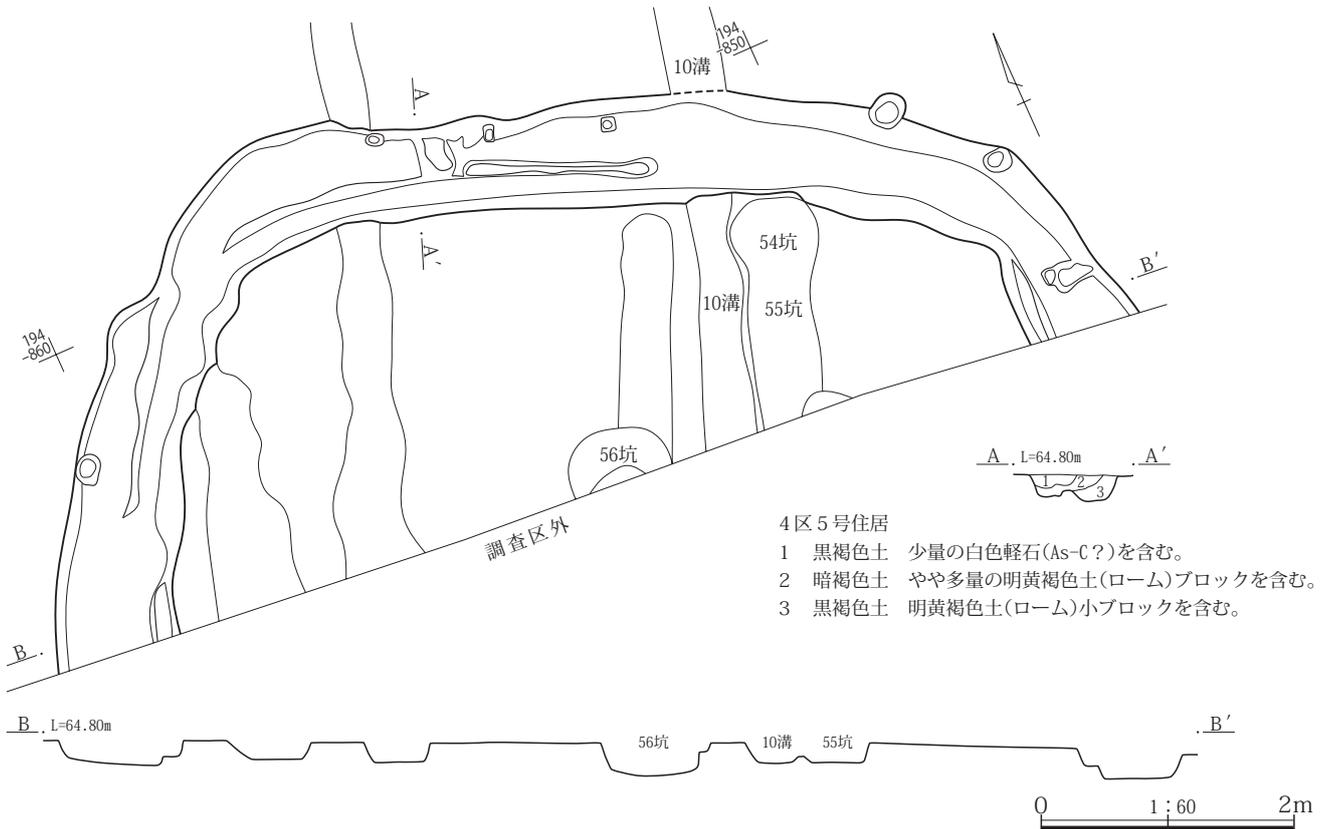
形状・規模：5号住居の北東で確認された。調査時に20号～23号ピットとしたものを柱穴に、21号土坑としたものを貯蔵穴に変更したもので、東西推定5.00m、南北推定4.90mほどの方形を呈する住居を想定した。柱間は柱穴1－柱穴4が2.00m、柱穴2－柱穴3が2.15mで、やや東西方向が長い方形を呈している。

重複：北東隅に11号土坑、南西隅に19号土坑が重複するものと思われる。

床面：調査時には個別の土坑・ピットとして確認しており、床面は認められない。

炉：確認されていない。

貯蔵穴：柱穴2の南40cmに位置する。他の遺構と同一面での確認ができなかったため、確認面を下げてトレンチ



第172図 4区5号住居

を掘り下げての確認となった。そのため、西側の一部をトレンチで失っている。直径70cmほどの円形を呈しており、南側底面から2つの埴(3・4)と小型丸底壺(2)が出土した。埴は入れ子で伏せた状態で、小型丸底壺はそれに接して横倒しの状態で出土。他に覆土中から甕の胴部大型破片(1)が出土している。

柱穴：4本が確認された。東西方向がやや長い方形に配置しており、柱穴の大きさもよく揃っている。柱穴1は23×20cmの円形で深さは21cm、柱穴2は19×17cmの円形で深さは32cm、柱穴3は24×17cmの楕円形で深さは26cm、柱穴4は28×22cmの楕円形で深さは43cmである。

所見：貯蔵穴出土遺物から、本住居は4世紀後半に比定されよう。柱穴4本と貯蔵穴のみの確認ではあるが、4世紀代の住居規格によく合致している。

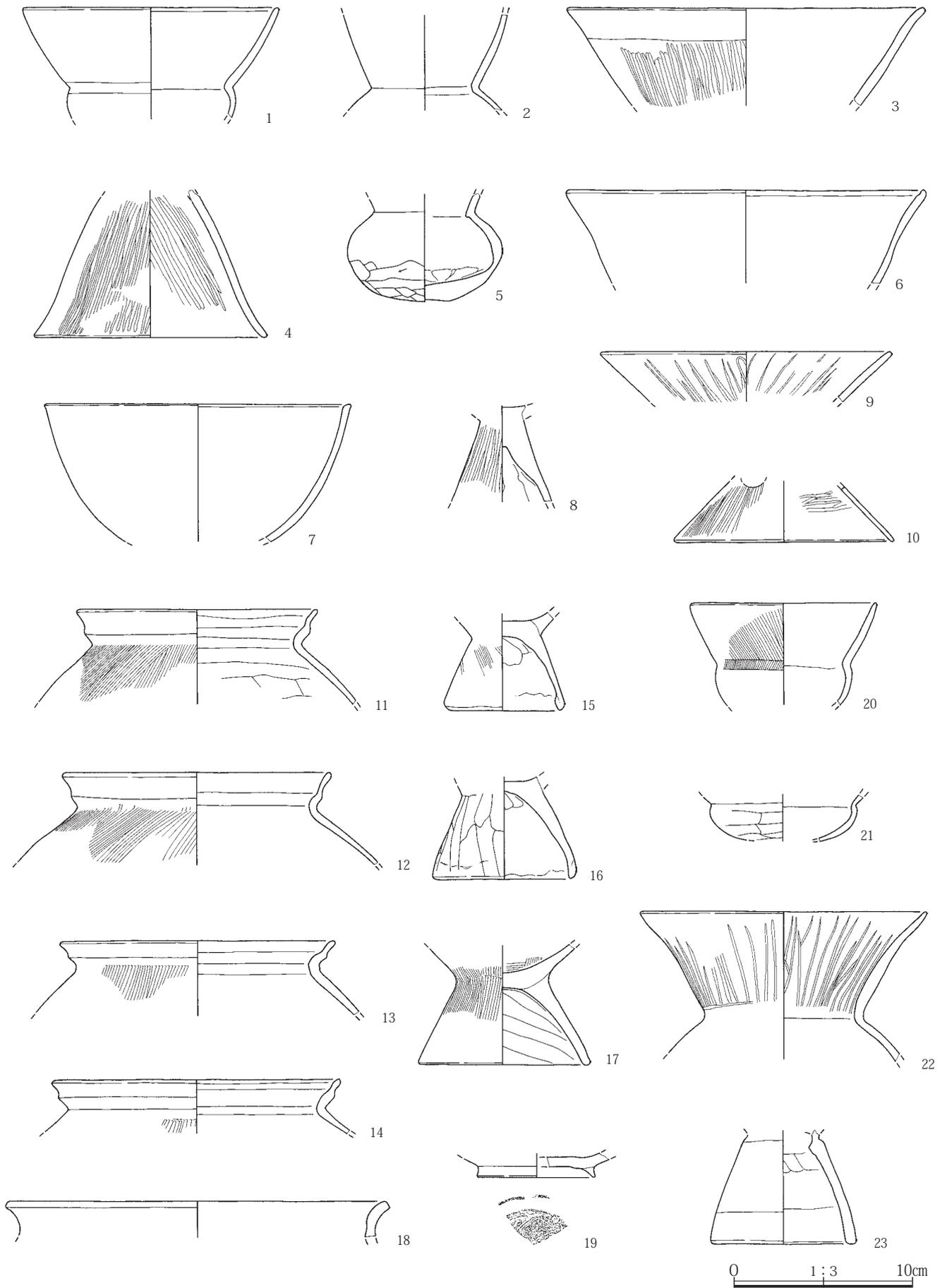
第4節 井戸

古墳時代の井戸は、5区で2基が確認された。いずれも4世紀後半代のもので、5区微高地上にも古墳時代前期の集落があったことを示していると言ってよいだろう。

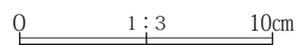
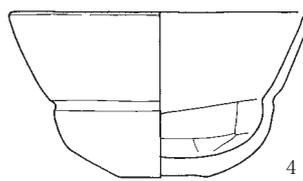
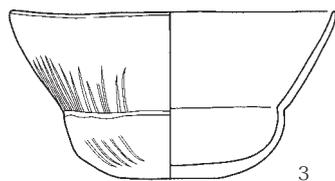
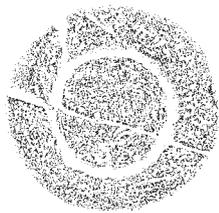
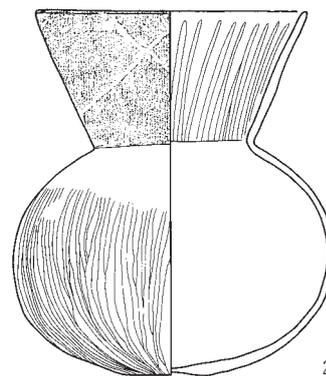
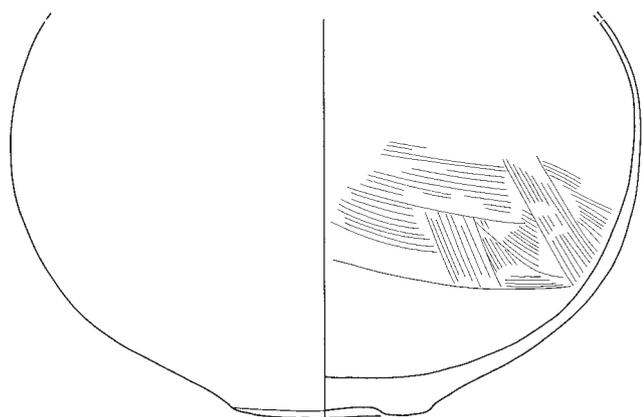
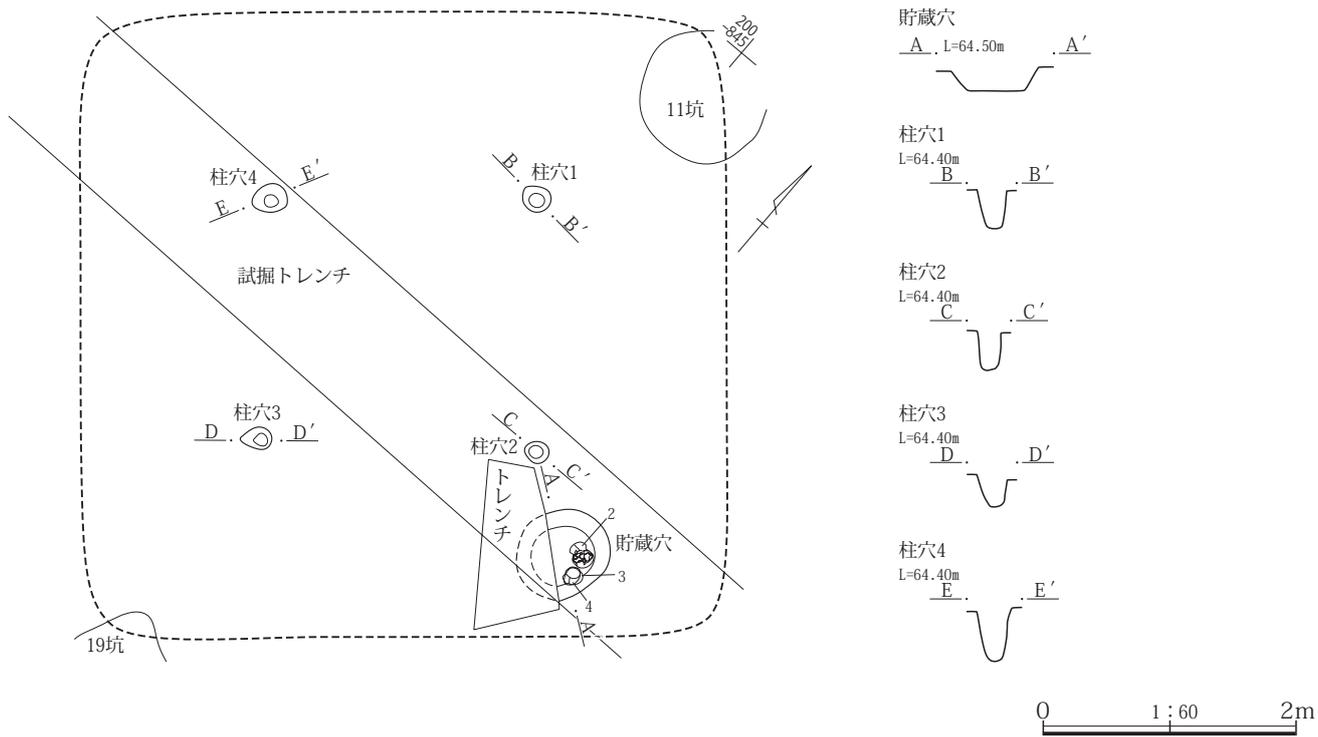
5区1号井戸(第175図 PL.64)

調査時は8号土坑とされたが、整理段階で1号井戸に変更した。この井戸は、微高地の南東隅で確認された。この場所はAs-B下水田の田面に接する位置にあたる。北側4mに平安時代の水田に伴う水口(9号土坑)があり、北東3mには古墳時代の10号土坑や26号～29号ピットなどがある。

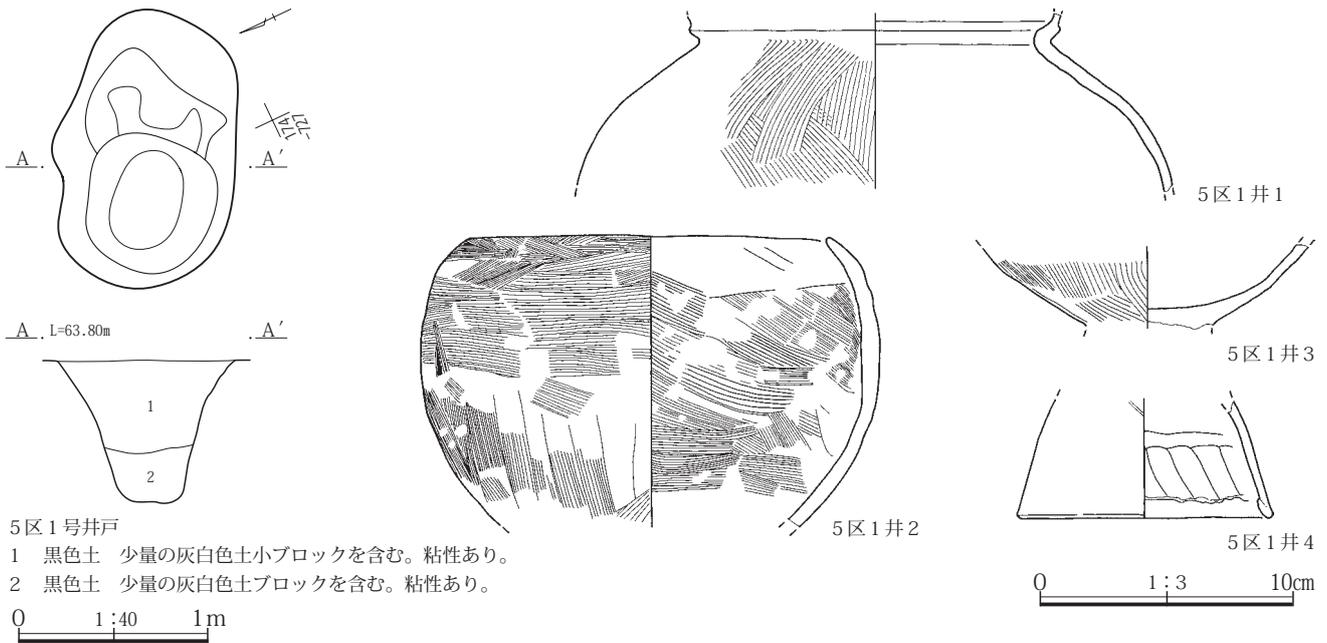
形状は、長軸1.50m、短軸0.94mの楕円形を呈し、深さは0.76mである。井戸の長軸は東西にあり、低地側に中段があって、微高地側に本体がある。遺物は、覆土中から4世紀後半代の土器類が出土しており、その時期に比定されよう。



第173图 4区5号住居出土遺物



第174図 4区6号住居と出土遺物



第175図 5区1号井戸と出土遺物

5区2号井戸(第176図 PL.64・70)

調査時は13号土坑とされたが、整理段階で2号井戸に変更した。この井戸は、微高地の北側縁辺で確認された。1号井戸から北西23mの距離にある。この場所はAs-B下水田中央部の位置にあたる。周囲には31号・32号・35号ピットなどがある。

形状は長軸0.93m、短軸0.78mの隅丸方形を呈し、深さは0.74mである。この井戸は南北に長軸をとっている。遺物は、覆土上面に4世紀代の多量の土器類を一括廃棄した状態で出土している。この井戸の年代は、出土遺物から4世紀後半に比定されよう。

第5節 土坑・ピット

(第177・178図 PL.61)

古墳時代では、土坑4基、ピット20基が確認された。内訳は、4区が土坑1基・ピット1基、5区が土坑3基・ピット19基であり、1区～3区では確認されていない。個別の計測データは巻末の第5・6表を参照頂きたい。

4区では57号土坑と34号ピットが該当するが、双方とも微高地の中央部で確認された。周囲には4世紀代の4号住居と5号住居が近接する。両遺構は覆土中から4世紀の土器が少量出土しており、その時期に比定される。

5区では10号～12号土坑および5号・8号・10号・11号・

13号・25号～37号ピットが該当する。これらの多くは微高地およびその縁辺部に分布しており、5号ピットと8号ピットでは4世紀後半の土器が出土している。この微高地には4世紀後半代の集落があったと考えられ、形状が不定形で浅い土坑は住居の掘り方、ピットは柱穴やその他の住居に伴う施設だったと想定したい。

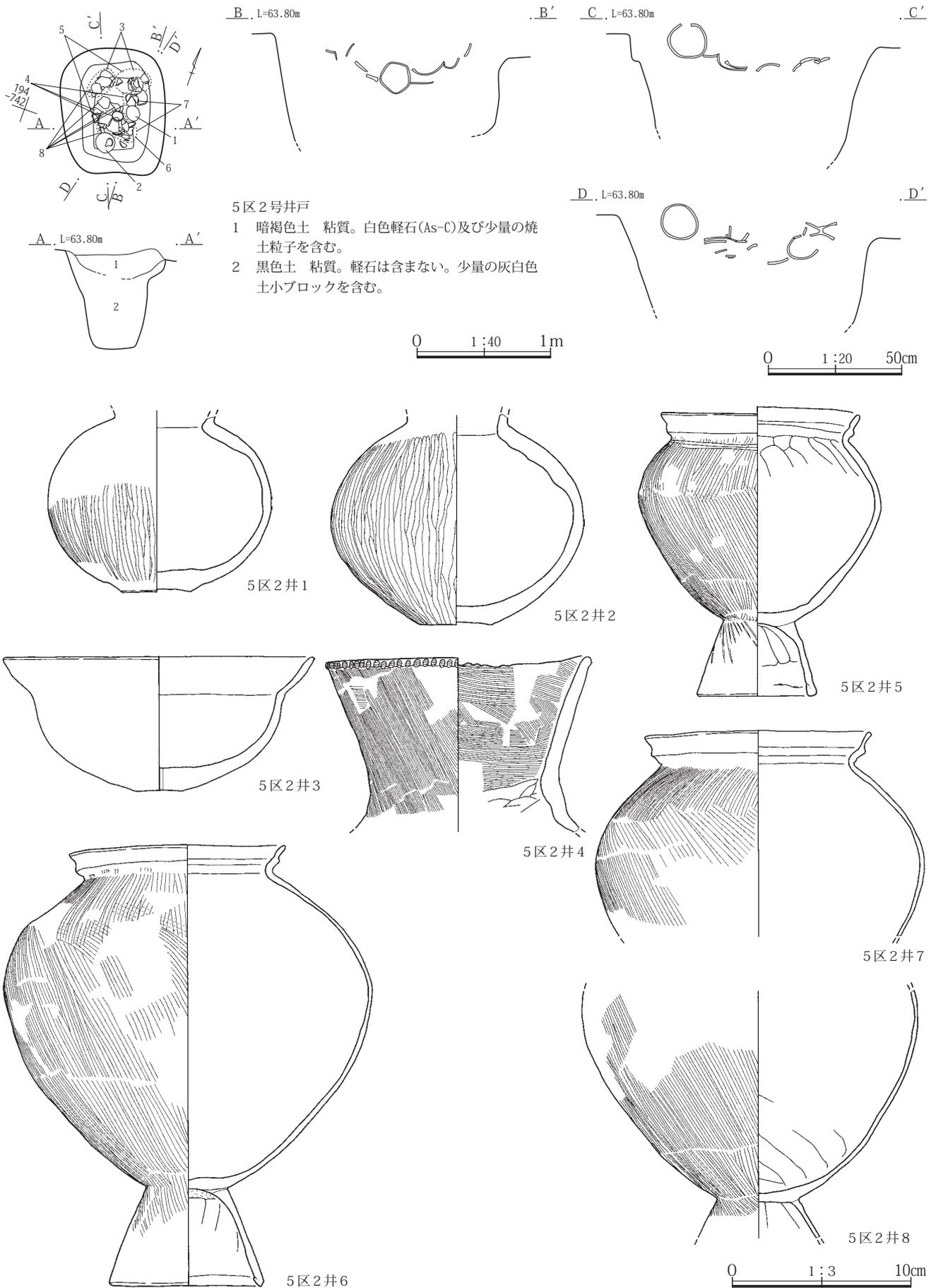
第6節 溝

(第179～183図 PL.16・20・21・23・25～27・29)

古墳時代とみられる溝は11条を確認した。内訳は、1区が2条、2区が5条、3区が2条、4区が2条、5区が1条である。これらの溝はいずれも低地に配置されており、規模も大きなものが多いことから、4世紀代に前橋台地が大規模開発された際の水路体系の一部に該当するものと想定している。これらの溝は、Hr-FA下水田の耕土と考えられる土層の下で確認されていることから、4世紀代まで遡る可能性が高い。また、本遺跡では各遺構の上面がかなり削平されており、当時はさらに規模が大きなものだったと考えられる。個別の計測データは第3表を参照頂きたい。

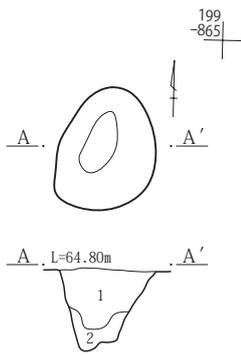
1区では、31号・32号が該当する。これらは1区低地を北西から南東に向かって弧を描いて延び、延長部は2区微高地上の20号・21号となる。2区21号溝では5世紀

第6章 古墳時代の遺構と遺物



第176図 5区2号井戸と出土遺物

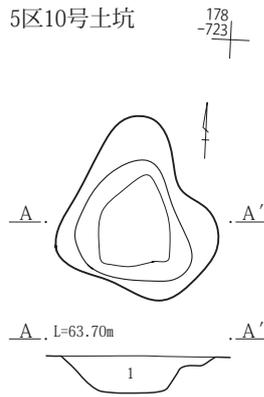
4区57号土坑



4区57号土坑

- 1 黒褐色土 白色軽石(As-C?)及び少量の明黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
- 2 黒褐色土 多量の明黄褐色土(ローム)ブロックを含む。

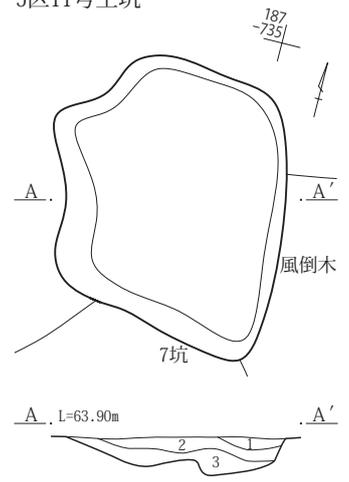
5区10号土坑



5区10号土坑

- 1 暗褐色土 粘質。褐灰色土小ブロックを含む。少量の白色軽石(As-C)を上面に含む。

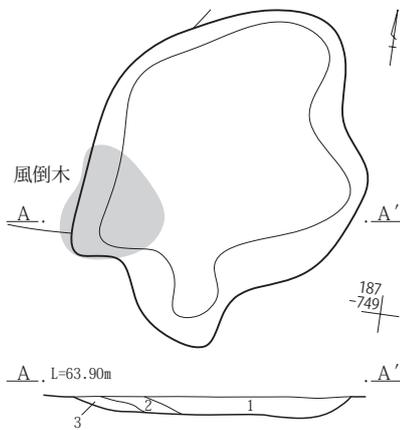
5区11号土坑



5区11号土坑

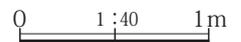
- 1 焼土 黒褐色土を含む。
- 2 黒色土 少量の白色軽石(As-C)及び黄褐色土(ローム)ブロックを含む。
- 3 黄褐色土(ローム)主体。黒色土ブロックを含む。

5区12号土坑

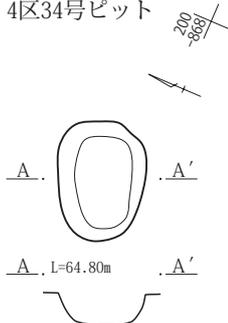


5区12号土坑

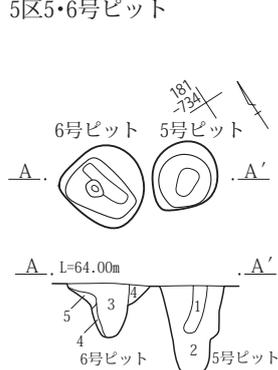
- 1 黒色土 白色軽石(As-C)及び少量の焼土粒子を含む。
- 2 焼土 少量の黒色土を含む。
- 3 黒色土 多量の焼土粒子・焼土小ブロックを含む。



4区34号ピット

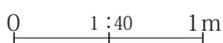


5区5・6号ピット

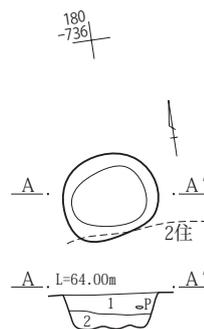


5区5・6号ピット

- 1 暗褐色土 黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。柱痕か。(ピット5)
- 2 黄褐色土ブロック・黒褐色土ブロックの混合。(ピット5)
- 3 黒褐色土 黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。(ピット6)
- 4 黄褐色土(ローム)主体 黒褐色土ブロックを含む。(ピット6)
- 5 黄褐色土(ローム) 地山。

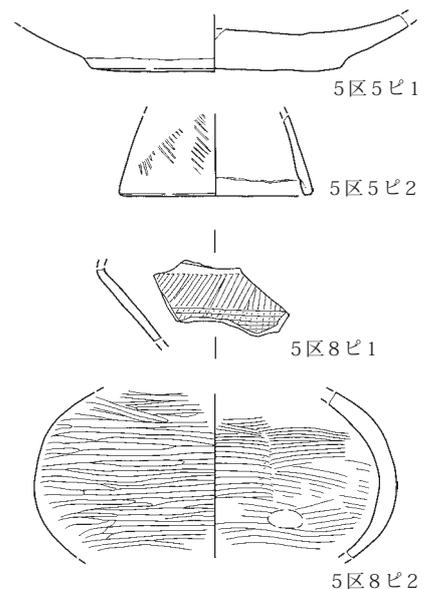


5区8号ピット



5区8号ピット

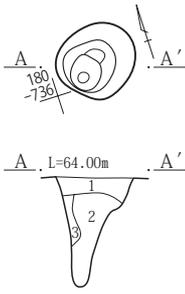
- 1 黒褐色土 少量の白色軽石(As-C?)を含む。
- 2 黄褐色土(ローム) 黒褐色土小ブロックを含む。



第177図 4・5区土坑、5区ピットと出土遺物

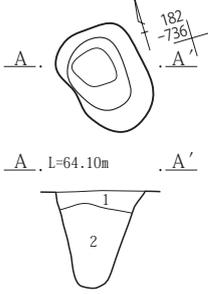
第6章 古墳時代の遺構と遺物

5区7号ピット



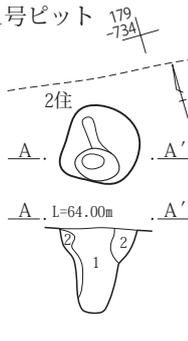
- 5区7号ピット
- 1 黒褐色土 少量の白色軽石(As-C?) 焼土粒子及び黄褐色土を含む。
 - 2 黒褐色土ブロック・黄褐色土(ローム)ブロックの混合。
 - 3 黄褐色土(ローム)主体 少量の黒褐色土小ブロックを含む。

5区10号ピット



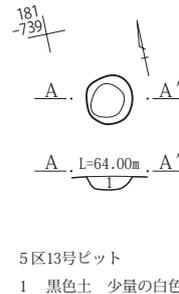
- 5区10号ピット
- 1 黒褐色土 黄褐色土ブロック及び少量の白色軽石(As-C?)を含む。
 - 2 黄褐色土(ローム)小ブロック・黒褐色土小ブロック・暗褐色土の混合。人為的埋土か?

5区11号ピット



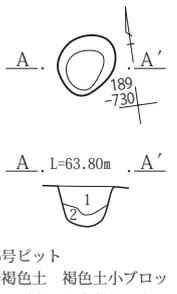
- 5区11号ピット
- 1 黒色土 少量の白色軽石(As-C?)及び黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。
 - 2 黄褐色土(ローム)主体 黒色土ブロックを含む。

5区13号ピット



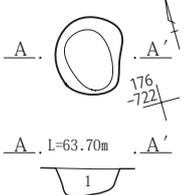
- 5区13号ピット
- 1 黒色土 少量の白色軽石(As-C?)及びやや多量の黄褐色土(ローム)小ブロックを含む。

5区25号ピット



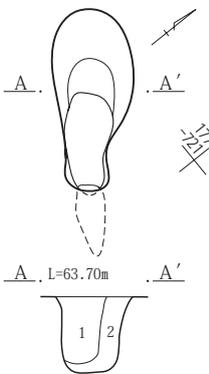
- 5区25号ピット
- 1 暗褐色土 褐色土小ブロック及び少量の白色軽石(As-C?)を含む。
 - 2 黒色土 少量の黄褐色土小ブロックを含む。

5区26号ピット



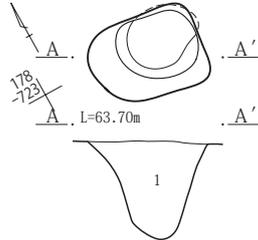
- 5区26号ピット
- 1 黒色土 粘質。少量の白色軽石(As-C)を含む。

5区27号ピット



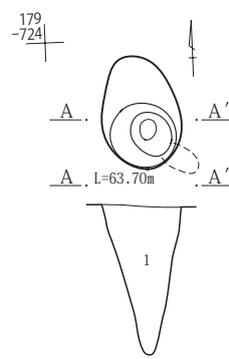
- 5区27号ピット
- 1 暗褐色土 粘質。黒褐色土ブロックを含む。少量の白色軽石(As-C)を含む。
 - 2 褐灰色土 粘質。少量の灰白色土ブロックを含む。

5区28号ピット



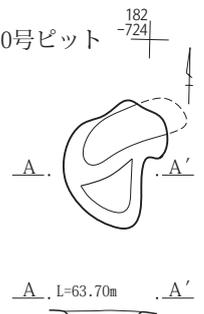
- 5区28号ピット
- 1 暗褐色土 少量の白色軽石(As-C)及び褐灰色土小ブロックを含む。

5区29号ピット



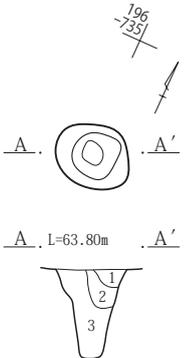
- 5区29号ピット
- 1 黒褐色土 少量の白色軽石(As-C)及び褐灰色土小ブロックを含む。

5区30号ピット



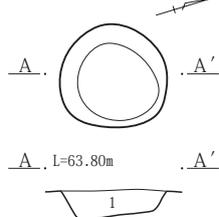
- 5区30号ピット
- 1 黒褐色土 粘質。少量の白色軽石(As-C)及び黄褐色土小ブロックを含む。

5区31号ピット



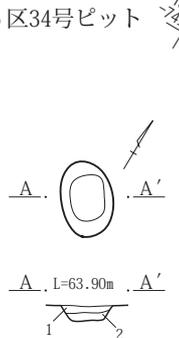
- 5区31号ピット
- 1 黒褐色土 やや粘質。少量の白色軽石(As-C)を含む。
 - 2 にぶい橙色土 粘質。少量の黒褐色土小ブロックを含む。
 - 3 黒色土 粘質。灰白色土小ブロックを含む。

5区32号ピット



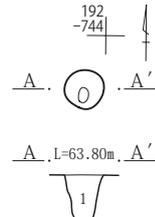
- 5区32号ピット
- 1 黒色土 粘質。少量の白色軽石(As-C)を含む。

5区34号ピット



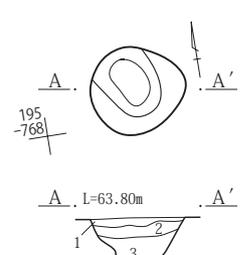
- 5区34号ピット
- 1 黒褐色土 粘質。白色軽石(As-C)を含む。
 - 2 黒褐色土とにぶい橙色土の混合。

5区35号ピット



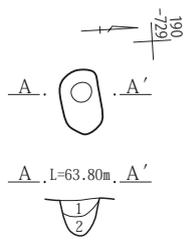
- 5区35号ピット
- 1 黒色土 粘質。少量の白色軽石(As-C)及び灰白色土小ブロックを含む。

5区36号ピット



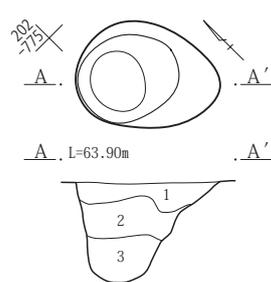
- 5区36号ピット
- 1 黒褐色土 粘質。少量の白色軽石(As-C)を含む。
 - 2 褐灰色土 粘質。少量の白色軽石(As-C)を含む。
 - 3 黒色土 粘質。明褐色土小ブロックを含む。

5区33号ピット

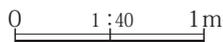


- 5区33号ピット
- 1 黒褐色土 粘質。少量の白色軽石(As-C)を含む。
 - 2 黒色土 粘質。明褐色土小ブロックを含む。

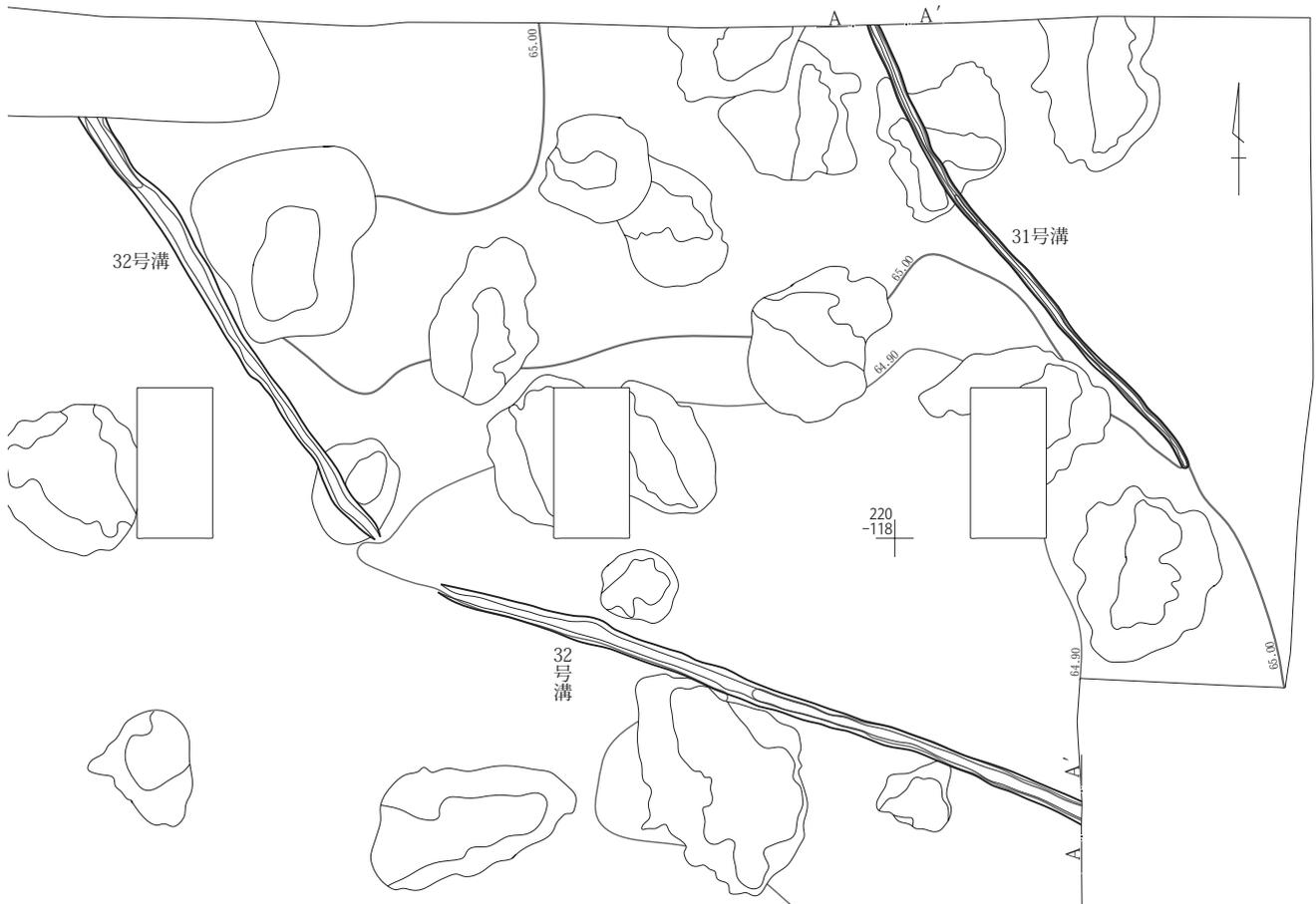
5区37号ピット



- 5区37号ピット
- 1 黒色土 粘質。少量の白色軽石(As-C)を含む。
 - 2 黒褐色土 粘質。にぶい黄褐色土ブロックを含む。
 - 3 黒色土 粘質。灰白色土小ブロックを含む。



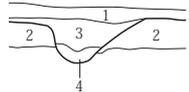
第178図 5区ピット



0 1 : 200 10m

31号溝

A L=65.50m

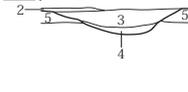


1区31号溝

- 1 褐灰色土 少量のAs-B軽石層含む。
- 2 黒色土 As-C軽石含む。
- 3 黒褐色土 白色軽石粒(As-C)含む粘質土。
- 4 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

32号溝

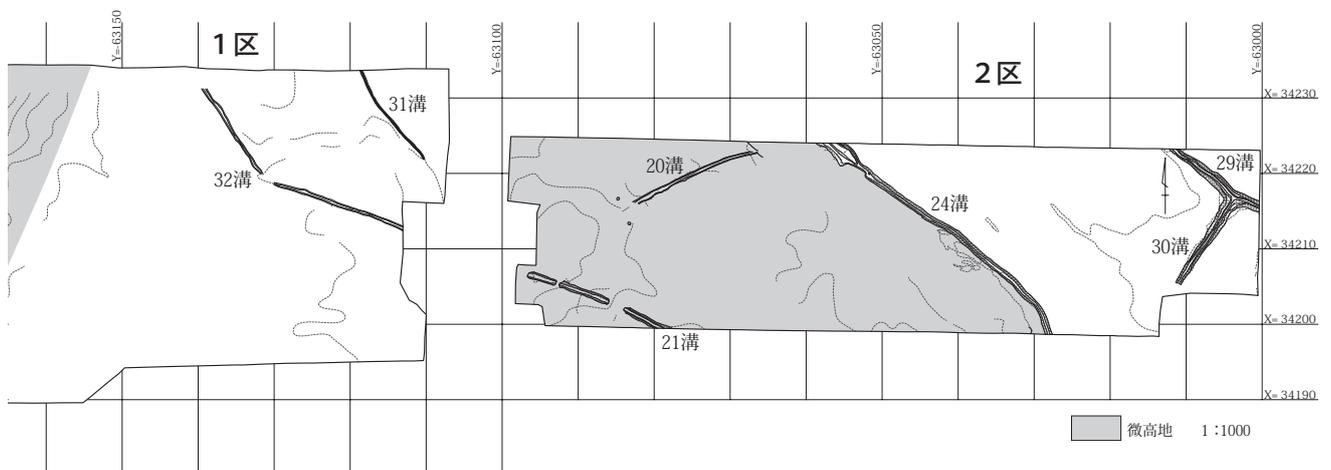
L=65.10m



1区32号溝

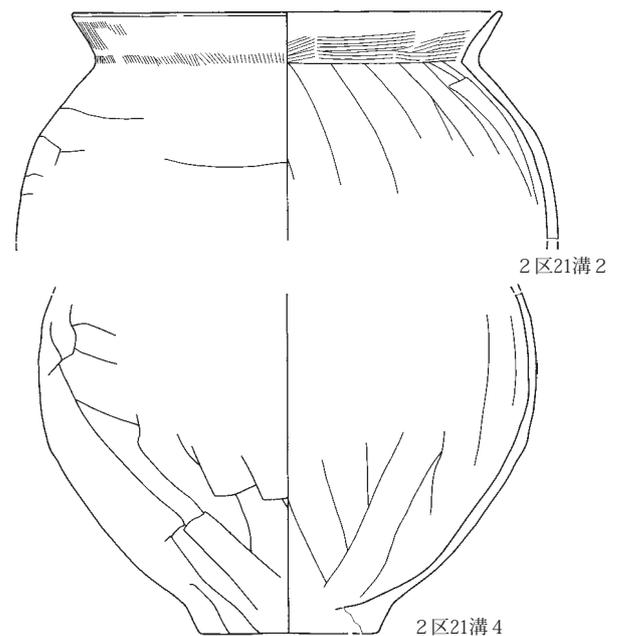
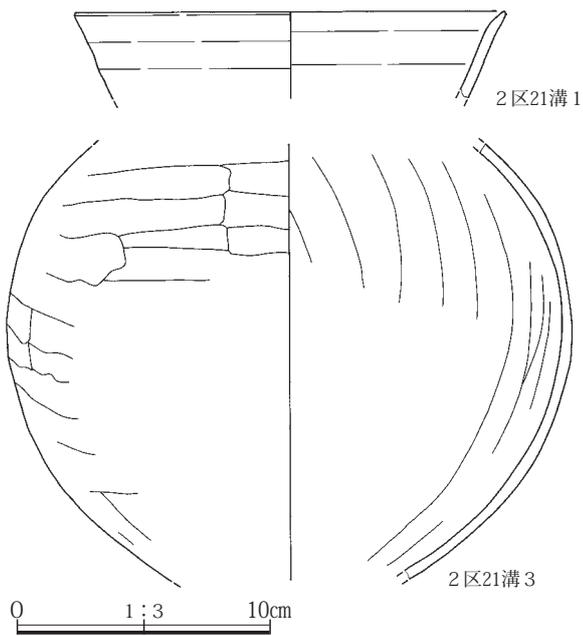
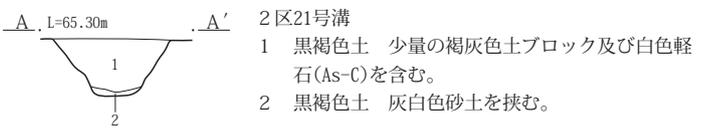
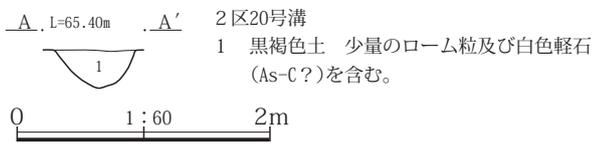
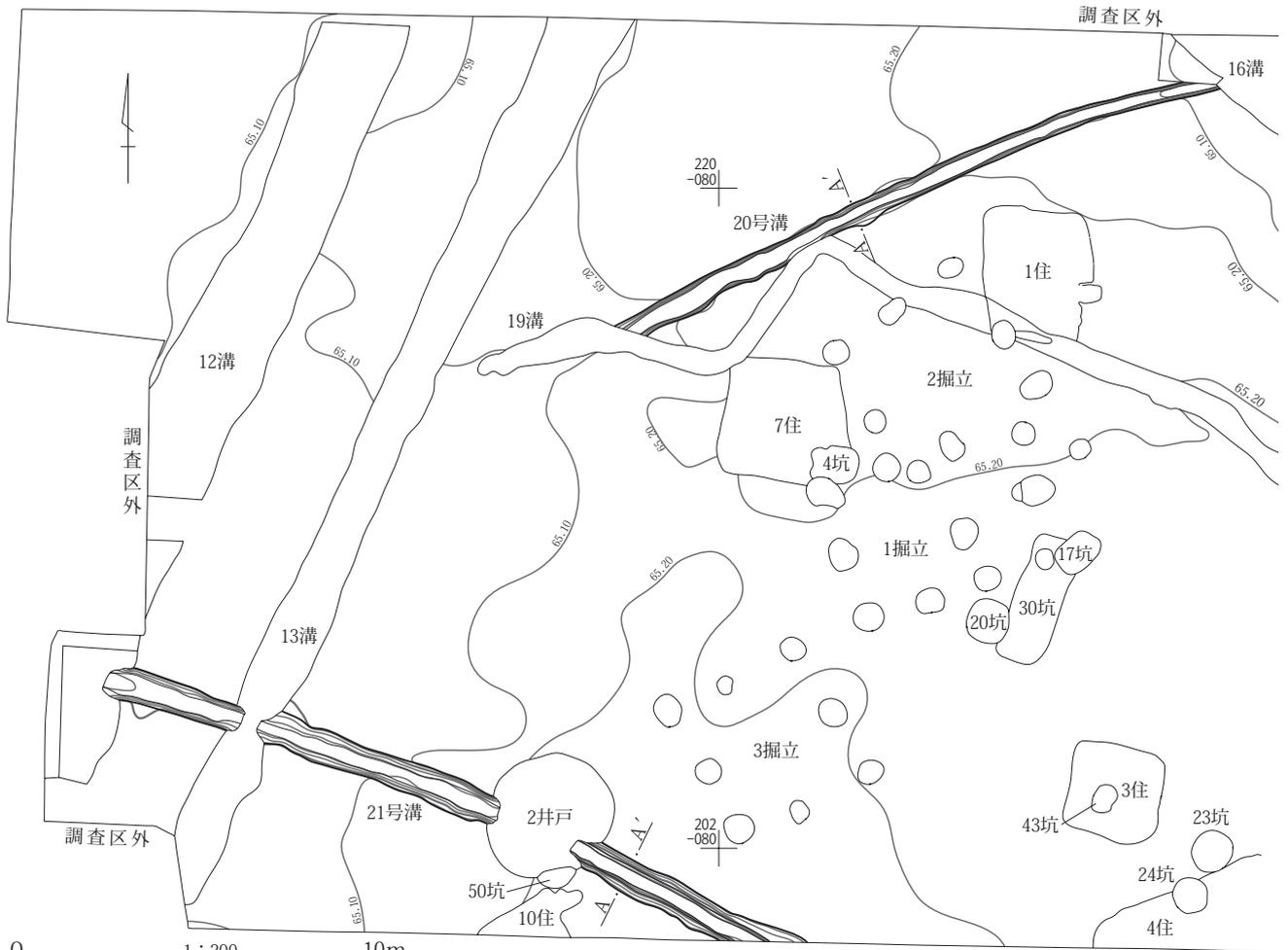
- 1 褐灰色土 少量のAs-B軽石層含む。
- 2 褐色土 FAブロック含む。
- 3 黒褐色土 白色軽石粒(As-C)含む粘質土。
- 4 暗褐色土 砂粒、As-C軽石含む。
- 5 黒色土 As-C軽石含む。

0 1 : 60 2m

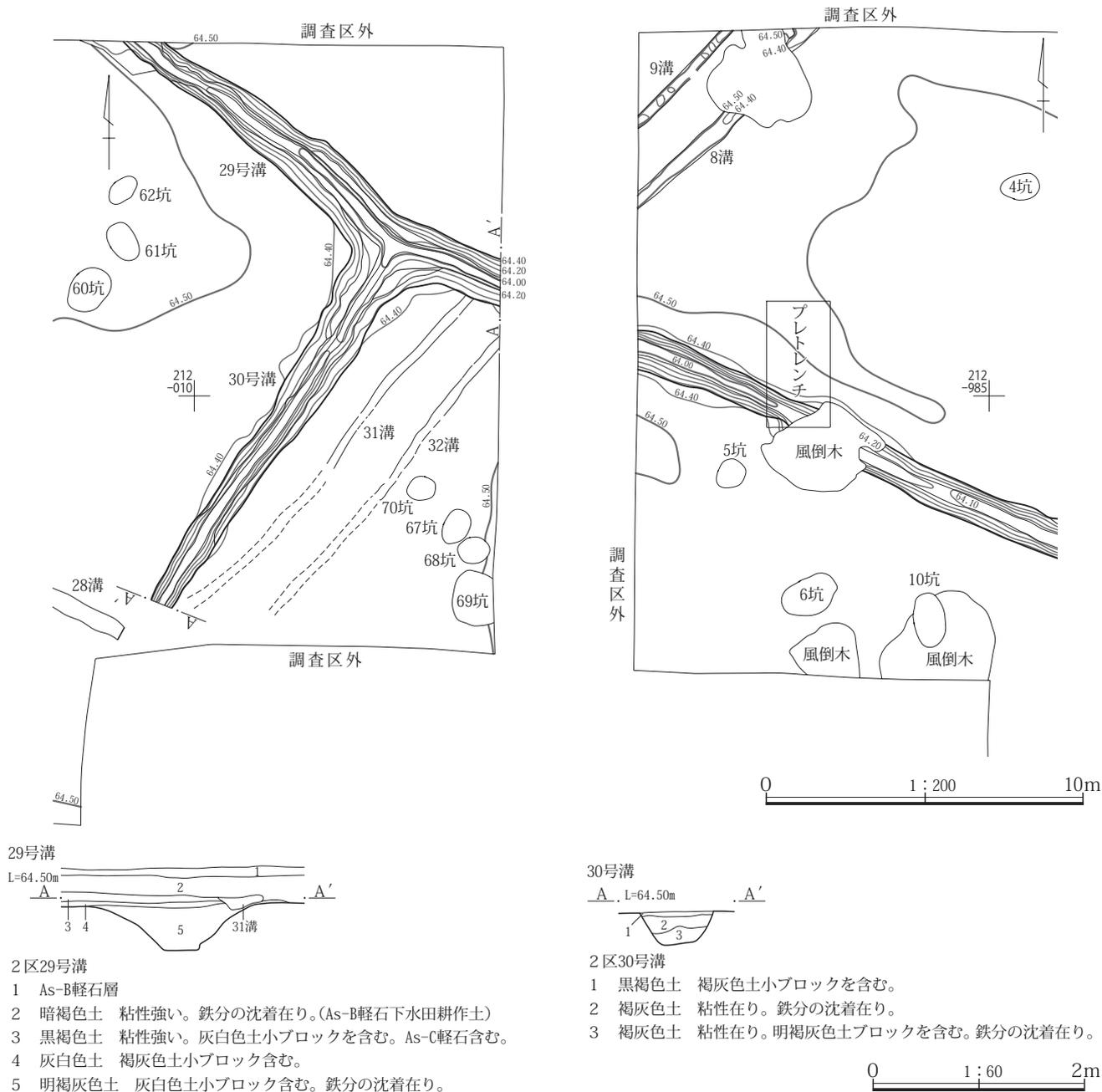


微高地 1 : 1000

第179図 1区31・32号溝



第180図 2区20・21号溝と出土遺物



第181図 2区29・30号溝

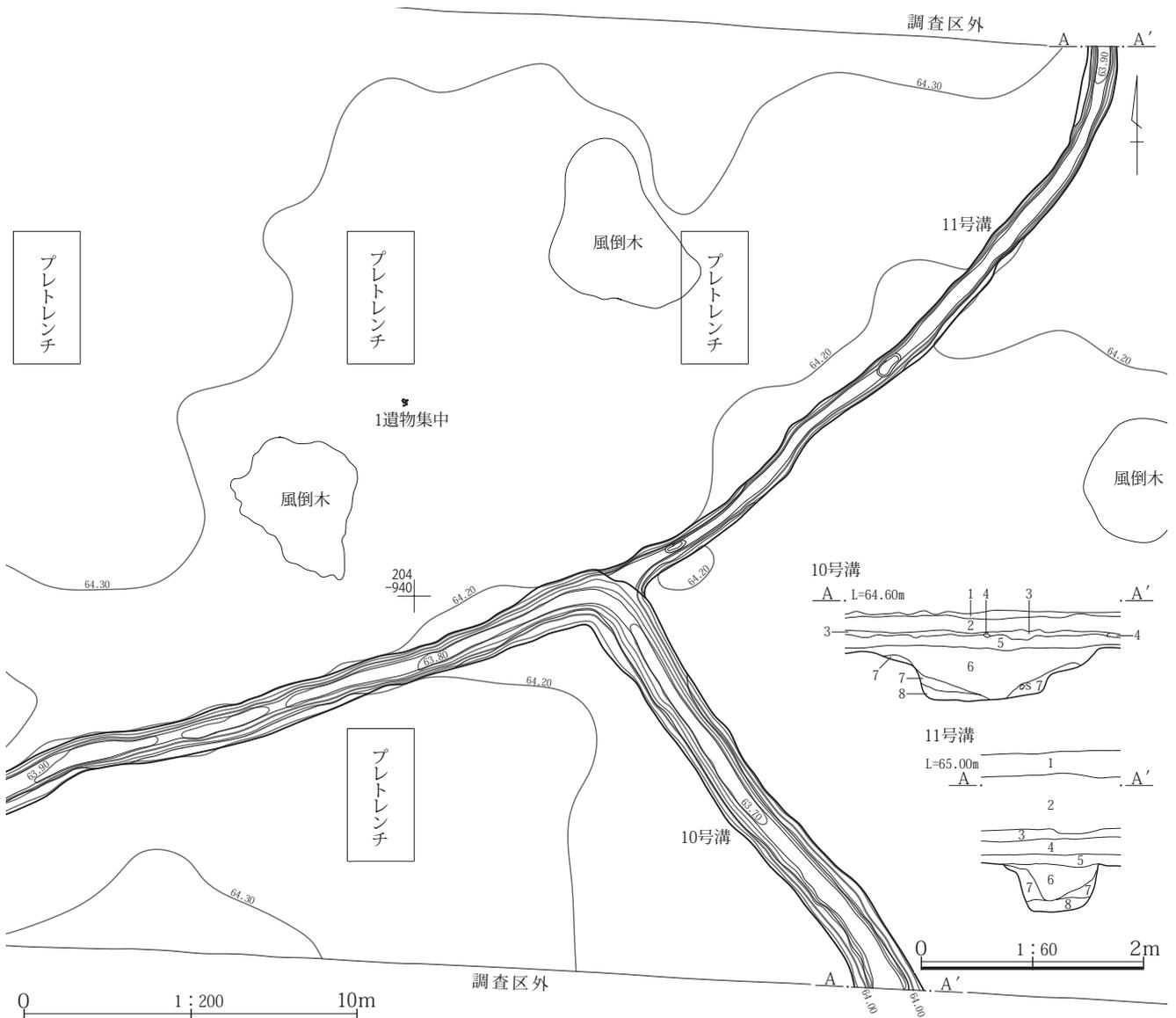
前半代の遺物が出土している。2区低地では24号・29号・30号があり、地形に沿った方形状の区画を描く。24号はその後平安時代まで継承されたと考えたい。29号は、延長が3区低地の10号となり、弧を描いて11号へと続き、一方はT字状に分岐して南下する。3区10号溝の3層が洗われたHr-FA層で、4層は水田耕土であろう。4区では、くの字に折れて南下する2号と、そこからT字状に分岐する3号があり、5区では低地東側を斜めに横切る3号がある。4区2号・3号溝の9層にHr-FAが含まれており、9・10層は水田耕土であろう。溝はその耕土下

で確認されている。

第7節 遺物集中

(第182図 PL.65)

3区最終面の調査で、10号溝が南へ折れる地点の北西15mのところ、4世紀後半の土器数個体が集積された状態で確認された。これを3区1号遺物集中とする。遺物は黒褐色土の最下面にS字口縁台付甕をはじめ数個体があったが、上面を削平されており、残っていたのは潰

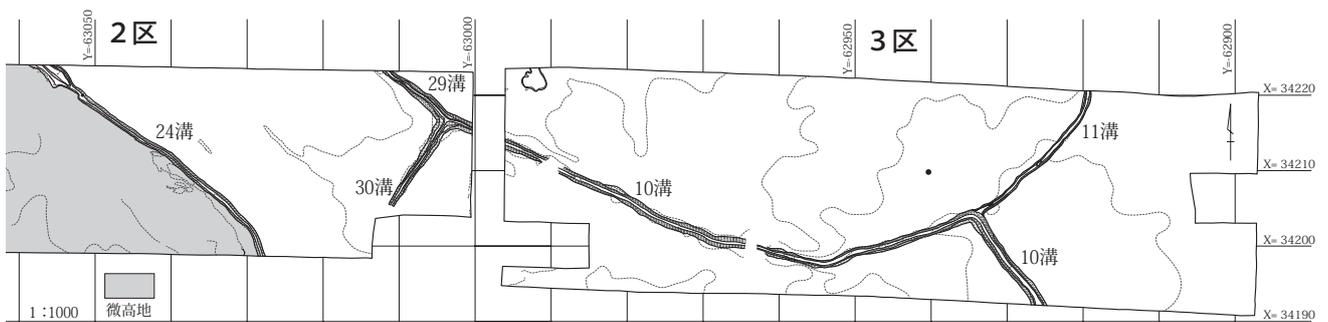


3区10号溝

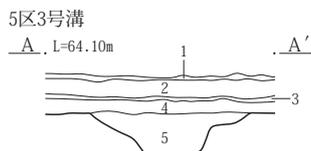
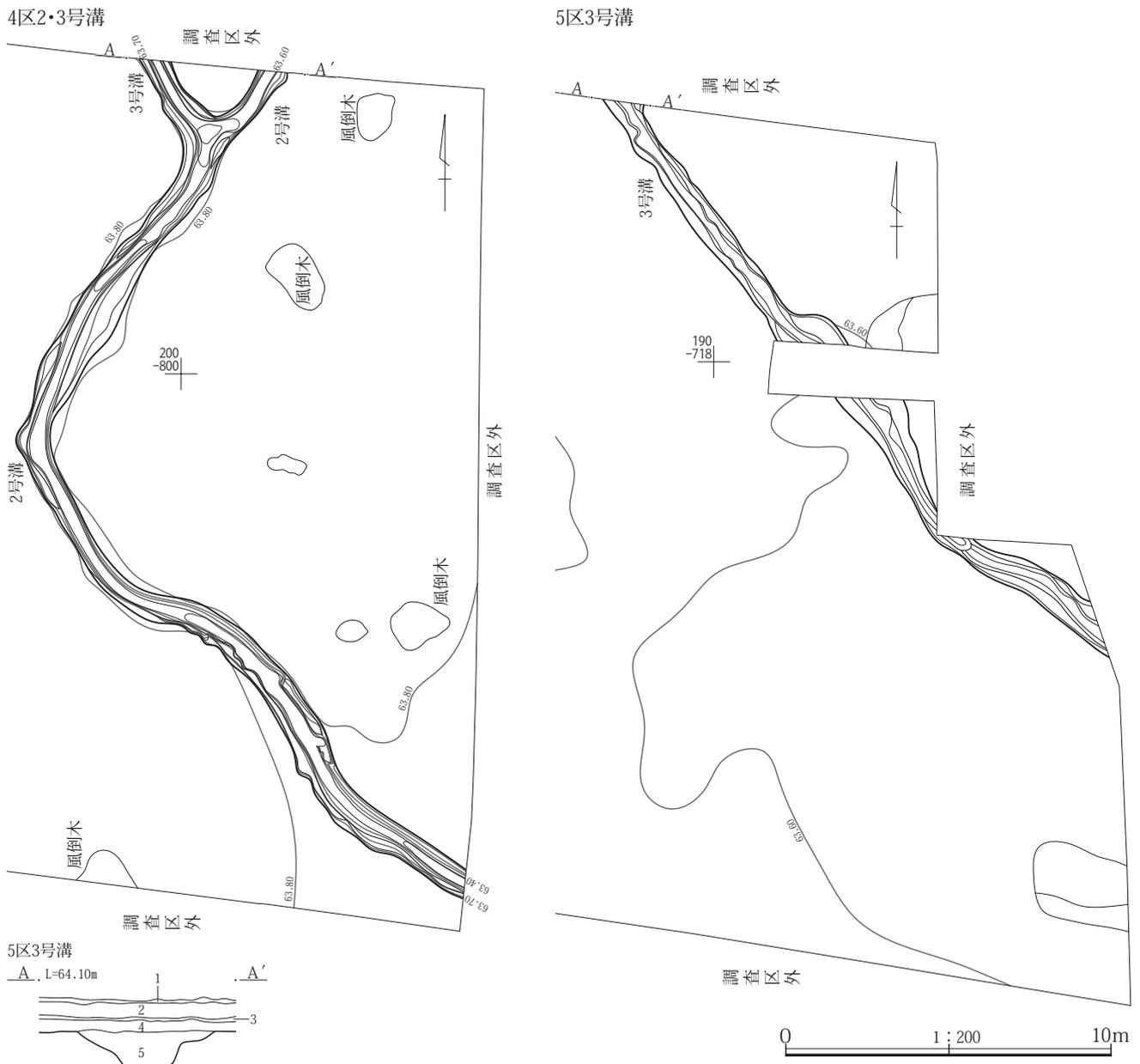
- 1 As-B
- 2 褐灰色土 粘質。上面は暗褐色。As-B下の水田耕作土。
- 3 褐灰色土 粘質。Hr-FAの小ブロックを含む。
- 4 Hr-FA 二次堆積のHr-FA。
- 5 黒色土 粘質。As-Cを含む。
- 6 明褐灰色土 粘質。少量の灰白色土小ブロックを含む。鉄分の沈着あり。
- 7 灰白色土 粘質。明褐灰色土ブロックを含む。
- 8 明褐灰色砂質土 多量の砂及び少量の灰白色土小ブロックを含む。

3区11号溝

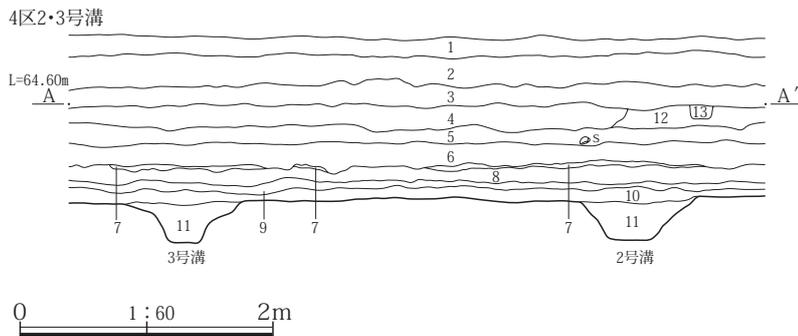
- 1 現耕作土
- 2 褐灰色砂質土 江戸時代の洪水層。分層可能。
- 3 As-B
- 4 褐灰色土 粘質。As-B下水田の耕作土。
- 5 黒色土 粘質。As-Cを含む。
- 6 褐灰色土 粘質。鉄分の沈着が見られる。
- 7 灰白色土 粘質。褐灰色土小ブロックを含む。
- 8 褐灰色土 砂土。砂の中に灰白色土小ブロックを含む。



第182図 3区10・11号溝



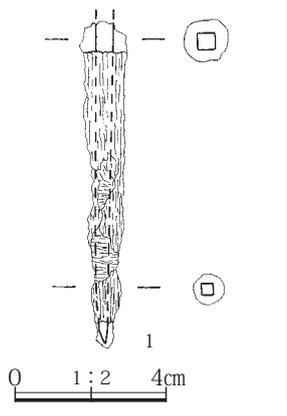
- 5区3号溝
- 1 As-B
 - 2 黒褐色土 粘質。As-B下水田耕作土。少量の白色軽石(As-C?)を含む。
 - 3 黒褐色土 粘質。橙色土(二次堆積Hr-FA)ブロックを含む。
 - 4 黒色土 粘質。白色軽石(As-C)を含む。
 - 5 黒褐色土 粘質。少量の白色軽石(As-C)及び黒褐色土ブロックを含む。(3号溝覆土)



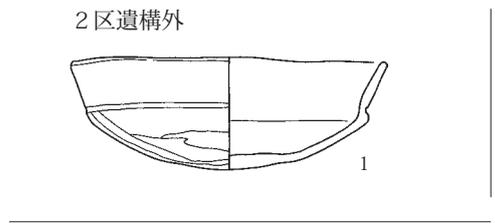
- 4区2・3号溝
- 1 耕作土 現代の水田耕作土。
 - 2 盛土 圃場整備時の盛土。
 - 3 褐灰色土 やや砂質で締まる。多量の白色軽石(As-A)を含む。
 - 4 褐灰色土 暗褐色土ブロック・As-Aブロックを含む。(1号復旧溝群覆土)
 - 5 灰褐色土 少量の軽石(As-B)を含む。
 - 6 褐灰色土 多量の軽石(As-B)を含む。(As-B混土層)
 - 7 As-B
 - 8 黒褐色土 粘質強く緻密。As-B下水田耕作土。
 - 9 黒褐色土 二次堆積のHr-FA小ブロックを含む。
 - 10 黒褐色土 粘性強い。白色軽石(As-C)を含む。
 - 11 黒褐色土 粘質強く褐灰色土小ブロックを含む。(2・3溝共にほぼ同じ土。同時の溝か)
 - 12 灰褐色土 白色軽石(As-A)を含む。
 - 13 褐灰色土 1号溝覆土。

第183図 4区2・3号溝、5区3号溝

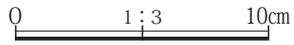
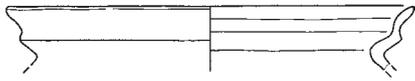
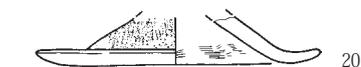
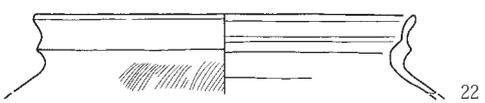
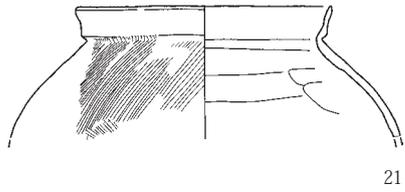
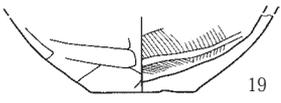
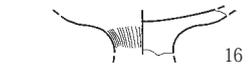
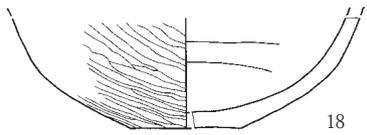
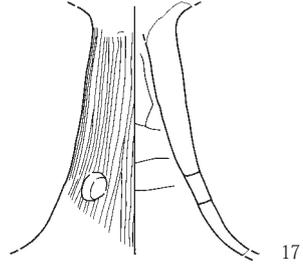
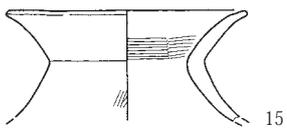
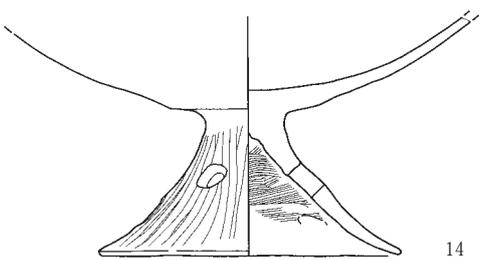
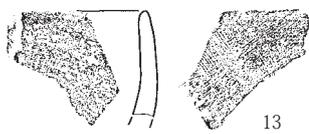
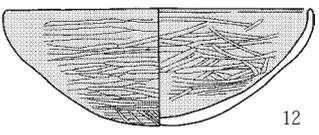
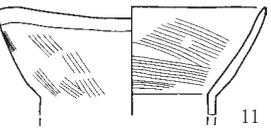
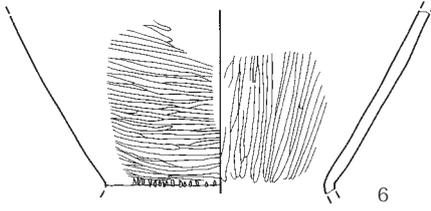
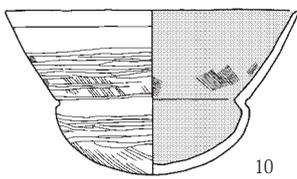
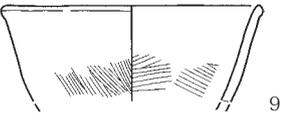
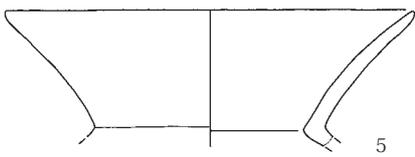
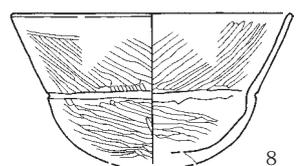
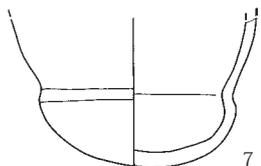
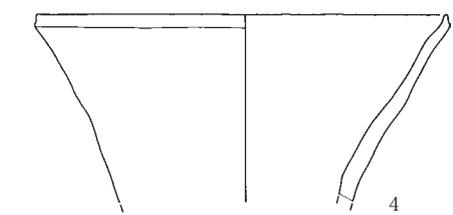
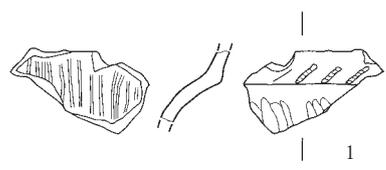
1区遺構外



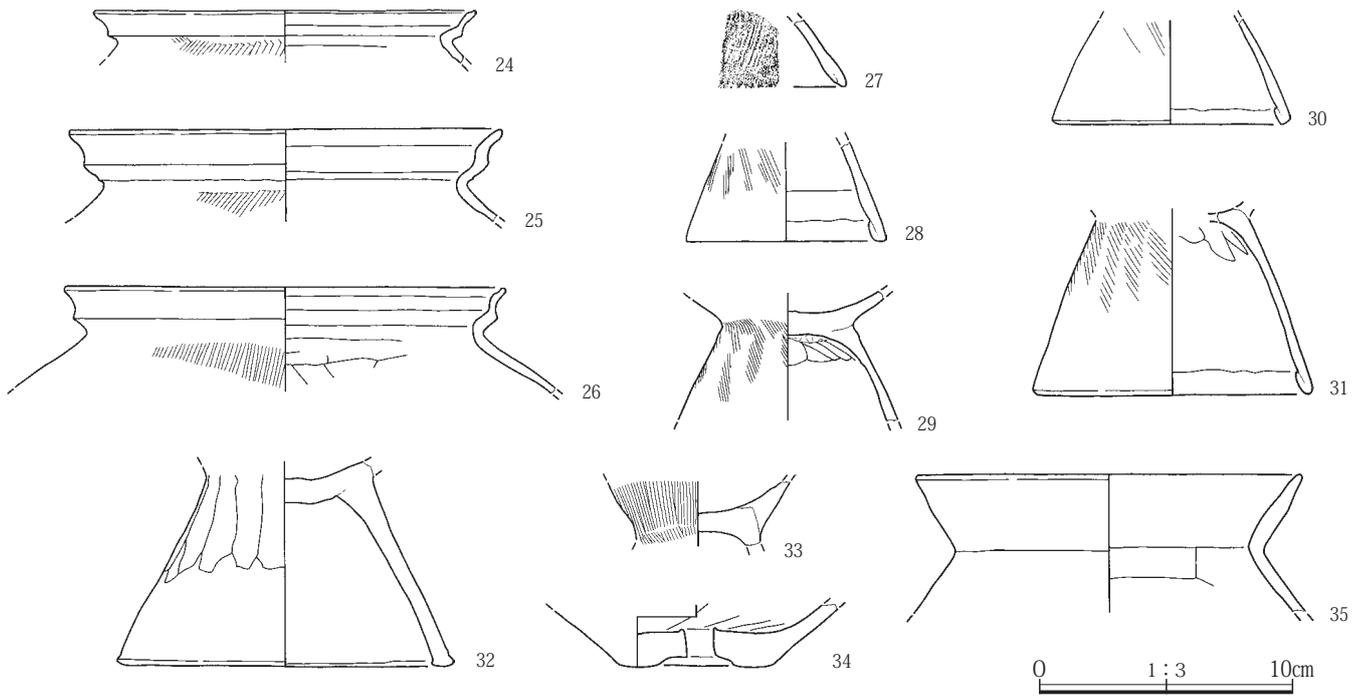
2区遺構外



4区遺構外



第184図 1・2・4区遺構外出土遺物(古墳時代)



第185図 4区遺構外出土遺物(古墳時代)

れた小破片のみであった。図化も不可能だったが、この低地で4世紀後半に生産活動があったことを暗示する貴重な材料の一つである。

第8節 遺構外の出土遺物

(第184・185図 PL.69~71)

1は1区1号古墳周堀の内側にある攪乱部で確認され

た鉄鏃の茎で、1号古墳に伴う可能性がある。2は2区出土の土師器杯で、6世紀前半に比定されるが、2区では溝以外に古墳時代の遺構がないため、貴重である。3~33は4区出土の4世紀後半代の各種土器である。4区の微高地が古墳時代前期の集落であることをよく示している。35は6世紀初頭の土師器甕で、4区ではこの時期の遺構は見当たらない。

第7章 弥生時代以前の調査

第1節 発掘調査の概要

(第186~188図 PL.65)

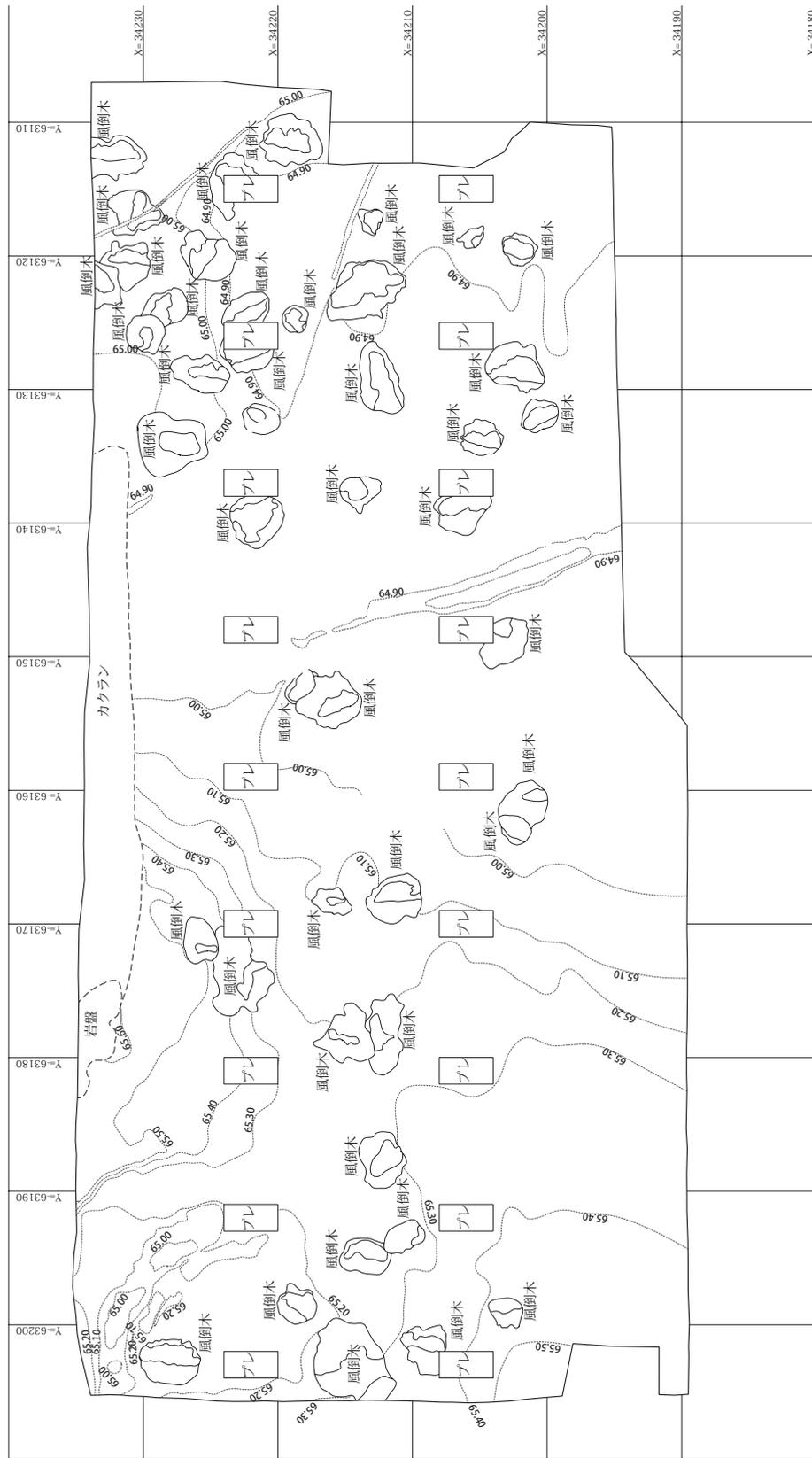
最終調査面の遺構確認の結果、弥生時代以前の遺構はなかったが、各区で多量の倒木痕が確認された。倒木の年代を示す材料は得られていないが、倒木痕は微高地に集中する傾向があり、興味深い。なお、調査の最終段階で旧石器時代の試掘調査も実施したが、旧石器も確認されなかった。

第2節 遺構外の出土遺物

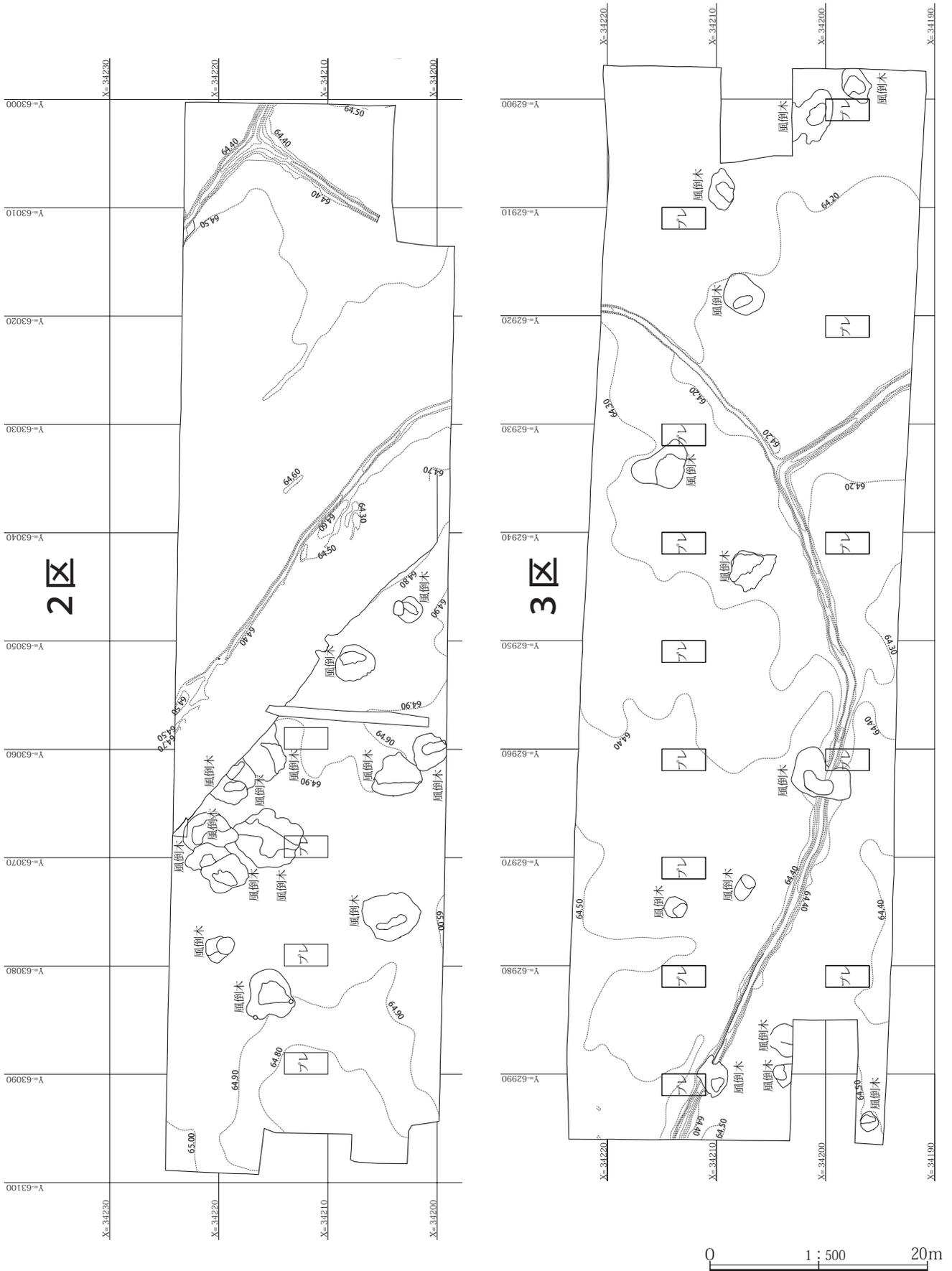
(第189図)

各面の調査や最終確認面の調査で、縄文時代の遺物が少量出土している。出土した地区は1区と4区が大半である。土器の時期別内訳は、前期後半が43点、中期後半が10点、後期前半が15点、時期不明が4点である。そのうちのいくつかを第189図に示した。各期に小規模な活動があったのであろう。石器は、2区で黒曜石製の無茎石鏃1点(24)、1区で磨製石斧を転用した敲石が1点(25)出土している。

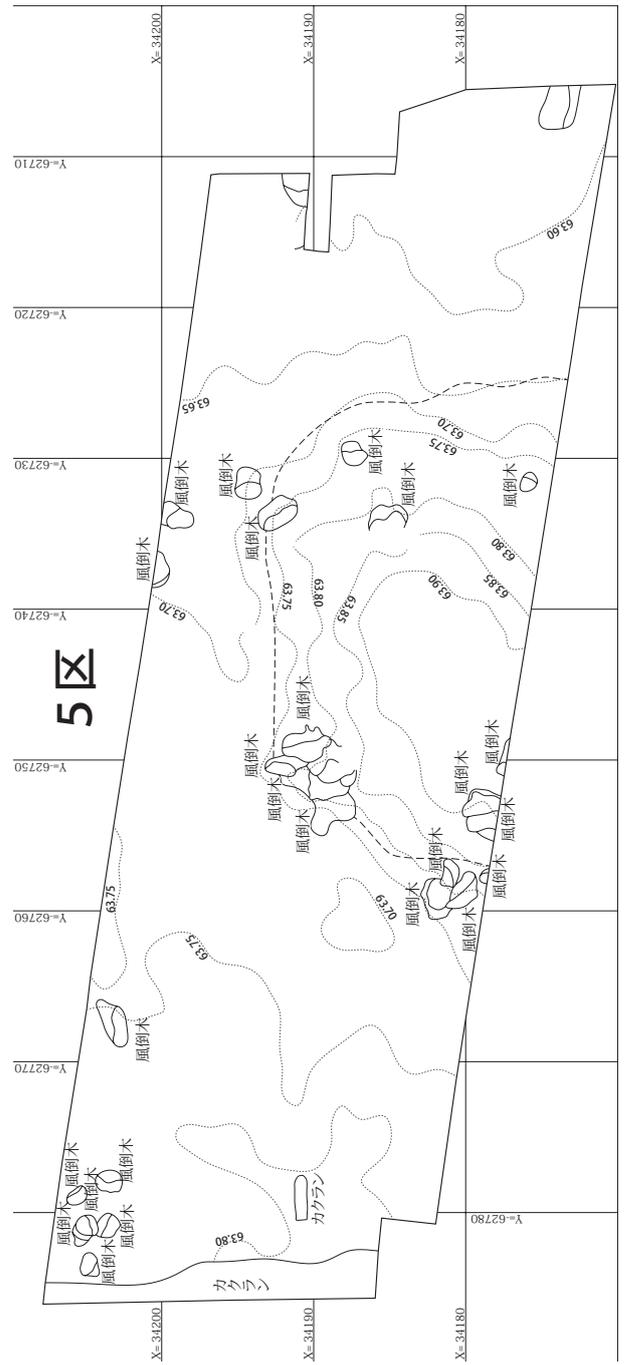
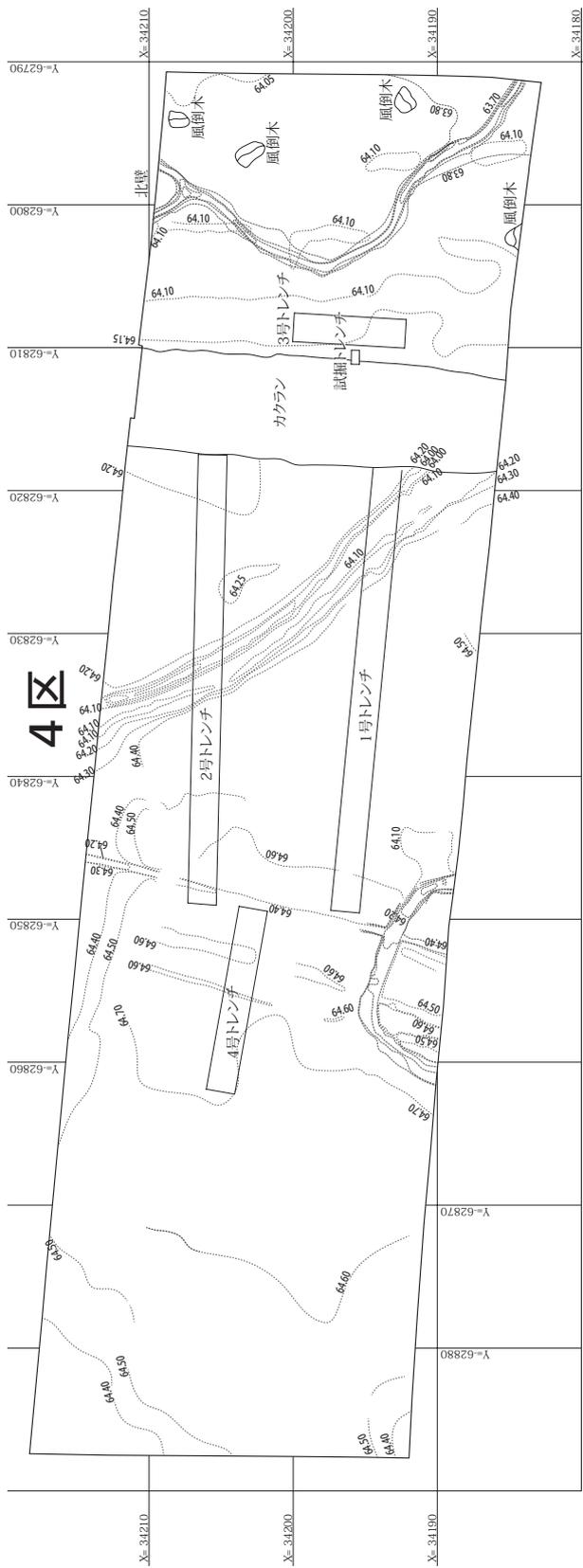
1区



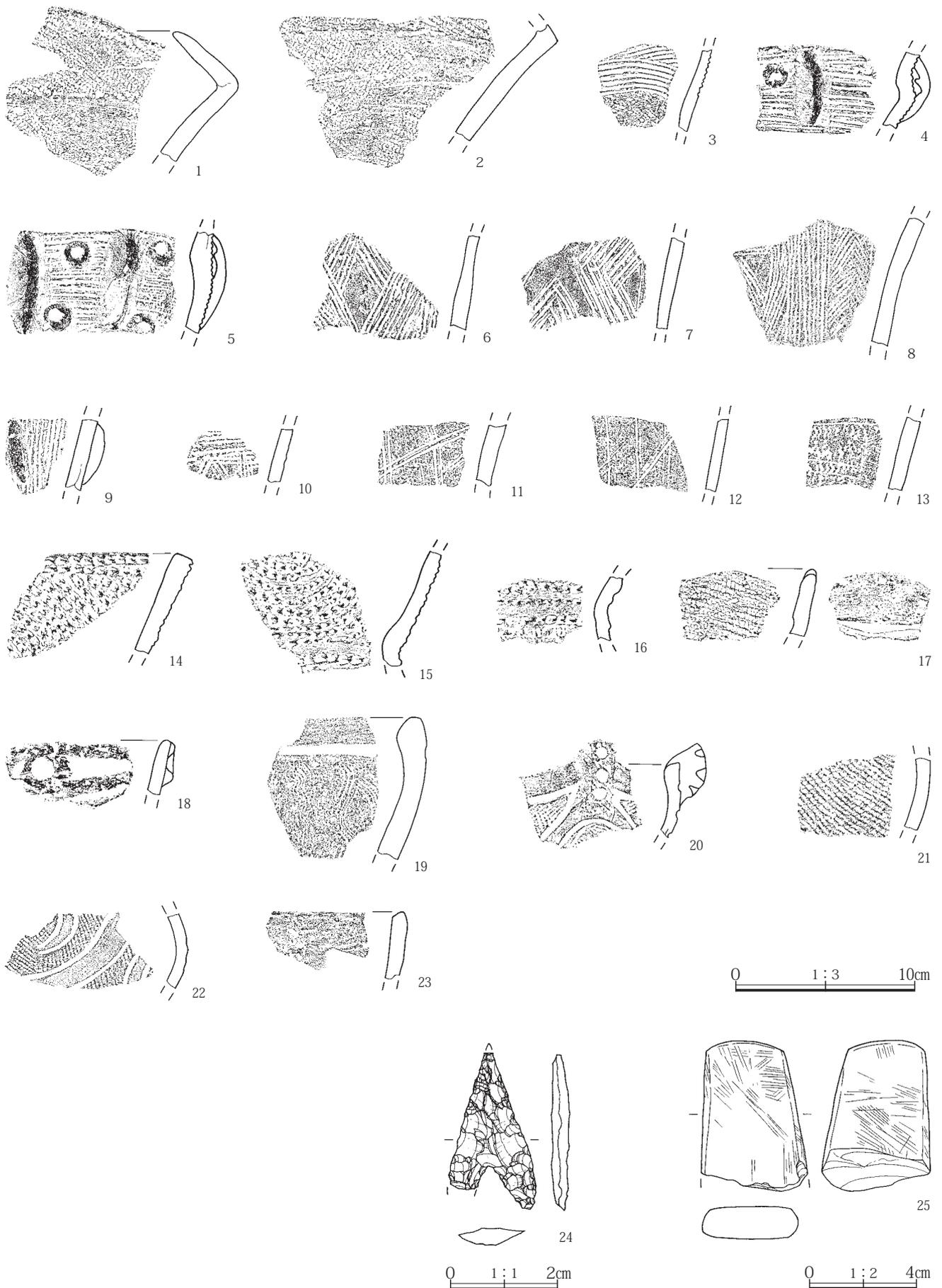
第186図 1区全体図(弥生時代以前)



第187図 2・3区全体図(弥生時代以前)



第188図 4・5区全体図(弥生時代以前)



第189図 遺構外出土遺物(縄文時代)

第8章 自然科学分析

第1節 出土した獣歯骨・人骨

1 はじめに

南玉二丁町遺跡では、遺構内外から人骨2個体、獣歯骨6体が出土している。人骨はいずれも被熱しており、1号は小片1点のみ、2号は細片数十点。獣歯骨は被熱はなく、細片化した歯のみで、いずれも僅かな材料のみであるが、これらの歯骨類について正確な種類・残存部位・性別年齢等の必要事項を特定し、そこから出土遺構の性格や当遺跡の評価に係わるデータを得る目的から、宮崎重雄氏に鑑定を依頼した。

2 獣歯骨・人骨の鑑定結果

I ウマ

1号馬

出土位置：1区7号住居上面 年代：中世～近世

①10数片に分離した左上顎第3後臼歯である。歯冠幅17.0+mm、頬側歯冠高39.0mm、中附錘幅4.0mmである。

②覆土からの出土で、25片に分離した歯片である。少なくとも2本分の右上顎臼歯と3本分の左下顎臼歯に由来する。

2本の上顎臼歯の歯冠高はそれぞれ45.0+mm（中附錘幅3.4mm）、48.0mmである。3本の下顎臼歯の歯冠高はそれぞれ48.0mm、58.3mm、44.0mmである。

①と②は別個体の疑いもあるが、同一個体とした場合、馬齢は前期壯齡馬相当と推定される。馬格を知るのは困難である。

2号馬

出土位置：1区2面 年代：中世～近世

①5片からなる右上顎臼歯で、原錘幅11.7mm、頬側歯冠高62.9mmである。

②13片に分離した歯片で、2本の馬歯に由来する。そのうち右上顎第3後臼歯は、頬側歯冠高64.0mm、中附錘幅3.6mmである。一方の左？上顎臼歯は、頬側歯冠高50.2mm、

中附錘幅2.7mmである。

歯冠高からは幼齡馬のものと判断されるが、馬格などの詳細を知るのは困難である。

3号馬

出土位置：2区16号溝 年代：中世か

小片8片が残存した左上顎第2前臼歯で、歯冠長26.0+mm、頬側歯冠高32.6mmである。馬格は明らかにできないが、歯冠高から壯齡馬であることがわかる。

4号馬

出土位置：3区2面 年代：中世～近世

比較的保存のよい左上顎臼歯1本で、歯冠長21.1mm、歯冠幅25.0mm、原錘幅11.0mm、頬側歯冠高21.2mm、舌側歯冠高20.8mm、中附錘幅4.2mmを計測する。

歯のサイズが小さく、歯冠高も21.0mm前後であることから、小型馬相当の後期壯齡馬～前期老齡馬であると思われる。

II ウシ

1号牛

出土位置：3区3面 年代：中世か？

小片7片が残存する上顎後臼歯で、頬側歯冠高は27.7mmで、前小窩又は後小窩の咬合面径は11.6×11.0mmである。壯齡牛である。

III ヒト

1号人骨

出土位置：1区1号古墳中央攪乱 年代：中世？

保存長径32.0mm、短径11.5mmの人骨片1片である。体肢骨とわかるが、詳細な部位判定は困難である。

白色を呈し、歪みや多数の亀裂がみられることで、受けた熱は800°C前後、肉の付着していた状態で加熱されていたことがわかる。おそらく火葬骨の一部であろう。成人骨と思われるが、性別などの詳細は不明である。

2号人骨

出土位置：4区2面 年代：中世

百数十片に細片化したヒトの焼骨片である。細片化し

ているため部位の判定は極めて困難であるが、ほとんどは体肢骨片である。

骨には歪みや亀裂が多く観察され、白色から灰白色を呈し、このことで、受けた熱は800℃前後、加熱時にはまだ肉の付着した状態であったことがわかる。火葬骨と思われる。

成人骨と思われるが、性別等は不明である。

主な参考文献

Douglas H. Ubelaker (1989) Human Skeletal Remains - excavation, analysis, interpretation. sec.eds. Taraxacum, Washington

平野賢二(1935)「歯牙の熱処理に対する研究(第一編) 人類歯牙の熱処理に就いて」 口腔病学雑誌、9号、375-393

西中川駿・松元光春(1991)「遺跡出土骨同定のための基礎研究—特に在来種および現代種の骨、歯の計測値の比較」『古代遺跡から見たわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書、164-188.

西中川駿・幸村真由美・吉野文彦・塗木千穂子・松元光春(2015)「ウマの臼歯の計測値から体高および年齢の推定法」 動物考古学、32、1-9

3 鑑定結果に基づく所見

当遺跡出土獣歯骨・人骨の鑑定の結果、以下の点が確認された。

- ・ 1号馬は前期壯齡馬相当と判断されるが、馬格の想定は困難。
- ・ 2号馬は幼齡馬と判断される。馬格の想定は困難。
- ・ 3号馬は壯齡馬で、馬格の想定は困難。
- ・ 4号馬は小型馬と思われ、後期壯齡期～前期老齡期と判断される。
- ・ 「5馬」としたものは、鑑定の結果、歯の皮膜の一部しか残っていないことが判明し、分析不可能と判断された。
- ・ 1号牛は「6馬」としたものだが、鑑定の結果、壯齡期の牛であることが判明した。
- ・ 1号人骨は肉の付いた状態で800℃前後の熱を受けており、火葬骨の一部と想定された。成人骨と判断される

が、性別等は不明である。

・ 2号人骨も肉の付いた状態で800℃前後の熱を受けており、火葬骨と判断される。成人骨であるが、性別等は不明。

当遺跡から出土した骨類は、溝や面調査の段階で個別に確認されたものが大半で、墓などの明瞭な遺構に伴うものではなく、また時期についても明確な材料は少ない。

1号馬は平安時代の1区7号住居の覆土上面からの出土であるが、7号住居の大半は中世～近世の溝に切られており、馬歯の状態から溝に含まれていたものと判断したい。3号馬は中世の2区16号溝からの出土で、同溝からは中世の遺物が数多く出土しており、同時期の可能性が高い。2号馬・5号馬・1号牛は2面と3面からの出土である。2面は中世、3面は古代の遺構確認面となっているが、各面調査確認時の出土遺物には中世～近世の遺物も多く含まれているのが実態であり、時期の確定は難しい。いずれも中世から近世という時間幅で考えざるを得ないが、当地域でも馬を主体に牛馬が数多く生活の中に含まれていた実態は想定できる結果が得られたと考える。

1号人骨は、1号古墳中央部の攪乱から出土したもので、古墳との関係が問題となるが、被熱をうけており、中世の火葬骨の一部の可能性が高いことが判明した。2号人骨は4区2面調査時に中世の4区7号井戸の北側から集積した状態で確認されたもので、明確な遺構は確認できていないが、中世の火葬骨と判断される。当遺跡では2区と4区の微高地上に中世の掘立柱建物群が確認されているが、その集落構成要素として火葬墓が存在した可能性が高いと評価したい。



1号馬



2号馬



3号馬



4号馬



1号牛



1号人骨



2号人骨

第9章 総括

第1節 発掘調査の成果

南玉二丁町遺跡の発掘調査では、縄文時代から近代にいたる多様な遺構・遺物を発見することができた。ここでは確認された各時代の内容をまとめておきたい。

県内でも有数の穀倉地域である本地域にありながら、今回の発掘でも弥生時代の遺物は土器1片すら確認できなかった。このことは本地域の成り立ちを示す大きな特性でもある。広大な水田可耕地があるにもかかわらず、利用できる河川がなかったために、弥生時代には遺跡の進出がほとんど行われていなかった。しかし、新たな知識と技術を携えた人々が現れて人工河川と水路体系を整備し、瞬間に原野を広大な集落域に変えてしまった。古墳時代の始まりである。前橋台地を舞台にしたこの大開発事業に成功した人物が、4世紀代では東日本最大級の前橋天神山古墳に葬られていると想定される。

古墳時代の遺構は、古墳1基、竪穴住居4軒、井戸2基、土坑4基、ピット20基、溝12条、遺物集中1箇所である。このうち、4世紀代と特定される遺構は住居3軒、井戸2基、ピット2基、遺物集中1箇所、遺物集中以外はいずれも4区・5区にある。遺構外出土遺物も4世紀代の遺物は4区と5区から多量に出土している。ここに掲げた土坑4基とピット20基も4区と5区の遺構であり、4世紀代の住居の施設等に関連する可能性が高い。

本遺跡の集落は、まず4区・5区の微高地上から始まった。溝は各区で確認されているが、その多くは低地であり、規模も大きい。年代の判明しているものは少ないが、これらは4世紀代に整備された水路体系の末流だと想定したい。この想定を可能にしたのは、微高地でわずかに認められた遺構と、3区低地で確認された4世紀代の1号遺物集中である。

5・6世紀の遺構は、1区に住居1軒、1区・2区にまたがる溝4本のみと低調である。その後1区に6世紀後半～7世紀代の古墳が構築されるが、奈良時代の遺構

は確認されていない。

平安時代になると、再び本遺跡は集落として活況を取り戻す。各微高地には平安時代の住居が27軒あり、低地にはAs-B下水田が全域で確認された。その他に掘立柱建物5棟、土坑38基、ピット18基、溝11条が確認されている。集落は8世紀代から10世紀前半頃まで継続した様子がうかがえ、水路や水口などで水辺祭祀行事が思いのほか数多く行われていた実態が読み取れた。

やがて時代は武士の時代へと変わり、本地域は鎌倉幕府から任命された安達氏と被官の玉村氏の管理下におかれ、その後は関東管領上杉氏の守護下で中原姓那波氏の支配下から戦国時代へと進むことになる。

中世の遺構は掘立柱建物6棟、井戸10基、土坑77基、ピット31基、溝28条が確認された。本遺跡では、2区と4区の微高地でこの頃に使われた館やそれに伴う施設等が確認されている。そこでは居住区周辺の水路から15世紀代の在地系土器皿が数多く出土しており、当時の生活の様子を垣間見ることができた。また、井戸や溝などから舶載青白磁や古瀬戸陶器などの稀少品も数多く出土している。それは、本地域が鎌倉街道などの陸路の渡河点や、水運の起点などの要地が身近に存在するからだろう。

なお、中世後半に発生した利根川の瀬替えは、本地域にとっては重大な変化であるが、そのことを示す手懸かりは今回の調査では確認されなかった。

江戸時代では、井戸2基、土坑2基、畠1箇所、復旧溝群37箇所が確認された。本遺跡は概ね生産域にあたり、各区で復旧溝群が認められた。この遺構は、火山噴火や洪水などによって地表に堆積した軽石や砂を、溝を掘って埋め込み、掘った土をその上に被せて復旧したもので、土地の所有関係や堆積した砂の量によって様々な対応がとられたと考えられる。本遺跡で確認された復旧溝群は、浅間A軽石降下後の洪水で堆積した砂を復旧した遺構と想定されるが、特に利根川の瀬替え以降、本地域はこうした災害の常習地域になったと考えられ、地域の底力を実感する。

第2節 条里地割について

本遺跡では、低地のほぼ全域で浅間B軽石(As-B)で埋没した水田が確認され、その水田の区画は条里地割の特徴を示していることが判明した。本地域では、これまでも数多くの遺跡で条里地割に対応する水田が取り上げられているが、本遺跡では条里地割に符合する幅5mの道が2本見つかっており、その実態について再度確認しておきたい。

本遺跡で確認されたAs-B下水田は、一部に変則的な区画も見られるが、概ね東西・南北方向の区画が主体になっている(付図)。そのなかで、3区東側の調査時に幅5mの道が見つかった(第92図・第146図、PL.47)。この道は、東側の4区微高地から20mほどの位置にあり、その間には南北方向の畦が2本確認されている。また、道の上面はかなり削平されており、中世段階の溝が4条重複し、さらに現在まで継続的に使用されていた近世の溝も重複していた。そのため、当時使われていた本来の道路面はほとんど残っていない。このことは、この道が地域の基準的なラインとして長期にわたって踏襲されていることを示している。ちなみに、中世段階の溝は道の両側に伴うもので、浅間B軽石降下後もこのラインが道として継続的に使用されていたと言えよう。

なお、この道の断面を見ると、水田の床土である褐灰色土が2.8mほどの幅で下層に落ち込んでおり、当初はこの幅で設置された可能性もあるが、下層の調査が行われていないため、如何ともしがたい。便宜上この道を1号道とする。

もう一つの道は、1号道の西側109mにある。ここは2区東側の微高地縁辺にあたっており、As-B下水田の西端に該当する(第92図・第145図、PL.46)。調査段階では、微高地縁辺に沿って斜めにのびる22号溝の手前で南北に直線的に浅間B軽石が切れていることから、水田はそこで立ち上がって終わっていると理解されていた。

ところが、航空写真を見ると、その立ち上がりの西側5mのところにV字状に黒色土があることがわかった。幅5mの部分は1号道と同様に褐灰色土であり、この土

層は南北方向に直進している。黒色土としたのはAs-B下水田の耕作土に該当する土壌で、この部分の軽石は削平されているものと思われる。また、22号溝に沿って幅2mほどの褐灰色土がのびており、南側と同様に22号溝と水田の間に2mほどの空白部が続いていたことも判明した。今となっては現地確認はできないが、写真記録がもう一つの道を示してくれたと考えたい。便宜上この道を2号道とする。

1号道の東側109mには4区As-B下水田の大畔がある。この大畔は幅が2mあり、南北方向に直線でのびている。大畔の東側には平行する南北の畔が3本あり、それぞれの畔が区画する田面の幅は1列目が2m、2列目が3m、3列目が4mと徐々に幅を広げている。大畔と1列目の畔を含めると、その幅は5mになり、1号道と同じ幅になる点は注目しておきたい。

4区大畔の東側109mには、現在も使用されている南北に直進する道路がある。今回の調査ではこの道は調査範囲から除外されたが、おそらくこのラインは条里地割が踏襲されたものであろう。

なお、5区のAs-B下水田では、南側にある微高地の北辺から東西方向に直進する幅3mの大畔があり、このライン上には江戸時代以後も継続して使われていた1号溝が重なっている。この溝の延長上東側には、現在も使われている水路と道があり、このラインも条里地割に該当するものと考えている。

一方、2号道の西側109mには、1区As-B下水田の畔がある。この畔は大畔ではないが、蛇行する部分や食い違いを交えながらも、かろうじて南北方向にのびている。

その西側109mには、福島味噌袋遺跡の大畔がある。この大畔は幅が2～3mあり、南北方向に直進している。

以上が南玉二丁町遺跡で確認されたAs-B下水田に伴う幅5mの道と、その周囲で認められた大畔を含めた条里地割の概要である。周辺遺跡との関係や地形及び古地形図等の検討はまだ行っていないが、本遺跡の調査成果の一部としてまずは報告する次第である。なお、As-B下水田を一覧できる付図を作成し、ここで述べた条里地割の想定ラインを表示したので参照していただきたい。

第3表 溝計測表

区	番号	時代	位置 (グリッド)	規模(m) ()は現存値			走行方向	重複
				長さ	幅	深さ		
1	1	近世	X=196~229 Y=-129~137	(34.70)	0.35~ 0.54	0.07~ 0.09	N-14°-E	
1	2	近世	X=198~227 Y=-131~137	29.90	0.34~ 0.55	0.06~ 0.15	N-13°-E	
1	3	近世	X=196~229 Y=-141~149	(34.40)	0.35~ 0.58	0.07~ 0.15	N-10°-E N-47°-E	4溝、4・18復
1	4	近世	X=218~220 Y=-143~153	(10.00)	0.54~ 0.84	0.05~ 0.13	N-80°-W	3・6・7溝
1	5a	近世	X=211~213 Y=-139~146	(7.12)	0.26~ 0.76	0.02~ 0.10	N-71°-W	3溝
1	5b	近世	X=202~211 Y=-140~142	(9.80)	0.14~ 0.27	0.03~ 0.04	N-13°-E	6復
1	5c	近世	X=213~214 Y=-142~143	(2.00)	0.29~ 0.37	0.03~ 0.09	N-29°-W	
1	6	近世	X=219~229 Y=-151~152	(10.72)	0.29~ 0.52	0.03~ 0.09	N-7°-E	4溝、3・4復
1	7	近世	X=220~229 Y=-152~153	(9.50)	0.18~ 0.38	0.02~ 0.09	N-8°-E	4溝
1	8a	近世	X=210~230 Y=-153~155	(19.80)	0.38~ 0.65	0.08~ 0.27	N-6°-E	
1	8b	近世	X=196~210 Y=-156~157	(15.10)	0.37~ 0.72	0.11~ 0.22	N-7°-E	9溝、15復
1	8c	近世	X=194~196 Y=-139~157	(17.90)	0.32~ 0.66	0.11~ 0.23	N-80°-W	
1	9	近世	X=194~230 Y=-154~157	(36.60)	1.51~ 1.88	0.47~ 0.52	N-6°-E	10・11・14溝
1	10	近世	X=196~198 Y=-159~205	(46.40)	0.37~ 1.23	0.08~ 0.39	N-80°-W N-77°-E	9・12・14溝
1	11	近世	X=197~200 Y=-159~180	(21.90)	0.42~ 1.13	0.09~ 0.20	N-80°-W	9溝
1	12	近世	X=198~215 Y=-181~183	(16.95)	0.52~ 1.67	0.02~ 0.10	N-2°-W	10溝
1	13	近世	X=216~218 Y=-164	(2.36)	0.29~ 0.56	0.05~ 0.11	N-6°-W	
1	14	近世	X=194~197 Y=-199~204	(46.20)	0.46~ 1.76	0.13~ 0.20	N-83°-W N-80°-E	9・10・15溝
1	15	近世	X=194 Y=-180	(3.01)	1.17~ 1.40	0.10~ 0.16	N-3°-E	14溝
1	16	欠番						
1	17	中世	X=194~229 Y=-124~137	(47.70)	0.44~ 0.87	0.07~ 0.13	N-2°-E N-80°-W	
1	18	中世	X=194~224 Y=-107~122	(42.30)	0.64~ 1.70	0.09~ 0.13	N-82°-W N-9°-W	
1	19	中世	X=194~224 Y=-118~122	(29.60)	0.19~ 1.23	0.04~ 0.10	N-8°-E	
1	20	中世	X=194~225 Y=-131~145	(33.90)	0.36~ 0.76	0.03~ 0.16	N-26°-W	
1	21	中世	X=115~195 Y=-181	(20.90)	0.33~ 1.22	0.07~ 0.23	N-2°-W	
1	22	中世	X=203~210 Y=-180	7.10	0.64~ 0.88	0.03~ 0.09	N-3°-W	
1	23	中世	X=199~230 Y=-161~179	(45.50)	0.81~ 2.52	0.10~ 0.25	N-15°-E N-85°-E N-4°-W	
1	24	中世	X=206~215 Y=-182~197	(22.70)	0.45~ 1.10	0.10~ 0.16	N-5°-W N-85°-E	21溝
1	25	中世	X=207~214 Y=-182~196	(19.90)	0.25~ 1.32	0.04~ 0.14	N-4°-W N-83°-E	21溝
1	26	中世	X=189~230 Y=-153~157	(41.30)	0.34~ 0.78	0.10~ 0.14	N-7°-E	
1	27	中世	X=189~230 Y=-155~162	(41.40)	0.40~ 1.07	0.08~ 0.10	N-9°-E	
1	28	中世	X=223~230 Y=-156~157	(7.00)	0.40~ 0.64	0.06~ 0.12	N-5°-E	
1	29	中世	X=196~230 Y=-157~176	(40.10)	0.31~ 0.78	0.06~ 0.07	N-29°-E	
1	30	中世	X=189~195 Y=-178~197	19.80	0.17~ 0.57	0.04~ 0.11	N-84°-E	
1	31	古墳	X=221~233 Y=-110~118	(14.60)	0.20~ 0.33	0.10~ 0.12	N-36°-W	
1	32	古墳	X=220~231 Y=-131~138	(13.60)	0.32~ 0.65	0.05~ 0.11	N-34°-W	
1	32	古墳	X=212~218 Y=-113~129	(18.10)	0.39~ 0.70	0.06~ 0.13	N-71°-W	
1	33	平安	X=194~230 Y=-140~151	(38.10)	0.53~ 2.75	0.05~ 0.16	N-16°-W	
2	1	近世	X=215~216 Y=-091~096	(5.40)	0.31~ 0.44	0.02~ 0.07	N-72°-W	
2	2	近世	X=199~224 Y=-079~091	(27.70)	1.15~ 2.18	0.23~ 0.41	N-27°-E	3・14溝

区	番号	時代	位置 (グリッド)	規模(m) ()は現存値			走行方向	重複
				長さ	幅	深さ		
2	3	近世	X=199~224 Y=-079~091	(27.70)	-	-	N-27°-E	2溝
2	4	近世	X=199~205 Y=-059~063	(7.10)	0.28~ 0.52	0.04~ 0.08	N-22°-E	
2	5	近世	X=199~205 Y=-047~057	(11.35)	0.37~ 1.08	0.02~ 0.08	N-52°-W	
2	6	近世	X=198~224 Y=-034~064	(38.45)	1.49~ 2.05	0.47~ 0.52	N-48°-W	
2	7	近世	X=214~222 Y=-037~038	(8.30)	0.27~ 0.43	0.06~ 0.10	N-4°-E	
2	8	近世	X=206~223 Y=-037~038	(16.95)	0.27~ 0.46	0.02~ 0.09	N-5°-E	
2	9	近世	X=203~208 Y=-000~001	(5.33)	0.66~ 0.77	0.05~ 0.07	N-13°-E	
2	10	中世	X=218~219 Y=-094~097	(3.78)	0.16~ 0.32	0.02~ 0.05	N-72°-W	
2	11	中世	X=219~223 Y=-091~093	3.34	0.27~ 0.52	0.03~ 0.07	N-30°-E	
2	12	中世	X=203~224 Y=-088~097	(22.30)	1.64~ 2.65	0.76~ 1.00	N-23°-E	6掘
2	13	中世	X=200~224 Y=-082~094	(25.80)	1.16~ 2.12	0.42~ 0.51	N-26°-E	8掘
2	14	近世	X=199~224 Y=-079~091	-	-	-	-	2溝
2	15	近世	X=217~224 Y=-062~076	(15.20)	0.14~ 0.82	0.03~ 0.15	N-60°-W	
2	16	中世	X=200~223 Y=-034~057	(34.80)	4.30~ 6.30	0.66~ 0.94	N-46°-W	17・18溝
2	17	中世	X=199~210 Y=-051~056	(13.50)	0.49~ 0.74	0.22~ 0.34	N-26°-E	16溝
2	18	中世	X=199~209 Y=-049~053	(12.00)	0.95~ 1.35	0.32~ 0.35	N-23°-E	16溝
2	19	中世	X=205~214 Y=-058~086	36.80	0.48~ 1.02	0.04~ 0.20	N-70°-E N-35°-E N-64°-W N-31°-E	58坑、8掘
2	20	古墳	X=216~222 Y=-066~212	17.50	0.40~ 0.77	0.18~ 0.32	N-68°-E	
2	21	古墳	X=199~206 Y=-077~096	19.40	0.75~ 0.96	0.33~ 0.46	N-68°-W	
2	22	平安	X=198~223 Y=-021~037	30.60	0.61~ 1.35	0.05~ 0.13	N-34°-W	
2	23	平安	X=198~219 Y=-030~052	(31.50)	0.43~ 2.75	0.14~ 0.33	N-48°-W	
2	24a	古墳	X=198~223 Y=-027~056	(39.90)	0.39~ 1.44	0.20~ 0.37	N-50°-W	24b・25溝
2	24b	古墳	X=221~223 Y=-053~055	(3.80)	0.38~ 0.53	0.14~ 0.24	N-36°-W	24a溝
2	25	平安	X=212~223 Y=-040~052	(16.80)	0.17~ 0.52	0.07~ 0.15	N-48°-W	24溝
2	26	平安	X=199~223 Y=-023~050	(36.70)	0.16~ 0.52	0.05~ 0.18	N-46°-W	
2	27	平安	X=207~223 Y=-030~046	23.20	0.33~ 0.83	0.03~ 0.07	N-47°-W	
2	28	平安	X=204~215 Y=-012~027	19.40	0.37~ 0.79	0.26~ 0.31	N-54°-W	
2	29	古墳	X=215~223 Y=-000~011	(13.80)	0.79~ 1.68	0.35~ 0.45	N-55°-W	30・31溝
2	30	古墳	X=205~215 Y=-004~010	(13.30)	0.72~ 1.77	0.33~ 0.38	N-32°-E	29溝
2	31	平安	X=205~215 Y=-001~010	(13.20)	0.22~ 0.34	0.04~ 0.06	N-41°-E	29溝
2	32	平安	X=205~213 Y=-000~007	(11.30)	0.22~ 0.30	0.05~ 0.10	N-39°-E	
3	1	近世	X=196~220 Y=-897~917	(40.80)	1.07~ 1.82	0.34~ 0.42	N-3°-W N-82°-W	2溝
3	2	近世	X=191~199 Y=-917	(8.60)	1.68~ 2.12	0.31~ 0.44	N-3°-W	1溝
3	3	近世	X=195~202 Y=-936	(7.40)	0.30~ 0.58	0.05~ 0.07	N-6°-E	1復
3	4	中世	X=193~218 Y=-914	(27.40)	0.32~ 1.20	0.06~ 0.09	N-1°-W	1溝
3	5	中世	X=191~218 Y=-915~916	(28.90)	0.25~ 1.05	0.06~ 0.07	N-2°-W	7溝
3	6	中世	X=191~218 Y=-917~918	(29.80)	0.22~ 0.49	0.02~ 0.09	N-1°-E	1溝
3	7	中世	X=214~218 Y=-915~916	(3.97)	0.23~ 0.40	0.01~ 0.04	N-5°-E	5溝
3	8	平安	X=218~223 Y=-990~995	(7.90)	0.32~ 0.58	0.07~ 0.19	N-43°-E	

遺構計測表

区	番号	時代	位置 (グリッド)	規模(m) ()は現存値			走行方向	重複
				長さ	幅	深さ		
3	9	平安	X=220~223 Y=-993~995	(4.20)	0.28~ 0.37	0.16~ 0.35	N-43°-E	
3	10	古墳	X=192~212 Y=-925~995	(81.20)	0.69~ 1.95	0.40~ 0.47	N-68°-W N-72°-E N-36°-W	11溝
3	11	古墳	X=204~220 Y=-918~933	(22.50)	0.61~ 1.03	0.28~ 0.38	N-43°-E	10溝
4	1	近世	X=183~209 Y=-796~797	(25.90)	0.16~ 0.32	0.05~ 0.17	N-2°-E	
4	2	古墳	X=183~209 Y=-791~805	(32.50)	0.60~ 1.38	0.27~ 0.37	N-33°-E N-45°-W	3溝
4	3	古墳	X=207~209 Y=-799~801	(3.00)	0.70~ 1.20	0.34~ 0.36	N-34°-W	2溝
4	4	近世	X=185~210 Y=-808~811	(25.70)	0.88~ 1.42	0.29~ 0.74	N-5°-E	
4	5	近世	X=185~209 Y=-810~812	(24.40)	0.74~ 1.10	0.56~ 0.60	N-5°-E	
4	6	近世	X=185~207 Y=-811~813	(22.30)	1.10~ 3.46	0.39~ 0.52	N-4°-E	
4	7	近世	X=186~214 Y=-827~887	(70.40)	1.24~ 2.12	0.27~ 0.48	N-66°-W	8・12・15~17溝
4	8	近世	X=208~210 Y=-838~846	(7.80)	0.64~ 1.20	0.13~ 0.29	N-73°-E	7溝
4	9	中世	X=190~213 Y=-818~835	(28.00)	0.68~ 1.95	0.19~ 0.41	N-36°-W	
4	10	中世	X=189~214 Y=-845~852	(25.92)	0.54~ 0.78	0.19~ 0.33	N-14°-E	7溝、5住
4	11	欠番						(5住に変更)
4	12	近世	X=195~213 Y=-870~887	(32.20)	0.40~ 1.14	0.07~ 0.13	N-17°-E N-80°-W	7・13溝
4	13	近世	X=190~197 Y=-867~887	(21.00)	1.18~ 2.00	0.31~ 0.38	N-73°-W	12・14~17溝
4	14	近世	X=190~196 Y=-870~884	(15.00)	0.29~ 0.83	0.14~ 0.17	N-65°-W	13・15・16溝
4	15	近世	X=193~212 Y=-876~883	(19.10)	0.29~ 0.38	0.08~ 0.16	N-21°-E	7・12・16溝、4復
4	16	近世	X=191~217 Y=-876~884	(27.50)	0.49~ 2.50	0.14~ 0.25	N-21°-E	3・4復、7・12~15溝
4	17	近世	X=196~211 Y=-880~886	(15.50)	0.15~ 0.45	0.01~ 0.11	N-22°-E	4復、7・13溝
4	18	中世	X=189~209 Y=-850~857	(20.40)	1.32~ 0.51	0.26~ 0.05	N-17°-E	5住、1豎、7井
5	1	近世	X=180~183 Y=-706~775	(69.60)	1.45~ 1.94	0.31~ 0.51	N-89°-E	
5	2	近世	X=182~207 Y=-782~785	(25.50)	1.35~ 2.00	0.31~ 0.69	N-4°-W	1坑
5	3	古墳	X=180~198 Y=-705~721	(22.30)	0.40~ 1.05	0.27~ 0.33	N-42°-W	

第4表 井戸計測表

区	番号	時代	位置 (グリッド)	上面形態	規模(m) 長径×短径	深さ (m)	走行方向	重複
1	2	近世	X=213・214 Y=-202・203	円形	0.94×0.88	1.17	-	
2	1	中世	X=218~220 Y=-077~079	円形	1.70×15.5	1.50	-	
2	2	中世	X=201~204 Y=-082~086	円形	3.61×3.30	1.96	-	7掘P8、50坑
2	3	中世	X=203~205 Y=-078~080	円形	17.9×16.2	1.86	-	
4	1	中世	X=194・195 Y=-839・840	円形	0.94×0.88	0.94	-	
4	2	中世	X=202・203 Y=-844・845	円形	0.98×0.92	0.99	-	
4	3	中世	X=200・201 Y=-843・844	円形	1.26×1.20	1.27	-	
4	4	中世	X=188・189 Y=-821・822	楕円形	2.11×1.30	1.41	N-49°-W	2住
4	5	中世	X=187~189 Y=-825~827	楕円形	2.01×1.52	1.44	N-67°-W	2住
4	6	中世	X=187・188 Y=-807・808	円形	0.92×0.87	1.22	-	
4	7	中世	X=202・203 Y=-852	円形	0.78×0.73	0.86	-	
5	1	古墳	X=174 Y=-726・727	楕円形	1.49×0.97	0.75	N-64°-W	
5	2	古墳	X=193・194 Y=-741	隅丸長方形	0.93×0.78	0.72	N-22°-W	

第5表 土坑計測表

区	番号	時代	位置 (X・Y)	形状	長軸方位	規模(m)			備考
						長	幅	深	
1	1	中世	226・-151	楕円形	-	0.52	0.49	0.15	
1	2	中世	209・-144	楕円形	N-72°-W	0.76	0.58	0.21	
1	3	中世	201・-139	楕円形	N-21°-W	1.03	0.91	0.17	
1	4	平安	213・-194	隅丸長方形	N-1°-W	2.01	0.87	0.38	23溝と重複
1	5	平安	219・-179	円形	-	1.04	0.96	0.63	
1	6	平安	229・-155	楕円形	-	0.7	0.65	0.15	
1	7	平安	116・-160	円形	-	0.78	0.73	0.22	
1	8	平安	208・-159	楕円形	N-12°-E	6.21	3.51	0.58	南側にビット状窪み2ヶ所
2	1	中世	217・-080	楕円形	N-8°-W	0.77	0.59	0.07	
2	2	中世	212・-077	円形	N-24°-W	1.16	1.03	0.15	
2	3	欠番							2掘P8に変更
2	4	中世	212・-076	円形	N-80°-W	1.2	1.06	0.19	
2	5	中世	211・-078	円形	-	0.99	0.91	0.11	
2	6	中世	210・-076	円形	-	1.14	1.09	0.14	
2	7	欠番							1掘P5に変更
2	8	中世	209・-214	円形	-	1.12	1.09	0.19	
2	9	欠番							1掘P4に変更
2	10	欠番							3掘P1に変更
2	11	欠番							3掘P2に変更
2	12	欠番							3掘P3に変更
2	13	欠番							2掘P7に変更
2	14	欠番							1掘P8に変更
2	15	欠番							1掘P10に変更
2	16	中世	210・-069	円形	-	1.23	1.19	0.2	4掘P6と重複
2	17	中世	209・-069	隅丸長方形	N-46°-E	1.23	0.89	0.2	30坑と重複
2	18	欠番							1掘P2に変更
2	19	欠番							1掘P3に変更
2	20	中世	207・-072	隅丸長方形	-	1.19	1.15	0.23	30坑と重複
2	21	平安	201・-071	隅丸長方形	N-18°-E	2.2	1	0.33	39坑と重複
2	22	平安	204・-066	円形	-	1.33	1.29	0.41	
2	23	中世	201・-066	円形	N-29°-E	1.16	1.07	0.33	42坑と重複
2	24	中世	200・-066	円形	N-17°-W	0.97	0.92	0.34	
2	25	中世	204・-063	円形	-	1.55	1.48	0.46	
2	26	中世	199・-063	楕円形	N-75°-W	0.88	0.6	0.25	
2	27	欠番							2掘P3に変更
2	28	欠番							2掘P4に変更
2	29	中世	208・-069	円形	N-2°-E	0.74	0.65	0.17	
2	30	中世	207・-070	隅丸長方形	N-19°-E	3.57	1.33	0.28	17・25・51坑と重複
2	31	中世	211・-080	隅丸長方形	N-34°-E	2	1.51	0.16	
2	32	欠番							2掘P1に変更
2	33	欠番							2掘P10に変更
2	34	中世	200・-070	円形	-	0.89	0.8	0.2	
2	35	欠番							1掘P6に変更
2	36	欠番							1掘P7に変更
2	37	中世	212・-213	隅丸長方形	N-31°-E	1.65	1.06	0.16	14坑と重複
2	38	欠番							1掘P9に変更
2	39	中世	203・-071	(円形)	N-79°-W	0.82	(0.45)	0.2	21坑と重複
2	40	中世	205・-064	隅丸長方形	N-23°-E	1.62	0.89	0.66	5掘P6と重複
2	41	中世	206・-063	円形	N-30°-E	1.54	1.37	0.33	
2	42	中世	201・-066	隅丸長方形	N-15°-E	2.25	1.07	0.14	23坑と重複
2	43	中世	203・-069	隅丸長方形	N-25°-E	0.79	0.58	0.19	
2	44	欠番							2掘P9に変更
2	45	欠番							2掘P2に変更
2	46	中世	208・-059	隅丸長方形	-	1	0.91	0.3	
2	47	欠番							1掘P1に変更
2	48	欠番							2掘P5に変更
2	49	欠番							2掘P6に変更
2	50	中世	200・-084	-	N-74°-E	1.07	(0.51)	0.34	2井、7掘P8と重複
2	51	中世	207・-070	-	N-26°-E	0.83	(0.23)	0.09	30坑と重複
2	52	中世	222・-086	隅丸長方形	N-33°-W	0.86	0.62	0.19	
2	53	中世	202・-061	円形	N-20°-E	1.2	1.09	0.33	
2	54	中世	199・-060	隅丸長方形	N-57°-W	1.33	0.67	0.09	
2	55	中世	221・-071	-	N-65°-E	0.84	(0.52)	0.25	
2	56	中世	203・-060	楕円形	N-80°-W	0.68	(0.49)	0.19	53坑と重複
2	57	中世	199・-075	円形	-	0.64	0.62	0.25	
2	58	中世	205・-058	楕円形	N-45°-E	0.9	0.63	0.33	19溝と重複

遺構計測表

区	番号	時代	位置 (X・Y)	形状	長軸方位	規模(m)			備考
						長	幅	深	
2	59	中世	203・-046	隅丸長方形	N-85°-E	1.66	1.13	0.36	
2	60	平安	214・-012	楕円形	N-37°-E	1.54	1.15	0.18	
2	61	平安	216・-011	楕円形	N-32°-W	1.28	0.85	0.5	
2	62	平安	218・-011	楕円形	N-46°-E	1.08	0.68	0.21	
2	63	平安	205・-028	隅丸長方形	-	1.26	1.25	0.24	
2	64	平安	198・-022	楕円形	N-2°-E	1.83	1.64	0.17	
2	65	平安	201・-024	楕円形	N-10°-E	1.61	0.64	0.18	66坑と重複
2	66	平安	200・-024	隅丸長方形	N-23°-E	1.84	1.54	0.1	65坑と重複
2	67	平安	207・-001	楕円形	N-23°-E	1.15	0.81	0.2	
2	68	平安	206・-000	楕円形	N-80°-E	1	0.83	0.23	
2	69	平安	204・-000	(隅丸長方形)	N-2°-W	1.74	(1.28)	0.2	
2	70	平安	208・-002	楕円形	N-86°-E	0.9	0.75	0.19	
2	71	平安	198・-020	(隅丸長方形)	N-45°-E	(1.09)	0.9	0.17	
2	72	平安	201・-015	隅丸長方形	N-80°-E	1.59	1.17	0.27	
3	1	中世	197・-952	円形	-	0.62	0.59	0.23	
3	2	中世	199・-909	楕円形	N-80°-W	1.16	0.73	0.29	1溝と重複
3	3	中世	203・-970	楕円形	N-8°-W	0.54	0.47	0.2	
3	4	平安	218・-983	楕円形	N-77°-E	1.23	0.81	0.19	
3	5	平安	209・-992	隅丸長方形	N-24°-E	0.96	0.85	0.09	
3	6	平安	205・-989	楕円形	N-61°-E	1.8	1.2	0.12	
3	7	平安	194・-987	-	N-87°-W	0.84	(0.28)	0.15	
3	8	平安	194・-989	-	N-87°-W	1.1	(0.44)	0.13	
3	9	平安	196・-995	隅丸長方形	N-68°-E	0.98	0.66	0.09	
3	10	平安	204・-986	楕円形	N-10°-W	1.7	0.98	0.18	
4	1	中世	206・-793	楕円形	N-8°-E	0.75	0.68	0.15	
4	2	中世	208・-803	隅丸長方形	N-84°-E	1.84	1.14	0.14	
4	3	中世	208・-205	不定形	N-84°-W	(3.07)	1.04	0.13	
4	4	中世	184・-802	-	-	(0.68)	(0.4)	0.25	
4	5	中世	191・-794	楕円形	N-83°-E	0.97	0.67	0.27	
4	6	中世	197・-796	不定形	N-83°-W	1.2	0.47	0.32	
4	7	中世	189・-843	隅丸長方形	N-70°-W	2.07	0.94	0.19	
4	8	中世	190・-821	隅丸長方形	N-50°-W	0.94	0.87	0.2	
4	9	中世	190・-831	隅丸長方形	N-22°-E	3.11	(1.53)	0.64	7溝、3ピットと重複
4	10	中世	188・-815	円形	-	0.67	0.66	0.32	
4	11	中世	199・-844	円形	-	1.11	1.05	0.17	
4	12	欠番							1住1号貯蔵穴に変更
4	13	欠番							1住2号貯蔵穴に変更
4	14	平安	203・-831	楕円形	N-85°-W	1.62	1.13	0.78	
4	15	中世	197・-835	円形	-	1.17	1.05	0.19	
4	16	中世	196・-832	円形	-	0.95	0.88	0.31	
4	17	中世	192・-836	円形	-	0.63	0.56	0.22	
4	18	中世	192・-829	楕円形	N-66°-W	0.79	0.45	0.62	
4	19	中世	192・-845	隅丸長方形 (楕円形)	N-69°-W	0.93	0.71	0.65	
4	20	中世	188・-845	(楕円形)	-	1.08	0.56	0.75	
4	21	欠番							6住貯蔵穴に変更
4	22	平安	198・-841	円形	-	0.55	0.53	0.24	
4	23	平安	199・-807	隅丸長方形	N-2°-W	1.52	1.29	0.53	
4	24	中世	196・-859	円形	-	1.1	1.04	0.11	
4	25	中世	294・-859	円形	-	0.98	0.93	0.12	
4	26	中世	194・-861	隅丸長方形	N-10°-E	1.58	0.72	0.09	
4	27	中世	194・-862	円形	-	0.88	0.81	0.18	
4	28	中世	195・-862	隅丸長方形	N-10°-E	2.39	0.84	0.23	
4	29	中世	193・-863	隅丸長方形	N-7°-E	1.94	0.84	0.14	
4	30	中世	193・-865	隅丸長方形	N-12°-E	1.91	0.7	0.14	
4	31	中世	195・-865	円形	-	0.94	0.93	0.19	
4	32	中世	196・-867	円形	-	0.85	0.83	0.08	
4	33	中世	194・-869	円形	-	1.23	1.2	0.18	
4	34	欠番							3掘P1に変更
4	35	欠番							2掘P2に変更
4	36	平安	206・-869	円形	-	1.2	1.19	0.43	
4	37	中世	200・-865	隅丸長方形	N-76°-W	2.25	0.82	0.22	
4	38	欠番							3掘P3に変更
4	39	中世	204・-858	円形	-	0.82	0.77	0.3	

区	番号	時代	位置 (X・Y)	形状	長軸方位	規模(m)			備考
						長	幅	深	
4	40	中世	206・-858	円形	-	0.85	0.77	0.25	
4	41	中世	214・-872	楕円形	N-44°-W	0.76	0.51	0.25	
4	42	欠番							2掘P3に変更
4	43	欠番							2掘P4に変更
4	44	欠番							4住2号貯蔵穴に変更
4	45	欠番							4住柱穴11に変更
4	46	平安	204・-860	円形	-	1.31	1.29	0.3	
4	47	欠番							2掘P5に変更
4	48	欠番							1掘P12・13に変更
4	49	欠番							2掘P1に変更
4	50	欠番							1掘P1に変更
4	51	欠番							1掘P15に変更
4	52	欠番							1掘P14に変更
4	53	欠番							1掘P25に変更
4	54	中世	191・-850	円形	-	1.17	0.99	0.37	
4	55	中世	189・-850	-	N-22°-E	(2.09)	(0.91)	0.31	
4	56	中世	189・-853	-	-	(1.36)	0.74	0.49	
4	57	古墳	198・-865	楕円形	N-18°-E	0.67	0.52	0.44	
4	58	中世	199・-865	楕円形	N-82°-W	0.41	0.33	0.41	
4	59	中世	197・-871	隅丸長方形	N-76°-W	0.71	0.5	0.52	
4	60	欠番							3掘P2に変更
5	1	近世	192・-781	不定形	N-89°-W	1.56	1.2	0.65	
5	2	近世	194・-781	円形	-	1.2	1.12	0.66	
5	3	平安	175・-738	(楕円形)	-	(1.56)	(0.54)	0.26	
5	4	平安	178・-736	楕円形	N-85°-W	2.34	1.1	0.16	
5	5	平安	179・-741	円形	-	1.26	1.25	0.36	
5	6	平安	178・-731	楕円形	N-52°-E	0.94	0.65	0.12	
5	7	平安	183・-734	不定形	N-17°-W	2.61	1.95	0.66	
5	8	欠番							1井に変更
5	9	平安	179・-726	不定形	N-4°-E	1.42	1.22	0.35	
5	10	古墳	176・-723	不定形	N-1°-W	0.96	0.81	0.2	
5	11	古墳	185・-734	不定形	N-30°-W	1.67	1.25	0.2	
5	12	古墳	187・-749	不定形	N-13°-E	1.88	1.44	0.11	
5	13	欠番							2井に変更

第6表 ピット計測表

区	番号	時代	位置 (X・Y)	形状	長軸方位	規模(m)			備考
						長	幅	深	
4	1	中世	191・-843	円形	-	0.36	0.33	0.26	
4	2	中世	196・-830	円形	-	0.43	0.43	0.5	
4	3	中世	193・-832	(円形)	-	(0.41)	(0.39)	(0.71)	
4	4	中世	191・-832	隅丸長方形	-	0.27	0.26	0.3	
4	5	中世	187・-830	円形	-	0.35	0.34	0.37	
4	6	中世	190・-829	円形	-	0.31	0.29	0.3	
4	7	中世	190・-829	円形	-	0.28	0.26	0.38	
4	8	中世	198・-836	円形	-	0.26	0.22	0.33	
4	9	中世	199・-837	円形	-	0.24	0.23	0.33	
4	10	中世	197・-833	円形	-	0.35	0.31	0.26	
4	11	中世	200・-835	円形	-	0.24	0.23	0.4	
4	12	中世	203・-838	円形	-	0.22	0.22	0.33	
4	13	中世	204・-838	円形	-	0.23	0.19	0.35	
4	14	中世	210・-838	円形	-	0.33	0.3	0.35	
4	15	中世	191・-838	楕円形	N-69°-W	0.34	0.28	0.32	
4	16	中世	191・-845	円形	-	0.26	0.26	0.34	
4	17	中世	192・-844	楕円形	N-30°-E	0.3	0.26	0.52	
4	18	中世	191・-844	円形	-	0.34	0.3	0.2	
4	19	中世	194・-831	楕円形	N-5°-E	0.34	0.3	0.13	
4	20	欠番							6住柱穴3に変更
4	21	欠番							6住柱穴4に変更
4	22	欠番							6住柱穴2に変更
4	23	欠番							6住柱穴1に変更
4	24	中世	202・-883	楕円形	N-86°-W	0.31	0.24	0.43	1掘P26に変更
4	25	中世	201・-882	楕円形	N-21°-E	0.44	0.32	0.19	1掘P24に変更
4	26	中世	205・-879	楕円形	N-24°-W	0.34	0.2	0.45	1掘P27に変更
4	27	中世	195・-883	楕円形	N-31°-E	0.35	0.28	0.36	
4	28	中世	193・-884	円形	-	0.47	0.44	0.37	
4	29	中世	201・-873	楕円形	N-24°-W	0.34	0.28	0.36	
4	30	中世	200・-872	円形	-	0.25	0.24	0.17	
4	31	中世	199・-871	楕円形	N-60°-E	0.26	0.21	0.48	
4	32	中世	205・-877	楕円形	N-20°-W	0.45	0.35	0.21	1掘P29に変更
4	33	中世	211・-882	円形	-	0.31	0.28	0.23	1掘P28に変更
4	34	古墳	200・-869	楕円形	N-68°-E	0.63	0.47	0.17	
4	35	中世	194・-872	楕円形	N-26°-W	0.59	0.46	0.31	
4	36	中世	201・-864	円形	-	0.37	0.33	0.44	
5	1	平安	178・-732	楕円形	N-74°-E	0.5	0.29	0.33	
5	2	平安	178・-732	(楕円形)	-	(0.58)	(0.43)	0.21	

遺構計測表

区	番号	時代	位置 (X・Y)	形状	長軸方位	規模(m)			備考
						長	幅	深	
5	3	平安	179・-732	楕円形	N-2°-W	0.53	0.42	0.41	
5	4	平安	180・-732	円形	-	0.53	0.49	0.18	
5	5	古墳	180・-734	円形	-	0.4	0.35	0.47	
5	6	平安	180・-734	円形	-	0.45	0.43	0.29	
5	7	古墳	180・-735	円形	-	0.43	0.39	0.59	
5	8	古墳	179・-736	楕円形	N-72°-E	0.51	0.44	0.19	
5	9	平安	179・-736	楕円形	N-81°-E	0.45	0.39	0.32	
5	10	古墳	181・-736	楕円形	N-14°-W	0.59	0.42	0.52	
5	11	古墳	178・-734	円形	-	0.45	0.44	0.45	
5	12	平安	181・-740	楕円形	N-9°-E	0.34	0.25	0.27	
5	13	古墳	180・-738	円形	-	0.26	0.25	0.07	
5	14	平安	181・-732	円形	-	0.46	0.42	0.4	
5	15	平安	180・-733	円形	-	0.45	0.4	0.18	
5	16	平安	185・-740	円形	-	0.42	0.41	0.16	
5	17	平安	186・-741	円形	-	0.36	0.3	0.21	
5	18	平安	184・-743	楕円形	N-51°-W	0.3	0.23	0.25	
5	19	平安	184・-743	円形	-	0.26	0.26	0.16	
5	20	平安	181・-745	円形	-	0.26	0.25	0.37	
5	21	平安	181・-743	楕円形	N-31°-E	0.34	0.26	0.15	
5	22	平安	178・-744	円形	-	0.4	0.39	0.4	
5	23	平安	178・-743	楕円形	N-42°-E	0.26	0.21	0.21	
5	24	平安	183・-738	円形	-	0.3	0.29	0.34	
5	25	古墳	189・-730	円形	-	0.33	0.28	0.21	
5	26	古墳	176・-722	円形	-	0.42	0.37	0.15	
5	27	古墳	176・-721	不定形	N-50°-W	0.96	0.43	0.4	
5	28	古墳	177・-722	楕円形	N-80°-W	0.6	0.45	0.52	
5	29	古墳	178・-723	楕円形	N-11°-W	0.61	0.41	0.8	
5	30	古墳	181・-724	不定形	N-0°	0.68	0.53	0.12	
5	31	古墳	195・-734	楕円形	N-74°-W	0.42	0.35	0.46	
5	32	古墳	196・-740	円形	-	0.57	0.57	0.14	
5	33	古墳	189・-728	楕円形	N-85°-E	0.34	0.2	0.19	
5	34	古墳	188・-749	楕円形	N-41°-W	0.4	0.27	0.08	
5	35	古墳	191・-744	円形	-	0.21	0.2	0.3	
5	36	古墳	195・-767	円形	-	0.5	0.46	0.27	
5	37	古墳	201・-774	楕円形	N-45°-W	0.76	0.55	0.52	

第7表 掘立柱建物計測表

2区1号掘立柱建物									
柱穴 No.	規模(m)			形状	柱間の寸法(m)			重複	
	長軸	短軸	深さ						
P1	0.57	0.49	0.25	円形	P1-P2	1.65、P1-P10	1.95	30坑	
P2	0.73	0.66	0.74	円形		P2-P3	1.65		
P3	0.80	0.67	0.74	楕円形		P3-P4	1.83		
P4	0.84	0.80	0.87	円形		P4-P5	1.89		
P5	0.89	0.78	0.74	楕円形		P5-P6	1.71		
P6	1.11	0.80	0.72	楕円形		P6-P7	1.68	7住、4坑	
P7	0.75	0.74	0.70	円形		P7-P8	1.92		
P8	0.81	0.60	0.84	楕円形		P8-P9	1.89		
P9	0.65	0.64	0.68	円形		P9-P10	1.52		
P10	0.92	0.79	0.78	楕円形				2掘P5	
2区2号掘立柱建物									
P1	0.73	0.54	0.34	楕円形	P1-P2	2.30、P1-P10	2.05		
P2	0.75	0.66	0.61	楕円形		P2-P3	1.65	1住、19溝	
P3	0.92	0.67	0.67	楕円形		P3-P4	2.02		
P4	0.59	0.52	0.42	円形		P4-P5	2.03		
P5	1.18	0.81	0.32	円形		P5-P6	1.85	1掘P10	
P6	0.85	0.77	0.33	楕円形		P6-P7	1.90		
P7	0.63	0.61	0.57	円形		P7-P8	1.88		
P8	0.63	0.60	0.39	円形		P8-P9	2.12		
P9	0.73	0.67	0.29	円形		P9-P10	1.80	19溝	
P10	0.83	0.51	0.62	楕円形					
2区3号掘立柱建物									
P1	0.77	0.63	0.65	楕円形	P1-P2	1.98、P1-P8	2.04		
P2	0.81	0.73	0.65	楕円形		P2-P3	1.98		
P3	0.75	0.63	0.45	楕円形		P3-P4	2.18		
P4	0.58	0.50	0.30	楕円形		P4-P5	1.62		
P5	0.81	0.80	0.69	円形		P5-P6	1.78		
P6	0.68	0.65	0.67	円形		P6-P7	2.07		
P7	0.87	0.72	0.53	楕円形		P7-P8	1.64		
P8	0.50	0.42	0.34	楕円形					
2区4号掘立柱建物									
P1	0.35	0.29	0.25	楕円形	P1-P2	2.20、P1-P4	1.82		
P2	0.28	0.26	0.25	円形	P2-P3	2.23、P2-P5	2.05		
P3	0.25	0.24	0.28	円形		P3-P6	1.90		
P4	0.30	0.26	0.40	円形	P4-P5	1.95、P4-P7	1.75		
P5	0.40	0.33	0.43	楕円形	P5-P6	2.63、P5-P8	1.70		
P6	0.35	0.34	0.42	円形		P6-P9	1.79	16坑	
P7	0.35	0.34	0.18	円形		P7-P8	2.25		
P8	0.32	0.29	0.18	円形		P8-P9	2.15		
P9	0.27	0.27	0.19	円形					

2区5号掘立柱建物									
柱穴 No.	規模(m)			形状	柱間の寸法(m)			重複	
	長軸	短軸	深さ						
P1	0.21	0.20	0.18	円形	P1-P2	2.30、P1-P5	2.30		
P2	0.26	0.22	0.26	円形	P2-P3	2.02、P2-P6	2.35		
P3	0.26	0.23	0.13	円形	P3-P4	2.00、P3-P7	2.38		
P4	0.35	0.32	0.18	円形		P4-P8	2.48		
P5	0.31	0.25	0.32	楕円形	P5-P6	2.25、P5-P9	1.94		
P6	0.37	0.29	0.43	隅丸方形	P6-P7	2.11、P6-P10	1.80	40坑	
P7	0.29	0.28	0.69	隅丸方形	P7-P8	2.12、P7-P11	1.77		
P8	0.34	0.33	0.57	隅丸方形		P8-P12	1.85		
P9	0.25	0.21	0.35	円形		P9-P10	2.52		
P10	0.28	0.20	0.26	楕円形		P10-P11	2.05		
P11	0.26	0.25	0.26	円形		P11-P12	2.04		
P12	0.25	0.24	0.24	円形					
2区6号掘立柱建物									
P1	0.30	0.27	0.25	円形		P1-P2	1.65		
P2	0.43	0.36	0.30	楕円形		P2-P3	1.70		
P3	0.43	0.38	0.34	楕円形		P3-P4	1.75	13溝	
P4	0.43	0.38	0.36	楕円形		P4-P5	1.80		
P5	0.55	0.49	0.43	楕円形					
2区7号掘立柱建物									
P1	0.45	(0.35)	0.35	(楕円形)		P1-P2	1.97		
P2	0.53	0.52	0.28	円形		P2-P3	1.91		
P3	0.47	0.42	0.18	円形		P3-P4	1.80		
P4	0.45	0.43	0.29	円形	P4-P5	1.90、P4-P7	1.15		
P5	0.48	0.40	0.39	楕円形		P5-P6	1.75		
P6	0.46	0.42	0.45	円形		P6-P8	1.13		
P7	0.45	0.43	0.25	楕円形		P7-P8	3.82		
P8	0.38	0.34	0.27	楕円形		P8-P9	2.03	50坑、2井	
P9	0.47	(0.45)	0.26	(楕円形)					
2区8号掘立柱建物									
P1	0.34	0.29	0.47	楕円形	P1-P2	1.77、P1-P4	3.50	13溝	
P2	0.40	0.38	0.50	円形	P2-P3	1.87、P2-P5	3.40		
P3	0.36	0.35	0.43	円形		P3-P6	3.57		
P4	0.51	0.48	0.41	楕円形		P4-P5	1.82		
P5	0.40	0.39	0.49	円形		P5-P6	1.85		
P6	0.37	0.36	0.27	円形					
4区1号掘立柱建物									
P1	0.64	0.56	0.44	円形	P1-P2	1.51、P1-P14	5.13		
P2	0.46	0.37	0.37	楕円形	P2-P3	3.07、P2-P17	1.97		
P3	0.35	0.30	0.30	楕円形	P3-P4	1.91、P3-P19	2.20		
P4	0.33	0.30	0.43	円形	P4-P5	0.94、P4-P21	2.01		
P5	0.60	0.37	0.28	隅丸長方形	P5-P6	1.26、P5-P23	1.66		
P6	0.36	0.29	0.29	楕円形		P6-P7	2.66		
P7	0.62	0.57	0.50	隅丸方形		P7-P8	1.66		
P8	0.54	0.47	0.44	隅丸方形		P8-P9	1.61		
P9	0.52	0.49	0.43	隅丸方形		P9-P10	1.60		
P10	0.51	0.45	0.35	隅丸方形		P10-P11	3.81		
P11	0.46	0.45	0.47	円形	P11-P13	3.60、P11-P22	1.78		
P12	0.54	(0.41)	0.33	-					
P13	0.56	0.45	0.47	隅丸方形	P13-P14	4.57、P13-P19	2.56		
P14	0.53	0.41	0.25	楕円形					
P15	0.51	0.45	0.25	円形		P15-P16	2.05		
P16	0.50	0.39	0.46	楕円形		P16-P17	2.08		
P17	0.45	0.42	0.48	円形					
P18	0.36	0.33	0.31	円形					
P19	0.49	0.37	0.26	楕円形					
P20	0.35	0.26	0.50	楕円形		P20-P21	1.98		
P21	0.45	0.43	0.50	円形					
P22	0.28	0.26	0.28	楕円形		P22-P23	1.55		
P23	0.59	0.44	0.38	隅丸長方形					
P24	0.44	0.32	0.19	楕円形					
P25	0.59	0.46	0.25	楕円形					
P26	0.31	0.24	0.43	楕円形					
P27	0.34	0.20	0.45	楕円形					
P28	0.45	0.35	0.21	楕円形					
P29	0.31	0.28	0.23	円形					
4区2号掘立柱建物									
P1	0.71	0.56	0.5	隅丸長方形	P1-P2	1.90			
P2	0.88	0.73	0.53	隅丸方形	P2-P3	1.75、P2-P5	4.20		
P3	0.61	0.52	0.3	隅丸方形		P3-P4	1.50		
P4	0.59	0.56	0.23	隅丸方形					
P5	0.86	0.73	0.43	楕円形					
4区3号掘立柱建物									
P1	0.82	0.73	0.4	隅丸方形	P1-P2	1.91			
P2	0.77	0.67	0.32	隅丸方形	P2-P3	4.26			
P3	0.83	0.72	0.24	隅丸方形					

1区2号井戸

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第14図	1	須恵器 甗	胴部片				細砂粒・粗砂粒/還元焰/黄灰	外面は叩き痕が残る。内面はナデ。	

1区2号復旧溝群

第15図	1	瀬戸・美濃 陶器 飴釉丸碗	1/6	口	(11.8)		灰黄	口縁部わずかに端反。内面から外面腰下までたっぷりの飴釉。	江戸時代
第15図	2	瀬戸・美濃 陶器 灰釉碗	口縁部片	口	(11.0)		淡黄	内外面に透明な灰釉、貫入入る。	江戸時代

1区5号復旧溝群

第15図	1	在地系土器 皿	口縁部片	口	(12.0)		にぶい橙	口縁部受け口状。胎土に金雲母末。内面に煤油付着。	中世か？
------	---	------------	------	---	--------	--	------	--------------------------	------

1区7号復旧溝群

第15図	1	瀬戸・美濃 陶器 灰釉皿	1/4	口底	(11.9) (6.0)	高	2.7	灰白	口唇部端反。内外面に白濁した灰釉、貫入入る。底部の釉を掻き取る。底部にトチン痕2カ所。	江戸時代
------	---	--------------------	-----	----	-----------------	---	-----	----	---------------------------------------------	------

1区8号復旧溝群

第15図	1	瓦 平瓦	破片				灰	薄手で平坦。表裏とも燻し焼成で黒色化。表面に光沢あり。裏面ナデ。	江戸時代
------	---	---------	----	--	--	--	---	----------------------------------	------

1区10号復旧溝群

第15図	1	肥前磁器 染付丸碗	1/4	口底	(9.7) (3.8)	高	4.6	灰白	外面に折れ松葉と梅。内面無文。	江戸時代
------	---	--------------	-----	----	----------------	---	-----	----	-----------------	------

1区8号溝

第15図	1	瀬戸・美濃 陶器 飴釉碗	底部	底	4.6			灰黄白	内外面に黄色の飴釉。高台内に「九」墨書。	江戸時代
第15図	2	瀬戸・美濃 陶器 飴釉碗	腰下	底	5.7			淡灰	内面から外面腰まで緑色の飴釉。	江戸時代
第15図	3	瀬戸・美濃 陶器 灰釉碗	腰下	底	3.8			灰白	内面から外面腰まで透明な灰釉、貫入入る。	江戸時代

1区9号溝

第15図	1	瀬戸・美濃 磁器 染付端反碗	口縁部片					白	外面に染付。口縁部内面に染付装飾帯。	近代
第15図	2	肥前磁器 染付筒形碗	胴部片					白	外面に菊花文。見込みに一重圏線。内外面に貫入入る。	江戸時代
第15図	3	瀬戸・美濃 陶器 灰釉皿	口縁部片	口	(12.0)			灰白	口縁部小さく端反。2枚の皿が重なった状態で焼き付いている。内外面に灰釉、貫入入る。2点とも内面の釉が見込み部分までしかかかっていない。2点とも上端部が黒色化。被熱か。	江戸時代
第15図	4	肥前磁器 青磁碗	底部2/3	底	4.2			灰白	厚手の作りで、内外面に水色の釉。外面と底部の釉は白濁している。	江戸時代
第15図	5	瀬戸・美濃 陶器 灰釉皿	1/3	口底	(10.6) (6.2)	高	1.9	灰白	内外面に白濁した灰釉。高台内にトチン痕2カ所。	江戸時代
第16図	6	瀬戸・美濃 陶器 黄瀬戸菊皿	体部下半1/3	底	(7.0)			灰黄	内外面に縦位の太沈線を施す。内面から外面腰下まで施釉。釉は透明度の高い灰釉に緑色の釉が入る。貫入入る。	江戸時代
第16図	7	瀬戸・美濃 陶器 折縁鉢	胴部片					黄灰	口縁部くの字に外折れ。内面錆釉、外面灰釉。	江戸時代
第16図	8	石製品 砥石	2/3	長幅	(11.0) 2.7	厚重	3.5 136.6	砥沢石	研面は2面認められる。正面は研ぎ減りにより内湾し、裏面はやや外湾する。左右側面及び上面には、僅かに櫛歯タガネ痕が認められる。下部欠損。	

1区10号溝

第16図	1	古瀬戸 鉢	口縁部片					灰	口縁部内面に稜線。内外面に灰釉。御目付大皿か。	中世、15世紀
------	---	----------	------	--	--	--	--	---	-------------------------	---------

1区10・14号溝

第16図	1	肥前磁器 染付碗	体部下半1/4	底	(4.6)			灰白	外面に草木染付。内面無文。	江戸時代
第16図	2	肥前磁器 染付皿	腰下1/4	底	(8.0)			灰白	内外面に染付。見込みコンニャク印判五弁花。	江戸時代
第16図	3	肥前陶器 陶胎染付碗	口縁部片	口	(10.6)			暗灰	口縁部外面に斜格子文帯。内外面貫入入る。	江戸時代
第16図	4	肥前陶器 陶胎染付碗	口縁部片	口	(11.0)			暗灰	外面に染付。内面無文。	江戸時代
第16図	5	瀬戸・美濃 陶器 灰釉皿	底部片	底	(7.4)			淡灰	内面と外面腰まで灰釉。見込みの重焼痕。	江戸時代

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				底	口	厚				
第16図	6	肥前磁器 輪壳皿	腰下1/2	底	4.5		灰白	内外面に灰釉、貫入入る。見込みの釉を蛇の目に掻き取る。見込みに重焼痕。高台に汚れ。腰欠損部半円状。円盤状加工品の半割れであろう。	江戸時代	
第16図	7	肥前陶器 灰釉皿	底部1/3	底	(8.1)		灰	内外面灰釉。底部の釉を掻き取る。底部に大きなトチン痕1カ所。	江戸時代	
第16図	8	瀬戸・美濃 陶器 輪壳灰釉皿	底部1/2	底	7.3		黄白	内面から外面腰まで白濁した灰釉。見込み蛇の目に釉を掻き取る。	江戸時代	
第16図	9	瀬戸・美濃 陶器 広口壺	口縁部片	口	(11.8)		にぶい橙	口縁部短く直立。口唇部と口縁部内面に灰釉、外面に白色釉をかけ、青色釉で文様施文。	近代	
第17図	10	陶器 錆釉鉢	胴部片				黄白	外面に横位、内面に縦位の櫛歯条線。内外面に錆釉。	中世、16世紀	
第17図	11	在地系土器 焜炉?	口縁部片				橙～淡灰	口縁部を外側に折り曲げる。内外面横ナデ。	近代	
第17図	12	常滑陶器 甕	肩部片				褐灰	外面に格子状叩き目。内面横ナデ。外面に錆釉、自然釉流れる。	中世	
第17図	13	陶器 鉢	胴部片				淡灰	内外面横ナデ。内面使用による摩耗顕著。	中世	
第17図	14	在地系土器 棒状土製品	破片				褐灰	片側の端部。正面に向かって反りがあり、断面形は逆台形状。側面稜と端部稜に面取り。正面丁寧ナデ。他の三面は粗いナデ。	江戸時代	
第17図	15	石製品 砥石	4/5	長幅	(7.7) (2.8)	厚重	2.0 56.5	砥沢石	研面は3面認められる。正面と裏面は研ぎ減りにより著しく外湾する。裏面の下半部には、刃慣らし傷が集中する。左側面の上半部は研面として利用されているが、下半部には櫛歯タガネ痕が明瞭に認められる。右側面にも櫛歯タガネ痕が残る。上部及び下部の一部欠損。	

1区13号溝

第17図	1	瀬戸・美濃 陶器 天目碗	体部1/5	口	(11.8)		灰白	開きが大きく、やや浅手か。内外面に鉄釉。	中世、16世紀
------	---	--------------------	-------	---	--------	--	----	----------------------	---------

1区14号溝

第17図	1	瀬戸・美濃 磁器 碗	口縁部片	口	(10.9)		白	外面と口縁部内面に銅板転写の施文。	近代	
第17図	2	瀬戸・美濃 磁器 丸碗	1/2	口底	8.3 3.6	高	4.8	白	外面に銅板転写の菊花。内面無文。	近代
第17図	3	瀬戸・美濃 磁器 碗	体部下半1/4	底	4.2		灰白	外面と見込みに型紙摺の図形。	近代	
第17図	4	瀬戸・美濃 陶器 鉄釉碗	底部	底	5.6		褐灰	内面と外面腰まで鉄釉。外面腰下から高台内まで薄く錆釉。	江戸時代	
第17図	5	瓦 平瓦?	破片				灰	表裏とも焼し焼成、黒色化。裏面研磨光沢。表面と端部ナデ。	江戸時代	
第17図	6	瓦	破片				淡灰	表裏と端部に光沢あり。	江戸時代	

2区1号復旧溝群

第21図	1	石製品 砥石	1/3	長幅	(4.4) 2.8	厚重	1.7 34.6	砥沢石	研面は1面認められる。正面は研ぎ減りにより僅かに内湾する。裏面と左右側面には、櫛歯タガネ痕が僅かに残る。上部及び下部欠損。	
------	---	-----------	-----	----	--------------	----	-------------	-----	---------------------------------------------------------------	--

2区3号復旧溝群

第21図	1	在地系土器 皿	1/5	口底	(7.8) (6.0)	高	1.9	くすんだ白橙	厚手。底部回転糸切り。	江戸時代
第21図	2	在地系土器 皿	底部1/3	底	(5.0)			浅黄橙	薄手。底部中央に焼成後の円孔あり。底部回転糸切り	江戸時代
第21図 PL.71	3	石製品 火打石	完形	長幅	2.7 1.6	厚重	1.0 4.6	石英	正面には両極剥離痕が認められ、両極加撃により整形されたと判断される。稜線上に連続する潰れが認められる。	

2区4号復旧溝群

第21図	1	陶器 碗	腰下1/2	底	3.8			濃灰	白い釉で内外面に墨流し様の文様施文。高台によごれ付着。	近代か
------	---	---------	-------	---	-----	--	--	----	-----------------------------	-----

2区6号復旧溝群

第21図	1	瀬戸・美濃 陶器 灰釉皿	口縁部片	口	(11.5)			灰白	口縁部外面外反。口縁部外面から内面に灰釉、貫入入る。体部外面に粗い轆轤目。	江戸時代
------	---	--------------------	------	---	--------	--	--	----	---------------------------------------	------

2区2号溝

第21図	1	肥前磁器 れんげ	端部片					白	先端部の破片。底面に高台様の稜がつく。内面の先端に呉須で彩色。外面に型作りの皺あり。	近代
第21図	2	瀬戸・美濃 陶器 灰釉小碗	体部下半1/2	底	3.0			灰白	内面から外面腰まで灰釉。	江戸時代
第21図	3	瀬戸・美濃 磁器 染付端反碗	口縁部片	口	(11.0)			白	外面染付。口縁部内面と見込みに二重圏線。	近代

2区2・3号溝

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第21図	1	在地系土器 焙烙	口縁部片				明橙	口縁部ほぼ直立。底部丸底。内外面横ナデ。	江戸時代
第21図	2	瓦 平瓦	破片	厚	2.0		暗灰	表面研磨。裏面ナデ。	江戸時代

2区6号溝

第21図	1	須恵器 甕	胴部片				細砂粒/還元焰/灰	外面に平行叩き痕、内面に同心円状アテ具痕が残る。		
第21図	2	瀬戸・美濃 磁器 丸碗	1/5	口 底	(11.5) (3.8)	高	4.8	灰白	外面と口縁部内面に型紙摺の図形。	近代
第21図	3	円盤状加工 品					灰	瀬戸・美濃陶器天目碗の底部を丸く打ち欠いたもの。	江戸時代	
第21図	4	円盤状加工 品					灰白	美濃陶器せんじ碗の底部を丸く打ち欠いたもの。	江戸時代	
第21図	5	肥前磁器 染付丸碗	腰下	底	4.0		灰白	外面に染付。内面無文。	江戸時代	
第21図	6	瀬戸・美濃 磁器 皿	口縁部片				白	内外面に型紙摺の図形。	近代	
第21図	7	肥前陶器 呉器手碗	腰下	底	4.6		浅黄	内外面に灰釉、貫入入る。	江戸時代	
第21図	8	瀬戸・美濃 陶器 碗	底部片	底	(6.6)		黄灰	外面に凹線を多段に施す。外面に灰釉、貫入入る。見込みに櫛歯等で絵画を施文。無釉。	江戸時代	
第21図	9	瀬戸・美濃 陶器 鉄釉瓶か	底部片	底	(12.4)		黄灰白	底部縁の稜を落とす。外面に鉄釉。腰下と底部の釉を掻き取る。	江戸時代	
第21図	10	瀬戸・美濃 陶器 鉢か	底部1/3	底	(9.5)		黄灰白	薄手。見込み中央に円形状の付属部があり、そこに黒色釉をたっぷり施すが、付属物は欠損。外面腰まで錆釉。内面に薄く錆釉。	江戸時代	
第21図	11	瀬戸・美濃 陶器 錆釉小壺か	底部片	底	(3.0)		黒灰	底部に回転糸切り痕。外面に錆釉。内面全体が赤色。	江戸時代	
第22図	12	丹波陶器 すり鉢	口縁部片				暗灰	薄手で硬質。内傾する口縁部に凹線2条がめぐる。内面に自然釉少々。	1700年頃	
第22図	13	丹波陶器 すり鉢	口縁部片				明橙	薄手で硬質。内傾する口縁部に凹線2条がめぐる。口唇部に叩きらしの明瞭な痕跡。	江戸時代	
第22図	14	在地系土器 火鉢	口縁部片	口	(32.0)		灰～にぶい橙	口縁部が外折れし、平坦面を形成。平坦面に研磨光沢。体部外面に型文様。内面に丁寧な横ナデ。内外面燻し、黒色化。	江戸時代	
第22図	15	ガラス小瓶 ロート目薬	ほぼ完形	口 底	1.4 2.0	高	5.7	青紫	青紫のガラス小瓶。断面形は横長八角形。口唇部の一部欠損。体部正面に「ロート目薬」、裏面に「本舗 山田安民」の銘を浮彫。裏面左手の1面のみに付属品の点眼用ガラス棒を納めるための凹面がつく。対向する稜線に合わせ目2カ所があり、気泡が目立つ。	近代
第22図	16	ガラス小瓶	完形	口 底	1.4 2.3	高	6.7	透明	断面隅丸方形の透明なガラス小瓶。体部の一面に陽刻で「乙」銘あり。用途は不明。対向する角部2カ所に合わせ目痕があり、気泡が目立つ。	近代
第22図	17	石製品 砥石	2/3	長 幅	(7.7) 2.8	厚 重	2.6 98.9	砥沢石	研面は1面認められる。正面は研ぎ減りにより僅かに内湾する。左右側面には、ほぼ全面に櫛歯タガネ痕が明瞭に認められる。裏面の下半部にも櫛歯タガネ痕が明瞭に残る。下部欠損。	
第22図	18	金属製品 キセル	完形	長	6.2				雁首。鋳物であろう。緑青付着、真鍮製か。肩部に花模様の装飾あり。	江戸時代、 1700年頃

2区14号溝

第22図	1	須恵器 甕	胴部片				細砂粒/還元焰/灰 白	外面は平行叩き後ナデ、内面はナデ。	
------	---	----------	-----	--	--	--	----------------	-------------------	--

3区4号復旧溝群

第25図	1	瀬戸・美濃 陶器 天目碗	体部1/4				灰黄白	内面から外面腰まで鉄釉。釉に赤茶色が入る。	江戸時代
------	---	--------------------	-------	--	--	--	-----	-----------------------	------

3区1号溝

第25図	1	瀬戸・美濃 磁器 碗	口縁部片	口	(11.0)			白	外面に銅板転写の文様。内面無文。	近代
第25図	2	磁器 色絵皿	口縁部片					灰白	口縁部輪花。内面に朱と黄緑の塗料で上絵。	近代
第25図	3	肥前磁器 染付丸碗	腰下	底	3.4			白	外面に染付。見込みに鷲図。	江戸時代
第25図	4	瀬戸・美濃 陶器 灰釉灯明油 皿	腰下1/4	底	(4.4)			灰白	内面に灰釉、貫入入る。外面腰に重焼痕。	江戸時代
第25図	5	瀬戸・美濃 陶器 鉛釉碗	腰下	底	5.5			灰白	内面から外面腰まで鉛釉。	江戸時代

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第25図	6	在地系土器 火鉢か	口縁部片					黒灰～灰白	口唇部に広く平坦面。内面強い横ナデ。外面粗い横研磨。	江戸時代
第25図	7	在地系土器 焔炉	口縁部片					濃橙	内外面燻し、黒色。口縁部と外面は黒色に塗った可能性あり。口縁部下に楕円形の透かし穴。持ち手か。体部外面にウロコ状の装飾。	江戸時代
第25図 PL.71	8	石製品 火打石	完形?	長幅	1.7 1.5	厚重	1.0 3.5	石英	稜線上に連続する潰れが認められる。	
3区2号溝										
第25図	1	瀬戸・美濃 陶器 灰釉小碗	腰下1/3	底	3.0			灰白	内面から外面腰まで灰釉。貫入入る。	江戸時代
第25図	2	石製品 砥石	1/3	長幅	(6.1) 3.6	厚重	1.4 44.3	砂岩	研面は4面認められる。正面は中央部が僅かに窪んだ形態を呈する。裏面は僅かに外湾する。左右側面はほぼ平坦である。上部及び下部欠損。	
4区1号復旧溝群										
第29図	1	瀬戸・美濃 陶器 鉛釉火入れ?	口縁部片	口	(12.5)			白灰	外面から口縁部内面まで鉛釉。内面無釉。内面の一部に黒色のよごれ。	江戸時代
第29図 PL.71	2	石製品 火打石	完形	長幅	2.3 1.6	厚重	1.0 4.8	石英	稜線上に連続する潰れが認められる。	
4区1号畠										
第29図	1	石製品 砥石	不明	長幅	(3.0) (2.7)	厚重	(0.8) 6.2	砂岩	剥落部分と考えられる。研面には、断面U字形の線状痕が集中する。	
第29図 PL.71	2	石製品 火打石	完形	長幅	2.1 2.1	厚重	0.7 2.7	石英	稜線上に潰れが僅かに認められる。	
4区5号溝										
第29図	1	肥前陶器 陶胎染付碗	口縁部片	口	(10.8)			白灰	口縁部外面に斜格子文帯。内面無文。内外面に貫入入る。	江戸時代
第29図	2	在地系土器 焙烙	口縁部片					灰白～黒灰	体部ほぼ直立。底部平底。	江戸時代
4区6号溝										
第29図	1	瀬戸・美濃 陶器 鉄釉灯明 受皿	1/4	口底	(9.9) (5.0)	高	1.8	灰白	受け部をU字状に扶る。内面から口縁部外面に錆釉。外面口縁部以下の釉を拭き取る。受け部と外面に重焼痕。	江戸時代
第29図	2	瀬戸・美濃 陶器 半胴甕	体部下半1/3	底	13.1			浅黄	内面から外面腰まで錆釉。底部中央に焼成後の打ち欠き穴あり。植木鉢に転用か。	江戸時代
4区7号溝										
第30図	1	土師器 甕	口縁部～胴部片	口	9.5			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、胴部上位にハケ目が残る。	
第30図	2	須恵器 碗	体部下位～底部 片	底	7.0			細砂粒/還元焰/灰 白	口縁部整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付、高台内側を回転ナデ。	
第30図	3	瀬戸・美濃 磁器 端反碗	1/4	口底	(6.2) (2.7)	高	4.6	白	外面に銅板転写の燕子花図。内面無文。	近代
第30図	4	瀬戸・美濃 陶器 鉄絵小碗	口縁部片	口	(8.0)			暗灰	口縁部外面に鉄絵。	江戸時代
第30図	5	瀬戸・美濃 磁器 染付香炉	口縁部片	口	(11.6)			灰白	口縁部内面から外面に白色の釉をかけ、外面に銅板転写の文様を付ける。内面無釉。口唇部に敲打痕と焦げ痕。	近代
第30図	6	瀬戸・美濃 磁器 染付碗	1/4	口底	(10.6) (3.6)	高	5.6	灰白	外面に花図染付。口縁部内面に装飾帯、見込み一重圏線内に不明文様。内外面に貫入入る。	近代
第30図	7	瀬戸・美濃 磁器 碗	体部下半1/2	底	3.7			灰白	外面と見込みに型紙摺の文様。	近代
第30図	8	瀬戸・美濃 陶器 鉢	口縁部片	口	(15.9)			くすんだ黄橙	体部球形状。口唇部丸く折り返し状。内外面に薄く透明釉。	江戸時代
第30図	9	陶器 壺か?	底部片	底	(13.7)			くすんだ暗灰	内外面横ナデ。外面かるい研磨。底部強い籠ナデ。	中世
第30図	10	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	口縁部片					淡黄橙	口唇部イの字状。内外面に錆釉。	中世、16世紀 後半
第30図	11	在地系土器 鉢	口縁部片					橙	口縁部形態半胴に類似。内外面丁寧な横ナデ。	江戸時代
第30図	12	瀬戸・美濃 陶器 鉄絵皿	1/4	口底	(12.9) (8.0)	高	2.4	淡黄白	内面に鉄絵。高台内にトチン痕2カ所。	江戸時代

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚	重			
第30図	13	瀬戸・美濃 陶器 胎釉皿	口縁部片	口	(13.7)			灰白	口唇部内面に稜。内面から口縁部外面まで胎釉。	江戸時代
第30図	14	在地系土器 焙烙	口縁部片					白橙～黒灰	体部外傾。底部平底。体部内外面横ナデ。	江戸時代
第31図	15	ガラス瓶	完形	口底	1.6 3.0	高	7.4	透明ガラス	断面長方形の透明ガラス小瓶。文字等の表示なし。片面下方に楕円形の平坦部あり。標示物の貼付箇所を示すものであろう。容器内に乳白色の乳化物付着。	近代
第31図 PL.71	16	石製品 火打石	完形	長幅	3.1 2.1	厚重	1.1 11.8	珪質変質岩	稜線上に潰れが僅かに認められる。	
第31図 PL.71	17	石製品 火打石	完形	長幅	3.3 2.1	厚重	1.0 6.0	石英	稜線上に連続する潰れが認められる。	
第31図	18	石製品 砥石	1/2	長幅	(5.5) (3.1)	厚重	(2.5) 55.4	砥沢石	研面は2面認められる。正面は研ぎ減りにより僅かに波状の形態である。裏面の下半部には櫛歯タガネ痕が僅かに残り、上半部は平滑であり研面として利用されている。下面にも櫛歯タガネ痕が僅かに残り、右側面にはそれが明瞭に認められる。上部欠損。	

4区8号溝

第31図	1	須恵器 椀	体部下位～底部 1/4	底	6.2			細砂粒/還元焰/灰白	口縁整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。	
------	---	----------	----------------	---	-----	--	--	------------	-------------------------	--

4区7・12号溝

第31図	1	肥前磁器 重ね鉢	破片	口底	(10.8) (9.6)	高	3.0	白	外面に染付。口唇部と底部内の段は無釉。	近代
第31図	2	焼締陶器 甕	胴部片					黒灰	外面に縦位の刷毛目ナデ。内面横ナデ。内面に自然釉ふる。	中世
第31図	3	瀬戸・美濃 磁器 色絵丸碗	1/5	口底	(9.2) (3.2)	高	4.2	白	外面に赤・青・白で上絵。口縁部内面に赤で一重圏線。	近代
第31図	4	在地系土器 焙烙	口縁部片					灰白	体部外傾。底部平底。体部内外面横ナデ。	江戸時代

4区12号溝

第31図	1	肥前陶器 刷毛目碗	腰下1/2	底	(3.8)			くすんだ灰褐色	内外面に刷毛目。	江戸時代
------	---	--------------	-------	---	-------	--	--	---------	----------	------

4区13号溝

第31図	1	肥前磁器 丸碗	口縁部片	口	(7.8)			灰白	外面に鶴のコンニャク印判。内面無文。	江戸時代
第31図	2	瀬戸・美濃 陶器 せんじ碗	体部1/4	口	(9.3)			灰黄	口縁部外面に鉄絵。内外面に貫入する。	江戸時代
第31図	3	瀬戸・美濃 陶器 鉄釉瓶か	腰下1/4	底	(8.3)			白灰	外面腰まで鉄釉。内面無釉。底部擦れ。	江戸時代
第31図	4	在地系土器 焙烙	口縁部片	口底	(31.0) (27.6)	高	3.4	にぶい橙	厚手、重厚。つくり丁寧。内外面横ナデ。	江戸時代
第31図	5	瀬戸・美濃 陶器 錆釉瓶	腰下	底	6.5			暗灰	底部蛇の目。外面に錆釉。内面無釉。	江戸時代
第31図	6	金属製品 キセル	完形	長	6.9				吸口。やや短いタイプか。	江戸時代、 1800年頃
第31図	7	石製品 砥石	1/2	長幅	(5.5) 2.9	厚重	1.9 38.9	変質デイスait	研面は4面認められる。正面は研ぎ減りにより僅かに内湾し、右方向に著しく片減りする。左右側面はほぼ平坦であるが、裏面は僅かに内湾する。下部欠損。	
第31図 PL.71	8	石製品 火打石	完形	長幅	2.5 2.4	厚重	1.5 10.5	石英	稜線上に連続する潰れが認められる。裏面には自然面を残しその形状から小形円礫を利用していることが分かる。	

5区1号復旧溝群(2号畠)

第36図	1	瀬戸・美濃 陶器 鉄釉天目碗	腰下1/2	底	4.2			淡黄橙	内面から外面腰まで鉄釉。高台いびつ、無調整。	江戸時代
第36図	2	石製品 砥石	完形	長幅	8.8 3.5	厚重	2.7 79.7	流紋岩	研面は5面認められる。正面は下方に向かい著しく研ぎ減りする。正面には断面V字形の線状痕が多く認められる。裏面は僅かに内湾するが、上面及び左右側面はほぼ平坦である。下部欠損。	

5区1号復旧溝群(3号畠)

第36図 PL.71	1	石製品 火打石	完形	長幅	1.6 1.4	厚重	1.2 2.9	玉髓	稜線上に連続する潰れが認められる。	
---------------	---	------------	----	----	------------	----	------------	----	-------------------	--

5区2号復旧溝群(5号畠)

第36図	1	瀬戸・美濃 陶器 灰釉瓶	腰下	底	4.6			灰黄白	外面腰まで透明度の高い緑色の灰釉、貫入する。内面無釉だが、釉が多く流れる。	江戸時代
第36図	2	肥前磁器 染付丸碗	1/5	口	(9.6)			灰白	外面に染付とコンニャク印判。内面無文。	1740～1810 年
第36図	3	瀬戸・美濃 陶器 錆釉小皿	口縁部片	口	(11.3)			灰白	口縁部端反。内面から外面腰まで錆釉。口唇部敲打痕多数。	江戸時代

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚			
第36図	4	瀬戸・美濃 陶器 鉄釉灯明 受皿	1/3	口底 (10.8) (5.2)	高	3.0	灰	大型で高さがあり、受け部が口唇部よりかなり高い。受け部にU字状の挟り。内面から口縁部外面まで錆釉。外面に重焼痕。	江戸時代
5区2号復旧溝群(6号畠)									
第36図	1	在地系土器 焙烙	体部片				灰黄	体部外傾。底部平底。内耳がつく。内外面燻し、黒色。	江戸時代
第36図	2	肥前磁器 染付丸碗	1/3	口底 (9.8) (3.6)	高	5.4	灰白	外面に雪輪梅木文。内面無文。高台内の不明文様。	1780～1810年
5区2号復旧溝群(7号畠)									
第36図	1	肥前陶器 呉器手碗	腰下3/4	底	(5.0)		黄灰	内外面に灰釉、貫入入る。高台によごれ付着。	江戸時代
第36図	2	瀬戸・美濃 陶器 火入れ?	体部1/6	口	(10.4)		淡灰	体部筒形。口縁端を内側に丸く折り曲げる。口縁部内面から外面に緑灰色の釉をたっぷりかける、貫入入る。内面無釉。	江戸時代
第36図	3	瀬戸・美濃 陶器 錆釉すり鉢	口縁部片				くすんだ橙～暗灰	大窯播鉢I類第1段階。口唇部外削ぎ状で、沈線が1条はいる。小さな片口がつく。内外面錆釉。	中世、1480年代
5区1号溝									
第36図	1	瀬戸・美濃 磁器 碗	体部下半1/2	底	3.7		白	底部蛇の目凹高台。外面に手描きで梅枝染付、桃色で花を付加。内面無文。	近代
第36図	2	肥前磁器 染付筒形碗	1/4	底	4.0		灰白	外面に矢羽根文様染付。見込み一重圏線にくずれた五弁花。	江戸時代
第36図	3	瀬戸・美濃 陶器 湯呑み	1/2	口底 7.9 4.0	高	5.5	淡黄	外面に藍色と白で縞模様。内面に刷毛目文。	近代
第36図	4	肥前磁器 染付皿	破片	底	(9.0)		灰白	外面に蛇唐草文。体部内面に染付。見込みに二重圏線。高台に砂付着。	江戸時代
第37図	5	瀬戸・美濃 陶器 灰釉鉢	体部下半1/3	底	(7.6)		黄灰白	体部筒形。内外面に透明感のある緑色の灰釉、貫入入る。見込みにトチン痕1カ所。	江戸時代
第37図	6	瀬戸・美濃 陶器 飴釉香炉	腰下3/4	底	8.0		黄灰白	底部に短い脚3つ。外面に松印刻。外面腰まで飴釉。内面無釉。	江戸時代
第37図	7	瀬戸・美濃 磁器 碗	1/5	口	(11.0)		白	外面に銅板転写の文様。内面無文。	近代
第37図	8	肥前磁器 染付皿	破片	底	(8.0)		灰白	外面に蛇唐草文。体部内面に花唐草文。見込みに二重圏線。	江戸時代
第37図	9	瀬戸・美濃 磁器 平碗	1/2	口底 11.0 3.5	高	4.2	白	内外面に型紙摺の文様。	近代
第37図	10	在地系土器 内耳鍋	口縁部片				暗灰～にぶい橙	口唇部に広く平坦面。内外面横ナデ。外面に煤付着。	中世
5区2号溝									
第37図	1	肥前磁器 染付小坏か	1/4	口	(7.4)		白	体部がやや外反ぎみに大きく開き、内面見込みが平坦。口縁部外面に稜線めぐる。外面に笹文様染付。内面無文。	江戸時代
第37図	2	瀬戸・美濃 陶器 灰釉小坏	1/5	口	(7.0)		灰白	内面から外面腰まで灰釉、貫入入る。	江戸時代
第37図	3	瀬戸・美濃 磁器 碗	腰下	底	3.8		白	底部蛇の目凹高台。見込みに「銘酒 惣祝 醸造元 高崎丸 三酒井本家」銘。	近代
第37図	4	瀬戸・美濃 陶器 蓋	1/4	口底 (12.0) (9.2)			浅黄	上面に藍色で枝を手描き、透明釉をかける。貫入入る。	近代
第37図	5	肥前磁器 染付丸碗	口縁部片	口	(10.0)		灰白	外面に二重網目文。内面無文。	1810～1860年
第37図	6	瀬戸・美濃 磁器 香炉?	胴部片	底	(11.0)		灰白	外面腰下に型紙摺の文様。内面無釉。	近代
第37図	7	在地系土器 鉢	口縁部片				灰白～黒灰	口縁部内湾。外面に轆轤目、内面横ナデ。内外面燻し、黒色。	近代か
第37図	8	ガラス瓶	腰下1/2	底	2.4		淡緑	淡緑色のガラス小瓶。気泡多数。銘なし。	近代
第37図	9	石製品 砥石	2/3	長幅 (6.3) 2.0	厚重	1.6 35.4	変質デイスait	研面は5面認められる。正面は研ぎ減りにより波状の形態である。裏面は僅かに内湾するが、左右側面はほぼ平坦である。下面は、平滑であり多方向の細かい線状痕が認められることから研面として利用されている。上部欠損。	
第37図	10	石製品 砥石	2/3	長幅 (8.1) (3.2)	厚重	2.6 104.2	変質デイスait	研面は5面認められる。正面は下方に向かい著しく研ぎ減りする。裏面は僅かに内湾するが、左右側面はほぼ平坦である。上面は平滑であり研面と判断される。下部欠損。	
第37図	11	石製品 砥石	1/2	長幅 (6.5) (6.2)	厚重	(1.9) 108.3	砥沢石	研面は4面認められる。正面は下方に向かい研ぎ減りする。裏面及び左右側面はほぼ平坦である。裏面には横方向の線状痕が集中する。上面には平タガネ痕が認められる。下部欠損。	
1区遺構外(近世)									
第38図	1	肥前磁器 青磁	破片				白灰	器種不明。薄手。外面に青磁釉、内面無釉。	近世

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第38図	2	肥前系白磁 紅皿	口縁部片	口	(5.0)			白	外面貝殻状。内面から口縁部外面に水色の灰釉。	江戸時代
第38図	3	瀬戸・美濃 磁器 小皿	1/3	口 底	(7.7) (3.0)	高	1.7	緑灰	内外面に透明釉。内面に白と朱で花の上絵。	近代
第38図	4	瀬戸・美濃 陶器 黄釉菊皿	腰下1/3	底	(7.0)			灰白	内面に縦位の太沈線、見込みに一重圏線。内面に黄釉。	江戸時代
第38図	5	在地系土器 皿	腰下1/3	底	(6.0)			橙	体部内湾。底部ナデ。内面に煤油付着。	中世か？
第38図	6	瀬戸・美濃 陶器 緑釉碗	口縁部片	口	(11.7)			白灰	軽質。内面に透明釉、外面に緑釉。	江戸時代
第38図	7	瀬戸・美濃 陶器 天目碗	口縁部片	口	(11.8)			灰白	開きが大きく、やや浅手。内外面に鉄釉。	中世、16世紀
第38図	8	瀬戸・美濃 陶器 折縁皿	口縁部片	口	(12.7)			淡黄	口縁部外面から内面に緑色の灰釉。	江戸時代
第38図	9	瀬戸・美濃 陶器 鉄釉灯明油 皿	1/4	口 底	(10.0) (4.8)	高	1.7	黄灰白	口縁部外面から内面に錆釉。外面口縁部以下の釉を拭き取る。見込みに重焼痕。口唇部と外面に煤油付着。	江戸時代
第38図	10	円盤状加工 品						灰	瀬戸・美濃陶器天目碗の底部を丸く打ち欠いたもの。	江戸時代
第38図	11	在地系土器 内耳鍋	口縁部片					にぶい橙	内外面燻し、黒色化。口縁部外傾。内外面横ナデ。外面に煤付着。	中世
第38図	12	在地系土器 火鉢	口縁部片					黒	燻し焼成、黒色化。口縁部外折。口唇部平坦面と外面に研磨光沢。内面横ナデ。	江戸時代
第38図	13	在地系土器 火鉢	口縁部片					にぶい褐	口縁部外折。内側に段あり。外面に櫛歯の波状文を横位に施文。	江戸時代

2区遺構外(近世)

第38図	1	肥前磁器 染付鉢	1/2	口 底	(15.5) 6.6	高	6.5	灰白	厚手。口縁部外面に肥厚帯。底部蛇の目凹高台。外面に枝文。口縁部内面に雷文帯、以下に東屋山水文染付。	江戸時代
第39図	2	瀬戸・美濃 磁器 碗	1/4	口 底	(8.4) (2.4)	高	4.6	白	外面に銅板転写の花模様。見込みの印刷上絵あり。商標か。	近代
第39図	3	肥前磁器 染付丸碗	1/3	口 底	(9.0) 3.6	高	3.8	灰白	外面に染付。内面無文。	江戸時代
第39図	4	銅製品 キセル	完形	長	9.9				吸口。やや潰れて変形している。	江戸時代
第39図	5	石製品 石製品	完形	長 幅	2.9 2.6	厚 重	2.7 21.1	凝灰質砂岩	極円形を呈する。全周的に平ノミ状の工具痕が僅かに残る。平ノミ状工具による加工後、研磨することにより整形されたものと推定される。	

3区遺構外(近世)

第39図	1	中国陶器 天目碗	1/6	口	(11.0)			くすんだ灰	内面から外面腰まで鉄釉。	中世、16世紀
第39図	2	瀬戸・美濃 陶器 鉄釉皿	口縁部片	口	(13.0)			灰白	口縁部折縁。内面と口縁部外面に鉄釉。	江戸時代
第39図	3	瀬戸・美濃 陶器 灰釉菱花皿	破片	口 底	(13.4) (7.6)	高	2.3	灰白	口縁部受け口状。口唇部に稜。口縁部内面と見込みに二重圏線。内面から外面腰まで澄んだ緑色の灰釉、貫入入る。	江戸時代
第39図	4	瀬戸・美濃 陶器 灰釉小碗	口縁部片					灰白	小型薄手。口縁部強く外反。内外面に灰釉、貫入入る。古瀬戸か？	江戸時代
第39図	5	瀬戸・美濃 陶器 志野丸皿	1/4	口 底	(11.6) (6.5)	高	2.1	灰白	内外面に白濁した長石釉、貫入入る。高台内にトチン痕1カ所。	江戸時代
第39図	6	瀬戸・美濃 陶器 灰釉菊皿	1/4	口 底	(11.2) (7.0)	高	3.2	灰	内面から外面腰まで灰釉、貫入入る。	江戸時代
第39図	7	在地系土器 皿	底部1/4	底	(7.0)			灰白	轆轤成形。底部糸切り後ナデ。内面指ナデ。	江戸時代
第39図	8	銅製品 キセル	1/2	長	(2.9)				雁首。火皿と首部の1/2が残存。	江戸時代、 1700年頃
第39図	9	石製品 砥石	2/3	長 幅	(7.5) 3.5	厚 重	2.4 109.5	砥沢石	研面は4面認められる。正面は僅かに内湾した形態を呈する。右側面は下方に向かい研ぎ減りする。左側面と裏面はほぼ平坦である。下部欠損。	

4区遺構外(近世)

第39図	1	瀬戸・美濃 磁器 碗	2/3	口 底	11.0 3.6	高	5.9	白	外面に銅板転写の文様。内面無文。	江戸時代
------	---	------------------	-----	--------	-------------	---	-----	---	------------------	------

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	(10.4) (3.6)	高	2.2			
第39図	2	瀬戸・美濃 陶器 灰釉灯明 受皿	1/3	口底	(10.4) (3.6)	高	2.2	灰白	受け部をU字状に挟る。内面から口縁部外面に灰釉。	江戸時代
第39図	3	瀬戸・美濃 陶器 鉄釉灯明 受皿	1/4	口底	(9.8) (5.0)	高	1.9	灰黄白	受け部をU字状に挟る。内面から口縁部外面に錆釉。外面口縁部以下の釉を拭き取る。受け部と外面に重焼痕。	江戸時代
第39図	4	瀬戸・美濃 陶器 灰釉碗	1/3	底	5.0			灰白	口縁部欠損。内面から外面腰まで灰釉、貫入する。	江戸時代
第40図	5	在地系土器 火鉢	体部上半1/4	口	(49.0)			灰黄白～暗灰	外面に回転押捺の文様。内面横ナデ。口唇部研磨。内面に煤附着。	江戸時代

5区遺構外(近世)

第40図	1	瀬戸・美濃 陶器 戸車	完形	径厚	5.1 1.3			灰白	外周に灰釉、貫入する。外周擦れ。	江戸時代
第40図	2	銭 寛永通寶	完形	縦横	2.34 2.34	厚重	0.12 2.15		新寛永、初鑄：元文八(1668)年以降。	江戸時代
第40図	3	円盤状加工 品	1/2	径厚	4.3 0.6			にぶい黄桃	内外面燻し、黒色の焙烙底板破片を円形状に加工したもの。	江戸時代

2区4号掘立柱建物

第46図	1	鉄製品 刀子	刃部破片	長	(4.0)				両刃。	平安時代
------	---	-----------	------	---	-------	--	--	--	-----	------

2区2号井戸

第56図	1	須恵器 長頸壺	胴部片					細砂粒/還元焰/暗 灰黄	ロクロ整形。上部に降灰が付着。	
第56図	2	須恵器 杯	口縁部～体部中 位片	口	13.8			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。	
第56図	3	須恵器 甕	胴部片					細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	内面に輪積痕が残る。外面に叩き痕がかすかに残り、内面はアテ具痕が残る。	
第56図	4	須恵器 長頸壺	胴部片	胴	13.3			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。胴部下位は回転ヘラ削り、肩部に凹線が1条巡る。	
第56図	5	須恵器 甕	口縁部～頸部片	口	23.9			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形。	
第56図	6	須恵器 甕	頸部片					細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	頸部はロクロ整形。胴部は内外面ともナデ。	
第56図	7	陶器 錆釉鉢	口縁部片					褐灰	口縁部下に小さな段あり。内外面に錆釉。	中世末
第56図	8	在地系土器 鉢	胴部片					灰白	内外面燻し、黒色化。内外面ナデ。底部ナデ。	中世
第56図	9	在地系土器 鉢	底部1/2					明橙	被熱変色、劣化。底部に粗い篋ナデ。	中世
第56図	10	在地系土器 鉢	胴部片					灰白～灰橙	外面かるい横ナデ。内面下半部は使用による摩耗顕著。	中世、11・12 と同個体か
第56図	11	在地系土器 鉢	底部1/2					灰白～灰橙	底部に回転糸切り痕。底部内面周縁が使用により摩耗顕著。	中世、10・12 と同個体か
第56図	12	在地系土器 鉢	体部1/4	口	(28.0)			灰白～灰橙	口唇部外削ぎ状。外面かるい横ナデ。内面下半部は使用による摩耗顕著。	中世、10・11 と同個体か
第57図	13	古瀬戸 灰釉瓶か	腰下1/2	底	10.5			くすんだ灰	外面に灰釉、緑色の釉が流れる。内面無釉、底部内面に灰釉散る。底部は無釉で、回転糸切り痕を残す。	中世
第57図	14	常滑陶器 甕	肩部片					灰白	内面横ナデ。外面に自然釉。	中世

2区3号井戸

第57図	1	土師器 杯	口縁部～底部片	口	13.0			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第57図	2	須恵器 杯	底部片	底	5.4			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第57図	3	須恵器 甕	胴部片					細砂粒/還元焰/灰	外面はナデ、内面にはアテ具痕が残る。	

4区3号井戸

第57図	1	須恵器 甕	胴部片					細砂粒/還元焰/灰	外面には平行叩き痕、内面には同心円状アテ具痕がかすかに残る。	
第57図	2	須恵器 甕	胴部片					細砂粒/還元焰/灰	内外面ともナデ。	
第57図	3	須恵器 甕	胴部片					細砂粒/還元焰/灰	外面には平行叩き痕がかすかに残る。内面はナデ。	

4区4号井戸

第57図	1	須恵器 椀	体部下位～底部 1/2	底台	7.2 7.0			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第57図	2	土師器 壺	口縁部～胴部上 位1/4	頸	11.2			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部と胴部はヘラ磨き、頸部には凸帯が貼付され、綾杉状に刺突文が巡る。内面口縁部はヘラ磨き、胴部はヘラナデか。	

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第58図 PL.70	3	埴輪 形象	胴部～底部	底	13.2		細砂粒/良好/橙	人物埴輪か。かすかに右手が残る、基部に1対の透孔。体部はハケ目(1cmあたり9本)。内面はナデ。		
4区5号井戸										
第58図	1	須恵器 椀	体部中位～底部 1/5	底台	6.6 6.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後回転ナデ、高台を貼付。		
第58図	2	須恵器 甗	胴部下位～底部 片				細砂粒/還元焰/灰	内外面ともナデ、内面にはアテ具痕がかすかに残る。		
第58図	3	須恵器 甗	胴部片				細砂粒/還元焰/灰	内外面ともナデ、内面にはアテ具痕がかすかに残る。		
2区4号土坑										
第69図	1	須恵器 椀	体部下位～底部	底台	6.0 5.7		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。		
2区16号土坑										
第69図	1	須恵器 杯	体部下位～底部 片	底	6.2		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。		
2区30号土坑										
第69図	1	在地系土器 皿	腰下1/4	底	(9.0)		浅黄褐	底部に回転糸切り痕。底部内面に指ナデ。	中世、15世紀	
2区40号土坑										
第69図	1	土師器 杯	口縁部～底部片	口底	12.8 11.0		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。		
2区53号土坑										
第69図	1	土師器 杯	口縁部～体部下 位1/3	口底	12.4 10.0		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。		
2区58号土坑										
第69図	1	石製品 砥石	1/2	長 幅	(6.2) 3.2	厚 重	3.5 82.2	砥沢石	研面は3面認められる。正面は研ぎ減りによりやや内湾する。左側面は平坦である。右側面は平坦であり、ほぼ並行する刃慣らし傷が集中する。刃慣らし傷は断面V字形である。裏面部及び下部欠損。	
4区30号土坑										
第69図	1	須恵器 甗	胴部片				細砂粒/良好/灰	外面はナデ、内面にはかすかにアテ具痕が残る。		
1区17・18号溝										
第73図	1	須恵器 杯蓋	天井部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り。		
第73図	2	埴輪 円筒	体部片				細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	外面はハケ目(1cmあたり4本)、内面はナデ。		
1区21号溝										
第73図	1	須恵器 杯	体部下位～底部 片	底	7.6		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り無調整。		
第73図	2	須恵器 杯	体部中位～底部 1/2	底	7.4		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。		
1区26号溝										
第73図	1	須恵器 椀	口縁部片	口	16.8		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。口縁部に凹線が3条巡る。		
第73図	2	常滑陶器 甗	頸部片				灰	内面横ナデ。外面にたつぷりの自然釉。	中世、14世紀 代か	
第73図	3	在地系土器 鉢	胴部片				淡灰	内外面横ナデ。内面使用による摩耗顕著。内面下半に使用による摩耗。	中世	
第73図	4	瀬戸・美濃 陶器 鉄釉灯明受 皿	1/4	口底	(10.9) (5.0)	高	2.2	淡灰	受け部をU字状に抉る。内面から口縁部外面に錆釉。外面口縁部以下の釉を拭き取る。受け部と外面に重焼痕。	江戸時代
第73図	5	銭 元豊通寶	完形	縦 横	2.37 2.39	厚 重	0.13 2.24		北宋、初鑄：元豊元(1078)年、銅貨。	中世
第73図	6	石製品 砥石	不明	長 幅	(5.1) (3.2)	厚 重	0.4 9.5	珪質粘板岩	正面が研ぎ面と想定され平滑である。正面の右縁辺に作出面が認められ、線状痕が集中する。上面と左側面には、正面と平行する方向の細かな筋状痕が認められ加工時の痕跡と考えられる。裏面は剥落しており、転用により砥石として利用され可能性もある。	
2区12号溝										
第78図	1	須恵器 壺	胴部上位～下位	胴	18.0		細砂粒/酸化焰/に ぶい赤褐	ロクロ整形。肩部に2条の凹線が巡る。胴部上位は回転ヘラ削り。		
第78図	2	須恵器 甗	胴部片				細砂粒/還元焰/灰	外面はカキ目、内面は同心円状アテ具痕が残る。		
第78図	3	須恵器 甗	頸部～胴部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	内外面ともナデ。		
第78図	4	須恵器 甗	胴部片				細砂粒/還元焰/灰	外面はカキ目、内面は同心円状アテ具痕が残る。		
第78図	5	龍泉窯系青 磁 蓮弁文碗	胴部片				淡灰	外面に蓮弁文印刻。内外面に明るい緑灰色の青磁釉。	中世	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第78図	6	緑釉陶器 皿	口縁部片				灰	轆轤成形。内外面に薄く緑釉。東海産。	平安時代	
第78図	7	在地系土器 内耳鍋	胴部片				灰褐	外面粗いナデ、粗い研磨。内面横ナデ。	中世	
第78図	8	常滑陶器 甗	胴部片				淡灰	内面に指押さえと横ナデ。外面に自然釉。	中世	
第78図	9	常滑陶器 甗	底部片	底	(17.0)		橙～暗灰	底部ナデ。底部内面に自然釉少々。	中世	
2区13号溝										
第78図	1	須恵器 甗	口縁部～胴部上 位片	口	21.8		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形。		
第78図 PL.71	2	石製品 巡方	完形	長	3.6	厚 重	0.6 16.9 頁岩	各面共に光沢は認められない。正面は多方向の線状痕が認められる。各側面部には、正面とほぼ直交する方向の線状痕が集中してみられる。		
第78図	3	須恵器 壺	胴部片				細砂粒 /還元焰/ 灰白	ロクロ整形。胴部は回転ヘラ削り。		
2区16号溝										
第79図	1	須恵器 椀	体部下位～底部 1/2				細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。高台は剥落。		
第79図	2	須恵器 杯	底部片	底	5.8		細砂粒/酸化焰・ 燻/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。		
第79図	3	灰釉陶器 無頸壺	口縁部片	口	16.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法は不明。		
第79図	4	須恵器 杯	底部片	底	10.4		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。		
第79図	5	灰釉陶器 椀	高台部片	底台	8.2 8.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付。	大原2号窯式 期	
第79図	6	須恵器 長頸壺	胴部下位～底部 1/2	底台	9.5 8.4		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付、胴部下位は回転ヘラ削り。		
第79図	7	須恵器 椀	体部下位～底部 1/2	底台	7.8 8.6		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。		
第79図	8	須恵器 長頸壺	胴部下位～底部 1/2	底台	9.5 8.8		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付、胴部下位は回転ヘラ削り。		
第79図	9	須恵器 長頸壺	高台部片	底台	9.2 10.8		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。		
第79図	10	須恵器 甗	口縁部片	口	26.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。		
第79図	11	須恵器 甗	頸部～胴部片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。外面は回転ヘラナデ。		
第79図	12	須恵器 甗	胴部片				細砂粒/還元焰/灰	外面は平行叩き痕後部分的にカキ目。内面は無文のアテ具痕が残る。		
第79図	13	須恵器 甗	胴部片				細砂粒/還元焰/黄 灰	外面は格子目状叩き痕、内面はアテ具痕が残る。		
第79図	14	須恵器 甗	胴部片				細砂粒/還元焰/灰 白	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。		
第79図	15	須恵器 壺	胴部上位片				細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。外面は回転ヘラナデ。		
第80図	16	須恵器 甗	胴部片				細砂粒/還元焰/灰 白	外面は平行叩き痕、内面は無文のアテ具痕が残る。		
第80図	17	須恵器 甗	胴部片				細砂粒/還元焰/灰	外面は斜格子目状叩き痕、内面はアテ具痕が残る。		
第80図	18	須恵器 甗	胴部片				細砂粒/還元焰/灰 白	外面は平行叩き痕、内面は無文のアテ具痕が残る。		
第80図	19	須恵器 甗	底部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	内外面ともヘラナデ。		
第80図	20	龍泉窯系青 磁 蓮弁文碗	胴部片				灰白	外面に蓮弁文印刻。内外面に明るい緑灰色の青磁釉。	中世	
第80図	21	同安窯系青 磁 劃花文皿	底部1/4	底	(4.0)		淡灰	底部上げ底。腰の折れ部外面に稜、内面は内湾。見込みに劃花文。内面から海面腰まで緑灰色の青磁釉。	中世、15世紀	
第80図	22	古瀬戸陶器 尊式花瓶	脚部2/3				灰白	体部剥落。脚端部欠損。轆轤成形。脚部上半に灰釉、貫入する。	中世、15世紀	
第80図	23	在地系土器 皿	口縁部片	口	(11.0)		灰白	轆轤成形。内外面に薄く緑釉。東海産。	中世、15世紀	
第80図	24	在地系土器 皿	1/4	口底	(8.0) (5.6)	高	1.5	灰白	轆轤成形。軟質で粉っぽい。体部弱く内湾。底部回転糸切り。	中世、15世紀
第80図	25	在地系土器 皿	1/5	口底	(16.0) (8.0)	高	3.3	灰白	轆轤成形。軟質で粉っぽい。体部が弱く内湾しながら開く。	中世、15世紀
第80図	26	在地系土器 皿	1/6	口底	(15.0) (8.0)	高	3.6	淡白橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。腰部が括れて、体部が直線的に開く。	中世、15世紀

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第80図	27	在地系土器皿	口縁部片	口	(15.0)			淡白橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。体部が直線的に開く。	中世、15世紀
第80図 PL.66	28	在地系土器皿	1/4	口底	(6.8) (4.0)	高	2.0	灰白	轆轤成形。軟質で粉っぽい。体部弱く内湾。底部回転糸切り。底部内面に指ナデ。	中世、15世紀
第80図 PL.66	29	在地系土器皿	一部欠損	口底	9.8 5.2	高	3.1	灰白	轆轤成形。軟質で粉っぽい。腰部が括れて、体部が弱く内湾しながら開く。底部回転糸切り。	中世、15世紀
第81図	30	在地系土器皿	1/6	口底	(13.8) (6.0)	高	3.3	淡白橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。体部が直線的に開く。	中世、15世紀
第81図	31	在地系土器皿	1/6	口底	(13.7) (6.0)	高	3.1	淡白橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。腰部が括れて、体部が弱く内湾しながら開く。底部回転糸切り。	中世、15世紀
第81図	32	在地系土器皿	口縁部片	口	(14.0)			淡白橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。体部が直線的に開く。	中世、15世紀
第81図 PL.66	33	在地系土器皿	1/2	口底	(17.4) 9.4	高	3.9	黄灰白	轆轤成形。器形歪みあり。軟質で粉っぽい。腰部が括れて、体部が弱く内湾しながら開く。底部回転糸切り、内面に指ナデ。底面底部に化粧粘土様の皮膜あり。	中世、15世紀
第81図 PL.66	34	在地系土器皿	一部欠損	口底	15.7 8.2	高	3.8	淡白橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。腰部が括れて、体部が弱く内湾しながら開く。底部回転糸切り、内面に指ナデ。底面底部に化粧粘土様の皮膜あり。	中世、15世紀
第81図 PL.66	35	在地系土器皿	1/3	口底	(14.2) (7.2)	高	4.2	にぶい黄橙	轆轤成形。器形歪みあり。軟質で粉っぽい。腰部が括れて、体部が直線的に開く。底部回転糸切り、内面に指ナデ。	中世、15世紀
第81図	36	在地系土器皿	底部1/2	底	(8.0)			淡白橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。底部回転糸切り後、かるいナデ消し。内面不明瞭。	中世、15世紀
第81図	37	在地系土器皿	底部1/2	底	(6.8)			淡橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。底部回転糸切り後、ナデ消し。内面に横位指ナデ。	中世、15世紀
第81図	38	在地系土器鉢	腰下破片	底	(11.0)			暗灰	内面に縦位奉公の櫛歯条線を曲線的に施文。内外面ナデ。底部ナデ。	中世、15世紀
第81図	39	在地系土器鉢	腰下破片	底	(15.0)			にぶい黄褐	外面縦位ナデ、内面横位ナデ。内面腰にかかる研磨。	中世、15世紀
第81図	40	在地系土器鉢	腰下破片	底	(14.0)			灰～褐灰	外面粗い研磨。内面横ナデ。内面腰に研磨。	中世、15世紀
第81図	41	在地系土器鉢	胴部片					灰白～にぶい橙	外面かるい研磨。内面横ナデ。	中世、15世紀
第81図	42	在地系土器鉢	胴部片					淡灰～淡褐	外面横ナデ。内面かるい研磨。内面下半に使用による擦れ痕。	中世、15世紀
第82図	43	在地系土器内耳鍋	口縁部片					浅黄褐	口縁部受け口状。外面燻し、黒色。内外面横ナデ。	中世
第82図	44	在地系土器内耳鍋	口縁部片					くすんだ灰	内外面燻し、暗灰～黒灰。外面に煤付着。	中世
第82図	45	焼締陶器甕	胴部片					灰白	外面に斜格子の叩き目。内面横ナデ。	中世、107・108と同個体
第82図	46	焼締陶器甕	胴部片					灰白	外面ナデ。内面指押さえと横ナデ。	中世、106・108と同個体
第82図	47	焼締陶器甕	肩部片					灰白	外面斜めナデ。内面粗い横ナデ。内面に自然釉かかる。	中世、106・107と同個体
第82図	48	常滑陶器甕	胴部片					暗灰	外面縦位ナデ、内面横位ナデ。外面に錆釉、内面に自然釉。	中世
第82図	49	常滑陶器甕	口頸部片					くすんだ灰	短い口頸部が強く5の字状に外反。口頸部内面丁寧な横ナデ、平滑。肩部内面に粘土帯、指押さえ。肩部外面に自然釉灰降り状。	中世、12世紀後半代
第82図	50	常滑陶器甕	胴部片					くすんだ灰	内外面丁寧な横ナデ。内面に自然釉灰降り状。	中世
第82図	51	石製品砥石		長幅	(3.9) (3.6)	厚重	(1.0) 13.0	珪質粘板岩	正面が研ぎ面と想定され僅かに内湾する。正面の右縁部に小さな作出面がある。下面と左右側面には、正面とほぼ平行する方向の細かな筋状痕が認められ加工時の痕跡と考えられる。裏面は剥落しており、転用により砥石として利用され可能性もある。	
第82図	52	石製品砥石	4/5	長幅	(9.2) 5.7	厚重	3.8 250.4	砥沢石	研面は4面認められる。正面と右側面は研ぎ減りにより内湾する。正面の上部には、断面V字形の線状痕が集中する。裏面と左側面は僅かに外湾する形態である。下部の一部欠損。	

2区17号溝

第83図	1	土師器杯	口縁部～体部下位片	口	13.2			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面は斜放射状暗文。	
第83図	2	須恵器杯	口縁部～体部下位片	口	10.1			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
第83図	3	須恵器小型長頸壺	胴部片	胴	6.6			細砂粒/還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転右回りか。胴部中位に凹線が1条巡る。外面肩に降灰付着。	
第83図	4	土師器甕	口縁部片	口	25.6			細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

2区18号溝

第83図	1	土師器杯	口縁部～底部	口	12.4			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	内面口縁部に墨書。
------	---	------	--------	---	------	--	--	-------------	---------------------------	-----------

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第83図	2	土師器 杯	口縁部～体部下 位片	口	12.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第83図	3	土師器 杯	3/4	口 底	12.4 9.1	高	3.9	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第83図	4	須恵器 杯	口縁部～体部下 位1/3	口	12.8			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形。	
第83図	5	須恵器 杯	口縁部～体部下 位片	口	11.8			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。	
第83図	6	須恵器 杯	口縁部～体部下 位片	口	11.6			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形。	
第83図	7	須恵器 長頸壺	頸部片	口	8.8			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。	
第83図	8	須恵器 甕	胴部片					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。外面に厚く降灰が付着。	
第83図 PL.71	9	石製品 火打石	完形?	長 幅	4.1 2.4	厚 重	1.8 16.1	石英	稜線上に連続する潰れが認められる。正面は全面が自然面 で、その形状から円礫を利用していることが分かる。	
第83図 PL.66	10	在地系土器 皿	1/2	口 底	(10.2) 5.7	高	3.7	白橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。腰部が括れ、体部が直線的に 開く。底部回転糸切り、内面に指ナデ。	中世、15世紀
第83図 PL.66	11	在地系土器 皿	1/2	口 底	(10.7) 6.0	高	3.7	白橙	轆轤成形。器形歪みあり。軟質で粉っぽい。腰部が括れ、 体部が直線的に開く。底部回転糸切り、内面に指ナデ。	中世、15世紀
第83図 PL.66	12	在地系土器 皿	1/2	口 底	(11.5) 6.3	高	3.6	白橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。腰部が括れ、体部が直線的に 開く。底部回転糸切り、内面に指ナデ。	中世、15世紀
第83図	13	在地系土器 皿	1/4	口 底	(11.8) (6.0)	高	3.6	白橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。腰部が括れ、体部が直線的に 開く。口縁部外面わずかに内湾。底部回転糸切り、内面に 指ナデ。	中世、15世紀
第83図 PL.66	14	在地系土器 皿	3/4	口 底	11.3 6.0	高	3.3	淡橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。腰部が括れ、体部が直線的に 開く。底部回転糸切り、内面に指ナデ。	中世、15世紀
第83図	15	在地系土器 皿	1/4	口 底	(12.3) (5.8)	高	3.5	淡橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。腰部が括れ、体部が直線的に 開く。底部回転糸切り後、ナデ消し。内面に指ナデ。	中世、15世紀
第83図	16	在地系土器 皿	1/2	口 底	12.1 (6.3)	高	3.9	淡橙	轆轤成形。器形歪みあり。軟質で粉っぽい。腰部が括れ、 体部が直線的に開く。底部横ナデ、内面に指ナデ。	中世、15世紀
第83図	17	在地系土器 皿	底部	底	6.5			淡橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。底部回転糸切り、内面に指ナデ。	中世、15世紀
第84図	18	在地系土器 皿	1/4	口 底	(14.5) (6.8)	高	4.6	淡白橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。腰部が括れ、体部が外反ぎみ に開く。底部回転糸切り、内面に指ナデ。	中世、15世紀
第84図 PL.66	19	在地系土器 皿	3/4	口 底	14.1 7.0	高	4.7	淡白橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。腰部が括れ、体部が外反ぎみ に開く。底部回転糸切り、内面に指ナデ。	中世、15世紀
第84図 PL.66	20	在地系土器 皿	一部欠損	口 底	13.8 7.0	高	4.5	淡白橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。腰部が括れ、体部が外反ぎみ に開く。底部回転糸切り、内面に指ナデ。	中世、15世紀
第84図	21	在地系土器 皿	1/3	口 底	(14.5) 7.0	高	3.5	淡橙	轆轤成形。器形歪みあり。軟質で粉っぽい。腰部が括れ、 体部が直線的に開く。底部横ナデ、内面に指ナデ。	中世、15世紀
第84図	22	在地系土器 皿	1/4	口 底	(14.8) (7.8)	高	4.1	淡橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。腰部が括れ、体部が直線的に 開く。底部回転糸切り、内面に指ナデ。	中世、15世紀
第84図	23	在地系土器 皿	1/2	口 底	(14.8) 6.8	高	4.8	淡白橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。腰部が括れ、体部が直線的に 開く。底部回転糸切り、内面に指ナデ。	中世、15世紀
第84図	24	在地系土器 皿	1/2	口 底	15.0 7.6	高	4.3	淡白橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。腰部が括れ、体部が直線的に 開く。底部回転糸切り、内面に指ナデ。	中世、15世紀
第84図 PL.66	25	在地系土器 皿	一部欠損	口 底	14.7 7.4	高	4.6	淡白橙	轆轤成形。器形歪みあり。軟質で粉っぽい。腰部が括れ、 体部が直線的に開く。底部回転糸切り後、ナデ。内面に指 ナデ。	中世、15世紀
第84図 PL.66	26	在地系土器 皿	2/3	口 底	12.3 6.3	高	4.3	淡橙	轆轤成形。器形歪みあり。軟質で粉っぽい。腰部が括れ、 体部が直線的に開く。底部回転糸切り、内面に指ナデ。	中世、15世紀
第85図	27	在地系土器 皿	1/4	口 底	(14.8) (7.1)	高	3.8	淡白橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。腰部が括れて、体部が弱く内 湾しながら開く。	中世、15世紀
第85図	28	在地系土器 皿	1/4	口 底	(12.4) (4.2)	高	3.5	淡橙	轆轤成形。器形歪みあり。軟質で粉っぽい。腰部が括れ、 体部が直線的に開く。底部回転糸切り後、ナデ。	中世、15世紀
第85図	29	在地系土器 皿	1/6	口 底	(11.8) (6.3)	高	3.6	淡白橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。腰部が括れ、体部が直線的に 開く。底部回転糸切り後、ナデ。	中世、15世紀
第85図	30	在地系土器 皿	1/6	口 底	(12.0) (6.2)	高	3.5	淡白橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。腰部が括れ、体部が直線的に 開く。	中世、15世紀
第85図	31	在地系土器 皿	底部1/5	底	(9.0)			淡白橙	轆轤成形。軟質で粉っぽい。底部回転糸切り後、ナデ。	中世、15世紀
2区19号溝										
第85図	1	須恵器 杯	口縁部～体部片	口	12.8			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形。	
第85図	2	土師器 甕	口縁部～胴部上 位片	口	11.8			細砂粒/良好/黒褐	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第85図	3	中国産白磁 唐草文瓶	頸部片か					灰白	外面に唐草文様印刻し、ややくすんだ緑灰色の釉をかける。 内面無釉で、5mm間隔で凹凸のある轆轤目を残す。	中世
4区9号溝										
第88図	1	須恵器 甕	口縁部片	口	17.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。	
第88図	2	須恵器 甕	口縁部中位～頸 部					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。	

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第88図	3	須恵器 甕	胴部片				細砂粒/還元焰/暗 灰	内外面ともナデ。		
第88図	4	須恵器 甕	胴部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。		
第88図 PL.71	5	石製品 碁石	完形	長 幅	1.8 1.9	厚 重	0.5 2.3	頁岩	全体的に滑らかである。正面及び裏面には僅かに線状痕が残り研磨により整形されたと考えられる。	
第88図	6	中国産白磁 唐草文瓶	胴部片				白灰	外面に唐草文様印刻し、緑灰色の釉をかける。内面無釉で、5～6mm間隔で凹凸のある轆轤目を残す。当てものか。	中世	
第88図	7	常滑陶器 広口壺	口縁部片				白灰	内折する口縁部が直立。短い頸部下に稜。口縁部内面と体部外面に自然釉。	中世、13世紀 前半	
第88図	8	常滑陶器 片口鉢	体部下半1/4	底	(13.0)			黒灰～暗橙	体部上半が外反。高台部欠損。内外面に轆轤目。外面に凹凸が残る。腰下窪削り調整。内面下半使用により摩耗顕著。内面上半に自然釉少々。	中世、12世紀 代

4区10号溝

第88図	1	須恵器 杯	底部片	底	7.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第88図	2	須恵器 甕	胴部片					細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	内外面ともナデ。	

1区遺構外(中世)

第89図	1	古瀬戸 灰釉壺	頸部片					灰白	口縁部が外反しながら大きく開く。外面に緑色の灰釉、貫入する。内面にも薄く釉かかる。	中世
第89図	2	古瀬戸 灰釉瓶子または水注	肩部片					灰白	肩が強く張る。外面に緑色の灰釉、貫入する。内面に多段の轆轤目。瓶子1類か。	中世、13世紀 代か
第89図	3	在地系土器 鉢?	胴部片					淡橙～淡灰	内外面横ナデ。	中世
第89図	4	在地系土器 鉢?	胴部片					橙～灰	薄手、均質。硬質。内外面横ナデ。	中世
第89図	5	在地系土器 内耳鍋	口縁部片					にぶい橙	口縁部外傾。内外面横ナデ。外面に煤付着。	中世
第89図	6	陶器 鉢	底部片					褐灰	外面斜行ナデ。内面使用による摩耗顕著。	中世

2区遺構外(中世)

第89図	1	焼締陶器 甕	肩部片					褐灰～白灰	内面横ナデ。外面縦ナデ、一部横ナデ。	中世
第89図	2	焼締陶器 甕	肩部片					淡灰	外面肩部に沈線が一条めぐる。外面に格子状の叩き目、前面に薄く自然釉か。内面に指押さえと横ナデ。	中世
第89図	3	在地系土器 鉢	胴部片					淡灰	内外面に轆轤目。内面使用による摩耗。	中世
第89図	4	陶器 甕か?	底部1/4	底	(9.0)			橙～褐灰	底面に不明の圧痕。底部内面に自然釉ふる。	中世か?
第89図	5	在地系土器 鉢	腰下1/6	底	(11.0)			灰	轆轤成形。底部回転糸切り。外面横ナデ。内面に縦位方向の櫛歯条線2カ所。内面擦れ。	中世
第89図	6	常滑陶器 甕	肩部片					灰白	内面に指押さえ痕。外面にたっぶりの自然釉。	中世
第89図	7	焼締陶器 甕	胴部片					黒灰～灰黄白	硬質で重厚。外面に縦位の粗い刷毛目。内面丁寧ナデ、光沢あり。	中世
第89図	8	陶器 甕か?	底部片					浅黄橙～赤橙	外面粗いナデ。内面研磨。	中世か?

3区遺構外(中世)

第90図	1	龍泉窯系青 磁 蓮弁文碗	口縁部片					灰白	薄手で軽質。蓮弁文は省略された沈線で表現。内外面に貫入する。	中世
第90図	2	龍泉窯系青 磁 皿か	口縁部片					灰白	口縁部強く外反。外面に曲線的な印刻文あり。釉は深い緑灰色。	中世
第90図	3	中国産白磁 唐草文瓶	頸部片か					白	外面に唐草文様印刻し、澄んだ水色の釉をかける。内面無釉で、5～6mm間隔で凹凸のある轆轤目を残す。当てものか。一部内面にも釉が流れる。	中世
第90図	4	龍泉窯系青 磁 蓮弁文碗	底部片					灰	薄手。釉は暗緑灰色で、厚い。	中世
第90図	5	在地系土器 片口鉢	口縁部片					灰	瓦質。口唇部内外面に肥厚。内外面に轆轤目。	中世
第90図	6	在地系土器 皿	1/5	口 底	(7.8) (5.0)	高	2.3	にぶい橙	轆轤成形。底部回転糸切り。体部が弱く内湾しながら開く。口唇部全体に煤油付着。	中世末
第90図	7	古瀬戸 緑釉小皿	口縁部片					灰白	口縁部内面から口唇部外面に灰釉。釉は白色に変色している。	中世
第90図	8	在地系土器 鉢	胴部片					暗灰	外面ナデ、凹凸あり。内面に曲線的な櫛歯条線。内面擦れ。	中世
第90図	9	古瀬戸 灰釉大鉢	胴部片					灰白	轆轤成形。焼成良好。内面と体部上半外面に澄んだ緑灰色の灰釉、貫入する。内面では灰釉流れる。	中世
第90図	10	在地系土器 鉢	口縁部片					くすんだ灰	瓦質。口唇部内外面に肥厚。内外面横ナデ。	中世

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第90図	11	在地系土器鉢	口縁部片					にぶい橙	口唇部外削ぎ状。内外面燻し、黒色。内外面横ナデ。	中世
第90図	12	在地系土器鉢	胴部片					くすんだ灰	瓦質、硬質。内外面研磨。内面擦れ。	中世
第90図	13	在地系土器鉢	胴部片					暗灰	瓦質、硬質。厚手のつくりで、内外面研磨。襷か？	中世
第90図	14	銭皇宋通寶	ほぼ完形	縦横	2.33 2.35	厚重	0.12 1.55		北宋、初鑄：宝元2(1039)年、銅貨、周辺部ほつれ。	中世
第90図	15	銭元祐通寶	完形	縦横	2.46 2.42	厚重	0.14 2.60		北宋、初鑄：元祐元(1086)年、銅貨。	中世

4区遺構外(中世)

第90図	1	焼締陶器甕	胴部片					灰	外面に叩き目と縦ナデ。内面横ナデ。内面に自然釉少々。	中世
第90図	2	銭紹聖元寶	ほぼ完形	縦横	2.46 2.43	厚重	0.13 2.34		北宋、初鑄：紹聖元(1094)年、銅貨、周辺部ほつれ。	中世

5区遺構外(中世)

第90図	1	銭淳化元寶	完形	縦横	2.51 2.51	厚重	0.15 3.93		北宋、初鑄：淳化元(990)年、銅貨。	中世
------	---	-------	----	----	--------------	----	--------------	--	---------------------	----

1区2号住居

第95図 PL.67	1	土師器杯	1/3	口底	12.6 8.8	高	3.1	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第95図 PL.67	2	土師器杯	1/2	口底	12.2 8.8	高	3.4	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第95図	3	土師器杯	1/3	口底	11.8 8.0	高	3.3	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第95図	4	土師器杯	1/4	口底	12.2 8.4			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第95図	5	土師器杯	体部下位～底部1/4	底	9.4			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第95図	6	土師器杯	口縁部～底部片	口底	12.8 8.4			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第95図	7	土師器杯	口縁部～底部片	口底	11.9 9.4			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第95図	8	土師器小型甕	口縁部～胴部上位1/4	口	11.9			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第95図 PL.67	9	須恵器椀	1/3	口底	15.3 7.2	台高	6.7 5.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第95図 PL.67	10	須恵器椀	1/3	口底	14.0 6.4	台高	7.2 6.0	細砂粒・粗砂粒/還元焰/褐灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第95図	11	土師器甕	口縁部～胴部下位1/4	口胴	14.8 16.1			細砂粒/良好/灰褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	外面胴部に煤が付着。
第95図 PL.68	12	土師器甕	口縁部～胴部上位1/3	口	19.6			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第95図 PL.68	13	灰釉陶器長頸壺	口縁部1/4、頸部-胴部上半	口頸	12.8 7.0			微砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法不明。	光ヶ丘1号窯式期。
第95図 PL.68	14	灰釉陶器長頸壺	頸部～体部片	頸	7.0			微砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。頸部にて胴部と口縁部を接合。施釉方法不明。	光ヶ丘1号窯式期。

1区3号住居

第96図	1	土師器杯	1/3	口底	11.6 7.2	高	3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第96図	2	須恵器杯	体部下位～底部1/3	底	6.0			細砂粒/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第96図	3	須恵器杯	体部下位～底部片	底	7.4			細砂粒/酸化焰/淡黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第96図	4	須恵器椀	体部下位～底部	底台	6.8 6.4			細砂粒・粗砂粒/酸化焰/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第96図 PL.68	5	須恵器長頸壺	1/2(口唇部・台部欠)	頸底	3.6 6.2	胴	10.0	細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。胴部下位に回転ヘラ削り	
第96図	6	土師器台付甕	脚部	底脚	4.4 8.4			細砂粒/良好/灰黄褐	脚部は貼付。胴部はヘラ削り、脚部は横ナデ。	
第96図	7	須恵器椀	口縁部～底部片	口底	13.7 6.2	台高	6.0 5.3	細砂粒/還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転方向不明。底部切り離し技法不明、高台は貼付。	

1区4号住居

第98図	1	須恵器皿	口縁部片	口	12.6			細砂粒/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。	
第98図 PL.68	2	須恵器杯	口縁部1/4	口	13.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
第98図	3	須恵器杯	口縁部～体部片	口	12.6			細砂粒/還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。	
第98図	4	土師器杯	1/4	口底	13.7 6.8	高	4.0	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	
第98図	5	須恵器杯	1/4	口底	12.2 5.9	高	4.0	細砂粒/還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				底台	高				
第98図	6	須恵器 椀	体部～底部1/4	12.1 6.6	高	3.9	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第98図	7	須恵器 杯	1/3	12.1 5.5	高	3.9	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	内面底部に墨書。
第98図	8	土師器 甕	口縁部～胴部 1/2	10.8			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第98図	9	土師器 小型甕	口縁部～胴部上 位1/4	10.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第98図	10	土師器 甕	口縁部～胴部片	16.8			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第98図 PL.71	11	鉄製品 刀子	先端一部欠損	19.3	長			使用により刃部消失。茎はしっかりと大きい。	平安時代

1区5号住居

第99図	1	土師器 杯	1/4	12.7 9.4	高	3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第99図	2	土師器 杯	口縁部～底部 1/4	11.7 7.6			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第99図	3	土師器 杯	口縁部片	12.8			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第99図	4	土師器 杯	口縁部～底部 1/4	13.8 9.4			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。内面は体部から底部に斜放射状暗文。	
第99図	5	須恵器 椀	1/3	15.2 7.8	台 高	7.4 6.3	細砂粒/酸化焰/に ぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第99図 PL.68	6	須恵器 椀	口縁部片				細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形。	外面口縁部に墨書。
第99図 PL.68	7	土師器 甕	口縁部～胴部下 位1/3	12.0 13.8			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

1区6号住居

第100図	1	土師器 杯	1/2	12.2 8.6	高	3.3	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第100図	2	土師器 杯	1/4	12.2 8.4	高	3.2	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	外面口縁部と体部に煤が付着。
第100図	3	須恵器 杯	1/4	13.8 6.2	高	3.1	細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第100図	4	須恵器 椀	口縁部1/4	13.4			細砂粒/酸化焰/浅 黄	ロクロ整形。	
第100図	5	須恵器 杯	体部下位～底部 1/2	6.0			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第100図	6	黒色土器 椀	体部下位～底部 1/2	5.0			細砂粒/還元焰/浅 黄	内面黒色処理処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第100図	7	須恵器 椀	1/3	14.2 5.6	高	4.3	細砂粒/還元焰/に ぶい赤褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第100図	8	須恵器 椀	体部下位～底部	6.6 6.0	底 台		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第100図	9	須恵器 椀	口縁部～底部 1/4	14.8 7.0	台 高	6.0 5.5	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第100図	10	須恵器 甕	胴部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	外面は叩き痕がナデ消されている。内面は無文のアテ具痕が残るが、一部ヘラナデ。	

1区7号住居

第101図	1	土師器 杯	口縁部一部欠	12.1 9.4	高	3.5	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第101図	2	土師器 杯	3/4	11.8 7.0	高	3.7	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	焼成時の歪みが大きい。
第101図	3	土師器 杯	1/2	12.0 7.8	高	3.5	細砂粒/良好/灰褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第101図	4	土師器 杯	1/2	11.8 8.4	高	3.3	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第101図 PL.68	5	土師器 杯	口縁部～底部 2/3	11.7 8.8			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第101図	6	土師器 杯	1/3	10.8 8.2	高	3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第101図	7	土師器 杯	口縁部～底部片	11.0 7.8			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第101図	8	土師器 杯	口縁部～底部 1/4	12.8 9.2			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第101図	9	須恵器 杯	1/3	11.2 6.4	高	3.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第101図	10	須恵器 杯	体部下位～底部 1/4	7.0			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第101図	11	須恵器 甕	胴部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	外面は叩き痕が残る、内面はアテ具痕をナデ消している。	

遺物観察表

2区1号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第103図 PL.68	1	土師器 杯	完形	口底	12.1 7.8	高	3.1	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	外面口縁部に 墨書。
第103図 PL.68	2	土師器 杯	2/3	口底	13.9 9.2	高	3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面は体部から底部に放射状暗文。	内面底部に墨 書。
第103図	3	須恵器 椀	口縁部片	口	11.8			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
第103図 PL.68	4	須恵器 杯	口縁一部欠	口底	12.0 5.7	高	3.4	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第103図	5	須恵器 椀	1/4・高台部欠	口底	16.0 7.4			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。高台が欠損後欠損箇所を擦り磨いて再使用か。	
第103図	6	須恵器 杯蓋	天井部片					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
第103図	7	土師器 甕	口縁部片	口	19.8			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ。	
第103図	8	土師器 甕	口縁部～胴部上 位片	口	19.0			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第103図	9	灰釉陶器 長頸壺	胴部片	胴	15.2			微砂粒/還元焰/に ぶい褐	ロクロ整形、回転右回りか。胴部下位は回転ヘラ削り。胴部上位に釉薬が付着。	

2区2号住居

第105図 PL.68	1	土師器 杯	ほぼ完形	口底	11.8 8.6	高	3.4	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	外面底部に墨 書。
第105図	2	須恵器 皿	体部下位～底部 1/3	底	7.2			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/褐灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第105図	3	土師器 杯	口縁部～底部片	口底	12.2 9.0	高	2.8	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面は体部から口縁部に放射状暗文。	
第105図	4	土師器 杯	1/4	口高	14.0 4.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第105図	5	須恵器 杯	1/4	口底	12.4 5.6	高	3.8	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部切り離し技法不明。	
第105図	6	土師器 杯	1/4	口高	12.4 3.7			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第105図	7	土師器 杯	口縁部～体部片	口	13.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面は放射状暗文。	
第105図	8	須恵器 杯	底部片	底	7.0			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第105図	9	須恵器 椀	2/3	口底	14.2 7.8	台 高	7.1 4.8	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第105図	10	須恵器 杯蓋	口縁部片	口	15.8			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
第105図	11	土師器 甕	口縁部～胴部中 位1/4	口 胴	20.0 23.6			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第105図	12	土師器 甕	口縁部～胴部上 位1/2	口	19.4			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第105図	13	土師器 甕	口縁部～胴部上 位1/4	口	18.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第105図	14	土師器 甕	口縁部～胴部上 位片	口	11.0			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第105図	15	土師器 高杯	脚部片	脚	8.2			細砂粒/良好/橙	脚部は横ナデ。	
第105図	16	土師器 甕	胴部下位～底部 1/4	底	6.0			細砂粒/良好/橙	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第106図 PL.71	17	鉄製品 紡錘車	一部欠損	長	(25.4)				軸は弾み車の上方が円形、下方が方形の造り。	平安時代
第106図 PL.71	18	鉄製品 紡錘車	ほぼ完形	長	30.8				軸は弾み車の上方が円形、下方が方形の造り。上端部が鉤手状に曲がっている。	平安時代

2区3号住居

第107図	1	須恵器 杯	口縁部～体部片	口	15.0			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。	
第107図	2	須恵器 椀	1/4	口底	16.0 6.6			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。高台欠損後端部を擦り磨いて再利用か。	
第107図 PL.68	3	須恵器 椀	3/4	口底	14.2 6.5	台 高	6.3 5.1	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第107図	4	須恵器 杯蓋	摘み部	摘	5.7			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付。	
第107図 PL.71	5	鉄製品 刀子か?	片側欠損	長	(7.6)				厚みに対して幅が狭く、通常の刃物ではないかもしれない。	平安時代

2区4号住居

第109図	1	土師器 杯	口縁部～底部 1/4	口	12.8			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	
第109図	2	須恵器 杯	口縁部～底部	口底	15.4 12.0	高	2.9	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部はヘラナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第109図	3	須恵器 皿	体部下位～底部片	底	7.0		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第109図	4	土師器 甕	口縁部～胴部上 位1/4	口	19.2		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第109図	5	土師器 甕	口縁部～胴部上 位片	口	16.2		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	

2区5号住居

第110図	1	土師器 杯	口縁部片	口	13.0		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第110図	2	土師器 杯	口縁部片	口	12.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第110図	3	須恵器 杯	底部片	底	7.0		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	

2区6号住居

第112図	1	土師器 杯	3/4	口底	11.8 7.4	高	3.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。内面は底部に螺 旋状、体部から口縁部に斜放射状暗文。	
第112図	2	土師器 杯	口縁部～底部 1/3	口底	11.8 10.2			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第112図	3	土師器 杯	口縁部～体部片	口	11.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第112図	4	土師器 杯	1/2	口底	12.0 10.6	高	3.0	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第112図	5	土師器 杯	口縁部～体部下 位1/4	口	11.2			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第112図	6	須恵器 杯蓋	天井部片					細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は回転ヘラ削り。	
第112図	7	須恵器 杯蓋	口縁部片	口	18.0			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
第112図	8	須恵器 杯蓋	口縁部片	口	13.8			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。天井部は中程が回転ヘラ削り。	
第112図 PL.68	9	須恵器 杯蓋	3/4	口高	18.0 4.6	摘	3.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程が回 転ヘラ削り。	
第112図	10	在地系土器 鉢か	底部1/4	底	(13.0)			灰黒～褐灰	内外面横ナデ。内面かるい研磨。底部ナデ。	中世
第112図	11	須恵器 椀	体部中位～底部	底台	8.0 8.2			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第112図	12	土師器 甕	口縁部片	口	21.0			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第112図	13	土師器 甕	口縁部～胴部 中位1/3	口	20.8			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

2区7号住居

第113図 PL.68	1	須恵器 椀	2/3	口底	12.0 5.0	高	4.7	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転 ヘラ削り。	
第113図	2	須恵器 椀	体部～底部1/4	底	6.0			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰・燻/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第113図	3	黒色土器 椀	体部下位～底部 1/4	底台	7.4 6.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り 後高台を貼付。	
第113図	4	須恵器 椀	口縁部～体部下 位片	口	15.8			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。	
第113図	5	土師器 甕	口縁部～胴部 1/4	口	20.8			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第113図	6	土師器 甕	口縁部～胴部上 位片	口	19.8			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第113図	7	土師器 甕	口縁部～胴部上 位片	口	18.8			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第113図	8	土師器 甕	口縁部～胴部上 位片	口	18.8			細砂粒/良好/赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第113図	9	土師器 甕	口縁部片	口	15.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ。	

2区8号住居

第114図	1	土師器 甕	口縁部～胴部片	口胴	15.2 14.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
-------	---	----------	---------	----	--------------	--	--	----------	-----------------------------	--

2区9号住居

第117図 PL.68	1	土師器 杯	3/4	口高	11.8 3.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。内 面口縁部に煤が付着。	内面底部に墨 書。
第117図 PL.68	2	土師器 杯	1/3	口高	11.2 2.9			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	内面底部に墨 書。
第117図	3	土師器 杯	1/3	口高	13.8 4.6			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。	内面底部に刻 書。
第117図 PL.68	4	土師器 杯	口縁一部欠	口高	12.0 3.3			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第117図	5	土師器 杯	口縁部～底部片	口	9.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	2.8				
第117図	6	土師器 杯	1/4	口底	12.0 9.0	高	2.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。	
第117図	7	土師器 杯	口縁部～底部 1/4	口	12.0			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。	
第117図	8	土師器 杯	口縁部～底部片	口	10.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。	
第117図	9	土師器 杯	口縁部～底部片	口	12.2			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。	
第117図 PL.68	10	土師器 杯	底部片					細砂粒/良好/にぶ い橙	底部はヘラ削り。	内面底部に墨 書。
第117図 PL.68	11	土師器 杯	底部片					細砂粒/良好/にぶ い赤褐	底部はヘラ削り。	内面底部に墨 書。
第117図 PL.68	12	土師器 杯	底部片					細砂粒/良好/にぶ い赤褐	底部はヘラ削り。	内面底部に墨 書。
第117図	13	土師器 杯	口縁部～底部	口	12.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。	
第117図	14	須恵器 杯	口縁部片	口	12.8			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。	
第117図	15	須恵器 椀	口縁部～体部 1/3	口	15.8			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰・燻/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。	
第117図	16	須恵器 椀	体部～底部	底	7.7			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/青灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 高台は剥落	
第117図	17	土師器 鉢	口縁部片	口	24.0			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。	
第117図	18	灰釉陶器 壺	頸部片					微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。外面に施釉。	
第117図	19	土師器 甕	口縁部～胴部上 位片	口	11.0			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第117図	20	土師器 甕	口縁部～胴部上 位片					細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第117図	21	土師器 甕	口縁部～胴部上 位片	口	20.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第117図	22	中世陶器 不明	口縁部片	口	15.4			細砂粒/還元焰/灰 黄	横ナデ。	
第117図 PL.71	23	鉄製品 刀子	茎欠損	長	(10.0)				小型だが形状は整っており、区もよく残っている。	平安時代

2区10号住居

第118図	1	須恵器 椀	口縁部～体部中 位1/3	口	13.8			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。	
第118図	2	須恵器 椀	口縁部片	口	15.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。	
第118図	3	須恵器 椀	2/3	口底	13.0 7.0	台高	6.0 4.9	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰・燻/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第118図	4	須恵器 鉢	口縁部～体部 1/3(高台欠)	口底	20.8 9.6			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。	

2区11号住居

第119図	1	土師器 杯	口縁部片	口	12.8			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ。	
第119図	2	土師器 杯	口縁部片	口	13.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ。内面に放射状暗文。	
第119図	3	土師器 杯	底部	底	8.8			細砂粒/良好/明黄 褐	体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第119図 PL.71	4	石製品 紡輪	完形	径 孔径	4.4 0.9	厚 重	2.1 62.9	蛇紋岩	孔径8mm。広面と側面には多方向のキズが多数見られる。 広面の周縁は使用時の破損と考えられる剥離痕が多数見ら れる。狭面の孔周辺は同心円状の浅い窪みが見られ、狭面 の全面には放射状のキズが認められる。	

2区12号住居

第120図	1	土師器 杯	1/2	口底	11.5 9.0			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第120図	2	土師器 杯	1/4	口底	12.0 9.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第120図	3	土師器 杯	口縁部～底部片	口底	12.0 8.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第120図	4	土師器 杯	口縁部～底部片	口底	13.8 9.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。内面は放射状暗 文。	
第120図	5	須恵器 杯	体部下位～底部	底	6.1			細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第120図	6	須恵器 杯	口縁部片	口	14.0			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
第120図	7	須恵器 杯	口縁部～体部下 位片	口	12.2			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長幅	(7.1) 4.3	厚重 3.4 109.4				
第120図	8	石製品 砥石	1/2				砥沢石	研面は4面認められる。正面と裏面は研ぎ減りにより著しく内湾する。左右側面はやや内湾する形態であり、正面及び裏面に斜交する。下部欠損。		
2区13号住居										
第121図	1	土師器 杯	1/4	口底	12.6 9.4	高	3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第121図	2	土師器 杯	1/4	口	11.2			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第121図	3	土師器 杯	1/4	口底	10.4 6.4	高	3.0	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	内外面の口唇部に煤が付着。
第121図	4	土師器 杯	口縁部片	口	14.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。	
第121図	5	土師器 甕	口縁部～胴部	口	19.8			細砂粒/良好/橙	外面口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第121図	6	土師器 甕	口縁部	口	17.0			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ。	
第121図	7	土師器 甕	胴部中位～底部	底	3.8			細砂粒/良好/にぶ い褐	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
2区14号住居										
第122図	1	土師器 杯	3/4	口底	11.8 9.8	高	3.4	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第122図	2	土師器 杯	1/2	口底	11.8 8.8	高	3.6	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第122図	3	土師器 杯	1/4	口底	12.4 10.0			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第122図 PL.69	4	土師器 杯	完形	口底	11.8 8.3	高	3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第122図	5	土師器 杯	1/4	口底	10.8 7.0			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第122図	6	須恵器 杯	体部下位～底部 片	底	7.0			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第122図	7	土師器 鉢	1/3	口底	18.6 14.0			細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。内面はヘラナデ。	
2区15号住居										
第123図	1	土師器 杯	口縁部～底部片	口底	12.0 7.4			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第123図	2	土師器 甕	口縁部～胴部上 位片	口	13.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
2区16号住居										
第124図	1	須恵器 杯	口縁部～体部片	口	12.8			細砂粒/還元焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転右回りか。	
第124図	2	須恵器 杯	口縁部～体部片	口	12.8			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
4区1号住居										
第126図	1	土師器 杯	1/4	口底	12.2 7.6	高	3.7	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	内面に煤が斑に付着
第126図 PL.69	2	須恵器 椀	3/4	口底	14.7 6.2	台高	5.8 5.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第126図	3	須恵器 杯	底部	底	5.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第126図	4	須恵器 杯	底部1/2	底	6.2			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第126図	5	手捏ね 壺形	1/3	底	4.0			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	胴部底部ともナデ。	
第126図 PL.69	6	土師器 台付甕	脚部	底脚	4.2 7.0			細砂粒/良好/にぶ い橙	脚部は貼付で内外とも横ナデ。	
第126図 PL.69	7	土師器 台付甕	2/3	口脚	9.7 6.9	高胴	11.9 11.0	細砂粒/良好/にぶ い橙	脚部は貼付。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り、脚部は横ナデ。内面は胴部がヘラナデ。	
第126図	8	土師器 台付甕	胴部上位～脚部	底脚	5.0 8.8	胴	14.7	細砂粒/良好/橙	脚部は貼付。胴部はヘラ削り、脚部は横ナデ。内面は胴部がヘラナデ。	
第126図	9	須恵器 壺	胴部下位1/4					細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。胴部下位は回転ヘラ削り。	
第126図 PL.69	10	土師器 甕	底部欠損2/3	口胴	18.6 22.0			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第126図	11	土師器 高杯	脚部					細砂粒/良好/灰黄	杯身部は脚部に貼付。外面はハケ目後ナデ。内面はハケ目(1cmあたり10～11本)。	
4区2号住居										
第128図 PL.69	1	須恵器 椀	3/4	口底	12.7 5.2	高	4.5	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第128図	2	須恵器 椀	体部下位～底部 1/4	底台	7.2 6.4			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第128図	3	須恵器 椀	体部下位～底部 1/2	底台	6.2	6.2	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第128図	4	土師器 甕	口縁部～胴部中 位1/4	口 胴	16.4	18.8	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	外面胴部に煤が 付着。
第128図	5	土師器 甕	口縁部～胴部上 位1/2	口	18.6		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第128図	6	土師器 甕	口縁部～胴部上 位1/4	口	17.8		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第128図	7	土師器 甕	口縁部～胴部上 位片	口	19.4		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第128図	8	須恵器 甕	胴部片				細砂粒/還元焰/灰 黄	外面は下位に回転ヘラ削り、上位・中位は回転ナデ。内面はアテ具痕が残る。	
第128図	9	須恵器 甕	胴部下位～底部 片				細砂粒/還元焰/灰 黄	内面に輪積痕が残る。外面はナデ、内面にアテ具痕が残る。	

4区3号住居

第130図	1	土師器 杯	口縁部片	口	13.0		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、内面体部は斜放射状ヘラ磨き。	
第130図	2	土師器 杯	口縁部～体部片	口	13.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第130図	3	須恵器 杯	口縁部～体部下 位片	口	13.0		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄	ロクロ整形。	
第130図	4	須恵器 椀	口縁部～体部下 位片	口	13.8		細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。高台が貼付。	
第130図	5	須恵器 椀	1/3	口底	14.2 7.6	台高 6.4 5.5	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第130図	6	土師器 甕	口縁部～胴部上 位片	口	16.8		細砂粒/良好/灰黄	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第130図	7	土師器 甕	口縁部～胴部上 位片	口	20.0		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第130図	8	須恵器 甕	口縁部片	口	40.0		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形。	
第130図 PL.71	9	石製品 砥石	2/3	長幅 (9.1) (5.7)	厚重 (3.2) 165.3		砥沢石	正面は研ぎ減りによってやや内湾する。裏面には研面として二つの面が作出されている。その一方の面には、断面V字状の直線的な刃慣らし傷が1条認められる。下部欠損。	

5区2号住居

第131図	1	須恵器 椀	口縁部～体部下 位片	口	11.8		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。	外面に煤が付 着。
第131図	2	土師器 杯	口縁部～底部片	口	14.0		細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	

4区1号竪穴状遺構

第132図	1	土師器 杯	口縁部～体部片	口底	10.8 7.4		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第132図	2	須恵器 椀	体部片				細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。	内面の一部に 煤が付着。
第132図	3	須恵器 椀	胴部下位～底部 1/4	底	7.2		細砂粒/酸化焰/褐 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第132図	4	石製品 砥石	1/5	長幅 (4.9) (3.9)	厚重 (1.4) 17.2		砥沢石	研面は4面認められる。正面と右側面は研ぎ減りにより僅かに内湾した形態を呈する。裏面はほぼ平坦である。左側部及び下部欠損。	
第132図	5	土師器 甕	口縁部～胴部上 位1/4	口	17.2		細砂粒/良好/橙	外面口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第132図	6	土師器 甕	口縁部～胴部上 位片	口	17.8		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第132図	7	須恵器 甕	胴部片				細砂粒/還元焰/黄 灰	外面には叩き痕が残る。内面はナデであるが、アテ具痕がかすかに残る。	
第132図	8	肥前系白磁 紅皿	口縁部片	口	(5.0)		白	外面貝殻状。内面から口縁部外面に水色の灰釉。	江戸時代
第132図	9	須恵器 甕	胴部片				細砂粒/還元焰/灰 白	内外面ともナデ。	

2区1号掘立柱建物

第133図	1	土師器 杯	底部片				細砂粒/良好/にぶ い橙	底部はヘラ削り。	内面底部に墨 書。
第133図	2	須恵器 椀	体部中位～底部 片	底台	7.4 7.0		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	内面に煤が付 着。
第133図	3	須恵器 椀	体部下位～底部 1/4	底台	5.8 5.6		細砂粒/酸化焰/暗 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第133図	4	土師器 甕	口縁部～胴部上 位1/4	口	9.6		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

1区7号土坑

第137図	1	土師器 杯	口縁部～底部片	口底	12.4 9.0	高	2.9	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
-------	---	----------	---------	----	-------------	---	-----	-----------------	---------------------------	--

1区8号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第137図	1	土師器 杯	1/4	口底	13.8 10.4	高	3.0	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第137図	2	土師器 杯	口縁部～底部片	口底	13.8 11.2			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第137図	3	土師器 杯	口縁部～体部片	口	11.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。
第137図	4	土師器 杯	口縁部～体部中 位1/4	口	11.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第137図	5	土師器 杯	口縁部～体部中 位片	口	10.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半にナデが残る、下半はヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。
第137図	6	土師器 杯	口縁部～底部片	口	11.8			細砂粒/良好/橙	口縁部下に1条の凹線が残る。口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。

2区21号土坑

第139図	1	須恵器 椀	体部下位～底部 1/4	底	6.2			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。高台は剥落。
-------	---	----------	----------------	---	-----	--	--	-----------	----------------------------------

2区22号土坑

第139図	1	須恵器 杯	底部1/4	底	6.2			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
-------	---	----------	-------	---	-----	--	--	----------------	--------------------------

4区22号土坑

第141図	1	土師器 甕	口縁部～胴部中 位片	口 胴	16.8 16.6			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。
第141図	2	須恵器 甕	胴部片					細砂粒/良好/灰黄 褐	外面はヘラ削り、内面はヘラナデ。

4区46号土坑

第141図	1	須恵器 甕	胴部片					細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形。
-------	---	----------	-----	--	--	--	--	-------------------	--------

5区9号土坑

第142図	1	土師器 杯	口縁部片	口	13.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第142図	2	土師器 杯	口縁部～底部片	口	12.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第142図	3	土師器 杯	2/3	口底	12.2 10.2	高	2.7	細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。

4区As-B下水道

第148図	1	須恵器 壺	口縁部片	口	26.0			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形。
第148図	2	須恵器 甕	胴部片					細砂粒/還元焰/灰	内外面ともナデ、内面にはアテ具痕がかすかに残る。

2区23号溝

第155図 PL.69	1	土師器 杯	完形	口高	13.2 3.9			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。
第155図 PL.69	2	土師器 杯	完形	口高	12.8 3.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。
第155図 PL.69	3	土師器 杯	完形	口高	13.6 3.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。
第155図 PL.69	4	土師器 杯	完形	口高	14.4 4.2			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。
第155図 PL.69	5	土師器 杯	口縁一部欠	口高	12.3 3.3			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。
第155図 PL.69	6	土師器 杯	2/3	口高	14.2 3.8			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。
第155図	7	土師器 杯	口縁部～体部下 位1/4	口	13.0			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第155図	8	土師器 杯	口縁部～体部下 位1/4	口	12.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第155図	9	土師器 杯	1/2	口高	12.8 3.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。
第155図	10	土師器 杯	1/2	口高	13.4 3.9			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第155図 PL.69	11	土師器 杯	3/4	口高	14.8 4.6			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。
第155図	12	土師器 杯	口縁部～体部下 位1/4	口	12.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第155図	13	土師器 杯	口縁部～体部下 位片	口	11.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第155図	14	土師器 杯	口縁部～体部下 位1/4	口	13.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第155図	15	土師器 杯	口縁部～体部下 位1/4	口	13.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第155図	16	土師器 杯	口縁部～体部下 位1/4	口	11.2			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第155図	17	須恵器 甕	胴部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
第155図	18	常滑陶器 甕	頸部片				淡灰	内外面丁寧な横ナデ。外面に自然釉灰降り状。	中世、14世紀 代か
第155図	19	須恵器 甕	胴部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	外面は格子目状叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
2区24号溝									
第155図	1	土師器 杯	2/3	口 高	11.6 3.9		細砂粒/良好/橙	口唇部は横ナデ、口縁部から体部・底部はヘラ削り、器面 磨滅のため単位不明。	
第155図	2	土師器 杯	口縁部～体部下 位片	口	11.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底 部は手持ちヘラ削り。	
第155図	3	土師器 杯	口縁部～底部片	口 高	13.8 3.3		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第155図	4	土師器 甕	口縁部～胴部上 位片	口	18.8		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
1区遺構外(奈良・平安時代)									
第157図	1	須恵器 平瓶	肩部片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。肩部周縁は凹線による区画、区画内に刺突文 が施されている。	
第157図	2	須恵器 甕	頸部片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。胴部と口縁部は頸部にて接合。	
第157図	3	須恵器 椀	口縁部～体部中 位片	口	16.8		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
第157図	4	須恵器 椀	高台部1/2	底 台	6.4 5.8		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第157図	5	土師器 高杯	杯部片	底	3.8		細砂粒/良好/橙	底部周囲に脚部接合痕が残る。	
第157図	6	須恵器 椀	高台部片	底 台	6.4 6.4		細砂粒/酸化焰・ 燻/灰	ロクロ整形。底部はナデ、高台は貼付。	
第157図	7	須恵器 杯	体部下位から底 部1/2	底	4.8		細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第157図	8	須恵器 椀	高台部1/4	底 台	6.0 5.8		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第157図	9	須恵器 杯	底部1/4	底	6.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
2区遺構外(奈良・平安時代)									
第157図	1	土師器 杯	口縁部～底部片	口	12.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第157図	2	土師器 杯	口縁部～底部片	口	14.8		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第157図	3	須恵器 杯	口縁部～底部片	口 底	13.8 11.0	高 3.2	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第157図	4	須恵器 杯	口縁部～底部 1/4	底	8.0		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第157図	5	須恵器 椀	2/3	口 底	13.4 5.8	台 高 4.2	細砂粒/酸化焰・ 燻/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部切り離し技法不明、高台は 貼付。	
第157図	6	須恵器 椀	体部下位～高台 部1/3	底 台	6.7 6.6		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第157図	7	灰釉陶器 椀	体部下位～高台 部1/4	底 台	7.4 7.2		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。 施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期
第157図	8	灰釉陶器 椀	体部下位～高台 部1/4	底 台	7.0 6.4		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。 施釉方法は漬け掛け。	大原3号窯式 期
第157図	9	須恵器 椀	体部下位～底部 2/3	底 台	7.2 6.8		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
3区遺構外(奈良・平安時代)									
第158図 PL.69	1	灰釉陶器 皿	口縁部～体部片	口	12.8		微砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。施釉方法は刷毛塗りか。	くろざさ
第158図	2	灰釉陶器 椀	口縁部～体部片	口	13.8		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。施釉方法は刷毛塗り。	光ヶ丘1号窯 式期
第158図	3	須恵器 椀?	体部下位～高台 部	底 台	5.8 5.6		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第158図	4	灰釉陶器 椀	口縁部～体部片	口	16.8		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。施釉方法は刷毛塗り。	光ヶ丘1号窯 式期
第158図	5	須恵器 椀	底部1/2	底	7.6		細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付が 剥落。	
第158図	6	土師器 甕	胴部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	外面は平行叩き痕、内面はアテ具痕がかすかに残る。	
第158図	7	灰釉陶器 段皿	体部下位～高台 部1/3	底 台	7.8 7.4		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。 施釉方法は刷毛塗りか。	光ヶ丘1号窯 式期
第158図	8	鉄製品 刀子	刃部1/2	長	(6.8)			よく整った形状を残している。	平安時代

4区遺構外(奈良・平安時代)

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第158図	1	須恵器 杯	体部下位～底部 片	底	8.0		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第158図	2	須恵器 椀	体部中位～底部 片	底台	7.2 6.8		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄褐	ロクロ整形、回転右回りか。底部はナデ、高台は貼付。	
第158図	3	須恵器 椀	体部下位～底部 片	底台	5.8 5.2		細砂粒/酸化焰/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第158図	4	須恵器 甕	胴部下位～底部 片	底	13.6		細砂粒/還元焰/灰	底部は不定方向のヘラ削り、胴部は回転ヘラ削り。内面はヘラナデ。	

1区1号古墳

第165図 PL.68	1	土師器 杯	ほぼ完形	口高	11.5 3.4		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第165図	2	須恵器 椀	体部中位～底部 片	底	7.8		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付、高台内側を回転ナデ。	
第165図	3	須恵器 短頸壺蓋	蓋部1/4	口	13.8		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。天井部は回転ヘラ削り、凸帯は貼付。	
第165図	4	須恵器 椀	口縁部～体部下 位	口	14.2		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。	
第165図	5	須恵器 杯蓋	口縁部～天井部 片	口	13.8		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。	
第165図	6	須恵器 壺	口縁部～頸部片	口	11.4		細砂粒/還元焰/灰	提瓶、横瓶の口縁部か。口縁部はロクロ整形。口唇部下の凸帯は貼付	
第165図	7	須恵器 平瓶	口縁部～頸部 1/4	口	9.8		細砂粒/還元焰/灰	口縁部は貼付、ロクロ整形、回転右回り。胴部天井部に刺突文。	
第165図	8	土師器 甕	口縁部～頸部片	口	19.8		細砂粒・褐粒/良 好/橙	口縁部から頸部は横ナデ。	
第165図	9	須恵器 椀	体部下位～底部 1/2	底高	7.0 6.4		細砂粒/還元焰・ 燻/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第165図	10	須恵器 瓶	底部1/2	底台	8.4 8.0		細砂粒/還元焰/暗 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	画面底部に刻書。
第165図	11	須恵器 椀	体部下位～底部 片	底台	7.6 6.8		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第165図	12	須恵器 椀	体部下位～底部 3/4	底台	6.8 6.0		細砂粒/還元焰・ 燻/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切後高台は貼付、高台内部を回転ナデ。	
第165図	13	須恵器 椀	体部下位～底部 1/4	底台	8.8 8.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。	
第165図	14	在地系土器 壺か？	腰下1/4	底	(15.0)		淡灰	外面入念ナデ。内面粗いナデ。底部軽いナデ。	中世か？
第165図	15	須恵器 甕	胴部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	外面はナデ、内面にはアテ具痕がかすかに残る。外面に降灰が付着。	

1区1号住居

第167図 PL.67	1	土師器 杯	口縁一部欠	口稜	12.7 12.7	高	5.5	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部(稜下)はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第167図 PL.67	2	土師器 杯	完形	口稜	12.3 12.3	高	5.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。口唇端部に平坦面をつくり、底部は径4cmほどの範囲が平底。	
第167図 PL.67	3	土師器 杯	完形	口高	13.6 6.0		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部はヘラ磨き。内面は底部から体部にヘラ磨き。		
第167図 PL.67	4	土師器 杯	口縁一部欠	口稜	13.0 12.7	高	5.6	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第167図 PL.67	5	土師器 杯	口縁部・体部一 部欠	口稜	13.1 12.3	高	6.0	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。口唇端部に平坦面をつくる。	
第167図 PL.67	6	土師器 杯	3/4	口底	11.7 5.9	高	5.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	
第167図 PL.67	7	土師器 杯	3/4	口稜	12.8 12.6	高	6.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。口唇端部に平坦面をつくる。	
第167図 PL.67	8	土師器 杯	口縁一部欠	口高	12.1 4.7		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。内面は斜放射状ヘラ磨き。		
第167図 PL.67	9	土師器 杯	3/4	口底	10.5 4.0	高	5.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第167図 PL.67	10	土師器 杯	3/4	口稜	12.7 12.6	高	6.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削りか、器面磨滅のため単位不明。内面に放射状ヘラ磨き。	
第167図 PL.67	11	土師器 杯	体部一部欠	口高	12.3 4.7		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。内面は体部から口縁部に斜放射状ヘラ磨き。		
第167図 PL.67	12	土師器 杯	1/3	口稜	13.2 13.2	高	6.7	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。口唇端部は凹線が巡る。	
第167図 PL.67	13	土師器 杯	3/4	口高	12.3 5.1		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。内面は体部から口縁部に斜放射状ヘラ磨き。		
第167図	14	土師器 杯	1/2	口稜	13.2 13.1		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。		
第167図 PL.67	15	土師器 杯	2/3	口高	11.1 5.9		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。内面は体部から口縁部に斜放射状ヘラ磨き。		

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	胴			
第168図	16	土師器鉢	口縁部～体部片	口	10.0		細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部と底部はへら削り、器面磨滅のため単位不明。内面はへらナデ。	
第168図	17	土師器鉢	1/2	口底	14.3 9.2	高	7.1	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がへら削り、底部は手持ちへら削り。内面はへらナデ。
第168図 PL.67	18	土師器杯	1/2	口稜	13.4 13.2	高	6.1	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちへら削り。
第168図 PL.67	19	土師器鉢	口縁部～胴部上位	口底	10.9 5.7	高	13.5	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口唇部は横ナデ、体部は縦方向のへら削り、底部は器面磨滅のため単位不明。内面体部はへらナデ。
第168図	20	土師器鉢	1/3	口底	17.8 12.0	高	10.0	細砂粒・褐粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はへら削り。内面はへらナデ。
第168図 PL.67	21	土師器小型甕	口縁部～胴部下位3/4	口胴	12.7 12.4			細砂粒/良好/浅黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ、器面磨滅のため単位不鮮明。
第168図 PL.71	22	石製品うす玉	完形	長幅	0.7 0.7	厚重	0.3 0.17	滑石	孔径2mm。上面及び下面ともに研磨により平坦である。側面も研磨されているものの、僅かに縦方向の線状痕を残す。
第168図	23	土師器鉢	体部下位～底部片	底	6.2			細砂粒/良好/明赤褐	底部と体部はへら削り、器面磨滅のため単位不明。内面はへらナデ。
第168図	24	土師器鉢	胴部中位～底部	底胴	7.7 20.1			細砂粒/良好/橙	底部と胴部はへら削り、底部は器面磨滅のため単位不明。内面はへらナデ。
第168図 PL.67	25	土師器甕	口縁部・胴部一部欠	口底	17.3 7.3	高胴	30.9 23.2	細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら磨き、上半は器面磨滅のため単位不明。底部はへら削り。内面は底部から胴部がへらナデ。
第168図	26	土師器甕	胴部中位～下位	胴	20.8			細砂粒・粗砂粒/良好/浅黄橙	内面胴部に輪積痕が残る。胴部は上位から中位が横位のへら削り、下位は縦位のへら削り。内面はへらナデ。

4区4号住居

第171図	1	土師器高杯	杯身部口縁部1/4	口	20.2			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口唇部は横ナデ、口縁部はへら磨き。	
第171図 PL.69	2	土師器器台	脚部	脚	10.8			細砂粒/良好/にぶい黄橙	脚部に透孔が3カ所。内外面ともハケ目後へら磨き。	
第171図 PL.69	3	土師器器台	脚部2/3	脚	10.2			細砂粒/良好/にぶい黄橙	脚部に透孔が5カ所。外面は上半にへら磨き、下半はハケ目が残る。内面はハケ目後ナデ。	
第171図 PL.70	4	土師器鉢	1/2	口底	10.7 4.4	高	4.4	細砂粒/良好/にぶい橙	灰外面ともへら磨き、一部器面磨滅のため単位不明。	
第171図	5	土師器鉢	体部片					細砂粒/良好/にぶい橙	外面はハケ目が残る。	
第171図	6	土師器台付甕	口縁部～胴部下位1/2	口胴	13.2 21.0			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部はハケ目、胴部はハケ目(1cmあたり5～6本)。内面胴部はナデ	
第171図	7	土師器埴	口縁部片	口	21.4			細砂粒/良好/にぶい橙	外面は横位、内面は縦位のへら磨き。	
第171図	8	土師器台付甕	胴部下位～脚部上位	底	5.4			細砂粒/良好/灰黄	脚部は貼付。外面はハケ目(1cmあたり7～8本)。内面は胴部・脚部ともナデ。	
第171図	9	土師器台付甕	脚部片	脚	8.6			細砂粒/良好/にぶい黄橙	脚部端部は内側に折り返し。外面上部にハケ目。	
第171図	10	土師器台付甕	脚部片	脚	8.4			細砂粒/良好/にぶい黄橙	脚部端部は内側に折り返し。	
第171図	11	土師器甕	底部1/4	脚	6.8			細砂粒/良好/だいた	胴部・底部ともへら削り。内面はへらナデ。	
第171図	12	土師器甕	底部1/2	底	7.0			細砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部はナデ、底部はへら削り。内面はへらナデ。	
第171図	13	龍泉窯系青磁蓮弁文碗	口縁部片					灰白	口縁部弱く内湾。外面に蓮弁文を印刻。内外面に明るい緑灰色の青磁釉。	中世

4区5号住居

第173図	1	土師器埴	口縁部～体部	口	14.0			細砂粒/やや軟質/橙	口縁部は横ナデか、胴部は器面磨滅のため不明。	
第173図	2	土師器埴	口縁部～体部					細砂粒/良好/橙	器面磨滅のため整形不明。	
第173図	3	土師器鉢	口縁部～体部上位片	口	19.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はハケ目後へら磨き。	
第173図	4	土師器高杯	脚部片	脚	12.8			細砂粒/良好/灰黄褐	外面は全面へら磨き。内面は端部が横ナデ、脚部はへら磨き。	
第173図	5	土師器埴	頸部～底部1/2	底	2.2			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部上半はナデ、下半から底部はへら削り。内面胴部はナデ。	
第173図	6	土師器鉢	口縁部片	口	19.8			細砂粒/良好/浅黄橙	口縁部は横ナデ。	
第173図	7	土師器鉢	口縁部～体部下位片	口	17.0			細砂粒/やや軟質/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部へら削り、器面磨滅のため単位不明。	
第173図	8	土師器高杯	脚部片					細砂粒/良好/にぶい黄橙	杯身部とは接合。脚部はへら磨き、内面はナデ。	
第173図	9	土師器壺	口縁部	口	16.0			細砂粒/良好/灰黄	内外面とも放射状へら磨き。	
第173図	10	土師器器台	脚部片	底	12.1			細砂粒/良好/にぶい橙	脚部に透孔をもつ。外面は縦位、内面は横位のへら磨き。	
第173図	11	土師器台付甕	口縁部～胴部上位片	口	13.2			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、胴部はハケ目(1cmあたり8本)。内面胴部はへらナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第173図	12	土師器 台付甕	口縁部～胴部片	口	14.6		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横ナデ、胴部はハケ目(1cmあたり5本)。内面胴部は ナデ。	
第173図	13	土師器 台付甕	口縁部～胴部上 位片	口	15.2		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横ナデ、胴部はハケ目(1cmあたり5本)。内面胴部は ナデ。	
第173図	14	土師器 台付甕	口縁部～胴部上 位片	口	15.8		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横ナデ、胴部はハケ目(1cmあたり4本)。内面胴部は ナデ。	
第173図	15	土師器 台付甕	脚部	脚	6.0		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	脚部・底部と胴部が接合。端部は内側に折り返し。脚部は 上位にハケ目、中位・下位はナデ。	
第173図	16	土師器 台付甕	脚部	脚	7.4		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	脚部・底部と胴部が接合。脚部は内外面ともナデ。	
第173図	17	土師器 台付甕	脚部	脚	9.3		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	脚部は貼付。胴部から脚部上位はハケ目(1cmあたり8～9 本)、脚部はナデ。内面は胴部ハケ目、脚部はナデ。	
第173図	18	土師器 甕	口縁部片	口	21.0		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。	
第173図	19	須恵器 椀	底部	底台	6.6 6.4		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第173図	20	土師器 埴	口縁部～胴部下 位片	口	10.2		細砂粒/良好/橙	口唇部は横ナデ、口縁部は斜めのハケ目(1cmあたり4本)、 頸部は縦位のハケ目(1cmあたり7本)。内面胴部はヘラナデ。	
第173図	21	土師器 鉢	頸部～胴部片				細砂粒/良好/にぶ い黄橙	胴部はヘラナデ。	
第173図 PL.70	22	土師器 壺	口縁部～頸部 2/3	口	15.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は放射状ヘラ磨き、胴部はナデ。内面は口縁部が放 射状ヘラ磨き、胴部はヘラナデ。	
第173図	23	土師器 台付甕	脚部	底	7.8		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	脚部は貼付。脚部下位は横ナデ、中位から上位はナデ。内 面は上位が貼付時のナデ、中位・下位は横ナデ。	

4区6号住居

第174図	1	土師器 甕	胴部中位～底部	底 胴	7.8 24.7		細砂粒/良好/橙	底部はヘラ削り、胴部は器面磨滅のため整形不明。内面は ハケ目が施されているが器面磨滅により詳細不明。	
第174図 PL.70	2	土師器 埴	ほぼ完形	口 底	10.5 3.2	高 胴	14.4 12.5	細砂粒/良好/橙	口縁部はハケ目、器面磨滅のため単位不明、胴部はヘラ磨 き。内面はハケ目後ヘラ磨き、胴部はヘラナデか。
第174図 PL.69	3	土師器 埴	口縁一部欠	口 高	12.6 6.7		細砂粒/良好/にぶ き黄橙	口縁部と胴部はヘラ磨き、器面磨滅のため一部単位不明。 内面は胴部がヘラナデ、口縁部は横ナデ。	
第174図 PL.69	4	土師器 埴	3/4	口 底	11.8 3.4	高	6.5	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、胴部は器面磨滅のため整形不鮮明。内面 は胴部はヘラナデ。

5区1号井戸

第175図	1	土師器 台付甕	口縁部～胴部片				細砂粒/良好/黒褐	口縁部は横ナデ、胴部はハケ目(1cmあたり5～7本)、内面 胴部はナデ。	
第175図	2	土師器 鉢	1/3	口 胴	14.0 18.0		細砂粒・粗砂粒・ 片岩/良好/浅黄	口縁部から体部上半は横位のハケ目(1cmあたり9～11本)、 体部下位は縦位のハケ目。内面もハケ目であるが、口縁部 にはナデ。	
第175図	3	土師器 甕	胴部下位	底	5.0		細砂粒/良好/暗褐	底部は器面磨滅のため不明、胴部はハケ目(1cmあたり7本 前後)。内面はナデ。	
第175図	4	土師器 台付甕	脚部1/4	底	9.6		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	端部は内面に折り返し。内外面ともナデ。	

5区2号井戸

第176図 PL.70	1	土師器 壺	底部～胴部	底 胴	3.7 12.3	頸	5.5	細砂粒/良好/浅黄	底部から胴部はヘラ磨き。内面はナデか。	
第176図 PL.70	2	土師器 壺	底部～胴部	底 胴	3.8 14.0	頸	5.5	細砂粒/良好/浅黄	底部から胴部はヘラ磨き。内面はナデか。	
第176図	3	土師器 鉢	2/3	口 底	17.0 2.7	高	7.5	細砂粒/良好/浅黄 橙	器面磨滅のため整形不明。	
第176図	4	土師器 甕	口縁部～頸部	口	14.4		細砂粒/良好/浅黄	口唇端部に刺突文、口縁部は縦位のハケ目(1cmあたり11 本)。内面は横位のハケ目。		
第176図 PL.70	5	土師器 台付甕	ほぼ完形	口 底	10.9 4.0	脚 高	6.3 16.1	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	脚部は貼付。胴部から脚部上位は斜めのハケ目(1cmあたり 6～7本)、頸部に横位のハケ目。内面胴部はナデ。	胴部13.4cm
第176図 PL.70	6	土師器 台付甕	2/3	口 底	11.8 4.5	脚 高	8.1 24.6	細砂粒/良好/灰黄 褐	脚部は貼付、端部は内側に折り返し。胴部から脚部上位は 斜めのハケ目(1cmあたり6～7本)。内面胴部はナデ。	胴部20.3cm
第176図 PL.70	7	土師器 台付甕	口縁部～胴部	口	12.2		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はハケ目(1cmあたり6～7本)、内面 胴部はナデ。		
第176図	8	土師器 台付甕	胴部中位～脚部 上位	底 胴	4.5 18.7		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	脚部は貼付。胴部から脚部上位はハケ目(1cmあたり5～6 本)。内面は胴部・脚部ともナデ。		

5区5号ピット

第177図	1	土師器 甕	胴部下位～底部	底	9.8		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	黒笹90号窯式 期
第177図	2	土師器 台付甕	脚部片	脚	7.0		細砂粒/良好/灰黄 褐	端部は内側に折り返し。外面の一部にハケ目。内面はナデ。	

5区8号ピット

第177図	1	土師器 台付甕	頸部～胴部上位 片				細砂粒/良好/にぶ い黄橙	S字状口縁部甕の胴部。胴部上位はハケ目(1cmあたり5本)、 一部に横位のハケ目。	
第177図	2	土師器 甕	胴部1/4	胴	14.2		細砂粒/良好/灰黄	外面はヘラ磨き。内面はハケ目(1cmあたり5本)	

遺物観察表

2区21号溝

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第180図	1	須恵器 杯	口縁部片	口	16.8		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。	
第180図	2	土師器 甕	口縁部～胴部上 位片	口	16.6		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、頸部はハケ目(1cmあたり6～7本)が残り、 胴部はヘラナデ。内面は口縁部上半が横ナデ、下半はハケ 目、胴部はヘラナデ。	
第180図	3	土師器 甕	胴部上位～下位 片	胴	22.2		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面は横位のヘラナデ、内面は縦位のヘラナデ。	
第180図	4	土師器 甕	胴部中位～底部	底 胴	6.8 19.5		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

1区遺構外(古墳時代)

第184図 PL.71	1	鉄製品 鉄鏃	茎のみ	長	(8.7)			断面形が方形の茎のみだが、鉄鏃であろう。固着した木質 が残っており、一部に紐が巻いてある。	古墳時代
----------------	---	-----------	-----	---	-------	--	--	--------------------------------------------------	------

2区遺構外(古墳時代)

第184図 PL.69	1	土師器 杯	完形	口 稜	12.2 11.1	高	4.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。
----------------	---	----------	----	--------	--------------	---	-----	----------	-----------------------------

4区遺構外(古墳時代)

第184図 PL.70	1	土師器 壺	口縁部片					細砂粒/良好/橙	口縁部は残存部上半に刺突文、下半はヘラ磨き。内面はヘ ラ磨き。
第184図 PL.70	2	土師器 埴	ほぼ完形	口 底	8.2 4.0	高	4.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はナデ、底部は器面磨滅のため整形 不明。
第184図	3	土師器 埴	口縁部上位～体 部下位1/4					細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は放射状ヘラ磨き、胴部から底部はヘラ削り。内面 は口縁部と胴部に放射状ヘラ磨き。
第184図	4	土師器 壺	口縁部	口	16.0			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は縦位のヘラ磨き、器面磨滅のため単位不明。内面 は横ナデか。
第184図	5	土師器 壺	口縁部～頸部 1/4	口	16.0			細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部は縦位のヘラ磨き、器面磨滅のため単位不明。
第184図	6	土師器 埴	口縁部片					細砂粒/良好/にぶ い黄橙	頸部に刻み目、胴部はハケ目後ヘラ磨き。内面はヘラ磨き。
第184図	7	土師器 埴	1/2・口唇部欠					細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部から体部は器面磨滅のため不明。
第184図	8	土師器 埴	1/4	口	10.8			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口唇部は横ナデ、口縁部から胴部・底部はヘラ磨き。内面 はヘラ磨き。
第184図	9	土師器 埴	口縁部片	口	9.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	内外面とも口縁部は横ナデ、体部はハケ目(1cmあたり5本)。
第184図	10	土師器 埴	1/3	口 高	11.4 6.5			細砂粒/良好/橙	口縁部上位は横ナデ、中位から下位～胴部・底部はヘラ磨 き。内面は口縁部にハケ目が残る。
第184図	11	土師器 埴	口縁部1/2	口	10.4			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部はハケ目後ナデ。内面はハケ目(1cmあたり6～7本)。
第184図	12	土師器 杯	1/3	口 高	12.0 4.6			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	内外面とも黒色処理。内外面とも全面的にヘラ磨き。
第184図	13	土師器 埴	口縁部片					細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面はかすかにハケ目が残る。内面はナデ。
第184図 PL.70	14	土師器 高杯	2/3・口唇部欠	脚	11.6			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	脚部と杯身部は接合。杯身部脚部ともヘラ磨き、一部単位 不鮮明。内面は杯身部がヘラ磨き、器面磨滅のため単位不 明、脚部はハケ目(1cmあたり9本)。
第184図	15	土師器 埴	口縁部～体部片	口	9.2			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、胴部はナデ、一部にハケ目が残る。内面 は口縁部下半にハケ目(1cmあたり8本)。
第184図	16	土師器 高杯	杯部下位～脚部 上位					細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面はハケ目(1cmあたり8本)。
第184図	17	土師器 高杯	脚部1/2					細砂粒/良好/にぶ い橙	脚部下位に透孔3カ所。外面はヘラ磨き、内面はヘラナデ。
第184図	18	土師器 壺	胴部下位～底部	底	4.2			細砂粒/良好/橙	底部はヘラ削り、胴部はヘラ磨き。内面はヘラナデ。
第184図	19	土師器 甕	胴部下位～底部 1/3	底	4.2			細砂粒/良好/にぶ い褐	底部から胴部はヘラ削り。内面はハケ目(1cmあたり7本)。
第184図	20	土師器 高杯?	脚部	脚	9.0			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	内外面ともハケ目、器面磨滅のため単位不明。
第184図	21	土師器 台付甕	口縁部～胴部上 位片	口	10.0			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はハケ目(1cmあたり7本)。内面胴部 はナデ。
第184図	22	土師器 台付甕	口縁部～胴部上 位片	口	14.8			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、胴部はハケ目(1cmあたり6本)。内面胴部 はナデ。
第184図	23	土師器 台付甕	口縁部片	口	15.8			細砂粒/良好/暗灰 黄	口縁部は横ナデ、胴部はハケ目。
第185図	24	土師器 台付甕	口縁部～胴部上 位片	口	15.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はハケ目(1cmあたり5本)。内面胴部 はナデ。
第185図	25	土師器 台付甕	口縁部～胴部上 位片	口	16.8			細砂粒/良好/浅黄	口縁部は横ナデ、胴部はハケ目(1cmあたり6本)。内面胴部 はナデ。
第185図	26	土師器 台付甕	口縁部～胴部上 位片	口	17.0			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はハケ目(1cmあたり6～7本)。内面 胴部はヘラナデ。
第185図	27	土師器 高杯	脚部片					細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面はハケ目が残る。内面はナデ。

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第185図	28	土師器 台付甕	脚部片	脚	7.8		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	端部は内側に折り返し。脚部上半はハケ目(1cmあたり5本)とナデ。内面はナデ。	
第185図	29	土師器 台付甕	脚部上半				細砂粒/良好/にぶ い黄橙	脚部は貼付。胴部はナデ、脚部上半はハケ目(1cmあたり9本)とナデ。内面は脚部がナデ。	
第185図	30	土師器 台付甕	脚部片	脚	9.0		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	端部は内側に折り返し。脚部上半はハケ目(1cmあたり4本)とナデ。内面はナデ。	
第185図	31	土師器 台付甕	脚部	脚	10.6		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	脚部は貼付。端部は内側に折り返し。脚部上半はハケ目(1cmあたり6本)とナデ。内面はナデ。	
第185図	32	土師器 台付甕	脚部	脚	12.6		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	脚部は貼付。脚部上半はヘラナデ、下半はナデ。内面はヘラナデ。	
第185図	33	土師器 台付甕	胴部下位～脚部 上位	底	5.0		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	脚部に胴部が接合。胴部から脚部はハケ目。内面は胴部がヘラナデ。	
第185図	34	土師器 有孔鉢	体部下位～底部	底孔	4.6 1.0		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	体部はヘラナデ。底部はヘラ削りか。内面はヘラナデ。	
第185図	35	土師器 甕	口縁部～胴部上 位片	口	15.0		細砂粒/良好/浅黄	口縁部は横ナデ、胴部はナデ。内面胴部はヘラナデ。	

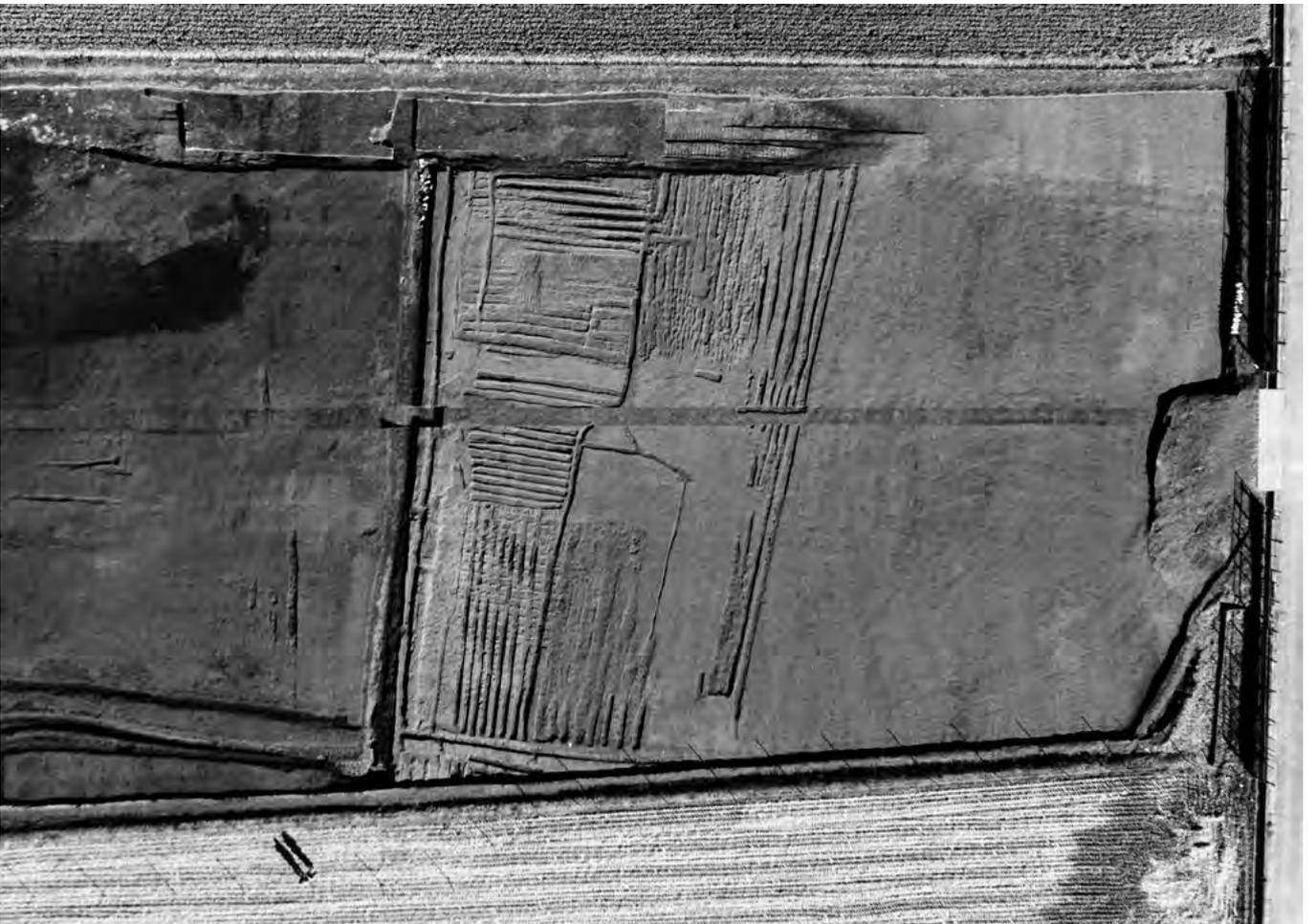
遺構外(縄文時代)

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第189図	1	縄文土器 深鉢	口縁片				A	く字状に内折する波状口縁。R L縄文を横位多段に施文。内面横篋撫で。	諸磯b式
第189図	2	縄文土器 深鉢	口縁片				A	1と同一個体。	諸磯b式
第189図	3	縄文土器 深鉢	胴部片				A	R L縄文を横位施文し、半截竹管の集合沈線文を横位に施す。内面横篋撫で。	諸磯b式
第189図	4	縄文土器 深鉢	胴部(頸部)片				A	半截竹管の集合沈線文を横位に施文し、縦位の棒状貼付文や円形貼付文を施す。内面横篋磨き。	諸磯c式
第189図	5	縄文土器 深鉢	胴部(頸部)片				A	半截竹管の集合沈線文を横位に施文し、縦位の棒状貼付文や円形貼付文を施す。内面横篋撫で。	諸磯c式
第189図	6	縄文土器 深鉢	胴部片				A	半截竹管の集合沈線文を格子目状に施文。内面横篋撫で。	諸磯c式
第189図	7	縄文土器 深鉢	胴部片				A	半截竹管の集合沈線文を鋸歯状に施文。内面磨き状の横篋撫で。	諸磯c式
第189図	8	縄文土器 深鉢	胴部片				B	半截竹管の集合沈線文を縦位や羽状に施文。内外面風化。	諸磯c式
第189図	9	縄文土器 深鉢	胴部片				A	半截竹管の集合沈線文を縦位に施文し、棒状貼付文を施す。	諸磯c式
第189図	10	縄文土器 深鉢	胴部片				A	半截竹管の集合沈線文を横位や格子目状に施文。外面やや風化、内面煤状炭化物付着。	諸磯c式
第189図	11	縄文土器 深鉢	胴部片				A	半截竹管による格子目文を施す。内面斜位篋撫で。20011と同一個体。	諸磯c式
第189図	12	縄文土器 深鉢	口縁片				D	半截竹管による格子目文を施す。内面斜位篋撫で。N20014と同一個体。	諸磯c式
第189図	13	縄文土器 深鉢	胴部片				B	アナダラ属の貝殻復縁文を横帯状に密接施文し、半截竹管の平行沈線文を横位に施す。内外面やや風化。	浮島式
第189図	14	縄文土器 深鉢	口縁部片				C	波状口縁。結節浮線文により同心円状の渦巻文を施す。	下島式
第189図	15	縄文土器 深鉢	胴部(頸部)片				C	14・16と同一個体。	下島式
第189図	16	縄文土器 深鉢	胴部(頸部)片				C	14・15と同一個体。	下島式
第189図	17	縄文土器 深鉢	口縁片				C	波状口縁。R L縄文を斜位に施文。	前期末葉
第189図	18	縄文土器 深鉢	口縁片				C	口縁部に隆帯による円形や楕円形の区画文を施す。内外面風化。	加曾利E 2式
第189図	19	縄文土器 深鉢	口縁片				C	口縁に横位沈線文を施文し、以下に多截竹管状工具による蛇行沈線文を施す。内外面やや風化。	加曾利E 3式
第189図	20	縄文土器 深鉢	口縁片				C	口縁波頂部に縦位の小突起を貼付し、刺突を施す。区画文を施し、L R縄文を充填施文。外面に煤状炭化物付着。	加曾利E 4式
第189図	21	縄文土器 深鉢	胴部片				C	L R縄文を縦位施文。内面磨き状の横篋撫で。	加曾利E 4式
第189図	22	縄文土器 深鉢	胴部片				D	渦巻状の沈線区画文内にL R縄文を充填。外面一部に煤状炭化物付着、内面横篋磨き。	堀之内2式
第189図	23	縄文土器 粗製深鉢	口縁片				C	粗製土器。口縁に斜位篋撫で状の粗い調整痕を残す。内面磨き状の横篋撫で、一部に煤状炭化物付着。	堀之内2式
第189図	24	剥片石器 石鏃	4/5	長幅 (2.9) (1.8)	厚 0.3 1.1		珉質頁岩	両面全面に二次加工を施し整形している。片面の中央部において稜線上の一部が僅かに摩滅している。先端部には、先端方向から力が加わったと想定される剥離痕が認められ、衝撃剥離痕の可能性ある。脚部の一部欠損。	凹基無茎鏃
第189図	25	剥片石器 磨製石斧	1/3	長幅 (5.6) 4.0	厚 1.2 44.8		変質蛇紋岩	全体的によく研磨され光沢を帯びる。色調は茶系であり、磨製石斧とするとかなり薄型であることから、実用品でない可能性も想定される。中央から先端部にかけて欠損。	

写真図版



1. 1区1面近世の遺構全景(上が北)



2. 1区復旧溝群(上が北)



1. 1区1号復旧溝群(南から)



2. 1区2号復旧溝群調査風景(北から)



3. 1区3号復旧溝群土層断面(東から)



4. 1区4号復旧溝群土層断面(東から)



5. 1区5号復旧溝群土層断面(南から)



6. 1区10号復旧溝群土層断面(東から)



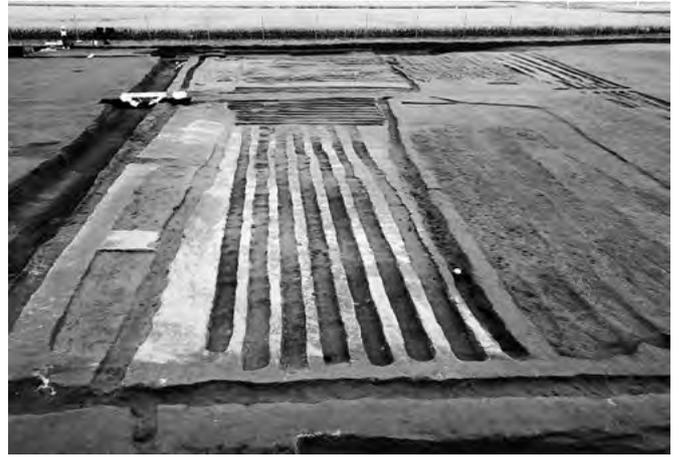
7. 1区10号復旧溝群(東から)



8. 1区10号復旧溝群(西から)



1. 1区11号復旧溝群(南から)



2. 1区11号復旧溝群(南から)



3. 1区12～15号復旧溝群(西から)



4. 1区13号復旧溝群土層断面(北から)



5. 1区16号復旧溝群土層断面(南から)



6. 1区17号復旧溝群土層断面(東から)



7. 1区18号復旧溝群(南から)



8. 1区18号復旧溝群(南から)



1. 2区1面近世の遺構全景(上が北)



2. 2区1面近世の遺構全景(上が北)



1. 2区1号復旧溝群(東から)



2. 2区1号復旧溝群土層断面(東から)



3. 2区2号復旧溝群(北から)



4. 2区2号復旧溝群土層断面(南から)



5. 2区3号復旧溝群調査風景(東から)



6. 2区3・7号復旧溝群土層断面(東から)



7. 2区4号復旧溝群調査風景(北から)



8. 2区4号復旧溝群土層断面(南から)

PL.6



1. 2区5号復旧溝群土層断面(南から)



2. 2区6号復旧溝群土層断面(南から)



3. 2区7号復旧溝群(東から)



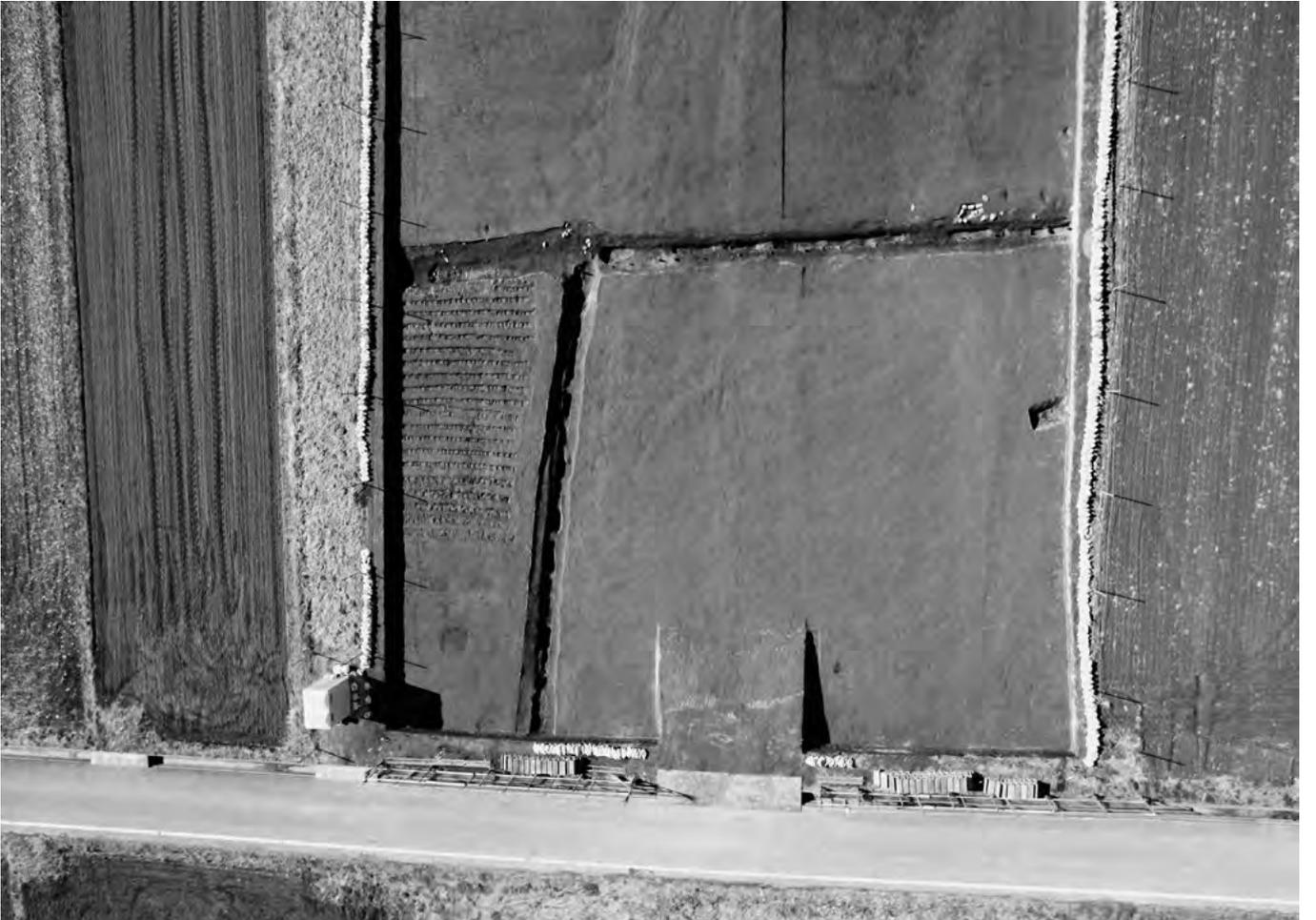
4. 2区8号復旧溝群(南から)



5. 3区1面近世の遺構全景(上が北)



1. 3区1～3号復旧溝群全景(上が北)



2. 3区1・2号溝、1号畠全景(上が西)

PL.8



1. 3区1号復旧溝群(東から)



2. 3区2号復旧溝群(東から)



3. 3区3号復旧溝群(北から)



4. 3区4号復旧溝群(東から)



5. 4区東側1面全景(上が北)



1. 4区1号復旧溝群土層断面(東から)



2. 4区1号復旧溝群土層断面(東から)



3. 4区2・3号復旧溝群(東から)



4. 4区2・3号復旧溝群(東から)



5. 4区3号復旧溝群土層断面(東から)



6. 4区5号復旧溝群(北から)



7. 4区4・5号復旧溝群(北から)



8. 4区5号復旧溝群土層断面(南から)



1. 4区1号島(東から)



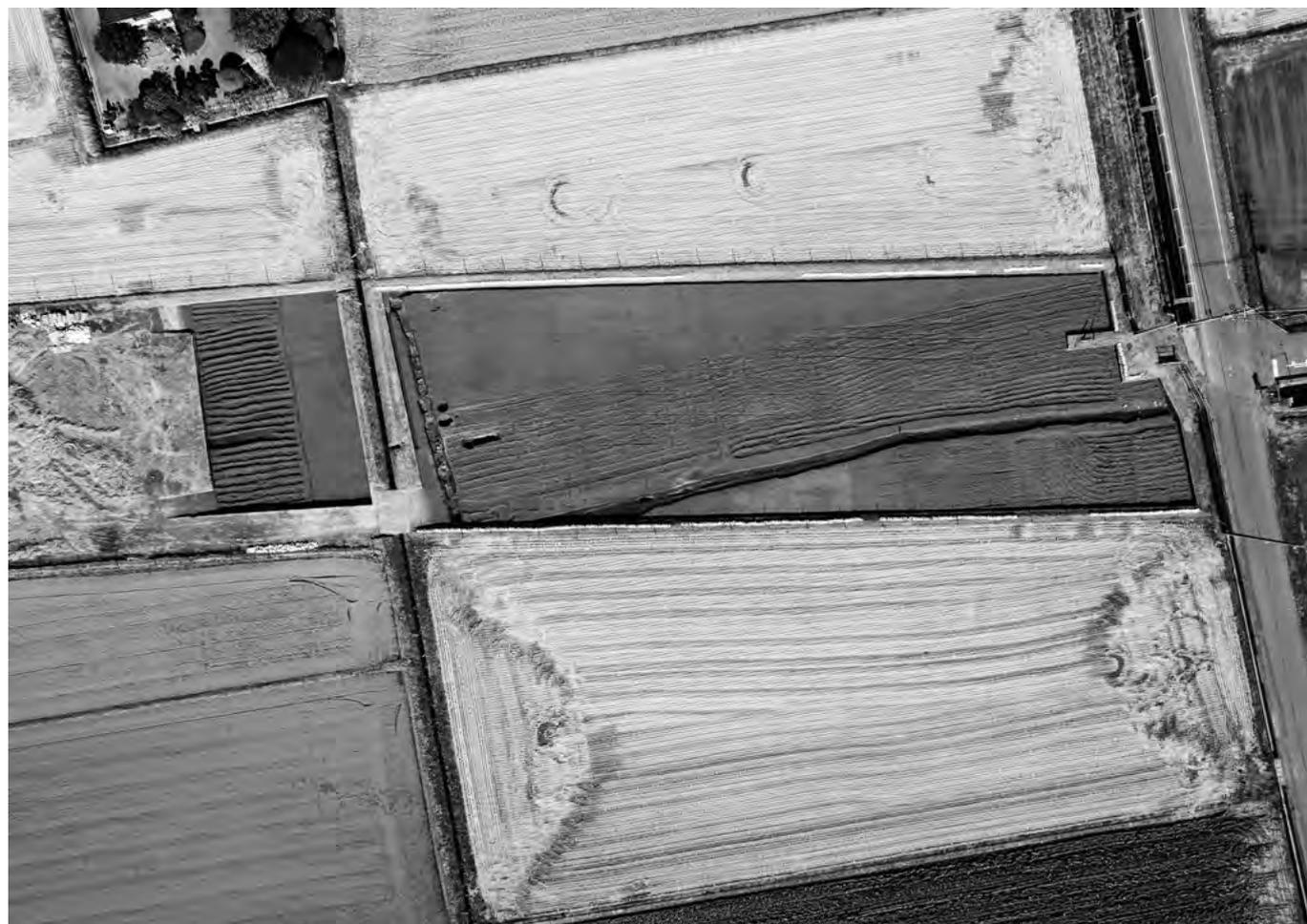
2. 4区1号島(東から)



3. 5区1号復旧溝群土層断面(西から)



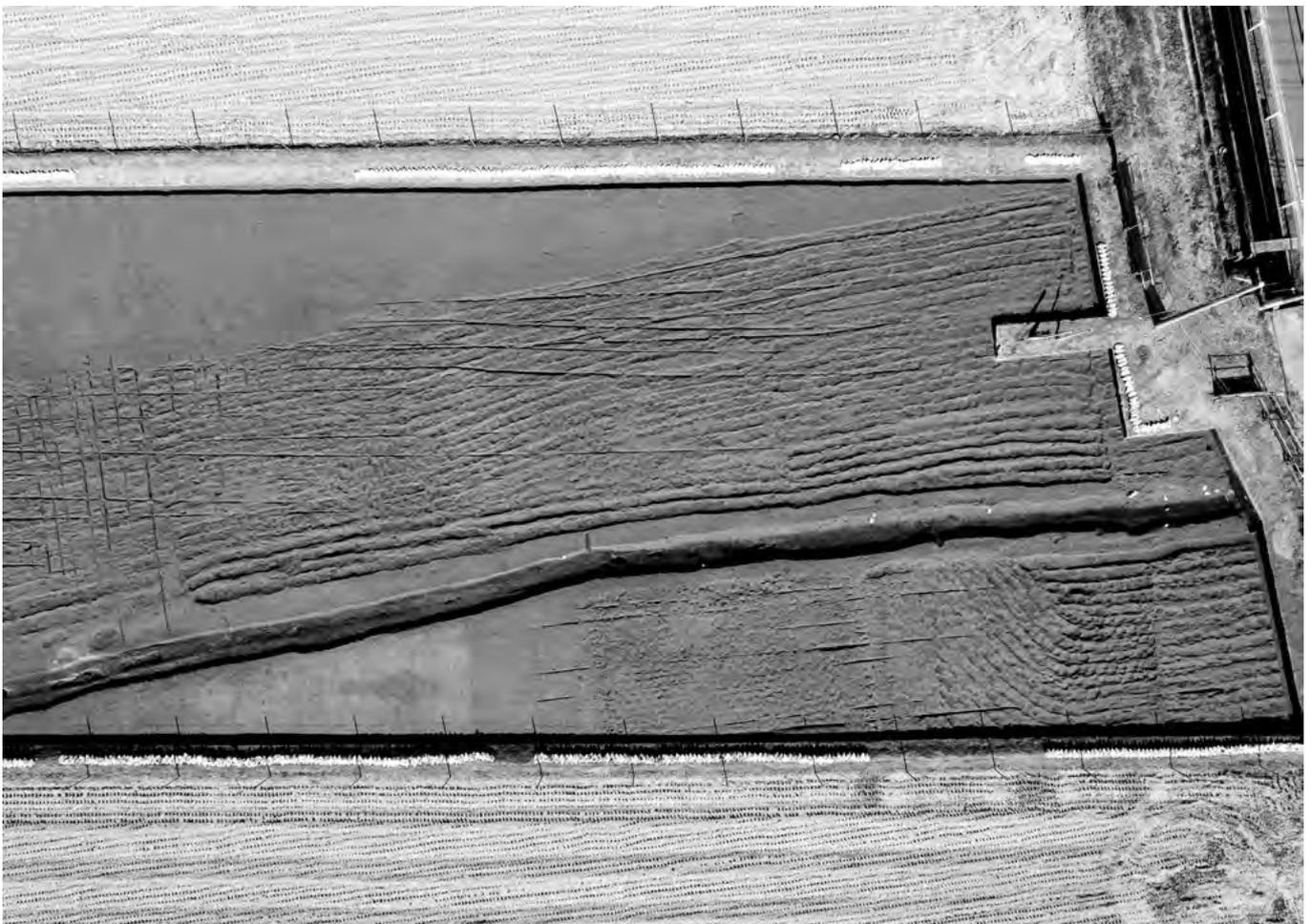
4. 5区1号復旧溝群(東から)



5. 5区1面近世の遺構全景(上が北)



1. 5区西側1面全景(上が北)



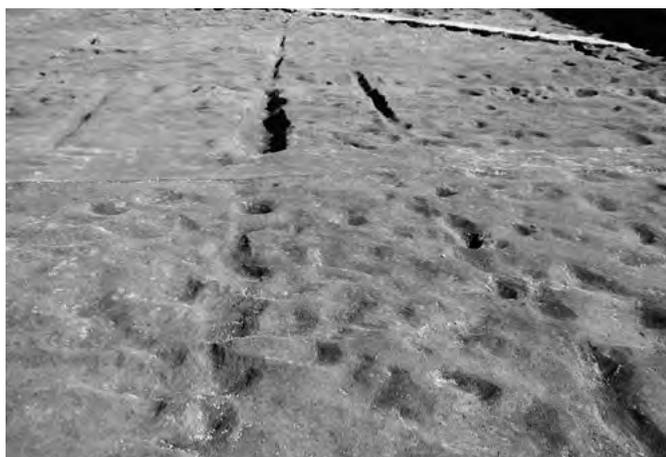
2. 5区東側1面全景(上が北)



1. 5区1号復旧溝群(東から)



2. 5区1号復旧溝群土層断面(北西から)



3. 5区1号復旧溝群土層断面(西から)



4. 5区2号復旧溝群(東から)



5. 5区2号復旧溝群(西から)



6. 5区2号復旧溝群土層断面(西から)



7. 5区2号復旧溝群(東から)



8. 5区2号復旧溝群土層断面(西から)



1. 1区6号溝(南から)



2. 1区6号溝土層断面(南から)



3. 1区7号溝(南から)



4. 1区8号溝(東から)



5. 1区9号溝(南から)



6. 1区9号溝(南から)



7. 1区9号溝(南から)



8. 1区9号溝土層断面(南から)

PL.14



1. 1区10・11・14・15号溝(西から)



2. 1区8・10・11・14・15号溝(西から)



3. 1区10号溝調査風景(東から)



4. 1区10・14号溝土層断面(東から)



5. 1区11号溝土層断面(東から)



6. 1区12号溝土層断面(南から)



7. 1区13号溝土層断面(南から)



8. 1区15号溝土層断面(北から)



1. 1区17～19号溝(北から)



2. 1区17～19号溝(北から)



3. 1区17～19号溝土層断面(南から)



4. 1区19号溝(北西から)



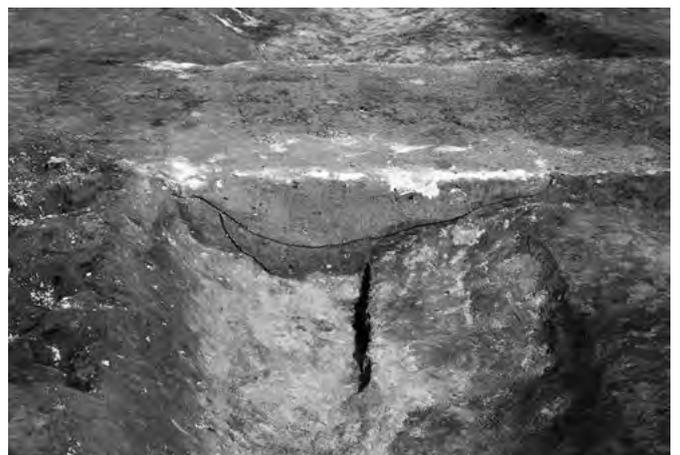
5. 1区20号溝(北西から)



6. 1区20号溝(北から)



7. 1区21～23号溝(北から)



8. 1区21号溝土層断面(南から)

PL.16



1. 1区24・25号溝(北から)



2. 1区26～29号溝(北から)



3. 1区30号溝(南から)



4. 1区30号溝土層断面(南から)



5. 1区31号溝(南東から)



6. 1区31号溝土層断面(南から)



7. 1区32号溝(東から)



8. 1区32号溝土層断面(南西から)



1. 1区33号溝(北から)



2. 1区33号溝土層断面(南から)



3. 2区2・3号溝調査風景(南から)



4. 2区2・3号溝土層断面(南から)



5. 2区4号溝(北から)



6. 2区4号溝土層断面(北から)



7. 2区5号溝(北から)



8. 2区5号溝土層断面(南東から)



1. 2区6号溝土層断面(東から)



2. 2区9号溝土層断面(北から)



3. 2区10～13号溝(北から)



4. 2区12号溝土層断面(南から)



5. 2区13号溝土層断面(南から)



1. 2区14号溝土層断面(南から)



2. 2区15号溝土層断面(南東から)



3. 2区16号溝(北西から)



4. 2区16号溝調査風景(南東から)



5. 2区16号溝土層断面(南から)



1. 2区17・18号溝(北から)



2. 2区17・18号溝土層断面(北から)



3. 2区17号溝土層断面(北から)



4. 2区18号溝土層断面(北から)



5. 2区18号溝遺物出土状況(北から)



6. 2区19号溝(南東から)



7. 2区19号溝土層断面(南東から)



8. 2区20号溝土層断面(北東から)



1. 2区21号溝(西から)



2. 2区21号溝土層断面(南東から)



3. 2区22号溝(南から)



4. 2区22号溝土層断面(北から)



5. 2区23～27号溝(北から)



6. 2区23～27号溝(南から)



7. 2区23号溝遺物出土状況(北西から)



8. 2区23号溝遺物出土状況(北西から)



1. 2区23号溝遺物出土状況(北西から)



2. 2区23号溝遺物出土状況(北西から)



3. 2区24号溝土層断面(北から)



4. 2区25号溝土層断面(南から)



5. 2区26号溝土層断面(南から)



6. 2区27号溝土層断面(南から)



7. 2区28号溝土層断面(北西から)



8. 2区28号溝土層断面(西から)



1. 2区29～32号溝(南西から)



2. 2区29・31号溝土層断面(西から)



3. 2区30号溝土層断面(北から)



4. 2区32号溝土層断面(西から)



5. 3区1号溝(南西から)



6. 3区1号溝(南から)



7. 3区1号溝(西から)



8. 3区1号溝遺物出土状況(南から)



1. 3区1号溝土層断面(南から)



2. 3区1号溝遺物出土状況(東から)



3. 3区2号溝(北から)



4. 3区2号溝(北から)



5. 3区3号溝(南から)



6. 3区4～7号溝(北から)



7. 3区4～7号溝土層断面(南から)



8. 3区6号溝土層断面(南から)



1. 3区4号溝土層断面(南から)



2. 3区5・7号溝土層断面(南から)



3. 3区8・9号溝(北から)



4. 3区8号溝土層断面(東から)



5. 3区9号溝土層断面(東から)



6. 3区9号溝(北から)



7. 3区10・11号溝(東から)



8. 3区10号溝(東から)



1. 3区10号溝(東から)



2. 3区10号溝(東から)



3. 3区10号溝土層断面(北から)



4. 3区11号溝(南西から)



5. 3区11号溝土層断面(南から)



6. 4区1号溝土層断面(南から)



7. 4区2・3号溝(北から)



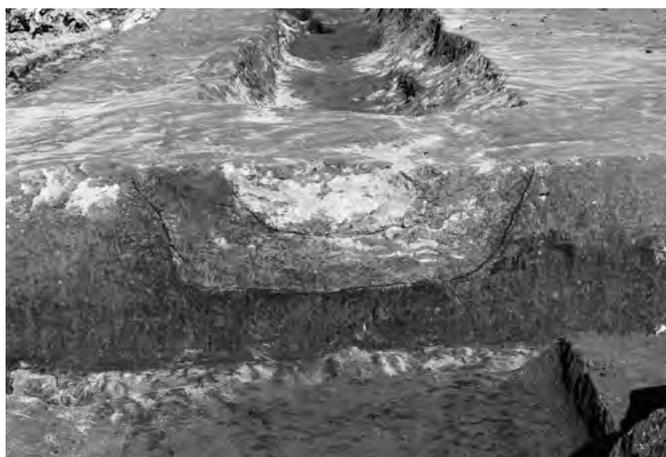
8. 4区2・3号溝(北から)



1. 4区3号溝土層断面(南から)



2. 4区4～6号溝(北から)



3. 4区4号溝土層断面(南から)



4. 4区4～6号溝(南から)



5. 4区5号溝土層断面(南から)



6. 4区7・8号溝(北西から)



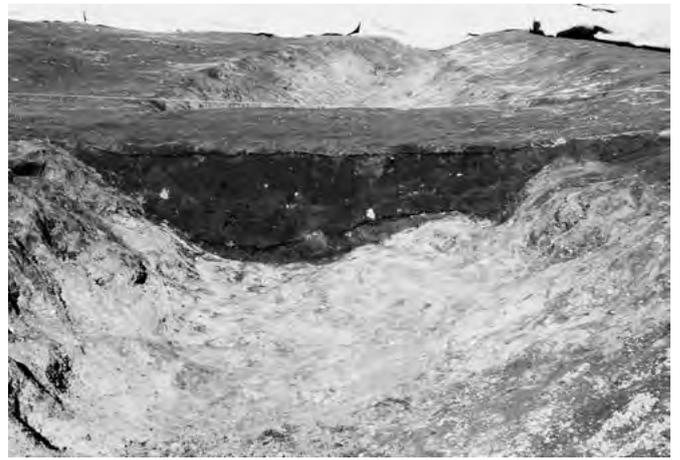
7. 4区7号溝土層断面(北西から)



8. 4区8号溝土層断面(西から)



1. 4区9号溝(南東から)



2. 4区9号溝土層断面(南から)



3. 4区10号溝(南から)



4. 4区10号溝土層断面(南から)



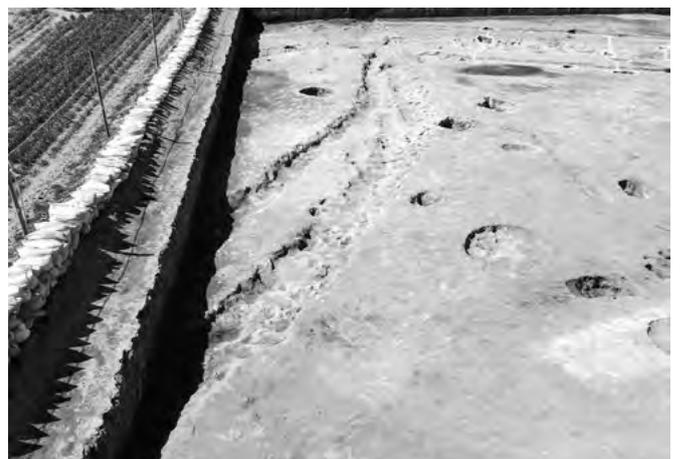
5. 4区12号溝(北から)



6. 4区12号溝土層断面(南から)



7. 4区13号溝(東から)



8. 4区13・14号溝(東から)



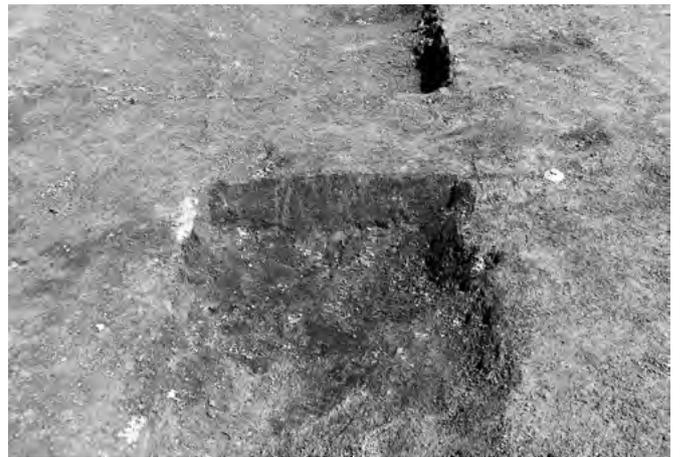
1. 4区15～17号溝(北から)



2. 4区15号溝土層断面(南から)



3. 4区16号溝土層断面(南から)



4. 4区17号溝土層断面(南から)



5. 5区1号溝(東から)



6. 5区2号溝(北から)



7. 5区3号溝北半(北から)



8. 5区3号溝土層断面(南から)



1. 1区2・3面全景(上が北) 左手が1号古墳周堀



2. 1区1号古墳(南から)



3. 1区1号古墳土層断面(東から)



4. 1区1号古墳周堀土層断面(南から)



5. 1区1号古墳周堀出土の加工痕のある礫



1. 1区1号住居(南西から)



2. 1区1号住居土層断面(西から)



3. 1区1号住居カマド(南西から)



4. 1区1号住居カマド遺物出土状況(南西から)



5. 1区1号住居遺物出土状況(南西から)



6. 1区1号住居遺物出土状況(南西から)



7. 1区1号住居遺物出土状況(南西から)



8. 1区1号住居遺物出土状況(南西から)



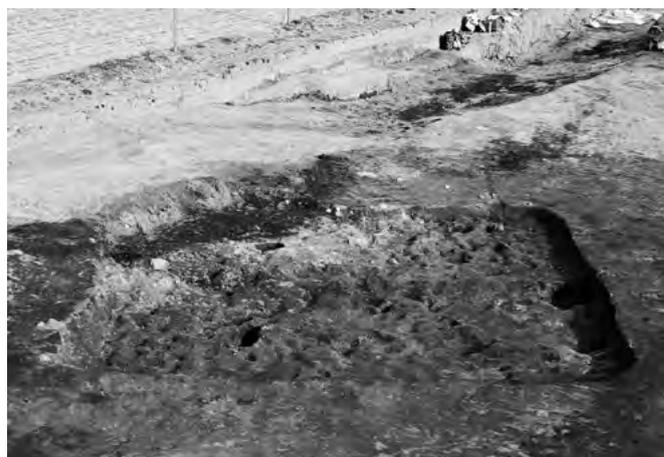
1. 1区1号住居柱穴1(南西から)



2. 1区1号住居柱穴4(南西から)



3. 1区1号住居床下土坑(南西から)



4. 1区1号住居掘り方(西から)



5. 1区2号住居(南西から)



6. 1区2号住居遺物出土状況(南西から)



7. 1区3・4号住居(西から)



8. 1区3号住居遺物出土状況(西から)



1. 1区4号住居(南西から)



2. 1区4号住居カマド土層断面(南西から)



3. 1区4号住居カマド(南西から)



4. 1区5号住居(西から)



5. 1区5号住居カマド土層断面(西から)



6. 1区5号住居掘り方(西から)



7. 1区6号住居(北から)



8. 1区7号住居(西から)



1. 1区7号住居遺物出土状況(西から)



2. 1区7号住居掘り方(東から)



3. 2区1号住居(西から)



4. 2区1号住居カマド(西から)



5. 2区1号住居掘り方(西から)



6. 2区2号住居(西から)



7. 2区2号住居カマド遺物出土状況(西から)



8. 2区2号住居カマド(西から)



1. 2区2号住居カマド掘り方土層断面(西から)



2. 2区2号住居紡錘車出土状況(西から)



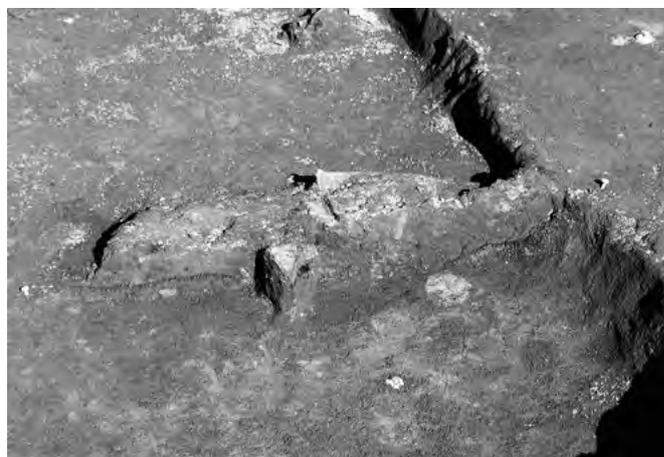
3. 2区2号住居紡錘車出土状況(西から)



4. 2区2・8号住居掘り方(西から)



5. 2区3号住居(西から)



6. 2区3号住居カマド土層断面(南から)



7. 2区4号住居(北西から)



8. 2区4号住居カマド(西から)



1. 2区4号住居カマド土層断面(南から)



2. 2区4号住居柱穴1土層断面(北から)



3. 2区5号住居掘り方(北から)



4. 2区6号住居(西から)



5. 2区6号住居カマド土層断面(南から)



6. 2区6号住居カマド(西から)



7. 2区6号住居貯蔵穴(西から)



8. 2区6号住居貯蔵穴遺物出土状況(西から)



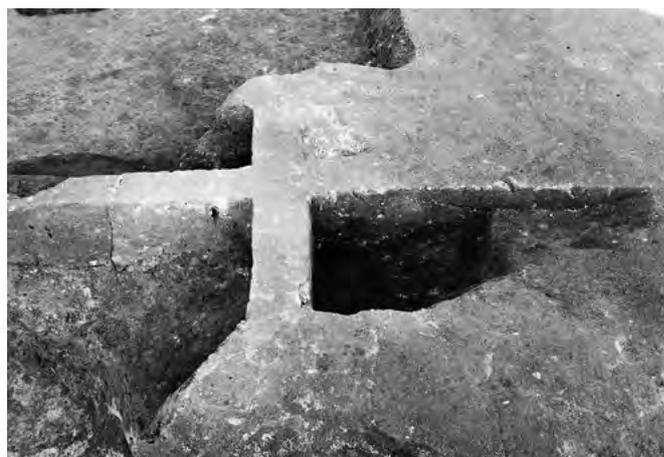
1. 2区7号住居(西から)



2. 2区8号住居(北西から)



3. 2区9号住居(西から)



4. 2区9号住居カマド土層断面(南から)



5. 2区9号住居カマド(西から)



6. 2区9号住居遺物出土状況(西から)



7. 2区10号住居(北西から)



8. 2区10号住居カマド(南から)



1. 2区11号住居(西から)



2. 2区11号住居遺物出土状況(西から)



3. 2区11号住居遺物出土状況(西から)



4. 2区11号住居遺物出土状況(西から)



5. 2区12号住居(西から)



6. 2区12号住居カマド土層断面(南から)



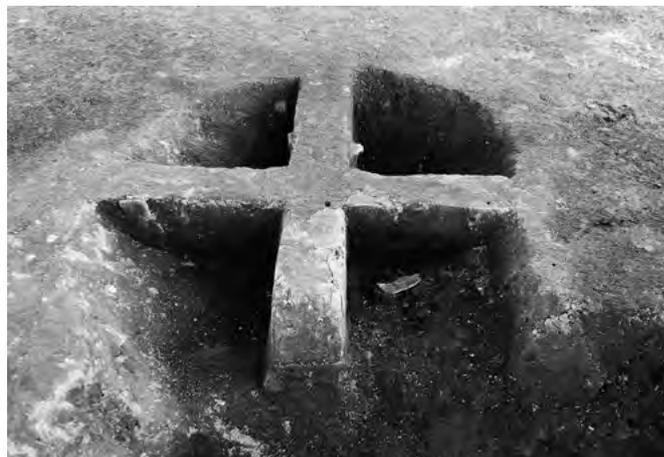
7. 2区13・14号住居(西から)



8. 2区13号住居カマド遺物出土状況(北西から)



1. 2区14号住居遺物出土状況(西から)



2. 2区14号住居カマド土層断面(西から)



3. 2区14号住居カマド(西から)



4. 2区14号住居貯蔵穴土層断面(東から)



5. 2区15号住居(西から)



6. 2区15号住居掘り方土層断面(南から)



7. 2区16号住居(北から)



8. 2区16号住居土層断面(北から)



1. 4区1号住居(西から)



2. 4区1号住居1号カマド遺物出土状況(西から)



3. 4区1号住居1号カマド遺物出土状況(東から)



4. 4区1号住居2号カマド遺物出土状況(南から)



5. 4区1号住居2号カマド遺物出土状況(西から)



6. 4区1号住居遺物出土状況(西から)



7. 4区1号住居掘り方(西から)



8. 4区1号住居1・2号カマド土層断面(南から)



1. 4区2号住居(西から)



2. 4区2号住居カマド土層断面(西から)



3. 4区2号住居カマド遺物出土状況(西から)



4. 4区2号住居遺物出土状況(北から)



5. 4区2号住居カマド掘り方土層断面(西から)



6. 4区2号住居カマド掘り方土層断面(南から)



7. 4区2号住居掘り方遺物出土状況(東から)



8. 4区2号住居掘り方土層断面(西から)



1. 4区3号住居(西から)



2. 4区3号住居カマド土層断面(南から)



3. 4区3号住居遺物出土状況(西から)



4. 4区3号住居貯蔵穴(西から)



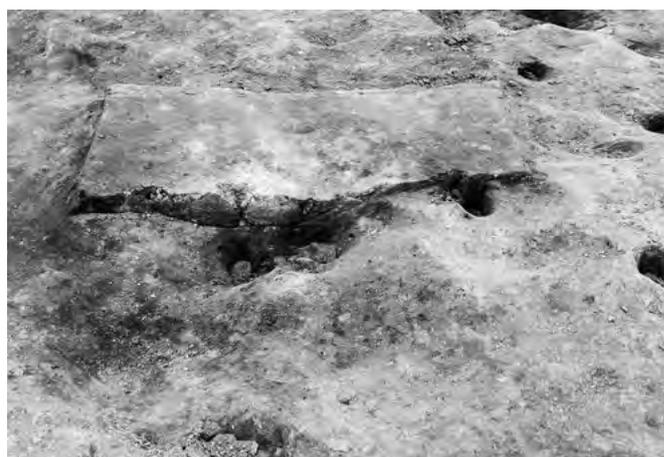
5. 4区3号住居遺物出土状況(東から)



6. 4区3号住居掘り方(西から)



7. 4区4号住居(西から)



8. 4区4号住居炉土層断面(西から)



1. 4区4号住居炉(西から)



2. 4区4号住居遺物出土状況(西から)



3. 4区4号住居遺物出土状況(西から)



4. 4区4号住居1号貯蔵穴土層断面(西から)



5. 4区4号住居2号貯蔵穴土層断面(東から)



6. 4区4号住居遺物出土状況(西から)



7. 4区4号住居柱穴11(西から)



8. 4区4号住居柱穴5土層断面(東から)



1. 4区4号住居柱穴7土層断面(西から)



2. 4区4号住居柱穴3土層断面(西から)



3. 4区4号住居柱穴6土層断面(西から)



4. 4区4号住居土層断面(南から)



5. 4区4号住居柱穴2土層断面(北から)



6. 4区4号住居掘り方(西から)



7. 4区5号住居(東から)



8. 4区5号住居(北から)



1. 4区5号住居土層断面(西から)



2. 4区6号住居貯蔵穴遺物出土状況(南から)



3. 5区1号住居土層断面(西から)



4. 5区1号住居掘り方(西から)



5. 5区2号住居土層断面(南から)



6. 5区2号住居掘り方(西から)



7. 4区1号縦穴状遺構土層断面(北から)



8. 4区1号縦穴状遺構(南から)



1. 2区As-B下水田全景(上が北) 白線の左手中央に白く見えるのが幅5mの道



2. 2区As-B下水田(西から)



3. 2区As-B下水田(南から)



4. 2区As-B下水田(西から)



5. 2区As-B下水田調査風景(南から)



1. 3区2面As-B下水田全景(上が北)



2. 3区東側2面As-B下水田全景(上が北) 中央に幅5mの道



1. 3区西側2面As-B下水田全景(上が北)



2. 3区As-B下水田に伴う幅5mの道(南から)
上面の溝は中世の道に伴うもの



3. 3区As-B下水田調査風景(東から)



4. 3区As-B下水田(西から)



5. 3区As-B下水田(北から)



1. 4区As-B下水田(西から)



2. 4区As-B下水田(南から)



3. 4区As-B下水田(南から)



4. 4区As-B下水田(北から) 南北方向の大畔(幅2m)



5. 5区As-B下水田(東から) 東西方向の大畔(幅3m)



6. 5区As-B下水田(東から)



7. 5区As-B下水田(北から)



8. 5区As-B下水田耕土断面



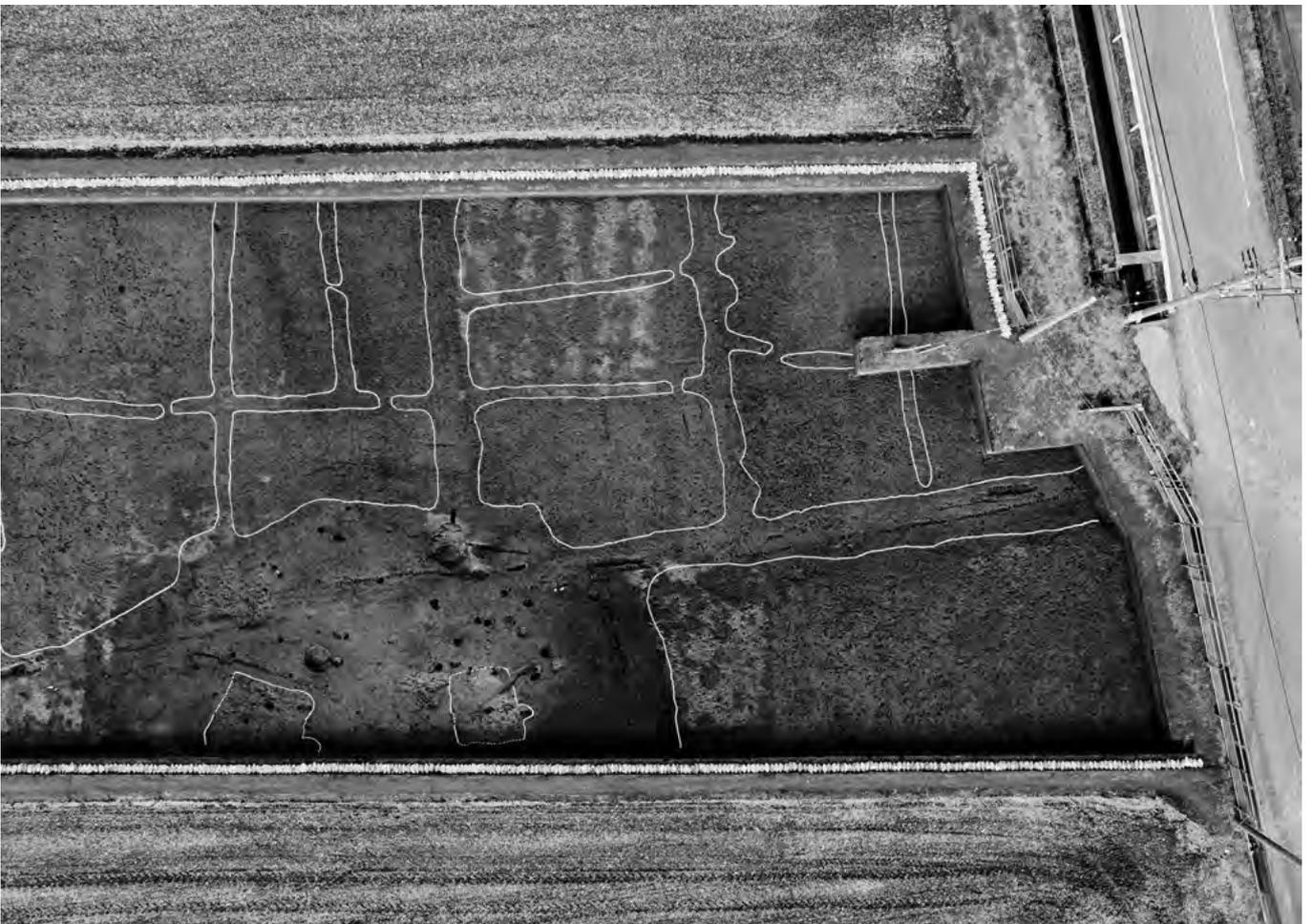
1. 5区2面As-B下水田全景(上が北)



2. 5区2面As-B下水田全景(西から)



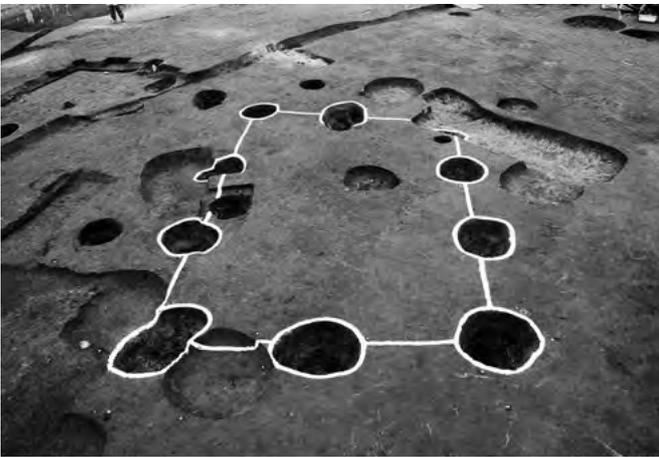
1. 5区西側2面As-B下水田全景(上が北)



2. 5区東側2面As-B下水田全景(上が北) 微高地から幅3mの大畔が東へのびる



1. 2区1～5号掘立柱建物全景(上が北)



2. 2区1号掘立柱建物(西から)



3. 2区1号掘立柱建物調査風景(東から)



4. 2区2号掘立柱建物(北西から)



5. 2区3号掘立柱建物(北東から)



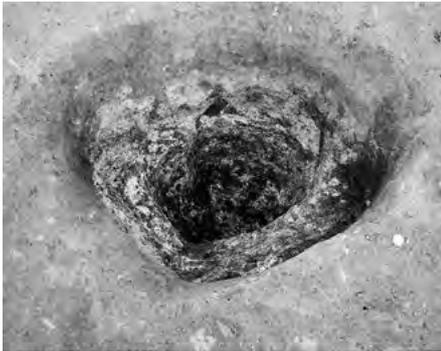
1. 2区1号掘立柱建物P 5(南から)



2. 2区1号掘立柱建物P 4(南から)



3. 2区1号掘立柱建物P 8(南から)



4. 2区1号掘立柱建物P 10(南から)



5. 2区1号掘立柱建物P 7(南から)



6. 2区2号掘立柱建物P 3(南から)



7. 2区2号掘立柱建物P 6(南から)



8. 2区3号掘立柱建物P 1(南から)



9. 2区3号掘立柱建物P 2(南から)



10. 2区5号掘立柱建物P 4(南から)



11. 2区5号掘立柱建物P 5(南から)



12. 2区5号掘立柱建物P 6(南から)



13. 2区6号掘立柱建物P 1(東から)



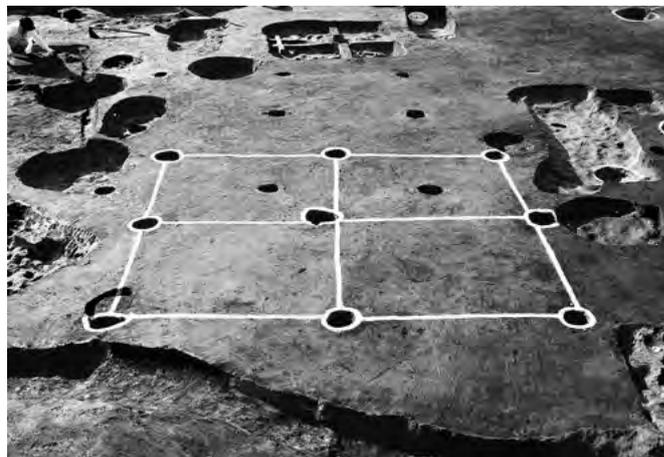
14. 2区6号掘立柱建物P 4(南から)



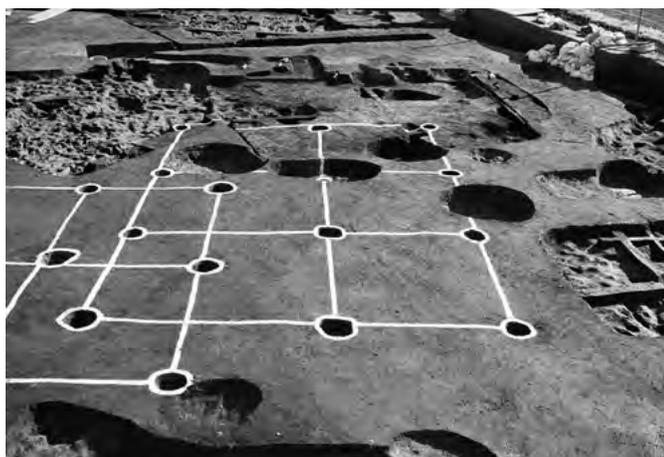
15. 2区7号掘立柱建物P 5(北東から)



1. 2区1～5号掘立柱建物(南から)



2. 2区4号掘立柱建物(北から)



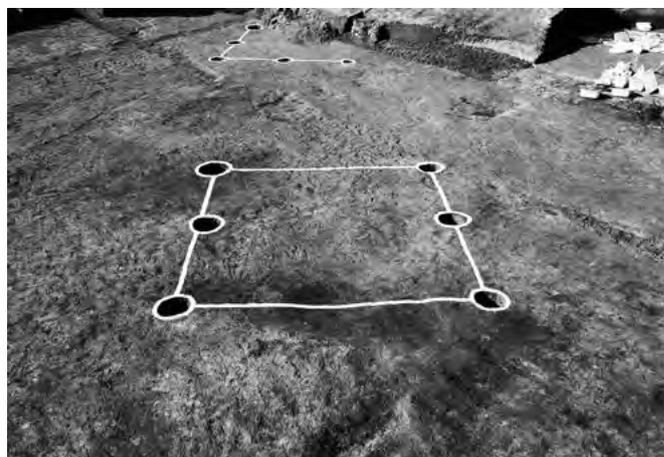
3. 2区5号掘立柱建物(西から)



4. 2区6号掘立柱建物(東から)



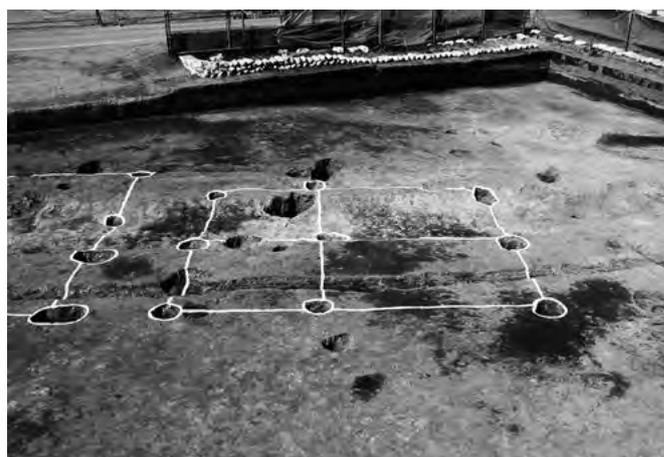
5. 2区7号掘立柱建物(北西から)



6. 2区8号掘立柱建物(北東から)



7. 4区1号掘立柱建物(東から)



8. 4区1号掘立柱建物(東から)



1. 4区1号掘立柱建物P10(南から)



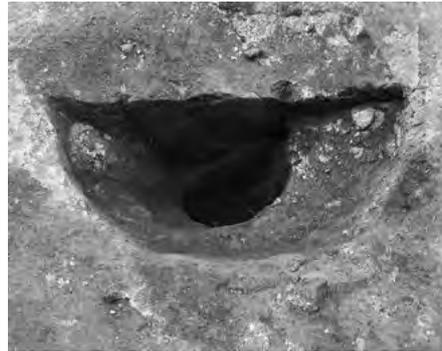
2. 4区1号掘立柱建物P 7(東から)



3. 4区1号掘立柱建物P11(南から)



4. 4区1号掘立柱建物P 8(西から)



5. 4区1号掘立柱建物P21(南から)



6. 4区1号掘立柱建物P 4(南から)



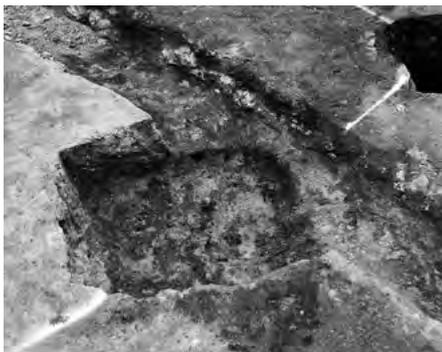
7. 4区1号掘立柱建物P 2(南から)



8. 4区2号掘立柱建物P 2(南東から)



9. 4区2号掘立柱建物P 3(南から)



10. 4区2号掘立柱建物P 4(南西から)



11. 4区2号掘立柱建物P 5(南西から)



12. 4区2号掘立柱建物P 1(北西から)



13. 4区3号掘立柱建物P 1(南西から)



14. 4区3号掘立柱建物P 3(北西から)



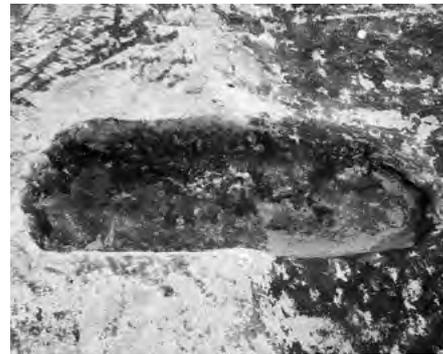
15. 4区3号掘立柱建物P 2(北から)



1. 1区1号土坑(南から)



2. 1区2号土坑(南から)



3. 1区4号土坑(西から)



4. 1区4号土坑土層断面(南から)



5. 1区5号土坑(北西から)



6. 1区5号土坑土層断面(東から)



7. 1区7号土坑(南から)



8. 1区8号土坑(南から)



9. 2区2号土坑(南から)



10. 2区4号土坑(南から)



11. 2区16号土坑(南から)



12. 2区17号土坑(南から)



13. 2区20号土坑(南から)



14. 2区21号土坑(南から)



15. 2区23号土坑(南から)



1. 2区24号土坑(南から)



2. 2区25号土坑(南から)



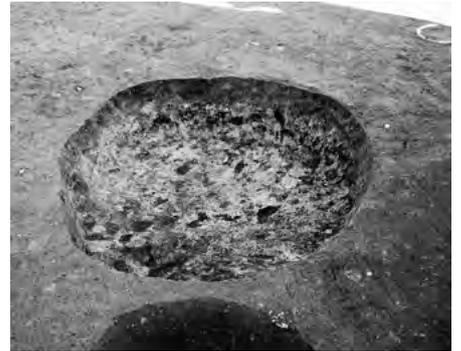
3. 2区30号土坑(南から)



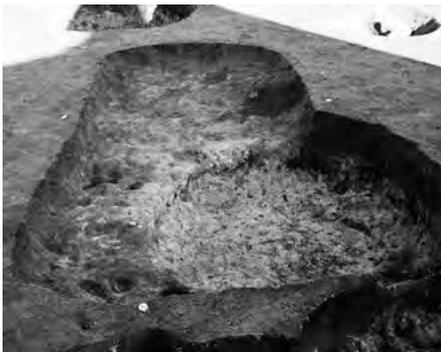
4. 2区34号土坑(南から)



5. 2区40号土坑(南から)



6. 2区41号土坑(南から)



7. 2区42号土坑(南から)



8. 2区52号土坑(北から)



9. 2区53号土坑(西から)



10. 2区54号土坑(西から)



11. 2区57号土坑(北から)



12. 2区59号土坑(西から)



13. 2区61号土坑(南東から)



14. 2区62号土坑(南西から)



15. 2区67号土坑(南東から)



1. 2区68号土坑(西から)



2. 2区70号土坑(南から)



3. 2区71号土坑(北東から)



4. 2区72号土坑(西から)



5. 3区1号土坑(北から)



6. 3区2号土坑(北から)



7. 3区3号土坑(南から)



8. 3区4号土坑(北から)



9. 3区7号土坑(北から)



10. 3区8号土坑(北から)



11. 3区9号土坑(東から)



12. 3区10号土坑(北から)



13. 4区1号土坑(南から)



14. 4区2号土坑(西から)



15. 4区3号土坑(西から)



1. 4区7号土坑(西から)



2. 4区8号土坑(南東から)



3. 4区9号土坑(北西から)



4. 4区10号土坑(南から)



5. 4区11号土坑(北から)



6. 4区1号住居2号貯蔵穴(旧12土坑)



7. 4区1号住居1号貯蔵穴(旧13土坑)



8. 4区14号土坑(南から)



9. 4区15号土坑(南東から)



10. 4区16号土坑(東から)



11. 4区17号土坑(東から)



12. 4区18号土坑(西から)



13. 4区19号土坑(東から)



14. 4区20号土坑(北西から)



15. 4区22号土坑(南西から)



1. 4区23号土坑(北から)



2. 4区26号土坑(南から)



3. 4区27号土坑(南から)



4. 4区28号土坑(南から)



5. 4区29号土坑(南から)



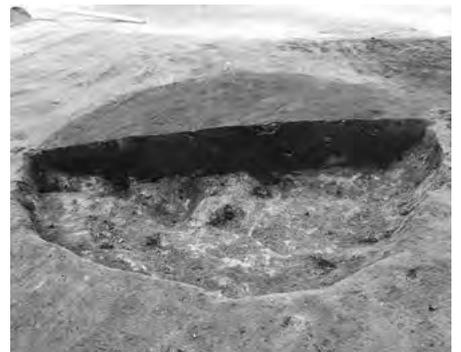
6. 4区30号土坑(南から)



7. 4区30号土坑(南から)



8. 4区32号土坑(南から)



9. 4区33号土坑(南から)



10. 4区36号土坑(南から)



11. 4区37号土坑(西から)



12. 4区39号土坑(南から)



13. 4区40号土坑(南から)



14. 4区41号土坑(南東から)



15. 4区46号土坑(南から)



1. 4区54号土坑(北から)



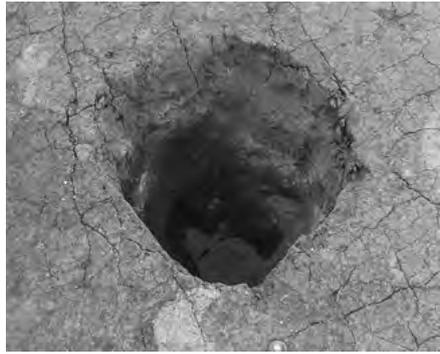
2. 4区55号土坑(北から)



3. 4区56号土坑(北から)



4. 4区57号土坑(東から)



5. 4区58号土坑(東から)



6. 4区59号土坑(東から)



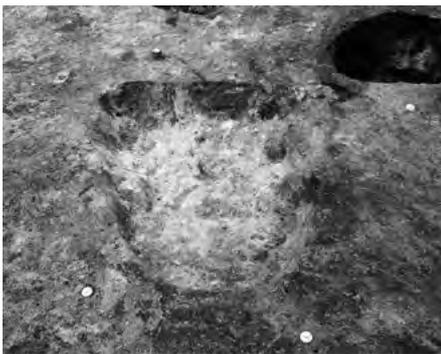
7. 5区3号土坑(北から)



8. 5区4号土坑(南から)



9. 5区5号土坑(西から)



10. 5区6号土坑(東から)



11. 5区7号土坑(西から)



12. 5区9号土坑(西から)



13. 5区10号土坑(南から)



14. 5区11号土坑(北から)



15. 5区12号土坑(南から)



1. 5区1・2号土坑(東から)



2. 5区1号土坑土層断面(西から)



3. 5区1号土坑(東から)



4. 5区2号土坑土層断面(東から)



5. 5区2号土坑(東から)



6. 1区1号井戸(北から)



7. 1区2号井戸(北から)



8. 2区1号井戸(西から)



1. 2区2号井戸(東から)



2. 2区2号井戸(北から)



3. 2区3号井戸(北から)



4. 4区1号井戸(南から)



5. 4区2号井戸(西から)



6. 4区3号井戸(西から)



7. 4区4号井戸(東から)



8. 4区5号井戸(北から)



1. 4区6号井戸(西から)



2. 4区7号井戸(西から)



3. 5区1号井戸土層断面(西から)



4. 5区1号井戸(東から)



5. 5区2号井戸遺物出土状況(北から)



6. 5区2号井戸遺物出土状況(東から)



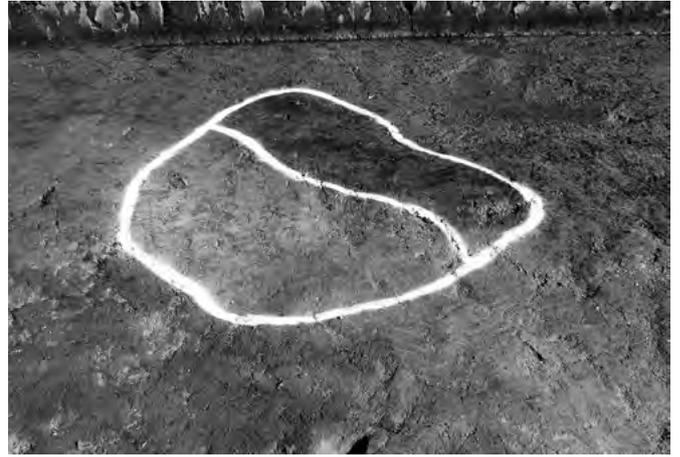
7. 5区2号井戸土層断面(南から)



8. 5区2号井戸(南から)



1. 3区1号遺物集中(西から)



2. 4区風倒木(西から)



3. 5区風倒木(東から)



4. 5区風倒木(南から)



5. 1区旧石器調査(西から)



6. 1区旧石器土層断面(南から)

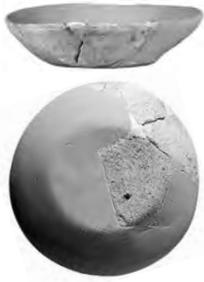


7. 2区旧石器調査(西から)



8. 2区旧石器土層断面(南から)

PL.66



2区16溝-28



2区16溝-35



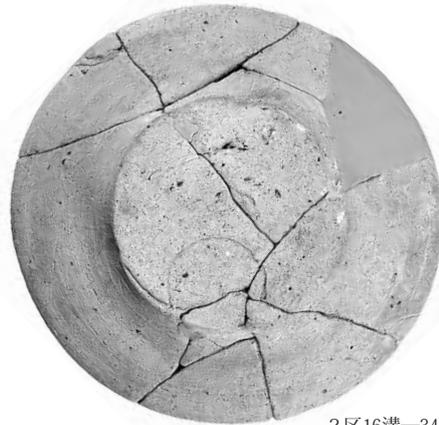
2区18溝-26



2区16溝-33



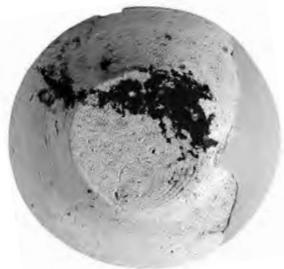
2区18溝-20



2区16溝-34



2区18溝-19



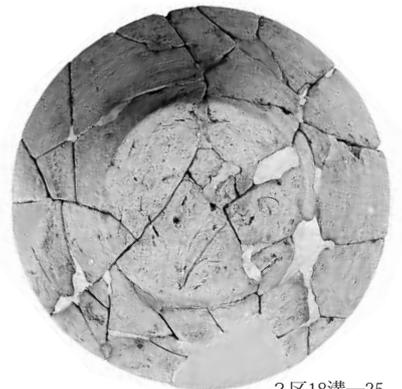
2区16溝-29



2区18溝-12



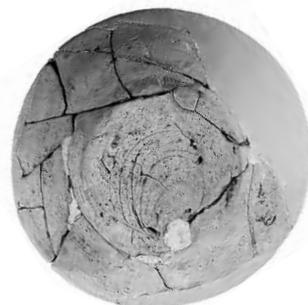
2区18溝-10



2区18溝-25



2区18溝-11



2区18溝-14



1区1住-1



1区1住-3



1区1住-4



1区1住-8



1区1住-6



1区1住-2



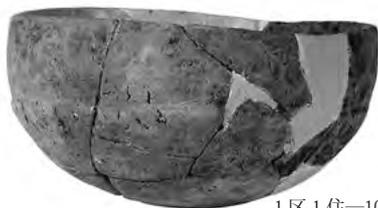
1区1住-7



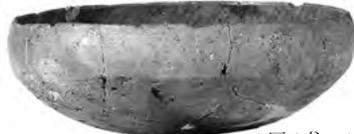
1区1住-9



1区1住-5



1区1住-10



1区1住-11



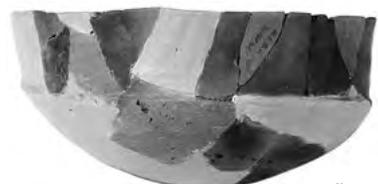
1区1住-13



1区1住-15



1区1住-18



1区1住-12



1区1住-21



1区1住-19



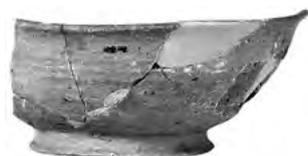
1区1住-25



1区2住-1



1区2住-2



1区2住-9



1区2住-10



1区2住-13



1区2住-14



1区2住-12



1区3住-5



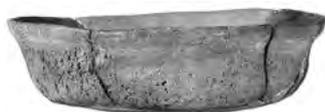
1区4住-2



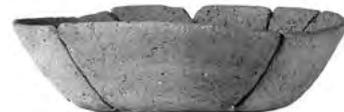
1区5住-6



1区5住-7



1区7住-5



1区1墳-1



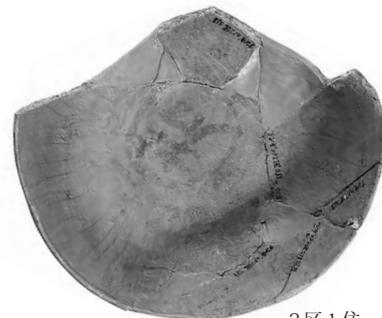
2区1住-1



2区1住-4



2区3住-3



2区1住-2



2区2住-1



2区6住-9



2区7住-1



2区9住-10



2区9住-12



2区9住-4



2区9住-11



2区9住-2



2区9住-1

出土遺物(3)(1区2~5・7号住居、1区1号古墳、2区1~3・6・7・9号住居)



2区14住-4



2区23溝-2



2区23溝-4



2区23溝-1



2区23溝-3



2区23溝-11



2区23溝-6



2区23溝-5



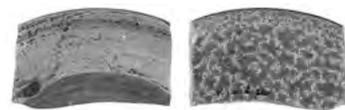
4区1住-2



4区1住-7



2区遺外-1
(古墳時代)



3区遺外-1
(奈良・平安時代)



4区2住-1



4区1住-10



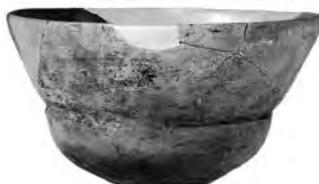
4区1住-6



4区4住-2



4区4住-3



4区6住-4



4区6住-3

出土遺物(4)(2区14号住居、2区23号溝、2区遺構外、3区遺構外、4区1・2・4・6号住居)



4区6住-2



4区4住-4



4区5住-22



4区4井-3



4区遺外-2
(古墳時代)



4区遺外-1
(古墳時代)



4区遺外-14
(古墳時代)



5区2井-1



5区2井-2



5区2井-5



5区2井-6



5区2井-7

出土遺物(5)(4区4~6号住居、4区4号井戸、4区遺構外、5区2号井戸)



2区3住-5(1/2)



2区9住-23(1/2)



1区遺外-1(1/2)
(古墳時代)



1区4住-11(1/2)



1区1住-22(1/1)



2区11住-4(1/2)



4区3住-9(1/2)



2区2住-17(1/2)



2区2住-18(1/2)



2区13溝-2(4/5)



4区9溝-5(1/1)



2区18溝-9(1/1)



3区1溝-8(1/1)



2区3復-3(1/1)



4区7溝-16(1/1)



4区7溝-17(1/1)



4区13溝-8(1/1)



4区1畠-2(1/1)



4区1復-2(1/1)



5区1復(3畠)
-1(1/1)

報告書抄録

書名ふりがな	なんぎよくにちょうまち
書名	南玉二丁町遺跡
副書名	国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備(活力創出基盤整備)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	616
編著者名	大木紳一郎 藤巻幸男
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20160315
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	なんぎよくにちょうまち
遺跡名	南玉二丁町遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんさわぐんたまむらまちなんぎよくにちょうまち
遺跡所在地	群馬県佐波郡玉村町南玉二丁町
市町村コード	10464
遺跡番号	707
北緯(世界測地系)	361822
東経(世界測地系)	139084
調査期間	20121001-20130331/20131001-20140331
調査面積	15,792
調査原因	道路建設
種別	包蔵地/集落
主な時代	縄文/古墳/平安/中世/近世
遺跡概要	縄文-土器+石器/古墳-古墳1+竪穴住居4+井戸2+土坑4+ピット20+溝12+土師器+金属製品/平安-竪穴住居27+竪穴状1+掘立5+溝11+土坑2+ピット18+水田-土師器+須恵器+灰釉陶器+金属製品/中世-掘立6+溝28+井戸10+土坑80+ピット31-白磁+青磁+古瀬戸+陶器+土器/近世-溝45+井戸2+土坑2+畠1+復旧溝群37-陶磁器+土器+石器
特記事項	古墳時代前期・平安時代の集落、中世の館2箇所
要約	南玉二丁町遺跡は前橋台地南端の低平地にあり、古墳時代前期の集落、古墳時代後期の住居とそれ以降の古墳、平安時代の集落、中世の館などが確認された。低地では浅間B軽石で埋没した水田が確認され、条里地割を示す区画が認められたが、そのなかに南北方向に直進する幅5mの道が2本あり、注目される。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第616集

南玉二丁町遺跡

国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備
(活力創出基盤整備)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成28(2016)年3月4日 印刷

平成28(2016)年3月15日 発行

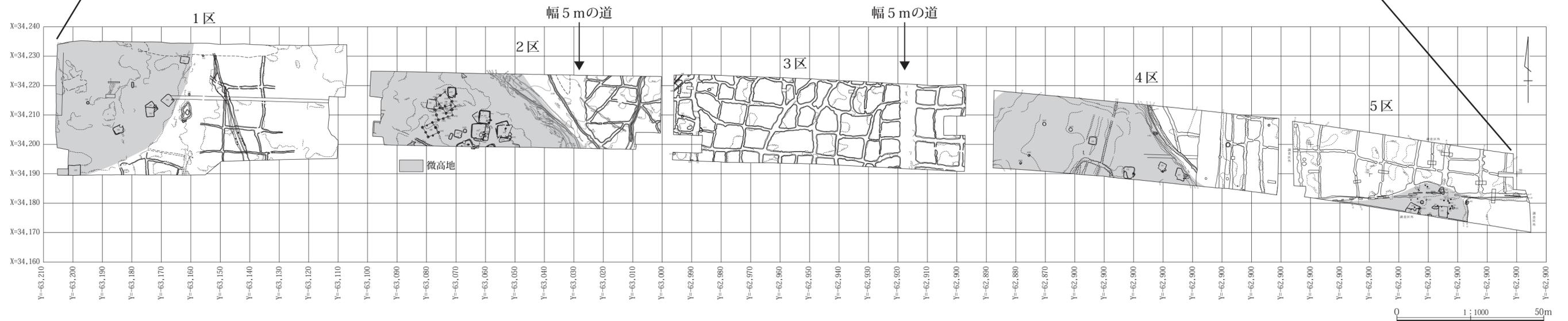
編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／杉浦印刷株式会社



南玉二丁町遺跡 平安時代の水田(As-B下水田)で確認された道と条里地割 (南玉埋堀遺跡は中世の水田を使用している。)